

千歳市

アンカリトー7遺跡

アンカリトー9遺跡

—一般国道337号新千歳空港関連工事用地内埋蔵文化財調査報告書—

平成21年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター

千歳市

アンカリトー7遺跡

アンカリトー9遺跡

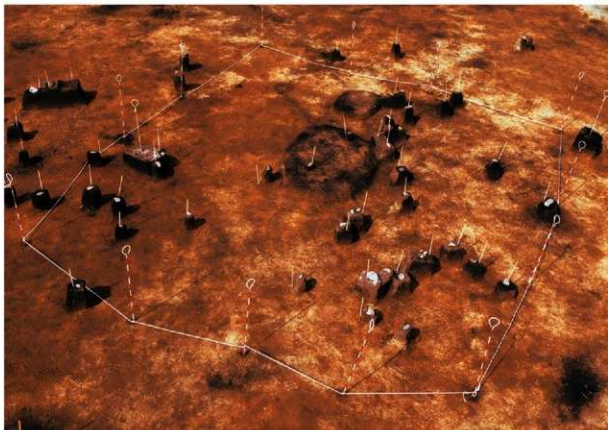
—一般国道337号新千歳空港関連工事用地内埋蔵文化財調査報告書—

平成21年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター



アンカリト-7遺跡の調査風景（奥がアンカリト-9遺跡）



UH-3 遺物出土状況

口絵 2



UH-7 遺物出土状況



内耳鉄鍋出土状況 (UH-3)



鏝出土状況 (UH-6)



マレット出土状況 (UH-7)



小刀出土状況 (UH-5)



GP-1 杭穴検出状況



GP-1 土層



GP-1 周辺鑄出土状況



GP-1 杭穴断面



GP-1 周辺出土の鐺と切羽

口絵 4



UA-2 検出状況



UA-2 灰 2 検出状況



UA-2 灰 2 遺物出土状況



UA-2 灰 4 上面のカワシジュガイ



UA-2 灰 3 のサケ骨検出状況



SB-1 V・VI層遺物出土状況



SB-1 VI・VII層遺物出土状況



細石刃核出土状況



斧形石器出土状況



旧石器

例 言

1. 本書は、一般国道337号新千歳空港関連工事に伴い、平成20年度に財団法人北海道埋蔵文化財センターが実施した千歳市アンカリトー7遺跡・アンカリトー9遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2. 本報告書の作成は1部2課が行った。編集はアンカリトー7遺跡を愛場和人が、アンカリトー9遺跡を末光正卓が行い、愛場が統括した。遺構調査の執筆は文末に文責名を記した。遺物についてはアンカリトー7遺跡の土器・石器等を愛場和人・旧石器を広田良成が、アンカリトー9遺跡の土器・石器等を末光正卓が行い、両遺跡の金属製品を三浦正人が記述した。
3. 遺構については、担当調査員各自が実測、素図作成、事実記載を行った。
4. アンカリトー7遺跡の遺物整理は土器・土製品・石器・石製品を愛場和人が、旧石器を広田良成がそれぞれ担当した。アンカリトー9遺跡は末光正卓がすべて遺物整理を行った。また両遺跡の金属製品については三浦正人が担当し、保存処理は1部1課の田口尚と三浦が行った。
5. 写真は、調査写真を各担当者、室内撮影を越田雅司が行った。
6. 遺物の実測・トレースは主に土器・旧石器を三国谷環、木製品・金属製品・アンカリトー9遺跡の石器を武田基、アンカリトー7遺跡の石器・骨角器を花田直彦、愛場が行った。
7. 各種分析は以下の機関・部署に依頼した。

放射性炭素年代AMS測定：株式会社加速器分析研究所

動物遺存体同定：国立博物館特別研究員 金子浩昌氏

炭化種子同定：札幌国際大学 椿坂恭代氏

黒曜石原産地同定：株式会社パレオ・ラボ

岩石分析：アースサイエンス株式会社

8. 調査報告終了後の出土遺物・記録類については、北海道教育委員会が保管する。
9. 調査にあたっては下記の諸機関、各位からご指導、ご協力をいただいた（順不同、敬称略）。
北海道教育庁生涯学習推進局文化・スポーツ課、北海道開拓記念館、
千歳市総務部市史編纂担当 大谷敏三、千歳市埋蔵文化財センター 田村俊之・高橋理・
豊田宏良・松田淳子、恵庭市教育委員会 上屋真一・松谷純一・森 秀之・長町章弘、厚真町教育委員会 乾哲也・小野哲也・奈良智法、山田和史、平取町教育委員会 森岡健治、新ひだか町教育委員会 藪中剛司、帯広百年記念館 山原敏朗、今金町教育委員会 寺崎康史、石狩教育局文化財調査員 遠藤龍欽、北見市教育委員会 山田哲、鹿児島市教育委員会 赤井文人、札幌学院大学 鶴丸俊明、北海道大学埋蔵文化財調査室 高倉純、東京大学 佐藤宏之、弘前学院大学 客員研究員 鈴木克彦、岩手県立博物館 赤沼英男、国学院大学 載下詩乃、北海道北方博物館交流協会 野村崇、北海道考古学研究所 横山英介
陸上自衛隊第七師団史料館 矢留勝則・陸上自衛隊第七師団広報渉外 田中 恵

記号等の説明

1. 遺構の表記は以下に示す記号を使用し、原則として確認順に番号を付した。

「U」：Ⅲ層の遺構、「L」：V層以下の遺構

H：住居跡 B：建物跡 GP：土坑墓 P：土坑 A：灰集中 F：焼土 SP：柱穴状ビット

SB：旧石器時代の石器集中（ブロック）

HP：住居内のビット HF：住居内の焼土

このほか、記号化していない貝集中がある。

2. 遺構図の方位は真北を示す。遺構平面図の「+」は、グリッドラインの交点で、傍らの名称番号は右下のグリッドを示している。また遺構平面図の「・」は、その地点の標高（m）である。
3. 遺構図の出土遺物は、下記の記号を使用した。

Ⅲ層の遺構

■：礫石器 □：加工痕ある礫 ◎：軽石製石製品 ▲：フレイク ●：礫 ☆：金属製品 △：骨片
旧石器については遺物の種別を記号で表し、図版に凡例を示した。

4. 遺構の最大規模は「確認面での長軸長×短軸長/床（底）面での長軸長×短軸長/確認面からの最大深・最大厚（m）」の順に記した。一部破壊されているものは現存長を（ ）で示し、不明なものは一で示した。

平地式住居については柱穴間を結んで想定される住居平面形の長軸長×短軸長とし、個々の柱穴および炉（焼土）の規模は表に記載した。

5. 実測図の縮尺は原則として下記のとおりである。下記以外の図および例外については図内にスケールを付して示した。

平地住居跡：1/50 竪穴住居跡・土坑・焼土：1/40 柱穴群セクション1/80

復原土器：1/3 土器拓本：1/3 剥片石器・骨角器・金属製品：1/2 礫石器：1/3・一部1/4

礫・軽石製石製品：1/4 石製品・小型の骨角器・金属製品：1/1 旧石器：1/2

6. 土層の表記については、基本土層はローマ数字、遺構の層位はアラビア数字で示した。
7. 火山灰の略号は、『北海道の火山灰』（北海道火山灰命名委員会 1982）による。
8. 土器、石器、土・石製品の大きさは、「最大長×最大幅×最大厚」で記した。剥片石器、礫石器は機能部にこだわらず、長軸を長さ、短軸を幅、厚さは最大値を採用した。破損しているものは現存長を（ ）で示した。なお、実測図中において、たたき痕はV___ V、すり痕は←→で範囲を表した。

目 次

口絵（巻頭カラー図版）

例言・記号等の説明

目次

図目次・表目次・図版目次

I 章 緒言	1
1. 調査要項.....	1
2. 調査体制.....	1
3. 調査の経緯.....	1
(1) 一般国道337号新千歳空港関連工事.....	1
(2) 柏台1遺跡とその後の試掘調査.....	3
(3) 平成18年度以降の寿～祝梅地区の発掘調査.....	5
(4) アンカリトー7遺跡・アンカリトー9遺跡の調査・報告の経緯.....	6
II 章 遺跡の立地と周辺の遺跡	7
1. 位置と立地.....	7
(1) 位置と地名.....	7
(2) 周辺の地形・地質・環境.....	10
(3) アンカリトー（アンカリ沼）について.....	11
2. 周辺の遺跡.....	14
3. アンカリトー9遺跡の掩体塚の概要.....	18
III 章 調査の概要	29
1. 調査の方法.....	29
(1) 発掘区の設定.....	29
(2) 発掘調査の方法.....	29
(3) 整理の方法.....	32
2. 遺物の分類.....	36
(1) 土器.....	36
(2) 石器類.....	37
(3) 金属製品.....	40
(4) 骨角器.....	40
(5) その他.....	40
3. 土層の区分.....	40
4. 調査結果の概要.....	42
(1) アンカリトー7遺跡.....	42
(2) アンカリトー9遺跡.....	44

IV章 アンカリトー7遺跡 III層の遺構と遺物	47
1. 平地住居跡.....	47
2. 竪穴状遺構.....	72
3. 建物跡.....	74
4. 土坑墓.....	77
5. 杭穴.....	85
6. 灰集中.....	86
7. 貝集中.....	93
8. 焼土.....	93
9. 包含層の遺物	106
(1) 土器.....	106
(2) 石器等.....	106
(3) 金属製品.....	112
V章 アンカリトー7遺跡 V・VI層の遺構と遺物	115
1. 焼土	115
2. 包含層出土の遺物	120
(1) 土器.....	120
(2) 石器等.....	120
VI章 アンカリトー7遺跡 旧石器の調査と遺物	123
1. 概要	123
2. 遺物の分布	131
(1) 概要.....	131
(2) 石材別分布状況.....	133
(3) 器種別分布状況.....	135
3. SB-1	139
(1) 位置・地形・分布.....	139
(2) 石器・石材組成.....	139
(3) 出土した石器類.....	145
(4) 石質別資料・接合資料.....	158
4. SB-2	207
(1) 位置・地形・分布.....	207
(2) 石器・石材組成.....	207
(3) 出土した石器類.....	207
(4) 石質別資料・接合資料.....	207
5. ブロック外の石器	214
VII章 アンカリトー9遺跡の遺構と遺物	225
1. V層の遺構と遺物	225

(1) 概要	225
(2) 土坑	225
(3) 焼土	225
2. 包含層出土の遺物	228
(1) 概要	228
(2) 破片土器	237
(3) 石器類	237
(4) 古銭	240
Ⅵ章 自然科学的分析	243
1. 放射性炭素年代測定	243
2. アンカリト-7遺跡の動物遺体	249
3. アンカリト-7遺跡から出土した炭化植物種子	269
4. アンカリト-7遺跡出土黒曜石の産地推定	277
5. アンカリト-7遺跡出土試料の岩石学的分析	280
Ⅶ章 まとめ	287
1. アンカリト-7遺跡のアイヌ文化期の遺構について	287
2. アンカリト-7遺跡の旧石器について	290
3. アンカリト-9遺跡 調査成果の概要	296
引用参考文献	299
写真図版	
報告書抄録	

目 次

<p>I 緒言</p> <p>図 I-1 遺跡の位置と周辺の地形…………… 2</p> <p>図 I-2 新千歳空港関連道路建設計画図… 4</p> <p>II 遺跡の立地と周辺の遺跡</p> <p>図 II-1 松浦武四郎が描画した ヲサツトウ周辺河川図…………… 8</p> <p>図 II-2 明治期のアンカリトウ周辺地形図… 9</p> <p>図 II-3 アンカリトーの位置想定図…………… 12</p> <p>図 II-4 周辺の遺跡…………… 15</p> <p>図 II-5 アンカリトー9遺跡の現況図(掩体壕) …… 19</p> <p>図 II-6 掩体壕 1…………… 20</p> <p>図 II-7 掩体壕 2…………… 21</p> <p>図 II-8 掩体壕出土品(1)…………… 24</p> <p>図 II-9 掩体壕出土品(2)…………… 25</p> <p>図 II-10 掩体壕出土品(3)…………… 26</p> <p>III 調査の方法</p> <p>図 III-1 グリッド設定図…………… 29</p> <p>図 III-2 アンカリトー7遺跡調査の方法… 30</p> <p>図 III-3 アンカリトー9遺跡包含層調査 範囲…………… 31</p> <p>図 III-4 アンカリトー9遺跡旧石器確認 調査範囲 (X層) …………… 31</p> <p>図 III-5 基本層序柱状図…………… 40</p> <p>図 III-6 アンカリトー7遺跡土層断面図… 43</p> <p>IV アンカリトー7 III層の遺構と遺物</p> <p>図 IV-1 III層検出の遺構の位置…………… 48</p> <p>図 IV-2 UH-1…………… 49</p> <p>図 IV-3 UH-2…………… 50</p> <p>図 IV-4 UH-3…………… 52</p> <p>図 IV-5 UH-3遺物出土状況…………… 53</p> <p>図 IV-6 UH-3出土の遺物(1)…………… 54</p> <p>図 IV-7 UH-3出土の遺物(2)…………… 55</p> <p>図 IV-8 UH-4…………… 56</p> <p>図 IV-9 UH-5…………… 58</p> <p>図 IV-10 UH-5柱穴と出土遺物…………… 59</p> <p>図 IV-11 UH-6…………… 60</p> <p>図 IV-12 UH-6出土の遺物…………… 61</p> <p>図 IV-13 UH-7…………… 63</p> <p>図 IV-14 UH-7柱穴と遺物出土状況…………… 64</p> <p>図 IV-15 UH-7出土の遺物…………… 65</p> <p>図 IV-16 UH-8…………… 66</p> <p>図 IV-17 UH-8出土の遺物…………… 67</p>	<p>図 IV-18 UH-9…………… 68</p> <p>図 IV-19 UH-9出土の遺物…………… 69</p> <p>図 IV-20 UH-10…………… 70</p> <p>図 IV-21 UH-10出土の遺物…………… 71</p> <p>図 IV-22 UH-11…………… 73</p> <p>図 IV-23 UH-12…………… 74</p> <p>図 IV-24 UB-1…………… 75</p> <p>図 IV-25 UB-2…………… 76</p> <p>図 IV-26 GP-1…………… 78</p> <p>図 IV-27 GP-1周辺出土の遺物…………… 79</p> <p>図 IV-28 USP(杭穴)平面図(1)…………… 80</p> <p>図 IV-29 USP(杭穴)平面図(2)…………… 81</p> <p>図 IV-30 USP-1~100断面図…………… 82</p> <p>図 IV-31 USP-101~200断面図…………… 83</p> <p>図 IV-32 USP-201~300断面図…………… 84</p> <p>図 IV-33 USP-301~334断面図…………… 85</p> <p>図 IV-34 UA-1・3~5・貝集中1…………… 87</p> <p>図 IV-35 UA-2…………… 88</p> <p>図 IV-36 UA-2遺物出土状況…………… 89</p> <p>図 IV-37 UA-2出土の遺物…………… 90</p> <p>図 IV-38 UA-2周辺III層土壌サンプル 採取地点…………… 92</p> <p>図 IV-39 UF-1~8…………… 94</p> <p>図 IV-40 III層出土の遺物分布図(1)…………… 107</p> <p>図 IV-41 III層出土の遺物分布図(2)…………… 108</p> <p>図 IV-42 III層出土の土器(1)…………… 109</p> <p>図 IV-43 III層出土の土器(2)…………… 110</p> <p>図 IV-44 III層出土の石器等…………… 111</p> <p>図 IV-45 III層出土の金属器…………… 112</p> <p>V アンカリトー7遺跡 V・VI層の遺構と遺物</p> <p>図 V-1 V層以下検出の遺構の位置…………… 116</p> <p>図 V-2 LF-1~3…………… 117</p> <p>図 V-3 V・VI層出土の遺物分布図(1)…………… 118</p> <p>図 V-4 V・VI層出土の遺物分布図(2)…………… 119</p> <p>図 V-5 V・VI層出土の土器…………… 120</p> <p>図 V-6 V・VI層出土の石器…………… 121</p> <p>VI アンカリトー7遺跡 旧石器の調査と遺物</p> <p>図 VI-1 石器ブロック位置図・旧石器調査範 囲図…………… 124</p> <p>図 VI-2 遺物分布図・石器ブロック設 定図…………… 127</p> <p>図 VI-3 遺物点数分布図・遺物重量分布図・</p>
---	--

	層位別分布図	128
図Ⅴ-4	全接合分布図・折れ面接合分布図	132
図Ⅴ-5	石材別分布図	134
図Ⅴ-6	器種別分布図(1)	136
図Ⅴ-7	器種別分布図(2)	137
図Ⅴ-8	器種別分布図(3)・被熱石器・原礫面の残存する石器分布図	138
図Ⅴ-9	SB-1分布図(1)	140
図Ⅴ-10	SB-1分布図(2)	141
図Ⅴ-11	SB-1分布図(3)	142
図Ⅴ-12	SB-1分布図(4)	143
図Ⅴ-13	SB-1分布図(5)	144
図Ⅴ-14	SB-1の石器(1)	146
図Ⅴ-15	SB-1の石器(2)	148
図Ⅴ-16	SB-1の石器(3)	149
図Ⅴ-17	SB-1の石器(4)	151
図Ⅴ-18	SB-1の石器(5)	152
図Ⅴ-19	SB-1の石器(6)	153
図Ⅴ-20	SB-1の石器(7)	155
図Ⅴ-21	SB-1の石器(8)	157
図Ⅴ-22	SB-1の石器(9)	159
図Ⅴ-23	SB-1の石器(10)	160
図Ⅴ-24	SB-1の遺物・分布図(1)	161
図Ⅴ-25	SB-1の遺物・分布図(2)	162
図Ⅴ-26	SB-1の遺物・分布図(3)	163
図Ⅴ-27	SB-1の遺物・分布図(4)	164
図Ⅴ-28	SB-1の遺物・分布図(5)	165
図Ⅴ-29	SB-1の遺物・分布図(6)	166
図Ⅴ-30	SB-1の遺物・分布図(7)	167
図Ⅴ-31	SB-1の遺物・分布図(8)	168
図Ⅴ-32	SB-1の遺物・分布図(9)	169
図Ⅴ-33	SB-1の遺物・分布図(10)	170
図Ⅴ-34	SB-1の遺物・分布図(11)	171
図Ⅴ-35	SB-1の遺物・分布図(12)	172
図Ⅴ-36	SB-1の遺物・分布図(13)	173
図Ⅴ-37	SB-1石質別分布図(1)	176
図Ⅴ-38	SB-1石質別分布図(2)	177
図Ⅴ-39	SB-1石質別分布図(3)	178
図Ⅴ-40	黒曜石1分布図(1)	179
図Ⅴ-41	黒曜石1分布図(2)	180
図Ⅴ-42	黒曜石1・接合1、2、4	182
図Ⅴ-43	黒曜石・接合14、17、66	183
図Ⅴ-44	黒曜石2～5分布図	184
図Ⅴ-45	黒曜石6～8、12分布図	185

図Ⅴ-46	頁岩1分布図、頁岩1・接合29、85、86	187
図Ⅴ-47	頁岩1・接合25	189
図Ⅴ-48	頁岩2分布図	190
図Ⅴ-49	頁岩3分布図、頁岩3・接合44、83	191
図Ⅴ-50	頁岩石質分類外資料・接合23、47、26	193
図Ⅴ-51	頁岩石質分類外資料・接合32、34、35	194
図Ⅴ-52	頁岩石質分類外資料・接合24、87、33	195
図Ⅴ-53	頁岩石質分類外資料・接合45、27、31、36、48、65	197
図Ⅴ-54	珪化岩1分布図(1)	198
図Ⅴ-55	珪化岩1分布図(2)	199
図Ⅴ-56	珪化岩1・接合38、43、41	200
図Ⅴ-57	珪化岩2～4分布図	202
図Ⅴ-58	凝灰岩1分布図、凝灰岩1・接合61(1)	203
図Ⅴ-59	凝灰岩1・接合61(2)	205
図Ⅴ-60	泥岩1～3・粘板岩分布図	206
図Ⅴ-61	SB-2の石器・分布図(1)	208
図Ⅴ-62	SB-2の遺物・分布図(2)	209
図Ⅴ-63	SB-2石質別分布図	211
図Ⅴ-64	黒曜石9・接合12、90、91	212
図Ⅴ-65	黒曜石10、黒曜石11・接合11	213
図Ⅴ-66	ブロック外出土の石器・分布図	215

Ⅶ アンカリト-9遺跡の遺構と遺物

図Ⅶ-1	Ⅶ層上面地形測量図及び遺構位置図	226
図Ⅶ-2	LP-1・LF-1・2・3	227
図Ⅶ-3	包含層出土遺物分布図(1)	229
図Ⅶ-4	包含層出土遺物分布図(2)	230
図Ⅶ-5	包含層出土遺物分布図(3)	231
図Ⅶ-6	包含層出土遺物分布図(4)	232
図Ⅶ-7	包含層出土遺物分布図(5)	233
図Ⅶ-8	包含層出土遺物分布図(6)	234
図Ⅶ-9	包含層出土遺物分布図(7)	235
図Ⅶ-10	包含層出土破片土器	238
図Ⅶ-11	包含層出土石器類	239
図Ⅶ-12	包含層出土古銭	240

Ⅷ 自然科学的分析

図Ⅷ-1	暦年代校正結果(1) ……………	246
図Ⅷ-2	暦年代校正結果(2) ……………	247
図Ⅷ-3	暦年代校正結果(3) ……………	248
図Ⅷ-4	アンカリト-7 遺跡動物遺体 出土遺構 ……………	253
図Ⅷ-5	北海道・東北地方黒曜石原石 採取エリア ……………	278
図Ⅷ-6	黒曜石産地推定判別図(1) ……………	
図Ⅷ-7	黒曜石産地推定判別図(2) ……………	
図Ⅷ-8	渡島半島ほかの珪質頁岩の 化学組織との比較(1) ……………	284
図Ⅷ-9	渡島半島ほかの珪質頁岩の 化学組織との比較(2) ……………	285

図Ⅷ-10	渡島半島ほかの珪質頁岩の 化学組織との比較(3) ……………	286
図版Ⅷ-1	出土炭化植物種子(1) ……………	275
図版Ⅷ-2	出土炭化植物種子(2) ……………	276
Ⅸ まとめ		
図Ⅸ-1	平地住居跡集成図 ……………	289
図Ⅸ-2	SB-1 石器組成グラフ (器種別・石材別・石質別) ……	291
図Ⅸ-3	SB-1・2 作業内容別接合 資料 ……………	293
図Ⅸ-4	SB-1 の主な石器製作作業 内容(石材別) ……………	294

表 目 次

Ⅱ 遺跡の立地と周辺の遺跡

表Ⅱ-1	周辺の遺跡一覧(1) ……………	16
表Ⅱ-2	周辺の遺跡一覧(2) ……………	17
表Ⅱ-3	周辺の遺跡一覧(3) ……………	18
表Ⅱ-4	掩体壕の層位 ……………	27
表Ⅱ-5	掩体壕1 出土品点数表 ……………	28
表Ⅱ-6	掩体壕2 出土品点数表 ……………	28
表Ⅱ-7	旧日本海軍千歳航空基地終戦 当時の残存車両等一覧 ……………	28
表Ⅱ-8	掩体壕掲載出土品属性表(木類) ……	28
表Ⅱ-9	掩体壕掲載出土品属性表(瓶類) ……	28
表Ⅱ-10	掩体壕掲載出土品属性表(レンガ) ……	28
表Ⅱ-11	掩体壕掲載出土品属性表(その他) ……	28

Ⅲ 調査の方法

表Ⅲ-1	アンカリト-7・9 遺跡基本層序 一覧 ……………	41
表Ⅲ-2	アンカリト-7 遺跡遺構一覧 ……	44
表Ⅲ-3	アンカリト-7 遺跡遺物集計表 ……	45
表Ⅲ-4	アンカリト-9 遺跡遺構一覧 ……	45
表Ⅲ-5	アンカリト-9 遺跡出土遺物 集計表 ……………	45

Ⅳ アンカリト-7 遺跡 Ⅲ層の遺構と遺物

表Ⅳ-1	遺構規模一覧 ……………	96
表Ⅳ-2	USP柱穴規模一覧(1) ……………	97
表Ⅳ-3	USP柱穴規模一覧(2) ……………	98
表Ⅳ-4	USP柱穴規模一覧(3) ……………	99
表Ⅳ-5	付属遺構規模一覧(1) ……………	99
表Ⅳ-6	付属遺構規模一覧(2) ……………	100

表Ⅳ-7	付属遺構規模一覧(3) ……………	101
表Ⅳ-8	遺構出土掲載石器等一覧(1) ……	102
表Ⅳ-9	遺構出土掲載石器等一覧(2) ……	103
表Ⅳ-10	遺構出土掲載骨角器一覧 ……	103
表Ⅳ-11	遺構出土金属製品一覧 ……	104
表Ⅳ-12	遺構出土掲載ガラス製品一覧 ……	104
表Ⅳ-13	遺構フローテーション結果 一覧 ……………	105
表Ⅳ-14	包含層出土掲載復原・拓本 土器一覧 ……………	113
表Ⅳ-15	包含層出土掲載石器等一覧 ……	113
表Ⅳ-16	包含層出土掲載金属製品一覧 ……	113

Ⅴ アンカリト-7 遺跡Ⅴ・Ⅵ層の遺構と遺物

表Ⅴ-1	Ⅴ・Ⅵ層の焼土規模等一覧 ……	118
表Ⅴ-2	焼土層位一覧 ……………	118
表Ⅴ-3	Ⅴ・Ⅵ層の遺構出土掲載拓 本土器一覧 ……………	122
表Ⅴ-4	Ⅴ・Ⅵ層出土掲載拓本土器 一覧 ……………	122
表Ⅴ-5	Ⅴ・Ⅵ層出土掲載石器一覧 ……	122

Ⅵ アンカリト-7 遺跡旧石器の調査と遺物

表Ⅵ-1	旧石器遺物点数・重量一覧 ……	125
表Ⅵ-2	旧石器遺物石材別一覧 ……	126
表Ⅵ-3	旧石器石材別組成一覧 ……	129
表Ⅵ-4	旧石器出土地点別一覧 ……	129
表Ⅵ-5	被熱石器・原礫面残存石器 一覧 ……………	129
表Ⅵ-6	旧石器出土地点・石材別組成	

一覽	……………	130
表Ⅴ-7	SB-1石質別出土遺物一覽	…175
表Ⅴ-8	SB-1出土黒曜石石質分類 一覽	……………175
表Ⅴ-9	SB-2石質別出土遺物一覽	…211
表Ⅴ-10	SB-2出土黒曜石石質分類 一覽	……………211
表Ⅴ-11	頁岩・珪化岩・凝灰岩・泥岩・ 石質分類一覽	……………211
表Ⅴ-12	掲載旧石器一覽(1)	……………216
表Ⅴ-13	掲載旧石器一覽(2)	……………217
表Ⅴ-14	掲載旧石器一覽(3)	……………218
表Ⅴ-15	掲載旧石器一覽(4)	……………219
表Ⅴ-16	掲載旧石器一覽(5)	……………220
表Ⅴ-17	掲載旧石器接合資料一覽(1)	…221
表Ⅴ-18	掲載旧石器接合資料一覽(2)	…222
表Ⅴ-19	掲載旧石器接合資料一覽(3)	…223
表Ⅴ-20	掲載旧石器接合資料一覽(4)	…224
Ⅶ アンカリト-9 遺跡の遺構と遺物		
表Ⅶ-1	遺構規模等一覽	……………236
表Ⅶ-2	包含層出土土器点数表	……………236
表Ⅶ-3	包含層出土石器類点数表	……………236
表Ⅶ-4	包含層出土破片土器観察表	…241
表Ⅶ-5	包含層出土旧石器群観察表	…241
表Ⅶ-6	包含層出土剥片石器群観察表	…242
表Ⅶ-7	包含層出土磨製石器群観察表	…242
表Ⅶ-8	包含層出土礫石器群観察表	…242

Ⅷ 自然科学的分析

表Ⅷ-1	放射性炭素年代測定結果一覽	…245
表Ⅷ-2	放射性炭素年代測定結果(1)	…245
表Ⅷ-3	放射性炭素年代測定結果(2)	…246
表Ⅷ-4	種別動物遺体一覽(1)	……………257
表Ⅷ-5	種別動物遺体一覽(2)	……………258
表Ⅷ-6	種別動物遺体一覽(3)	……………259
表Ⅷ-7	種別動物遺体一覽(4)	……………260
表Ⅷ-8	種別動物遺体一覽(5)	……………261
表Ⅷ-9	種別動物遺体一覽(6)	……………262
表Ⅷ-10	種別動物遺体一覽(7)	……………263
表Ⅷ-11	種別動物遺体一覽(8)	……………264
表Ⅷ-12	種別動物遺体一覽(9)	……………265
表Ⅷ-13	種別動物遺体一覽(10)	……………266
表Ⅷ-14	種別動物遺体一覽(11)	……………267
表Ⅷ-15	種別動物遺体一覽(12)	……………268
表Ⅷ-16	アンカリト-7 遺跡炭化種子 出土表	……………274
表Ⅷ-17	北海道・東北地方黒曜石産地の 判別群	……………277
表Ⅷ-18	分析対象資料および産地推定 結果	……………279
表Ⅷ-19	アンカリト-7 遺跡 珪質剥片石器の肉眼鑑定結果	…280
表Ⅷ-20	FP法蛍光X線分析結果	……………282
表Ⅷ-21	EDS分析結果	……………283

写真目次

アンカリトロー7遺跡

図版1 アンカリトロー7遺跡の調査状況

図版2 UH-1

図版3 UH-2

図版4 UH-3

図版5 UH-4

図版6 UH-5

図版7 UH-6

図版8 UH-7

図版9 UH-8

図版10 UH-9

図版11 UH-10

図版12 UH-11

図版13 UH-12

図版14 UB-1・2

図版15 GP-1(1)

図版16 GP-1(2)

図版17 UA-1・3～5

図版18 UA-2(1)

図版19 UA-2(2)

図版20 杭列・貝集中・LFなど

図版21 アンカリトロー7遺跡の調査状況

図版22 SB-1(1)

図版23 SB-1(2)

図版24 SB-1・2

図版25 アンカリトロー7遺跡の調査の
終了状況・土層

図版26 III層遺構の石器(1)

図版27 III層遺構の石器(2)

図版28 III層遺構の金属製品(1)

図版29 III層遺構の金属製品(2)

図版30 III層遺構の金属製品(3)

図版31 III層遺構の金属製品(4)・
包含層の金属製品

図版32 III層遺構の遺物・V層遺構の遺物

図版33 III層出土の復原土器

図版34 包含層出土の柘本土器

図版35 包含層出土の石器

図版36 旧石器(1)

図版37 旧石器(2)

図版38 旧石器(3)

図版39 旧石器(4)

図版40 旧石器(5)

図版41 旧石器(6)

図版42 旧石器(7)

図版43 旧石器(8)

図版44 旧石器(9)

図版45 旧石器(10)

図版46 旧石器(11)

図版47 旧石器(12)

図版48 遺構出土の動物遺体(1)

図版49 遺構出土の動物遺体(2)

図版50 遺構出土の動物遺体(3)

アンカリトロー9遺跡

図版51 アンカリトロー9遺跡の調査区全景

図版52 調査の状況・掩体塚(1)

図版53 掩体塚(2)

図版54 掩体塚出土品

図版55 LP・LF・古銭

図版56 包含層の遺物

図版57 空中写真(1)

図版58 空中写真(2)

I 章 緒 言

1. 調査要項

事業名：一般国道337号新千歳空港関連工事用地内埋蔵文化財発掘調査

委託者：国土交通省北海道開発局札幌開発建設部

遺跡名：アンカリトー7遺跡（北海道教育委員会登録番号 A-03-67）

所在地：千歳市祝梅607-3・4、1754-5、2700、2701

調査面積：4,050㎡

調査期間：平成20年4月1日～平成21年3月31日（現地調査5月8日～9月11日）

遺跡名：アンカリトー9遺跡（北海道教育委員会登録番号 A-03-283）

所在地：千歳市祝梅884-59～61・65・76・99・101・105・109・112・117～122・126・128・129、1764-5、2699

調査面積：6,680㎡

調査期間：平成20年4月1日～平成21年3月31日（現地調査5月8日～7月28日）

2. 調査体制

第1調査部 部長 越田 賢一郎

第2調査課長 三浦 正人

アンカリトー7遺跡	発掘担当者	主	任	愛場 和人
		同	主	任 末光 正卓
		同	主	任 広田 良成
		主	任	阿部 明義
アンカリトー9遺跡	発掘担当者	主	任	末光 正卓
		同	主	任 愛場 和人

3. 調査の経緯

(1) 一般国道337号新千歳空港関連工事

この調査の原因である一般国道337号新千歳空港関連工事は、北海道開発局札幌開発建設部が実施している地域高規格道路「道央圏連絡道路」計画の一環である。道央圏連絡道路（一般国道337号）は道央都市圏の新しい交通・物流ルートとなる4車線道路で、新千歳空港を起点とし、北海道横断自動車道千歳東IC、北海道縦貫自動車道江別東IC、重要港湾石狩湾新港、北海道横断自動車道銭函ICを結ぶ延長約80kmの半環状道路である（図I-2）。市町村としては千歳市、長沼町、南幌町、江別市、当別町、札幌市、石狩市、小樽市を連結している。事業は新千歳空港関連・泉郷道路・長沼南幌道路・美原バイパス・美原道路・当別バイパスの6区間に分けられている。「新千歳空港関連」事業は新千歳空港と北海道横断自動車道千歳東ICを結ぶ9.2km区間で、平成元年度に事業化された。このうち新千歳空港から千歳市街地への2.5kmのほか、昭和55年度に事業化された当別バイパス（当別町～小樽市）23.8kmが平成15年度までに部分供用され、平成16年3月26日には石狩川を渡河する美原大橋を含む美原バイパス3.9kmが2車線で暫定供用されている。

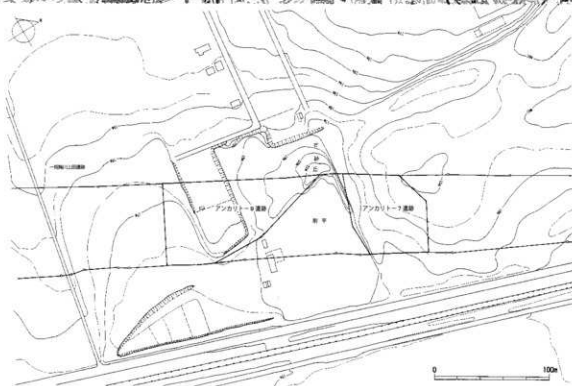
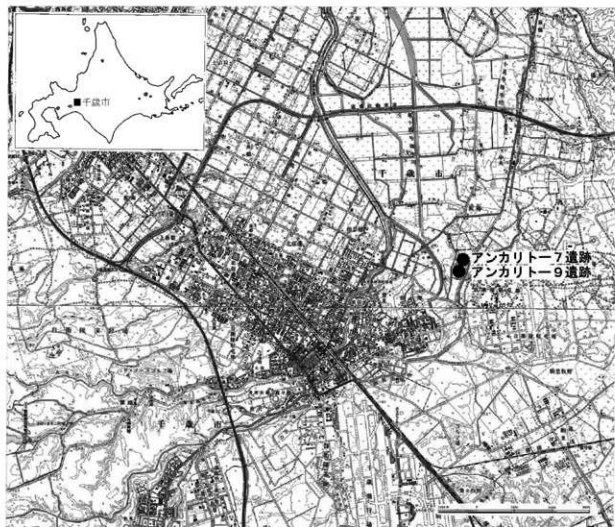


図1-1 遺跡の位置と周辺の地形
上図は国土地理院発行1:50000図「恵庭」(平成11年発行)
「千歳」(平成13年発行)に加筆したものである。

平成2(1990)年12月札幌開発建設部は千歳市教育委員会を經由して北海道教育委員会(以下、道教委)あてに、国道337号根志越道路整備工事に伴う千歳市柏台から同市中央までの路線内における埋蔵文化財保護のための事前協議書を提出した。協議を受けた道教委は平成3年6月、路線内の遺跡所在確認調査を実施した。その結果、周知の祝梅川・祝梅川矢島・祝梅川山田・祝梅川上田・アンカリトー6・アンカリトー7・キウス13号周堤墓(のちのオリイカ1遺跡)・キウス5遺跡と未登載の仮称祝梅砂丘遺跡(のちの柏台1遺跡)・仮称キウス7・8・9・10遺跡の12箇所、対象面積299,000㎡、全計画路線の半分程度について範囲確認調査が必要と判断、同年7月道教委から札幌開発建設部へ回答された。

平成7(1995)年5月、事業名の変更等により、再度事前協議書が札幌開発建設部から道教委に提出された。ここで事業名が一般国道337号千歳市新千歳空港関連工事となり、事業地の面積約828,000㎡、工期は平成8年4月1日から平成12年12月15日、埋蔵文化財包蔵地保護については現状保存は困難なため範囲確認調査(試掘)を希望する旨協議された。

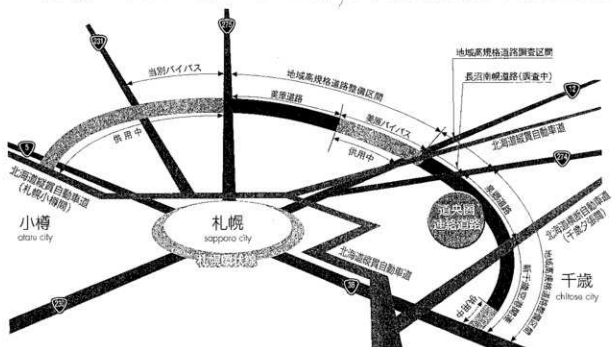
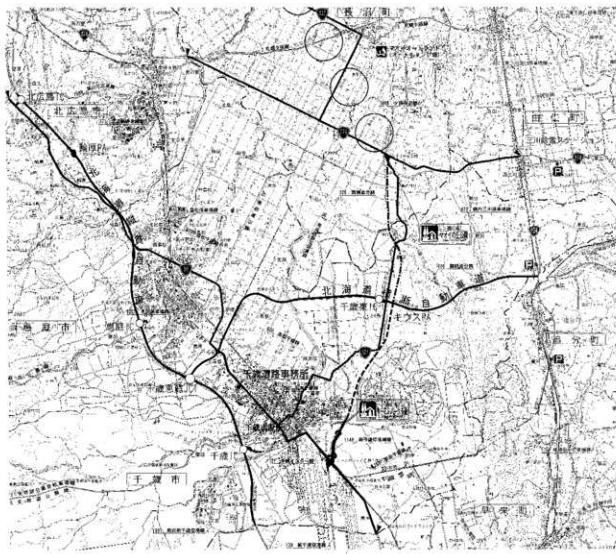
当事業用地内で範囲確認調査(試掘)の結果、発掘調査が必要と判断された遺跡は、空港にほど近い柏台1遺跡、寿～祝梅地区の梅川4遺跡・祝梅川小野遺跡・梅川1遺跡・梅川2遺跡・祝梅川上田遺跡・アンカリトー9遺跡・アンカリトー7遺跡、中央地区のオリイカ1遺跡・オリイカ2遺跡・チブニー1遺跡・チブニー2遺跡・キウス9遺跡・キウス5遺跡の計14遺跡である。ここでは端緒となった柏台1遺跡と、当報告のアンカリトー7・9遺跡を含む寿～祝梅地区の遺跡の7遺跡の試掘と発掘調査を概観しておく。

(2) 柏台1遺跡とその後の試掘調査

平成7年11月と平成8年5月、道教委は当事業地内で初の範囲確認調査を千歳市柏台地区の仮称祝梅砂丘遺跡とした包蔵地で実施した。その結果、地表下約4mにある恵庭a降下軽石層(En-a)直下の風成堆積物中から、旧石器時代の遺物である黒曜石製剥片石器類が検出された。範囲や工法など遺跡の取り扱いについて協議が行われ、工事前の発掘調査を実施することとなった。柏台1遺跡として登載されたこの遺跡は、平成9(1997)・10年に財団法人北海道埋蔵文化財センター(以下、センター)が越田賢一郎・福井淳一を担当者として6,300㎡の発掘調査を実施、En-a直下に広がる疎林樹木痕とEn-a下位の火山灰質シルト層から約32,000点の旧石器時代遺物を検出した。遺物は15ヵ所の集中域に分かれ、13ヵ所で炉跡、琥珀玉も1点確認できた。(北理調報138集)

その後、用地買収の遅延などにより、事業地内の埋蔵文化財関係調査は途絶えていた。以降の寿～祝梅地区の範囲確認調査は以下のとおりである(平成21年3月現在)。

- 平成16年10月 祝梅川山田遺跡の一部実施。祝梅川上田遺跡の隣接地として判断保留。梅川4遺跡も対象となったが、以前別件のため道教委と千歳市教委により実施済でデータがあると判明し、調査が必要と判断(用地未買収による不確定部分あり)。
- 平成17年10月 祝梅川上田遺跡・梅川1遺跡・祝梅川小野遺跡、3遺跡約43,000㎡を対象に実施。祝梅川上田遺跡は16年10月分と併せて調査が必要と判断。南側7,625㎡は遺跡のありかたから梅川2遺跡として、北側の9,100㎡を祝梅川上田遺跡として調査対象(北側に試掘未了部あり)。梅川1遺跡は部分的な試掘で未了区が多く判断保留だが、土器・木製品等の遺物の出土はある。祝梅川小野遺跡は台地部の大半と低地部の一部で遺物が出土し、調査が必要と判断されるが、用地未買収による不確定部分がある。



北海道開発局「千歳道路事務所 事業概要」パンフレットより抜粋

図 I-2 新千歳空港関連道路建設計画図

- 平成18年9月 祝梅川小野遺跡の試掘未了区で実施。台地部はすべて調査が必要と判断される。
- 平成18年10月 アンカリト7遺跡の用地買収済部分10,600㎡で実施。少量の遺物出土。南側に試掘未了部分多く判断保留。
- 平成19年9月 祝梅川上田遺跡の北側11,300㎡で実施。18年度の当センターの調査成果から、遺跡の広がりが見込まれたため、調査必要範囲を割り出す追認の試掘である。結果、アイヌ文化期・擦文文化期の遺構・遺物の広がりや旧石器時代の遺物の存在が想定され、10,000㎡弱が要発掘調査となった。
- 平成19年10月 祝梅川小野遺跡の北側の試掘未了区で実施。第Ⅱ黒色土の遺物包含層の状況から、祝梅川小野遺跡と梅川1遺跡は連続するものと判断。17年度試掘で木製品が出土した区域を梅川1遺跡、それより南側を祝梅川小野遺跡として、発掘調査が必要と判断された。アンカリト7遺跡南側の試掘未了区約7,000㎡(後のアンカリト9遺跡)で実施。散漫な遺物包含層を確認。北側との間に試掘未了区があるため判断保留。
- 平成19年11月 アンカリト7遺跡中央部の試掘未了区5,400㎡で実施。一部を除いて深部まで重機による損壊が及び、ほぼ調査対象外となる。これによりこの南北両側のアンカリト7遺跡の調査必要面積がほぼ確定。地形から、北側をアンカリト7遺跡とし調査対象面積は約4,000㎡、南側をアンカリト9遺跡として新たに登録し約7,000㎡が調査対象面積となった。

(3) 平成18年度以降の寿～祝梅地区の発掘調査

以上の範囲確認調査から発掘調査が必要と判断された遺跡は、平成13年度から財団法人北海道埋蔵文化財センターが、札幌開発建設部札幌新道建設事務所(平成16年度から千歳道路事務所)の工事計画に則って以下のごとく発掘調査を実施している。寿～祝梅地区の発掘調査は以下のとおりである(平成21年度現在)。

- ◇平成18年度 祝梅川上田遺跡 9,100㎡ 担当者：鈴木信・皆川洋一 旧石器ブロック・縄文早期中期後期の遺物・アイヌ期の平地住居跡(集落)と鉄製品など 報告書：北埋調報238集
- ◇同 梅川2遺跡 7,625㎡ 担当者：鈴木信・皆川洋一 縄文期の遺物散布地 報告書：北埋調報238集
- ◇同 梅川4遺跡 5,000㎡→6,350㎡に変更 担当者：鈴木信・宗像公司 縄文晩期後葉の土坑墓群 報告書：未報告、調査年報19参照
- ◇平成19年度 祝梅川小野遺跡 7,630㎡ 担当者：遠藤香澄・菊池慈人・山田和史 縄文前期後期の住居と遺物・擦文期の住居群・アイヌ期の平地住居跡(集落) 報告書：未報告、調査年報20参照
- ◇同 梅川4遺跡 8,655㎡ 担当者：鈴木信・宗像公司 縄文前期後期晩期の住居と遺物・縄文晩期後葉の土坑墓群・続縄文時代の土器 報告書：第Ⅱ黒色土層は北埋調報253集、第Ⅰ黒色土層は未報告、調査年報20参照
- ◇平成20年度 祝梅川上田遺跡 9,910㎡ 担当者：三浦正人・越田雅司・広田良成 旧石器ブロック・擦文期の住居・アイヌ期の集落跡(平地住居・倉庫・灰集中・焼土など)と金属製品等の遺物 報告書：未報告、調査年報21参照
- ◇同 アンカリト7遺跡 4,050㎡ 担当者：愛場和人・末光正卓 旧石器ブロック・アイヌ期の集落跡(平地住居・倉庫・灰集中・焼土など)と金属製品等の遺物 報告書：当報告書
- ◇同 アンカリト9遺跡 6,680㎡ 担当者：愛場和人・末光正卓 縄文時代の遺物少量・

戦時中の掩体壕 報告書：当報告書

- ◇同 祝梅川小野遺跡 10,267㎡ 担当者：鈴木信・菊池慈人 縄文前期後期の住居と遺物・縄文晩期後葉の土坑墓群・濠文期の住居群と遺物・アイヌ期の道跡と低位部の木製品 報告書：未報告、調査年報21参照
- ◇同 梅川1遺跡 893㎡ 担当者：鈴木信・菊池慈人 縄文中期の焼土・低位部でアイヌ期の多量の木材切片 報告書：未報告、調査年報21参照
- ◇同 梅川4遺跡 13,550㎡ 担当者：鈴木信・鎌田望 縄文中期の岩偶・アイヌ期の道跡数条や平地住居と遺物報告書：第Ⅱ黒色土層は北理調報269集、第Ⅰ黒色土層は未報告、調査年報21参照

(4) アンカリトール7遺跡・アンカリトール9遺跡の調査・報告の経緯

これらのうち、当報告のアンカリトール7遺跡・アンカリトール9遺跡の調査に至る経緯について詳述する。アンカリトール7遺跡・アンカリトール9遺跡は千歳市祝梅地区の中央部、祝梅川の東側に所在する。当国道建設工事の計画では、盛土で本線車道となる工区である。

前掲した平成18年10月19・20日の範囲確認調査は、用地買収が済んだアンカリトール7遺跡の10,600㎡を対象に行われた。畑地では天地返しが入り乱された部分が多かったが、少量の遺物と第Ⅰ黒色土層で柱穴を確認し、約4,000㎡を調査範囲としておさえた。ただし遺構確認が要発掘かについては、範囲確認調査未了部の試掘を待って判断することになった。また遺跡名についても、周辺遺跡の拡大か別遺跡とするかを試掘完了後検討するとした。この時点では仮称アンカリトール7遺跡であった。平成19年10月18日には前年の地区と稜鞍部を挟んだ南側で、アンカリトール7遺跡として試掘未了区約7,000㎡を対象に実施。散漫な遺物包含層を確認したが、北側との間の稜鞍部が試掘未了であるため約6,300㎡について判断を保留した。後のアンカリトール9遺跡である。同年11月30日に実施された稜鞍部の範囲確認調査では、裾部の一部を除いて深部まで建設機械による損壊が及び、裾部以外は調査対象外と判定された。これによりこの南北両側のアンカリトール7遺跡の調査必要面積がほぼ確定。地形から、北側をアンカリトール7遺跡とし調査対象面積は約4,000㎡、南側をアンカリトール9遺跡として新たに登録し、第Ⅱ黒色土層のみ約7,000㎡が要発掘調査となった

札幌開発建設部は道教委に対し、平成19～21年度に予定している祝梅地区の本線車道盛土工事に合わせて、祝梅川上田遺跡・アンカリトール7遺跡・アンカリトール9遺跡の発掘調査を平成19年度内に終了させて欲しいとの要望をした。総面積は20,640㎡と広大であるが、建設機械による遺構確認や層を限定した調査により、19年度のみ調査で完了できると判断された。

事業委託を受けた当センターは同年5月8日から上記3遺跡の発掘調査を開始した。このうちアンカリトール9遺跡は7月28日で終了、アンカリトール7遺跡は遺跡の内容から、第Ⅱ黒色土層主体の調査をアイヌ文化期集落跡の第Ⅰ黒色土層調査と第Ⅱ黒色土層以下の旧石器ブロック調査に切り替えて、9月11日で調査を終了した。なお、アンカリトール9遺跡では戦時中の車輛掩体壕が2基発見された。遺物包含層を攪乱しているため、遺物調査と旧石器調査を兼ねて、これも概略の記録を残した。10月からは順次整理作業も展開し、21年度まで整理作業を進めて調査報告書(本書)刊行の運びとなった。

(三浦 正人)

II 章 遺跡の立地と周辺の遺跡

1. 位置と立地

(1) 位置と地名

アンカリトー7・アンカリトー9 両遺跡は千歳市の市街地から北東約3 km、祝梅地区の中央部に位置し、千歳市街の東縁に南北に走る更新世の古砂丘列の挟間の低位段丘に所在する。西側は一部古砂丘列を挟んで下方沖積地に祝梅川が北流し（アンカリトーか？）、東側は市道祝梅2号道路と南長沼用水が並んで南北に通じ、その東エリアは陸上自衛隊東千歳駐屯地である。アンカリトー9 遺跡の南200mには祝梅川上田遺跡、北は古砂丘を成因とする稜鞍部を挟んでアンカリトー7 遺跡となる。その北側は馬追丘陵の西裾部が緩やかにうねりながら広がり、略北東約2 kmでオリイカ2 遺跡に達する。

遺跡名の「アンカリトー」とは、『北海道蝦夷語地名解』（永田方正 1891 草風館1984復刻）の膽振國千歳郡の章に「アングリ沼」の見出しがあり、中で「アングリ トー」はアイヌ語の「Angari to）、「鷺ヲ捕ル雪穴」の意であるとされ、その下に「雪ヲ掘リテ穴ヲ作り其中ニ潜居シテ鷺ヲ捕ル其穴ヲ「アン」ト云ヒ、作ルヲ「カラ」ト云フ」と注釈がある。また『ちとせ地名散歩』（長見義三 1976 北海道新聞社）では「アンカリト」[an-kar-to ワシ捕り小屋・をつくる・沼]と解している。地名由来のアンカリトー（アンカリ沼）は現在正確な位置がわかっていない。長見は前掲書で「祝梅の天理教会の方からと、東部隊の方からの道路が中央側で合するあたりから低地になる。そこがこの沼で、明治の半ばすぎまでは存在したらし」と言い、『増補千歳市史』（1983）では「明治二十四年ごろまでは切り替え祝梅川の橋付近にあったらし」と記している。

地名「アンカリトー」の初出は、松浦武四郎が安政3（1856）年の蝦夷地廻補、安政4年の東西蝦夷山川地理取調御用の際に手控として残した「石狩・テシホ・クスリ外十二所川々取調帳」（『武四郎蝦夷地紀行』所収 秋葉実解説1988北海道出版企画センター）にある。長都沼（ワサツウ）に流入する多くの河川のうち千歳川（シコツプト）に並んで西からシユクハイ・アンカリトウ・ウリウカ・ユーナイとある（図II-1）。

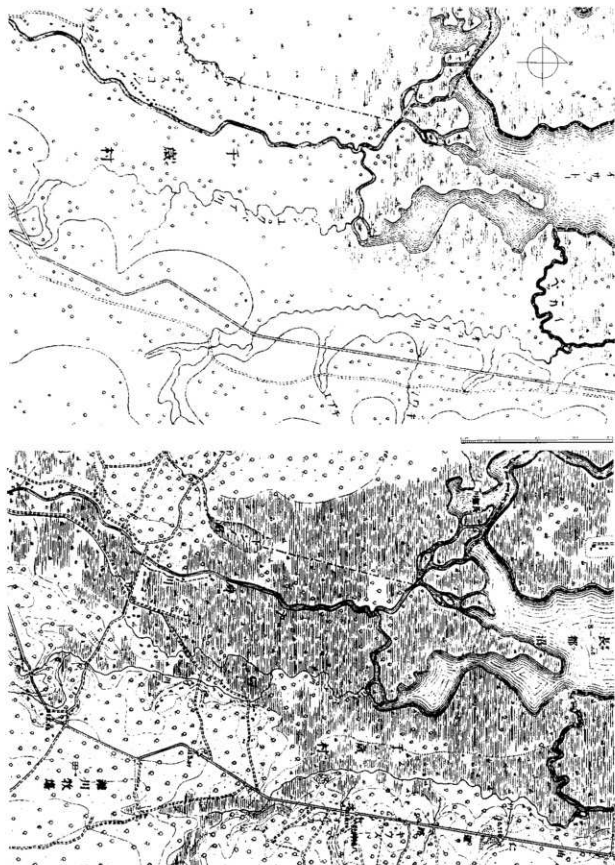
安政3年の調査記録である『竹四郎廻補日記』「巻の二十九」十月四日の記録の中には「（千歳）川より字ワサツウ、並てアンカリ沼、並てシユクハエ、並てマヨエ沼等、此辺一面蘆荻の藪たる地」と表現されている。

安政4年の調査記録である『丁巳東西蝦夷山川地理取調日誌』「第十五巻由宇発利日誌巻の一」には、長都沼を舟で横断した際の記載がある。江別川（千歳川下流）から長都沼に入り東岸へ向かう途中に南にシコツプトを、東に「シユクハイプトを眺め過ぎ」沼の北東隅に至った。「しばし掻行」して「アガリト ウエノタ 等蘆荻の生繁りたるノタ也。此間行ま、タン子エンルン 長く出たるのた也。此処を廻りてしばし行や マライトウ 周廻凡三里半余。是も（長都沼と）同じく水あさくして其周り蘆荻原也。東のえ方はヨロイカツ並タケヌツ等云川口を…」とあり、「ノタ」として登場している。「ノタ」はアイヌ語「ヌタブ nutap」と思われ、「川の彎曲内の土地」（『地名アイヌ語小辞典』知里真志保1956 『知里真志保著作集3』平凡社1973所収）と解されていることから、水に囲まれた突出地とみられる。また「同」『第十六巻由宇発利日誌巻の二』には、六日夜逆に馬追沼から千歳へ陸行で向かう様子の記載がある。「ユーナイ 此処ウリウカの左りの沢、（略）同じく榊原しばし行て八丁 ケ子ブチ（略）行こと三丁計にして ウリウカ 小川一ツ有、巾五六間、砂川にて浅し。



この図は、(上) 松浦武四郎『石狩・テシホ・クスリ外十二所川々取調帳』
〔『武四郎蝦夷地紀行』秋田書房 1988 北海道出版企画センター 所収〕中の図
(下) 同、『東西蝦夷山川地理取調図 五』
〔『アイヌ語地名資料集成(別巻) 東西蝦夷山川地理取調図』1988 草紙屋 所収)の図を
部分複製したものである。

図Ⅱ-1 松浦武四郎が描画したヨサツトウ周辺河川図



この図は、(上)陸地測量部、明治29年製版の仮製五万分の一地形図、札幌第七号「長都」
 (下)同、明治42年部分修正測、43年改版の仮製五万分の一地形図、札幌第七号「漁」を
 部分複製したものである。

図Ⅱ-2 明治期のアンカリトウ周辺地形図

こへて谷地を式丁計行て平地しばし行。此辺より惣て土地は低く赤楊・柳原のみ也。過て キユウシ小川、巾三間計。過て谷地を五丁計行てまた木原少し過 タン子エンルン 此処木原の岬に成り居て、マヨイ沼え差出たる岬也。其上をこへ行に凡一里計にて アガリト 小川也。此川巾三間計、こへて同じく谷地を行。此川もシユクハイえ落るなり。(略) しばし行て シユクバイ 川端え出り。此川巾十間計、末流シユクハイといえる少しの沼有り。其沼の口マヨイ沼え下るよし也。…」とある。同じ日誌に今度は幅約3間の小川として示されている。

武四郎の様々な記述を読むと、当時は長都沼の北東の広がり馬追沼と認識されていたようである。前出の手控等を編纂した安政6年刊行の『東西蝦夷山川地理取調図 五』では、「ヲサツトウ」の北東の大きな入江が「マヨイトウ」、その南側で南東に湾入するのが「アガリトウ」とされ、「ウリウカ」がマヨイトウとアガリトウを分ける岬状の突出に名が書かれている。あるいは脇のアンガリトウに注ぐ小河川を示すのかもしれない(図Ⅱ-1)。

地名の意と位置といい、様々な情報があり、腑に落ちない沼である。後項(3)でアンカリトールの意味と位置を推定してみたい。

(2) 周辺の地形・地質・環境

アンカリトール7・アンカリトール9 両遺跡の東側にある馬追丘陵は、北から栗山町・長沼町・由仁町・千歳市・安平町(旧追分町と旧早来町)と、南北延長約30kmにおよんで隆起している標高150m前後の連なりで、273mの馬追山を最高地点とする。キウス遺跡群の北東方約5kmには標高約100mのコムカラ峠があり、峠の西北西下にキウス川の源流がある。キウス川——コムカラ峠のルートは、丘陵を横断して石狩低地帯と夕張方面や道東部を結ぶ道のひとつとして早くから開けていたようである。

一方、丘陵西側に広がる石狩低地帯は、支笏火山が形成した火砕岩台地によって千歳市南部を分水界とし、日本海側と太平洋側に分かたれている。この分水界である千歳市街東南部の低い丘陵状山地や馬追丘陵西南裾の湧水を集めて北流するのが、祝梅川・梅川である。千歳市街で向きを変えて北流する千歳川とは終始1~2kmの間隔をあけて流れ、アンカリトウを経由して長都沼に注いでいた。これらの沼は、古くは遺跡の北~北西側の千歳市祝梅・根志越・中央・泉郷地区や恵庭市漁太地区・長沼町の沖積低地部に存在したもので、トンメ沼・長都沼(ヲサツトウ)・アンカリトウや馬追沼(マヨイトウ)・ボンユバリ沼・菱沼(イコクシ沼)・チカップセトシ沼・鶴沼などがあり、周辺には低湿地が広がっていた。蛇行の著しい千歳川・祝梅川・剣淵川(ケヌフチ川)・漁川・夕張川やそれらの小支流と馬追丘陵からの小河川も流入し、多雨や融雪期には広範囲で冠水する湛水地帯であった。往時は遺跡やコムカラ峠から西を眺めれば、湿地帯や水を湛えた沼が広がり、遠くは樽前山・恵庭岳・漁岳・空沼岳・札幌岳・無意根山・手稲山など標高1000~1500m級の山々が連なる眺めであった。

遺跡を取り巻く内陸古砂丘列である千歳古砂丘は、Spf1が母材の風成二次堆積物で更新世に成立がもめられる。後期旧石器以降の遺跡が立地し、後期旧石器でも古いものは九子山遺跡のように砂丘下でも確認される。アンカリトール7遺跡の現地表面の標高は15~18m、アンカリトール9遺跡は16~20mで、両遺跡を分ける高まり側を最高点にして傾斜面・平坦面に立地する。基盤の古砂丘が数層のテフラ(火山灰)で覆われて形成されており、上部に幾つかの土壌の発達がみられる。両遺跡を分ける高まり(稜鞍部)も古砂丘のピークである。周辺の状況を見ると、まず32,000年ほど前の支笏カルデラ起源の降下軽石Spfa2とSpfa1が堆積し、これらを軽石流堆積物Spf1の薄層とSpf1の風成二次堆積物が覆って古砂丘を形成。Spfa2はクッタラ火山起源のKt-b1とのみかたもある。このSpf1の風成

二次堆積物の中間ほどに、約28,000年前とされる羊蹄第3軽石・スコリア層Y₀、Ps-3が点在するところもある。この上を厚さ1.5～2mと厚く覆うのが約13,000年前の志庭岳起源の降下軽石En-a(En-P)である。さらに直上にこの風化ローム層であるEn-Lが20～30cm堆積している。この上は厚さ5～10cmの暗褐色粘質腐植土(漸移層)、5～15cmの黒色粘質腐植土(第Ⅱ黒色土層)とあり、これを2,000～2,500年前の樽前山起源の降下岩片Ta-clが約10cm厚で覆っている。この上に10～15cmの黒色粘質腐植土(第Ⅰ黒色土層)が発達する。この腐植土層中には10世紀前葉の白頭山起源のB-Tmの薄層が窪みなどに点在する。第Ⅰ黒色土層を厚さ30～50cmで覆うのが1739年降下のTa-a(樽前山起源の降下軽石)で約10枚のフォールユニットで成っている。

道路用地になる以前は、アンカリト-7遺跡は主に畑地として利用されており、アンカリト-9遺跡は一部耕作放棄され荒地となっている部分はあるものの、ほとんどは未開墾の林で、戦時中の掩体壕が2基存在した。樹木は落葉広葉樹と針葉樹の混交で、コナラ・ヤチダモ・オニグルミ・ヤマグワ・タラノキ・ヤマブドウ・ヤナギ・エゾマツ・イチイなどがみられた。調査中、掘削排土にはキタキツネの足痕がマークされ、糞も確認できた。表層の窪み等にはアオダイショウ・シマヘビが生息していることがあり、林辺ではエゾリスやノネズミも目視された。上空には常にノスリ・トンビが飛翔回っていた。祝梅川では現在魚影等は確認できないが、低地帯の長都沼には、ワカサギ・フナ・コイ・エビなどが生息していた。また水鳥も多く、キジ・ガン・カモ・ハクチョウ・ツルなどが飛来生息していた。長都沼と連結する千歳川水系はサケの上る川で、ウグイなどの魚も大量に生息している。

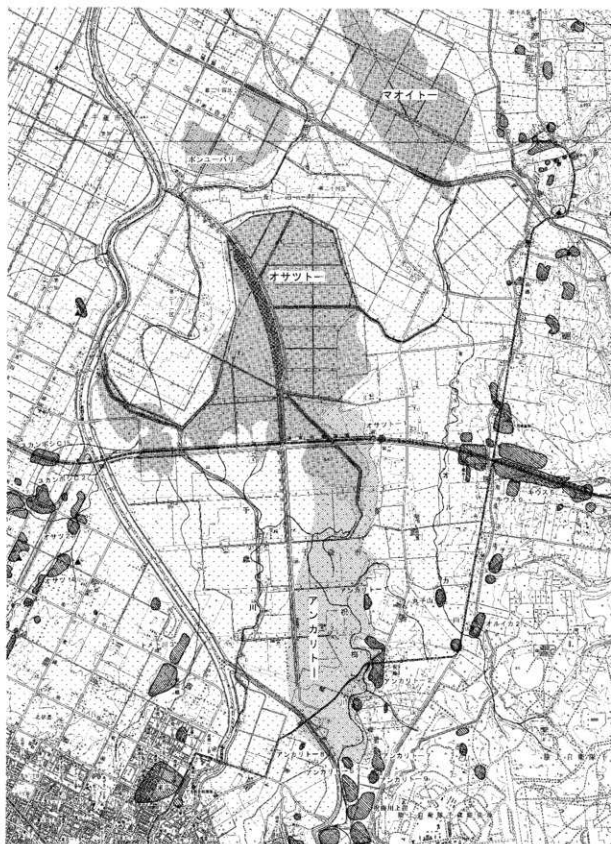
前述した遺跡北西側の低湿地帯は、現在は治水と土地改良等を目的とした昭和26～44年(1951～1969)の国営灌漑排水事業やその後の圃場整備事業・土地改良事業によって、沼や低地の干拓・埋め立て、河川や水路の整備・直線化が行われ、地下および表層の水位が低下し、水田や畑地として利用されている。祝梅川も遺跡南西1km強の地点から直線化が図られ、現在は緩やかなカーブで改修された千歳川に結合されている。

(3) アンカリト- (アンカリ沼) について

アンカリト-は、前掲したように松浦武四郎の記録では、「アンカリトウ」：川、「アンカリ沼」、「アガリト」：ヌタブ、「アガリト」：小川、「アガリトウ」：沼の一部と様々な地形で表わされている。位置はほぼシユクハイ(祝梅川)の東側ととらえられる(『廻浦日記』では西側にあたる)。「トウ：沼」という表現と、「蘆荻の生繁りたる」状況、川中の狭い小川とされていること、実際に明治の中頃まではあったという証言、これらからは、溢水期には水が張って沼となり、少水期には小川として流れている、長都沼に連続する滞水湿地帯のイメージが浮かび上がる。

先に挙げた長見義三『ちとせ地名散歩』での「祝梅の天理教会の方から」の道は現国道337号の千歳市街から中央地区へ向かう方向、「東部隊の方からの道路」は陸上自衛隊東千歳駐屯地脇を通過して中央地区へ至る市道祝梅2号道路である。この2本の道が「中央側で合するあたりから低地になる」ところが「この沼」で、現在の中央地区の南端部を指している。しかし『増補千歳市史』の「切り替え祝梅川の橋付近」は、根志越386付近の現国道337号の祝梅橋であるから、先に示された位置よりも2kmほど南西にあたり、同じ位置を示しているとは思えない。

榊原正文は『データベース アイヌ語地名3 石狩Ⅱ』(2002 北海道出版企画センター)「Ⅲ.2. I. a. 旧長都沼沿岸 IS-4005」でアンカリト-を取り上げ、「アンカラト」と表記、音などから地名解は「鷺取小屋・作る・沼」説を支持した。位置は武四郎の記述などから、「旧長都沼のうち、“タンネエンルム”の南東部にあたる入江状の滞水部を指す」とした。



この図は、国土地理院発行の二万五千分の一地形図、「南長沼」(平成元年修正)・「長都」(平成3年修正)を1/50,000に縮小複製し、加筆したものである。

図Ⅱ-3 アンカリトの位置想定図

明治期の陸軍陸地測量部製版の「北海道假製五万分一図」には、明治29(1896)年の『長都』と明治43年改版の『漁』ともに「アンカリ沼」の表示はない。ただ「シユクハイ川」「シクハイ川」が長都沼の東南の入江に流れ込んでおり、後者の地図では「シクハイ川」や千歳川の周囲は長都沼までほぼ全城が湿地帯となっている(図Ⅱ-2)。のちに「ネシコシ原野」と呼ばれた土地である。

これらの情報を総合的に判断すると、長都沼の東南の入江は溢水期にはさらに南に広がり、現在の中央地区南端や根志越地区まで滞水していたものとみられる。流れ込んでいる川は祝梅川で、少水期にはこの滞水帯が祝梅川の続きとして流れていたのであろう。この東南の入江と南に広がる滞水帯をして「アンカリ沼・アンカリト」と呼称したものと考える。図Ⅱ-3は、今は灌漑排水・圃場整備・土地改良事業で干拓・埋め立て・河川や水路の整備・直線化が行われ農地として利用されている当該地に、旧湿地帯周辺に現存する遺跡をプロットし、過去情報を含めて「アンカリ沼」の位置復元を試みたものである。

では、「アンカリ沼」を形成する祝梅川の「シクハイ」の地名解はどうか。『北海道蝦夷語地名解』では「シユクパイ 生長シタル蕁麻」、『ちとせ地名散歩』や『増補千歳市史』では「sukup-pay 成長した・イラクサ」、『データベース アイヌ語地名3 石狩Ⅱ』の踏査・検討で「スクハイウシナイ 成長する・(エゾイラクサの)繊維・群在する・川」などいずれも類似した意味に解されるが、川や湿地帯が特に意識されたものではない。これはアンカリトの地名解も同様であった。この中にあって長見義三は全く別の語源があったのではないかと疑い、『ちとせ地名散歩』で前説のあとに「シコツバイエ(シコツへ行く)がなまった場合(略)古夕張川のため長都沼が増水すると祝梅川は逆流してムムセあたりから千歳川(シコツ)へぬけるようなことがあったのかも知れない。」と例を示した。これがまさにアンカリ沼の姿ではないだろうか。

アンカリトやシユクパイは地名として類例が少なく、別解釈ができる余地がある。アンカリトでは「an-kar-to ワシ捕り小屋・をつくる・沼」として「kar:作る」と解されているが、音は「カル」で、武四郎以来伝えられてきたアン「カリ」ではない。前掲の知里真志保『地名アイヌ語小辞典』には「kari」:「まわる:通う」とあり、さらに「an」には「われらの:われらが」といった意味がある。「an-kari-to」:「われらが・通る・沼」と水上通路としての存在を意識すると、近年の当センターの調査で明らかになりつつある近隣のコタンや道跡、チブニー2遺跡・オルイカ1遺跡・オルイカ2遺跡・アンカリト7遺跡・祝梅川上田遺跡・梅川4遺跡*それぞれや、美々越え・コムカラ越え・日本海側への交通路としての地域の姿が想像される。そういった意味では、長見の「シクハイ」=「シコツバイエ(シコツへ行く)」説も千歳との交通路の意と考えてもよいかも知れない。

* 近年のコタン調査の成果は、

チブニー2遺跡	2003年調査	北埋調報207	『千歳市チブニー2遺跡2』
オルイカ1遺跡	2002年調査	北埋調報188	『千歳市オルイカ1遺跡』
オルイカ2遺跡	2002年調査	北埋調報189	『千歳市オルイカ2遺跡』
	2004年調査	北埋調報221	『千歳市オルイカ2遺跡2』
アンカリト7遺跡	2008年調査	当報告	
祝梅川上田遺跡	2006年調査	北埋調報238	『千歳市祝梅川上田遺跡・梅川2遺跡』
	2008年調査	整理作業中	『調査年報21』参照
梅川4遺跡	2007・2008年調査	整理作業中	『調査年報20』・『調査年報21』参照

(三浦 正人)

2. 周辺の遺跡

平成21年度現在、千歳市内には285か所の遺跡が登録されている。新千歳空港、北海道横断自動車道、国道337号建設など開発が多いこともあり、建設工事用地内の遺跡が数多く調査されている。遺跡周辺では国道337号建設に伴い祝梅川上田遺跡・祝梅川小野遺跡・梅川4遺跡など祝梅川水系の遺跡が広範囲にわたって調査されている。ここでは周辺の遺跡の表と図を作成し(図Ⅱ-4・表Ⅱ-1～3)、主に発掘調査が行なわれた周辺の遺跡について記述する。

旧石器時代

古砂丘に立地する丸子山遺跡(68)では恵庭a降下軽石層の上下から遺物が出土している。下層は約2万年前と推定でき、黒曜石製のスクレイパーの他は定形なものに乏しい。上層は忍路子型の細石刃核を伴う石器群である。祝梅川上田遺跡(50)では平成20年度調査(未報告)を含めると札滑型・峠下型・忍路子型の細石刃核を伴う石器群と考えられる石器ブロックが5か所検出された。キウス5遺跡(93)(平成18・19・21年度調査区未報告およびC地区)では忍路子型細石刃核を伴う石器群が4か所検出され、対岸のキウス9遺跡では少量ながら広郷型細石刃核を伴うブロックが確認された。またキウス7遺跡(265)では峠下型細石刃核石器群が出土している。

縄文時代

早期：キウス4遺跡(92)では東銅路Ⅲ～Ⅳ式期の竪穴住居跡、キウス5遺跡では噴式・東銅路Ⅲ式期・コッタロ式期の竪穴住居跡、キウス9遺跡では東銅路Ⅲ式期の竪穴住居跡がそれぞれ検出されている。特にキウス5遺跡では貝殻条痕文土器・東銅路Ⅲ式・コッタロ式期の遺物が多数出土している。キウス7遺跡からはコッタロ式期の住居跡と土坑墓がみついている。またキウス4遺跡・キウス5遺跡・キウス9遺跡からは石刃鎌が出土している。このうちキウス9遺跡では92点とまとまった数の石刃鎌が包含層から出土している。

前期：綱文土器期の竪穴住居跡がキウス4遺跡の低位段丘面、キウス5遺跡で検出されている。またキウス4遺跡では花積下層式、静内中野式期の土器が出土している。

中期：オリカ2遺跡(280)で天神山式期の竪穴住居跡がみついている。キウス5遺跡のキウス9遺跡対岸地区(平成15・16・18～21年度調査区未報告)では萩ヶ岡式から柏木川式期の住居跡、土坑が多数みついている。

後期：余市式、タップコブ式の竪穴住居跡、土坑がキウス4遺跡・キウス5遺跡A地区・キウス7遺跡・オリカ1遺跡(88)などでみついている。

手稲、鮭淵式期はキウス5遺跡A地区・キウス7遺跡で竪穴住居跡や埋塞などが検出されている。堂林式期はキウス4遺跡・キウス周堤墓群で周堤墓が多数確認されている。キウス4遺跡では同時期の住居跡、掘立柱建物跡、盛土遺構、道跡、水場遺構などが確認され、大量の遺物が出土している。

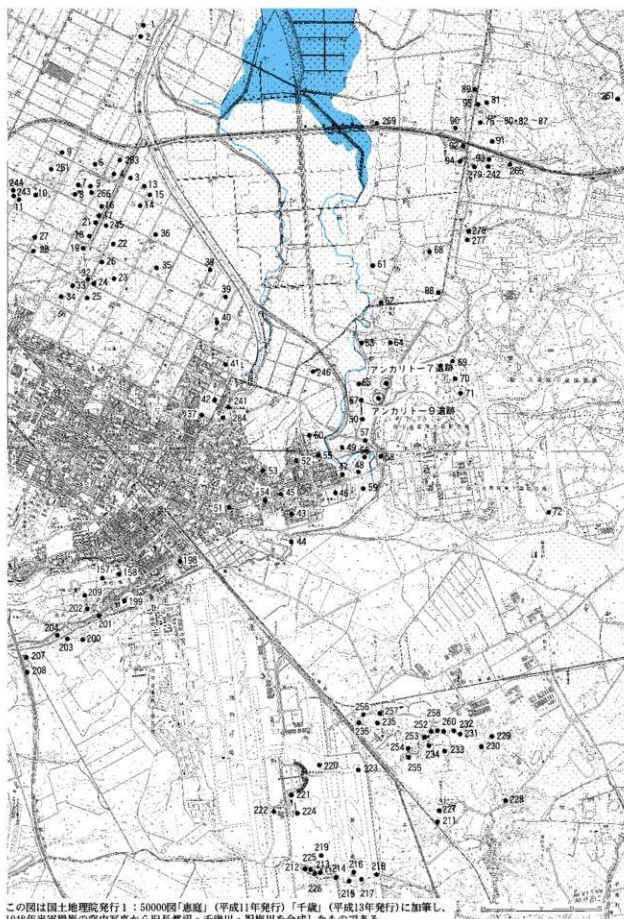
晩期：キウス5遺跡A地区・キウス7遺跡・梅川4遺跡でタンネトウL式期の土坑墓が多数確認されている。

統縄文時代

キウス5遺跡・キウス7遺跡で大狩部式期の竪穴住居跡や後北C₂-D式期の土坑が検出されている。トメト川3遺跡では、後北C₂-D式と天王山系土器が入った土坑がみついている。全体に検出例は少ない。

擦文文化期

未広遺跡では100軒以上の竪穴住居跡、鍛冶遺構、土坑が検出されている。丸子山遺跡において8世紀頃と推測される集落跡が確認されている。キウス9遺跡では8世紀後半の集落跡が検出され、鍛



この図は国土地理院発行1：50000図「恵庭」（平成11年発行）「千歳」（平成13年発行）に加筆し、1948年米軍撮影の空中写真から旧長都沼・千歳川・祝梅川を合成したものである。

図Ⅱ-4 周辺の遺跡

表Ⅱ-1 周辺の遺跡一覧(1)

No.	遺跡名	種別	時期	発掘調査等概要
1	カリンバ	集落跡	弥文	釜加のチャシ跡に接する南側斜面に数個の竪穴があったという。『千歳遺跡』
2	釜加のチャシ跡	チャシ跡	アイヌ	1965年調査。丸岡利夫・石川龍『千歳遺跡』p116~124 (図録:釜加)
3	ユカンボンシC	墳墓?	弥文、アイヌ	土坑塚集落。表没直方。
4	ユカンボンシC2	集落跡	弥文早~晩期、弥文、アイヌ	1988・89年千歳市教委調査。弥文住居跡、アイヌ文化期独立柱。1993年非遺文調査・2000年調査。縄文早期住居跡。
5	ユカンボンシC3	集落跡	弥文	1990年千歳市教委調査。弥文住居跡。
6	ユカンボンシC4	集落跡	弥文	
7	ユカンボンシC5	集落跡	弥文、アイヌ	1990・91年千歳市教委調査。弥文住居跡、アイヌ文化期独立柱。
8	ユカンボンシC6	集落跡	弥文後期、弥文、アイヌ	1990年千歳市教委調査。縄文~アイヌ文化期。
9	ユカンボンシC7	集落跡	弥文	
10	ユカンボンシC8	集落跡	弥文後期、弥文、アイヌ	1991年千歳市教委調査。縄文、弥文住居跡、アイヌ文化期独立柱。
11	ユカンボンシC9	集落跡	弥文中期、弥文	1995年非遺文調査。
13	オサツ1	集落跡	弥文、アイヌ	
14	オサツ2	集落跡	旧石器・縄文、弥文、アイヌ	
15	オサツ3	集落跡	旧石器	
16	オサツ4	遺物包含地	縄文中~後期	
17	オサツ5	集落跡	縄文中期、弥文、アイヌ	
18	オサツ6	遺物包含地	縄文	
19	オサツ7	遺物包含地	弥文	
21	長都チャシ跡	チャシ跡	アイヌ	
22	イヨマイ1	集落跡	弥文	
23	イヨマイ2	遺物包含地	縄文後~晩期	
24	イヨマイ3	集落跡	弥文	
25	イヨマイ4	集落跡	縄文中~晩期、弥文	
26	長都田中	集落跡	弥文	
27	シマコツナイ1	遺物包含地	縄文中期	
28	シマコツナイ2	遺物包含地	縄文中~後期	
32	ウラボシシマコツナイ	集落跡	弥文	
33	ウラボシシマコツナイ	集落跡	弥文	
34	カマクランナイ	集落跡	弥文	
35	都	集落跡	縄文晩期、アイヌ	
36	都のチャシ跡	チャシ跡	アイヌ	タンネットW1式土器。 円形塚。1966年調査。『千歳遺跡』p124~126。『北海道のチャシ』7 (図録:都)
37	未定	集落跡	縄文中~後期、続縄文、弥文、アイヌ	1968年石川龍。1979年~1981・1984・1992千歳市教委調査。縄文中期後期都の竪穴住居。縄文後期晩土遺跡・岡塚集。アイヌ期の住居跡、竪穴・弥文期土器。No.1。根志越2遺跡と合体。(図録:根志越C)
38	トスト川1	集落跡	弥文	竪穴2棟確認。
39	トスト川2	集落跡	続縄文、弥文	段段において竪穴13軒が認め、(図録:根志越C)
40	トスト川3	集落跡	縄文早~中・後期、続縄文、弥文、アイヌ	2001・2002年千歳市教委調査。(図録:根志越B)
41	根志越1	集落跡	弥文	かつて13軒の竪穴が見られたが、現在は草むしりされている。消滅。
42	祝庵上層	遺物包含地	旧石器	1972・1973年古崎昌一調査。縄石刃剣を含むブロック。
43	祝庵中層	遺物包含地	旧石器	「三角山地点」。1973年古崎昌一調査。ナイフ形石刃ほか。
45	祝庵三角山D	集落跡	縄文中~晩期、続縄文、弥文、アイヌ	1977年千歳市教委調査。縄文期竪穴住居5軒。
46	祝庵川	集落跡	縄文晩期、続縄文、弥文、アイヌ	千歳市における埋蔵文化財は、アイヌ期カワシシユガあり。
47	祝庵川矢島	遺物包含地	縄文後~晩期、続縄文、弥文	タンネットW1式が主体。
48	祝庵川小野	遺物包含地	縄文早~晩期、弥文、アイヌ	2007・2008年非遺文調査。縄文時代晩期土坑跡。縄文期竪穴。アイヌ文化期
49	祝庵川山田	遺物包含地	縄文中~晩期、続縄文、弥文	内耳鉄器。1999年千歳市教委発掘調査。竪穴住居2軒。
50	祝庵川上田	遺物包含地	旧石器、弥文、弥文、アイヌ	2006・2008年非遺文調査。アイヌ期住居跡。縄石刃ブロック
52	メボシ川1	集落跡	縄文中~晩期、弥文	消滅。(図録:祝庵C)
53	メボシ川2	集落跡	旧石器、縄文早~晩期	1981年千歳市教委調査。縄石刃剣を含むブロックほか。
54	メボシ川3	集落跡	弥文	
55	祝庵竪穴	集落跡	弥文、アイヌ	1973年石川龍。調査。竪穴住居4軒。鉄製品。古銭(正徳元寶)出土。
56	梅川1	遺物包含地	弥文	
57	梅川2	遺物包含地	縄文中~晩期、弥文、アイヌ	2006年非遺文調査。アイヌ期平土住居跡。遺跡(図録:祝庵B)
58	梅川3	集落跡	弥文後~晩期、弥文、アイヌ	1985年千歳市教委調査。竪穴住居16軒。風10基(アイヌ期3基含む)。
59	梅川4	墳墓	縄文後~晩期、続縄文、弥文、アイヌ	1993~2000年千歳市教委調査。弥文、アイヌ期土坑墓。住居跡。2006・2007・2008年非遺文調査。縄文時代晩期土坑群(図録:祝庵B)
60	メスセ	集落跡	弥文	竪穴住居跡が1軒みられたという。
61	アンカリーター1	遺物包含地	縄文晩期	石の土間に土器が埋まっていたという。
62	アンカリーター2	集落跡	縄文後~晩期、続縄文、弥文	竪穴住居跡が1軒みられた。
63	アンカリーター3	墳墓	縄文晩期、続縄文、弥文	鉄製品出土。
64	アンカリーター4	遺物包含地	縄文後期	
65	アンカリーター5	集落跡	縄文中~晩期、続縄文、弥文	航空写真判読で9個の竪穴状マーク観察。
66	アンカリーター6	集落跡	縄文中期、続縄文、弥文	無名沢入んに北に2軒。南に4件の竪穴がみられる。
67	アンカリーター7	集落跡	旧石器・縄文早中、続縄文、アイヌ	当報告 2008年非遺文調査。
68	丸石山	集落跡	旧石器、縄文、弥文	1990~1993年千歳市教委調査。縄石刃剣を含む旧石器ブロック。瓊瑤集落、岡塚集落。弥文期の竪穴。消滅(図録:丸石山)
69	丸石集1	集落跡	弥文	南長沼用水南側に竪穴住居があったという。
70	丸石集2	遺物包含地	縄文後~晩期、弥文	動物形土製品が出土したという。
71	ピョニツクエリア	集落跡	弥文	
72	トアナム	竪穴住居跡	弥文	オールの土間に土器が埋まっていたという。
76	キウス1号覆土土層	冨塚集	縄文後期	1964年丸岡利夫・石川龍。調査。土坑墓5基。立石あり。1979年国指定史跡
77	キウス2号覆土土層	冨塚集	縄文後期	1965年丸岡利夫・石川龍。調査。配石のある土坑墓あり。土坑出土。1979年国指定史跡
78	キウス3号覆土土層	冨塚集	縄文後期	1979年国指定史跡
79	キウス4号覆土土層	冨塚集	縄文後期	1965年丸岡利夫 外周部調査。西側に開口部をもつ。1979年国指定史跡
80	キウス5号覆土土層	冨塚集	縄文後期	西側に開口部をもつ。1979年国指定史跡
81	キウス6号覆土土層	冨塚集	縄文後期	1979年国指定史跡
82	キウス7号覆土土層	冨塚集	縄文後期	1950年河 岡野広道・石塚義典調査。

表Ⅱ-2 周辺の遺跡一覧(2)

No.	遺跡名	種別	時期	発掘調査等
82	キウス8号環状土牆	周垣墓	縄文後期	全壊?1987年遺跡委託発掘確認による1988年発掘調査。
83	キウス9号環状土牆	周垣墓	縄文後期	全壊?1987年遺跡委託発掘確認による1988年発掘調査。
84	キウス10号環状土牆	周垣墓	縄文後期	全壊?1987年遺跡委託発掘確認による1988年発掘調査。
86	キウス11号環状土牆	周垣墓	縄文後期	土牆が崩壊されている。1979年国指定史跡
87	キウス12号環状土牆	周垣墓	縄文後期	2号・5号周垣墓に覆われている部分が大さい。1979年国指定史跡
88	オウイカ1	集落跡	縄文中・後・晩期、アイヌ	2002・2003年非遺理文調査(名称:キウス13号環状土牆) マウンド状の遺構2ヵ所があったという。1964年大場利夫・石川徹、発掘調査。 住居跡1軒。
89	キウス1	集落跡	縄文後・晩期、続縄文	航空写真によるゾルマーグ
90	キウス2	周垣墓	縄文後期	
91	キウス3	遺物包含地	縄文後期	
92	キウス4	周垣墓・集落跡	縄文前・前・後期、縄文	1991、1995～1998年非遺理文調査。1995千歳教委調査。縄文前～前・中・後期住居跡、周垣墓、盛土遺構、水場遺構、木製品
93	キウス5	集落跡・墓・低埋部ほか	縄文前～晩期、続縄文、縄文、アイヌ	1994～1998年非遺理文調査。1997千歳教委調査。各期住居跡・土坑、Tビットほか。縄文中期以降の権利、木製品。2003・2004・2006年非遺理文調査。土器子ブロック、縄文時代中期集落、土坑墓、土坑、縄文集落、近世遺跡、木製品。
94	キウス川	遺物包含地	縄文後期	
95	中央日屋	遺物包含地	縄文後・晩期	キウシ川右岸段丘
102	ケネフチのチャシ	チャシ跡	アイヌ	1935年原田二郎・近藤義男踏査。泉郷神社境内。面層式。
103	トブナイ1	遺物包含地	アイヌ	舟釘状鉄製品
104	トブナイ2	遺物包含地	縄文中・後期	
106	イカベツ1	遺物包含地	続縄文	後北C式
107	イカベツ2	遺物包含地	縄文前・後・晩期、縄文	縄文、空林、タンネトウ1式
108	ケネフチ1	遺物包含地	縄文早期	中基路式
109	ケネフチ2	遺物包含地	縄文後期	
110	ケネフチ3	遺物包含地	縄文前・晩期、縄文	
111	ケネフチ4	遺物包含地	縄文中期	
137	フレドイビのチャシ跡	チャシ跡	アイヌ	
158	千歳神社	集落跡	縄文	
198	ママチ川丸木舟	遺物包含地	アイヌ	丸木舟(長さ約7.3m、幅約0.5m)
199	ママチ高台	集落跡	続縄文後平期、縄文	
200	ママチゴルフ場	遺物包含地	縄文前～中期	
301	ママチ	墳墓	縄文中～晩期、続縄文、縄文	1981・1982・1985・1986年非遺理文調査。縄文住居跡、縄文晩期土坑墓。国指定土製版。
202	ママチ2	集落跡	縄文	
203	ママチ3	集落跡	縄文	
204	ママチ4	集落跡	縄文	
207	平和1	遺物包含地	縄文前・前・中・晩期	
208	平和2	遺物包含地	縄文	
209	青森公園	遺物包含地	縄文中・晩期	
211	美々貝塚	貝塚	縄文前期	
212	美々2	集落跡	縄文晩期	1984・85年非遺理文調査。縄文晩期住居跡。
213	美々3	集落跡	縄文前・中・後・晩期	1986・1989～1991年非遺理文調査。縄文晩期土坑。縄文後期初頭住居跡
214	美々4	集落跡	旧石跡。縄文中～晩期	1980・1983～1985年非遺理文調査。縄文後期～晩期土坑墓群。周垣墓。
215	美々5	集落跡	縄文前～晩期	1979・1980・1984年非遺理文調査。縄文前期集落。周垣墓。足型付土製品。
216	美々6	溝穴遺構	縄文前・前・後・晩期	1980年非遺理文調査。Tビット。
217	美々7	集落跡	縄文早期。オモツク。アイヌ	1980・1991・1992年非遺理文調査。足型付土製品。アイヌ文化層土坑墓。
218	美々8	集落跡	縄文前～晩期、続縄文前～後平期、縄文、アイヌ	1981・1982・1985・1987・1989～1993年非遺理文調査。低埋部調査。縄文住居跡。アイヌ文化層集落。木製品。
219	美々9	遺物包含地	縄文後～晩期	1983年非遺理文調査。Tビット。
220	美々10	遺物包含地	不明	
221	美々11	遺物包含地	不明	
222	美々12	遺物包含地	不明	
223	美々13	遺物包含地	不明	
224	美々14	遺物包含地	不明	
225	美々15	遺物包含地	不明	
226	美々16	遺物包含地	不明	
227	美々貝塚北	貝塚	縄文前期	1993～2000年千歳教委調査。縄文時代前期住居跡、盛土遺構
228	パンケビ1	集落跡	縄文前・前・中・晩期	
229	パンケビ2	集落跡	縄文	
230	パンケビ3	集落跡	縄文	
231	パンケビ4	遺物包含地	縄文	
232	パンケビ5	集落跡	続縄文前平期	
233	パンケビ6	集落跡	縄文	
234	パンケビ7	遺物包含地	縄文、縄文	
235	パンケビ8	集落跡	縄文	
236	パンケビ9	遺物包含地	縄文	
241	根止遺3	遺物包含地	アイヌ	丸木舟(長さ約7m、幅約0.6m)
242	キウス6	遺物包含地	縄文晩期	
243	ユカンボンC11	遺物包含地	縄文後期	
244	ユカンボンC12	遺物包含地	縄文後期	1992年千歳教委調査。縄文後期?の土坑群。
245	オオツウ	遺物包含地	縄文中～後期	
246	アンカリトール8	遺物包含地	縄文晩期	タンネトウ1式
251	ユカンボンC13	遺物包含地	縄文中～後期	1991年千歳教委調査。縄文前期～続縄文。
252	パンケビ10	遺物包含地	縄文早期	
253	パンケビ11	遺物包含地	縄文中期	
254	パンケビ12	遺物包含地	縄文中期	
255	パンケビ13	遺物包含地	縄文中期	
256	パンケビ14	遺物包含地	縄文中期～晩期	1995年千歳教委調査。縄文中期住居跡。晩期住居跡。

表Ⅱ-3 周辺の遺跡一覧(3)

No.	遺跡名	種別	時期	発掘調査等
257	パンケビ15	遺物包含地		
258	パンケビ16	集落跡		
259	ユカノンシC14	遺物包含地		
260	パンケビ17	遺物包含地		
261	ケヌフチ6	集落跡	縄文早期、縄文	コッタロ、中基路、東廻路式、堅穴住居1軒。
263	ユカノンシC15	遺物包含地	縄文早～晩期、続縄文、縄文、アイヌ	1996～1998年並道埋文センター調査。縄文時代中・後期住居跡・土坑、縄文初期の周溝のある墓と土坑墓。低湿度性～アイヌ陶製品。
265	キウス7	集落跡・墓ほか	旧石器、縄文早・中・後・晩期、続縄文、縄文、アイヌ	1993～1998年並道埋文センター調査。縄文早期・後期集落、晩期土坑、旧石器ブロック。
266	オサツ10	集落跡	縄文中・後期、縄文中期	
269	オサツトール1	遺物包含地	縄文早・中・後・晩期、アイヌ	1993年並道埋文センター調査。アイヌ期墓2基。
274	柏台1	遺物包含地	旧石器	1997・1998年並道埋文センター調査。燧石刃先を含むブロック、伊路、磯群、コハク玉、赤色陶片関連遺物。
275	キウス8	遺物包含地	縄文中・晩期	一部開削。
277	チブニー1	遺物包含地	縄文後・晩期、縄文、アイヌ	2001年並道埋文センター調査。土坑、Tピット、アイヌ期地上・集石。
278	チブニー2	遺物包含地	縄文早・中～晩期、縄文、アイヌ	2001・2003～2005年並道埋文センター調査。アイヌ期土坑墓。
279	キウス9	遺物包含地	縄文早・前・後・晩、縄文、アイヌ	200年度並道埋文センター調査。北埋測線252、石刃器、縄文集落、給湯遺構、アイヌ期集落。
280	オルイカ2	集落跡	旧石器、縄文早・中・晩期、アイヌ	2002・2004年並道埋文センター調査。アイヌ期住居跡、湧別技法乳滑型石核を伴うブロック、2007年並道埋文センター調査。
283	アンカリトール9 遺跡	遺物包含地	縄文中期、戦争遺構	当報告 2008年並道埋文センター調査。南部分を境にアンカリトール7から分離
284	末広2	遺物包含地	アイヌ	

造構が確認されている。キウス5遺跡(平成15・16・18～21年度調査区未報告)では対岸のキウス9遺跡とほぼ同時期の堅穴住居跡が11軒検出されているほか、A地区では土坑外から鋳先が出土した土坑墓が検出された。またチブニー2遺跡でも鋳先や土器を伴う土坑墓が報告されている。このほか祝梅の遺跡群(46～55)・梅川の遺跡群(56～59)・トメト川の遺跡群(38～40)・アンカリトールの遺跡群(62～67)などこの時期の遺跡は多い。

アイヌ文化期

周辺ではキウス9遺跡・オルイカ2遺跡・チブニー2遺跡(278)・祝梅川上田遺跡・梅川2遺跡(57)・梅川4遺跡・トメト川3遺跡(40)・末広遺跡などで平地式居跡、建物跡、墓、送り場などが検出されている。特に祝梅川上田遺跡では中世から近世初頭と考えられる年代の50軒を超える建物跡が調査されている(平成18年度北埋238・平成20年度調査区未報告)。キウス5遺跡では太刀の副葬された墓塚がみついている。キウス7遺跡では沢づたいの道跡と柱跡群が検出され、ガラス玉も出土している。また畑跡がキウス5遺跡低位部で検出された。

近現代 炭炭跡がキウス4遺跡・キウス5遺跡・キウス9遺跡などで確認されている。(愛場和人)

3. アンカリトール9遺跡の掩体壕の概要

建設機械によるⅠ～Ⅳ層除去時に、大規模な盛土や落ち込み等、地形の人為的な攪乱が2か所認められた(図Ⅱ-5)。これらはⅡ層(Ta-a)を切って構築されており、1739年以降の時期と判断され、さらに近隣の土地所有者から「戦時中、戦車を格納した壕(戦車壕)」であるとの話を聞いた。千歳市域には昭和14年から旧日本海軍航空隊がおかれ、これに関わる構造物であると考えた。これら近・現代の遺構について北海道教育委員会の「埋蔵文化財の保護と発掘調査の円滑化等について」(平成13年4月16日教文第5005号)では、時期的に埋蔵文化財の調査の対象と定めていないが、千歳市域の「郷土史」や近年注目を集めている「戦跡考古学・戦争遺跡」の視点からは重要なものであると考え、通常の発掘調査に支障をきたさない範囲で調査したのでその概要を報告する。

掩体壕1(図Ⅱ-6・8～10 表Ⅱ-4・5・8～11 図版52～54)

位置: A～G-39～46区

規模: 調査区内: 25.8×5.50 / 1.70m 調査区外(盛土含む): 41.6×20.7 / 3.00m

確認・調査: 建設機械によるⅠ～Ⅳ層除去作業中、攪乱土による大規模な盛土と溝状の落ち込みが認められた。この地形は北西側調査区外へと連続し、南東側は攪乱により破壊されていた。調査区内にかかる盛土及び溝状部分に堆積していた攪乱土を除去した。当初、北海道教育委員会により行われた範囲確認調査（平成19年11月30日）では炭窯と推測されていた。調査はⅤ層上面から行い、始めに壕の本体部分の壁・床面及び溝を検出した。また調査区外に連続していたので、この部分で土層断面を記録した。次に付属する構造や杭穴についてそれぞれ調査した。

付属構造

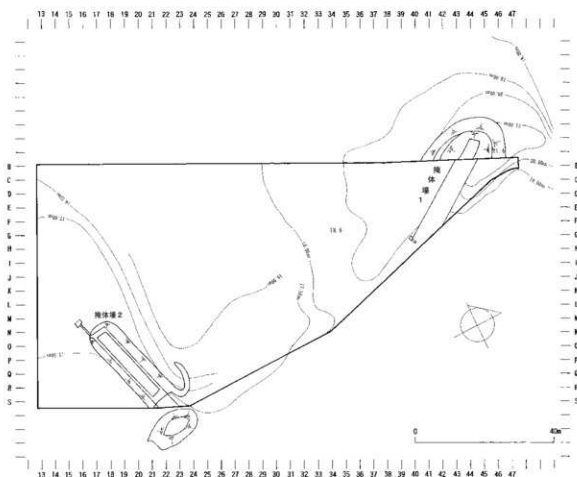
・付属構造 1 排水溝 0.86×0.92 / 1.12m

西側部分に位置し溝等の構造を伴う。内部には杭穴と木組みが確認され、覆土はⅡ層及びⅣ層の軽石を選択的に用いて埋め戻されたと推測される。

・杭穴

ph-1～17 約0.10・0.36 / 約0.45m

主に壁際に列状に位置する杭穴で一間（約1.8m）おきに規則的に配列する。ph-5・7・9はいわゆる掘り方を有する柱穴様と推測される。ph-9付近は轆と推測できうる溝状の落ち込みと重複して認められる。



図Ⅱ-5 アンカリート-9遺跡の現況図（掩体壕）

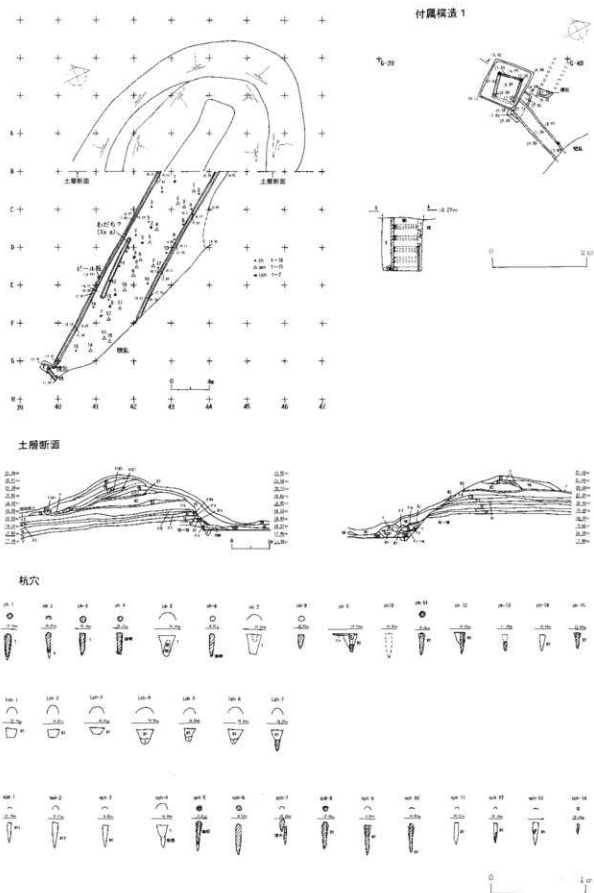
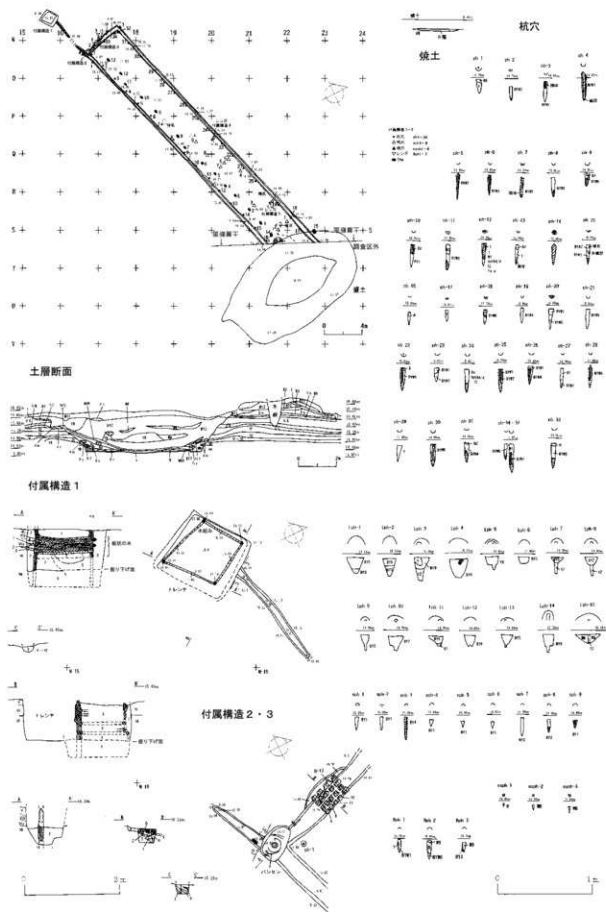


図 II-6 掩体壕 1



図Ⅱ-7 掩体壕 2

sph-1~15 約0.12 / 0.60m

塚の中心及びやや北側寄りで長軸方向に配列する。sph-4は掘り方を有する柱穴様であると推測される。

Lph-1~7 約0.38 / 0.14・0.30m

塚の中心よりやや南側寄りで長軸方向に配列する。3か所でひとまとまりを構成するように認められる。平面形態は楕円形を呈する。

出土品 杭や木組み等の構造物・ビール瓶・レンガ等が出土した。

掩体壕2 (図Ⅱ-7~10 表Ⅱ-4・6・8~11 図版52~54)

位置 : M~S-15~22区

規模 : 調査区内 : 31.4×4.50 / 2.20m 調査区外(盛土含む) : 37.2×15.8 / 4.00m

確認・調査 : 建設機械によるⅠ~Ⅳ層除去作業中、攪乱土が堆積する溝状の落ち込み(ハーフパイプ形状)が認められた。この地形は東側調査区外へと連続し、盛土が認められた。機械により溝状部分に堆積していた攪乱土を除去した。調査はⅤ層上面から行い、始めに塚の本体部分の壁・床面及び溝を検出した。また調査区外に連続していたので、この部分で土層断面を記録した。次に、付属する構造や杭穴についてそれぞれ調査を行った。S-21区付近には焼土と樹皮が認められた部分がある。

付属構造

・**付属構造1 排水溝** 0.86×0.92 / 1.12m

西側に離れて存在し、溝で塚の南西側部分とつながる。内部には杭穴と木組みが確認され、覆土はⅡ層及びⅢ層の軽石を選択的に用いて埋め戻したと推測される。最下層のWB層中、北側の角部分からは50本を超えるビール瓶等が多数出土した。構築時に廃棄物として意図的に埋め戻されたと推測する。

・**付属構造2 柱穴** 0.80×0.54 / 0.78m

塚の南西側角に位置し、溝を切って構築されている。直径15cm程度のやや太い柱と覆土が確認され、この柱を立てるために穴を掘り埋め戻したものと推測する。

・**付属構造3 レンガ組** 0.72×0.48m

塚の西側端部のほぼ中央に位置する。溝を掘った後構築されており、外側を弧状に浅く掘り下げていた。配置されるレンガは一つを除き、すべて割られたものが使用され、4×5個で構成される。人間の出入口と推測する。

・**付属構造4・5 レンガ**

塚の北側壁、P-20区及びR-21区にレンガが二個一組で存在するのが確認され、区画等の目的で意図的に配置されたと推測する。

・**杭穴**

ph-1~23 約0.10 / 約0.45m

主に壁際に列状に位置する杭穴で一間(約1.8m)おきに規則的に配列する。ほとんどのものに杭が残存していた。

sph-1~9 約0.12 / 0.60m

塚の短軸を切るように複数配列するもの(sph-1・2及びsph-5・6・7)と単独で塚の中心に位置するものに分けられる。

Lph-1~15 約0.38 / 0.14・0.30m

L p h-15は壕の外部に位置し、それ以外は中心よりやや南側寄りで長軸方向に連続して配列する。平面形態は楕円形を呈する。

Rph-1～3 約0.08 / 0.24m

壕の外部、付属構造3レンガ組付近に位置する。出入口の上部構造を支えるためのものと推測される。

ssph-1～3 約0.04 / 約0.10m

壕の西側端部、溝の外側壁付近に位置する。

出土品 杭や木組み等の構造材・ビール瓶・レンガ等が出土した。特に付属構造1（排水樹）からは多量に出土した。

掩体壕の出土品（図Ⅱ-8～10・表Ⅱ-8～11）

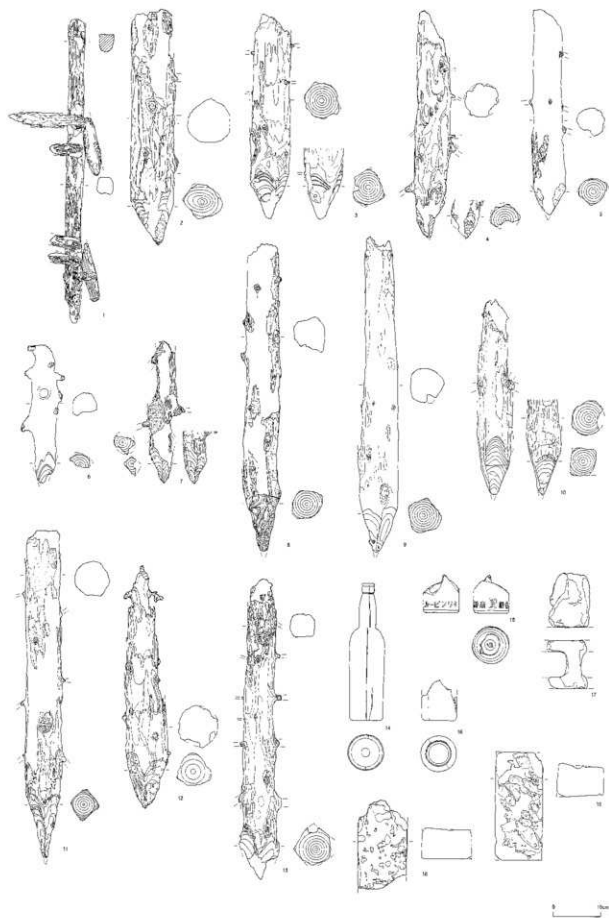
掩体壕1・2からは、木杭、レンガ、ビール瓶、認識票等が出土した。その総数を現場で集計し、選別して取り上げ、さらに選択したものを本報告書に掲載した。それ以外はすべて現地に廃棄した（表Ⅱ-5・6）。特に掩体壕2の付属構造1（排水樹）からは多量の出土品があり、54本（底部集計による）ものビール瓶等が出土した。

***掩体壕1の出土品**（図Ⅱ-8・9-1～23 縮尺 1～19:1/8 20～23:1/4）

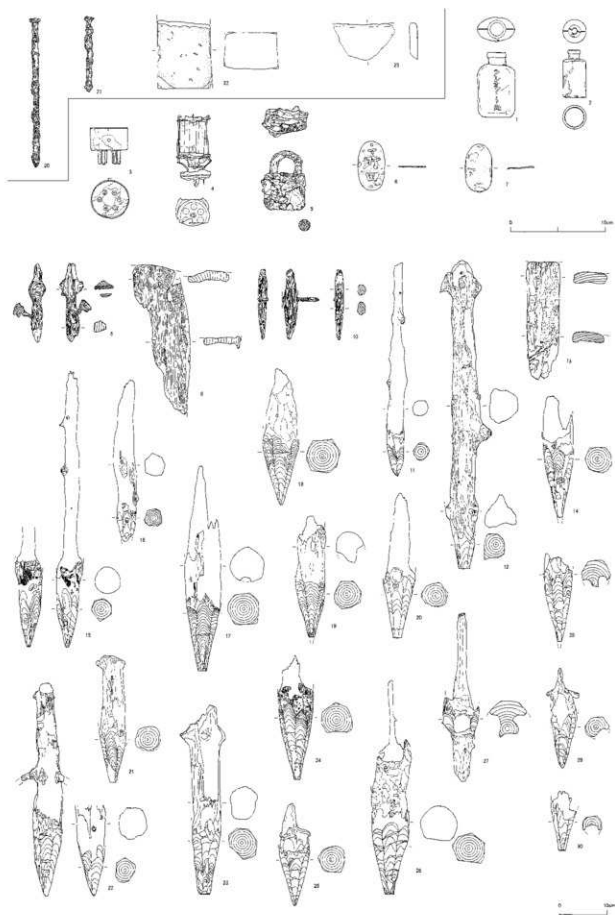
1は排水樹の木組みの一部である。釘を打ち込んで材を固定している。2～13は木杭で、先端部は鉛筆の先端の様に削って尖らせた加工がみられ、打ち込み易くする目的と考えられる。14～16はビール瓶で15は「キリンビール」の商標がみられる。17はブロックで、18・19はレンガである。19は製作時に生じた指の痕跡が認められる。20・21は釘、22は泥岩製の砥石、23は碇^{（おし）}である。

***掩体壕2の出土品**（図Ⅱ-9・10-1～68 縮尺 1～7:1/4 8～68:1/8）

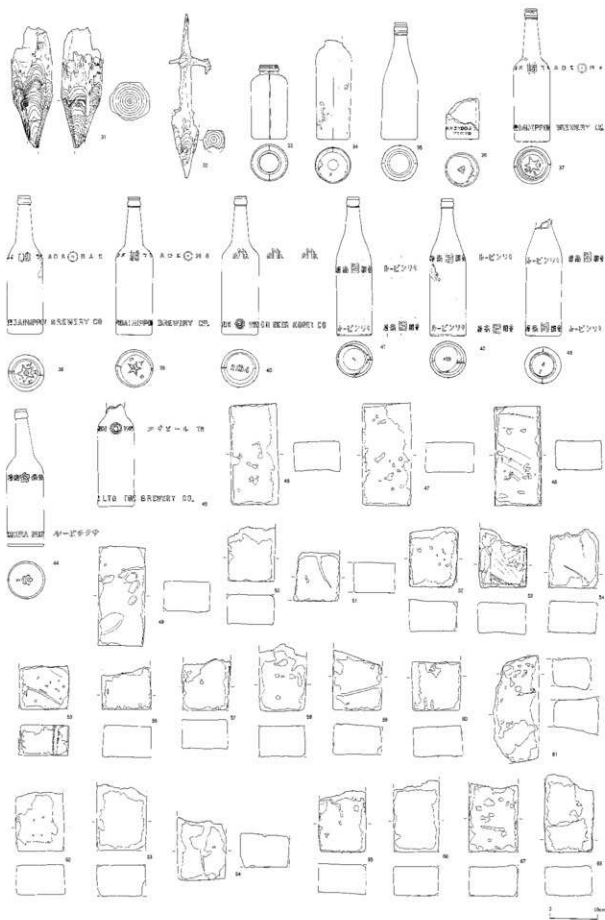
1・2は薬瓶で、1には「クレオソート丸」（止瀉薬）の商標が認められる。3・4は真空管である。5は南京錠で赤色顔料と繊維の付着が認められる。6・7は形状等から認識票（簡易瓶）と考える。6は上下に穿孔がみられ「マ 町田」の表記がある。7は穿孔も記入もみられない未使用品であると推測する。8～10は排水樹の木組みの一部で、9は板材である。13はL p h-4の覆土出土の板状の材である。11・12・13～32は木杭である。12・14・17・19・20等先端部が尖らず平坦になっているものも認められる。33は広口のガラス瓶で薬液用と推測される。34はビール瓶で、ラベル紙が付着するが判読できない。35は無色透明で清酒瓶と推測される。36～42・44・45はビール瓶で、43は緑色を呈するのでサイダー瓶と推測される。36は「KONDO」、37～39は「DAINIPPON BREWERY」（大日本麦酒）、40は「NIPPON BEER KOSEN」、41～43は「キリンビール」、44は「サクラビール」で注ぎ口が傾いている。45は「フジビール」で、それぞれ瓶そのものに商標が認められる。46～68はレンガで、多くのもに製作時の調整痕が認められる。46～49は完形で、二個一組で壕内部に配置されていた（付属構造4・5）。50～68はレンガ組（付属構造3）を構成していたもので、意図的に割られ用いられたと考える。
(末光正卓)



図Ⅱ-8 掩体壕出土品(1)



図Ⅱ-9 掩体壕出土品(2)



図Ⅱ-10 掩体壕出土品(3)

表Ⅱ-4 掩体壕の層位

発掘調査年度	発掘区画	発掘層	第Ⅰ期(1970年代) 遺構(2000年度)				第Ⅱ期(2000年度)				年代学的位置		
			発掘位置	構造	規模	形状	構造	規模	形状	構造	規模	形状	備考
1970年度	1号区画	1	1号区画	1号区画	1号区画	1号区画	1号区画	1号区画	1号区画	1号区画	1号区画	1号区画	1号区画
		2	2号区画	2号区画	2号区画	2号区画	2号区画	2号区画	2号区画	2号区画	2号区画	2号区画	2号区画
		10	10号区画	10号区画	10号区画	10号区画	10号区画	10号区画	10号区画	10号区画	10号区画	10号区画	10号区画

Ⅲ章 調査の概要

調査概要はアンカリトー7・アンカリトー9遺跡をまとめて記述する。遺跡名の明示がない場合は両遺跡についての記載である。

1. 調査の方法

(1) 発掘区の設定

現地調査の基本図は札幌開発建設部の「一般国道337号千歳市新千歳空港関連用地測量用地平面図1000分の1」を使用した。記載の本線車道中央線を南西-北東方向の基軸線とし、基軸線上のポイント「6100」を通り、南西-北東方向の基軸線に直交するラインを北西-南東方向の基軸線とした。ここから各方向に4mの方眼を設定し、アンカリトー7遺跡・アンカリトー9遺跡の調査範囲に網をかけた。南西-北東ラインにはアルファベットを振り、基軸線はMラインとした。北西-南東方向ラインは算用数字を振り、基軸線は30ラインとした。グリッドの呼称は「アルファベット-数字」の組み合わせで表される(図Ⅲ-1)。

この方眼の世界測地系に基づく平面直角座標系第Ⅱ形における主な座標値は、以下のとおり。

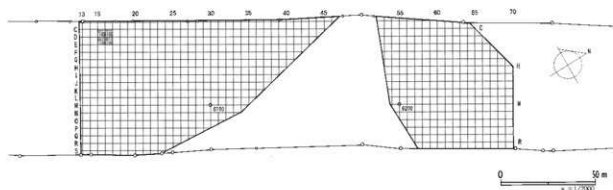
「6100」=M-30: X座標 -128265,853 Y座標 -45281,987

「6200」=M-55: X座標 -128180,117 Y座標 -45230,515

(2) 発掘調査の方法

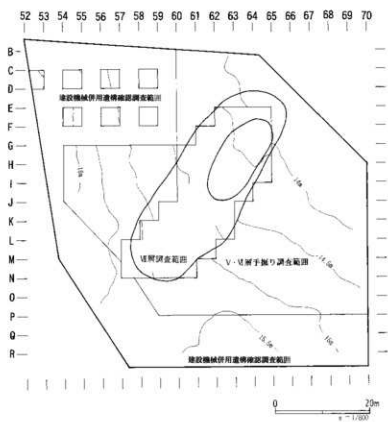
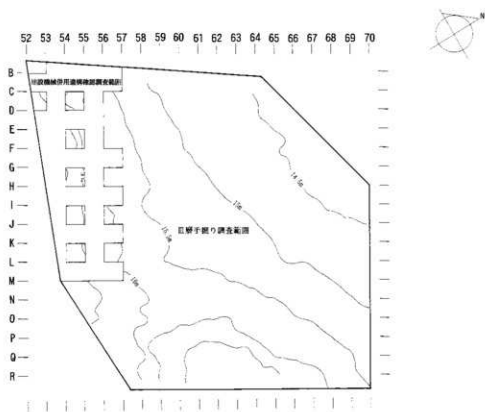
1) アンカリトー7遺跡

アンカリトー7遺跡ではⅢ層上面まで建設機械により耕作土、樽前a降下軽石層を除去した。畑の耕作による天地返しの影響がⅢ層面で広くみられ、一部Ⅳ層まで達するところもあった。Ⅲ層上面の

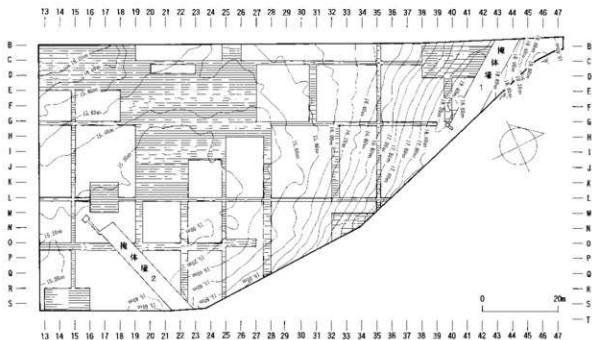


	15	16	17
C	C-15	C-16	
D	D-15	D-16	
E			

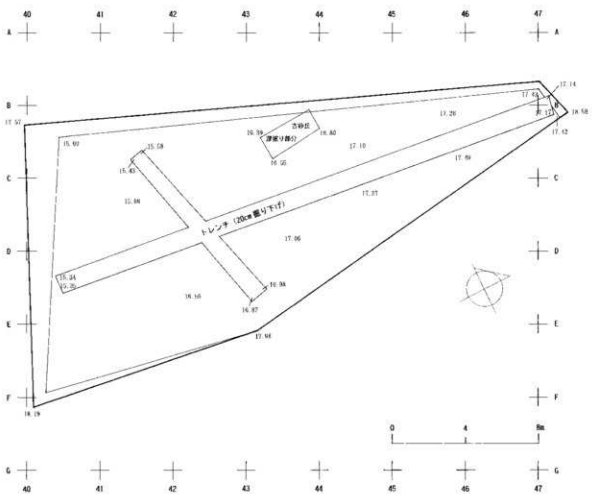
図Ⅲ-1 グリッド設定図



図Ⅲ-2 アンカリト-7 遺跡調査の方法



図Ⅲ-3 アンカリト-9遺跡包含層調査範囲



図Ⅲ-4 アンカリト-9遺跡旧石器確認調査範囲 (Ⅰ層)

地形測量後、25%調査を行った結果、緩斜面から平坦面にかけて遺構が広く分布することがわかった。当初計画では試掘調査の結果などから、Ⅲ層は45%程度手掘り調査を行い、それ以外は建設機械を併用した遺構確認調査をする予定であったが、斜面部以外をすべて手掘り調査に切り替えた。

Ⅲ層調査終了後、建設機械によりⅣ層(樽前c降下軽石・スコリア層)を除去した。Ⅴ層上面の地形測量を行い、引き続き25%調査を行った。これにより斜面裾野部分に旧石器集中が広く分布し、縄文時代の遺物はごく少ないことがわかった。このため旧石器集中から平坦面にかけて手掘り調査し、特に遺物の少ない調査区南東側、古砂丘側の斜面については建設機械併用の遺構確認調査とすることとした(図Ⅲ-2)。

また旧石器集中区は各グリッドでⅥ層上面～Ⅶ層中間の間で遺物が出土しなくなるまで掘り下げた。このためグリッドにより高低差をもって調査を終了している。最終地形面で地形測量を行い、メインセクションについては北東調査区境に設定した(図Ⅲ-6)。(愛場和人)

2) アンカリトール9 遺跡

アンカリトール9 遺跡はⅠ層(現地表土)からⅣ層を建設機械で除去し、Ⅴ層上面を露出させた。この時、後に掩体壕と判明する盛土等の攪乱土も除去した。その後グリッド杭を調査区に設置し、手掘り調査を開始した。発掘計画では調査区面積6,680㎡に対し、包含層土量の40%(面積2,627㎡)を手掘りで調査し、残りは建設機械で除去し遺構確認調査を行う計画であった。

最初にⅤ層上面を清掃し、状況を確認した。遺構の存在が予想された古砂丘上の段丘部(掩体壕Ⅰの北側部分)を調査し、土坑1基、焼土が2か所確認された。遺物の出土はわずかであった。

次に段丘下の斜面～平坦部を遺物の多い部分を把握することを目的とし、地形を考慮の上、幅1mの先行トレンチを設けⅥ層まで掘り下げた。遺構・遺物の有無を確認し、遺物が出土した部分を掘り広げるように展開した。実際は2,142㎡(古砂丘台地含まない)、3分の1ほどを調査し終えた段階で遺構や遺物の有無が概ね明らかとなった(図Ⅲ-3)。包含層調査では移植ゴテ等を用い、数cmずつ掘り下げて遺構や遺物の存在を確認しながら行った。旧石器が出土したグリッドはⅦ2層上面まで掘り下げた。

それから人力で調査した部分以外のⅤ・Ⅵ層を建設機械により除去し、Ⅶ層面を露出させた。この面を清掃し、遺構の可能性がある落ち込み等を半載及びトレンチにより遺構確認調査を行った。掩体壕や遺構の調査は包含層調査と並行させて行い、地形測量図はⅤ・Ⅶ層上面について作業の進行状況に合わせて随時作成した。

周辺遺跡の調査事例から古砂丘付近の恵庭a降下軽石層(En-a・Ⅶ層)下位のローム質土層より旧石器が出土する可能性を考えた。この古砂丘の裾部にあたる掩体壕Ⅰ付近を建設機械によりⅦ・Ⅷ層を除去し、下位のローム質土を露出させた。この層をⅧ1層としトレンチを設け、旧石器の有無を確認したが出土はなかった。さらに部分的に深掘りし、古砂丘の断面を確認した(図Ⅲ-4 図版55)。

以上の調査を行いアンカリトール9 遺跡は調査完了とした。(末光正卓)

(3) 整理の方法

1) 遺物の取り上げと一次整理の方法

一次整理は現地で水洗作業までを行い、それ以降の作業は11月から当センターの整理作業所で行った。

遺物は現場で「遺跡名・出土地点(遺構名・グリッド)・層位・遺物種別・遺物番号(出土位置記録のもの)・取り上げ日」の情報をビニール袋に記入し、これに遺物を入れて取り上げた。この袋は「水洗台帳」に登録し、一次整理作業の流れを管理した。水洗した遺物は乾燥後、この袋に再収納し、

運搬のため仮収納をした。

整理作業所では遺物の分類作業を行い、分類名・出土地点・層位等の遺物個別の情報を「遺物カード」を作成し、その遺物とともにそれぞれチャック付のビニール袋に収納した。これらは出土地点・遺物種別等ごとにコンテナに収納した。遺物カードの記載事項について手書きで一覧表（遺物登録台帳）を作成し、後にパソコンを用いExcel書式の文書として作成した。

接合作業を行う土器は、この情報の一部を直接遺物に注記した。内容は「ア7・ア9（遺跡の略号）・出土地点・層位・遺物番号」である。原則的にはすべてを注記の対象としたが、小破片等の記入するスペースが無いものは行っていない。

アンカリトー7遺跡の旧石器は微小なものを除いた全ての石器について注記作業を行った。引き続き器種分類、重量計測、石材、残存状況、原稜面・被熱の有無などの属性観察をし、遺物台帳の作成を行った。

注記は遺跡名の略号、石器ブロック名、遺物番号の順で行った。例えば、アンカリトー7遺跡の石器ブロック1（SB-1）の遺物番号101は、「ア7・SB1・101」となる。また石器ブロック外出土の遺物は、石器ブロック名の代わりに発掘区を注記したため、D-61区の遺物番号1は、「ア7・D61・1」となる。重量は電子天秤で小数点2桁まで計測した。残存状況は完形のを「○」、打点部側の残るものを「A」、中間部の残るものを「B」、末端部側の残るものを「C」、小片などで不明なものを「D」とした。

原稜面・被熱などは、「有」または「無」の簡単な観察だけである。被熱は肉眼観察により、表面が光沢を失い、くもりガラスのような状態のものやうろこ状のひび割れがみられるものなどを「有」とした。

石器類や剥片は、原則的に出土位置を記録したもの（以下「点取り遺物」）がほとんどであるが、一部発掘区単位ほかで一括して取上げたもの（以下「一括遺物」）もある。

遺物番号は基本的に遺物の取上げ番号と一致させているが、石器ブロック内において一括で取上げた9点に関しては、整理作業の都合上、点取り遺物と区別するため、「3001」から「3009」までの番号を付けている。また、石器ブロック外の一括遺物は、番号を付けていない。

アンカリトー7遺跡の動物遺存体は灰集中1・2では大型のものや明瞭な出土状況のものについて採取し、位置を記録した。採取した動物遺存体は水洗せず、乾燥後、刷毛・ブラシなどで清掃した。

土壌サンプルは平地住居跡の炉、Ⅲ層の焼土（UF-1～8）、灰集中について採取した。灰集中2（UA-2）については周辺のⅢ層黒色土についても50cm×50cmのメッシュを組み、土壌サンプルを採取した。これらは室内乾燥後、フローテーション法で浮遊物と残渣に分別し、乾燥後紙袋や封筒に入れ保管した。

2) 二次整理の方法

・土器

土器の接合作業は同時期（同群）の破片を中心に行い、小破片等は最終段階で確認のため、接合を試みた。

復原可能な個体については復原し、実測・撮影を行った。また破片で掲載する土器は時期等を考慮し、特徴が認識しやすい口縁部や底部の破片を中心に選出した。拓影図と垂直方向の断面図を組み合わせて掲載し、これらの属性等を記載した表も作成した。

これらの作業と並行して集計作業等も行い、出土分布図等を作成した。

・石器類（旧石器以外）

石器類はアンカリトー7遺跡の遺構出土の礫・礫石器について接合作業を行った。掲載する石器

は、各群から残存状態が「完形」・「準完形」のものを中心に、器種や形態の多様性を示しえることを考慮し選出した。これらは実測図と属性表・観察表を作成した。

またこれらの作業と並行して集計作業等も行い、遺物出土分布図等を作成した。

(愛場・末光)

・アンカリト7 遺跡の旧石器

二次整理は整理作業所で、主に接合・実測作業を行った。接合作業は、定形的な石器類については、まず折れ面接合を試み、次に同じ石質と考えられる石器類や剥片を探すようにした。剥片類は石質ごとに集めて接合作業を行った。

接合作業の実際は、折れ面接合の場合は瞬間接着剤を使用し、剥離面接合の場合は両面テープで仮止めしながら作業を進め、必要に応じて瞬間接着剤を使用した。ただし、最終的な収納段階では全て瞬間接着剤を使用している。ある程度接合作業が進行した段階で、剥離過程を記録した接合カードを作成し、接合番号をつけた。接合番号は、剥離面接合が「1」から、折れ面接合は「1001」からとした。そのため、剥離面接合資料に折れ面接合資料が含まれている場合は、1個体の接合資料に複数の接合番号をもつことがある。

さらにこれらの作業で得られた接合資料やその他の石器の内、特徴的で同一石質と認識できるものを石質別資料として抽出した。今回出土した石器類の主要な石材である黒曜石・頁岩などは全体的に大きな特徴に乏しく、緻密な母岩別資料としての抽出は困難であるため、石質別の分類に留めている。その結果、石質別資料として「黒曜石1～12」、「頁岩1～3」、「珪化岩1～4」、「凝灰岩1」、「泥岩1～3」を設定した。これらの作業は接合資料を中心に行い、単体で搬入されたと考えられる石器に関しては石質資料数が膨大になるため石質別資料からは外している。

資料の呼称は、「石質別資料」はその石材と石質番号を組み合わせ、例えば「黒曜石1」などと表示し、「接合資料」は略して「接合」とした。石質別資料の接合資料は「黒曜石1・接合35」、石質分類外資料の接合資料は「頁岩・接合58」のように表示した。これらの石質、接合などの二次的な属性データは、現場での出土位置、一次整理の属性観察などのデータと共に、ウインドウズの表計算ソフト(Excel)を使用しパソコンに入力し、管理している。

また、実測・接合作業と平行して、点取り遺物の分布図の作成を行った。さらに遺物の平面的なまとまり及び石器類の特徴から、まとまりごとに「石器ブロック」(SB)を2か所設定し、それぞれの石器ブロックごとに分布図及び接合状況図を作成した。遺物の集計にあたっては、器種、石材別の点数、重量を明確に示すようにした。実測図に関しては、定形的な石器類は、全形のわかるものを中心に出来る限り実測・掲載するように努めた。接合資料に関しては良好に復元されたものを中心に実測した。

報告の挿図の構成としては、最初に全体の分布図・接合図、器種・石材ごとの分布図を載せ、次に石器ブロックごとの分布図、定形的な石器の実測図、器種別の分布図、石質別の接合資料の分布図・実測図を掲載している。接合資料に関しては、基本的に全体の実測図と共に、必要に応じて、剥離過程が分かるように剥離模式図を作成した。さらに接合石器の内、定形的な石器で、すでに実測図を示しているものでも、接合資料全体の实測図と共に再度掲載したものがある。作成した表類は適宜本文中に掲載しているが、掲載石器及び接合資料の一覧表は章末にまとめている。写真は実測図を掲載した石器類については、原則的に撮影を行い巻末に掲載した。また接合資料などで一部写真のみ掲載しているものがある。

(広田良成)

・金属製品

現場で取り上げた金属製品は、すぐに粗い土壌・錆落しを行い、一製品ごとに乾燥剤を入れた密閉容器で一次保管した。

整理作業では、保存処理を施すにあたり観察と処理前の実測・写真撮影を行って、調書を作成した。後の復原・報告に必要と判断したものは、X線撮影も行った。その後再度、錆や硬い土壌をニッパなどで割り落し、エアブラッシュ装置で細部の錆・土壌を除去した。クリーニング後、高温高圧状態で3回の脱塩処理を行った。浸漬した液は、銅・銀製品：蒸留水+0.2%ベンゾトリアゾール(BTA)溶液、鉄製品：蒸留水+0.2%BTA溶液+0.2%ホウ酸溶液である。強化・防錆処理には、銅・銀製品はBTA+トルエン+アセトン+バラロイドB72(アクリル系合成樹脂)の混合溶液に浸漬し、減圧タンク内での減圧含浸工程を3回実施した。乾燥させた後、トアインクラック(アクリル系合成樹脂+2%BTAの市販品)をスプレーした。鉄製品は非水系のバラロイドNAD10(アクリル系合成樹脂エマルジョン)に浸漬し、やはり減圧含浸工程を3回実施し充分乾燥させた。その後復原が必要なもの、アロンアルファ(シアノアクリレート系合成樹脂接着剤)を使用して接合した。

処理終了後、写真撮影と実測図作成を実施。分類や報告記載のための観察は、取り上げ当初より随時行っていたが、最終的には保存処理後に行った分類等により報告した。(三浦正人)

・微細遺物

フローテーションで得られた微細遺物は主に実体顕微鏡を使用し、選別作業を行った。土器・石器・動物遺存体・炭化材・炭化種子などが抽出された。土器・石器については分類を行い、動物遺存体・炭化種子については一次分類後、同定を依頼した。遺構出土の炭化材については放射性炭素年代測定を行った。(愛場)

・掩体壕出土品

掩体壕出土品は現場で観察し、点数等必要な記録を作成した。完形のビール瓶・レンガ・認識票等を選択し、整理作業所に運搬した。いくつかは報告書で紹介するため実測図・写真を作成した。

(末光)

・遺物と記録類の保管

遺物や記録類は北海道教育委員会の管轄の元、北海道立埋蔵文化財センターにおいて保存される。

整理作業の完了した遺物は次のように収納した。土器と石器類はそれぞれ遺跡ごとに報告書「掲載」と「未掲載」に分け、「掲載」は報告書の図番号を明記し収納した。「未掲載」は出土地点・出土層位・時期などによる分類ごとに収納した。石器類も器種・残存状態による分類ごとにまとめ、出土地点・出土層位ごとに収納した。最後にこれら内容を「遺物収納台帳」に記載した。

現場図面は「原図」・「素図」、「遺物図面」は「復原土器立面実測図」・「破片土器断面実測図」・「破片土器拓影図」・「石器等実測図」・「掩体壕出土品実測図」があり、「写真類」は発掘調査現場で撮影した「現場写真」とスタジオで撮影した「遺物写真」がある。

それぞれ通し番号を付しExcel文書で台帳を作成した。これらの記録類は道立埋蔵文化財センターにて保管される。

その他遺物に関する諸記録類があり、一次整理で作成した「水洗台帳」、手書きの「遺物登録台帳」・Excel文書の「遺物登録台帳」の他、土器の「接合台帳」や石器の「一覧表」等がある。これらのうちExcel文書の「遺物登録台帳」を保管し、それ以外は原則として破棄する。(愛場・末光)

2. 遺物の分類

(1) 土器

*「時期分類基準」

「I群」：縄文時代早期

- a類：貝殻文、条痕文、沈線文を有する土器群
- b類：東釧路式系土器群

「II群」：縄文時代前期

- a類：縄文尖底土器群
- b類：円筒土器下層式、及びそれに伴う土器群

「III群」：縄文時代中期

- a類：円筒土器上層式、サイベ沢Ⅶ式、萩ヶ岡1・2式に相当する土器群
- b類：萩ヶ岡3式（天神山式）、柏木川式、北筒式に相当する土器群

「IV群」：縄文時代後期

- a類：余市式（伊達山式・タッコップ式）、入江式に相当する土器群
- b類：ウサクマイC式、手稲式、鯉瀬式に相当する土器群
- c類：堂林式、三ツ谷式、御殿山式に相当する土器群

「V群」：縄文時代晩期

- a類：大洞B・BC式、及びそれに伴う土器群
- b類：大洞C1・C2式、及びそれに伴う土器群
- c類：大洞A・A'式、及びそれに伴う土器群

「VI群」：統縄文時代に属するもの

「VII群」：擦文文化期に属するもの

「未分類」：時期が判断できないもの

「土製品」

(愛場・末光)

(2) 石器類

* 「器種分類基準」

0 旧石器群 (石材: 黒曜石、頁岩等)

当センターで調査している「白滝遺跡群」の器種分類を基本的に踏襲しているが、一部追加・変更している部分もある。

細石刃「MB」(Micro Blade)

細石刃核より剥離されたと考えられ、長さが幅の2倍以上で、両側縁がほぼ平行しそれに平行する稜があり、幅が約1cm以下の石器

細石刃核「MC」(Micro Core)

細石刃を剥離したと考えられる石器

彫器「BU」(Burin)

素材の端部に一条から数条の極状剥離を施した石器

削片「SP」(Spall)

細石刃核の打面作出、ないし彫器の彫刀面作出・再生時に剥離されたと考えられる削片

搔器「ES」(End Scraper)

素材の端部に連続的な二次加工を施した石器

両面調整石器「BF」(Biface)

素材の両面を加工したもので、細石刃核、尖頭器、斧形石器以外の石器

削器「SS」(Side Scraper)

素材の側縁に連続的な二次加工を施した石器

錐形石器「DR」(Drill)

素材の端部に錐状の尖頭部を作り出した石器

二次加工ある剥片「RF」(Retouched Flake)

素材に二次加工を施したもので、定形石器に分類されない石器

石刃「BL」(Blade)

長さが幅の2倍以上で両側縁がほぼ平行し、それに平行する稜がある石器

縦長剥片「LF」(Long Flake)

長さが幅の2倍以上で石刃に該当しない石器

剥片「FK」(Flake)

石核・石刃核・細石刃核・石器(ツール)から剥離されたもので縦長剥片・石刃・細石刃・削片以外の石器

細片「CP」(Chip)

剥片の中で1.5cm以下の小型の石器

斧形石器「AX」(Axe)

両面もしくは片面加工により、斧状の刃部を作り出した石器。

敲き石「HS」(Hammer Stone)

礫に潰打痕が観察される石器

砥石「WS」(Whet Stone)

礫の片面もしくは両面に磨痕が観察される石器

石製品「SO」(Stone Object)

石製遺物で、用途が不明なもの

礫「PB」(Pebble)

石器の素材として利用されない石で、剥離、敲打痕、潰打痕、磨痕などが観察されないもの (広田)

I 剥片石器群 (石材：黒曜石、頁岩等)

「石鏃」

「石槍・ナイフ」

「石錐」

「つまみ付きナイフ (石匙)」

「スクレイパー」

「Uフレイク」

「Rフレイク」

*アンカリトール9遺跡では「U・Rフレイク」とした。

「石核」

「フレイク・チップ (剥片・碎片)」

「原石」

II 磨製石器群 (石材：泥岩、片岩、蛇紋岩等)

「磨製石斧」

「原石」

III 礫石器群

「石錘」

「たたき石」

「すり石」

「砥石」

「台石・石皿」

IV 石製品

V 自然礫

*「残存状態に関する分類基準」

剥片・磨製石器群

「完形」：残存表面積が90%程度以上のもの

「準完形」：「完形」と「半形」の中間～やや完形に近いもの

「半形」：残存表面積が50%程度のもの

「片」：残存表面積が50%程度以下のもの

礫石器群・自然礫

「完形」：大きな割れ口がないもの、またあっても機能部が損なわれていないもの

「準完形」：割れ口があり、完形の状態を想定でき、残存表面積が75%程度のもの

「半形」：割れ口があり、完形の状態を想定でき、残存表面積が50%程度のもの

「片」：割れ口があり、完形の状態を想定しにくいもの、残存表面積が50%程度以下のもの

・自然礫に関しては、割れ口のないものを「完形」、あるものを「片」とし、二区分とした。(愛場・未光)

＊「石材」について

遺物カードや遺物登録台帳において、石材分類には次の基準を用いた。

＊火成岩

・火山噴出物

軽石：(Pumice) 浮岩 スコリア：(Scoria) 岩滓

・溶岩

溶岩：(Lava)

・火山岩

黒曜石（岩）：(Obsidian)

流紋岩：(Rhyolite)

安山岩：(Andesite)

玄武岩：(Basalt)

・深成岩

花崗岩：(Granite)

閃緑岩：(Diorite)

斑糲岩：(Gabbro)

＊堆積岩

・火山砕屑岩

火山礫凝灰岩：(Lapilli Tuff)

凝灰岩：(Tuff)

・砕屑岩

礫岩：(Conglomerate)

砂岩：(Sandstone)

泥岩：(Mudstone) 緑色泥岩：(Green Mudstone)

頁岩：(Shale)

チャート：(Chert)

粘板岩：(Slate)

＊変成岩

片岩：(Schist)

片麻岩：(Gneiss)

ホルンフェルス：(Hornfels)

＊超塩基性岩

蛇紋岩：(Serpentinite)

橄欖岩：(Peridotite)

(末光・広田)

(3) 金属製品

鉄製品、銅製品(金銅・青銅含む)、銀製品がある。鉄製品では、内耳鉄鍋・小刀・刀子・鏝・釘・釣針・メルク・棒状品・鉄片など、銅製品では刀装具・鈎・切羽・鏞、銀製品には装飾品がある。

(4) 骨角器

骨角器は骨鏝・中柄・骨針・未成品などがある。

(5) その他

ガラス玉がある。

(愛場)

3. 土層の区分

土層の観察は、『土壌調査ハンドブック』(ペドロジスト懇談会 1984)・『標準土色帖』(小山・竹原 1967)を参考に行った。

基本層序は基本層序柱状図(図Ⅲ-5)・一覧表(表Ⅲ-1)にまとめた。

I層：現地表土

アンカリトー7遺跡では耕作表土(I a層)で、アンカリトー9遺跡では、現地表土であるI a層、産業廃棄物を多量に含む層をI b層、試掘坑や比較的小規模な攪乱土は、I c層と三つに分けた。

II層：樽前a降下軽石層(Ta-a)

1739年に噴火した樽前山の火山噴出物から構成される。構成粒子の違いから、フォールユニットとして大きく三つに分けられる(A~C群)。A群は層も厚く粗粒で、B・C群は比較的細粒で、火山灰が主体的である。

III層：黒色土層

いわゆる第I黒色土層である。アンカリトー7遺跡では縄文時代からアイヌ文化期までの遺構・遺物包含層である。

IV層：樽前c降下軽石・スコリア層(Ta-c)

約2,000年前(縄文時代晩期後半頃)に降下した樽前山の火山噴出物(軽石・スコリア)から構成される層である。II層とは異なり、粒径のまともではなくランダムにみられる。色調や礫の混在割合の違いから、W1層とW2層に分層した。

V層：黒色土層

いわゆる第II黒色土層である。主に縄文時代の遺物包含層である。上位のTa-c軽石が混入する部分をV1層とし、これの混ざらない下位部分をV2層

アンカリトー7・9 遺跡基本層序



図Ⅲ-5 基本層序柱状図

表III-1 アンカリトリート7・9遺跡基本層序一覧

層名	名称	厚層 (cm)	層序	砂・シルト・粘土		磁器度	種類	埋入割合 埋積割合	礫 (粒径2mm以上)		備考	
				野外土性	色調 マンゼル色名				形状	形状		
I層	Ia層	平均: 18	黒炭	砂状土	黒褐色 (10YR2/2)	なし	Ta-1燧石	50%以上	平均: 0~8 最大: 8	垂直溝	「Ta-a」 「Ta-c」 第1黒色土層	
	Ib層	平均: 18	黒炭	砂状土	黒褐色 (10YR2/2)	なし	Ta-1燧石	50%以上	平均: 0~8 最大: 8	垂直溝		
	Ic層	平均: 18	黒炭	砂状土	黒褐色 (10YR2/2)	なし	Ta-1燧石	50%以上	平均: 0~8 最大: 8	垂直溝		
II層	IIA層	平均: 18	黒炭	火山灰主体・火山砂	灰白色 燧石片 (灰色)	*	燧石	(主)燧石 (少)燧石	平均: 20 最大: 10	角~亜角塊	未風化	
	IIb層	平均: 14	黒炭	火山砂~火山灰主体	灰白色 燧石片 (灰色)	*	燧石	(主)燧石 (少)燧石	平均: 20 最大: 10	角~亜角塊	未風化	
	IIc層	平均: 9	黒炭	火山砂主体	有色灰物	*	燧石	(主)燧石 (少)燧石	平均: 20 最大: 10	角~亜角塊	未風化	
III層	IIIa層	平均: 14	黒炭	礫状土	黒褐色 (10YR2/2)	強	燧石	燧石	平均: 3 最大: 3	角~亜角塊	半風化	「Ta-c」 第1黒色土層
	IIIb層	平均: 13	黒炭	砂土	にがい黄褐色 (10YR3.5/6)	なし	Ta-1燧石 +スクリア	7% 50%以上	平均: 3 最大: 18 平均: 5 最大: 5	垂直溝	半風化	
	IIIc層	平均: 4	黒炭	砂土	にがい黄褐色 (10YR4/3)	なし	燧石	燧石	平均: 3 最大: 3	角~亜角塊	半風化	
IV層	IV1層	平均: 3	明瞭	礫状土	黒色 (10YR1.1~2/2)	強	燧石	燧石	平均: 3 最大: 3	角~亜角塊	半風化	第1黒色土層
	IV2層	平均: 9	漸変	礫状土	黒褐色 (10YR2/2)	強	燧石	燧石	平均: 3 最大: 3	角~亜角塊	半風化	
	IV3層	平均: 3	漸変	礫状土	黒褐色 (10YR2/2)	強	燧石	燧石	平均: 3 最大: 3	角~亜角塊	半風化	
V層	V1層	平均: 3	明瞭	礫状土	灰黄褐色 (10YR4/2)	強	燧石	燧石	平均: 8 最大: 8	角~亜角塊	風化	第1黒色土層
	V2層	平均: 9	漸変	礫状土	明褐色 (10YR5/6)	強	燧石	燧石	平均: 7 最大: 15	角~亜角塊	風化	
	V3層	平均: 10	漸変	礫状土	明褐色 (10YR5/6)	強	燧石	燧石	平均: 7 最大: 15	角~亜角塊	風化	
VI層	VI1層	平均: 3	明瞭	礫状土	黒褐色 (10YR3/3)	なし	燧石	燧石	平均: 2 最大: 2	角~亜角塊	風化	「Ta-a」 「Ta-c」 第1黒色土層
	VI2層	平均: 40	明瞭	礫状土	明褐色 (10YR5/6)	強~ すこぶる強	燧石	燧石	平均: 2 最大: 2	角~亜角塊	風化	
	VI3層	平均: 15	明瞭	礫状土	黒色 (10YR4/4)	中	燧石	燧石	平均: 5 最大: 10 平均: 2 最大: 2	角~亜角塊	風化	
VII層	VII1層	平均: 11	黒炭	礫土	にがい黄褐色 (10YR5/4)	中~強	燧石	燧石	平均: 2 最大: 2	角~亜角塊	風化	第1黒色土層
	VII2層	平均: 8	黒炭	砂土	(褐色) (黄色灰物)	なし	燧石	燧石	平均: 5 最大: 10	角~亜角塊	風化	
	VII3層	平均: 3	黒炭	砂土	明褐色 (10YR7/6)	なし	燧石	燧石	平均: 2 最大: 2	角~亜角塊	風化	
VIII層	VIII1層	平均: 3	明瞭	礫状土	にがい黄褐色 (10YR5/4)	なし	燧石	燧石	平均: 2 最大: 2	角~亜角塊	風化	第1黒色土層
	VIII2層	平均: 3	明瞭	礫状土	にがい黄褐色 (10YR5/4)	なし	燧石	燧石	平均: 2 最大: 2	角~亜角塊	風化	
	VIII3層	平均: 3	明瞭	礫状土	にがい黄褐色 (10YR5/4)	なし	燧石	燧石	平均: 2 最大: 2	角~亜角塊	風化	
IX層	IX1層	平均: 19	黒炭	礫土	明褐色 (10YR5/6)	強~ すこぶる強	燧石	燧石	平均: 2 最大: 2	角~亜角塊	風化	「Ta-a」 「Ta-c」 第1黒色土層
	IX2層	平均: 40	明瞭	礫状土	明褐色 (10YR5/6)	強~ すこぶる強	燧石	燧石	平均: 2 最大: 2	角~亜角塊	風化	
	IX3層	平均: 15	明瞭	礫状土	明褐色 (10YR5/6)	強~ すこぶる強	燧石	燧石	平均: 2 最大: 2	角~亜角塊	風化	
X層	X1層	平均: 19	黒炭	礫土	明褐色 (10YR5/6)	強~ すこぶる強	燧石	燧石	平均: 2 最大: 2	角~亜角塊	風化	「Ta-a」 「Ta-c」 第1黒色土層
	X2層	平均: 40	明瞭	礫状土	明褐色 (10YR5/6)	強~ すこぶる強	燧石	燧石	平均: 2 最大: 2	角~亜角塊	風化	
	X3層	平均: 15	明瞭	礫状土	明褐色 (10YR5/6)	強~ すこぶる強	燧石	燧石	平均: 2 最大: 2	角~亜角塊	風化	
砂層	砂1層	平均: 19	黒炭	礫土	明褐色 (10YR5/6)	強~ すこぶる強	燧石	燧石	平均: 2 最大: 2	角~亜角塊	風化	「Ta-a」 「Ta-c」 第1黒色土層
	砂2層	平均: 40	明瞭	礫状土	明褐色 (10YR5/6)	強~ すこぶる強	燧石	燧石	平均: 2 最大: 2	角~亜角塊	風化	
	砂3層	平均: 15	明瞭	礫状土	明褐色 (10YR5/6)	強~ すこぶる強	燧石	燧石	平均: 2 最大: 2	角~亜角塊	風化	
Y層	Y1層	平均: 19	黒炭	礫土	明褐色 (10YR5/6)	強~ すこぶる強	燧石	燧石	平均: 2 最大: 2	角~亜角塊	風化	「Ta-a」 「Ta-c」 第1黒色土層
	Y2層	平均: 40	明瞭	礫状土	明褐色 (10YR5/6)	強~ すこぶる強	燧石	燧石	平均: 2 最大: 2	角~亜角塊	風化	
	Y3層	平均: 15	明瞭	礫状土	明褐色 (10YR5/6)	強~ すこぶる強	燧石	燧石	平均: 2 最大: 2	角~亜角塊	風化	
Z層	Z1層	平均: 19	黒炭	礫土	明褐色 (10YR5/6)	強~ すこぶる強	燧石	燧石	平均: 2 最大: 2	角~亜角塊	風化	「Ta-a」 「Ta-c」 第1黒色土層
	Z2層	平均: 40	明瞭	礫状土	明褐色 (10YR5/6)	強~ すこぶる強	燧石	燧石	平均: 2 最大: 2	角~亜角塊	風化	
	Z3層	平均: 15	明瞭	礫状土	明褐色 (10YR5/6)	強~ すこぶる強	燧石	燧石	平均: 2 最大: 2	角~亜角塊	風化	
WG層	WG1層	平均: 3	黒炭	砂土	明褐色 (10YR7/6)	なし	燧石	燧石	平均: 2 最大: 2	角~亜角塊	風化	「Ta-a」 「Ta-c」 第1黒色土層
	WG2層	平均: 3	黒炭	砂土	明褐色 (10YR7/6)	なし	燧石	燧石	平均: 2 最大: 2	角~亜角塊	風化	
	WG3層	平均: 3	黒炭	砂土	明褐色 (10YR7/6)	なし	燧石	燧石	平均: 2 最大: 2	角~亜角塊	風化	
YB層	YB1層	平均: 3	明瞭	礫状土	明褐色 (10YR7/6)	なし	燧石	燧石	平均: 2 最大: 2	角~亜角塊	風化	「Ta-a」 「Ta-c」 第1黒色土層
	YB2層	平均: 3	明瞭	礫状土	明褐色 (10YR7/6)	なし	燧石	燧石	平均: 2 最大: 2	角~亜角塊	風化	
	YB3層	平均: 3	明瞭	礫状土	明褐色 (10YR7/6)	なし	燧石	燧石	平均: 2 最大: 2	角~亜角塊	風化	

とした。V層と表記しているものは、通常V層を指す。

VI層：漸移層

上位の黒色土層と下位のVII層の間に位置する漸移層で、縄文時代から旧石器時代の遺物包含層である。色調から便宜的に上位をMb層、下位をMy層とした。

VII層：黄褐色風化ローム層

「恵庭のローム層」と呼ばれているもので、上位部分をⅧ1層、下位部分をEn-a軽石の含有量の多さと堅密度によりⅧ2層とした。前者がいわゆる「ソフトローム」で、後者が「ハードローム」である。Ⅷ層と表記したものは、通常Ⅷ1層を示す。旧石器時代の遺物包含層である。

アンカリト-9遺跡では古砂丘がみられたため、下位層について旧石器確認調査を行い、次の土層を確認した。

Ⅷ層：恵庭a降下軽石層（En-a）

約12,000～17,000年前に降下した、恵庭岳の火山噴出物（軽石）から構成される層である。

Ⅸ層：明褐色ローム層

明褐色を呈するローム質土である。色調や礫の混在割合から三つに分層した。アンカリト-9遺跡で旧石器確認を行った層は、上位のⅨ1層である。

古砂丘（砂層）

千歳古砂丘群と呼称される更新世に形成された古砂丘である。細かく分ければ際限ないが、大きくB層、WG層、YB層に分けた。B層は有色鉱物を主体とし、WG層は主に透明～白色鉱物を主体とする。YB層は破碎した軽石を起源とする砂層である。層厚はかろうじて認識できる数mm～最大で8cm程度である。これらの薄層がラミナを形成し、断面を削るたびに異なった様相をみせる。粒子は重角礫状のものが多く、成因は風成によると判断される。

なおアンカリト-9遺跡ではメインセクション図は作成していないが、掩体壕1・2の盛土断面図で自然層位の状況を図示した。（末光・愛場）

4. 調査結果の概要

（1）アンカリト-7遺跡

調査の結果、主に旧石器時代とアイヌ文化期の遺構・遺物を検出した。

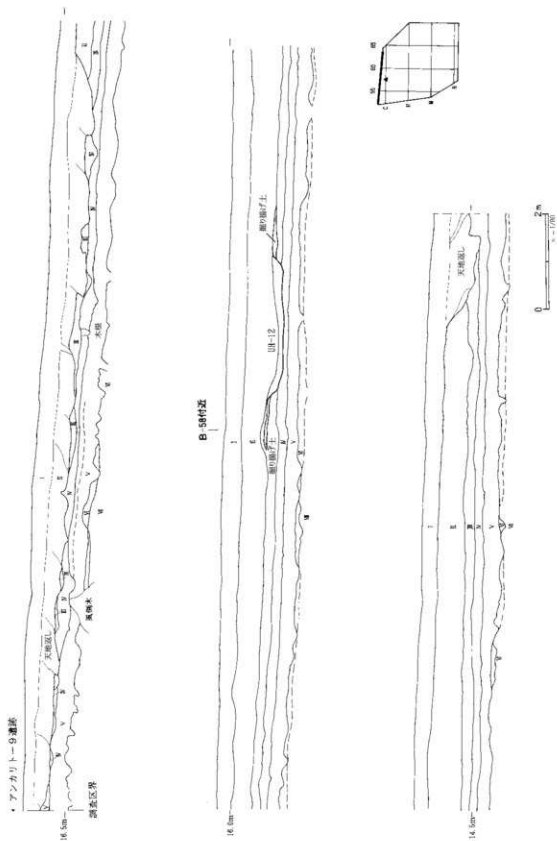
Ⅲ層で検出した遺構は平地住居跡11軒・竪穴状遺構1基・建物跡2棟・土坑墓1基・杭穴跡334か所・灰床中5か所・焼土8か所である。時期は竪穴状遺構(UH-12)1基が擦文文化期からアイヌ文化期である以外はアイヌ文化期である。集落が数世代にわたり形成されていたものと思われる。

平地住居跡は大型のもの（長軸5～7m）と小型のもの（長軸4m前後）があり、大型のものには炬が複数存在する。小型の住居跡は平面形が正方形に近くなる。いずれも「セム」などの付属構造はない。長軸方向は北-南方向、北東-南西方向と東-西方向に分かれる。またUH-7・8は切り合いがみられ、UH-1・2はごく近接することから時期差が想定される。建物跡2棟は高床の倉庫と考えられる。

杭穴は多数検出した。柵列・幣場・その他の施設が想定されるが、柵列を抽出するに留まった。

調査区西側では灰のまとまりが約9m×3mの範囲に点在しており、金属製品・礫などの他、カワシシユガイやサケなどの動物遺存体が良好に残存していた。いわゆる灰などの送り場と考えられる。

V層以下で検出した遺構は焼土3か所、旧石器時代の石器集中2か所である。焼土は周辺の遺物から縄文時代中期の可能性がある。旧石器の石器集中は現場段階では広郷型細石刃核を伴う石器群の石



図III-6 アンカリト-7遺跡土層断面図

器集中1か所と捉えていたが、整理段階で峠下型細石刃核を伴う石器群1か所を含むことがわかり、石器集中は2か所となった。出土層位には大きな違いはないが、共存関係は不明である。

遺物の総点数は3,698点で、内訳は土器835点、石器等712点、旧石器2,078点、金属製品56点、骨角器16点、ガラス玉1点である。土器は捺文土器・縄文前半期の土器・縄文時代中期・縄文時代早期の土器がある。石器は棒状礫・フレイク・石鏃・石斧が多い。金属製品は内耳鉄鍋・刀装具・刀子・小刀・鏝・マレット・釣針・棒状品などがある。(愛場)

(2) アンカリトール9遺跡

確認された遺構は土坑1基、焼土3か所ですべてV層の遺構である。

包含層調査はV・VI層を対象とし、土量約40%（面積約32%）を手掘りで、残りを建設機械併用で行い、VII層上面で遺構確認調査を行った。遺物は調査区東側部分を除き散在的に出土した。

土器は141点出土した。縄文時代中期(III群)が最も多く、ついで晩期(V群)、後期(VI群)である。

石器類は69点出土した。うち1点が旧石器のラウンドスクレイパー(RS)と考える。剥片石器は石鏃・石槍またはナイフ・つまみ付きナイフ・スクレイパー等が出土し、多くが黒曜石製である。磨製石器は磨製石斧、礫石器はたたき石・砥石・台石がある。また「開元通寶」も出土した。これは掩体壕からの出土であるが、これに伴うものではないので包含層の遺物として掲載した。

調査区北側部分にみられた古砂丘上の台地部分について、VII層(En-a)下位の明褐色ローム層(IX層)について旧石器の有無についての確認調査を行い、さらに、太平洋戦争時におかれた旧日本軍千歳海軍航空基地に属すると考えられる施設(掩体壕と称稱)を2か所調査した。(末光)

表Ⅲ-2 アンカリトール7遺跡遺構一覧

III層の遺構	遺構名	調査区	時期	III層の遺構	遺構名	調査区	時期	
平地居住跡	UH-1	L66~67・M66~67	アイヌ文化期	貝集中	貝集中1	G59	アイヌ文化期	
	UH-2	L67~69・M67~69	アイヌ文化期		焼土	UF-1	I68	
	UH-3	N58~59・O58~59	アイヌ文化期			UF-2	P65	
	UH-4	M62~63・N62~63	アイヌ文化期			UF-3	O62	
	UH-5	O62~63・E62~64・F62~64	アイヌ文化期			UF-4	K64	
	UH-6	N60・O60	アイヌ文化期			UF-5	J59	
	UH-7	P60~61・Q60~61・R61	アイヌ文化期			UF-6	J59	
	UH-8	Q60~61・R60~61	アイヌ文化期			UF-7	D57	アイヌ文化期?
	UH-9	B58~59・I58	アイヌ文化期	UF-8		H62		
	UH-10	F61・G61~62・H61~62	アイヌ文化期					
	UH-11	K59~60・L59~60	アイヌ文化期					
竪穴状遺構	UH-12	A58・B58	捺文~アイヌ文化期	V層以下の遺構	遺構名	調査区	時期	
建物跡	UB-1	L64~65・M64~65	アイヌ文化期	焼土	LF-1	O64	縄文時代	
	UB-2	J59~60・K59	アイヌ文化期		LF-2	N65	縄文時代中期	
土坑墓	GP-1	Q60	アイヌ文化期		LF-3	O67	縄文時代	
杭穴	USP-1~334	調査区平坦面に広く分布・杭列12か所	アイヌ文化期	旧石器集中	SB-1	斜面側部に広く分布	後期旧石器時代	
					SB-2	E63~64・F62~65・G61~64・H61~64・J61・63	後期旧石器時代	
民集中	UA-1	B57~58	アイヌ文化期					
	UA-2	B59~62・C60	アイヌ文化期					
	UA-3	P57	アイヌ文化期					
	UA-4	O61・P61	アイヌ文化期					
	UA-5	I60	アイヌ文化期					

表Ⅲ-3 アンカリト-7 遺跡遺物集計表

種別	分類	遺構	包含層	計	種別	分類	遺構	包含層	計
土器	Ia		7	7	旧石器	礮石刃	192	1	193
	Ⅲ	20	127	147		礮石刃核	6	3	9
	Ⅵ		503	503		削片	242	5	247
	Ⅷ	1	164	165		彫器	56	1	57
	不明		13	13		搔器	30	1	31
	計	21	814	835		両面調整石器	3		3
石器	石鏃		38	38		削器	7		7
	ナイフ形石器		1	1		錐形石器	8	1	9
	つまみ付きナイフ		6	6		二次加工のある削片	28		28
	スクレイパー		5	5		石刃	79	3	82
	Rフレイク		5	5		縦長削片	73		73
	フレイク	12	50	62		削片	674	7	681
	石核		3	3		細片	641	3	644
	石斧		49	49		斧形石器	7		7
	砥石	2	3	5		たたき石	3		3
	すり石	9	7	16		砥石	1		1
	たたき石		3	3		石製品	1		1
	加工痕ある礮	1	3	4		礮	2		2
	礮・原石	186	303	489		計	2,053	25	2,078
	棒状原石		1	1	金属製品				
	計	210	477	687	鉄製品	23	4	27	
石製品	軽石製石製品	24	1	銅製品	5	1	6		
				鋳製品	1		1		
				鉄片	22		22		
				計	51		56		
				骨角器	16		16		
				その他	1		1		
				総合計			3,696		

表Ⅲ-4 アンカリト-9 遺跡遺構一覧

遺構名	土坑 LP	焼土 LF	その他 掩体埋
数	1	3	2

表Ⅲ-5 アンカリト-9 遺跡出土遺物集計表

出土地点	遺構・掩体埋出土			包含層出土		
	土器	石器類	その他	土器	石器類	その他
点数	0	0	212	141	69	0
土器合計				141		
石器類合計					69	
その他合計			212			
出土地点合計		212			210	
合計			422			

Ⅳ アンカリトー7遺跡 Ⅲ層の遺構と遺物

Ⅲ層の遺構は平地住居跡11軒・竪穴状遺構1基・建物跡2棟・土坑墓1基・杭穴跡334か所(杭列12か所)・灰集中5か所・貝集中1か所・焼土8か所である。時期は竪穴状遺構(UH-12)1基が縄文文化期からアイヌ文化期である以外はアイヌ文化期である。

以下、上記遺構、包含層(Ⅲ層)出土遺物の順で述べる。

1. 平地住居跡

UH-1 (図Ⅳ-2・表Ⅳ-1・5・13・図版2)

位置：L-66・67 / M-66・67区。北東側にUH-2が近接する。

規模：5.76×4.95m 平面形：長方形 長軸方向：N-24° W

調査：Ⅲ層を数cm掘り下げたところで灰を伴う焼土を検出した。周辺は25%調査などですでにⅣ層上面まで掘り下がった状態であったため、改めて周辺を精査した。柱穴は小型円形の黒色土として認識された。これらをすべて半截し、断面形状を観察して柱穴を確定していった。焼土を取り囲む配列となったため平地住居跡とした。炉跡(HF-1)については土壌サンプルを採取した。フローテーション法による選別作業を行い、動物遺存体が少量得られた。

付属遺構：炉1か所(HF-1)、柱穴21基(HP-1~21)を確認した。HF-1は住居跡ほぼ中央に位置し、灰層と焼土層の2層に分かれる。灰層は層厚約2~5cmで、焼土層との境は灰と焼土が斑状に混じる。焼土層は橙色を呈し、断面はレンズ状となる。焼土の最大厚は約8cmである。

柱穴は住居外周14基、住居外側の付属施設?3基、住居内部4基である。内部のものは住居に関連しない可能性もある。柱の直径は10cm前後で検出面からの深さは10~50cmとばらつきがある。HP-1・10は50cm以上の深さになる。断面形状はすべて先端が尖る。掘立の柱ではなく差し込まれたものである。外周の柱穴はいわゆる「外ふんばり」となるものが多い。柱穴覆土はしまりが弱い黒色土となる。

遺物出土状況：HF-1灰層から微量ではあるがカワシンジュガイ片、サケ科椎骨などが得られた。

掲載遺物：なし

時期・性格：1739年(樽前a降下軽石層)以前のアイヌ文化期の平地住居跡。UH-2とごく近接しており、時期差が想定されるが先後関係は不明である。なおHF-1出土の炭化材について放射性炭素年代測定を行ったところ暦年較正年代範囲で1411AD-1477AD(2σ・95.4%)という結果が出た。

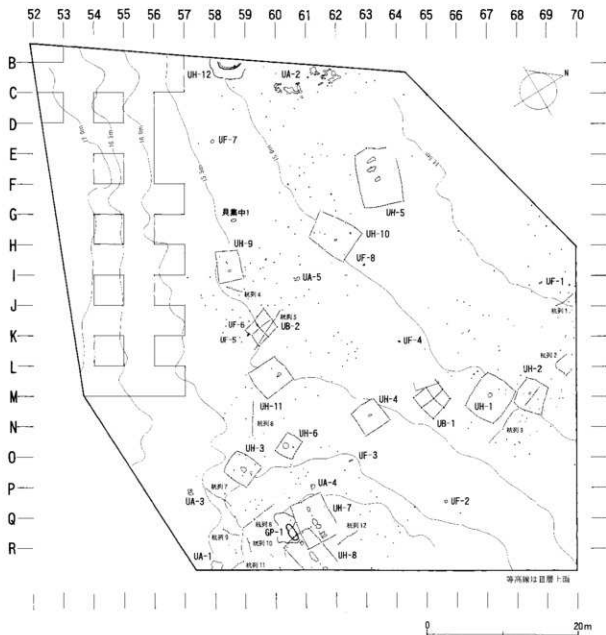
(詳細はⅣ章-1)

UH-2 (図Ⅳ-3・表Ⅳ-1・5・8・13・図版3・26)

位置：L-67・68・69 / M-67・68・69区。UH-1と近接する。

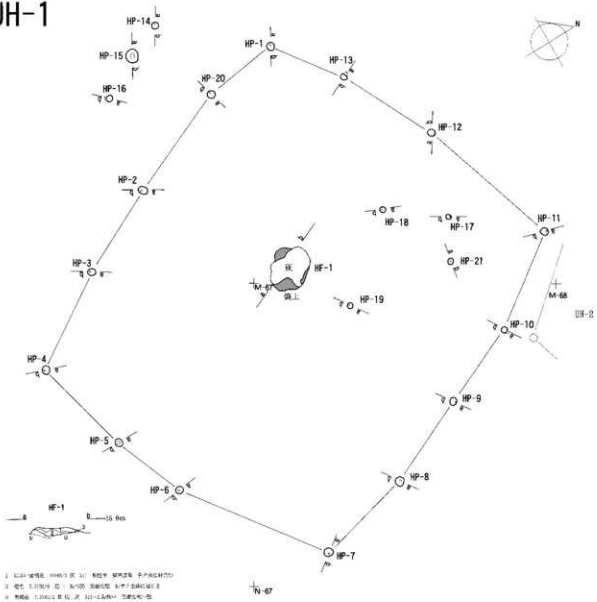
規模：4.16×3.78m 平面形：不整な長方形 長軸方向：N-30° W

調査：Ⅲ層を数cm掘り下げたところで灰を伴う焼土を検出した。平地住居跡の可能性を考え、柱穴の検出に努めたがⅢ層中ではほとんど確認できなかった。柱穴の多くはⅣ層上面で小型円形の黒色土として認識された。すべて半截し、断面形状などから柱穴と確定していった。UH-1が近接し、さらに周囲には他の杭穴が多数あったため、UH-2の柱穴の認定に手間取ったが、焼土を取り囲む配列を確認できた。炉跡(HF-1)については土壌サンプルを採取し、フローテーション法による選別

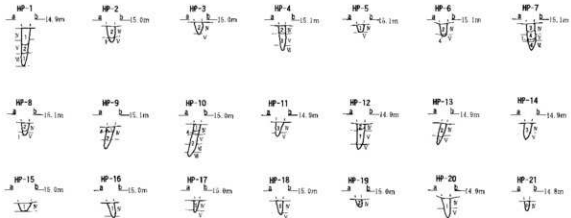


図IV-1 Ⅲ層検出の遺構の位置

UH-1



- 1. 北は方位角 100°00' 東は方位角 90° 南は方位角 0° 西は方位角 270°
- 2. 方位角 100°00' 東は方位角 90° 南は方位角 0° 西は方位角 270°
- 3. 方位角 100°00' 東は方位角 90° 南は方位角 0° 西は方位角 270°

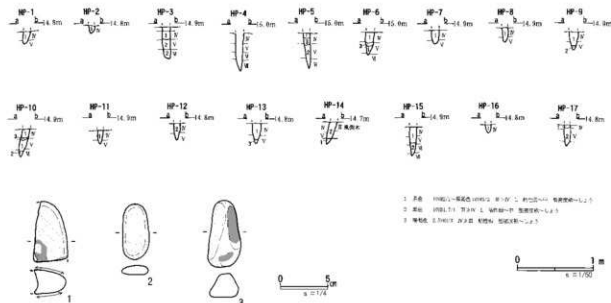
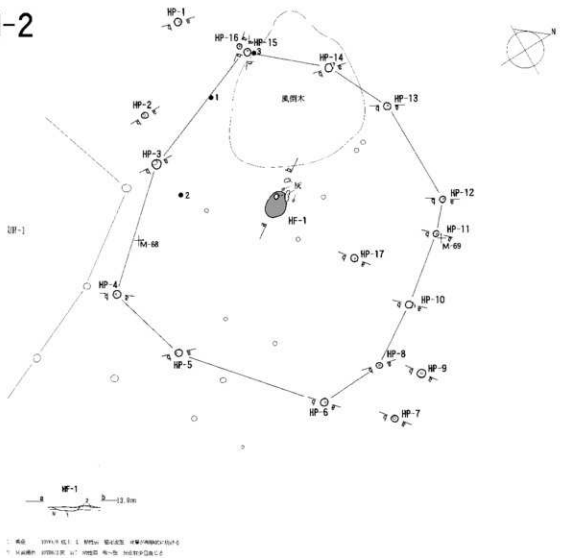


- 1. 北は方位角 100°00' 東は方位角 90° 南は方位角 0° 西は方位角 270°
- 2. 北は方位角 100°00' 東は方位角 90° 南は方位角 0° 西は方位角 270°
- 3. 北は方位角 100°00' 東は方位角 90° 南は方位角 0° 西は方位角 270°
- 4. 北は方位角 100°00' 東は方位角 90° 南は方位角 0° 西は方位角 270°



図Ⅳ-2 UH-1

UH-2



図IV-3 UH-2

作業を行った。微量な動物遺存体が得られた。

付属遺構：炉1か所、柱穴17基を確認した。炉は住居跡ほぼ中央に位置する。灰の残りは悪く、ごく少量の灰のまとまりが焼土上部および北側に数か所みられるのみであった。焼土の断面はレンズ状で最大厚は約5cmである。

柱穴は住居外周12基、住居外側の付属施設？4基、住居内部1基である。外周の柱穴はいわゆる「外ふんばり」となるものと傾きのないものがある。Ⅲ層黒色土主体でしまりが弱い。

遺物出土状況：遺物はすり石1点、礫2点である。またHF-1焼土土壌サンプルからカワシンジュガイ外皮、魚骨が得られた。

掲載遺物：1は扁平礫を利用したすり石。すり面には鉄サビ？が付着する。2・3は編み物の錘に使われた棒状礫。1～3はいずれもススが付着する。

時期・性格：1739年以前のアイヌ文化期の平地住居跡。UH-1とごく近接しており、また杭列13と重複している。時期差が想定されるが先後関係は不明である。(愛場和人)

UH-3 (図Ⅳ-4～7・表Ⅳ-1・5・8・11・13・図版4・26・28)

位置：N-58・59 / O-58・59区

規模：4.17×3.6m 平面形：長方形 長軸方向：N-23° W

調査：Ⅲ層を数cm掘り下げたところ、焼土を検出し、周辺から棒状礫が出土した。平地住居跡の可能性があるため、柱穴の検出に努めた。Ⅳ層上面で小型円形の黒色土を検出し、すべて半載して断面観察を行い柱穴を確定した。焼土を取り囲む配列となったため、住居跡と認定した。なお焼土については土壌サンプルを採取し、フローテーション法による選別作業を行った。

付属遺構：焼土2か所(HF-1・2)、柱穴23基(HP-1～23)を確認した。焼土のうちHF-1は住居の炉で、住居跡中央部からわずかに東寄りに位置する。平面形はやや不整な楕円形である。上面に炭化材片がやや多く含まれるが、他の平地住居跡と比較して灰があまり残存していない。被熱層は最大厚8cmである。HF-2はHF-1よりさらに東寄りにある小型の焼土である。

柱穴は住居外周16基、住居内部7基である。すべて先端は尖り、外周の柱穴は住居内側にわずかに傾く。柱穴の間隔は補助的な柱穴を除いて1～1.5mほどであるが、長軸中央部のHP-7・8およびHP-15・16の間隔は約0.8mと狭くなっている。これらの柱穴を結んだ範囲に炉が収まっている。内部の柱穴は北側外周に近いものが多く、住居内部施設のものと思われる。柱穴の覆土は、しまりの弱い黒色土がほとんどである。

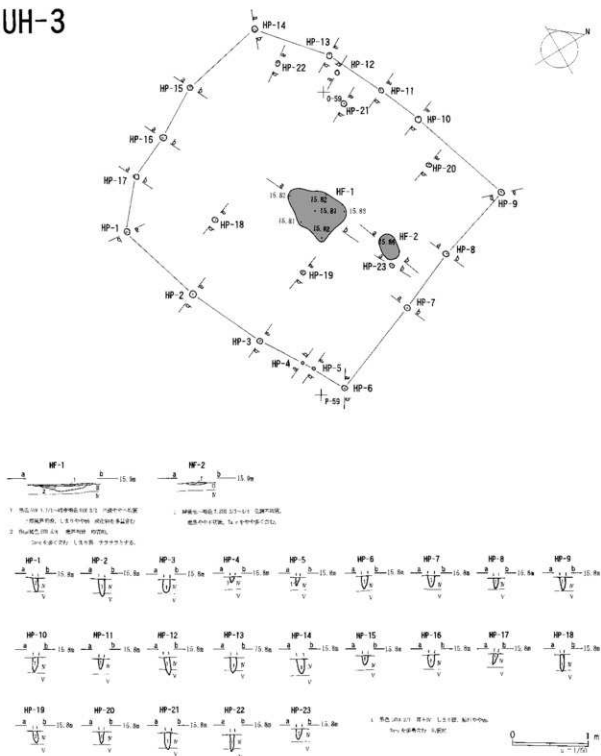
遺物出土状況：遺物はすり石1点・礫66点・軽石製石製品11点・金属製品5点である。遺物は住居内に棒状礫などが散在するほか、外周から1～2m北側にややまとまって出土した範囲があり、関連する遺物としてここに掲載した。またHF-1・2土壌サンプル中よりそれぞれ微量のサケ科・コイ科魚骨などが得られた(詳細はⅤ章-2)。

掲載遺物：1はすり石。2は扁平礫である。いずれも被熱し、2にはススが片面にのみ付着する。3～5はチャート原石。6は泥岩礫。7～20は棒状礫。21～30は軽石製石製品。他の棒状礫と同様の形状に研磨整形されている。棒状礫と軽石製石製品はほぼすべてにススの付着がみられる。

31は内耳鉄鍋。全周の1/5ほどの口縁～胴部破片で、内耳が一耳残っている。口縁幅は狭いが、耳が口縁帯に収まって付いており水平よりも下がり気味、肩部は内側に張り出している。推定口径約30cm、推定高約15cmで、二升炊きの鍋とみられる。

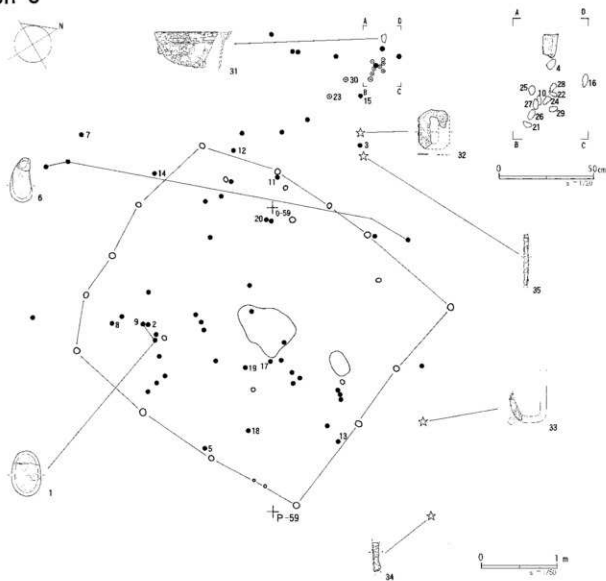
32は銅板製品を再加工した自家製品である。1/3ほどを欠損している。内側の孔と思われる扶れの

UH-3

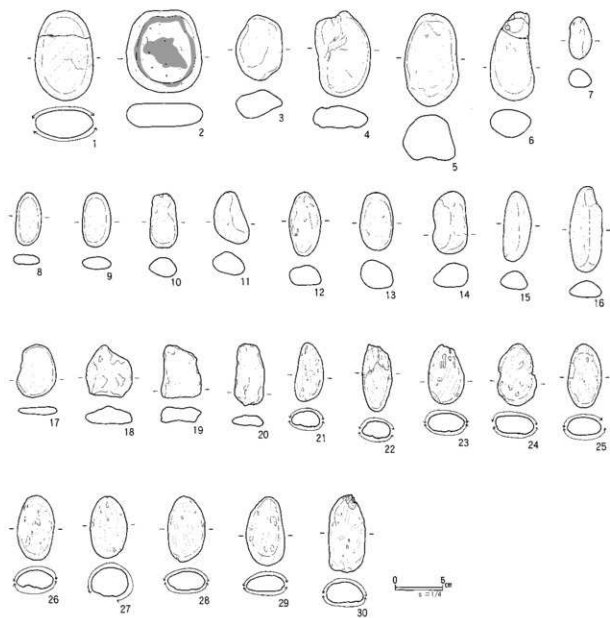


図IV-4 UH-3

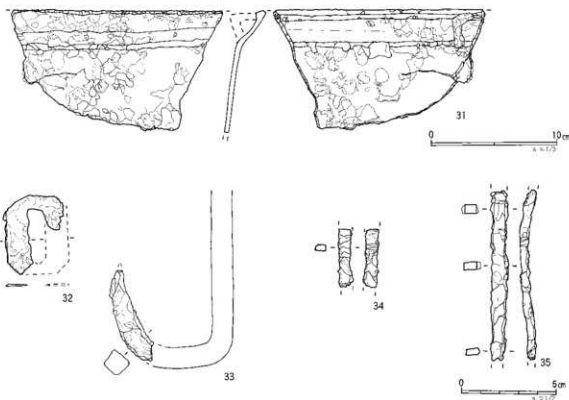
UH-3



図Ⅳ-5 UH-3 遺物出土状況



図IV-6 UH-3 出土の遺物(1)



図Ⅳ-7 UH-3出土の遺物(2)

形状から、小刀の切刃が茎側の装具とみられる。残存する側縁には加工前の製品のものと思われる稜が残っている。黒緑の錆に覆われている表面に対する分析ではあるが、蛍光X線分析を行ったところ、Cu 82.6%・Pb 2.6%・Sn未検出・Fe 0.3%・Ca 0.7%という結果を得た。

33は断面正方形の棒状鉄製品で、細くすばまる端部が一方にある。ごく緩い曲りがあり、魚突鉤鈎鈎(マレク)の鈎部片の可能性ある。34・35は断面が扁平な長方形の棒状鉄製品片。ともに両端を欠損する。35は緩く反っている。加工前の鉄素材であろう。

時期・性格：1739年(樽前a降下軽石)以前のアイヌ文化期の平地住居跡である。なおHF-1出土の炭化材を試料として放射性炭素年代測定を行ったところ、暦年較正年代範囲で1341AD~1395AD(2σ・52.0%)という結果が出た(詳細はⅤ章-1)。(阿部明義・三浦正人)

UH-4 (図Ⅳ-8・表Ⅳ-1・6・8・11・13・図版5・26・28)

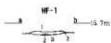
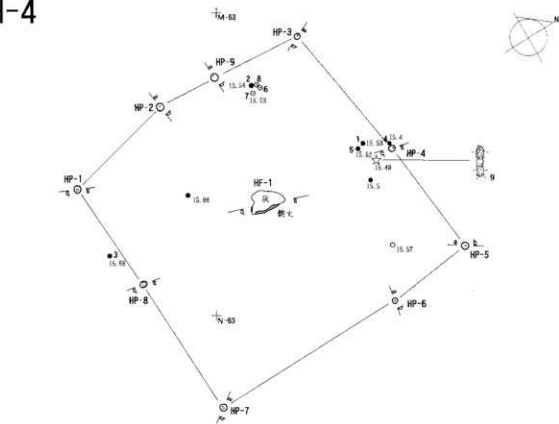
位置：M-62・63 / N-62・63区

規模：3.80×3.72m 平面形：ほぼ正方形 長軸方向：N-2° W

調査：Ⅲ層を数cm掘り下げたところで灰を検出した。住居跡の可能性を考え、周囲を慎重に掘り下げた。柱穴の多くはⅣ層上面で小型円形の黒色土として認識された。すべて半截し、断面形状などから柱穴と確定していった。柱穴が灰を取り囲むような配列をとったため平地住居跡とした。HF-1については土壌サンプルを採取した。フローテーション法による選別作業を行い、炭化材、動物遺存体などが得られた。

付属遺構：炉1か所(HF-1)、柱穴9基(HP-1~9)を確認した。炉は住居跡ほぼ中央に位置する。明瞭な焼土層はなく、灰層の下と縁にごく少量の褐色を呈する焼土が残存するのみである。灰

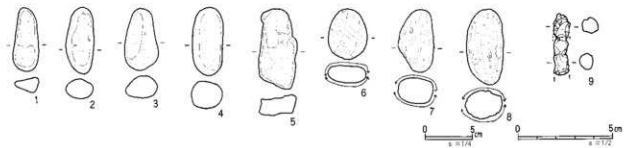
UH-4



- 1 遺跡の位置を示す。HP-1、HP-2、HP-3、HP-4、HP-5、HP-6、HP-7、HP-8、HP-9、HF-1の位置を示す。
- 2 遺跡の位置を示す。HP-1、HP-2、HP-3、HP-4、HP-5、HP-6、HP-7、HP-8、HP-9、HF-1の位置を示す。



- 1 遺跡の位置を示す。HP-1、HP-2、HP-3、HP-4、HP-5、HP-6、HP-7、HP-8、HP-9、HF-1の位置を示す。
- 2 遺跡の位置を示す。HP-1、HP-2、HP-3、HP-4、HP-5、HP-6、HP-7、HP-8、HP-9、HF-1の位置を示す。
- 3 遺跡の位置を示す。HP-1、HP-2、HP-3、HP-4、HP-5、HP-6、HP-7、HP-8、HP-9、HF-1の位置を示す。



図IV-8 UH-4

層は最大厚約5cmで、非常に細かい細骨片がみられる。一部に残存する焼土は漸移的な状況ではなく、この場に置かれたものの可能性が高い。

柱穴は住居外周に9基みられる。柱穴は直径10cm前後で、深さは10～36cmとばらつきがありⅤ層まで到達しないものも多くみられる。傾きはあまりみられない。覆土はⅢ層黒色土主体でしまりが弱い。

遺物出土状況：遺物は礫9点・軽石製石製品3点・金属製品1点である。住居北側に多く分布する。またHF-1土壌サンプルからは微量ではあるがサケ科の椎骨・歯などが得られた。

掲載遺物：1～5は棒状礫。5は石英質の礫。6～8は軽石製石製品で、他の棒状礫と同様の形態に研磨整形されている。棒状礫と軽石製石製品はほとんどにススの付着がみられる。9は断面円形の棒状鉄製品の端部。加工前の鉄素材であろう。

時期・性格：1739年以前のアイヌ文化期の平地住居跡。なおHF-1出土の炭化材について放射性炭素年代測定を行ったところ暦年較正年代範囲で1617AD-1670AD (2σ・49.1%)という結果が出た。(詳細はⅣ章-1)

UH-5 (図Ⅳ-9・10・表Ⅳ-1・6・8・10・11・13・図版6・26・28・32)

位置：D-62・63 / E-62・63・64 / F-62・63・64区。住居跡群の北側端に位置する。

規模：7.55×5.58m **平面形**：長方形 **長軸方向**：N-68° W

調査：Ⅲ層上面で灰および焼土を3か所検出した。その周囲で小刀や棒状礫が出土していたため住居跡の可能性を考え、柱穴の検出に努めた。周辺は天地返しの影響でⅤ層面まで攪乱されており、柱穴の多くはⅣ層もしくはⅤ層上面での確認となった。これらはすべて半截し、土層や断面形状から柱穴と判断した。灰・焼土を取り囲む配列となったため、平地住居跡と認定した。長軸が7mを超える遺跡では最も大型の住居跡である。

灰および焼土の土壌はすべて採取し、フローテーション法による選別作業を行った。炭化材・炭化種子・動物遺存体が得られた。

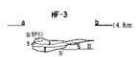
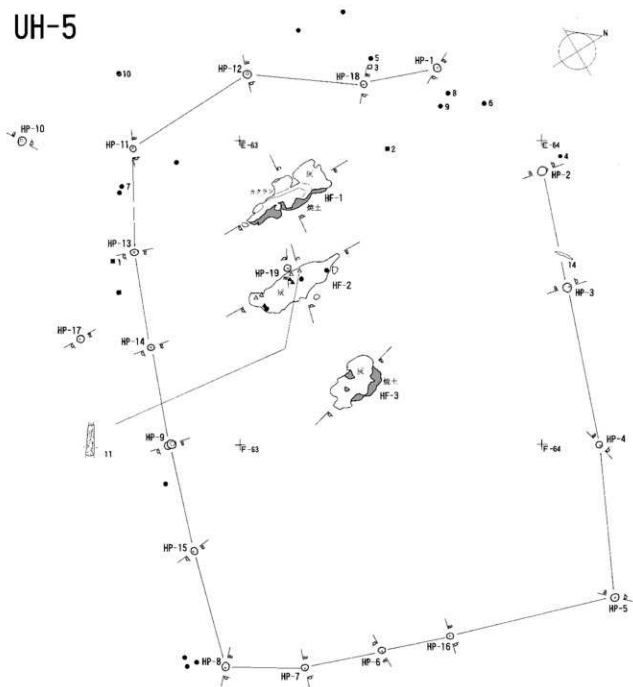
付属遺構：炉3か所 (HF-1～3)、柱穴19基 (HP-1～19) を確認した。炉は長軸付近、住居西側にやや偏って位置する。HF-1・2については大きく天地返しの影響を受けており、本来の場所から北西に移動しているようである。HF-1は約2cmの焼土上部に15cm程の厚い灰層がある。HF-2は灰層のみで、HF-1と一体であった可能性もある。灰層の厚さは10cm程で、灰中からは骨角器・黒曜石製フレイク・棒状礫・シカやカワシシユガイなどの動物遺存体が出土している。HF-3はごく一部攪乱の影響があるがほぼ形状を残す。灰層と焼土層の大きく2層に分かれ、上部灰層は最大厚約7cm、下部焼土層は橙色を呈し、断面はレンズ状となる。焼土の最大厚は約10cmである。

柱穴は住居外周16基、住居外側2基、住居内部1基である。柱穴の直径は10cm前後で、深さは20～30cmのものが多い。断面形状は先端が尖り、傾きがあるものは少ない。HP-9には掘り方がみられる。

遺物出土状況：遺物はすり石2点・黒曜石製フレイク3点・加工痕ある礫1点・礫22点・骨角器3点・小刀1点・微細鉄片である。遺物は住居縁の内外に分布する。住居北側角には棒状礫がややまとまってみられ、住居北側壁際からは小刀が出土している。HF-2灰層からは骨角器、黒曜石フレイクが出土した。またHF-1・2・3土壌サンプルからは微細鉄片、カニ?・カワシシユガイ・コイ科・サケ科・ヤチネズミ・シカなどの動物遺存体、イネ・アワ・ヒエ・クルミなど炭化種子が得られた(詳細はⅣ章-2・3)。

掲載遺物：1・2はすり石。3～9は棒状礫。ほとんどにススが付着している。10はやや大型の泥岩礫である。11～13は骨角器。いずれもシカ中手足骨製の可能性が高い。11は骨針。12は中柄である。

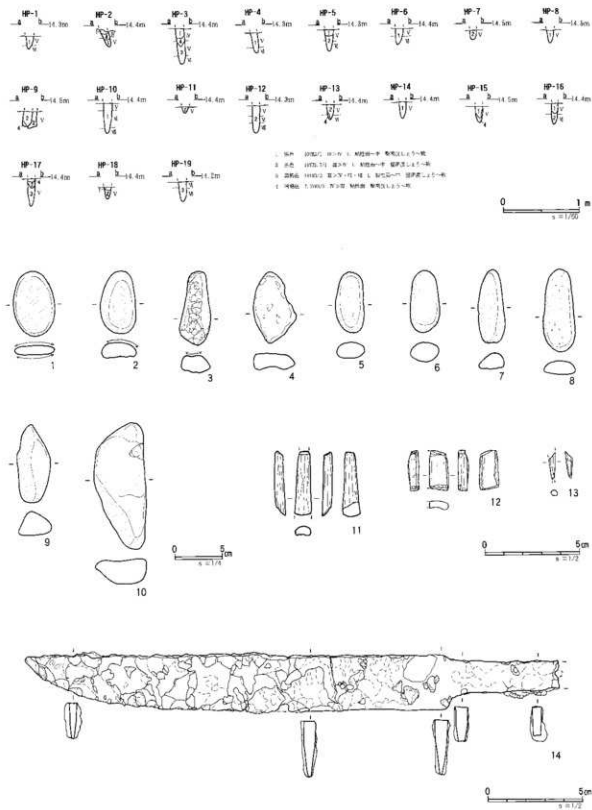
UH-5



- 1 1.5m x 0.5m の石の塊
- 2 2.0m x 1.0m の石の塊
- 3 3.0m x 1.5m の石の塊
- 4 4.0m x 2.0m の石の塊
- 5 5.0m x 2.5m の石の塊
- 6 6.0m x 3.0m の石の塊
- 7 7.0m x 3.5m の石の塊

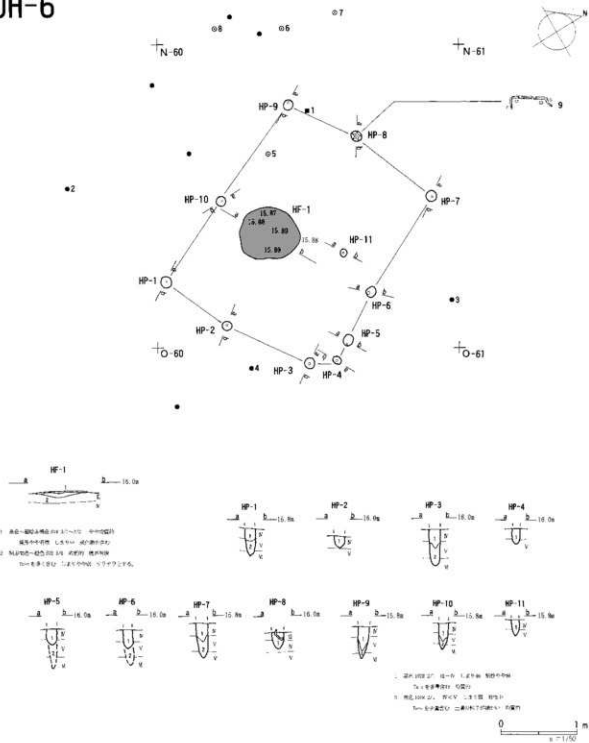


図IV-9 UH-5



図Ⅳ-10 UH-5 柱穴と出土遺物

UH-6



図IV-11 UH-6

13の正面上端は横に溝が切られている。14は刃部長22.5cm・刃部幅2.8cmの両区の小刀。平棟平造で、^{刃部}棟区が浅く、^{はさき}刃区が深い。刃区の手前の刃の使い減りが著しい。茎端を欠損し、目釘孔も半欠となっている。ほかにHF-1・HF-2から検出した微小鉄片がある。製品加工時などに剥離した破片であろうか。

性格・時期：1739年以前のアイヌ文化期の大型平地住居跡。HF-2灰層から検出した炭化クルミ堅果について放射性炭素年代測定を行ったところ暦年較正年代範囲で1487AD-1647AD (2σ・95.4%) という結果が出た。(詳細はⅢ章-1)。(愛場・三浦)

UH-6 (図Ⅳ-11・12・表Ⅳ-1・6・8・11・13・図版7・26・29)

位置：N-60 / O-60区

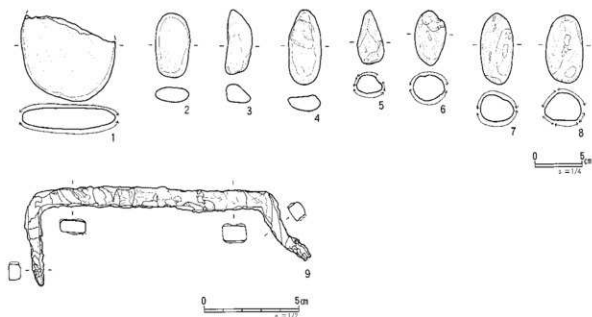
規模：3.18×2.64m 平面形：長方形 長軸方向：N-68° E

調査：Ⅲ層を数cm掘り下げたところ、灰を含む焼土を検出し、周辺から棒状礫が少数出土した。平地住居跡の可能性があると考え、柱穴の検出に努めた。Ⅳ層上面で小型円形の黒色土のまとまりを検出し、すべて半載して断面観察を行い、柱穴を確認した。焼土を取り囲む配列となったため、住居跡と認定した。なお焼土については土壌サンプルを採取し、フローテーション法による選別作業を行った。

付属遺構：炉1か所(HF-1)、柱穴11基(HP-1～11)を確認した。炉HF-1は住居跡中央部から西寄りに位置する。平面形は円形に近い。上面に炭化材片をやや多く含む暗赤褐色土があり、以下は灰がやや均質に含まれる赤褐色土である。被熱層は最大厚9cmである。

柱穴は住居外周10基、住居内部1基である。先端は尖るものが多いが、丸みを帯びるものも複数認められる。わずかに傾くものがあるが、その方向は一定でない。外周の柱穴は、主に径が10cmを超える比較的太い柱穴で構成される。柱穴の間隔は東側の補助的なものを除き、おおむね1～1.5mほどである。柱穴の覆土は、しまりの弱い黒色土がほとんどである。

遺物出土状況：遺物はすり石1点・礫12点・軽石製石製品4点・鏡(かすがい)1点である。鏡はHP-8覆土上部から出土した。またHF-1土壌サンプルからはサケ科魚骨・ヤチネズミなど動物遺存体、イネ・ヒエ・キハダ属・クリなどの炭化種子が得られた(詳細はⅢ章-2・3)。



図Ⅳ-12 UH-6出土の遺物

掲載遺物：1はすり石。2～4は棒状礫。5～8は軽石製石製品。1～8までススの付着がみられる。9は柱穴HP-8の覆土中から発見された鏝である。出土位置から見て、実際に建築に使われていたものとみられる。断面は四角形、片端部が激しく外に曲っている。鉄素材とも成り得るものである。時期・性格：1739年（樽前a降下軽石）以前のアイヌ文化期の平地住居跡である。なおHF-1出土の炭化材を試料として放射性炭素年代測定を行ったところ、暦年校正年代範囲で1491AD～1603AD（ 2σ ・65.6%）という結果が出た（詳細はⅣ章-1）。

UH-7（図Ⅳ-13～15・表Ⅳ-1・6～9・11・13・図版8・27・29）

位置：P-60・61 / Q-60・61 / R-61区

規模：6.27×4.69m 平面形：長方形 長軸方向：N-80° W

調査：土坑墓GP-1の周辺調査のためⅢ層をわずかに掘り下げたところ、複数の焼土および灰や炭化物の集中域を検出し、周辺から金属製品や棒状礫が出土した。焼土は2列にまとまり、複数の平地住居跡があることが想定され、柱穴の検出に努めた。Ⅳ層上面で小型円形の黒色土を検出し、すべて半載して断面観察を行い、柱穴を認定した。焼土を取り囲む配列が2組確認できたため、2軒の住居跡（UH-7・8）と認定した。UH-7の南東部とUH-8の北西部が一部重複している。UH-7の長軸方向はGP-1と9°の傾きの違いがある。

焼土は土壌サンプルを採取し、フローテーション法による選別作業を行った。

付属遺構：焼土4か所（HF-1～4）、柱穴20基（HP-1～20）を確認した。焼土は長軸（東西南方向）中央部に列を成しており、東から順に番号を付した。HF-1は上面に炭化物がやや多く含まれ、被熱層が薄く不整形である。HF-2・HF-3は住居跡中央部からわずかに東寄りに位置する。平面形はHF-2がやや不整な楕円形、HF-3はほぼ楕円形で隣接する。HF-3の断面は3層に分かれており、①上面付近は炭化物・黒色土が混じる暗色の被熱層、②中位は純度の高い灰層、③下位は黒色土やTa-cが強く被熱した焼土となっている。焼土層は楕状にくぼんでいる。HF-2・3を含めた範囲が住居の炉の主体として機能していたとみられる。HF-4は不整な楕円形で被熱層が薄い。HF-3と同様に炭化物層・灰層・焼土層をなしている。またHF-4周辺から炭化物が多く出土している。

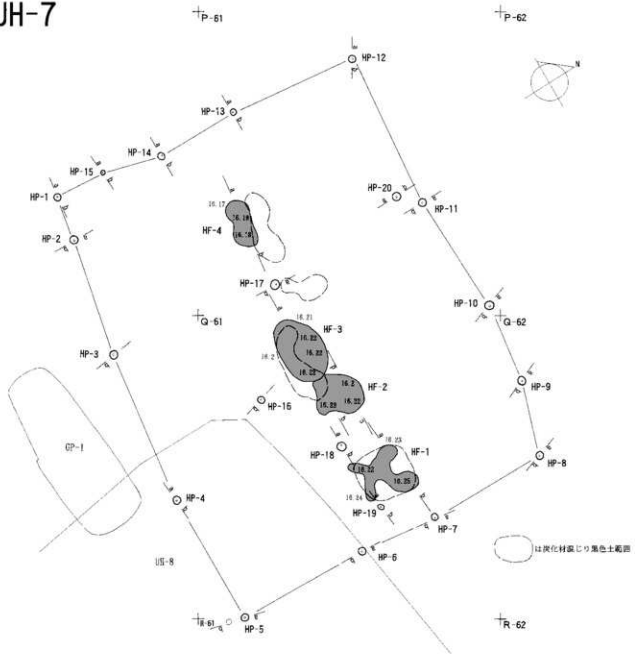
柱穴は住居外周15基、住居内部5基である。すべて先端は尖り、外周の柱穴は住居内側にわずかに傾くものがある。柱穴の深さは、住居外周東側の柱穴列の方が西側の柱穴列よりやや深い。柱穴の間隔は補助的な柱穴を除いて1.1～2mほどであり、長軸中央部のHP-7・8およびHP-15・16の間隔は約1.0mと狭くなっている。これらの柱穴を結んだ範囲に炉が収まっており、住居の中軸を成している。内部の柱穴は炉付近に4基（HP-16～19）、北側外周付近に1基（HP-20）確認できた。HP-16・17は径10cm以上で深さ50cm前後の大型の柱穴で、炉HF-2・3の東西に位置する。

柱穴の覆土は、しまりの弱い黒色土がほとんどである。

遺物出土状況：遺物は砥石1点・すり石2点・礫26点・軽石製石製品5点・刀子2点・魚突鉤鈎1点・鉄片である。遺物の大半は住居跡南西側から出土している。炉HF-2の上面から魚突鉤鈎とすり石が出土している。またHF-2の上面の土壌サンプルからシカ、HF-3・4土壌サンプルからコイ科・サケ科・二枚貝などの動物遺存体とヒエ・キビなどの炭化種子が得られた（詳細はⅣ章）。

掲載遺物：1～22のほとんどにススが付着する。1は砥石。1面に平滑な擦り面がある。2・3はすり石。側面以外が広く擦られている。2には1面および側面に炭化物が付着する。4は緑色を呈するチャート製の火打石。5は赤色のチャート原石。6～16は棒状礫。17・18は扁平礫。平らな面をもつ。19～22は軽石製石製品。他の棒状礫と同様の形状に研磨整形されている。

UH-7



1. 灰化土層 (厚さ約 10cm)
2. 灰化土層 (厚さ約 10cm)

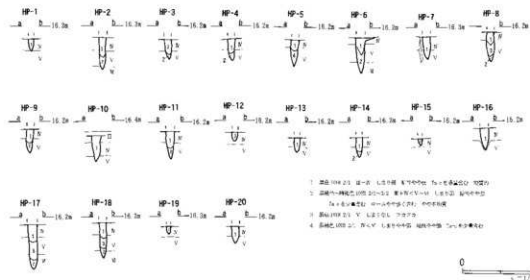
1. 灰化土層 (厚さ約 10cm)
2. 灰化土層 (厚さ約 10cm)

1. 灰化土層 (厚さ約 10cm)
2. 灰化土層 (厚さ約 10cm)
3. 灰化土層 (厚さ約 10cm)

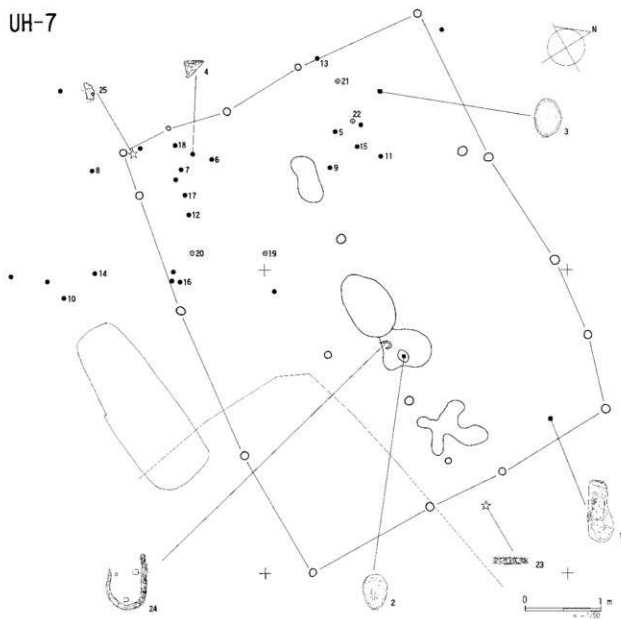
1. 灰化土層 (厚さ約 10cm)
2. 灰化土層 (厚さ約 10cm)
3. 灰化土層 (厚さ約 10cm)



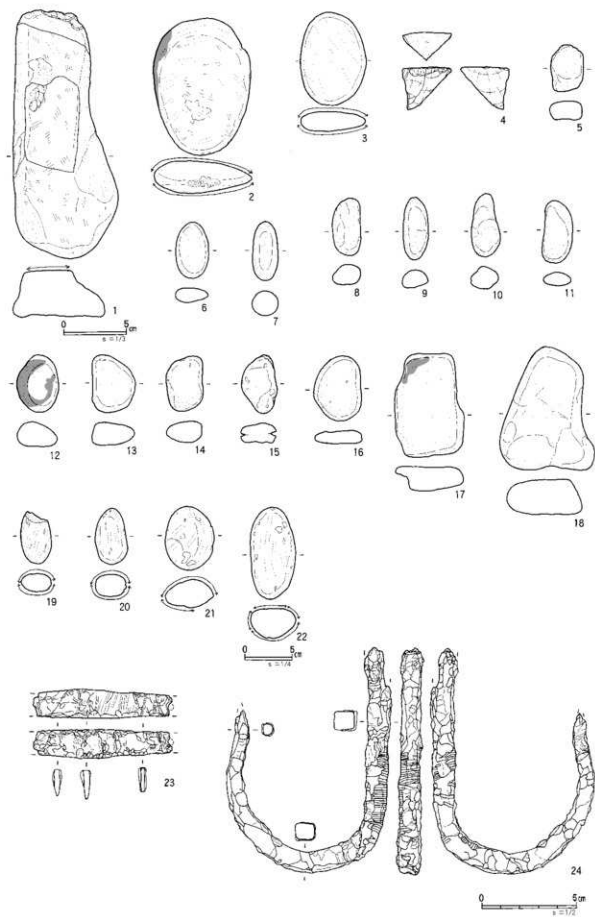
図IV-13 UH-7



UH-7

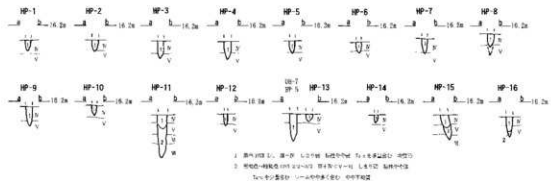
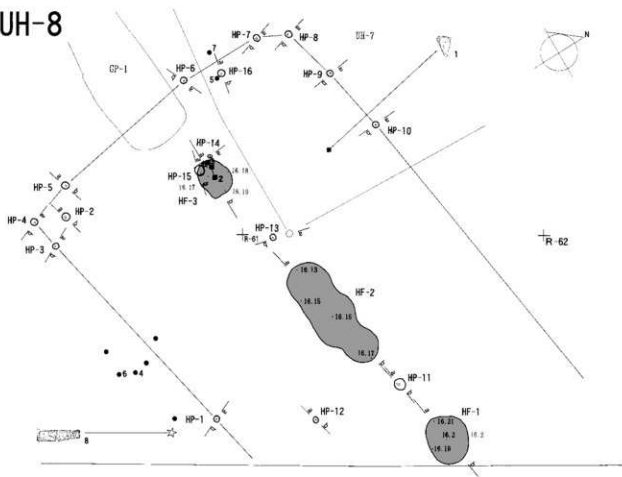


図IV-14 UH-7 柱穴と遺物出土状況



図Ⅳ-15 UH-7出土の遺物

UH-8



図IV-16 UH-8

23は刃部・茎とも端部を欠く小型の刀子。明瞭な区は無いが、棟側がほぼ平滑ののに対し、刃側は最大幅部分が区とされており、そこには刃潰れがある。茎側へは徐々に幅を減じてゆく。茎欠損端に目釘孔の半欠がみられるが、刃区から茎にかけては繊維（樹皮？）を巻いた痕跡があり、茎が折れた後に木の柄を付けずに繊維巻きで柄の代用をしていた様子が窺える。細かい作業用のマキリである。ほかに長さ11cm・幅1cmほどの細身の刀子がある。出土したときから錆や劣化が著しく、小破片に分解してしまい復元できなかった。24は装着時の鉤紐との結合巻き紐痕が残る魚突鉤鈎（マレク）である。指4本分の幅を持つ大型のマレクだが、鉤側の受けは浅い。断面正方形の棒状品を曲げて作られており、鉤先は稜を落として内外反させた尖端部となっている。胴部端に割られたような痕跡があり、さらに鉄材で長めに継いであった可能性もある。このほかに薄い板状の鉄片がある。鉄製品加工時に剥離した破片であろう。

時期・性格：1739年（樽前a降下軽石）以前のアイヌ文化期の平地住居跡である。UH-8と重複する範囲の柱穴の残存状況がUH-7の方が良いことなどから、UH-8よりも新しいとみられる。なおHF-3出土の炭化材を試料として放射性炭素年代測定を行ったところ、暦年較正年代範囲で1466 AD～1640 AD（ 2σ ・95.4%）という結果が出た（詳細はⅢ章-1）。

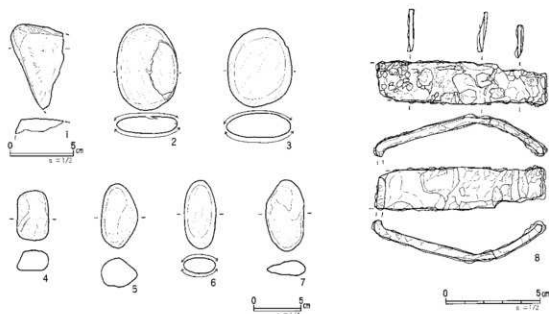
UH-8（図Ⅳ-16・17・表Ⅳ-1・6・9・11・13・図版9・26・29）

位置：Q-60・61 / R-60・61区

規模：(6.2)×4.4m 平面形：長方形 長軸方向：N-82° E

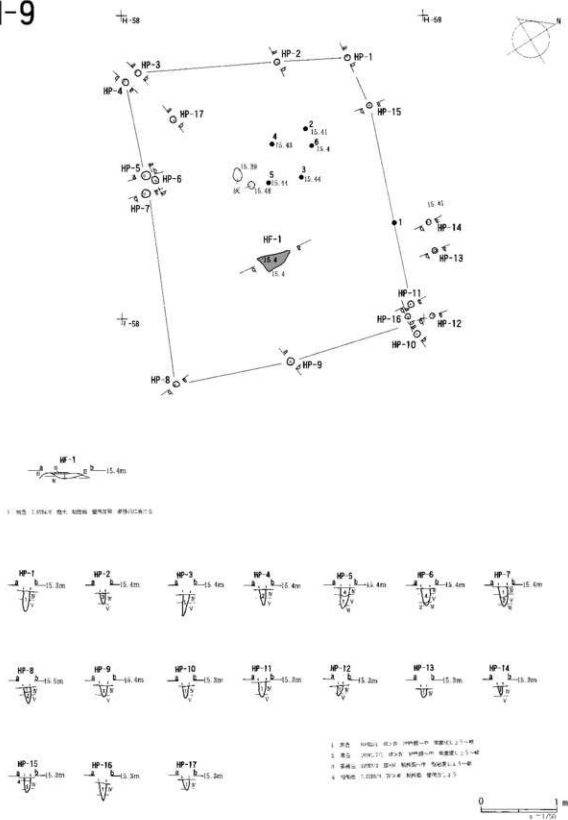
調査：土坑墓GP-1の周辺調査の際に検出した2軒の住居跡のうち南東側に位置する1軒である。柱穴間の広い部分はさらにピンボールを差し込むなど柱穴の検出に努めたが、特に住居外周の西側以外で確認できたものは少ない。住居外周西側の一部と土坑墓GP-1が重複しており、長軸方向が近似することから、関連があるものと思われる。なお焼土は土壌サンプルを採取し、フローテーション法による選別作業を行った。

付属遺構：炉3か所（HF-1～3）、柱穴16基（HP-1～16）を確認した。炉HF-1は住居跡中央部から東寄り、調査区境に位置する。ほぼ楕円形で、上面に少量の炭化材を含み、被熱層は最大7cm



図Ⅳ-17 UH-8出土の遺物

UH-9



図IV-18 UH-9

で明度が高い。HF-2は住居跡中央からやや東寄りに位置する、長軸1.6mに及ぶ長楕円形の炉である。3ヵ所の楕円形のまとまりが連続したものである。上面に炭化物を少量含み、被熱層は最大10cmを超え、非常に明度が高い。灰が少量含まれる。住居の炉の主体として機能したとみられる。HF-3はほぼ楕円形の小型の焼土で、被熱層はやや薄いが見度が高い。

柱穴は住居外周9基、住居内部7基である。すべて先端は尖り、外周の柱穴は住居内側にわずかに傾く。住居外周の柱穴は比較的細く浅い。内部の柱穴は炉付近のものが多く、住居内部の補助的なものと思われる。HP-11・15は径10cmを超える。HP-15はHF-3と重複し、HP-15が古い。一方HP-14は炉HF-3付近にある細い柱穴で、関連があるものと思われる。

柱穴の覆土は、しまりの弱い黒色土がほとんどである。

遺物出土状況：遺物は砥石1点、すり石3点、礫8点、鉄製品（刀子加工品1点、棒状品1点）である。またHF-1・2土壌サンプルからはサケ科・シカ、HF-4からはコイ科・サケ科などの動物遺存体とイネ・アワ・キビなどの炭化種子が得られた（詳細はⅤ章-2・3）。

掲載遺物：1は凝灰岩製の砥石。平滑な擦り面をもつ。炭化物およびススが付着する。2・3はすり石。4～7は棒状礫。

8は幅2.1cmの帯状の鉄製品。中央部で緩く折れ曲がっている。刃潰しをした刀子の加工品とみられ、明瞭な段のある棟区と緩い刃区があり、その部分から先の茎部分で幅狭となる。刃部側の端は屈曲した状態で先を失っている。ほかに長さ1cm強の棒状品片がある。出土したときから錆や劣化が著しく、小破片に分解してしまい復元できなかった。

時期・性格：1739年（樽前a降下軽石）以前のアイヌ文化期の平地住居跡。残存状況などから、UH-7およびGP-1より古いとみられる。なおHF-2出土の炭化材を試料として放射性炭素年代測定を行ったところ、暦年較正年代範囲で1447AD～1529AD（2σ・53.8%）という結果が出た（詳細はⅤ章-1）。

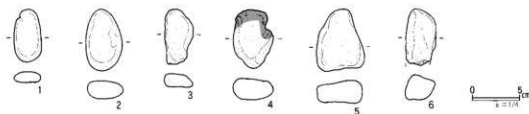
（阿部・三浦）

UH-9（図Ⅳ-18・19・表Ⅳ-1・6・9・13・図版10・26）

位置：H-58・59 / I-58区。住居跡群の西端の緩斜面に位置する。

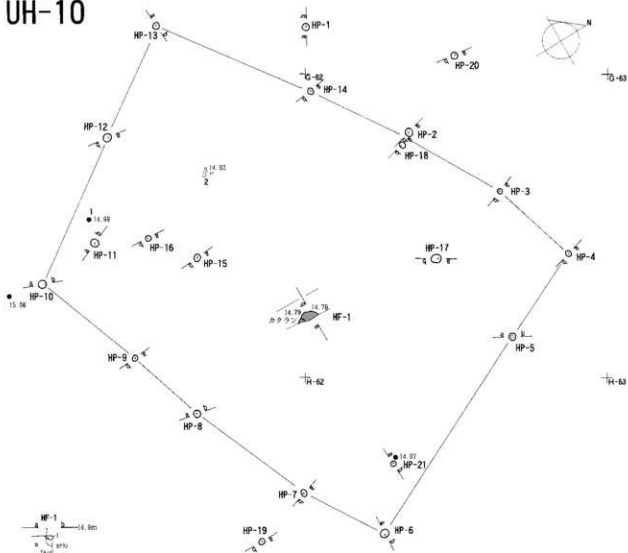
規模：3.95×3.44m **平面形**：長方形 **長軸方向**：N-66° W

調査：Ⅲ層を数cm掘り下げたところで焼土と少量の灰のまとまりを検出した。住居跡の可能性を考え、柱穴の検出に努めた。柱穴はⅣ層上面で小型円形の黒色土として確認され、すべて半截し、断面形状などから柱穴と確定していった。焼土を取り囲む配列となったため、平地住居跡とした。灰および焼土の土壌はすべて採取し、フローテーション法による選別作業を行った。動物遺存体が少量得られた。

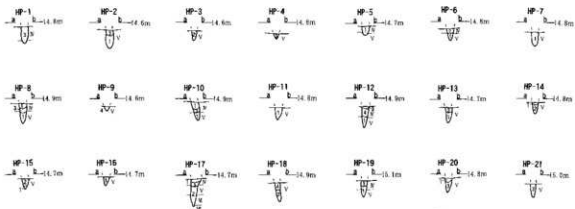


図Ⅳ-19 UH-9出土の遺物

UH-10



1. 図1.05244 横切 断面図 断面図
2. 断面図



1. 断面 1:05244 横切 断面図 断面図
2. 断面 1:05244 縦切 断面図 断面図
3. 断面 1:05244 縦切 断面図 断面図
4. 断面 1:05244 横切 断面図 断面図



図IV-20 UH-10

付属遺構： 炉1か所（HF-1）、柱穴17基（HP-1～17）を確認した。炉は住居長軸上の東よりに位置する。焼土は平面形が三角形にちかく、断面はレンズ状となる。層厚は約6cmである。住居ほぼ中央部には炉に関連する灰の小さなまとまりが2か所みられた。

柱穴は住居外周16基、住居内部1基である。柱穴の直径は5～10cmで比較的細く、深さは検出面から11～28cmとばらつきがある。断面形状は先端が尖り、傾きがないものが多い。覆土はしまりが弱い黒色土を主体とする。HP-5～7とHP-10～12・16はそれぞれごく近接して存在しており、補強や建て替えなどが行われた可能性がある。

遺物出土状況： 遺物は礫6点である。住居中央やや西側に分布する。また灰やHF-1土壌サンプルからはコイ科、サケ科などの動物遺存体が得られた（詳細はⅤ章-2・3）。

掲載遺物： 1～6は棒状礫。すべてススが付着する。4は上部に炭化物が付着し、光沢をもつ。

時期・性格： 1739年以前のアイヌ文化期の平地住居跡。HF-1灰層出土の炭化材について放射性炭素年代測定を行ったところ暦年較正年代範囲で1406AD-1461AD（2σ・95.4%）という結果が出た。（詳細はⅤ章-1）

UH-10（図Ⅳ-20・21・表Ⅳ-1・6・7・9・11・13・図版11・29）

位置： F-61 / G-61・62 / H-61・62区。UH-5の南側に位置する。

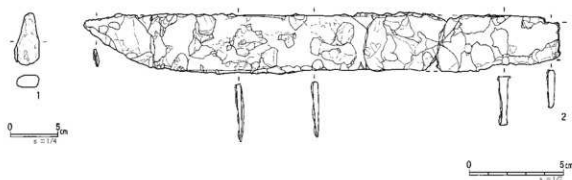
規模： 5.90×4.60m **平面形：** 長方形 **長軸方向：** N-62° E

調査： 周辺グリットには広く杭穴が分布しており、その中で列になるものがあつたため周辺を精査した。周囲は耕作の天地返しの影響を受けていたため、柱穴確認に手間取つたが、Ⅳ層およびⅤ層で小型円形の黒色土を検出し、長方形の配列が確認できた。配列内部の攪乱部分に一部焼土がみられたため平地住居跡と判断した。焼土の土壌はすべて採取し、フローテーション法による選別作業を行った。微量の動物遺存体が検出した。

付属遺構： 炉1か所（HF-1）、柱穴21基（HP-1～21）が確認された。HF-1は住居中央やや東側に位置する。焼土は天地返しによる攪乱で大部分が破壊されている。

柱穴は住居外周14基、住居外側の付属施設？3基、住居内部4基である。柱穴の直径は10cm未満のものが多い。断面形状は先端が尖り、傾きはみられないものが多い。覆土はしまりが弱い黒色土を主体とする。

遺物出土状況： 遺物は礫3点・小刀1点である。HF-1土壌サンプルからは微量のサケ科などの動物遺存体が得られた。



図Ⅳ-21 UH-10出土の遺物

掲載遺物: 1は棒状礫。2は刃部長21.2cm・刃部幅3.0cmの棟区のある小刀。刃側は棟区よりもかなり鋒側から刃潰しされ、刃区が作り出されている。平棟、薄身の平造で、刃部の中央部に使い減りがみられる。茎の大半を欠損している。

時期・性格: 1739年以前のアイヌ文化期の大型平地住居跡。 (愛場・三浦)

UH-11 (図Ⅳ-22・表Ⅳ-1・7・13・図版12)

位置: K-59・60 / L-59・60区

規模: 5.90×4.60m **平面形:** 長方形 **長軸方向:** N-4° W

調査: Ⅲ層を数cm掘り下げたところ、灰を伴う焼土を検出した。平地住居跡の可能性があり、柱穴の検出に努めた。Ⅳ層上面で小型円形の黒色土を検出し、すべて半載して断面観察を行い、柱穴を確定した。周辺に多数の柱穴があり規則的な配列を確認することは困難であったが、焼土の北側および南側に柱穴が列を成すことを確認し、住居跡と認定した。なお灰・焼土については土壌サンプルを採取し、フローテーション法による選別作業を行った。

付属遺構: 炉1か所 (HF-1)、柱穴10基 (HP-1~10) を確認した。炉HF-1は住居跡東寄りに位置する。耕作による掘削のため、残存状況はあまり良くない。灰が厚く堆積しており、下端付近に明赤褐色の薄い被熱層がある。

検出してきた柱穴は住居外周9基、住居内部1基である。先端は尖るものが多い。径10cmをこえる柱穴HP-2・6は住居内側に傾く。柱穴の覆土は、しまりの弱い黒色土がほとんどである。

遺物出土状況: 遺物は出土していない。またHF-1土壌サンプルからはコイ科、サケ科、二枚貝などの動物遺存体が得られた (詳細はⅧ章-2)。

時期・性格: 1739年 (樽前a降下軽石) 以前のアイヌ文化期の平地住居跡である。 (阿部)

2. 竪穴状遺構

UH-12 (図Ⅳ-23・表Ⅳ-1・7・図版13)

位置: A-58 / B-58区。調査区北端の緩斜面に位置する。北東側5m程にはUA-2がある。

規模: (2.95)×(1.20) / (2.57)×(0.80) / 0.23m **平面形:** 不明 **長軸方向:** 不明

調査: Ⅲ層上面で調査区縁に半円形のTa-a火山灰の落ち込みを確認した。Ta-a火山灰を除去するとⅢ層が窪んでおり、調査区境にトレンチを設定し、掘り下げた。浅い皿状の掘り込みと周囲に掘り揚げ土と考えられる土層を断面で確認した。半分以上は調査区外に存在すると予想され、残りの部分を土層観察用のベルトを残しつつ、掘り下げていった。掘り込みはⅣ層中位までと浅く、立ち上がりは不明瞭である。掘り揚げ土は周囲に還る。床面では深さ15cmほどの小土坑を確認した。半載し、断面を記録した。

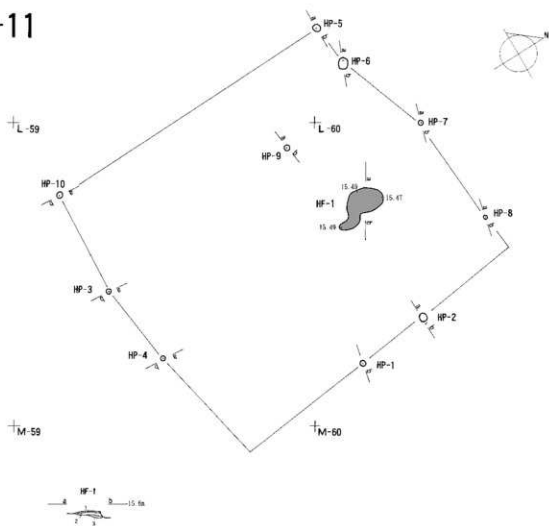
付属遺構: 小土坑1基 (HP-1) を確認した。柱穴の可能性はある。

遺物出土状況: 遺物は礫片1点である。

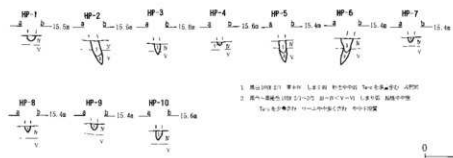
掲載遺物: なし。

時期・性格: 炉は検出されなかったが浅皿状の竪穴住居跡の可能性はある。本遺構の緩斜面下にはアイヌ文化期の灰集中があり、その直下のⅢ層からはⅧ群土器が出土している。時期は檜文文化期～アイヌ文化期とする。

UH-11

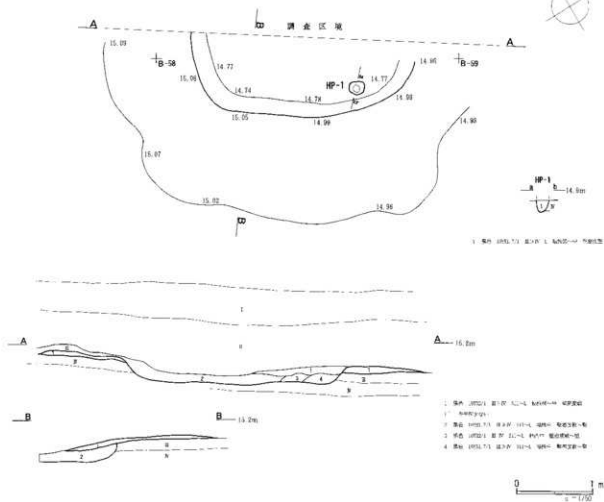


1. 遺構は1973.5.13.に4.5m×4.5mの発掘調査の結果明らか
2. 遺構は1973.5.13.に4.5m×4.5mの発掘調査の結果明らか
3. 遺構は1973.5.13.に4.5m×4.5mの発掘調査の結果明らか



図IV-22 UH-11

UH-12



図IV-23 UH-12

3. 建物跡

UB-1 (図IV-24・表IV-1・7・図版14)

位置：L-64・65 / M-64・65区。UH-1とUH-4の間の平坦面に位置する。

規模：3.91×3.55m 平面形：長方形（正方形に近い）

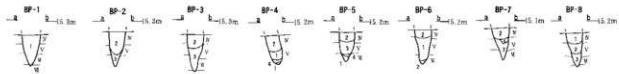
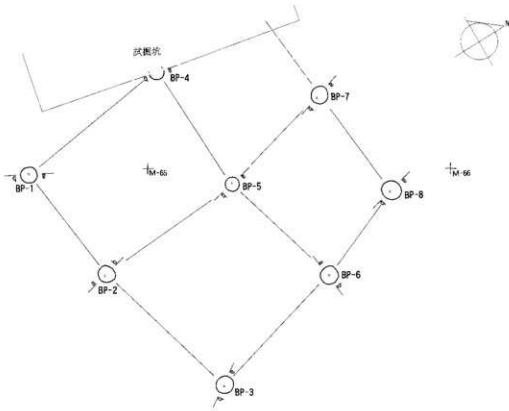
調査：試掘調査で土層断面に直径15cm程、先端が尖る形状の柱穴を確認した。このため周辺を精査したところ、IV層上面で他にも同様の柱穴が見つかった。試掘坑により、一か所破壊されているが、柱穴はほぼ1.5mの間隔で、「田」の字状の配列となる。

付属遺構：柱穴8基（BP-1～8）を確認した。直径は20cm前後で、平地住居跡の柱穴より太い。断面形状は先端が尖り、BP-4以外傾きはみられない。ほとんどが検出面からの深さが40cm以上となる。

遺物出土状況：遺物は出土していない。

時期：アイヌ文化期の高床式倉庫と考えられる。

UB-1

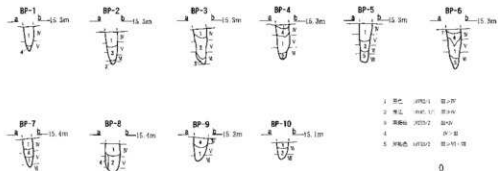
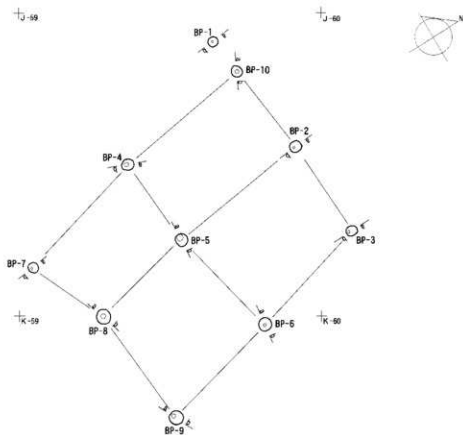


- 1 断面 1975.7.1 9:30 掘 5.1~4.4 断面(6~1) 断面(4)~(8)
- 2 断面 1975.7.2 10:30 掘 断面(4)~(8)
- 3 断面 1975.7.2 11:00 掘 断面(4)~(8)
- 4 断面 1975.7.2 11:30 掘 断面(4)~(8)



図IV-24 UB-1

UB-2



- 1. BC JPD-1 0.70'
- 2. BC JPD-1 0.30'
- 3. BC JPD-2 0.30'
- 4. BC JPD-2 0.30'
- 5. BC JPD-2 0.30'



図IV-25 UB-2

UB-2 (図Ⅳ-25・表Ⅳ-1・7・図版14)

位置：J-59・60 / K-59区。南東側にUH-11がある。また杭列5と重複する。

規模：3.67×2.95m 平面形：長方形 長軸方向：N-15° W

調査：Ⅲ層調査中、焼土を2か所検出した。棒状礫など遺物も比較的多く出土したため周辺を精査したところ、Ⅳ層上面で小型円形の黒色土のまとまりが多数みられた。これらのうち他の杭穴より太い直径15cm程の柱穴を抽出したところ、「田」の字状の配列となることがわかった。このため建物跡と判断した。

なお焼土は小型で被熱層が薄い。住居跡の炉ではなく、UB-2にも関連しないと判断した（UF-5・6）。

付属遺構：柱穴10基（BP-1～10）を確認した。柱穴の直径は15cm前後と比較的太い。断面形状は先端が尖るもの（BP-1・2・6・7）と丸みのあるもの（BP-3・4・8～10）、平らになるもの（BP-5）がある。BP-5などは掘立柱の可能性もある。

遺物出土状況：北西外側に棒状礫が分布する。

掲載遺物：なし。

時期：アイヌ文化期の高床式倉庫と考えられる。

4. 土坑墓

GP-1 (図Ⅳ-26・27・表Ⅳ-1・7・11・図版15・16・30)

位置：Q-60区。東側はUH-8と接し、すぐ北側にはUH-7がある

規模：2.37×0.88/1.80×0.61/0.65m 平面形：隅丸長方形 長軸方向：N-89° W

調査：Ⅲ層上面でTa-a火山灰の落ち込みを確認した。Ta-a火山灰を除去するとⅢ層が楕円形に窪み、周辺には掘り揚げ土と思われる黄褐色土が混じる土層が検出した。周辺には鐺、切羽などの銅製品や棒状礫が出土しており、東側、北東側には灰や焼土がみられたためアイヌ文化期の遺構の可能性を考え慎重に調査した。くぼみ長軸とそれに直交する十字の土層観察用ベルトを設定し、焼土との関連をみるため焼土（UH-7 HF-3・UH-8 HF-3）との間にもベルトを設定した。土坑はまず長軸南側半分を掘り下げ、壁とⅦ層面で底面を確認した。長軸土層を記録し、残りの半分の掘り進めた。覆土は黒褐色から暗褐色土の埋め戻しである。遺物は出土せず、土坑底面を精査したが人骨・粘質層などはみられなかった。

土坑底面では壁際近くに4か所の小型円形の黒色土のまとまりを確認した。すべて半截したところ、先端が尖る打ち込み杭の存在がわかった。

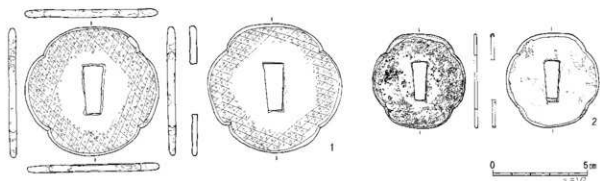
掘り揚げ土は土坑西側から南側にかけての範囲に1～6cmほどの厚さで堆積していた。UH-7・8側には明瞭な掘り揚げ土が存在せず、新旧関係はつかめなかった。

形態：ほぼ東-西に長軸をもつ隅丸長方形。東側に向かっていくにしたがい、やや横幅が広がり台形状になる。

付属遺構：杭穴（SP-1～4）が土坑底面壁際から4か所検出した。直径は10cm程ですべて先端が尖り、土坑底面から40cm以上打ち込まれている。SP-1は西側に傾き、SP-2は内傾、SP-3・4はそれぞれやや外傾する。

遺物出土状況：土坑内からは遺物は出土していない。土坑から西側に約2.5m離れたⅢ層から鐺と切羽が出土している。関連を考え、ここで取り扱う。

掲載遺物：1・2は銅製の鐺と切羽である。1の鐺の図示左面に上に向け、2の切羽がその下に図の



図IV-27 GP-1周辺出土の遺物

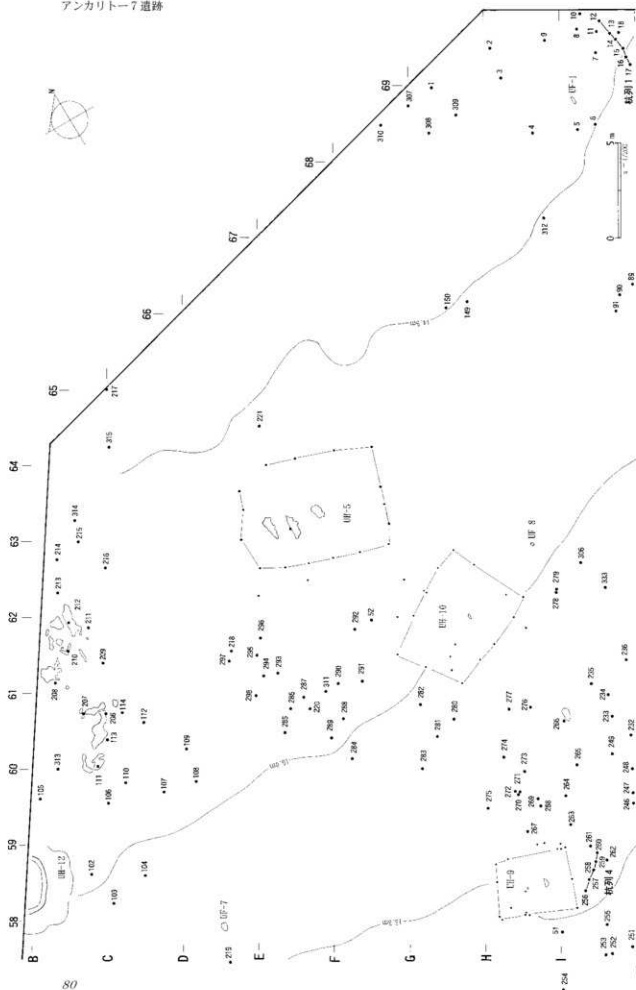
右面が孔も重なる状態で鐿に密着して出土した。両者とも平肉、木瓜形で、鐿は重量がありやや不均等ながら厚味もある。茎襷孔^{みかんこう}だけがあげられ、斧襷孔^{きりぎりし}や小柄襷孔^{こびら}はない。茎襷孔のあげ方と始末は粗く、鐿の孔脇には孔あけでずれた切り線が、切羽の孔の狭い端には切込みと削り残しがみられる。ともに片面（図の左面）は緑青で覆われ白緑～緑～褐緑色と比較的明るい色を呈すが、逆面は褐緑～黒緑である。地の文様は鐿は、両面に斜行格子が線彫りされ列点が施されており、切羽には片面（明るい面）に魚々子が打たれている。いずれも茎襷孔周辺の切羽台にあたる部分には施文されていない。切羽とした2もこの切羽台に文様が無いところからすると、小型で薄い作りの鐿であった可能性がある。1の鐿への施文は明るい面が縦長の斜行格子目、暗い面が横長の斜行格子目であるが、その線彫りは太・細・深・浅とまちまちで、線間の幅も不均一である。ゆがんだ菱形に区画された中に打たれた丸点も1区画1個が基本だが、2個の区画や位置ずれがあるなど施文の質が低い。耳（側面部）は鐿には覆輪はないが黄味がかった銀色に輝く鍍金が施されている。切羽（小型鐿）にはこの鍍金と同じような色の覆輪があるが、かぶせ方は不均等であり、地側にかぶさった緑部にも魚々子が一部打ち付けられている。両者ともあらゆる点で粗雑と言わざるを得ず、金工師の技術で作られたものではなく、半ば素人の手による製作と見受けられる。刀身の残存がないことや、孔をそろえて重なった出土状況からみて、最後は刀装具ではなく装飾品となったものと考えられる。

なお、両者とも蛍光X線分析を行って、成分分析を試みた。地は緑青で覆われており不確実さも残るが、耳部分や覆輪は輝きもあり、一定程度の精度があるといえよう。機器は日本電子株製のエネルギー分散蛍光X線装置（JOEL JSX-3220）を使用し付属のコンピュータ定量分析プログラムによる定量分析を行った。測定条件は電圧30 kV、240秒、X線照射径13mmである。ただし、覆輪には720秒、X線照射径1mmで行った。以下、定量の多い金属元素の結果を示す。

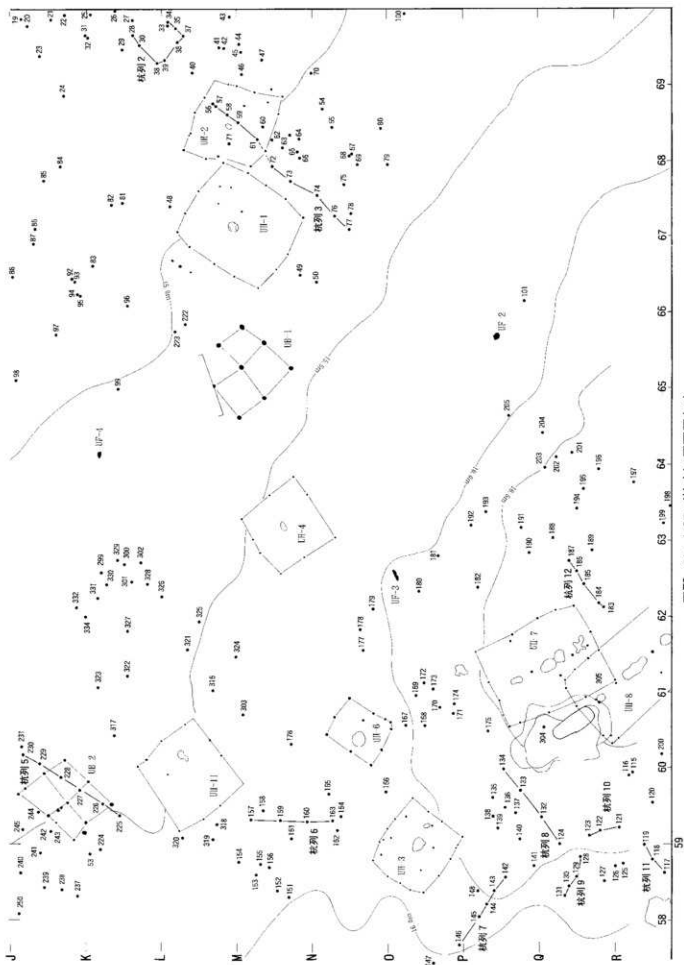
- | | | |
|---|-----|----------------------------|
| 1 | 左図面 | Cu 90.6% |
| | 右図面 | Cu 77.3% |
| | 耳 | Cu 43.1%・Ag 24.2%・Hg 18.6% |
| 2 | 右図面 | Cu 85.5% |
| | 覆輪 | Cu 16.5%・Ag 60.6% |

分析結果から見ると、地は銅、耳や覆輪は銀の可能性が高い。特に鐿の耳からは水銀が検出されており、銀をアマルガム鍍金したものと思われる。

性格・時期：アイヌ文化期の土坑墓。東側の横幅がやや広がるため、遺体は残っていないが頭位は東である可能性が高い。また4隅の柱穴から上屋などの付属構造があった可能性がある。（愛場・三浦）

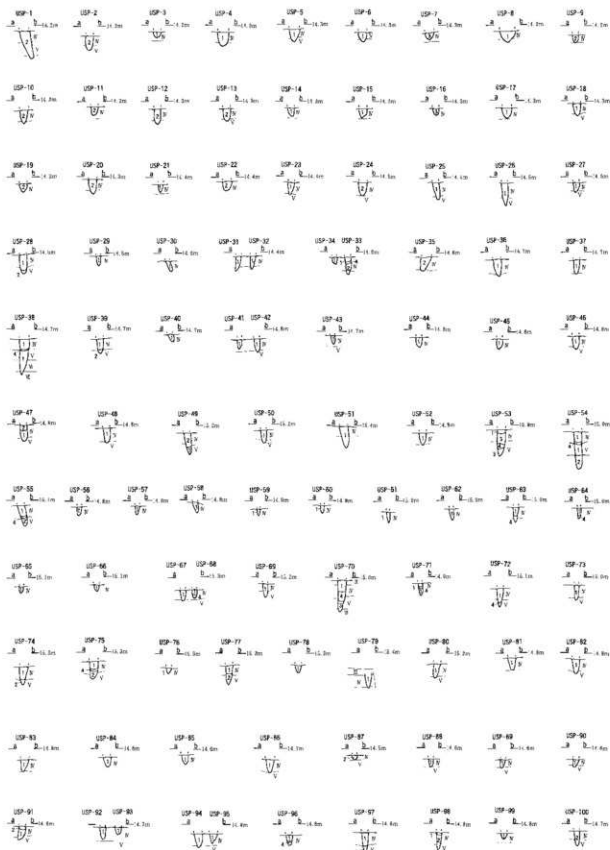


図IV-28 USP (坑穴) 平面図(1)



图IV-29 USP (杭六) 平面图(2)

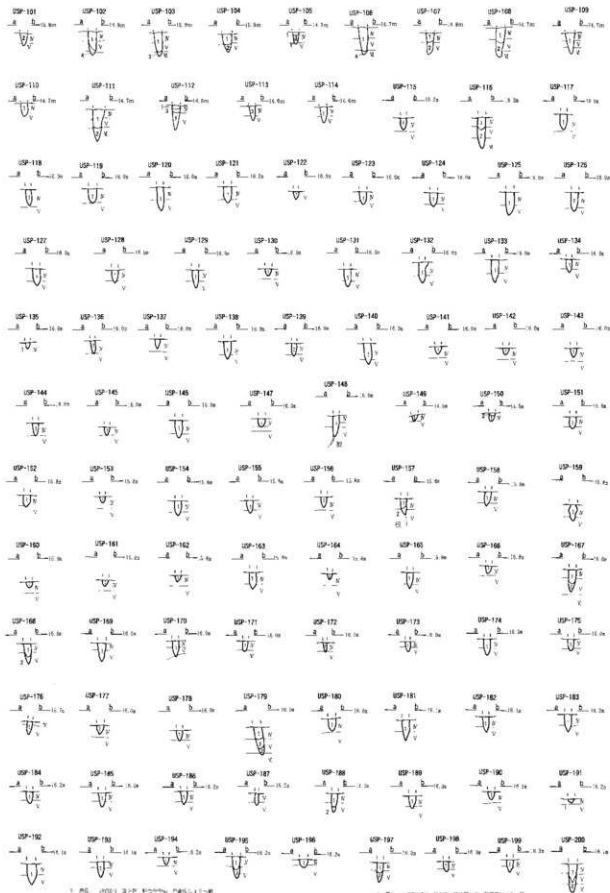
アンカリトール7道跡



1 規格 JIS B 1171 鋼制アンカーボルト(埋入型) JIS B 1172 鋼制アンカーボルト(埋入型)
2 規格 JIS B 1171 鋼制アンカーボルト(埋入型) JIS B 1172 鋼制アンカーボルト(埋入型)

3 規格 JIS B 1171 鋼制アンカーボルト(埋入型) JIS B 1172 鋼制アンカーボルト(埋入型)
4 規格 JIS B 1171 鋼制アンカーボルト(埋入型) JIS B 1172 鋼制アンカーボルト(埋入型)

図IV-30 USP-1~100断面図



1. 内径、外径は、最大値、最小値を示す。

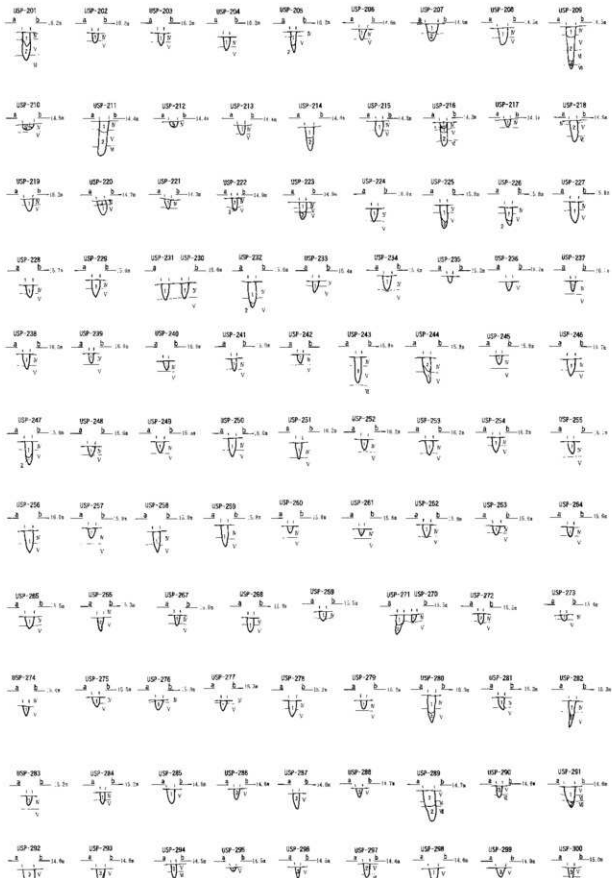
2. 深さは、中心から測定する。

3. 直径は、中心から測定する。

4. 深さは、中心から測定する。

図Ⅳ-31 USP-101~200断面図

アンカリト-7 遺跡

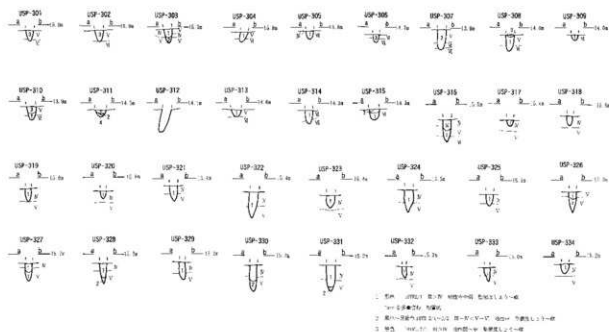


1 図例 2001 2 図例 2002 3 図例 2003 4 図例 2004 5 図例 2005
 6 図例 2006 7 図例 2007 8 図例 2008 9 図例 2009 10 図例 2010
 11 図例 2011 12 図例 2012 13 図例 2013 14 図例 2014 15 図例 2015

1 図例 2016 2 図例 2017 3 図例 2018 4 図例 2019 5 図例 2020
 6 図例 2021 7 図例 2022 8 図例 2023 9 図例 2024 10 図例 2025

1 図例 2026 2 図例 2027 3 図例 2028 4 図例 2029 5 図例 2030
 6 図例 2031 7 図例 2032 8 図例 2033 9 図例 2034 10 図例 2035

図IV-32 USP-201~300断面図



図IV-33 USP-301~334断面図

5. 杭穴 (図N-28~33・表N-2~4・図版20)

杭穴 (USP) を334か所検出した。住居跡や灰集中周辺に広く分布している。多くは断面先端が尖る。杭列・建物跡など様々な施設を構成する杭穴・柱穴であろうが、杭列を抽出するに留まった。

同規模の柱穴が直線的な配列となったものを杭列とした。列として確定できたものは以下の12か所である (図N-28・29)。

杭列1: USP-12・14~17 杭列2: USP-26・28・30・36~39 杭列3: USP-56~61・72~74・76・77

杭列4: USP-256~258・260 杭列5: USP-225~231 杭列6: USP-157・159・160・163

杭列7: USP-142~146 杭列8: USP-124・132~134 杭列9: USP-128~131

杭列10: USP-121~123 杭列11: USP-117~119 杭列12: USP-183~187

杭列1は北-南方向の配列となる。杭列2は一部が調査区外 (北側) へ伸びるが、平面形が「L」字もしくは「コ」の字となる。建物跡の可能性もあるが、確定できなかったため杭列として扱った。杭列3はUH-1の東側に並列するように存在する。直径5cm程の細い杭で構成され、幣場などの施設を想起させる。北西-南東軸となる。杭列4は北東-南西の配列となる。杭列5はUB-2と切りあい北西-南東の配列となる。杭列6はUH-6・UH-11間に存在し、西北西-東北東の配列となる。杭列7はUH-3の南側に位置する。杭列12はUH-7の東側にあり関連がうかがわれる。杭列9~11はUA-1周辺に位置する。 (愛場)

6. 灰集中

UA-1・3～5は単独で検出されたもの。UA-2は複数の灰が9×3m程の範囲に点在しているもので、この範囲全体をUA-2として扱い、個々の灰は灰1①などと呼称した。UA-4を除き住居跡からはやや離れた分布となっている。

UA-1 (図Ⅳ-34・表Ⅳ-1・9・10・13・図版17・27・32)

位置：R-57・58区。住居跡群の南側、調査区南端。

規模：1.42×1.70 / 0.11m 平面形：不整形

調査：調査区南端で、Ⅲ層調査中に検出した。調査区外へ続いており、全体の規模は不明であるが比較的大きなまとまりである。長軸にトレンチを入れ、厚さと遺物の出土状況を捉えた。灰層は厚さ10cm程で、色調にはぶい黄褐色を呈し、下部では灰とⅢ層との混合土もみられる。遺物および大型の動物遺存体は位置を記録して取り上げた。また灰はすべて採取し、フローテーション法による選別作業を行った。それにより炭化材、炭化種子、動物遺存体を検出した。

遺物出土状況：遺物はフレイク3点・礫5点・骨角器2点である。周辺からは棒状礫が広く出土した。また灰サンプルからはスガイ・カワシシユガイ・コイ科・サケ科・鳥類・タヌキ・イヌ(歯)・シカなどの動物遺存体とキビ・シソ・アカザ属・キランソウ属・ブドウ科などの炭化種子が得られた。(詳細はⅢ章-2・3)

掲載遺物：1は扁平礫。2はシカ中手足骨製の骨鏝の中柄部分。骨角器は他に骨針とみられる小破片がある。

時期：1739年(樽前a降下軽石)以前のアイヌ文化期の灰送り場。灰層出土の炭化材について放射性炭素年代測定を行ったところ暦年較正年代範囲で1295AD-1405AD(2σ・95.4%)という遺跡内では最も古い結果が出た。(詳細はⅢ章-1)

UA-2 (図Ⅳ-35～38・表Ⅳ-1・9～13・図版18・19・27・31・32)

位置：B-59・60・61・62 / C-60区。住居跡群から10m程西側の緩斜面から平坦面に位置する。

規模：9.20×3.15m 平面形：不整形

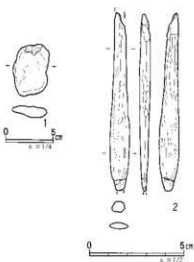
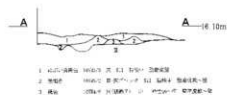
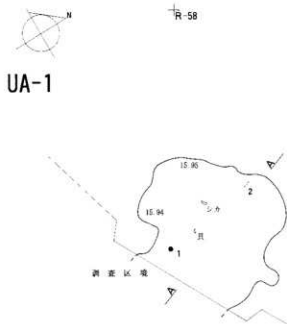
調査：Ta-a除去時に灰を検出し、調査前に確認されていた遺構である。灰周辺のⅢ層上面を精査したところ、複数の灰のまとまりが広範囲にわたって存在することが確認された。金属製品や棒状礫、動物骨などもみられたため、いわゆる「送り場」と考え、この範囲全体をUA-2とした。まずは周辺のⅢ層について50×50cmのメッシュを設定し、上面の3cm程を土壤採取しながら掘り下げた。灰は灰1～5までのまとまりに分け、その中でさらに①・②をつけ、灰2①というように細分した。灰2、灰3、灰4について半載し、灰層断面を記録した。また金属製品・礫・骨角器・大型の動物骨・貝などは位置を記録して取り上げた。灰1・3・4については灰層中に多量のサケなどの魚骨を中心とした動物遺存体があり、一部範囲を記録して取り上げた。

灰の平面形は不整形で、灰2・灰3・灰4①②が比較的大きなまとまりのほかは、円形もしくは縦長の小型のまとまりが多い。灰の色調は概ね黄褐色～褐色で、灰3では褐色の土層がみられる。灰層は最も厚い灰3で10cm程、その他は2～6cm程度である。いずれも焼土はほとんど混じらない。

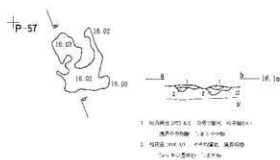
なお周辺杭跡のUSP-210・212覆土中には灰が混じる。関連する可能性がある。

灰および周辺Ⅲ層上面の土壤はすべて採取し、フローテーション法による選別作業を行った。微細な金属製品の他、炭化種子、動物遺存体を検出した。

遺物出土状況：遺物は砥石1点・頁岩フレイク4点・礫25点・原石1点・石製品1点・ガラス小玉1



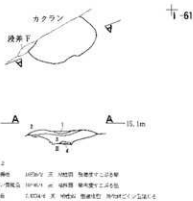
UA-3



UA-4



UA-5



貝集中1



図IV-34 UA-1・3~5・貝集中1

1B-60

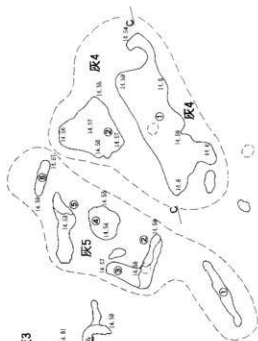
UA-2



1B-61



1B-62



1C-60



1C-61

灰2①セクション A—10.00m



1. 土中埋蔵の遺物
2. 灰層の厚さ
3. 灰層の位置

灰3②セクション B—10.00m



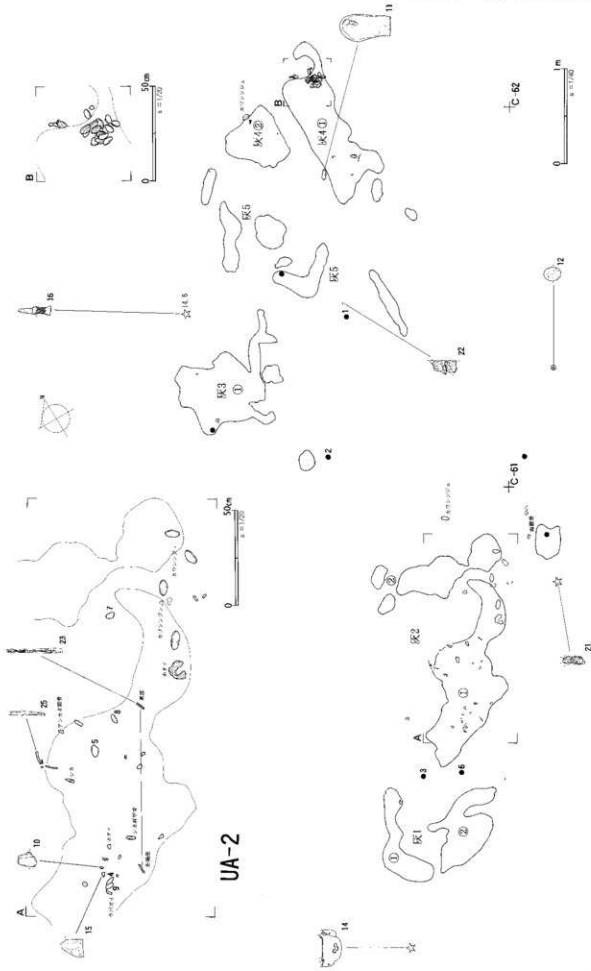
1. 土中埋蔵の遺物
2. 灰層の厚さ
3. 灰層の位置

灰4③セクション C—10.00m

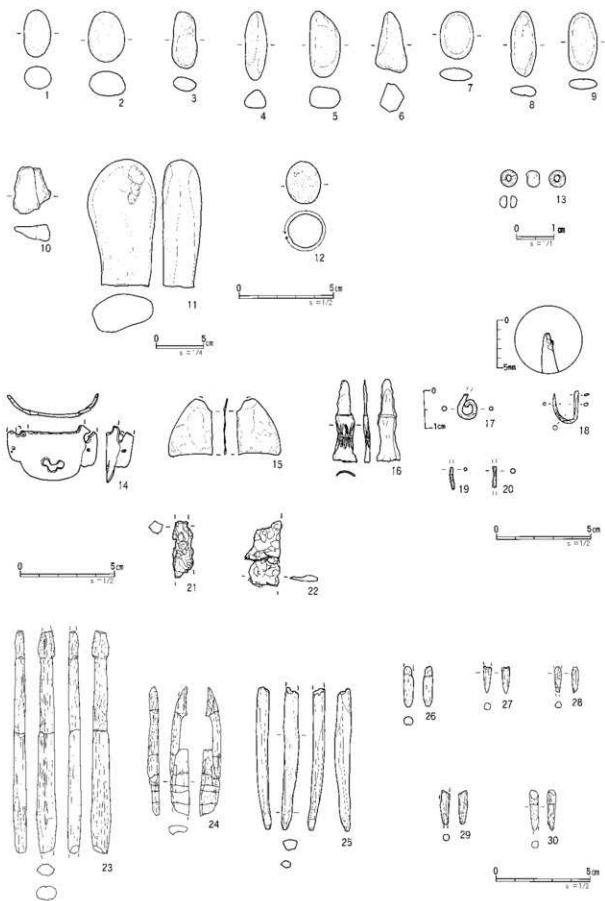


1. 土中埋蔵の遺物
2. 灰層の厚さ
3. 灰層の位置

図IV-35 UA-2



図IV-36 UA-2遺物出土状況



図IV-37 UA-2 出土の遺物

点・骨角器12点・金属製品(針・釣針・刀装具・鉄片など)である。灰2①では灰上、灰中からコハク(10)・金銅製板状製品(15)・骨鏃(23)・中柄未成品(25)が、貝類・アシカ・シカなどの動物遺存体とともに破損した状態で出土した。そのほかの遺物は比較的散漫に灰のまとまり周辺のⅢ層から出土している。

動物遺存体は灰4上面でカワシンジュガイが整然と並べられたように出土した以外、灰中から検出した。骨はあまり被熱せず、残存状況は良好であった。サケ科と考えられる魚骨がほとんどで、その他少量であるがコウダカスカシガイ・ユキノカサガイ・スガイ・ホタテガイ・カワシンジュガイ・ウバガイ・サラガイなどの貝類、コイ科・キュウリウオ科の魚類、ネズミ・ウサギ・アシカ、ヒグマ(犬歯)・シカなどの哺乳類と多様な種類がみられた(詳細はⅤ章-2)。また灰4を中心にイネ・アワ・ヒエ属・キビ・マメ科・キランソウ属・キハダ属・ブドウ科・クルミなどの炭化種子が得られた(詳細はⅤ章-3)。

播磨遺物: 1~9は棒状礫。10はコハク原石。赤黒く透明感がある。11は砥石。割れ面を含めた全体にススが附着する。図正面の平坦面と側面にすり痕がみられ、光沢のあるサビ?がそれぞれ附着している。12は軽石製石製品。

13は風化し白色化したガラス小玉。幾条かの線の横走が確認でき、巻き付けて製作したガラス玉とわかる。蛍光X線分析を行ったところ、Si 32.1%、Pb 50.2%、Ca 7.7%、K 3.8%、Al 5.4%という結果を得た。鉛ガラスとみられるが、カルシウム・カリウムの検出からアルカリ石灰ガラスが混ぜられたか、発色剤としてこれらが添加された可能性もある。

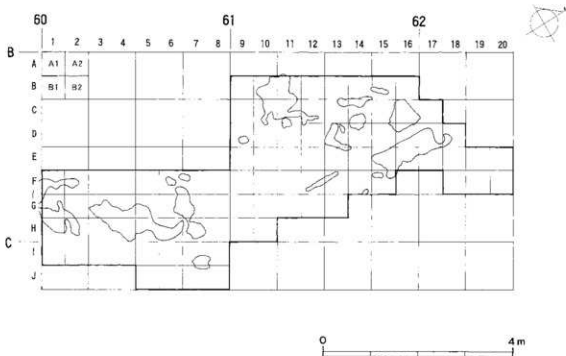
14は鞘飾り・柄飾りとみられる青銅製刀装具。本体とその両脇に装着用の耳が一体で切り出されている。耳は一部破損している。本体には径4.5mmの2孔を切り繋いだ透かし文様がある。耳には破損部にかけて各1孔の本体と同径の孔があるほか、装着用の小孔(径1~1.5mm)がみられる。図右の耳には小孔が連結した孔、左には本体側と耳中央部に各1孔のほか、中央小孔の脇に穿孔未了の凹みと傷がある。装飾孔は表裏とも磨かれているが、装着孔は表裏両面に穿孔バリが残っている。左右対称を意識して作られてはいるが、耳のバランスや穿孔位置のズレなど、製作時の縁の切り取り痕未処理とともに、粗い作りである。他の青銅製製品から切り出した自家製品であろう。蛍光X線分析を行ったところ、Cu 51.7%、Sn 36.8%、Pb 4.4%、P 1.2%などが検出されたため、青銅と判断した。

15は金銅製の薄い板状品。両面とも金色に輝き、傷の間から緑青が吹き出している。円弧形の縁だけがオリジナルラインで、他辺は加工で切り折りした痕跡が残っている。元来は鐔のような刀装具かと思われるが、加工後の現在の形状は用途不明である。不用破片として物送りされたものであろうか。蛍光X線分析を行ったところ、Cu 82.9%、Au 4.3%、P 4.6%、Ca 2.7%などが検出された。銅の薄板の両面を何らかの方法で鍍金したものとみられる。

16は筒状の銅製品を切って作った再加工作品。細い側と太い側との境界に段があり、太い側も一度すばまってからさらに大きく広がる形態である。細い側の端部が研がれたようで、祭祀用の銅鏃に加工されたものと考えられる。もとはキセルの吸い口のような筒状のものであったろう。表面は太い側のくびれ部に文様が彫られている。くびれ部に横線が2本走り、その両側に各々4本の小弧で表現された紡錘形が連続する文様である。全体を緑青で覆われており、蛍光X線分析を行ったところ、Cu 93.0%、Ag 0.9%という結果を得た。ほぼ純銅製の製品といえよう。

17は銀線で作られた装飾品の先端部分。断面円形の銀細線が輪状に丸められている。蛍光X線分析を行ったところ、Ag 95.4%、他の金属1%以下という結果を得た。純銀製の製品といえよう。

18は小型の鉄製釣針。針状の材料を加工し焼き入れたものであろう。針脚は断面円形で鋭い先端部もよく残っている。胴側はつぶし加工され断面が扁平になる。



図IV-38 UA-2周辺Ⅲ層土壌サンプル採取地点

19・20は灰層などから検出した細い棒状鉄製品。針片であろうか。ほかに図示していないものが1点ある。21は断面正方形部分と扁平な部分の変換点にあたる棒状製品片。鉄製の破片か。22は薄い板状の鉄製品片。ほかに断面正方形の棒状鉄製品片がある。出土したときから錆や劣化が著しく、小破片に分解してしまい復元できなかった。また、ほかに灰層などから検出した微小鉄片も数片ある。製品加工時などに剥離した破片であろうか。

23~30は骨角器。23はシカ角製の骨鏃。破損しており、接合したが先端部と基部を欠く。鏃先端部は断面菱形で、返し部分は側面に溝を切って作出されている。全体にススが附着する。24・25はシカ中手足骨製の中柄。24は破砕した状態で出土した。熱を受け白色となる。25は未成品。26~30は骨針とした。27~29はシカ中手足骨製の。26・30は海獣骨製の可能性がある。この他骨針と考えられる小破片が2点出土している。

時期・性格：アイヌ文化期の「送り場」と思われる。灰4中位出土の炭化材について放射性炭素年代測定を行ったところ暦年較正年代範囲で1420AD-1500AD (2σ・90.6%) という結果が出た。(詳細はⅢ章-1)。また16の銅製の素材がキセルの吸い口であるとすれば17世紀以降となる可能性もある。(愛場・三浦)

UA-3 (図IV-34・表IV-1・図版17)

位置：P-57区

規模：0.72×0.51 / 0.11m **平面形：**不整形

調査：Ⅲ層を掘り下げたところ、灰のまとまりを検出した。断面を見ると、灰の堆積層は全体的に数cm程度で薄いのが、小さなくぼみがある部分はやや厚い。検出状況から、木根跡などにまとめて投棄された灰と思われる。灰を採取し、フローテーション法による選別作業を行った。

遺物出土状況：図示していないが、灰層から検出した微小鉄片がある。製品加工時などに剥離した破

片であろうか。

時期・性格：1739年（樽前a降下軽石）以前のアイヌ文化期の灰送り場と思われる。

UA-4（図Ⅳ-34・表Ⅳ-1・図版17）

位置：O-61・P-61区

規模：0.72×0.51 / 0.11m **平面形**：不整形

調査：UH-7の周辺を調査中、灰のまとまりを検出した。UH-7の外周から北西へ約1mに位置する。灰層は最大層厚7cmで、断面はおおむね皿状である。灰黄褐色を呈し、純度が高い。灰を採取し、フローテーション法による選別作業を行った。

時期・性格：1739年（樽前a降下軽石）以前のアイヌ文化期の灰送り場とみられる。UH-7と直接的な関係があるものと思われる。（阿部）

UA-5（図Ⅳ-34・表Ⅳ-1・図版17）

位置：I-60区

規模：0.70×0.36 / 0.13m **平面形**：不整形

調査：Ⅲ層を2～3cm程掘り下げたところで検出した。一部天地返しの際攪乱を受ける。半載したところ灰層のみであり、周辺の杭穴も関連しないことから、単独の灰集中と判断した。層厚は10～15cm程と厚く堆積する。

遺物出土状況：図示していないが、灰層から検出した針先片や微小鉄片がある。

時期・性格：1739年（樽前a降下軽石）以前のアイヌ文化期の灰送り場と思われる。（愛場）

7. 貝集中

貝集中1（図Ⅳ-34・表Ⅳ-1・図版20）

位置：G-59区。南東側にUH-9がある。

規模：0.94×0.35m

Ⅲ層を2～3cm程掘り下げたところでカワシンジユガイの集中を検出した。一面に置かれたような検出状況で層にはならない。貝の残存状況は悪く、外皮のみとなるものが多い。少なくとも25～30個体程が存在しそうである。

時期：1739年（樽前a降下軽石）以前のアイヌ文化期。

8. 焼土

焼土は8か所（UF-1～8）検出した。直径40cm以下の比較的小型のものが多い。焼土はすべて採取し、フローテーション法による選別作業を行った。

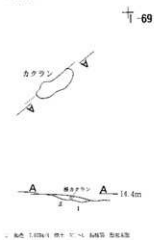
UF-1（図Ⅳ-39・表Ⅳ-1）

位置：I-68区

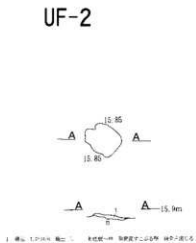
規模：0.45×0.15 / 0.05m **平面形**：不整形

調査：Ⅲ層を2～3cm程掘り下げたところで検出した。一部天地返しの際攪乱を受けるが平面形は楕円形となりそうである。半載したところレンズ状断面の被熱層を確認した。周囲には杭穴があるが住居構造にはならず、単独の焼土と判断した。

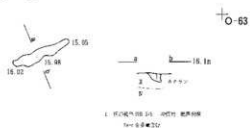
UF-1



UF-2



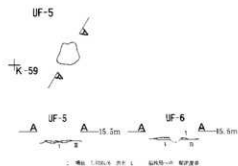
UF-3



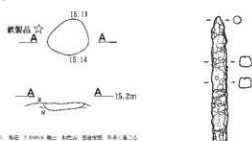
UF-4



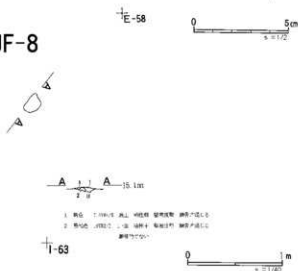
UF-5・6



UF-7



UF-8



図IV-39 UF-1~8

時期：1739年（樽前a降下軽石）以前のアイヌ文化期か。

UF-2（図Ⅳ-39・表Ⅳ-1）

位置：P-65区

規模：0.38×0.3 / 0.07m 平面形：不整形

調査：Ⅲ層を2～3cm程掘り下げたところで検出した。半載したところレンズ状断面の被熱層を確認した。周囲にはUSP-101がある程度で単独の焼土である。焼土サンプルからは魚骨を検出した。

時期：1739年（樽前a降下軽石）以前のアイヌ文化期か。（愛場）

UF-3（図Ⅳ-39・表Ⅳ-1）

位置：O-62区 規模：0.65×0.15 / 0.1m 平面形：不整形

調査：Ⅲ層を2～3cm程掘り下げたところで検出した。上面および東半が天地返しの際乱を受けているが平面形はおおむね楕円形となりそうである。半載したところ比較的厚い被熱層を確認した。周囲には杭穴があるが建物の構造にはならず、単独の焼土と判断した。

時期：1739年（樽前a降下軽石）以前のアイヌ文化期。

UF-4（図Ⅳ-39・表Ⅳ-1）

位置：K-64区 規模：0.32×0.16 / 0.04m 平面形：不整形

調査：Ⅲ層を5cm程掘り下げたところで検出した。平面形は楕円形となりそうである。半載したところレンズ状断面の被熱層を確認した。被熱層は比較的薄く、色調がやや暗色である。

時期：1739年（樽前a降下軽石）以前のアイヌ文化期。（阿部）

UF-5・6（図Ⅳ-39・表Ⅳ-1）

位置：J-59区

規模：UF-5：0.25×0.2 / 0.03m UF-6：0.36×0.2/0.03m 平面形：不整形

調査：Ⅲ層を2～3cm程掘り下げたところで近接した2か所で小型の焼土を検出した。それぞれ半載したところ褐色の被熱層を確認した。均質な土層で炭化材、魚骨などは混じらない。

UB-2範囲内に位置するが直接関連しない焼土と判断した。

時期：1739年（樽前a降下軽石）以前のアイヌ文化期か。

UF-7（図Ⅳ-39・表Ⅳ-1・11・図版20・31）

位置：D-57区

規模：0.42×0.36 / 0.07m 平面形：円形に近い

調査：Ⅲ層を数cm程掘り下げたところで検出した。半載したところレンズ状断面の褐色の被熱層を確認した。北西側傍らからは鉄製品が出土した。

掲載遺物：UF-7・1は断面が四角形の棒状鉄製品。先端は尖っており、もう片方も細身になるが端部は欠損している。胴部の長辺側の片面に浅い樋が通っている。漁獲用などの刺突具であろう。

時期：1739年（樽前a降下軽石）以前のアイヌ文化期。（愛場）

UF-8 (図IV-39・表IV-1)

位置: H-62区

規模: 0.2×0.14 / 0.04m 平面形: 不整形

調査: III層を2~3cm掘り下げたところで検出した。半載したところレンズ状断面の被熱層を確認した。約3m西側にはUH-10が位置するため関連する遺構の可能性がある。

時期: 1739年(樽前a降下軽石)以前のアイヌ文化期か。

(愛場)

表IV-1 遺構規模一覧

遺構名	時期	調査区	確認層位	平面形	長軸(m)		短軸(m)		深さ(m)	長軸方向	備考
					検出面	底面	検出面	底面			
UH-1	アイヌ文化期	L66~67・M66~67	III層	長方形	5.76	—	4.95	—	—	N-24° W	28.5m
UH-2	アイヌ文化期	L67~69・M67~69	III層	長方形	4.16	—	3.78	—	—	N-30° W	15.7m
UH-3	アイヌ文化期	N58~59・O58~59	III層	長方形	4.17	—	3.6	—	—	N-68° E	15m
UH-4	アイヌ文化期	M62~63・N62~63	III層	長方形	3.8	—	3.72	—	—	N-2° W	14.1m
UH-5	アイヌ文化期	B62~63・B62~64・B62~64	III層	長方形	7.55	—	5.58	—	—	N-68° W	42.1m
UH-6	アイヌ文化期	N60・O60	III層	長方形	3.18	—	2.64	—	—	N-23° W	8.4m
UH-7	アイヌ文化期	P60~61・Q60~61・R61	III層	長方形	6.27	—	4.69	—	—	N-80° W	29.4m
UH-8	アイヌ文化期	Q60~61・R60~61	III層	長方形	(6.2)	—	4.4	—	—	N-82° E	(27.3m)
UH-9	アイヌ文化期	B58~59・I58	III層	長方形	3.95	—	3.44	—	—	N-66° W	13.6m
UH-10	アイヌ文化期	F61・G61~62・H61~62	III層	長方形	5.9	—	4.6	—	—	N-62° E	27.1m
UH-11	アイヌ文化期	K59~60・L59~60	III層	長方形	4.62	—	3.94	—	—	N-4° W	18.2m
UH-12	推定アイヌ文化期?	A58・B58	III層	隅丸方形?	(2.95)	(2.57)	(1.2)	(0.8)	0.23		
UB-1	アイヌ文化期	L64~65・M64~65	III層	長方形	3.91		3.55				13.9m
UB-2	アイヌ文化期	J59~60・K59	III層	長方形	3.67		2.95				10.8m
CP-1	アイヌ文化期	Q60	III層	隅丸長方形	2.37	11.8	0.88	0.61	0.65	N-89° W	
杭列1	アイヌ文化期	I69	III層		6.0					N-4° W	
杭列2	アイヌ文化期	K69・L69	III層		4.4					N-8° W	
杭列3	アイヌ文化期	L68・M68・M67・N67	III層		20.0					N-16° W	
杭列4	アイヌ文化期	I58	III層		4.4					N-48° E	
杭列5	アイヌ文化期	J59・J60・K59	III層		12.2					N-26° W	
杭列6	アイヌ文化期	M59・N59	III層		8.8					N-58° W	
杭列7	アイヌ文化期	O57・P58	III層		8.8					N-68° E	
杭列8	アイヌ文化期	Q59・P59	III層		10.0					N-6° W	
杭列9	アイヌ文化期	Q58	III層		5.0					N-53° E	
杭列10	アイヌ文化期	Q59・R59	III層		3.2					N-74° W	
杭列11	アイヌ文化期	R58	III層		3.7					N-5° W	
杭列12	アイヌ文化期	Q62	III層		6.4					N-4° W	
UA-1	アイヌ文化期	K57~58	III層		1.42		1.7		0.11		
UA-2	アイヌ文化期	B59~62・C60	III層		9.2		3.15				
UA-3	アイヌ文化期	P57	III層		0.72		0.51		0.11		
UA-4	アイヌ文化期	O61・P61	III層		0.73		0.66		0.05		
UA-5	アイヌ文化期	I60	III層		0.7		0.36		0.13		
UF-1	アイヌ文化期	I68	III層		0.45		0.15		0.05		
UF-2	アイヌ文化期	P65	III層		0.38		0.3		0.07		
UF-3	アイヌ文化期	O62	III層		0.65		0.15		0.1		
UF-4	アイヌ文化期	K64	III層		0.32		0.16		0.04		
UF-5	アイヌ文化期	J59	III層		0.25		0.2		0.03		
UF-6	アイヌ文化期	J59	III層		0.36		0.2		0.03		
UF-7	アイヌ文化期	B57	III層		0.42		0.36		0.07		
UF-8	アイヌ文化期	B62	III層		0.2		0.14		0.04		
員集中1	アイヌ文化期	G59	III層		9.4		3.5				

表Ⅳ-2 USP柱穴規模一覧(1)

USP番号	グリット	径 (cm) 掘出 中掘	深さ (cm)	先端 形状	検出 層位	備考	USP番号	グリット	径 (cm) 掘出 中掘	深さ (cm)	先端 形状	検出 層位	備考
USP-1	G68	12	9	37	尖る	N	傾き13°						
USP-2	H69	9	8	20	尖る	N	1°						
USP-3	H69	8	8	8	尖る	N	1°						
USP-4	H68	14	11	19	尖る	N	0°						
USP-5	H68	12	8	15	尖る	N	1°						
USP-6	H68	10	9	12	尖る	N	5°						
USP-7	H69	10	8	10	尖る	N	3°						
USP-8	H69	19	12	15	尖る	N	0°						
USP-9	H69	7	6	10	尖る	N	0°						
USP-10	H69	10	6	17	尖る	N	1°						
USP-11	H69	9	6	11	尖る	N	1°						
USP-12	H69	7	7	20	尖る	N	0° 杭列1						
USP-13	H69	8	7	17	尖る	N	2° 杭列1						
USP-14	H69	8	6	11	尖る	N	8° 杭列1						
USP-15	H69	10	8	12	尖る	N	3° 杭列1						
USP-16	H69	7	5	8	尖る	N	3° 杭列1						
USP-17	H69	11	8	12	尖る	N	0° 杭列1						
USP-18	H69	9	7	15	尖る	N	1°						
USP-19	H69	9	7	10	尖る	N	1°						
USP-20	H69	9	8	20	尖る	N	3°						
USP-21	H69	5	4	9	尖る	N	3°						
USP-22	H69	11	9	11	尖る	N	3°						
USP-23	H69	7	5	16	尖る	N	6°						
USP-24	J68	11	8	17	尖る	N	0°						
USP-25	K69	8	6	24	尖る	N	7°						
USP-26	K69	8	7	30	尖る	N	2°						
USP-27	K69	8	5	14	尖る	N	4°						
USP-28	K69	9	8	25	尖る	N	0° 杭列2						
USP-29	K69	5	4	11	尖る	N	1°						
USP-30	K69	5	4	13	尖る	N	21° 杭列2						
USP-31	H69	5	4	20	尖る	N	13°						
USP-32	K69	6	4	18	尖る	N	6°						
USP-33	L69	7	6	23	尖る	N	4° 杭列2						
USP-34	L69	5	5	8	尖る	N	1° 杭列2						
USP-35	L69	12	10	19	尖る	N	13° 杭列2						
USP-36	L69	9	8	22	尖る	N	4° 杭列2						
USP-37	L69	7	5	19	尖る	N	2° 杭列2						
USP-38	K69	11	9	45	尖る	N	5° 杭列2						
USP-39	L69	7	6	19	尖る	N	0° 杭列2						
USP-40	L69	6	5	10	尖る	N	19°						
USP-41	L69	5	5	11	尖る	N	3°						
USP-42	L69	6	5	18	尖る	N	2°						
USP-43	L69	4	4	11	尖る	N	10°						
USP-44	M69	7	6	13	尖る	N	0°						
USP-45	M69	7	7	13	尖る	N	1°						
USP-46	M69	8	7	16	尖る	N	0°						
USP-47	M69	8	8	20	尖る	N	1°						
USP-48	L67	8	7	19	尖る	N	2°						
USP-49	M66	8	6	28	尖る	N	6°						
USP-50	N66	7	6	18	尖る	N	2°						
USP-51	L57	10	9	28	尖る	N	7°						
USP-52	P61	8	7	15	尖る	N	0°						
USP-53	K58	10	10	35	尖る	N	2°						
USP-54	N68	10	9	26	尖る	N	2°						
USP-55	N68	8	7	26	尖る	N	12°						
USP-56	L68	5	4	11	尖る	N	1° 杭列3						
USP-57	L68	5	3	10	尖る	N	2° 杭列3						
USP-58	L68	6	4	13	尖る	N	10° 杭列3						
USP-59	M68	3	2	8	尖る	N	3° 杭列3						
USP-60	M68	4	2	10	尖る	N	1°						
USP-61	M68	3	3	14	尖る	N	0° 杭列3						
USP-62	M68	5	4	14	尖る	N	3°						
USP-63	M68	6	5	15	尖る	N	4°						
USP-64	M68	4	2	14	尖る	N	0°						
USP-65	M68	4	4	8	尖る	N	2°						
USP-66	M68	5	5	9	尖る	N	0°						
USP-67	N68	6	5	14	尖る	N	0°						
USP-68	N68	5	5	10	尖る	N	2°						
USP-69	N67	6	5	17	尖る	N	1°						
USP-70	M69	11	9	41	尖る	N	4°						
USP-71	L68	5	4	16	尖る	N	1°						
USP-72	M67	9	7	14	尖る	N	0° 杭列3						
USP-73	M67	5	4	19	尖る	N	0° 杭列3						
USP-74	N67	10	8	24	尖る	N	3° 杭列3						
USP-75	N67	10	9	24	尖る	N	2°						
USP-76	N67	6	4	8	尖る	N	1° 杭列3						
USP-77	N67	9	8	25	尖る	N	4° 杭列3						
USP-78	N67	8	5	10	尖る	N	2°						
USP-79	N67	8	6	17	尖る	N	2°						
USP-80	N68	8	6	19	尖る	N	9°						
USP-81	K67	10	6	15	尖る	N	0°						
USP-82	K67	9	7	19	尖る	N	0°						
USP-83	K66	10	7	15	尖る	N	12°						
USP-84	J67	9	7	11	尖る	N	2°						
USP-85	J67	7	7	11	尖る	N	3°						
USP-86	J67	9	8	17	尖る	N	0°						
USP-87	J66	5	4	5	尖る	N	3°						
USP-88	J66	6	5	10	尖る	N	0°						
USP-89	I66	5	4	10	尖る	N	9°						
USP-90	I66	6	5	9	尖る	N	12°						
USP-91	I66	8	8	18	尖る	N	9°						
USP-92	J66	7	6	15	尖る	N	0°						
USP-93	J66	7	6	10	尖る	N	0°						
USP-94	J66	10	8	18	尖る	N	2°						
USP-95	J66	9	7	12	尖る	N	4°						
USP-96	K66	8	7	13	尖る	N	2°						
USP-97	J65	8	6	27	尖る	N	0°						
USP-98	J65	6	5	22	尖る	N	2°						
USP-99	K65	8	6	7	尖る	N	1°						
USP-100	O69	6	5	20	尖る	N	2°						
USP-101	P66	8	5	16	尖る	N	1°						
USP-102	B38	11	10	31	尖る	N	0°						
USP-103	C38	10	8	31	尖る	N	2°						
USP-104	C38	12	10	24	尖る	N	2°						
USP-105	B39	8	6	15	尖る	N	1°						
USP-106	C39	11	9	34	尖る	N	2°						
USP-107	C39	11	7	28	尖る	N	4°						
USP-108	B39	11	9	38	尖る	N	3°						
USP-109	D60	12	8	27	尖る	N	3°						
USP-110	C39	9	7	16	尖る	N	1°						
USP-111	B60	15	10	41	尖る	N	2°						
USP-112	C60	10	7	31	尖る	N	2°						
USP-113	B60	6	5	20	尖る	N	4°						
USP-114	C60	9	8	20	尖る	N	1°						
USP-115	B59	9	9	15	尖る	N	0°						
USP-116	R58	10	10	40	尖る	N	0°						
USP-117	R38	10	10	19	尖る	N	0° 杭列11						
USP-118	R58	7	7	20	尖る	N	3° 杭列11						
USP-119	R38	11	10	19	尖る	N	0° 杭列11						
USP-120	R59	9	8	30	尖る	N	1°						
USP-121	R59	10	10	20	尖る	N	0° 杭列10						
USP-122	Q59	6	5	10	尖る	N	0° 杭列10						
USP-123	Q59	9	7	15	尖る	N	2° 杭列10						
USP-124	Q59	10	9	17	尖る	N	0° 杭列8						
USP-125	R38	11	10	30	尖る	N	0°						
USP-126	R38	10	8	25	尖る	N	2°						
USP-127	Q38	10	10	23	尖る	N	3°						
USP-128	Q38	9	7	17	尖る	N	1° 杭列9						
USP-129	Q38	9	6	24	尖る	N	2° 杭列9						
USP-130	Q38	9	6	9	尖る	N	0° 杭列9						
USP-131	Q38	9	8	23	尖る	N	2° 杭列9						
USP-132	Q59	12	8	28	尖る	N	0° 杭列8						
USP-133	P59	10	9	30	尖る	N	0° 杭列8						
USP-134	P59	7	7	18	尖る	N	0° 杭列8						
USP-135	P59	5	5	8	尖る	N	0°						
USP-136	P59	7	5	16	尖る	N	2°						
USP-137	P59	7	6	11	尖る	N	4°						
USP-138	P59	10	8	22	尖る	N	0°						
USP-139	P59	6	5	17	尖る	N	0°						
USP-140	P59	10	9	27	尖る	N	3°						

表IV-3 USP柱穴規模一覧(2)

USP番号	グリッド	径 (cm) 標準 中間	深さ (m)	先端 形状	検出 層位	備考	USP番号	グリッド	径 (cm) 標準 中間	深さ (m)	先端 形状	検出 層位	備考
USP-141	P58	9	7	10	尖る	N 0'	USP-208	B61	12	9	22	尖る	N 0'
USP-142	P58	8	7	9	尖る	N 0'	USP-209	B61	12	8	56	尖る	N 0'
USP-143	P58	8	6	12	尖る	N 0'	USP-210	B61	14	11	7	平ら	N 3'
USP-144	P58	8	6	16	尖る	N 0'	USP-211	B61	11	10	46	尖る	N 6'
USP-145	P58	6	5	11	尖る	N 2'	USP-212	B61	10	9	6	平ら	N 3'
USP-146	057	10	8	22	尖る	N 1'	USP-213	B62	9	7	13	尖る	N 6'
USP-147	057	10	9	10	尖る	N 0'	USP-214	B62	11	8	30	尖る	N 2'
USP-148	P58	8	6	27	尖る	N 4'	USP-215	B62	9	9	20	尖る	N 0'
USP-149	G66	6	4	9	尖る	N 2'	USP-216	B62	8	8	31	尖る	N 0'
USP-150	G66	7	6	11	尖る	N 3'	USP-217	C65	7	5	10	尖る	N 0'
USP-151	M58	8	9	15	尖る	N 1'	USP-218	B61	9	8	28	尖る	N 4'
USP-152	M58	9	9	15	尖る	N 2'	USP-219	B67	11	8	16	尖る	N 4'
USP-153	M58	7	5	10	尖る	N 3'	USP-220	B60	10	9	19	尖る	N 8'
USP-154	M58	9	8	20	尖る	N 3'	USP-221	B64	7	5	15	尖る	N 2'
USP-155	M58	7	6	16	尖る	N 0'	USP-222	L65	7	5	17	尖る	N 0'
USP-156	M58	8	6	14	尖る	N 0'	USP-223	L65	9	8	22	尖る	N 1'
USP-157	M59	8	7	20	尖る	N 2'	USP-224	K58	7	7	17	尖る	N 2'
USP-158	M59	8	7	19	尖る	N 3'	USP-225	K59	8	7	31	尖る	N 1'
USP-159	M59	6	10	20	尖る	N 0'	USP-226	K59	10	7	23	尖る	N 2'
USP-160	M59	8	7	8	尖る	N 3'	USP-227	J59	11	10	27	尖る	N 0'
USP-161	M59	8	6	7	尖る	N 5'	USP-228	J59	9	6	16	尖る	N 0'
USP-162	X59	7	6	9	尖る	N 2'	USP-229	J60	11	10	21	尖る	N 0'
USP-163	X59	9	9	22	尖る	N 1'	USP-230	J60	9	7	20	尖る	N 1'
USP-164	X59	6	5	7	尖る	N 0'	USP-231	J60	9	7	20	尖る	N 2'
USP-165	X59	8	7	20	尖る	N 1'	USP-232	660	10	9	34	尖る	N 1'
USP-166	X59	8	6	10	尖る	N 2'	USP-233	660	8	6	15	尖る	N 5'
USP-167	060	10	9	27	尖る	N 1'	USP-234	660	11	10	20	尖る	N 0'
USP-168	060	9	8	26	尖る	N 2'	USP-235	661	6	5	10	尖る	N 1'
USP-169	060	11	8	24	尖る	N 0'	USP-236	661	8	6	14	尖る	N 2'
USP-170	060	8	8	20	尖る	N 0'	USP-237	J58	6	5	13	尖る	N 0'
USP-171	060	7	6	14	尖る	N 4'	USP-238	J58	9	6	20	尖る	N 0'
USP-172	061	5	4	12	尖る	N 1'	USP-239	J58	5	5	12	尖る	N 1'
USP-173	061	6	5	13	尖る	N 1'	USP-240	J58	6	5	11	尖る	N 2'
USP-174	060	9	7	22	尖る	N 1'	USP-241	J58	6	5	16	尖る	N 1'
USP-175	P60	8	6	16	尖る	N 1'	USP-242	J59	7	6	10	尖る	N 0'
USP-176	M60	6	5	16	尖る	N 7'	USP-243	J59	8	8	32	尖る	N 0'
USP-177	M61	10	7	10	尖る	N 5'	USP-244	J59	11	9	32	尖る	N 4'
USP-178	M61	8	6	13	尖る	N 1'	USP-245	J59	7	6	12	尖る	N 0'
USP-179	M62	10	10	35	尖る	N 9'	USP-246	J59	10	7	22	尖る	N 0'
USP-180	062	10	9	16	尖る	N 0'	USP-247	J59	10	9	31	尖る	N 0'
USP-181	062	8	9	26	尖る	N 0'	USP-248	660	10	8	14	尖る	N 0'
USP-182	P62	8	7	20	尖る	N 2'	USP-249	660	10	8	15	尖る	N 0'
USP-183	062	9	9	22	尖る	N 1'	USP-250	J58	10	9	24	尖る	N 0'
USP-184	062	9	7	16	尖る	N 0'	USP-251	J57	8	6	21	尖る	N 1'
USP-185	062	10	7	19	尖る	N 1'	USP-252	J57	8	6	13	尖る	N 2'
USP-186	062	9	7	17	尖る	N 0'	USP-253	J57	10	8	18	尖る	N 0'
USP-187	062	4	4	15	尖る	N 2'	USP-254	J57	10	7	19	尖る	N 0'
USP-188	063	7	6	25	尖る	N 4'	USP-255	J57	7	6	15	尖る	N 6'
USP-189	062	9	7	16	尖る	N 0'	USP-256	J58	10	9	28	尖る	N 1'
USP-190	P62	9	7	10	尖る	N 3'	USP-257	J58	9	7	13	尖る	N 0'
USP-191	P63	8	6	5	尖る	N 3'	USP-258	J58	9	7	26	尖る	N 0'
USP-192	P63	11	11	26	尖る	N 1'	USP-259	J58	8	7	27	尖る	N 2'
USP-193	P63	8	7	20	尖る	N 2'	USP-260	J58	6	6	8	尖る	N 0'
USP-194	063	8	7	10	尖る	N 3'	USP-261	J58	7	5	9	尖る	N 0'
USP-195	063	10	8	28	尖る	N 2'	USP-262	J58	10	9	15	尖る	N 0'
USP-196	063	10	9	11	尖る	N 3'	USP-263	J59	10	6	12	尖る	N 0'
USP-197	063	8	8	25	尖る	N 3'	USP-264	J59	9	6	12	尖る	N 1'
USP-198	063	6	6	13	尖る	N 0'	USP-265	660	11	9	15	尖る	N 1'
USP-199	063	7	8	15	尖る	N 0'	USP-266	660	10	6	17	尖る	N 0'
USP-200	R60	12	9	36	尖る	N 0'	USP-267	B59	7	5	12	尖る	N 0'
USP-201	064	10	9	37	尖る	N 2'	USP-268	B59	8	7	18	尖る	N 0'
USP-202	064	8	6	12	尖る	N 2'	USP-269	B59	9	8	13	尖る	N 0'
USP-203	063	8	7	16	尖る	N 0'	USP-270	B59	6	5	9	尖る	N 13'
USP-204	064	7	7	17	尖る	N 1'	USP-271	B59	9	7	25	尖る	N 13'
USP-205	P64	7	5	26	尖る	N 0'	USP-272	B59	7	6	12	尖る	N 4'
USP-206	R60	10	5	15	尖る	N 2'	USP-273	B59	7	7	7	尖る	N 3'
USP-207	R60	15	11	21	尖る	N 0'	USP-274	B60	7	5	11	尖る	N 0'

表IV-4 USP柱穴規模一覧(3)

USP番号	グリッド	径(cm)		深さ(m)	先端形状	検出層位	備考
		検出層	中間				
USP-275	H59	9	8	12	尖る	N 2'	
USP-276	H60	10	9	13	尖る	N 2'	
USP-277	H60	9	9	12	尖る	N 1'	
USP-278	H62	10	9	20	尖る	N 0'	
USP-279	H62	7	6	10	尖る	N 1'	
USP-280	G60	10	9	35	尖る	N 0'	
USP-281	G60	8	6	16	尖る	N 0'	
USP-282	G60	9	6	35	尖る	N 1'	
USP-283	G60	6	5	12	尖る	N 2'	
USP-284	F60	6	6	16	尖る	N 0'	
USP-285	D60	7	7	19	尖る	V 2'	
USP-286	D60	7	5	15	尖る	V 1'	
USP-287	D60	7	6	21	尖る	V 2'	
USP-288	F60	7	5	12	尖る	V 0'	
USP-289	D60	15	13	40	尖る	V 6'	
USP-290	F61	6	6	16	尖る	V 0'	
USP-291	F61	15	9	29	尖る	V 2'	
USP-292	F61	14	13	15	尖る	V 4'	
USP-293	D61	10	9	16	尖る	V 1'	
USP-294	D61	5	4	17	尖る	V 2'	
USP-295	D61	6	4	5	尖る	V 2'	
USP-296	D61	6	4	15	尖る	V 1'	
USP-297	D61	8	6	17	尖る	V 1'	
USP-298	D60	12	7	18	尖る	V 2'	
USP-299	K62	11	7	12	尖る	V 3'	
USP-300	K62	7	5	16	尖る	V 0'	
USP-301	K62	10	7	13	尖る	V 1'	
USP-302	K62	10	6	15	尖る	V 2'	
USP-303	M60	10	8	18	尖る	N 2'	
USP-304	Q60	9	8	14	尖る	V 13'	
USP-305	Q60	9	8	11	尖る	N 0'	
USP-306	I62	7	7	10	尖る	M 0'	
USP-307	G68	10	10	25	尖る	V 1'	
USP-308	G68	10	8	21	尖る	V 3'	
USP-309	G68	8	7	8	尖る	M 0'	
USP-310	F68	12	10	18	尖る	V 1'	
USP-311	D61	14	10	9	尖る	N 0'	
USP-312	H67	11	10	30	尖る	V 1'	
USP-313	H60	12	9	9	尖る	V 2'	
USP-314	H63	10	7	17	尖る	M 2'	
USP-315	C64	14	11	15	尖る	M 13'	
USP-316	L61	11	10	30	尖る	N 0'	
USP-317	K60	9	6	7	尖る	N 1'	
USP-318	L59	7	6	11	尖る	N 1'	
USP-319	L59	6	7	17	尖る	N 0'	
USP-320	L59	7	6	10	尖る	N 0'	
USP-321	L61	11	9	20	尖る	N 2'	
USP-322	K61	12	10	35	尖る	N 4'	
USP-323	K61	11	11	16	尖る	N 2'	
USP-324	L61	11	10	30	尖る	N 1'	
USP-325	L61	10	7	15	尖る	N 0'	
USP-326	L62	9	8	26	尖る	N 2'	
USP-327	K61	10	8	23	尖る	N 0'	
USP-328	K62	9	6	27	尖る	N 1'	
USP-329	K62	7	7	22	尖る	N 1'	
USP-330	K62	10	9	35	尖る	N 0'	
USP-331	K62	11	10	34	尖る	N 0'	
USP-332	K62	5	5	14	尖る	N 3'	
USP-333	I62	7	4	19	尖る	N 4'	
USP-334	K61	10	9	10	尖る	N 0'	

表IV-5 付属遺構規模一覧(1)

UH-1	径(cm)		深さ(m)	断面形状	検出層位	備考
	検出層	中間				
HF-1	64		11		Ⅲ	灰・焼土
HP-1	12	9	50	尖る	N	傾き5°
HP-2	11	9	20	尖る	N	4'
HP-3	11	9	15	尖る	N	4'
HP-4	9	8	31	尖る	N	3'
HP-5	10	7	10	尖る	N	2'
HP-6	10	7	16	尖る	N	1'
HP-7	11	11	35	尖る	N	2'
HP-8	10	6	17	尖る	N	1'
HP-9	11	9	30	尖る	N	12'
HP-10	8	7	43	尖る	N	14'
HP-11	10	6	18	尖る	N	9'
HP-12	10	8	33	尖る	N	6'
HP-13	6	6	30	尖る	N	15'
HP-14	9	8	21	尖る	N	8'
HP-15	16	11	11	平坦	N	2'
HP-16	8	6	20	尖る	N	10'
HP-17	6	5	15	尖る	N	10'
HP-18	8	7	17	尖る	N	4'
HP-19	7	7	9	丸底	N	7'
HP-20	11	8	25	尖る	N	2'
HP-21	6	5	10	尖る	N	5'

UH-2	径(cm)		深さ(m)	断面形状	検出層位	備考
	検出層	中間				
HF-1	56		5		Ⅲ	灰・焼土
HP-1	8	7	16	尖る	N	傾き11°
HP-2	8	7	10	尖る	N	4'
HP-3	10	9	41	尖る	N	1'
HP-4	10	8	50	尖る	N	2'
HP-5	9	6	45	尖る	N	4'
HP-6	11	10	30	尖る	N	4'
HP-7	10	8	19	尖る	N	0'
HP-8	7	6	18	尖る	N	0'
HP-9	11	8	24	尖る	N	2'
HP-10	10	10	36	尖る	N	13'
HP-11	7	6	17	尖る	N	2'
HP-12	9	7	21	尖る	N	3'
HP-13	11	8	27	尖る	N	2'
HP-14	9	8	29	尖る	N	17'
HP-15	11	8	36	尖る	N	3'
HP-16	7	6	10	尖る	N	3'
HP-17	9	8	28	尖る	N	3'

UH-3	径(cm)		深さ(m)	断面形状	検出層位	備考
	検出層	中間				
HF-1	80		10		Ⅲ	焼土
HF-2	55		3		Ⅲ	焼土
HP-1	7	6	18	尖る	N	傾き5°
HP-2	7	6	23	尖る	N	2'
HP-3	8	9	16	丸底	N	3'
HP-4	6	5	9	尖る	N	5'
HP-5	5	3	11	尖る	N	11'
HP-6	8	7	17	尖る	N	8'
HP-7	8	7	15	尖る	N	0'
HP-8	6	6	13	尖る	N	2'
HP-9	8	6	17	尖る	N	1'
HP-10	7	6	18	尖る	N	6'
HP-11	6	5	14	尖る	N	3'
HP-12	6	6	23	尖る	N	8'
HP-13	8	7	20	尖る	N	0'
HP-14	10	9	20	尖る	N	5'
HP-15	7	6	13	尖る	N	0'
HP-16	8	8	16	尖る	N	0'
HP-17	5	3	14	尖る	N	14'
HP-18	5	5	22	尖る	N	1'
HP-19	5	5	15	尖る	N	7'
HP-20	6	4	15	尖る	N	2'
HP-21	8	7	22	尖る	N	2'
HP-22	5	4	23	尖る	N	2'
HP-23	7	6	14	尖る	N	2'

表IV-6 付属遺構規模一覧(2)

UH-4	径 (cm)		断面形状	検出層位	備考
	検出層位	中間			
HF-1	47	5		Ⅲ	ほとんど土灰
HP-1	10	9	丸底	Ⅲ	傾き5°
HP-2	12	9	丸底	Ⅲ	3°
HP-3	9	6	丸底	Ⅲ	12°
HP-4	10	8	丸底	Ⅲ	6°
HP-5	9	6	丸底	Ⅲ	0°
HP-6	7	5	丸底	Ⅲ	6°
HP-7	7	7	丸底	Ⅲ	4°
HP-8	9	8	丸底	Ⅲ	5°
HP-9	10	6	丸底	Ⅲ	8°

UH-7	径 (cm)		断面形状	検出層位	備考
	検出層位	中間			
HP-11	11	8	丸底	Ⅲ	2°
HP-12	8	7	丸底	Ⅲ	0°
HP-13	7	6	丸底	Ⅲ	2°
HP-14	8	6	丸底	Ⅲ	0°
HP-15	6	5	丸底	Ⅲ	3°
HP-16	11	10	丸底	Ⅲ	3°
HP-17	13	11	丸底	Ⅲ	1°
HP-18	10	9	丸底	Ⅲ	0°
HP-19	6	5	丸底	Ⅲ	0°
HP-20	10	9	丸底	Ⅲ	1°

UH-5	径 (cm)		断面形状	検出層位	備考
	検出層位	中間			
HF-1	123	21		Ⅲ	灰・焼土
HF-2	134	13		Ⅲ	灰
HF-3	79	18		Ⅲ	灰・焼土
HP-1	11	7	丸底	V	傾き2°
HP-2	12	8	丸底	V	18°
HP-3	11	10	丸底	Ⅲ	5°
HP-4	9	8	丸底	V	7°
HP-5	11	8	丸底	V	0°
HP-6	10	9	丸底	V	5°
HP-7	8	7	丸底	V	1°
HP-8	10	6	丸底	V	2°
HP-9	11	11	丸底	V	10°
HP-10	12	9	丸底	V	2°
HP-11	9	6	丸底	V	2°
HP-12	10	10	丸底	V	1°
HP-13	10	8	丸底	V	0°
HP-14	9	8	丸底	V	1°
HP-15	10	9	丸底	V	3°
HP-16	8	7	丸底	V	3°
HP-17	10	9	丸底	V	1°
HP-18	10	7	丸底	V	0°
HP-19	11	9	丸底	Ⅲ	1°

UH-8	径 (cm)		断面形状	検出層位	備考
	検出層位	中間			
HF-1	70	10		Ⅲ	焼土
HF-2	162	15		Ⅲ	焼土
HF-3	52	9		Ⅲ	焼土
HP-1	7	6	丸底	Ⅲ	傾き0°
HP-2	9	7	丸底	Ⅲ	3°
HP-3	8	8	丸底	Ⅲ	2°
HP-4	9	7	丸底	Ⅲ	1°
HP-5	7	7	丸底	Ⅲ	0°
HP-6	8	7	丸底	Ⅲ	3°
HP-7	7	6	丸底	Ⅲ	3°
HP-8	7	8	丸底	Ⅲ	1°
HP-9	9	7	丸底	Ⅲ	3°
HP-10	7	6	丸底	Ⅲ	2°
HP-11	14	11	丸底	Ⅲ	1°
HP-12	5	5	丸底	Ⅲ	2°
HP-13	9	8	丸底	Ⅲ	0°
HP-14	5	4	丸底	Ⅲ	0°
HP-15	11	10	丸底	Ⅲ	12°
HP-16	9	7	丸底	Ⅲ	1°

UH-9	径 (cm)		断面形状	検出層位	備考
	検出層位	中間			
HF-1	45	6		Ⅲ	焼土
HP-1	9	7	丸底	Ⅲ	傾き5°
HP-2	6	5	丸底	Ⅲ	7°
HP-3	8	5	丸底	Ⅲ	10°
HP-4	8	6	丸底	Ⅲ	4°
HP-5	11	10	丸底	Ⅲ	7°
HP-6	11	8	丸底	Ⅲ	2°
HP-7	11	10	丸底	Ⅲ	2°
HP-8	8	7	丸底	Ⅲ	7°
HP-9	5	7	丸底	Ⅲ	2°
HP-10	8	5	丸底	Ⅲ	1°
HP-11	10	8	丸底	Ⅲ	1°
HP-12	6	5	丸底	Ⅲ	11°
HP-13	7	6	丸底	Ⅲ	0°
HP-14	6	4	丸底	Ⅲ	6°
HP-15	9	9	丸底	Ⅲ	5°
HP-16	9	6	丸底	Ⅲ	2°
HP-17	8	6	丸底	Ⅲ	6°

UH-6	径 (cm)		断面形状	検出層位	備考
	検出層位	中間			
HF-1	82	10		Ⅲ	焼土
HP-1	14	12	丸底	Ⅲ	傾き0°
HP-2	14	13	丸底	Ⅲ	2°
HP-3	15	13	丸底	Ⅲ	1°
HP-4	10	10	丸底	Ⅲ	1°
HP-5	13	12	丸底	Ⅲ	1°
HP-6	12	12	丸底	Ⅲ	4°
HP-7	15	14	丸底	Ⅲ	2°
HP-8	16	13	丸底	Ⅲ	4°
HP-9	15	12	丸底	Ⅲ	5°
HP-10	13	11	丸底	Ⅲ	2°
HP-11	10	9	丸底	Ⅲ	2°

UH-7	径 (cm)		断面形状	検出層位	備考
	検出層位	中間			
HF-1	90	6		Ⅲ	焼土
HF-2	66	8		Ⅲ	焼土
HF-3	95	15		Ⅲ	焼土
HF-4	67	5		Ⅲ	灰・焼土
HP-1	7	6	丸底	Ⅲ	傾き1°
HP-2	10	7	丸底	Ⅲ	0°
HP-3	9	7	丸底	Ⅲ	4°
HP-4	10	7	丸底	Ⅲ	2°
HP-5	10	9	丸底	Ⅲ	2°
HP-6	25	10	丸底	Ⅲ	0°
HP-7	10	13	丸底	Ⅲ	3°
HP-8	9	10	丸底	Ⅲ	2°
HP-9	10	9	丸底	Ⅲ	3°
HP-10	13	10	丸底	Ⅲ	2°

UH-10	径 (cm)		断面形状	検出層位	備考
	検出層位	中間			
HF-1	30	5		Ⅲ	掘込一部のみ
HP-1	9	9	丸底	Ⅲ	傾き0°
HP-2	9	9	丸底	V	1°
HP-3	6	4	丸底	V	2°
HP-4	6	4	丸底	V	2°
HP-5	9	7	丸底	Ⅲ	3°
HP-6	9	6	丸底	Ⅲ	1°
HP-7	8	7	丸底	V	0°
HP-8	9	7	丸底	Ⅲ	0°
HP-9	6	4	丸底	V	1°
HP-10	9	8	丸底	Ⅲ	12°
HP-11	9	7	丸底	Ⅲ	5°
HP-12	9	6	丸底	Ⅲ	5°
HP-13	8	6	丸底	V	3°
HP-14	7	5	丸底	V	0°
HP-15	9	7	丸底	V	2°

表IV-7 付属遺構規模一覧(3)

UH-10	径 (cm)		深さ (cm)	断面形状	検出層位	備考
	検出層	中間				
HP-16	7	4	12	尖る	V	5'
HP-17	13	7	38	尖る	IV	5'
HP-18	7	5	25	尖る	V	7'
HP-19	7	6	22	尖る	IV	6'
HP-20	9	7	20	尖る	V	5'
HP-21	6	4	18	尖る	V	1'

UH-11	径 (cm)		深さ (cm)	断面形状	検出層位	備考
	検出層	中間				
HF-1	63		8		III	灰・埴土
HP-1	11	10	8	丸	IV	傾き3'
HP-2	11	10	32	尖る	IV	17'
HP-3	7	6	15	尖る	IV	4'
HP-4	6	5	5	尖る	IV	3'
HP-5	9	9	30	尖る	IV	7'
HP-6	15	8	35	尖る	IV	13'
HP-7	7	5	8	尖る	IV	7'
HP-8	7	5	8	尖る	IV	2'
HP-9	9	7	9	尖る	IV	1'
HP-10	7	7	13	尖る	IV	2'

UH-12	径 (cm)		深さ (cm)	断面形状	検出層位	備考
	検出層	中間				
HP-1	15	7	16	丸	IV	傾き2'

UB-1	径 (cm)		深さ (cm)	先端形状	検出層位	備考
	検出層	中間				
BP-1	23	17	41	尖る	IV	傾き1'
BP-2	21	16	45	尖る	IV	4'
BP-3	21	14	48	尖る	IV	1'
BP-4	18	16	38	尖る	IV	13'
BP-5	20	17	39	尖る	IV	2'
BP-6	21	14	45	尖る	IV	1'
BP-7	22	14	42	尖る	IV	4'
BP-8	21	13	44	尖る	IV	4'

UB-2	径 (cm)		深さ (cm)	先端形状	検出層位	備考
	検出層	中間				
BP-1	12	10	30	尖る	IV	傾き1'
BP-2	15	12	42	尖る	IV	2'
BP-3	17	12	48	尖る	IV	5'
BP-4	16	15	45	尖る	IV	2'
BP-5	16	12	50	尖る	IV	3'
BP-6	18	14	51	尖る	IV	2'
BP-7	12	11	38	尖る	IV	3'
BP-8	18	17	39	丸	IV	1'
BP-9	17	16	32	尖る	IV	10'
BP-10	15	11	22	尖る	VI	5'

GP-1	径 (cm)		深さ (cm)	断面形状	検出層位	備考
	検出層	中間				
SP-1	8	7	45	尖る	VII	傾き4'
SP-2	10	7	45	尖る	VII	3'
SP-3	11	8	44	尖る	VII	8'
SP-4	10	7	55	尖る	VII	13'

表IV-8 遺構出土掲載石器等一覧(1)

採回番号	掲載 番号	図版	分類	遺構名	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考
IV-3	1	26	すり石	Ⅱ-2	床面	6.3	3.2	2.5	88	砂岩	鉄分付着
IV-3	2	26	礫	Ⅱ-2	床面	5.8	2.8	1	24	砂岩	
IV-3	3	26	礫	Ⅱ-2	床面	7	3.5	2.6	80	砂岩	スス付着
IV-6	1	26	すり石	Ⅱ-3	床面	9.5	6.2	2.9	277	閃緑岩	接合
IV-6	2	26	礫	Ⅱ-3	床面	8.7	8	2.5	310	デイトイト?	
IV-6	3	26	礫	Ⅱ-3	住居外	6.9	4.9	3	134	チャート	火打ち石
IV-6	4	26	礫	Ⅱ-3	住居外	9	6	2.3	166	チャート	火打ち石
IV-6	5	26	礫	Ⅱ-3	床面	9.8	5.8	4.7	366	チャート	火打ち石
IV-6	6	26	礫	Ⅱ-3	住居外	9.4	4.7	2.9	186	凝灰岩	接合
IV-6	7	26	礫	Ⅱ-3	住居外	4.4	2.5	1.9	32	凝灰岩	
IV-6	8	26	礫	Ⅱ-3	床面	5.5	2.7	1	26	砂岩	
IV-6	9	26	礫	Ⅱ-3	床面	5.8	3.1	1.3	34	砂岩	
IV-6	10	26	礫	Ⅱ-3	住居外	5.8	3	2	54	砂岩	
IV-6	11	26	礫	Ⅱ-3	床面	5.5	3.7	2.3	62	砂岩	
IV-6	12	26	礫	Ⅱ-3	住居外	6.8	3.4	2.1	76	チャート?	
IV-6	13	26	礫	Ⅱ-3	床面	6.1	3.5	2.9	34	砂岩	
IV-6	14	26	礫	Ⅱ-3	住居外	6.6	3.7	2.5	94	砂岩	
IV-6	15	26	礫	Ⅱ-3	住居外	7.4	2.9	1.9	56	砂岩	
IV-6	16	26	礫	Ⅱ-3	床面	9	3.5	1.7	80	砂岩	
IV-6	17	26	礫	Ⅱ-3	床面	5.5	4.1	0.8	86	閃緑岩	
IV-6	18	26	礫	Ⅱ-3	床面	5.5	4.9	1.8	40	凝灰岩	
IV-6	19	26	礫	Ⅱ-3	床面	5.6	4.3	1.1	40	凝灰岩	
IV-6	20	26	礫	Ⅱ-3	床面	6.5	3.2	1.1	26	凝灰岩	
IV-6	21	26	軽石製石製品	Ⅱ-3	住居外	6.1	3	1.7	12	軽石	
IV-6	22	26	軽石製石製品	Ⅱ-3	住居外	7	3.2	1.8	16	軽石	
IV-6	23	26	軽石製石製品	Ⅱ-3	住居外	6.3	3.8	1.9	12	軽石	
IV-6	24	26	軽石製石製品	Ⅱ-3	住居外	6.5	4.1	1.9	16	軽石	
IV-6	25	26	軽石製石製品	Ⅱ-3	住居外	6.7	3.6	1.9	22	軽石	
IV-6	26	26	軽石製石製品	Ⅱ-3	住居外	6.8	3.9	2	20	軽石	
IV-6	27	26	軽石製石製品	Ⅱ-3	住居外	6.5	4	3.1	22	軽石	
IV-6	28	26	軽石製石製品	Ⅱ-3	住居外	7	4	2	22	軽石	
IV-6	29	26	軽石製石製品	Ⅱ-3	住居外	7.2	4.1	1.7	18	軽石	
IV-6	30	26	軽石製石製品	Ⅱ-3	住居外	8.1	3.9	2.2	28	軽石	
IV-8	1	26	礫	Ⅱ-4	床面	6.7	2.8	1.5	36	砂岩	
IV-8	2	26	礫	Ⅱ-4	床面	7	3	2	52	石英片岩	
IV-8	3	26	礫	Ⅱ-4	床面	6.5	3.6	2.3	76	砂岩	
IV-8	4	26	礫	Ⅱ-4	床面	7.2	3.3	2.8	98	砂岩	
IV-8	5	26	礫	Ⅱ-4	床面	8.5	4.2	2.1	112	石英片岩	
IV-8	6	26	軽石製石製品	Ⅱ-4	床面	5.3	4.2	1.9	14	軽石	
IV-8	7	26	軽石製石製品	Ⅱ-4	床面	6.6	3.8	2.6	52	軽石	
IV-8	8	26	軽石製石製品	Ⅱ-4	床面	8	4	3	24	軽石	
IV-10	1	26	すり石	Ⅱ-5	床面	6.8	4.4	1	54	砂岩	
IV-10	2	26	すり石	Ⅱ-5	床面	6.6	3.8	1.6	64	砂岩	
IV-10	3	26	たたく石	Ⅱ-5	床面	7.8	3.3	1.8	56	片岩	
IV-10	4	26	礫	Ⅱ-5	床面	7.6	4.7	1.7	50	凝灰岩	
IV-10	5	26	礫	Ⅱ-5	床面	6.4	3.1	1.7	52	砂岩	
IV-10	6	26	礫	Ⅱ-5	床面	6.5	3.2	2.1	56	砂岩	
IV-10	7	26	礫	Ⅱ-5	床面	7.7	2.9	1.7	46	砂岩	
IV-10	8	26	礫	Ⅱ-5	床面	8.7	3.9	1.4	52	砂岩	
IV-10	9	26	礫	Ⅱ-5	床面	8.1	3.5	2.1	94	安山岩	
IV-10	10	26	礫	Ⅱ-5	床面	13.3	5.5	2.6	350	凝灰岩	
IV-12	1	26	すり石	Ⅱ-6	床面	8.4	10	2.1	288	閃緑岩	平形
IV-12	2	26	礫	Ⅱ-6	床面	6.3	3.7	1.5	62	チャート?	
IV-12	3	26	礫	Ⅱ-6	床面	6.3	2.9	1.3	42	石英片岩	
IV-12	4	26	礫	Ⅱ-6	床面	7.4	3.5	1.6	66	砂岩	
IV-12	5	26	軽石製石製品	Ⅱ-6	床面	5.3	2.8	1.8	8	軽石	
IV-12	6	26	軽石製石製品	Ⅱ-6	床面	5.3	3.3	2.5	16	軽石	
IV-12	7	26	軽石製石製品	Ⅱ-6	床面	6.9	3.5	2.1	24	軽石	
IV-12	8	26	軽石製石製品	Ⅱ-6	床面	6.7	4	2.7	26	軽石	
IV-15	1	27	砥石	Ⅱ-7	床面	19.5	8.3	3.7	674	凝灰岩	
IV-15	2	27	すり石	Ⅱ-7 Ⅱ-2	晩土上	14.3	10.3	3.4	760	閃緑岩	
IV-15	3	27	すり石	Ⅱ-7	床面	9.6	7	2.1	240	閃緑岩	

表IV-9 遺構出土掲載石器等一覧(2)

拝回番号	掲載番号	図版	分類	遺構名	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考
図IV-15	4	27	礫	III-7	床面	3.3	4	2.2	16	チャート	火打ち石
図IV-15	5	27	礫	III-7	床面	4.9	3.5	2	56	チャート	
図IV-15	6	27	礫	III-7	床面	5.9	3.5	1.5	52	砂岩	
図IV-15	7	27	礫	III-7	床面	6.2	2.8	2.6	64	砂岩	
図IV-15	8	27	礫	III-7	床面	6	3	2.1	64	チャート?	
図IV-15	9	27	礫	III-8	床面	6.5	2.8	1.9	44	砂岩	
図IV-15	10	27	礫	III-7BF-4	焼土上	6.6	3.1	2.3	58	片岩	
図IV-15	11	27	礫	III-7	床面	6.5	3.2	1.1	44	砂岩	
図IV-15	12	27	礫	III-7	床面	6	4.5	2.6	104	砂岩	スス付着
図IV-15	13	27	礫	III-7	床面	6.1	4.6	2.4	102	砂岩	
図IV-15	14	27	礫	III-7	床面	5.8	4	2.2	68	砂岩	
図IV-15	15	27	礫	III-7	床面	6.1	3.8	2.1	48	凝灰岩	
図IV-15	16	27	礫	III-7	床面	6.8	5.1	1.4	54	凝灰岩	
図IV-15	17	27	礫	III-7	床面	10.8	7.3	2.1	322	砂岩スス付着	
図IV-15	18	27	礫	III-7	床面	13	10	3.7	730	不明	
図IV-15	19	27	軽石製石製品	III-7	床面	5.5	3.3	1.9	12	軽石	
図IV-15	20	27	軽石製石製品	III-7	床面	6	3.5	2.3	14	軽石	
図IV-15	21	27	軽石製石製品	III-7	床面	6.7	5.2	2.9	26	軽石	
図IV-15	22	27	軽石製石製品	III-7	床面	9.6	4.8	3.1	50	軽石	
図IV-17	1	26	砥石	III-8	床面	6.7	4.3	1.2	26	凝灰岩	スス付着
図IV-17	2	26	すり石	III-8BF-3	焼土上	9	6.4	1.8	186	凹縁岩	
図IV-17	3	26	すり石	III-8BF-3	焼土上	8.2	6.9	2.6	240	凹縁岩	
図IV-17	4	26	礫	III-8	床面	5.2	3.4	2.2	58	チャート	
図IV-17	5	26	礫	III-8	床面	6.8	3.9	3.1	100	砂岩	
図IV-17	6	26	礫	III-8	床面	7.2	3.3	1.1	68	凹縁岩	すり痕
図IV-17	7	26	礫	III-8	床面	7.9	4.2	1.1	44	凝灰岩	
図IV-19	1	26	礫	III-9	床面	2.1	3	1.1	34	凹縁岩	
図IV-19	2	26	礫	III-9	床面	3.3	3.8	1.9	76	片岩	
図IV-19	3	26	礫	III-9	床面	5.8	3	1.4	38	石英片岩	
図IV-19	4	26	礫	III-9	床面	6.2	4.3	2.2	64	不明	スス付着
図IV-19	5	26	礫	III-9	床面	6.5	5.1	2.4	114	凹縁岩	
図IV-19	6	26	礫	III-9	床面	6	3.3	2.1	76	砂岩	
図IV-21	1	26	礫	III-10	床面	5.5	2.7	1.3	26	凹縁岩	
図IV-34	1	27	礫	IA-1	Ⅲ	5.5	3.8	1.2	28	凝灰岩	
図IV-37	1	27	礫	IA-2	Ⅲ	5	2.9	2.3	50	石英片岩?	
図IV-37	2	27	礫	IA-2	Ⅲ	5.3	3.8	2.6	76	石英片岩?	
図IV-37	3	27	礫	IA-2	Ⅲ	6	2.7	1.9	38	不明	
図IV-37	4	27	礫	IA-2	灰	7.2	2.4	1.8	42	砂岩	
図IV-37	5	27	礫	IA-2	灰	6.9	3.2	2.2	76	チャート?	
図IV-37	6	27	礫	IA-2	Ⅲ	6.9	3.4	3	66	砂岩	
図IV-37	7	27	礫	IA-2	Ⅲ	5	3.5	1.3	42	凝灰岩	
図IV-37	8	27	礫	IA-2	灰	6.8	2.7	1	36	片岩	
図IV-37	9	27	礫	IA-2	灰	6	3.1	1.1	38	不明	
図IV-37	10	27	礫	IA-2	灰	2.5	2.1	0.9	1.68	コハク	
図IV-37	11	27	砥石	IA-2	Ⅲ	10	5.5	3	246	砂岩	鉄サビ付着
図IV-37	12	27	軽石製石製品	IA-2	Ⅲ	2.3	1.8	1.8	6	砂岩	スス付着

表IV-10 遺構出土掲載骨角器一覧

拝回番号	掲載番号	図版	器種	遺構名	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	素材	備考
図IV-10	11	32	中柄	III-5BF-2	灰	3.4	0.9	0.5	1.88	シカ中手足骨	
図IV-10	12	32	骨角器・不明	III-5BF-2	灰サンプル	2.1	1	0.5	1.06	シカ中手足骨	
図IV-10	13	32	骨針	III-5BF-2	灰サンプル	1.5	0.4	0.3	0.08	シカ?	
図IV-34	2	32	中柄	IA-1	灰	9.3	1	0.6	2.55	シカ中手足骨	
図IV-37	23	32	骨棒	IA-2	灰上	11.7	1.4	0.7	6.54	シカ角	
図IV-37	24	32	中柄	IA-2	灰2①	6.9	1.1	0.7	2.58	シカ・鹿角	
図IV-37	25	32	中柄未成品	IA-2	灰上	7.5	0.9	0.6	1.97	シカ中手骨	
図IV-37	26	32	中柄	IA-2	灰2②	2.2	0.5	0.5	0.28	海獣骨	
図IV-37	27	32	骨針	IA-2	灰3①	1.4	0.5	0.4	0.14	シカ?	
図IV-37	28	32	骨針	IA-2	灰2①	1.4	0.4	0.3	0.12	シカ?	
図IV-37	29	32	骨針	IA-2(Ⅱ-5区)	Ⅲ	1.8	0.5	0.3	0.26	シカ?	
図IV-37	30	32	骨針	IA-2(Ⅱ-9区)	Ⅲ	2.2	0.5	0.4	0.4	シカ?	

表Ⅳ-11 遺構出土金属製品一覧

検出番号	掲載番号	図版	種別	分類	遺構名	層位	大きさ(現存・cm)			重さ(g)	整理番号	備考
							長さ	幅	厚さ			
Ⅳ-7	31	28	鉄製品	内耳鉄線	Ⅳ-3	建物外	(16.75)	(9.55)	0.33	(226.5)	8	
Ⅳ-7	32	28	銅製品	刀装具	Ⅳ-3	建物外	(4.10)	(3.13)	0.12	(2.27)	4	
Ⅳ-7	33	28	鉄製品	棒状品/マレット	Ⅳ-3	床面	(4.98)	(1.01)	(0.94)	(13.69)	19	
Ⅳ-7	34	28	鉄製品	棒状品	Ⅳ-3	床面	(3.1)	(0.7)	(0.3)	(1.11)	18	
Ⅳ-7	35	28	鉄製品	棒状品/素材	Ⅳ-3	建物外	(9.0)	(0.6)	(0.5)	(8.69)	22	
Ⅳ-8	9	28	鉄製品	棒状品/素材	Ⅳ-4	床面	(3.3)	(0.9)	(0.85)	(2.14)	23	
Ⅳ-10	14	28	鉄製品	小刀	Ⅳ-5	床面	(28.2)	3.1	0.67	(146.7)	12	
—			鉄	鉄片	Ⅳ-5	ⅡF-1	—	—	—	0.30	36	微小片9
—			鉄	鉄片	Ⅳ-5	ⅡF-2	—	—	—	0.03	37	微小片3
—			鉄	鉄片	Ⅳ-5	ⅡF-3	—	—	—	0.06	38	微小片2
Ⅳ-12	9	29	鉄製品	鋸	Ⅳ-6	柱穴	15.0	4.7	1.1	81.72	16	
Ⅳ-15	23	29	鉄製品	刀子	Ⅳ-7	床面	(7.3)	1.55	0.33	(12.59)	11	
—			鉄製品	刀子	Ⅳ-7	床面	—	1.05	0.30	(3.14)	9	3片+微小片多
Ⅳ-15	24	29	鉄製品	マレット	Ⅳ-7	炉上	11.9	8.7	1.2	82.78	15	
—			鉄	鉄片	Ⅳ-7	床面	1.85	0.86	0.12	0.44	30	小片1
Ⅳ-17	8	29	鉄製品	刀子加工品	Ⅳ-8	床面	(9.1)	2.13	0.66	(25.75)	28	
—			棒状品		Ⅳ-8	床面	—	—	—	(1.16)	24	破片9
Ⅳ-21	2	29	鉄製品	小刀	Ⅳ-10	床面	(25.1)	3.2	0.32	(93.21)	14	
Ⅳ-27	1	30	銅製品	刀装具/鐔	GP-1	周辺層層	6.86	6.87	0.43	105.5	2	
Ⅳ-27	2	30	銅製品	刀装具/鐔	GP-1	周辺層層	4.93	4.78	0.16	18.56	3	
Ⅳ-37	14	31	青銅製品	刀装具	Ⅳ-2	灰1	(2.78)	(4.42)	0.09	(4.70)	5	高1.01cm
Ⅳ-37	15	30	金銅製品	金銅板加工品	Ⅳ-2	灰2	(2.98)	(2.29)	0.05	(2.08)	6	
Ⅳ-37	16	30	銅製品	燧管加工品/鏃	Ⅳ-2	灰3・5	4.37	1.20	0.07	1.40	7	高0.32cm
Ⅳ-37	17	30	銅製品	裝飾品	Ⅳ-2		(0.65)	(0.52)	0.12	(0.16)	31	
Ⅳ-37	18	30	鉄製品	鈎針	Ⅳ-2	灰2	1.69	1.33	0.22	0.70	32	
Ⅳ-37	19	30	鉄製品	針	Ⅳ-2		(1.10)	0.15	0.15	(0.10)	34	
Ⅳ-37	20	30	鉄製品	針	Ⅳ-2	灰2	(1.10)	0.20	0.20	(0.11)	35	
—			鉄製品	針	Ⅳ-2	灰3・5	(1.25)	0.30	0.30	(0.24)	26	
Ⅳ-37	21	31	鉄製品	棒状品	Ⅳ-2	灰2	(3.0)	(1.1)	(0.71)	(2.42)	21	
Ⅳ-37	22	31	鉄製品	板状品	Ⅳ-2	灰5	(3.5)	(1.8)	0.16	(2.13)	29	
—			鉄製品	棒状品	Ⅳ-2	灰2	—	0.51	0.50	(2.93)	20	破片13
—			鉄	鉄片	Ⅳ-2		—	—	—	0.04	33	微小片1
—			鉄	鉄片	Ⅳ-2		—	—	—	0.16	39	微小片3
—			鉄	鉄片	Ⅳ-2	灰2	—	—	—	0.02	40	微小片2
—			鉄	鉄片	Ⅳ-3	灰	—	—	—	0.06	41	微小片1
—			鉄	鉄片	Ⅳ-5	灰	—	—	—	0.01	42	微小片1
—			鉄製品	針	Ⅳ-5	灰	(0.8)	0.1	0.1	(0.06)	43	先端部
Ⅳ-39	1	31	鉄製品	棒状品/刺突具	Ⅳ-7		(8.8)	0.8	0.65	(7.68)	25	

表Ⅳ-12 遺構出土掲載ガラス製品一覧

検出番号	掲載番号	図版	種別	分類	遺構名	層位	大きさ(現存・cm)			重さ(g)	整理番号	備考
							長さ	幅	厚さ			
Ⅳ-37	13	32	ガラス製品	小玉	Ⅳ-2	灰2	0.42	0.33	—	0.09		風化

表IV-13 遺構フローテーション結果一覧

*炭化種子、動物遺存体は單草参照

遺構名	層位	乾燥重量	乾燥体積	炭化材	炭化種子	堅果	骨	貝	土器	フレイク	礎	骨角器	金属器	備考
		(g)	(l)	(g)										
UH-1	HF-1	18400	22.7	0.54	○		○	○						
	HF-1	4500	4.2					○						
UH-3	HF-1	5100	7.3	0.43			○	○						
	HF-2	400	0.5	0.04				○						
UH-4	HF-1	3300	3.7	2.31				○						
	HF-1	32200	36.6	2.58				○	○					
	HF-2	17060	23.2	19.65				○	○	○		○		
UH-5	HF-3	7060	7.9	0.33	○	○	○	○		○		○	○	
	HF-1	10200	15.2	4.48	○	○	○							
	HF-2	750	1.2	0.09			○							
UH-7	HF-3	13000	15.9	8.65	○	○	○							
	HF-4	650	0.8	0.08	○		○							
	HF-1	6300	8.6	0.51			○							
UH-8	HF-2	13050	17.6	0.66	○	○	○							
	HF-3	1200	1.5	0.06										
	HF-4	900	1.5	25.4	○	○	○							
	HF-1(灰)	100	0.5	0.04			○							
UH-10	HF-1	200	0.1				○							
UH-11	HF-1	8900	12	1.02	○			○						
UA-2	灰	101939	133.6	63.28	○	○多量	○	○						
	灰1①	2900	4.2	1.56	○			○						
	灰1②	1300	2.5	1.87	○			○						
	灰2①	18900	27.4	8.1	○	○	○	○				○		
	灰2②	8750	14.1	5.12	○	○	○	○						
	灰3①	19300	28	22.47	○	○	○	○					○	
	灰3②	250	0.4	0.25	○		○							
	灰4①	24050	29.3	8.94	○	○	○	○						
	灰4②	8200	10.3	3.66	○	○	○	○	○					
	灰5①	2500	3	0.21			○	○	○					
	灰5②	600	0.8	0.29	○		○	○	○					
	灰5③	2600	4.2	0.76	○	○	○	○						
	灰5④	3250	4.7	0.55			○	○	○					
	灰5⑤	2900	4.2	1.61	○		○	○	○					
灰5⑥	2500	0.4	0.02				○							
UA-2周 辺層	B9~16	28400	39.2	18.29	○	0.14	○	○				○		
	C9~17	25600	35.4	17.87	○	0.98	○	○						
	D9~18	28700	38.4	8.37	○	0.16	○	○						
	E9~20	25650	34.5	2.97	○	0.18	○	○						
	F1~20	71500	95.7	14.46	○	1.78	○	○						
	G1~13	36100	51	21.6	○	1.86	○	○				○		
	H1~10	28500	41.2	12.46	○	2.08	○	○				○		
	I1~8	23100	30.8	2.76	○	0.07	○	○						
J5~8	9000	13.3	2.46	○	0.14		○							
UA-3	灰	7200	9.6	1.38	○	0.12	○	○					○	
UA-4	灰	3050	4.3	2.24	○		○							
UA-5	灰	20200	25.7	6.41	○	3.27	○	○				○		
UF-1	焼土	1000	0.9											
UF-2	焼土	700	1	0.01										
UF-5	焼土	500	0.8	0.03										
UF-6	焼土	200	0.3											
UF-8	焼土	400	0.7	0.24										

9. 包含層出土の遺物

Ⅲ層から出土した遺物は土器667点、石器等332点、金属製品5点である。土器はⅣ群土器が主体で、Ⅴ群土器が少量みられる。石器は棒状礫など礫が多い。

(1) 土器

Ⅲ層からはⅣ群土器503点、Ⅴ群土器164点が出土した。Ⅳ群土器は調査区南側の緩斜面に分布し、Ⅴ群土器は調査区北西緑UA-2下位に分布する。

1~4はⅣ群土器。1は復原土器である。上面観は楕円形で、胴部がやや下膨れとなる深鉢形の赤彩土器。長軸口径は14.7cm、器高14.5cm、底部8.4cmである。長軸両端に台形状の突起があるが、一方はやや押しつぶれたように不明瞭となっている。突起部の両側には小突起が付随し、小突起頂部には縄端による刺突が施される。突起部下には2個一對の貫通孔が外側から斜め上方へ穿たれている。口縁部は全周外反気味となり、口唇部には縄線文が施される。口縁部から胴部下半にかけては縄線文・縄端疔痕文・沈線文が施される。縄端疔痕文は横位に2条施されるが、上部のものは薄い貼り付けにより肥厚させた部分に押圧されている。胴部地文はR原体の撚りのゆるい縷糸文が縦位に施されている。赤彩は突起部から底部まで縦位に垂下するものと、横位に施されるものが3条確認できる。内面には3cm幅の輪轡み痕がみられる。

2は深鉢形土器の胴部から底部。底部径9cmでややあげ底となる。地文はR.L縷文が横走する。3abcは深鉢形土器。底部から緩やかに立ち上がり、口縁部は屈曲し、やや外反する。口縁部から胴部には横位、斜位、底部には縦位のR.L縷文がみられる。4は胴部片。不明瞭だが沈線文がみとれる。

5~10はⅤ群土器。いずれも甕形土器である。5は頸部付近から底部までの個体で、胴部と底部は接合せず、図上で復原している。器形は口縁が外反し、頸部から胴部下半にかけては緩やかに、胴部下半からは比較的急激にすぼまる。底部は大きく張り出す。胴部上半には貼り付け帯がめぐり、その上部が文様帯となっている。施文は貼り付けを巡らした後、沈線文が横位、縦位、斜位の順でなされている。胴部から底部にかけて内面にはミガキが施される。6は5の口縁部の可能性がある。口唇断面は角型で、矢羽状の沈線文がみられる。7abは口縁部に段状沈線文がみられ、頸部と胴部は横位の沈線文で区画される。胴部は短刻文、縦位・斜位の沈線文で文様が構成され、内面は横位にミガキが施される。8・9には比較的細い沈線文がみられる。

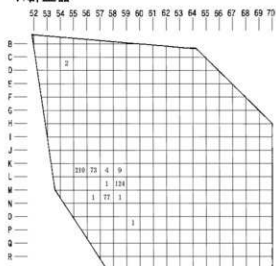
(2) 石器等

Ⅲ層出土の石器・石製品は332点である。内訳は石鏃3点、ナイフ形石器1点、スクレイパー1点、楔形石器1点、石核1点、石斧7点、砥石1点、すり石5点、たたき石2点、加工痕ある礫2点、礫271点、棒状原石1点、Rフレイク2点、フレイク33点、石製品1点である。礫は調査区ほぼ全域に分布する。実測は行わなかったが棒状礫が多く、アイヌ文化期の遺物と考えられる。また加工痕ある礫・礫・原石・フレイクの中にはチャート製の火打石と考えられるものがある。

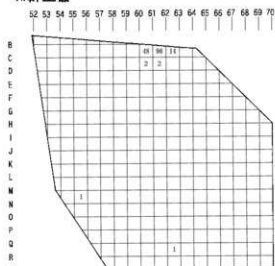
1~2は石鏃。いずれも頁岩製である。3は頁岩製のナイフ形石器。4は黒曜石製のスクレイパー。5は上下端からの剥離が各面で見られる。楔形石器とした。6は黒曜石の石核。1つの打面から周辺に剥離が行われ、断面が三角形となる。

7・8は緑色泥岩製の石斧。石斧はすべて破損しているが、状況のよいものを図示した。9は凝灰岩製の砥石。平坦なすり面が形成されている。10はすり石。円形の礫のほぼ全面が磨られる。11はた

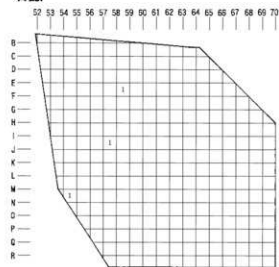
Ⅵ群土器



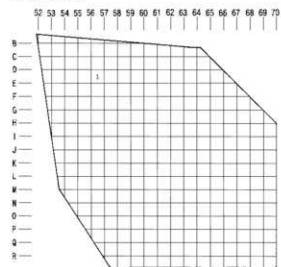
Ⅶ群土器



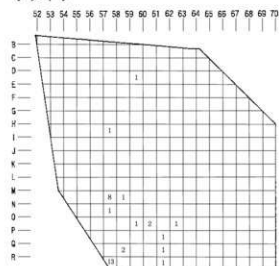
石鏡



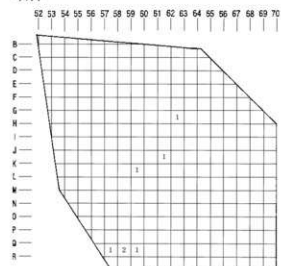
スクレイパー



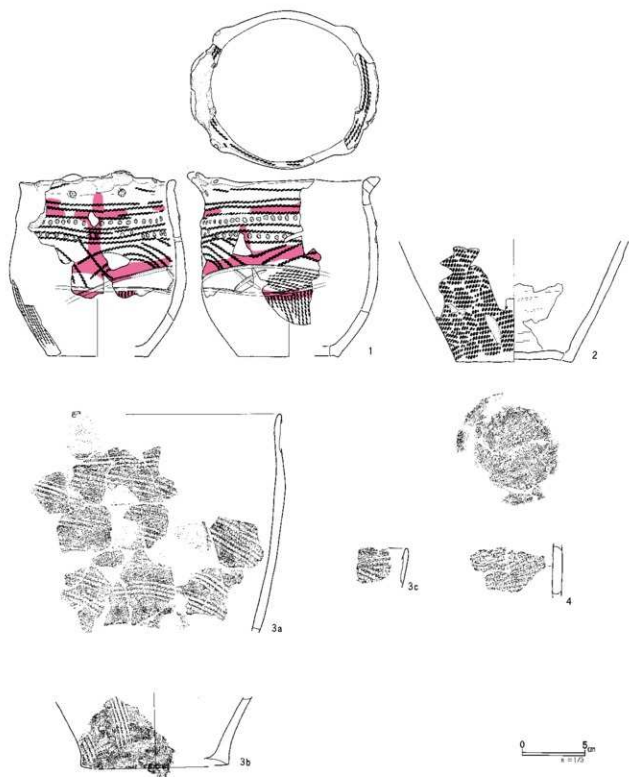
フリイク



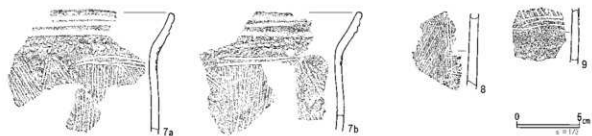
石斧



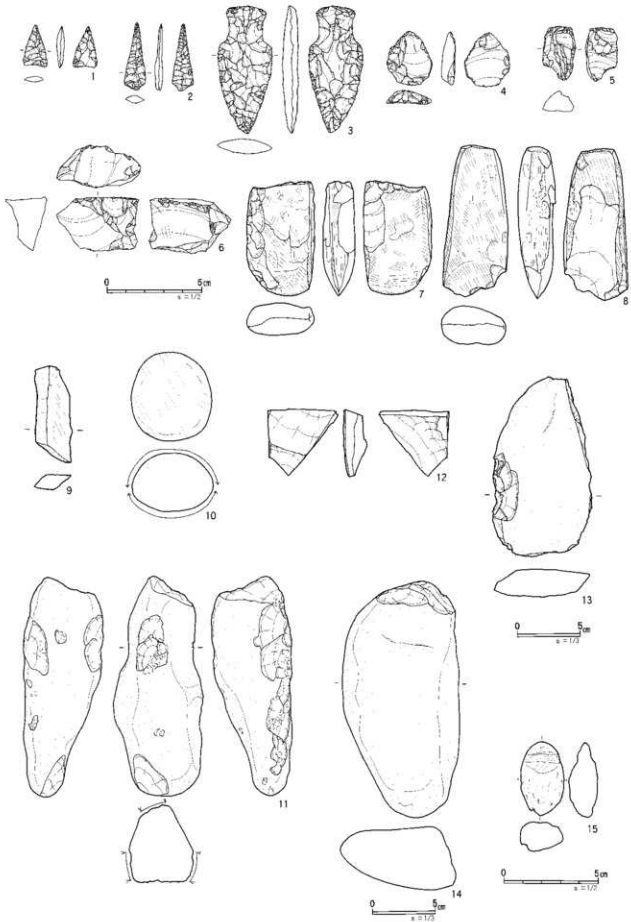
図Ⅳ-40 Ⅲ層出土の遺物分布図(1)



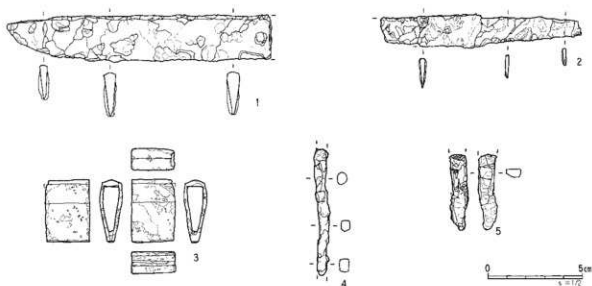
図Ⅳ-42 Ⅲ層出土の土器(1)



図IV-43 Ⅲ層出土の土器(2)



図Ⅳ-44 Ⅲ層出土の石器等



図Ⅳ-45 Ⅲ層出土の金属器

たき石。断面三角形の稜の部分にそれぞれ使用痕がみられる。12~14は赤色のチャート製で、火打石もしくはその素材である。12は板状となる。13は大型の原石から打ち剥がされた剥片。14は原石で両端に打ち欠きが見られ、風化がはげしい。15は軽石製の石製品。棒状礫状に全面研磨したもので、図正面上部に横位に溝状のすり痕がみられる。(愛場)

(3) 金属製品

1は刃部幅2.2cmの小刀。刃部の途中から後半を欠くが、折れた刀の再利用ともとれる。棟は山形になる庵棟^{いかりのこ}で、平造の刀である。鋒が内反気味にやや下がっている。2は刃区部で幅1.2cmを計る刀子。刃部の前半を欠く。平棟平造で、明瞭な段のある棟区と緩い刃区を持つ。刃区より前、すべての刃先に使い減りがみられる。

3は範囲確認調査の際、調査区となった範囲の北側で出土した銅製品。刀装具の鐮(はばき)である。棟側・刃側とも厚く作られており、製作時の継ぎ目は刃側にある。柄側が大振りに作られ、刀身側へ厚味・幅とも減じ、刀身棟側にくり込みがある。棟側外部は山形で庵棟のようになっている。側部は内外とも鎔と対応した形状をしている。蛍光X線分析を行ったところ、Cu 75.2% Pb 3.7% P 1.0%という結果を得た。

4は断面正方形の細い棒状鉄製品。両端部を欠くが、釘の可能性がある。5は断面扁平な棒状鉄製品端部片。先端部近くで短辺側に緩い曲りがみられる。両者とも鉄素材に成り得る。(三浦)

表Ⅳ-14 包含層出土揚載復原・拓本土器一覧

採回番号	掲載番号	図版	分類	グリッド名	層位	点数	器種	部位	文様等の特徴	備考	
											口縁～底部
Ⅳ-42	1	33	Ⅱ群	L-58	Ⅲ	31	深鉢	口縁～底部	赤彩、平行；横縄文・横端直文、縦線文；横縄文・沈線文 胴部：R格子系文	輪積み痕	
				K-57							4
				K-58							3
Ⅳ-42	2	33	Ⅱ群	M-57	Ⅲ	23	深鉢	胴部～底部	R L横走		
Ⅳ-42	3a	34	Ⅱ群	K-55	Ⅲ	25	深鉢	口縁	R L帯縄文横位、斜位	胎土塵石、砂粒	
Ⅳ-42	3b	34	Ⅱ群	C-54	Ⅲ	1	深鉢	底部	R L帯縄文縦位		
Ⅳ-42	3c	34	Ⅱ群	K-55	Ⅲ	1	深鉢	口縁	R L帯縄文横位、斜位		
Ⅳ-42	4	34	Ⅱ群	M-57	Ⅲ	4	深鉢	胴部	R L横走	2と同一？	
Ⅳ-43	5	33	Ⅱ群	B-60	Ⅲ	22	甕	頸部～底部	貼り付け、縦・横沈線文、斜位短刻線文、外面調整；頸部～胴部下位縦位ハケメー胴部下半～底部縦位ミガキ 内面調整；横位ハケメー縦位ミガキ、底部付近斜位ミガキ		
				B-61							16
				B-62							1
				C-60							1
Ⅳ-43	6	34	Ⅱ群	B-61	Ⅲ	3	甕	口縁	矢羽状短刻線文、ハケメーヨコナデ	5と同一	
Ⅳ-43	7a	34	Ⅱ群	B-62	Ⅲ	6	甕	口縁～胴部	短刻線文、沈線文	外面炭化物付着	
Ⅳ-43	7b	34	Ⅱ群	B-62	Ⅲ	4	甕	口縁～胴部	短刻線文、沈線文	補修孔	
Ⅳ-43	8	34	Ⅱ群	M-55	Ⅲ	1	甕	胴部	沈線文 ヨコナデ		
Ⅳ-43	9	34	Ⅱ群	B-61	Ⅲ	1	甕	胴部	沈線文 タテミガキ	内外面炭化物付着	

表Ⅳ-15 包含層出土揚載石器等一覧

採回番号	掲載番号	図版	分類	グリッド名	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考
Ⅳ-44	1	35	石鏃	I-57	Ⅲ	2.3	1.3	0.4	0.56	頁岩	
Ⅳ-44	2	35	石鏃	E-58	Ⅲ	3.6	1.2	0.4	0.92	頁岩	
Ⅳ-44	3	35	ナイフ	Q-66	Ⅲ	6.7	2.9	0.9	15.17	頁岩	
Ⅳ-44	4	35	スクレイパー	B-56	Ⅲ	2.9	2.4	0.7	4.47	黒曜石	
Ⅳ-44	5	35	楔形石器	I-63	Ⅲ	2.9	1.8	1.1	4.81	黒曜石	
Ⅳ-44	6	35	石核	I-60	I	2.9	4.4	2.2	22.22	黒曜石	
Ⅳ-44	7	35	石斧	Q-57	Ⅲ	8.9	5.4	2.5	192	緑色泥岩	
Ⅳ-44	8	35	石斧	G-62	Ⅲ	11.8	5.2	3.0	274	緑色泥岩	
Ⅳ-44	9	35	砥石	I-61	Ⅲ	7.5	3.0	1.2	26	凝灰岩	
Ⅳ-44	10	35	すり石	M-59	Ⅲ	6.9	6.4	4.0	323	片麻岩	
Ⅳ-44	11	35	たたく石	M-64	Ⅲ	17.2	7.1	6.3	646	凝灰岩	
Ⅳ-44	12	35	礮	H-67	Ⅲ	5.2	5.5	1.8	48	チャート	火打ち石
Ⅳ-44	13	35	加工痕のある礮	H-65	Ⅲ	14.1	7.8	2.1	321	チャート	火打ち石
Ⅳ-44	14	35	礮	S-63	Ⅲ	24.7	12.5	6.6	2800	チャート	火打ち石
Ⅳ-44	15	35	石製品	M-58	Ⅲ	5.8	3.5	2.3	9	軽石	

表Ⅳ-16 包含層出土揚載金属製品一覧

採回番号	掲載番号	図版	種別	分類	グリッド名	層位	大きさ(現存・cm)			重量(g)	整理番号	備考
							長さ	幅	厚さ			
Ⅳ-45	1	31	鉄製品	小刀	M-57区	Ⅲ	(14.0)	2.3	0.63	(59.56)	13	
Ⅳ-45	2	31	鉄製品	刀子	M-57区	Ⅲ	(10.6)	1.86	0.20	(13.05)	10	
Ⅳ-45	3	31	銅製品	刀装具/鏃	SP-6300 L40	Ⅲ	22.9	33.0	11.5	16.65	1	範囲確認調査
Ⅳ-45	4	31	鉄製品	棒状品/釘	L-57区	Ⅲ	(6.5)	0.6	0.5	(5.62)	27	
Ⅳ-45	5	31	鉄製品	棒状品/素材	P-60区	Ⅲ	(4.0)	(0.9)	(0.54)	(3.21)	17	

V章 アンカリトロー7遺跡 V・VI層の遺構と遺物

アンカリトロー7遺跡のV・VI層出土の遺構は焼土3か所である。なおV・VI層を中心に出土した旧石器については章を変えVI章で記述する。以下遺構、包含層出土遺物の順で述べる。

1. 焼土

V層では調査区東側平坦面から焼土3か所が検出された。いずれも縄文時代中期の可能性がある。

LF-1 (図V-2・表V-1・図版20)

位置：O-64区 規模：0.26×0.22 / 0.06m

平面形態：楕円形 被熱層：V層 色調：明赤褐色 (5YR5/6)

確認・調査：包含層調査中、V層で楕円形を呈する赤色土の堆積が認められた。遺構の中心を通るようにトレンチを設け、平面と断面を観察した。厚みを有するもので焼土と判断した。付近のV層からⅢ群b類土器の破片が出土した。

断面：中央部が厚く、両端部へと曲線的に収束する形態を呈する。

遺物出土状況：焼土上部および周辺からⅢ群b類の土器破片が出土した。

掲載遺物：1abはⅢ群b類土器（萩ヶ岡3式）。口縁部に貼り付けが施され、断面は肥厚する。貼り付け部は半截竹管工具により施文されている。口縁から7cm程下には2条の沈線文がみられる。

時期：出土遺物から縄文時代中期後半の可能性がある。

LF-2 (図V-2・表V-1)

位置：N-65区 規模：0.26×0.18 / 0.06m 0.14×0.06 / 0.04m

平面形態：楕円形 被熱層：VI層 色調：橙色 (7.5YR6/6)

確認・調査：包含層調査中、VI層で赤色土の堆積が認められた。遺構の中心を通るようにトレンチを設け、平面と断面を観察した。厚みを有し焼土であると判断した。また近くに炭化材が確認された。

断面：中央部が厚く両端部へと曲線的に収束する形態を呈する。

遺物出土状況：遺物の出土はなかった。

時期：層的には縄文時代中期から早期に属する。

LF-3 (図V-2・表V-1・図版20)

位置：O-67区

規模：0.52×0.46 / 0.10m 平面形態：不整形

被熱層：風倒木痕内堆積のV層 色調：橙色 (7.5YR6/6)

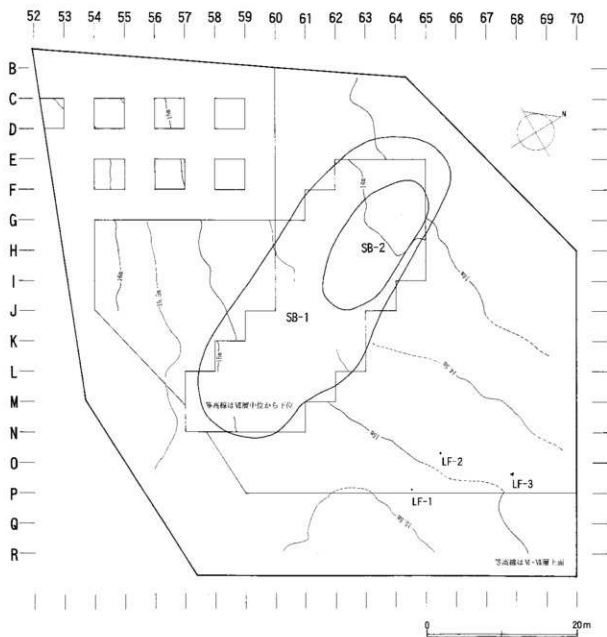
確認・調査：包含層調査中、赤色土の堆積が認められた。これの中心を通るようにトレンチを設け、平面と断面を観察した。風倒木痕内で不整形を呈するが、厚みを有するので念のため遺構と判断し記録した。また、この焼土に重なって炭化材も確認された。

断面：中央のやや左側が最も厚みを有し、両端部へと曲線的に収束する形態を呈する。

遺物出土状況：遺物の出土はなかった。

時期：層的には縄文時代中期から早期に属する。

(未光・愛場)



図V-1 V層以下検出の遺構の位置

LF-1



+P-65

LF-1



LF-2



LF-2



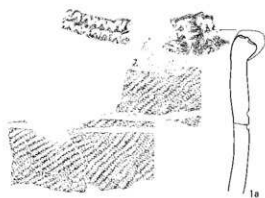
+O-65

+O-68

LF-3



LF-3



図V-2 LF-1~3

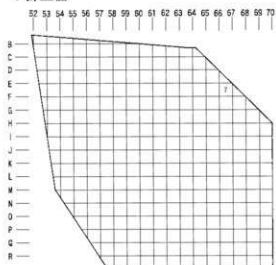
表V-1 V・VI層の焼土規模等一覧

通構名	回	図版	グリット	確認層位 (縮熱層)	平面形態	規模(m)			色調	層界	粘着性	堅密度	出土遺物	備考
						長径	短径	最大厚						
LF-1	V-2	20	0-04	V層	楕円形	0.26	0.22	0.06	明赤褐色 (5YR5/0)	明瞭	中～強	軟～堅	群b土器	
LF-2	V-2	*	N-05	VI層	楕円形	0.26 0.14	0.18 0.06	0.06 0.04	棕色 (7.5YR5/0)	明瞭	強～中	軟～堅		近くに炭化材あり
LF-3	V-2	20	0-07	瓶倒木箱内 V層	不整形	0.52	0.46	0.10	棕色 (7.5YR5/0)	明瞭	強	軟		近くに炭化材あり

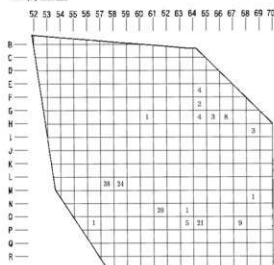
表V-2 焼土層位一覧

LF-1																
断面図 番号	層位名称	層界	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)					礫(長径2mm以上)				その他の混在物		備考		
			野外土性	全体的な色調		粘着性	堅密度	種類	混在割合 %	粒径 mm	形状	風化の程度	種類		混在量	
				色名	マンセル染色系											
1	R層	明瞭	埴壤土	明赤褐色	5YR5/0	中～強	軟～堅							*	*	焼土
LF-2																
断面図 番号	層位名称	層界	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)					礫(長径2mm以上)				その他の混在物		備考		
			野外土性	全体的な色調		粘着性	堅密度	種類	混在割合 %	粒径 mm	形状	風化の程度	種類		混在量	
				色名	マンセル染色系											
1	R層	明瞭	埴壤土	棕色	7.5YR5/0	強～中	軟～堅									炭化物 少量 焼土
LF-3																
断面図 番号	層位名称	層界	砂・粘土・シルト(長径2mm未満)					礫(長径2mm以上)				その他の混在物		備考		
			野外土性	全体的な色調		粘着性	堅密度	種類	混在割合 %	粒径 mm	形状	風化の程度	種類		混在量	
				色名	マンセル染色系											
1	R層	明瞭	埴壤土	棕色	7.5YR5/0	強	軟	Es-粒石	3	平均:0.871~0.916mm	風化			*	*	焼土

I 群土器



III 群土器



図V-3 V・VI層出土の遺物分布図(1)

2. 包含層出土の遺物

V・VI層出土の遺物は土器147点、石器136点である。土器はⅢ群b類土器が主体で、I群a類土器がごく少量出土している。いずれも復原個体はなく、拓本で破片を掲載した。

(1) 土器

V層以下からはI群a類土器7点、Ⅲ群b類土器127点、分類不明土器13点が出土した。I群a類土器は調査区北側の低位部にみられ、Ⅲ群b類土器は緩斜面から平坦面にかけて分布する。

1はI群a類土器。貝殻腹縁文が施される。胎土には砂粒が多く含まれる。2～7はⅢ群b類土器。3cm以下の小破片が多く、ほとんどが胴部片である。文様は縄文・羽状縄文のほか、貼り付けが施されるもの(7)や沈線文で菱形が描かれるもの(3・4)があった。3～5は天神山式、2・6・7は柏木川式土器と思われる。

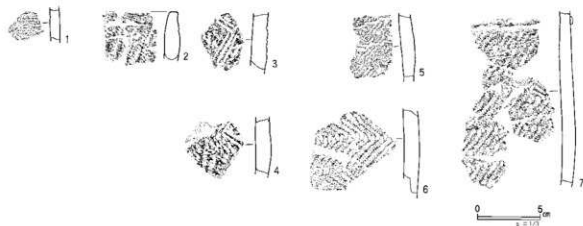
(2) 石器

V層以下出土の石器は136点である。内訳は石鏃34点、つまみ付きナイフ6点、スクレイパー4点、石斧41点、砥石1点、すり石1点、たたき石1点、礫28点、原石1点、Rフレイク3点、フレイク16点である。石鏃・石斧が比較的多く出土し、調査区全体に分布する。

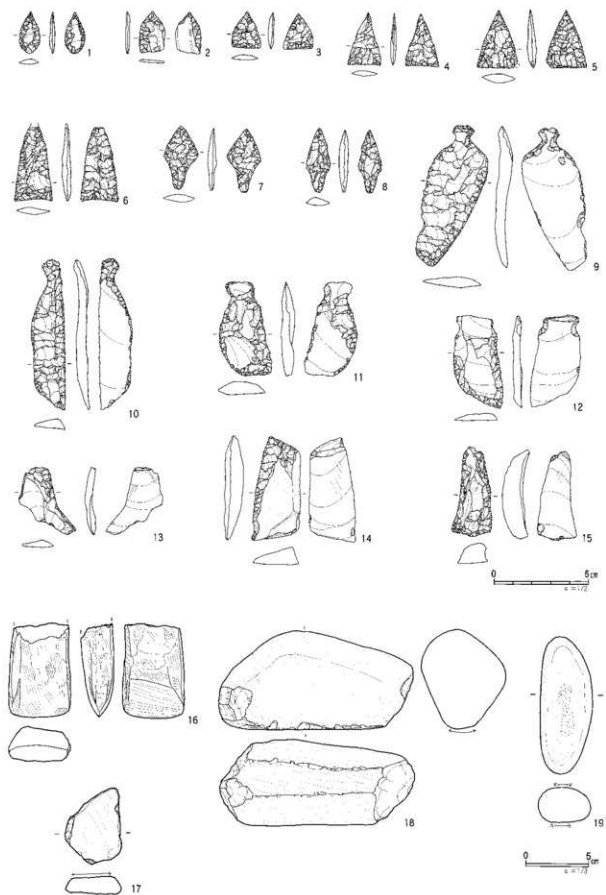
石鏃は無茎で三角形のものが多く、石斧はすべて破損しているが、接合できたものはない。また礫石器・フレイクが非常に少ない。

1～8は石鏃。すべて黒曜石製である。9～12はつまみ付きナイフ。11は唯一の黒曜石製で、それ以外は未掲載も含め頁岩製である。13～15はスクレイパー。縦長の素材の側縁に刃部がみられる。15は側縁と端部に急角度の刃部を持つ。

16は石斧刃部片。17は砂岩製砥石。18は断面三角形のすり石。E-54区の斜面部から出土した。19はたたき石。両面中央部にたたき痕がある。(愛場)



図V-5 V・VI層出土の土器



図V-6 V・VI層出土の石器

表V-3 V・VI層の遺構出土掲載拓本土器一覽

採回番号	掲載番号	図版	分類	遺構名	層位	点数	器種	部位	文様等	備考
図V-2	1a	32	Ⅱ群b類	LF-1	V層	5	深鉢	口縁	貼付け	
図V-2	1b	32	Ⅱ群b類	LF-1	地土	3				
			Ⅱ群b類	0-64	V層	8	深鉢	口縁	貼付け	

表V-4 V・VI層出土掲載拓本土器一覽

採回番号	掲載番号	図版	分類	グリット名	層位	点数	器種	部位	文様等の特徴	備考
図V-5	1	34	I群a類	E-66	M	1	深鉢	胴部	貝殻散線文	
図V-5	2	34	Ⅱ群b類	H-68	V	2	深鉢	口縁	L,R	継継合
図V-5	3	34	Ⅱ群b類	0-67	V	1	深鉢	胴部	沈線文(差形?)	磨耗
図V-5	4	34	Ⅱ群b類	N-63	V	1	深鉢	胴部	沈線文(差形?)、R,L,R?	
図V-5	5	34	Ⅱ群b類	N-67	瓶割M	8	深鉢	胴部	貼り付け帯、L,R、内面平滑に調整	
図V-5	6	34	Ⅱ群b類	G-65	V	1	深鉢	胴部	L,R、縦結文	
図V-5	7	34	Ⅱ群b類	0-63	V	5	深鉢	胴部	結束第1種羽状	

表V-5 V・VI層出土掲載石器一覽

採回番号	掲載番号	図版	分類	グリット名	層位	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	石材	備考
図V-6	1	35	石鏃	N-60	M	2.2	1.1	0.3	0.56	黒曜石	
図V-6	2	35	石鏃	F-62	M	2.3	1.4	0.2	0.69	黒曜石	
図V-6	3	35	石鏃	I-65	V	2.0	1.6	0.3	0.81	黒曜石	
図V-6	4	35	石鏃	L-67	V	2.8	1.8	0.3	0.96	黒曜石	
図V-6	5	35	石鏃	I-61	V	3.1	2.2	0.5	1.98	黒曜石	
図V-6	6	35	石鏃	J-61	V	3.9	2.0	5.0	2.76	黒曜石	
図V-6	7	35	石鏃	0-61	V	3.4	1.8	0.5	1.69	黒曜石	
図V-6	8	35	石鏃	G-66	V	3.3	1.3	0.5	1.67	黒曜石	
図V-6	9	35	つまみ付きナイフ	M-62	V	7.5	3.7	0.8	13.94	頁岩	
図V-6	10	35	つまみ付きナイフ	H-60	M	8.0	1.8	0.8	8.70	頁岩	
図V-6	11	35	つまみ付きナイフ	H-55	V	5.0	2.8	0.8	8.58	黒曜石	
図V-6	12	35	つまみ付きナイフ	C-52	V	4.9	2.6	0.5	7.18	頁岩	
図V-6	13	35	スクレイパー	J-67	V	3.5	3.0	0.6	2.68	黒曜石	
図V-6	14	35	スクレイパー	N-60	V	5.5	2.5	1.0	12.06	黒曜石	
図V-6	15	35	スクレイパー	J-67	V	4.8	2.2	1.4	11.33	黒曜石	
図V-6	16	35	石斧	0-64	V	7.4	4.9	2.7	163.00	片岩	
図V-6	17	35	砥石	L-60	V	6.0	4.5	1.4	42.00	砂岩	
図V-6	18	35	すり石	E-54	V	15.5	7.8	7.8	1034.00	閃緑岩	
図V-6	19	35	たたき石	0-66	V	10.8	4.1	2.7	195.00	安山岩	

Ⅷ章 アンカリトロー7遺跡 旧石器の調査と遺物

1. 概要

今回のアンカリトロー7遺跡の調査では、Ⅴ層から旧石器が出土したため、出土地点を中心にⅤ層からⅧ層にかけて旧石器の調査を行った。石器等の遺物のみで焼土等の遺構は検出されていない。出土した石器類は、平面分布及び石器類の特徴から、そのまとまりごとに石器集中「石器ブロック(SB)」として2か所を設定した。

石器ブロックは、2か所とも調査区ほぼ中央、標高14.5~15.5mの緩斜面上に分布する。本来的な旧石器時代の遺物包含層はⅧ層(志庭a降下軽石層上位の黄褐色ローム層)であるが、旧石器は縄文時代の遺物包含層であるⅤ~Ⅷ層(漸移層)からも出土している。これは、凍上現象等の自然の営力による移動と推測される。このため、一部の旧石器は縄文時代の土器・石器等と混在する状況がみられたが、それらに関しては、石器の形態的特長や石材、表面の風化の度合いなどから、旧石器と考えられる石器を抽出した。Ⅷ層の調査はⅤ~Ⅷ層中で石器が出土した範囲を中心に行い、旧石器が出土しなくなった時点で、掘り下げを終了した。そのため、ほぼⅧ層中で調査を終えている。

出土した遺物は全て石器類で、総点数は2,078点、総重量は3,707.8gである。その内出土地点を計測して取上げた遺物(以下「点取り遺物」)は2,060点(3,656.8g)、グリッド一括ほかの遺物(以下「一括遺物」)は18点(51.0g)である。器種別の内訳は細石刃193点、細石刃核9点、彫器57点、削片247点、挿器31点、両面調整石器3点、削器7点、錐形石器9点、二次加工のある剥片28点、石刃82点、縦長剥片73点、剥片・細片1,325点、斧形石器7点、たたき石3点、砥石1点、石製品1点、礫2点である。

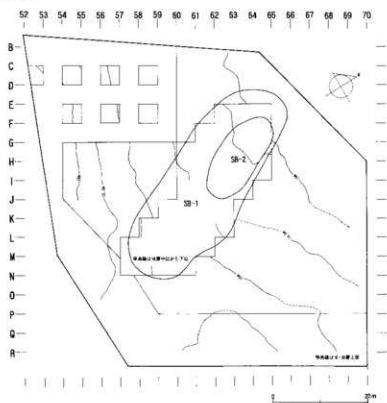
今回の調査で出土した石器群は、全て後期旧石器時代の細石刃石器群に該当する。石器ブロックは2か所で、平面分布は重なるが、共存関係は不明である。石器ブロック1は「広郷型(射的山型)細石刃核を伴う石器群」(以下「広郷型細石刃核石器群」)、石器ブロック2は「峠下型細石刃核を伴う細石刃石器群」(以下「峠下型細石刃核石器群」)である。また、ブロック外の石器の多くは、その特徴から広郷型細石刃核石器群に属するが、峠下型細石刃核石器群のものもある。石器ブロック1の広郷型細石刃核石器群の石器類では、細石刃、彫器、彫器削片が多く、石器ブロック2の峠下型細石刃石器群は点数が少なく、細石刃、細石刃核(ブロック外出土)、削片のみの出土である。

石器の石材は黒曜石、頁岩、珪化岩、凝灰岩、泥岩、砂岩などがある。広郷型細石刃核石器群の石材では、細石刃は黒曜石・頁岩、彫器及び彫器削片は黒曜石・頁岩・珪化岩、斧形石器は凝灰岩・砂岩であり、器種ごとに石材の選択性がみられる。峠下型細石刃核石器群の石材は黒曜石のみである。また、黒曜石製石器の原産地分析の結果、広郷型細石刃核石器群の12点は赤井川産、峠下型細石刃核石器群の3点は白滝産と判定され、利用している黒曜石の原産地に違いが認められる。

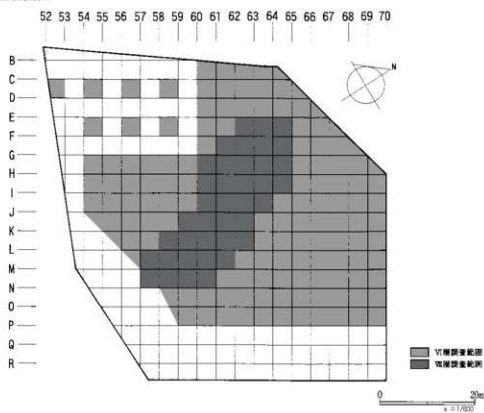
焼土や炭化物集中などの遺構は検出されなかった。また、石器ブロック1南側の石器集中域から出土した炭化物3点の放射性炭素年代測定を行ったところ、補正14C年代として14,950±60yrBP、14,080±60yrBP、17,760±80yrBPという結果を得た(第Ⅷ章1参照)。

最終的に実測図などを掲載した石器類は353点(内写真のみ掲載45点)、接合資料は28個体(他に写真のみ掲載8個体)である。石器類の掲載割合は総点数2,078点中、剥片・細片・礫を引いた石器類839点に対して42.1%である。

石器ブロック位置図



旧石器調査範囲図



図VI-1 石器ブロック位置図・旧石器調査範囲図

表Ⅴ-1 旧石器遺物点数・重量一覧 ※重量の単位は(g)

出土地点	取上げ方法	層位	礫石片		礫石片核		断片		削片		刮器		両面調整石器		刮削		雑形石器		
			点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	
S B-1	点取り	V層	9	1.1			1	14.4	24	23.2	3	12.0			3	30.5	1	1.9	
		Ⅱ層	22	2.6	1	43.6	4	29.1	25	30.8	5	29.9	1	0.1	2	9.5			
		Ⅲ層	141	15.4	5	109.3	50	530.6	190	131.2	22	121.5	2	56.9	2	6.3	7	81.1	
		点取り小計	172	19.0	6	152.9	55	574.2	237	182.1	30	163.4	3	57.0	7	46.2	8	82.9	
		一括	V層	1	0.1			1	5.3										
Ⅱ層																			
Ⅲ層																			
合計			173	19.1	6	152.9	56	579.4	238	182.3	30	163.4	3	57.0	7	46.2	8	82.9	
S B-2	点取り	V層	7	2.1															
		Ⅱ層	4	1.4					2	1.8									
		Ⅲ層	8	2.2					1	0.3									
		点取り小計	19	5.59					3	2.1									
		一括	V層	1	0.2					1	1.2								
Ⅱ層																			
Ⅲ層																			
合計			19	5.6				4	3.26										
S B-1～2合計	点取り	V層	192	24.7	0	152.9	56	579.4	242	185.6	30	163.4	3	57.0	7	46.2	8	82.9	
		Ⅱ層			1	5.3	1	16.4	3	4.0	1	4.3					1	8.5	
		Ⅲ層							2	1.1									
		点取り小計			1	5.3	1	16.4	5	5.1	1	4.3					1	8.5	
		一括	V層	1	0.2	1	3.2												
Ⅱ層			1	2.7															
Ⅲ層																			
合計			1	0.2	3	11.2	1	16.4	5	5.1	1	4.3							
掘上げ一括																			
合計			193	24.8	9	164.1	57	595.8	247	190.6	31	167.7	3	57.0	7	46.2	9	91.4	

出土地点	取上げ方法	層位	尖頭ある短石片		石片		縦長刮片		刮片		細片		斧形石器		たたま石		砥石		
			点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	
S B-1	点取り	V層	5	15.3	10	24.4	8	20.3	45	120.2	49	6.1							
		Ⅱ層	3	21.1	6	10.3	5	4.1	83	116.5	66	6.0	1	13.9			1	15.4	
		Ⅲ層	19	93.1	62	161.2	69	105.2	444	1092.4	525	59.4	5	119.2	3	84.3			
		点取り小計	27	129.5	78	195.8	73	129.6	672	1329.1	640	71.5	6	133.0	3	84.3	1	15.4	
		一括	V層	1	0.9	1	1.9			2	1.0	1	0.1	1	22.2				
Ⅱ層																			
Ⅲ層																			
合計			28	130.4	79	197.8	73	129.6	674	1330.1	641	71.6	7	155.3	3	84.3	1	15.4	
S B-2	点取り	V層			1	12.4			3	7.4	2	0.5							
		Ⅱ層							1	0.2									
		Ⅲ層			1	3.0													
		点取り小計			2	15.4			3	7.4	3	0.7							
		一括	V層							2	6.6								
Ⅱ層																			
Ⅲ層																			
合計					2	15.4			5	14.0	3	0.7							
掘上げ一括					1	3.1			2	2.4									
合計			28	130.4	82	216.3	73	129.6	681	1346.5	644	72.3	7	155.3	3	84.3	1	15.4	

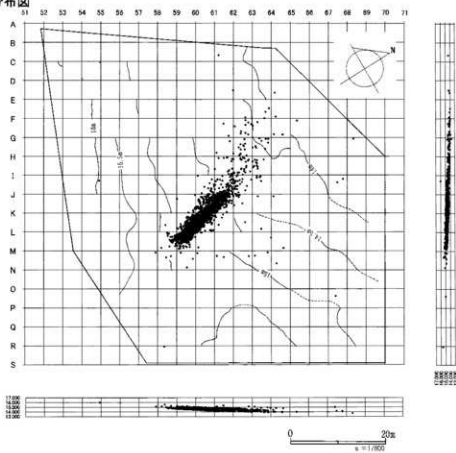
出土地点	取上げ方法	層位	石製品		骨		合計		
			点数	重量	点数	重量			
S B-1	点取り	V層				158	266.3		
		Ⅱ層				223	332.9		
		Ⅲ層	1	87.0	2	133.0	1640	2986.9	
		点取り小計	1	87.0	2	133.0	2021	3586.1	
		一括	V層				7	26.3	
Ⅱ層					1	5.3			
Ⅲ層					1	0.2			
合計			1	87.0	2	133.0	2030	3617.8	
S B-2	点取り	V層				7	2.1		
		Ⅱ層				6	3.2		
		Ⅲ層				9	2.4		
		点取り小計				22	7.7		
		一括	V層				23	8.9	
Ⅱ層									
Ⅲ層									
合計			1	87.0	2	133.0	2053	3626.6	
ブロック外	点取り	V層				13	58.7		
		Ⅱ層				3	1.3		
		Ⅲ層				1	3.0		
		点取り小計				17	63.0		
		一括	V層				4	10.0	
Ⅱ層					1	2.7			
Ⅲ層					0	0.0			
合計					22	75.6			
掘上げ一括					3	5.6			
合計			1	87.0	2	133.0	2078	3707.8	

表VI-2 旧石器遺物石材別一覧 ※重量の単位は(g)

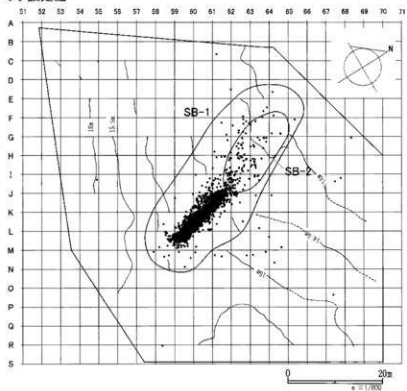
出土地点	取上げ方法	石材	礫石方		礫石方核		断片		断片		細断片		高部磨石		削断片		細形石		細形石		細形石		石片				
			点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	
SB-1	点取り	礫石	108	14.1	6	152.9	28	441.2	197	163.3	6	36.5															
		珪化岩					12	87.0	23	15.0	10	70.0	1	40.5	1	7.6	6	61.1	8	28.5	8	31.5					
		凝灰岩																									
		頁岩																									
		砂岩																									
	一括	礫石	172	19.0	6	152.9	55	574.3	237	182.1	30	163.4	3	57.0	7	46.2	8	82.9	27	129.3	78	185.8					
		珪化岩	1	0.1			1	5.3			1	0.2															
		凝灰岩																									
		頁岩																									
		砂岩																									
小計																											
合計																											
SB-2	点取り	173	19.1	6	152.9	56	579.4	238	182.0	30	163.4	3	57.0	7	46.2	8	82.9	28	130.4	79	197.8						
	一括	19	5.6																								
	合計	19	5.6																								
ブロック状	点取り	礫石			1	5.3	1	16.4	1	1.2	1	4.3															
		珪化岩																									
	一括	礫石					1	5.3	1	16.4	5	5.1	1	4.3													
		珪化岩					2	5.9																			
		小計					1	0.2	2	5.9																	
合計					1	0.2	3	11.2	1	16.4	5	5.1	1	4.3													
挿土ほか	一括																										
合計																											
合計																											

出土地点	取上げ方法	石材	板状断片		断片		断片		斧形石		たなき石		礫石		石製品		礫		合計								
			点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量					
SB-1	点取り	礫石	41	43.2	253	383.6	410	35.8													860	710.6					
		珪化岩	8	15.9	110	191.8	87	11.9														580	1208.7				
		凝灰岩	24	70.5	203	478.4	93	16.5														291	906.6				
		頁岩			85	87.0	41	5.0	1	34.2													128	131.2			
		砂岩			36	43.0	9	2.3															45	45.3			
	一括	礫石	73	129.4	674	1329.1	840	71.5	6	133.0	3	84.3	1	15.4	1	87.0	2	133.0	16	476.3							
		珪化岩			1	0.4	1	0.1																			
		凝灰岩																									
		頁岩																									
		砂岩																									
小計																											
合計																											
SB-2	点取り	73	129.4	674	1330.1	841	71.6	7	155.3	3	84.3	1	15.4	1	87.0	2	133.0	16	476.3	200	3617.8						
	一括																										
	合計																										
ブロック状	点取り	礫石			2	4.5																					
		珪化岩			1	2.9	2	0.3																			
	一括	礫石					1	0.4																			
		凝灰岩																									
		小計					3	7.4	3	0.7																	
合計					1	6.3																					
挿土ほか	一括					1	0.3																				
合計							2	6.6																			
合計							5	14.0	3	0.7																	
挿土ほか	一括	礫石					1	0.6																			
		珪化岩					1	1.8																			
	合計					2	2.4	0	0.0																		
合計																											

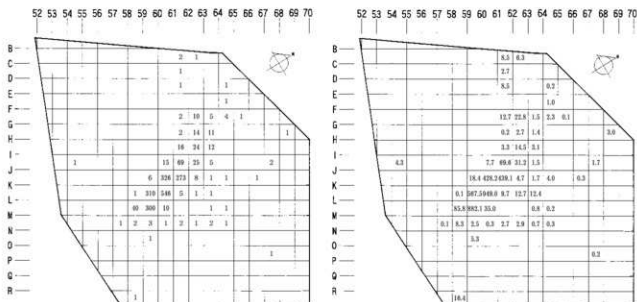
遺物分布図



石器ブロック設定図

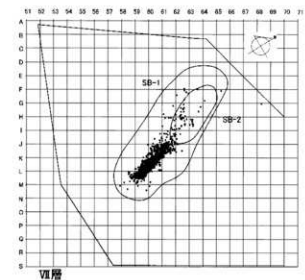
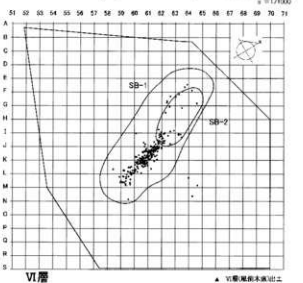
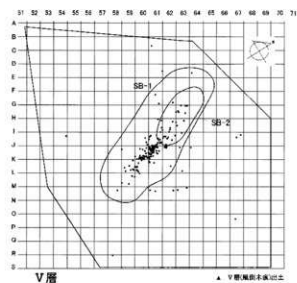


図Ⅵ-2 遺物分布図・石器ブロック設定図



全遺物点数分布図

全遺物重量分布図



図VI-3 遺物点数分布図・遺物重量分布図・層別分布図

表VI-3 旧石器石材別組成一覧 ※重量の単位は(g)

器種	黒曜石		頁岩		珪化岩		凝灰岩		泥岩		砂岩		板状岩		合計	
	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量
礮石片	83	10.5	110	14.4											193	24.8
礮石片核	3	11.2	6	152.9											9	164.1
削片	22	8.3	202	167.4	23	15.0									247	190.6
彫器	17	67.6	28	441.2	12	87.0									57	595.8
挿器	15	61.2	6	36.5	10	70.0									31	167.7
両面調整石器	1	0.1			1	40.2	1	16.8							3	57.0
削器	2	3.3	4	35.3	1	7.6									7	46.2
鐮形石器			2	21.8	7	69.6									9	91.4
二次加工ある削片	11	39.5	8	54.4	8	28.5	1	8.0							28	130.4
石片	56	102.7	18	82.1	8	31.5									82	216.3
縦長削片	41	43.2	8	15.9	24	70.5									73	129.6
削片	237	394.7	112	195.2	204	480.3	87	88.6	36	42.98	5	144.7			681	1346.5
細片	411	35.8	89	12.2	94	16.9	41	5.0	9	2.33					644	72.3
斧形石器							1	34.2			6	121.1			7	155.3
たたき石											3	84.3			3	84.3
砥石											1	15.4			1	15.4
石製品													1	87.0	1	87.0
礮											2	133.0			2	133.0
合計	899	777.9	593	1229.3	392	917.1	131	152.5	45	45.31	17	498.6	1	87.0	2078	3707.8

表VI-4 旧石器出土地点別一覧 ※重量の単位は(g)

出土地点	礮石片		礮石片核		彫器		削片		挿器		両面調整石器		削器	
	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量
S B-1	173	19.1	6	152.9	56	579.4	238	182.3	30	163.4	3	57.0	7	46.2
S B-2	19	5.6					4	3.3						
ブロック外	1	0.2	3	11.2	1	16.4	5	5.1	1	4.3				
様玉ほか														
合計	193	24.8	9	164.1	57	595.8	247	190.6	31	167.7	3	57.0	7	46.2

出土地点	鐮形石器		二次加工ある削片		石片		縦長削片		削片		細片		斧形石器	
	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量
S B-1	8	82.9	28	130.4	79	197.8	73	129.6	674	1330.1	641	71.6	7	155.3
S B-2														
ブロック外	1	8.5			2	15.4			5	14.0	3	0.7		
様玉ほか					1	3.1			2	2.4				
合計	9	91.4	28	130.4	82	216.3	73	129.6	681	1346.5	644	72.3	7	155.3

出土地点	たたき石		砥石		石製品		礮		合計	
	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量
S B-1	3	84.3	1	15.4	1	87.0	2	133.0	2030	3617.8
S B-2									23	8.9
ブロック外									22	75.6
様玉ほか									3	3.8
合計	3	84.3	1	15.4	1	87.0	2	133.0	2078	3707.8

表VI-5 被熱石器・原礫面残存石器一覧

出土地点	遺物点数	被熱石器		原礫面残存石器	
		点数	割合率	点数	割合率
S B-1	2,030	290	14.3%	213	10.5%
S B-2	23	0	0.0%	0	0.0%
ブロック外	22	3	13.6%	2	9.1%
様玉ほか	3	0	0.0%	0	0.0%
合計	2,078	293	14.1%	215	10.3%

表VI-6 旧石器出土地点・石材別組成一覧 ※重量の単位は(g)

出土地点	石材	細石片		細石片核		薄器		削片		縁器		両面調整石器		削器		鐮形石器		二面調整器		石片							
		点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量				
SB-1	黒曜石	64	4.9			16	51.2	17	3.8	14	57.0	1	0.1	2	3.3					11	39.5	54	96.5				
	頁岩	109	14.2	6	152.9	28	441.2	198	163.5	6	36.5	1		4	35.3	2	21.8	8	34.4	17	69.8						
	珪化岩																										
	凝灰岩					12	87.0	23	15.0	10	70.0			1	7.6	6	61.1	8	28.5	8	28.5	8	31.5				
	砂岩												1	16.8													
	黏板岩																							1	8.6		
合計		173	19.1	6	152.9	56	579.4	238	182.3	30	163.4	3	57.0	7	46.2	8	82.9	28	130.4	79	197.8						
SB-2	黒曜石	19	5.6						4	3.3																	
	頁岩			3	11.2	1	16.4	1	1.2	1	4.3													1	3.0		
ブロック外	頁岩	1	0.2						4	3.9															1	12.4	
	珪化岩																										
	凝灰岩																										
合計		1	0.2	3	11.2	1	16.4	3	5.1	1	4.3														2	15.4	
埴土ほか	黒曜石																										
	頁岩																									1	3.1
	珪化岩																										1
合計																										2	6.2
合計		193	24.8	9	164.1	57	583.8	247	190.6	31	167.7	3	57.0	7	46.2	9	91.4	28	130.4	82	216.3						

出土地点	石材	縦長薄片		割片		細片		斧形石器		たたき石		砥石		石製品		雑		合計													
		点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量										
SB-1	黒曜石	41	43.2	234	283.9	411	35.8													865	719.1										
	頁岩	8	15.9	110	191.8	87	11.9														583	1209.2									
	珪化岩	24	70.5	203	478.4	93	16.6														389	906.5									
	凝灰岩				86	88.3	41	3.0	1	34.2												130	152.2								
	砂岩				36	43.0	9	2.3															45	45.3							
	黏板岩				5	144.7			6	121.1	3	84.3	1	15.4									2	133.0	17	498.6					
合計		73	129.6	681	1346.5	641	71.6	7	155.3	3	84.3	1	15.4	1	87.0	2	133.0	2080	3017.8												
SB-2	黒曜石																														
	頁岩			3	10.8																						23	8.9			
ブロック外	頁岩			1	2.9	2	0.3																					10	46.3		
	珪化岩																												9	19.6	
	凝灰岩			1	0.3	1	0.4																						2	8.9	
合計			5	14.0	3	0.7																							22	75.8	
埴土ほか	黒曜石																													1	3.1
	頁岩			1	0.6																									1	0.6
	珪化岩			1	1.8																									1	1.8
合計			2	2.4																										3	5.0
合計		73	129.6	681	1346.5	644	72.3	7	155.3	3	84.3	1	15.4	1	87.0	2	133.0	2078	3107.3												

2. 遺物の分布

(1) 概要

調査区の地形は、南東側では遺跡東側にある馬追丘陵の裾部に立地するため北西側に向かって低くなり、北西側は遺跡南西部に位置する洪積世の古砂丘による台地状地形の斜面部にあたり、北東側に向かって低くなっている。遺物集中域はその合流部にあたる緩やかな沢状地形部にあり、南側から北側に向かって緩やかに低くなる地形である。遺物集中域の平面形は地形の傾斜方向に長く伸びており、北側の低い位置の遺物は本来南側にあったものが、自然の営力により斜面に沿って移動したものと推測される。

石器ブロックは、当初遺物の平面分布状況から遺物集中域全体を広郷型細石刃核石器群の1か所としていたが、二次整理の段階で石器ブロック外から峠下型細石刃核を確認したこと、石器ブロック1範囲内北側の分布密度がやや低い部分で、前述した峠下型細石刃核と接合する削片や、やや幅広の細石刃がまとまりをもって出土していることから、これらを石器ブロック2とし、石器ブロック1から分離した。どちらも焼土や炭化物集中は検出されず、また伴関係は不明である。

石器ブロック1 (SB-1) は広郷型細石刃核石器群で、遺物点数は2,030点、重量3617.8gである。分布域は調査区ほぼ中央で、斜面の傾斜に沿って南北に長く伸びる平面形である。平面分布は、斜面上位になるほど南側に特に集中している。石器組成は、細石刃、削片が多く、彫器、石刃も多くみられる。また、特徴的な石器として大型の斧形石器が挙げられる。

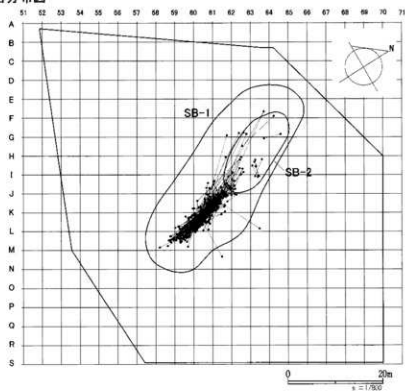
石器ブロック2 (SB-2) は峠下型細石刃核石器群である。ただし細石刃核は北東側のブロック外から出土している。遺物点数は23点、重量は8.9gと少量である。分布域はSB-1に重なり、SB-1内北側部分に位置する。平面形はSB-1同様南北に長い形状で、分布は散漫である。石器組成は単純で、ブロック範囲内からは細石刃、削片のみ出土している。

接合関係は剥離面接合、折れ面接合共に石器ブロック内が中心で、SB-1では石器ブロック内の集中域を中心に濃い状況である。また平面では南北方向の接合が多い。地形的には斜面の上下で接合しており、斜面に沿って遺物が動いている様子が伺われる。SB-2ではグリッド一括で取上げたブロック外の石器との接合関係もある。

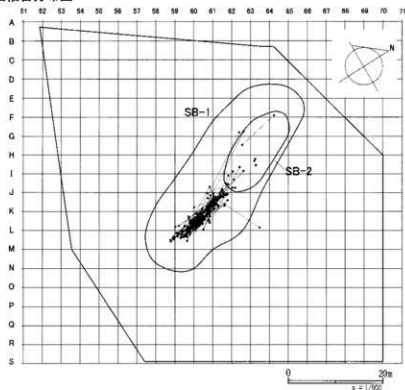
グリッドごとの遺物点数分布をみると、K-60区が546点 (949.0g) と最も多く、遺物全点数及び全重量の約25%を占める。また、K-60区西側周辺でも、1グリッドあたりの出土点数が300点前後、重量では約400~800g出土しており、K-60区とその西側周辺グリッドで全体出土量の80%を超える状況である。また、この範囲のⅧ層から出土した炭化物3点の放射性年代測定を行っている。

層位的な出土状況は、Ⅷ層が最も多く、Ⅴ・Ⅵ層は少量だが、石器類はⅧ層上面からⅧ層中位にかけて連続的に出土した。また、一部風倒木痕で動いているものもある。層別では、Ⅴ層出土は点数190点 (9.1%)、重量364.3g (9.8%) である。分布はSB-1全体に散漫に広がるが、南側がやや密である。また、ブロック外出土のものが多い。Ⅵ層出土は点数234点 (11.3%)、重量345.4g (9.3%) で、Ⅴ層とほぼ同様である。分布はSB-1南側が多く、ブロック外の遺物も少量みられる。Ⅶ層は点数1,651点 (79.5%)、重量2992.5g (80.7%) で、点数・重量共に全体の約80%を占めている。分布はSB-1の南側に集中し、ブロック外は1点のみ出土している。平面分布はⅤ層が最も散漫でブロック外も多いが、下位に行くに従い、J~L-58~60区付近に密集する傾向がみられる。これらの状況から、Ⅷ層の分布が本来の分布に近く、Ⅴ層、Ⅵ層の遺物は、凍上現象などの自然の営力等で周辺及び上位に動いたと推測される。

全接合分布図



折れ面接合分布図



図VI-4 全接合分布図・折れ面接合分布図

(2) 石材別分布状況 (図Ⅴ-5)

石器の石材は、黒曜石、頁岩、珪化岩、凝灰岩、泥岩、砂岩、粘板岩がある。点数別では、2,078点中黒曜石が899点と最も多く、全体の約4割以上で、以下頁岩、珪化岩、凝灰岩の順となる。これらで全体の約9割を占め、泥岩、砂岩、粘板岩は少数である。重量別では3707.8g中頁岩が1229.3gと最も多く、全体の約3割以上で、以下珪化岩、黒曜石、砂岩となり、これらで約9割を占める。凝灰岩、泥岩、粘板岩は少量である。石材別に点数比率と重量比率を比較すると、黒曜石は比較的重量が軽い小型の石器が多く、珪化岩・砂岩は比較的重い大型の石器が多い傾向がみられる。石材別の平面分布では、黒曜石・頁岩などの点数が多い石器類はほぼ全体の分布傾向と一致し、珪化岩・凝灰岩・泥岩・砂岩・粘板岩などの点数が少ない石器類はSB-1分布範囲の南側にほぼまとまる傾向がみられる。また、SB-2の石器石材は黒曜石のみである

黒曜石製の石器

2,078点中899点(43.3%)、3707.8g中777.9g(21.0%)が黒曜石製である。点数の割合が約40%であるのに対して、重量の割合が21%と低く、比較的軽い小型の石器が多い傾向にある。出土地点ごとの内訳は、SB-1が865点、ブロック外ほかが11点で、SB-2は出土点数23点全てが黒曜石製である。平面分布は全体の分布傾向とほぼ一致し、SB-1南側が特に集中する。

頁岩製の石器

2,078点中593点(28.5%)、3707.8g中1229.3g(33.1%)が頁岩製である。点数と重量の割合はほぼ同じである。出土地点ごとの内訳は、SB-1が582点、ブロック外ほかから10点出土している。平面分布は全体の分布傾向とほぼ同じだが、SB-1東側にブロック外の石器が点在する。

珪化岩製の石器

2,078点中392点(18.9%)、3707.8g中917.1g(24.7%)が珪化岩製である。点数の割合が19%であるのに対して、重量の割合が約25%と高くなっており、比較的大型の石器が多い傾向がある。出土地点ごとの内訳はSB-1が391点、ブロック外ほかから3点出土している。平面分布はSB-1南側に集中する。

凝灰岩製の石器

2,078点中131点(6.3%)、3707.8g中152.5g(4.1%)が凝灰岩製である。点数と重量の割合はほぼ同じである。出土地点ごとの内訳は、SB-1が129点、ブロック外(グリッド一括)から1点出土している。平面分布はSB-1南側に濃い傾向がある。

泥岩製の石器

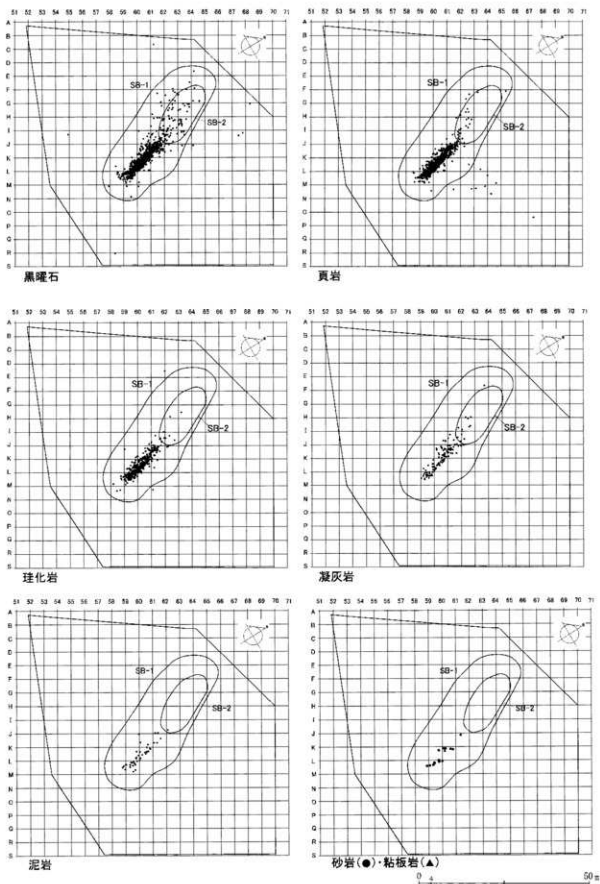
2,078点中45点(2.2%)、3707.8g中45.3g(1.2%)が泥岩製である。点数と重量の割合はほぼ同じである。全てSB-1出土で、平面分布はSB-1南側にまとまっている。

砂岩製の石器

2,078点中17点(0.8%)、3707.8g中498.6g(13.4%)が砂岩製である。点数の割合に比べ重量の割合が高く、比較的重い大型の石器が多い傾向がある。全てSB-1出土で、平面分布ではSB-1南側に散在している。

粘板岩製の石器

2,078点中1点(0.05%)、3707.8g中87.0g(2.3%)が砂岩製である。1点のみの出土でSB-1の南側集中域から出土している。



図VI-5 石材別分布図

(3) 器種別分布状況 (図Ⅴ-6～8)

全体的にSB-1南側部分の集中域を中心に分布するが、点数の多い細石刃・削片・剥片・細片はSB-1北側部分及びブロック外にも少量みられる。

細石刃 (図Ⅴ-6)

193点出土している。出土地点別では、SB-1が173点、SB-2が19点、ブロック外が1点である。石材別では黒曜石83点、頁岩110点である。SB-2出土のものは全て黒曜石製である。

細石刃核 (図Ⅴ-6)

9点出土している。出土地点別では、SB-1が6点、ブロック外(グリッド一括)が3点である。石材別では黒曜石3点、頁岩6点である。SB-1出土のものは全て頁岩製で、ブロック外出土は全て黒曜石製である。

彫器 (図Ⅴ-6)

57点出土している。出土地点別では、SB-1が56点、ブロック外が1点である。石材別では黒曜石17点、頁岩28点、珪化岩12点で、頁岩製が多い。

削片 (図Ⅴ-6)

247点出土している。出土地点別では、SB-1が238点、SB-2が4点、ブロック外が5点である。石材別では黒曜石22点、頁岩202点、珪化岩23点で、頁岩製が主体である。また、SB-2出土のものは全て黒曜石製である。

挿器 (図Ⅴ-6)

31点出土している。出土地点別では、SB-1が30点、ブロック外が1点である。石材別では、黒曜石15点、頁岩6点、珪化岩10点である。

両面調整石器 (図Ⅴ-7)

3点で全てSB-1出土である。石材別では黒曜石1点、珪化岩1点、凝灰岩1点である。

削器 (図Ⅴ-6)

7点で全てSB-1出土である。石材別では黒曜石2点、頁岩4点、珪化岩1点である。

錐形石器 (図Ⅴ-7)

9点出土している。出土地点別では、SB-1から8点、ブロック外から1点である。石材別では頁岩2点、珪化岩7点と珪化岩製が多い。

二次加工ある剥片 (図Ⅴ-7)

28点で全てSB-1出土である。石材別では、黒曜石11点、頁岩8点、珪化岩8点、凝灰岩1点である。

石刃 (図Ⅴ-7)

82点出土している。出土地点別では、SB-1から79点、ブロック外から2点、排土ほかから1点である。石材別では、黒曜石56点、頁岩18点、珪化岩8点で、黒曜石製が主体である。

縦長剥片 (図Ⅴ-7)

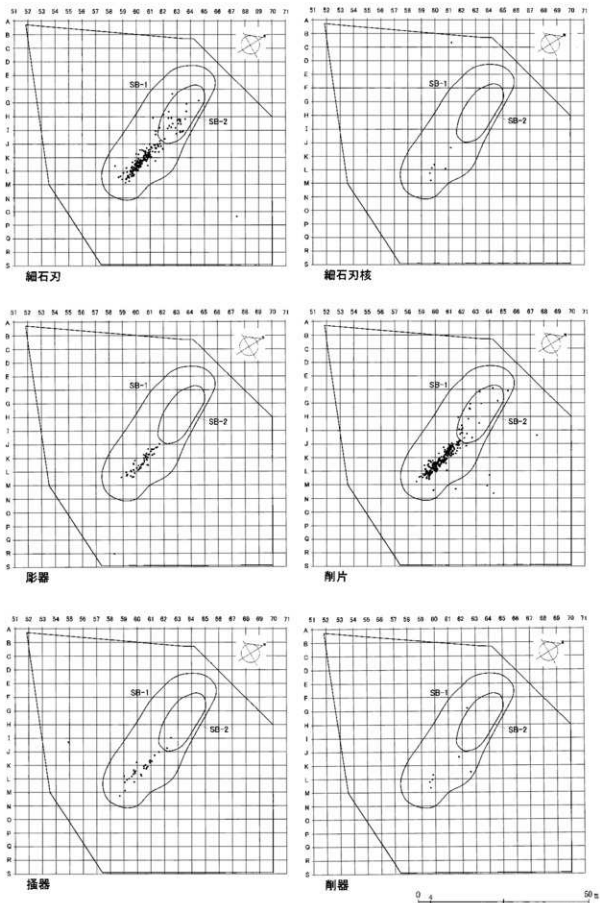
73点で全てSB-1出土である。石材別では黒曜石41点、頁岩8点、珪化岩24点である。

剥片 (図Ⅴ-7)

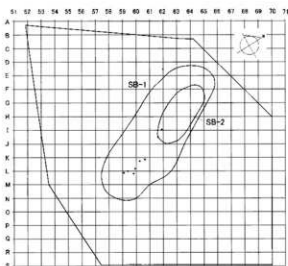
681点出土している。出土地点別では、SB-1から674点、ブロック外から5点、排土ほかから2点である。石材別では黒曜石237点、頁岩112点、珪化岩204点、凝灰岩87点、泥岩36点、砂岩5点で、黒曜石・珪化岩が多い。

細片 (図Ⅴ-8)

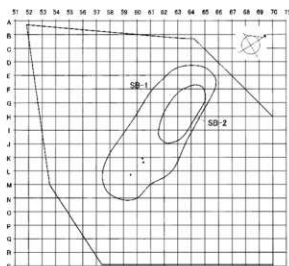
644点出土している。出土地点別では、SB-1から641点、ブロック外から3点である。石材別で



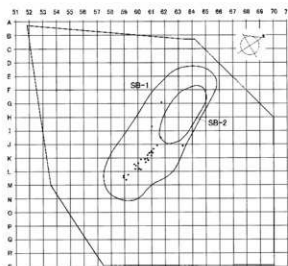
図VI-6 器種別分布図(1)



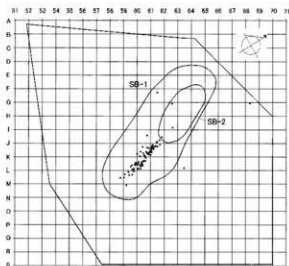
錐形石器



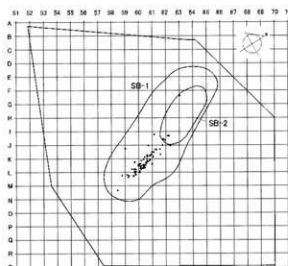
両面調整石器



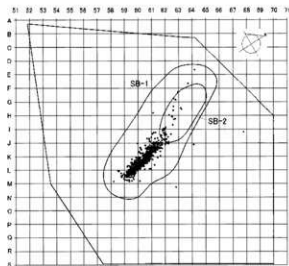
二次加工ある剥片



石刃



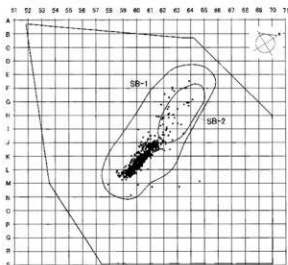
縦長剥片



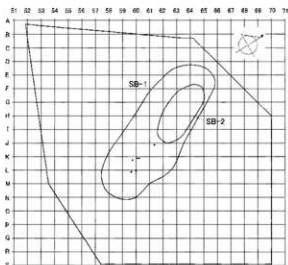
剥片



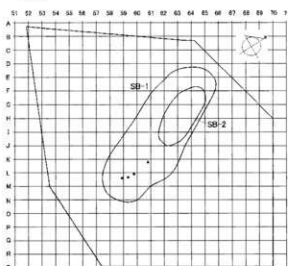
図Ⅵ-7 器種別分布図(2)



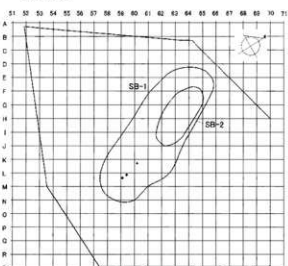
細片



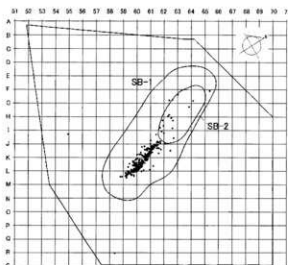
斧形石器



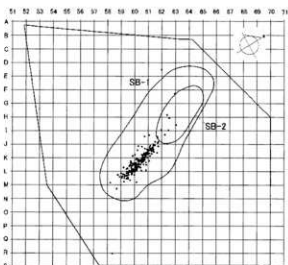
たたき石(●)・磁石(▲)



石製品(▲)・燧石(●)



被熱石器



原礫面の残存する石器



図VI-8 器種別分布図(3)、被熱石器・原礫面の残存する石器分布図

は黒曜石411点、頁岩89点、珪化岩94点、凝灰岩41点、泥岩9点である。

斧形石器 (図Ⅴ-8)

7点で全てSB-1出土である。石材別では凝灰岩1点、砂岩6点である。

たつき石 (図Ⅴ-8)

3点で全てSB-1出土である。石材は全て砂岩である。

砥石 (図Ⅴ-8)

SB-1から1点のみ出土している。石材は砂岩である。

石製品 (図Ⅴ-8)

SB-1から1点のみ出土している。石材は粘板岩である。

被熱石器 (図Ⅴ-8)

2,078点中、293点(14.1%)に被熱の痕跡が認められた。出土地点別では、SB-1が290点(14.3%)、SB-2はなく、ブロック外ほか3点(12.0%)で、ほとんどがSB-1出土である。平面分布は、全体の分布傾向とほぼ同じで、特に偏りはみられない。また、SB-1範囲内ではⅡ層で炭化物細片がわずかにみられたが、調査区内を含め炭化物集中は確認されていない。

原礫面の残存する石器 (図Ⅴ-8)

2,078点中、215点(10.3%)に原礫面が残存していた。出土地点別ではSB-1が213点(10.5%)、SB-2はなく、ブロック外ほか2点(9.1%)で、ほとんどがSB-1出土である。平面分布は、全体の分布傾向とほぼ同じで、特に偏りはみられない。

3. SB-1

(1) 位置・地形・分布 (図Ⅴ-9・11)

位置 D-62~64、E-61~65、F-60~64、G-59~64、H-58~64、I-58~64、J-57~63、K-57~63、L-57~62、M-57~60、N-59・60

地形 南から北に緩やかに下る斜面に位置する。標高は約14~15mである。

分布 遺物分布範囲の平面形は、南北の斜面方向に長く広がる形状で、南北約46m、東西約18mを測る。遺物の平面分布はSB-1範囲内の南側が濃く、特にJ-60・61、K-59・60、L-59区に集中している。垂直分布は南が高く北側に行くにつれて低くなり、斜面の傾斜にほぼ沿っている。層位的には、V層上面~Ⅱ層中位にかけて出土している。層位別の点数は2,030点中、V層165点(8.1%)、Ⅱ層224点(11.0%)、Ⅲ層1,641点(80.8%)である。層位別の重量は3617.8g中、V層292.5g(8.1%)、Ⅱ層338.2g(9.3%)、Ⅲ層2987.1g(82.6%)である。層位別の点数比率と重量比率に大きな違いはなく、どちらもV・Ⅱ層は1割前後で、Ⅲ層が約8割を占めている。器種別では、全体の傾向とほぼ同様だが、削器はV層出土が最も多く、石刃・縦長剥片はⅡ層出土よりV層のものが多い。

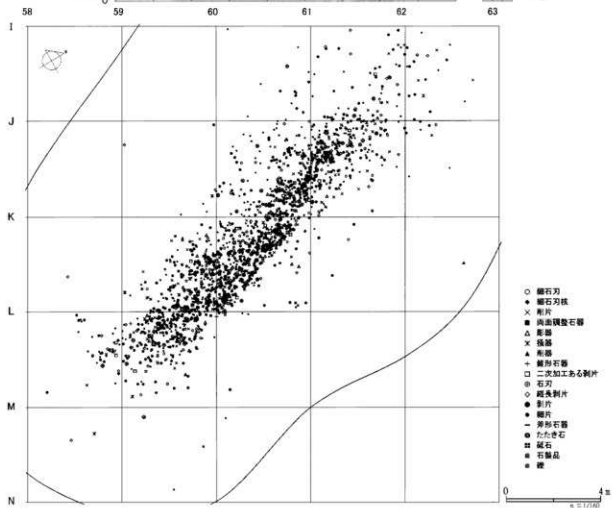
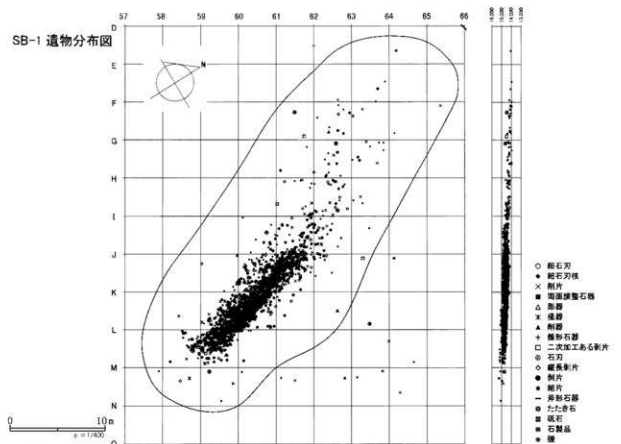
接合状況 (図Ⅴ-10)

石器ブロック範囲内の全体で接合するが、東側のブロック外出土石器との接合関係も一部認められる。特に遺物の集中するJ-60・61区、K-59・60区、L-59区では、主に南北方向での濃密な接合関係が認められる。

(2) 石器・石材組成 (図Ⅴ-12・13)

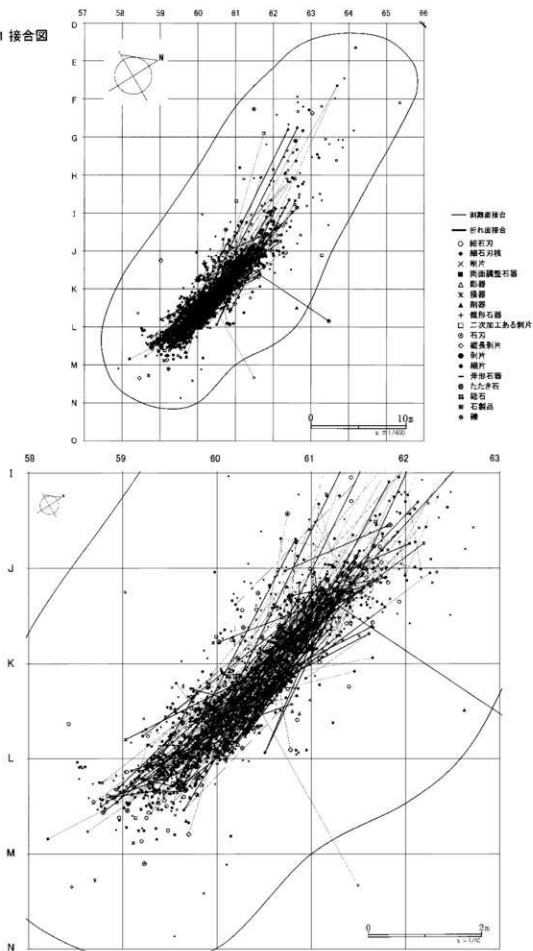
総点数2,030点、総重量3617.8gの石器類が出土した。点数の内訳は、細石刃173点、細石刃核6点、彫器56点、削片238点、挿器30点、両面調整石器3点、削器7点、錐形石器8点、二次加工ある剥片28

SB-1 遺物分布圖

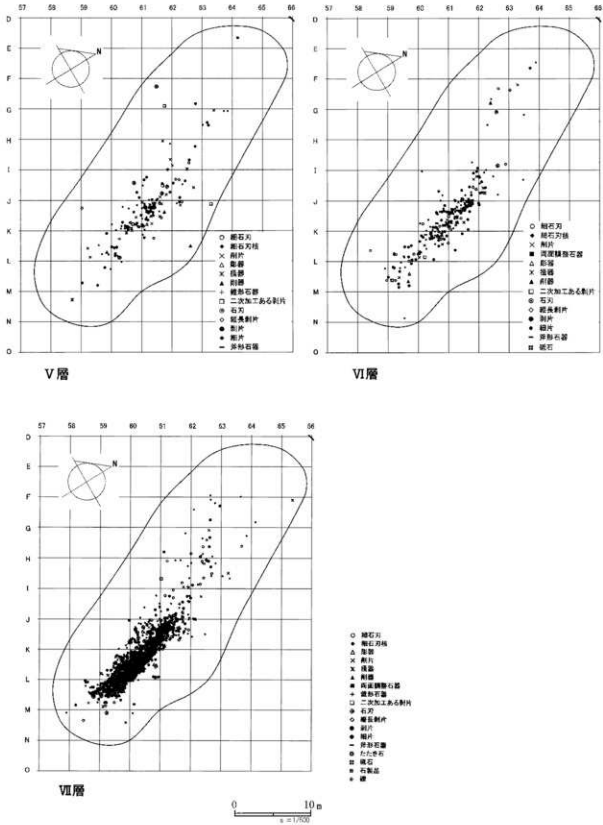


圖VI-9 SB-1分布圖(1)

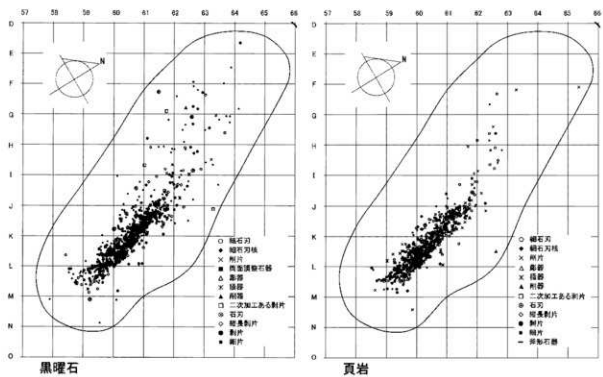
SB-1 接合図



図VI-10 SB-1分布図(2)

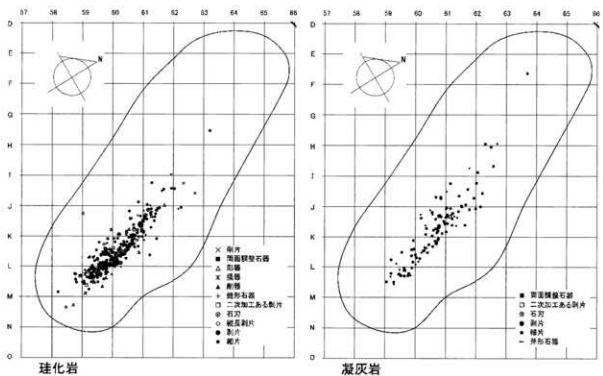


図VI-11 SB-1分布図(3)



黒曜石

頁岩



珪化岩

凝灰岩

0 10m
1:1750

図Ⅵ-12 SB-1分布図(4)

点、石刃79点、縦長剥片73点、剥片674点、細片641点、斧形石器7点、たたき石3点、砥石1点、石製品1点、礫2点である。取上げ別の内訳は点取り遺物2,021点、一括遺物9点である。

石材は黒曜石、頁岩、珪化岩、凝灰岩、泥岩、砂岩、粘板岩がある。点数別では黒曜石が865点(42.6%)と最も多く、次いで頁岩583点(28.7%)、珪化岩389点(19.3%)、凝灰岩130点(6.4%)、泥岩45点(2.2%)、砂岩17点(0.8%)、粘板岩1点(0.05%)となる。重量別では頁岩1209.2g(33.4%)と最も多く、次いで珪化岩906.5g(25.1%)、黒曜石719.1g(19.9%)、砂岩498.6g(13.8%)、粘板岩87.0g(2.4%)、泥岩45.3g(1.3%)である。

石材別の分布はSB-1の石器類が今回出土した旧石器の大部分を占めるため、全体の傾向とほぼ同じでSB-1範囲内の南側に集中する傾向がみられる。北側部分は、黒曜石製の石器類として細石刃・削片・搔器・削器・石刃・二次加工ある剥片など、頁岩製として細石刃・削片などが散漫に分布している、他の石材では北側での分布があまりみられない。

被熱石器は2,030点中、290点(14.3%)である。平面分布は全体の傾向と同様で、特に偏りはみられない。器種別でも特に偏る傾向はない。原礫面残存の石器は2,030点中213点(10.5%)である。黒曜石と珪化岩が多く、頁岩・砂岩にも少量みられる。

(3) 出土した石器類 (図Ⅵ-14~36、図版36~40)

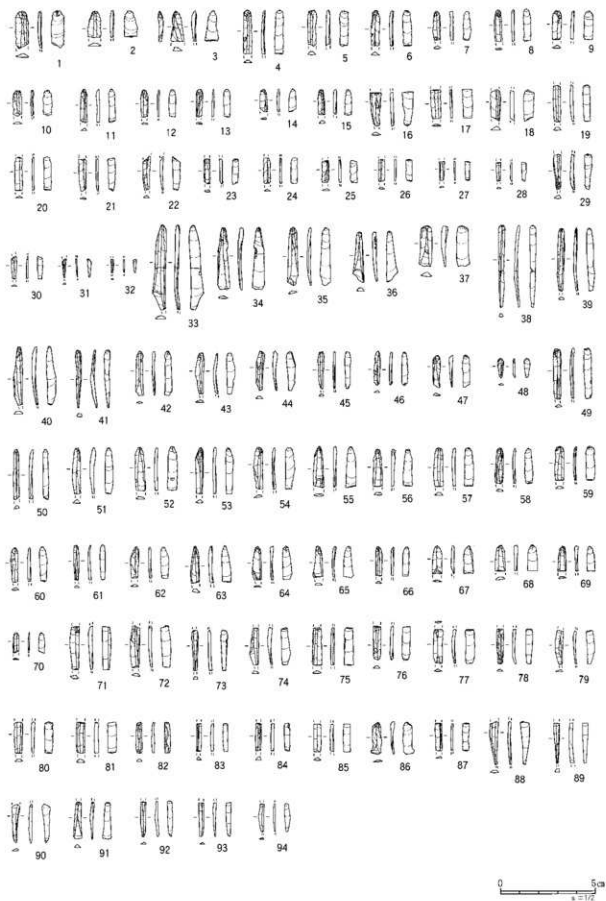
器種ごとの分布は、全体の分布傾向と同様で南側に集中し、北側は散漫である。特に偏った分布を示すものはみられない。器種ごとの分布図は剥片・細片を除き、実測図の後にまとめて図示した。

細石刃 (図Ⅵ-14-1~94・図Ⅵ-24~26、図版36)

173点(折れ面接合の結果171個体)出土し、その内96点(94個体)図示している。幅は1.5~7mmで、その中では3~5mmのものが多い。折損品が多いため、長さは不明なものが多いが、最大のものが45mmを測る。1~32は黒曜石製である。全て折損しており、1~15は頭部、16~30は中間部、31~32は末端部である。1~3は比較的幅の広いものである。2・3は左側面に細石刃剥離に先行する細かい加工がみられる。4~32は幅が狭いもので、両側縁が直線的なものが多い。8・36は右側縁に微細な剥離がみられる。33~94は頁岩製である。33~48はほぼ完形のもの、49~70は頭部、71~87は中間部、88~94は末端部である。33~37は比較的幅が広いもので、33~36は末端部がやや広がる。75は左側縁に微細な剥離がみられる。

細石刃核 (図Ⅵ-15-95~100、図Ⅵ-27、図版36)

6点(6個体)出土し、全て図示している。95~100は石核側縁の長軸方向で細石刃剥離を行うもので「広郷型細石刃核」である。いずれも大型で厚手の素材端部に打面を形成し、素材の右側縁側で細石刃剥離を行っている。石材は全て頁岩である。95・97~99は石刃素材で、96・100は剥片もしくは縦長剥片を素材とする。また、96~99は彫器と複合するが、便宜上、分類は細石刃核とした。細石刃剥離の打面位置は素材の打面側に準備するもの(95・96・98・99)と素材の末端側に準備するもの(97・100)に分かれる。細石刃剥離打面は素材の打面側ないし末端側に腹面側からの急角度の連続剥離で作り出されるものが多い。打面には打面調整と考えられる作業面側からの細かな剥離痕がみられる。また、作業面は腹面側に回りこんでいる。95~97は比較的大型のものである。95は素材の両側縁に主に腹面側から細かい二次加工が施される。作業面の最大長60mm、最大11mmである。96の細石刃剥離作業面は、素材末端側(下部)からの彫刀面剥離を切っている。彫刀面剥離の打面は腹面側からの急角度の連続剥離で直線状に作り出されている。作業面に残る最終剥離面の末端部は階段状で、長さは9mmを測る。作業面の最大長は48mm、最大幅10mmである。97は素材の両側縁に主に腹面側から連



図VI-14 SB-1の石器(1)

統的な二次加工が施される。作業面の末端部は階段状になるものが多く、最終剥離面も短くなっている。素材の打面側（下部）には、左右の側縁にある彫刀面剥離痕を切って腹面側から二次加工が施され、その後左側縁に再び削片剥離を行い、彫器としても使用されている。作業面の最大長は34mm、最大幅5mmとどちらも短めである。98～100は小型のものである。98は素材の左側縁に軽微な二次加工が施される。作業面に残る最終剥離面の末端部は階段状で、長さは6mmである。細石刃剥離作業面の最大長は46mm、最大幅7mmである。素材の末端側（下部）には交叉する彫刀面剥離がみられ、彫器としても使用されている。末端部左側縁の彫刀面には、素材腹面側及び彫刀面側からの細かい二次加工がみられる。99の細石刃剥離作業面の最大長は31mm、最大幅10mmである。作業面は右側縁の腹面側からの急角度の剥離痕に切られている。素材の末端側（下部）の左側縁に腹面側から急角度の二次加工により打面を作り出し、右側縁に彫刀面剥離を施している。その後彫刀面剥離痕を切って腹面側から細かな二次加工が施される。100は素材の打面側（下部）を折損する。細石刃剥離作業面の打面調整は作業面側から行われ、一部桶状剥離がみられる。作業面に残る最終剥離面の末端部は階段状で、長さは3mmである。細石刃剥離作業面の最大長は52mm、最大幅13mmである。

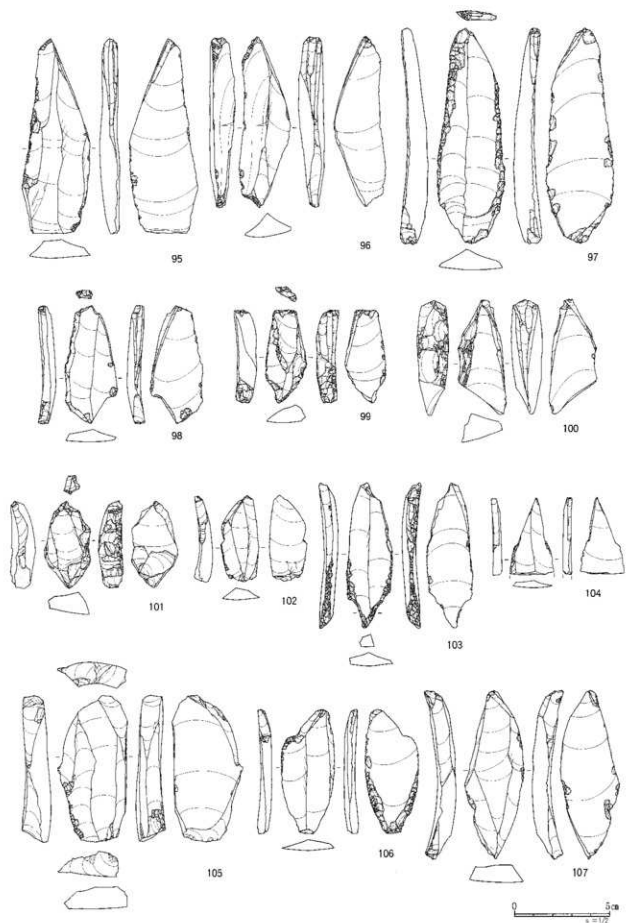
彫器 (図Ⅴ-15-101～107・図Ⅴ-16-108～126・図Ⅴ-17-127～140・図Ⅴ-28・29、図版37・38)

56点 (45個体) 出土し、その内54点 (43個体) 図示している。側刃型が多く、斜刃型、交叉刃型は少量である。石材は頁岩が主体で、黒曜石、珪化岩は比較的少ない。また、下部に尖頭部が作出されるものなどがあり、錐形石器などと機能が複合するものもある。

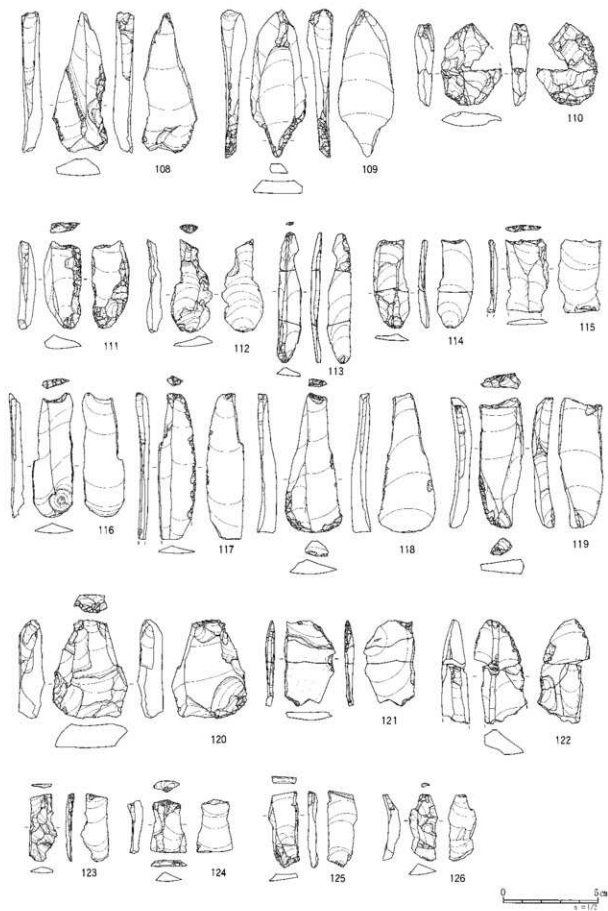
101～103は斜刃型の彫器である。全て左刃で、彫刀面は調整打面である。石材は101・102が珪化岩、103は頁岩である。101・103の彫刀面は腹面側に傾き、102は背面側に傾く。101は厚みのある石刃もしくは縦長剥片を素材とし、背面両側縁に急角度の加工が施される。彫刀面打面は直線状に作出される。腹面基部には平坦剥離が施される。102は石刃もしくは縦長剥片を素材とし、右側縁下部に原礫面を残す。最低4回の削片剥離により彫刀面を作り出している。103はノッチ状の調整面を打面とし、石器の長軸と彫刀面のなす角度は小さい。また、錐形石器としても使われており、下部の両側縁に腹面側から急角度の連続した加工を施し、尖頭部を作出する。

104～110は交叉刃型の彫器である。104～109の素材は石刃で、110は不明である。石材は104～109が頁岩、110が黒曜石である。104は下部を折損し、側縁には腹面側からの連続的な二次加工が施される。105は大型で厚みのある石刃を素材とし、彫刀面の幅が広いものである。下部には横なぎみの剥離がみられる。106は腹面側の基部から側縁にかけて細かい加工が施される。107は厚みのある石刃を素材とし、上下に交叉刃型の彫刀面が作出されている。左側縁下部の剥離は短く、階段状になる。108は両側縁に加工が施され、右側縁はやや内湾している。109は錐形石器としても使われ、両側縁下部に腹面側から急角度の連続した加工を施し、尖頭部を作出する。110は両面加工のもので、被熱により一部を折損する。

111～130は側刃型の彫器である。石刃もしくは縦長剥片を素材とするものが多く、剥片素材のものは少数である。111～121は彫刀面打面が調整打面のものである。111～113・121は黒曜石製、114～120は頁岩製である。111～119は石刃もしくは縦長剥片を素材とする。111の彫刀面打面はノッチ状に加工され、腹面右側縁から基部にかけて平坦剥離が施される。112は背面に原礫面を残し、彫刀面打面は直線状に加工される。113は素材の末端部（上部）に腹面側から細かい加工を施し、彫刀面打面とする。彫刀面は腹面側に傾く。また、中間部では折れ面を打面とした彫刀面が作出される。114～116は彫刀面打面をノッチ状に加工するものである。117は背面右側縁に連続的な加工がみられる。118・119は厚みのある石刃を素材とする。118は両側縁に彫刀面が作出される。119は上部の両側縁と下部



図VI-15 SB-1の石器(2)



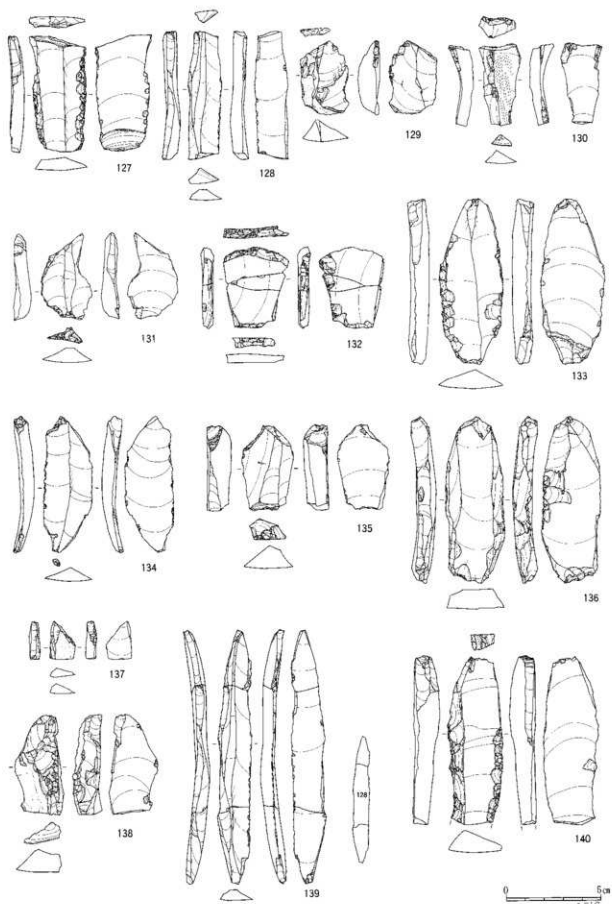
図Ⅵ-16 SB-1の石器(3)

右側縁に側刃型の彫刀面が作出される。右側縁の彫刀面は下部の方が新しく、上下共に腹面側に傾く。120・121は剥片を素材とするものである。120は大型の厚手の剥片を素材とし、両側縁に彫刀面が作出される。彫刀面打面は背面側からの加工により作出される。121は平坦な剥離で彫刀面打面をノッチ状に加工し、左側縁に彫刀面を作出する。被熱しており、背面には大きく原礫面を残す。122～129は折れ面を彫刀面の打面とするものである。122～125・127・128は石刃ないし縦長剥片を、126・129は剥片を素材とする。石材は122・123が黒曜石、124～126・129が珪化岩、127・128が頁岩である。122は厚みのある石刃を素材とし、打点側を被熱により欠失する。左側縁上部の桶状剥離が先行する。その後折れ、折れた面を打面とし、左側縁から腹面側にかけて彫刀面を作出している。123は背面に一部原礫面を残す。125は背面中央よりやや下部に光沢を有する部分がある。126は被熱によるひび及び焼けはじけがみられる。127はやや大型の石刃を素材とし、両側縁に連続的な加工が施される。128は、右側縁は上から、左側縁は上下から彫刀面が作出される。左側縁下部の彫刀面は腹面側に傾く。129の彫刀面は腹面側に大きく傾き、剥離は階段状である。130～132は上下に彫刀面が作出され、彫刀面打面に調整打面と折れ面の両方がみられるものである。石材は、130・131は珪化岩、132は頁岩である。130は右側縁の上下と左側縁の上部に彫刀面が作出される。両側縁の上部は調整打面で、右側縁下部は折れ面を打面とする。上部の打面には腹面側から調整が施される。また、背面右側に縦方向の細かい擦痕が認められる。131は、右側縁上部の彫刀面剥離は折れ面を、右側縁下部は緩いノッチ状に加工した調整面を打面とする。132の右側縁上部は調整面を、下縁部には折れ面を打面とする彫刀面が作出される。

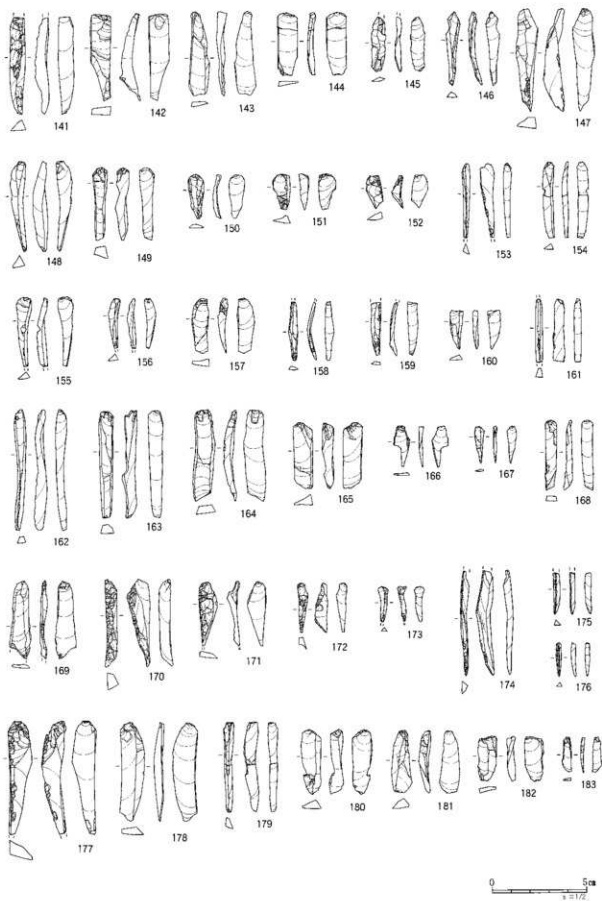
133～140は部位により彫刀面の刃部形態が異なるものである。石材は133～136・139・140が頁岩、137は黒曜石、138は珪化岩である。133は下部が斜刃型、上部が交叉刃型と考えられるが、上部の彫刀面は背面側からの急角度の剥離により壊されている。134は上部が斜刃型、下部は交叉刃型だが、下部の彫刀面は腹面側からの急角度の剥離により壊されている。135は上部が交叉刃型、下部は斜刃型ないし側刃型と考えられる。下部は彫刀面作出後、腹面側から細かい加工が行われている。136は上部が交叉刃型、右側縁下部が斜刃型、左側縁下部が側刃型である。上部の右側の彫刀面剥離には、腹面側に大きく傾くものがある。下部の斜刃及び側刃の彫刀面剥離は素材背腹両面からの加工面を打面とする。137は上部が交叉刃、左側縁下部が折れ面を打面とする側刃型である。石刃素材で、背面に原礫面を大きく残す。138は上部が交叉刃型、右側縁下部が折れ面を打面とする側刃型である。厚手の剥片を素材とし、背面に原礫面を残す。139は大型の石刃を素材とし、上下に彫刀面を作出している。長さは13.4cmで、今回出土した単体の石器としては最も大きなものである。上下部共に交叉刃型だが、下部は彫刀面作出後、左側縁の彫刀面に背面側から細かい加工を施し、新たな彫刀面打面を作出しており、交叉刃型を斜刃型に作り直していると考えられる。その後上下を折り、中央部分を128の側刃型の彫器に再加工している。140は上部右側縁に側刃型と考えられる彫刀面を作出するが、その後上端に左方向からの加工を施し、それを打面とした斜刃型の彫刀面剥離を行う。

削片 (図Ⅳ-18-141～183・図Ⅳ-19-184～215・図Ⅳ-30～32、図版38)

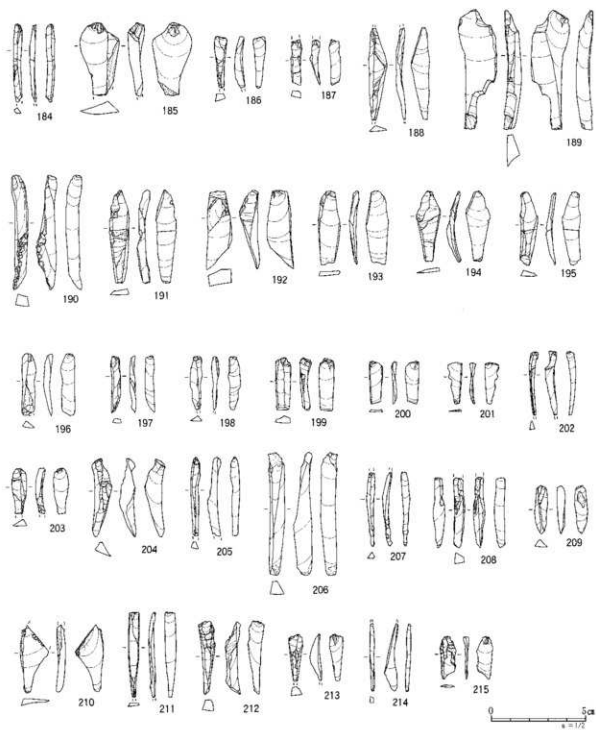
238点 (232個体) 出土し、その内85点 (79個体) を図示している。石材は頁岩が主体で黒曜石、珪化岩が少量みられる。「削片」と分類した中には、彫器削片以外に、広郷型細石刃核の打面作出時の剥片、細石刃剥離が本格化する以前の同一作業面上の剥片、細石刃剥離作業面の再生剥片などが含まれると考えられるが、完全な分離は困難なため、この項でまとめて記載する。141～169は右側縁で剥離されたと考えられるものである。145・169は黒曜石製で、他は全て頁岩製である。141は一次削片である。ただし、打面側を折損するため、二次削片の可能性もある。側縁には削片剥離に先行して



図Ⅵ-17 SB-1の石器(4)



図VI-18 SB-1の石器(5)



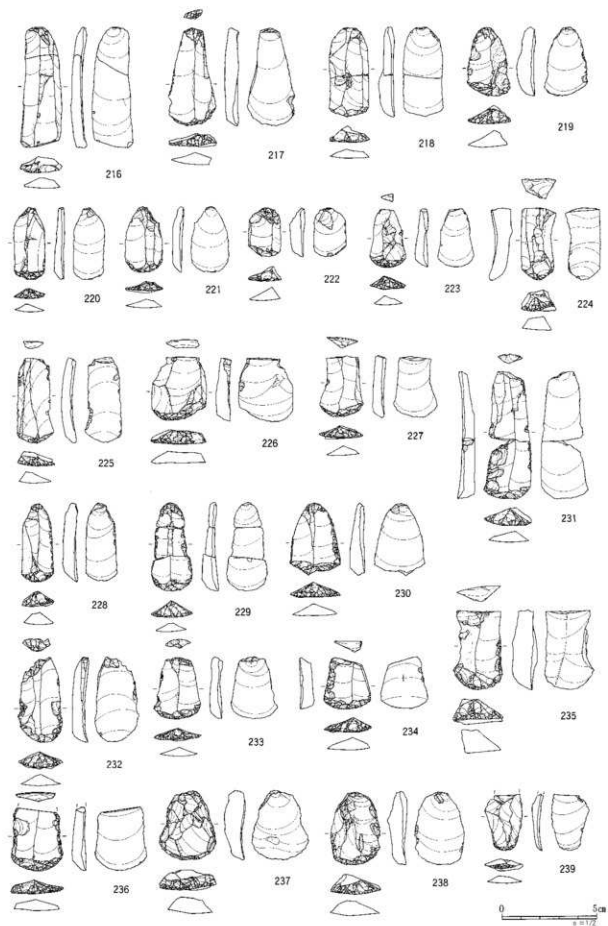
図VI-19 SB-1の石器(6)

細かい加工が施される。削片剥離は素材の側縁にほぼ並行する。142～169は二次削片である。142～147は削片剥離が背面側に傾くものである。142～144・147は調整面を打面とし、削片剥離は素材の背面側にわずかに傾くものである。145・146は打面の形状が不明のものである。148～161は削片剥離が腹面側に傾くものである。148～157はほぼ完形で、調整面を打面とする。158～161は打面部側を折損する。148・156の先行する削片剥離には背面側に傾くものもある。153・154・161は素材の側縁が残り、153・161の側縁には細かい加工がみられる。162～169は削片剥離が素材の背面及び腹面に傾かず、側縁にほぼ並行するものである。162～168はほぼ完形で、調整面を打面とする。162は先行する削片剥離に腹面側に傾くものがある。164の直前の削片剥離は下側から行われている。169は打面部側がわずかに砕けており、打面の形状は不明である。

170～214は左側縁で剥離されたと考えられるものである。石材は176・214が黒曜石、179・187・209・212は珪化岩、その他は頁岩である。170～176は一次削片である。170・172～174の削片剥離は腹面側に傾き、171・175・176は側縁にほぼ並行する。171～175は素材腹面側から、176は背面側から加工が施されている。170～172・176の側縁調整は急角度で、173～175は軽微な加工が施される。170～173の打面は調整面である。174～176は打面部側を折損するため、二次削片の可能性もある。177～214は二次削片である。177～188は削片剥離が背面側に傾くものである。177～183はほぼ完形のもので調整面を打面とする。177は素材の側縁が残り、側縁は主に腹面側から加工が施される。180は先行する削片剥離の末端側が階段状になる。184は打面部側・末端側を折損する。185・186は末端部側を折損する。185は形状から分類を剥片とした。打面部は背面側から加工が施される。186は素材の側縁が残り、側縁は腹面側から加工が施される。187・188は打面部側を折損している。189～205・207～210は彫刀面が腹面側に傾くものである。189～201はほぼ完形のもので、調整面を打面とする。189の先行する削片剥離は下側からも行われている。190は素材の側縁を残し、側縁には両面から細かい加工が施される。202・203は末端部を欠失するものである。どちらも調整面を打面とする。204は平坦面を打面とする。205・209の打面形状は不明である。207・208・210は打面部側を折損する。206・211～214は削片剥離が側縁にほぼ並行するものである。206・211・214は素材の側縁を残す。206は打面部側・末端側を被脱欠失する。215は左右どちらの側縁で剥離されたか不明のものである。

搔器 (図Ⅵ-20-216～239・図Ⅵ-33、図版39)

30点(26個体)出土し、その内29点(25個体)図示している。石材は黒曜石、珪化岩が多く、頁岩もみられる。216～236は石刃ないし縦長剥片を素材とするものである。石材は216・219・222・225・228・229・231が黒曜石、217・218・227・232・236は頁岩、220・221・223・224・226・230・233～235は珪化岩である。216は刃部形状が直線的で、刃部に一部原礫面を残す。217～227は刃部形状が弧状のものである。217・218は比較的大型のもので、219～223は小型のものである。223～227は上面が折れ面のものである。226・227は刃部がやや右肩上がりになる。228～236は側縁に調整が施されるものである。側縁の調整は微細な剥離が多い。230は刃部がやや尖る形状である。231の左側縁には大きな平坦剥離が施され、中央付近の折損後、折れ面に再加工が施される。また、232は右側縁上部に斜刃の彫刀面が作出され、彫器と複合する。237～239は剥片を素材とするものである。いずれも小型で、石材は237が珪化岩、238・239は黒曜石である。237・238は刃部が厚く、側縁には調整が施される。239は打点側を折損し、微細な剥離により薄い刃部が作出されている。



図VI-20 SB-1の石器(7)

両面調整石器 (図Ⅵ-21-240・241、図Ⅵ-34、図版39)

3点(3個体)出土し、その内2点(2個体)図示している。石材は240が珪化岩、241は凝灰岩である。240はやや厚みがあり、形状は卵形に近いが下部はやや非対称である。周縁部には細かい加工が施される。裏面中央や上に光沢部分がみられる。241は上下部を折損する。残存部は左右がやや非対称で、表裏面共に両側縁から大きな平坦剥離を行った後、表面の側縁には細かい加工が施される。

削器 (図Ⅵ-21-242~245・図Ⅵ-33、図版39)

7点(5個体)出土し、その内5点(4個体)図示している。石材は242~244が頁岩、245は珪化岩である。242・243は石刃素材のものである。242は下部を折損し、両側縁には細かい二次加工が施される。243は上部を折損し、末端部から両側縁にかけて細かい二次加工が施される。244は剥片を素材とし、打点側を折損する。末端部は平坦に近い剥離、右側縁には急角度の細かい剥離により刃部を作出している。245は石刃もしくは縦長剥片を素材とする。左側縁に大きな剥離で鋸歯状の刃部を作出し、刃部には微細な剥離がみられる。

錐形石器 (図Ⅵ-21-246~252・図Ⅵ-34、図版39)

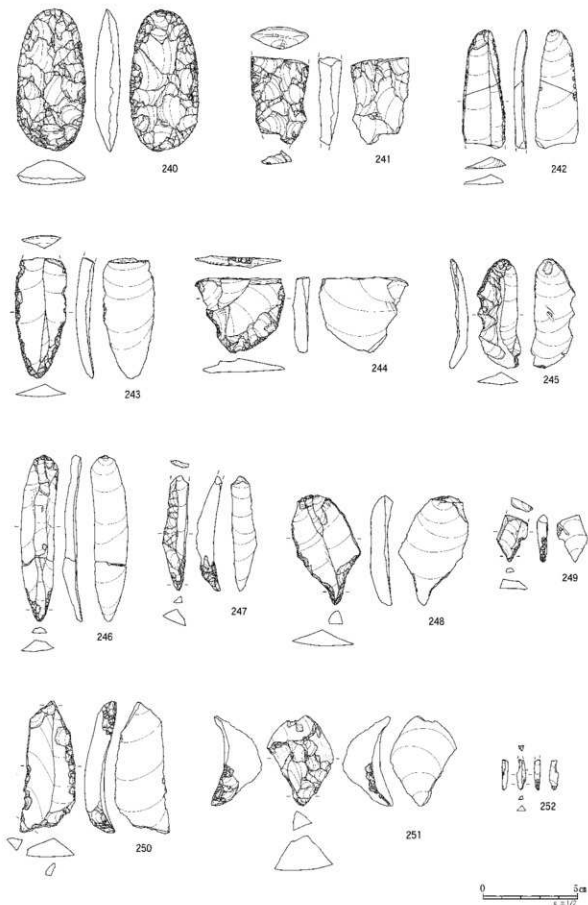
8点(7個体)出土し、全て図示している。石材は246~249・251は珪化岩、250・252は頁岩である。246~248・250は石刃を素材とするものである。246は石刃の末端部に急角度の細かい二次加工を施し、尖頭部を作出している。247は素材末端部の厚みを活かし、細かい平坦な剥離により尖頭部を作出する。248・249は尖頭部が素材の長軸方向に対してやや傾く。248は尖頭部を大きな加工で作出する。249は、素材右側縁の直線的な形状を生かして尖頭部を作出する。250は上下に尖頭部が作出されるものである。上部の尖頭部は素材の長軸方向に作出され、下部は長軸に対し傾く。251は分厚い剥片を素材とし、素材の両側縁下部から末端部にかけて急角度の連続した加工により、厚みのある尖頭部を作出する。252は削片を素材とし、素材腹面の末端部側に細かい加工を施し尖頭部を作出する。

二次加工ある剥片 (図Ⅵ-22-253~262・図Ⅵ-34、図版39・40)

28点(26個体)出土し、10点(10個体)図示している。石材は253・255・261・262が頁岩、254・257~260が黒曜石、256が凝灰岩である。253~256は剥片を素材とし、257~262は石刃もしくは縦長剥片を素材とするものである。253は厚みのある剥片を素材とし、右側縁に細かい二次加工を連続的に施している。254は厚みのある剥片の末端部側に微細な剥離が連続的にみられる。素材の剥片は石刃核の打面再生剥片と考えられる。255は薄手の剥片の末端部に細かい剥離が連続的にみられる。257~259は石刃の側縁に二次加工が施されるもので、258・259は末端側を折損する。258は右側縁中位に細かい二次加工が施される。260は薄い石刃を素材とし、両側縁に細かい剥離がみられる。261は両側縁に腹面側から加工が施され、下部には被熱の痕跡が認められる。262は大型の石刃を素材とし、左側縁は主に背面側から、右側縁は腹面側から細かい連続した二次加工が施される。

石刃 (図Ⅵ-22-263~270・図Ⅵ-35、図版40)

79点(64個体)出土し、13点(8個体)図示している。石材は、263・264・268が頁岩、265~267・269は黒曜石である。263~266はほぼ完形のものである。263・264は比較的大型の石刃で、共に調整打面で、頭部調整が施される。263は今回出土した石刃の中では最も大きく、長さは12.2cmを測る。下部は被熱による焼けはじけがみられる。264は263に比べて打面がやや大きい。265・266も頭部調整が施される石刃で、265は平坦打面、266は点状の打面である。266は背面に原礫面を残し、左側縁下部に石刃核の稜調整と考えられる剥離痕を残す。267・268は末端部を折損するもので、共に調整打面のものである。267は頭部調整がほとんどみられず、左側縁側には縦方向の丁寧な擦痕が認められる。268は小型の石刃で、頭部調整がみられる。269・270は打面部を折損するものである。269は左側面に



図VI-21 SB-1の石器(8)

石刃核の稜調整と考えられる剥離痕がみられる。270は背面に大きく原稜面を残す。

斧形石器 (図Ⅵ-23-271~276・図Ⅵ-36、図版40)

7点(6個体)出土し、全点図示している。石材は271~275が砂岩、276は凝灰岩である。271~275は剥片素材で、背面に稜面を大きく残す。271~274は横長剥片を素材とする。271はほぼ全周に加工が施される。272は刃部におみ腹面側からの細かい加工がみられる。273は両側縁に加工が施される。274はほとんど二次加工がみられないため、素材の可能性もある。275は上部を折損し、素材の末端部に細かい加工がわずかに施される。276は大型の刃部破片で、基部側を欠失する。両面を細かい加工により形状を整え、その後刃先を中心に丁寧な研磨を施し、滑らかな刃部を作出している。276は基部側の剥片等と接合しており、接合状況は石質別接合資料として後述する(凝灰岩1・接合61)。

たつき石 (図Ⅵ-23-277・図Ⅵ-36、図版40)

3点(1個体)出土し、図示している。277は砂岩製で、大部分を欠失する。下端部に、敲打痕様の剥離痕がわずかにみられる。

砥石 (図Ⅵ-23-278・図Ⅵ-36、図版40)

1点(1個体)出土し、図示している。278は砂岩製で、大部分を欠失する。表面は平滑で、ほぼ全面に縦方向を中心とした擦痕がみられる。

石製品 (図Ⅵ-23-279・図Ⅵ-36、図版40)

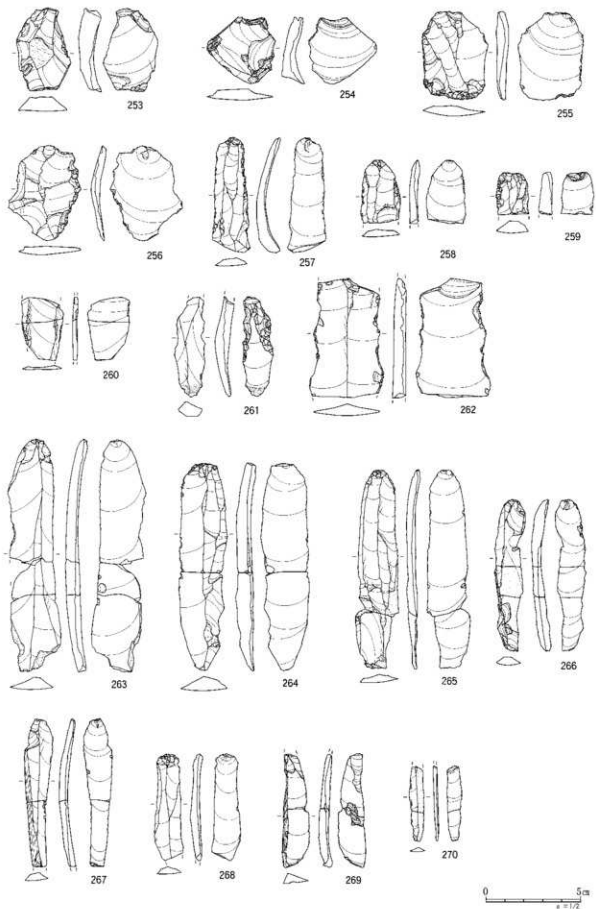
1点(1個体)出土し、図示している。279は粘板岩製で上部を折損する。形態などの特徴からは、縄文時代後期の石棒に類似するが、SB-1範囲内南側の遺物集中域でⅦ層から出土し、SB-1に伴う可能性があるため、ここで掲載する。下部が細くなる形状で、ほぼ全面に研磨が施されている。

擦痕のある剥片・細片 (図Ⅵ-23-280~284、図版40)

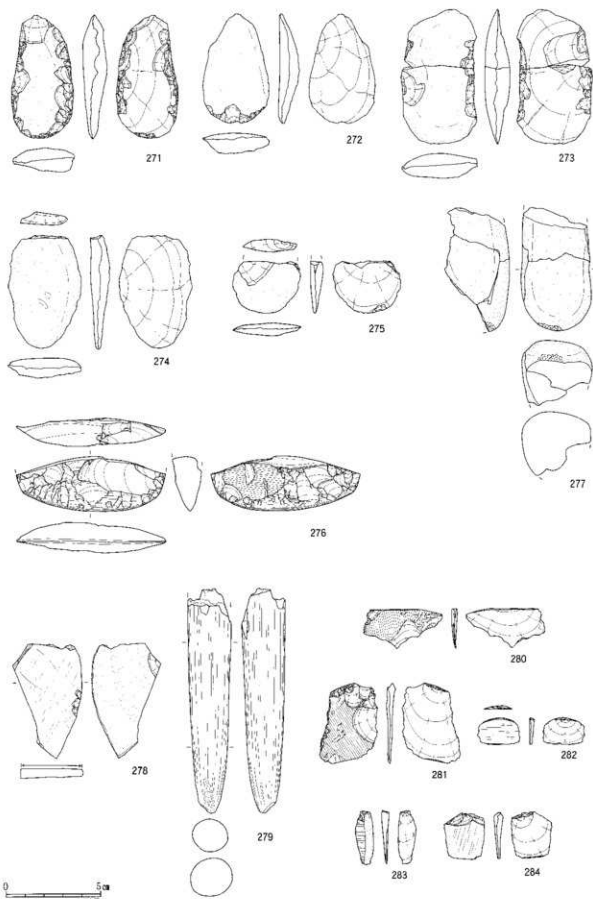
26点(25個体)出土し、5点(5個体)図示している。剥片・細片の中で、背面に擦痕(研磨痕)を残すものである。図示したものは全て泥岩製で、斧形石器の調整剥片と考えられる。280・281は暗灰色を呈し、研磨が丁寧に施され光沢をもつ。282・283は緑色を呈し、283は背面左側に横方向のやや粗い研磨痕を残す。284の腹面は緑色に近い褐色で、背面の研磨部分は灰色及び濃紺色を呈する。

(4) 石質別資料・接合資料

今回出土した石器の石材の主体となる黒曜石、頁岩、珪化岩は石材の特徴が全体的に乏しく、また、接合資料も限られているため、母岩別分類は行わず、石質別分類のみ行った。母岩別資料に比べ密着性に欠けるが、石質ごとの接合資料や器種組成を検討することにより、大まかではあるが石質ごとの石器製作作業の把握を行う。石質別分類の方法としては、SB-1出土の石器類2,030点を石材別に分け、さらに同一石材の中で石質の特徴や接合資料を基に石質別資料として1,090点を抽出した。細片は石質の判断が可能なもののみ対象とした。また、ブロック外出土などの石器25点についても石材、石器の形状、接合関係などから、SB-1に関連する石器として21点を抽出し、さらにその中から12点を石質別資料とした。よって、SB-1に関連する遺物総点数は2,051点、総重量は3686.6gで、石質別資料は総点数1,102点、総重量2150.4gとなる。遺物点数に対する石質抽出率は53.7%となる。SB-1関連の石質は15種類設定し、内訳は黒曜石8種類、頁岩3種類、凝灰岩1種類、泥岩3種類となった。石質の分類基準は表Ⅵ-8・11に示した。また、黒曜石12は被熱で石質不明のもので、石質別資料からは外している。

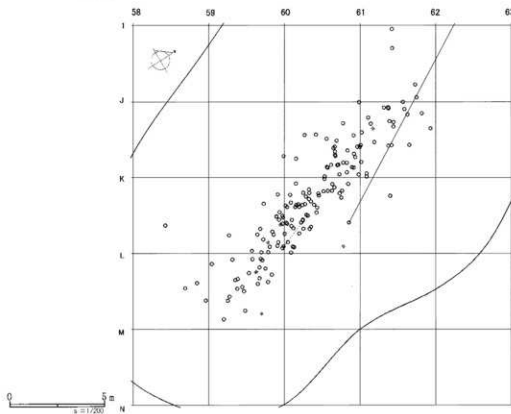
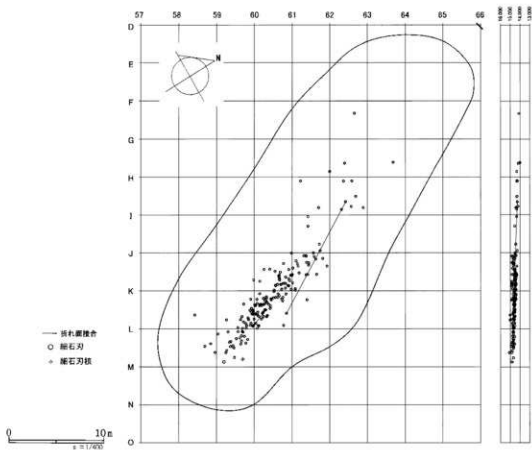


図VI-22 SB-1の石器(9)



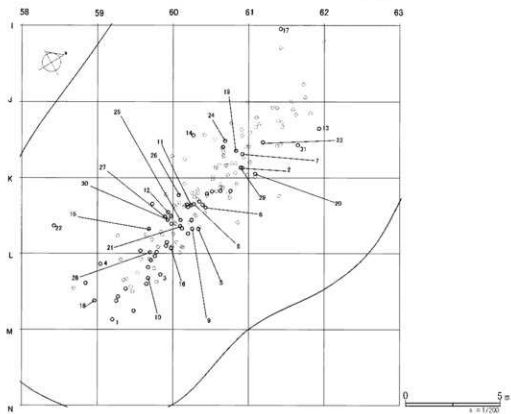
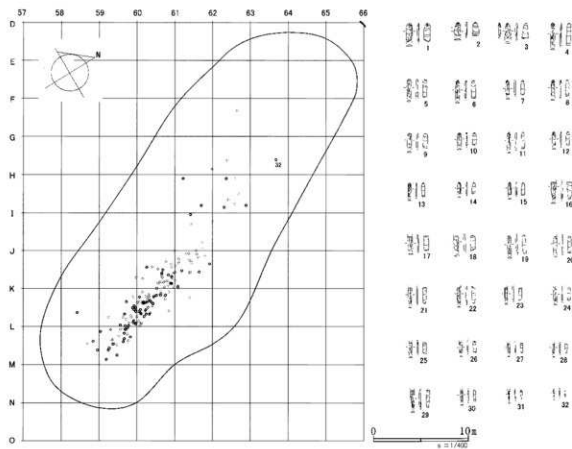
図VI-23 SB-1の石器(10)

細石刃



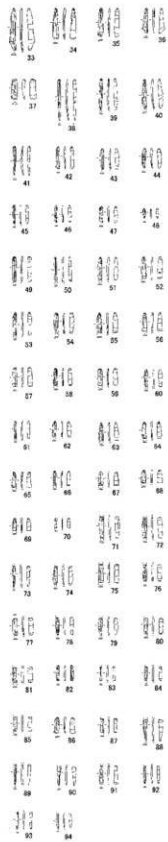
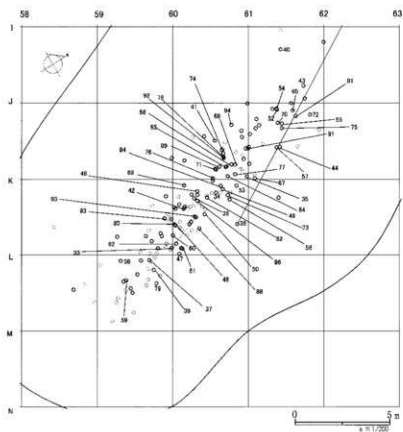
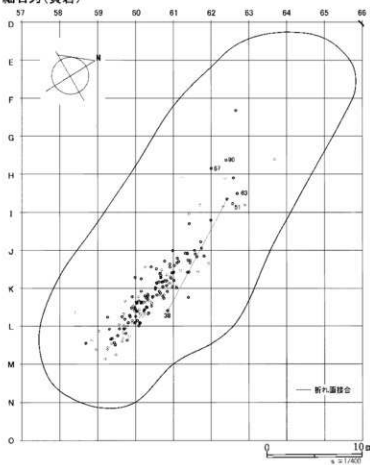
図Ⅵ-24 SB-1の遺物・分布図(1)

細石刃(黒曜石)

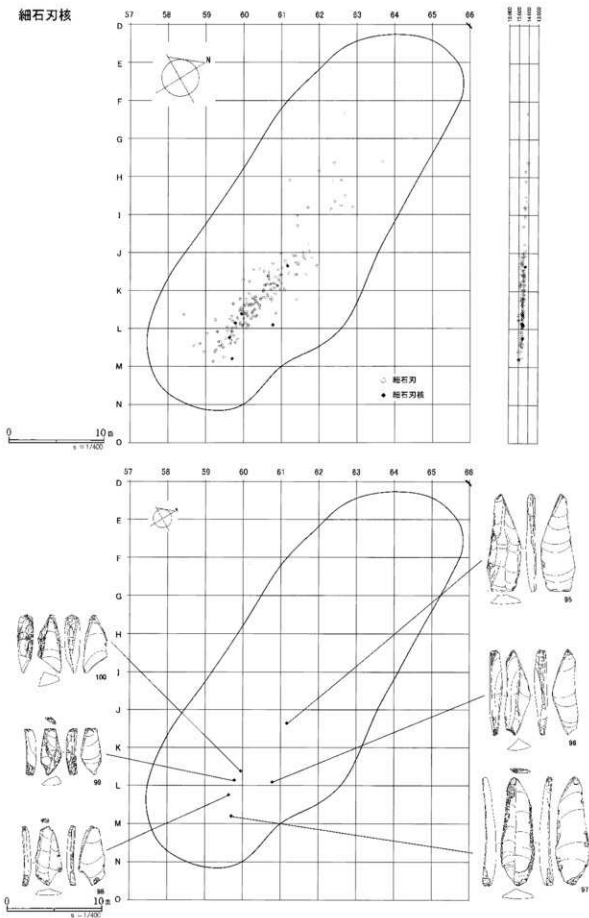


図VI-25 SB-1の遺物・分布図(2)

細石刃(頁岩)

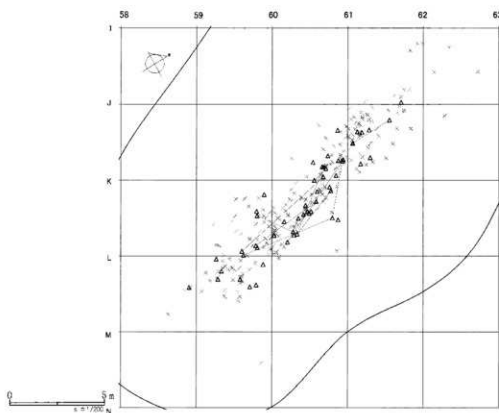
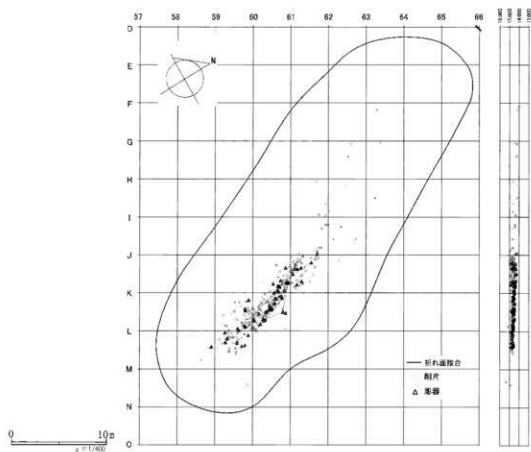


図VI-26 SB-1の遺物・分布図(3)

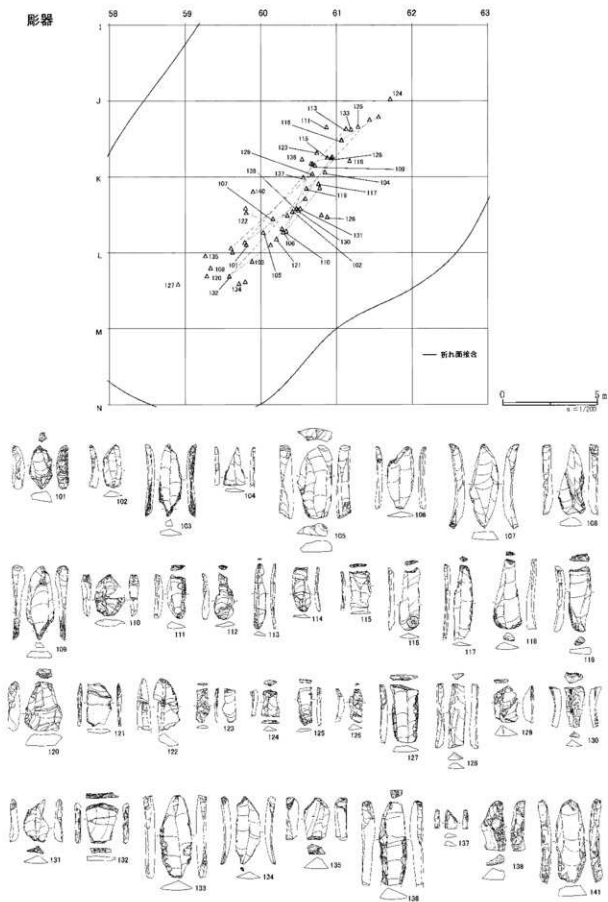


図VI-27 SB-1の遺物・分布図(4)

影器

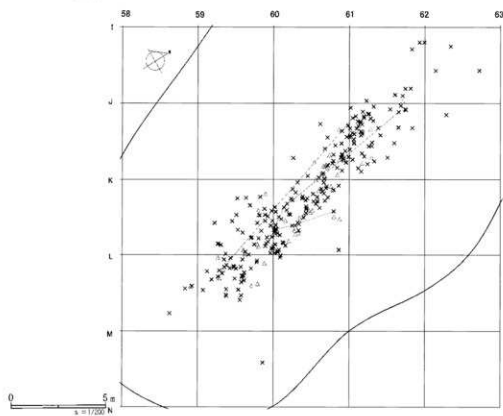
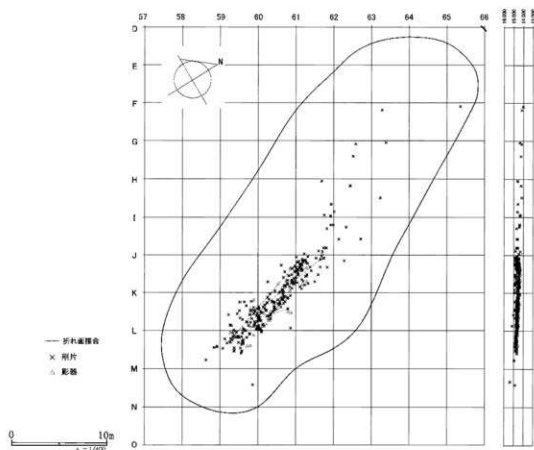


図VI-28 SB-1の遺物・分布図(5)



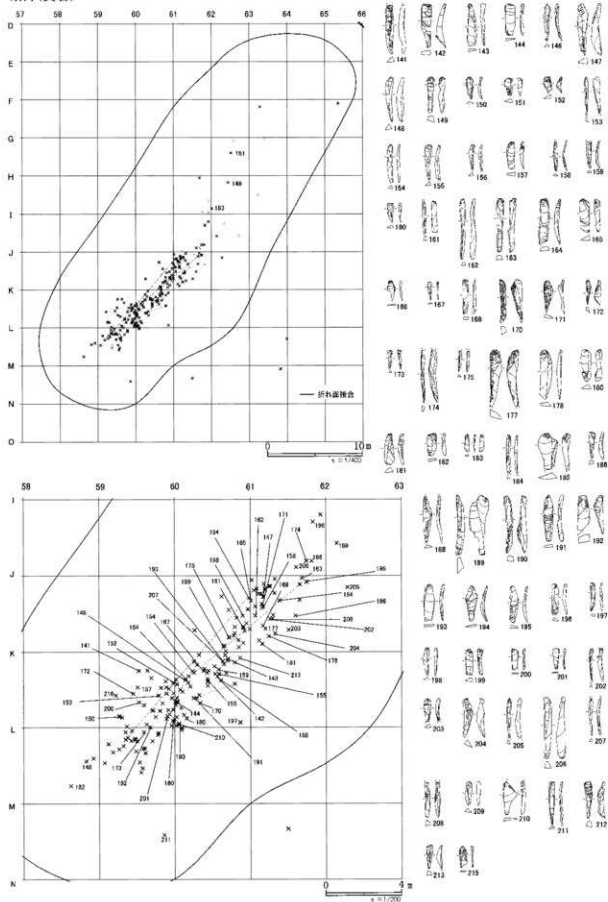
図VI-29 SB-1の遺物・分布図(6)

削片



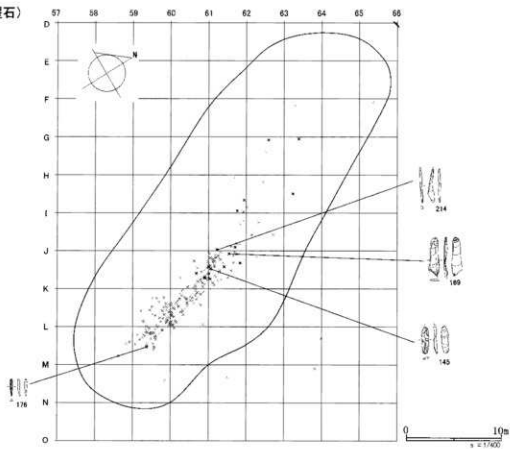
図VI-30 SB-1の遺物・分布図(7)

剛片(頁岩)

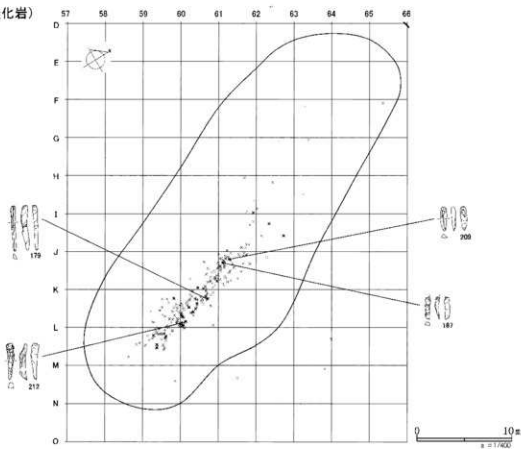


図VI-31 SB-1の遺物・分布図(8)

削片(黒曜石)

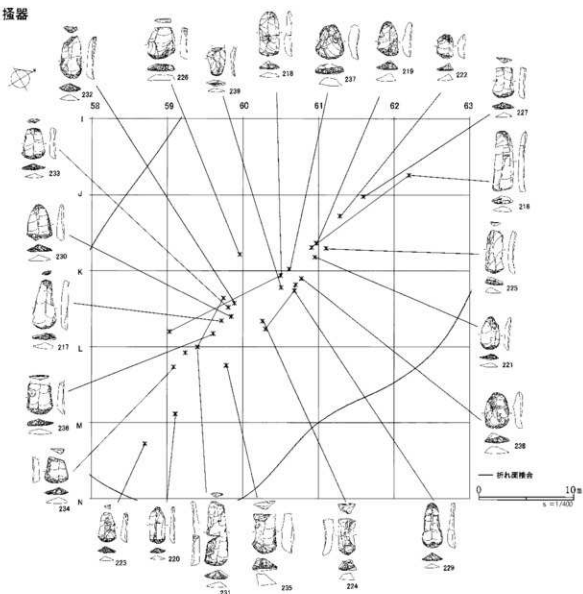


削片(珪化岩)

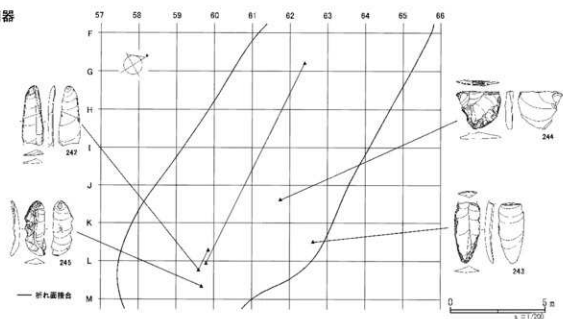


図VI-32 SB-1の遺物・分布図(9)

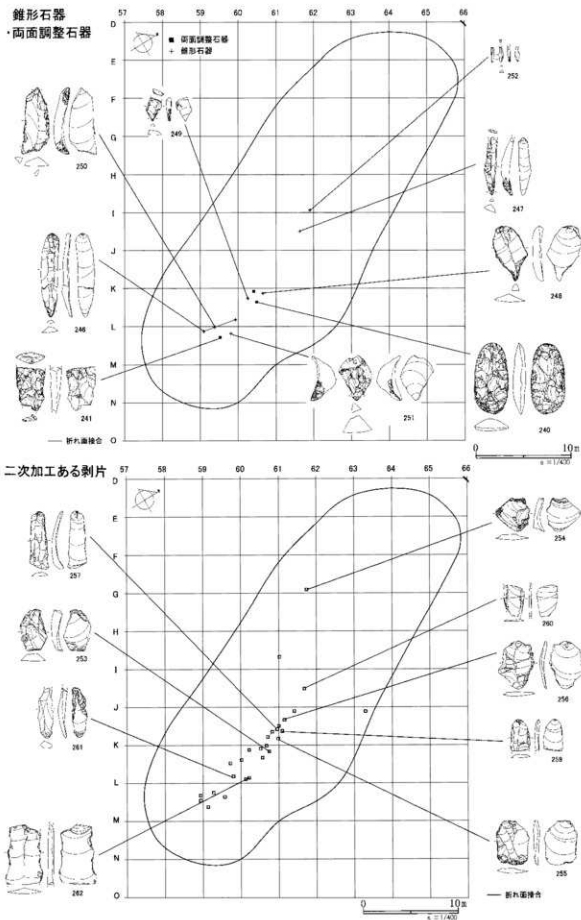
播器



削器

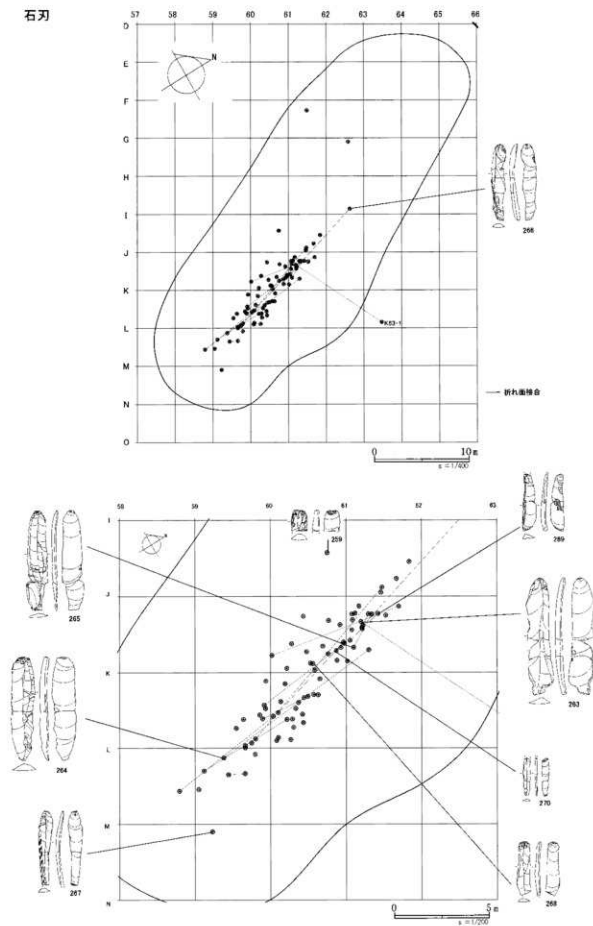


図VI-33 SB-1の遺物・分布図(10)



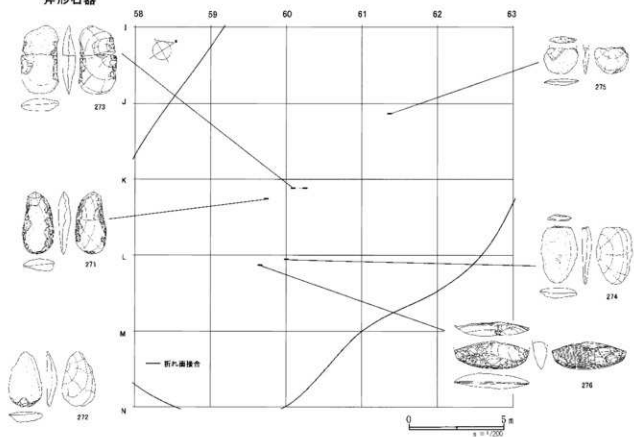
図VI-34 SB-1の遺物・分布図(11)

石刃

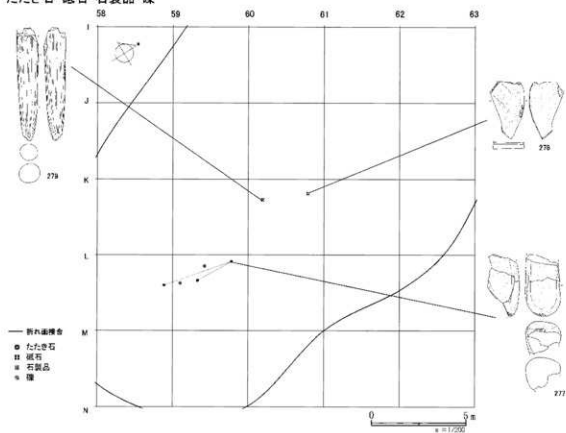


図VI-35 SB-1の遺物・分布図(12)

斧形石器



たたき石・砥石・石製品・礫



図Ⅵ-36 SB-1の遺物・分布図(13)

接合資料については、接合作業の結果、折れ面接合95例、剥離面接合83例が得られた。接合に関わる点数は465点（折れ面接合のみ132点、剥離面接合333点）で、遺物総数2,051点に対し、22.7%の接合率である。接合資料は全83個体の内、24個体を図示し、8個体を写真のみ掲載した。また、図示した接合資料については、接合資料を構成する個別の石器についても、できるだけ実測図を図示するよう努めたが、写真のみ掲載したものもある。

ここでは、石材ごとに石質別資料、次いでその石質の接合資料を記載した。また、ブロック外ほか出土でもSB-1に伴うものに関してはここで取上げている。また、石質別資料に含まれない接合資料に関しては、各石材の石質別資料の後に続けて記述した。

1) 黒曜石

SB-1に関連する石器で、黒曜石製の石器は総点数872点、総重量756.7gである。その内、黒曜石の石質別資料として475点（54.5%）、680.8g（90.0%）の石器を抽出した。黒曜石の石質は細かい球果や白い模様が縞状に入るものが主体だが、全体的に球果は少量で、石器石材として良質なものである。その中で色調、透明度、球果、流理構造、模様のあり方などから大きく8種類（黒曜石1～8）に分けた。黒曜石1～8の中で、黒曜石1～7は細かい球果や白い模様が縞状に入るもので、肉眼観察では赤井川産と推定できるものである。黒曜石8は球果及び縞状の流理構造もほとんど認められない。黒曜石1・5～8は分離性が高く、特に黒曜石1は接合資料からも同一母岩の可能性が高い。黒曜石2～4は全体的に類似しており、同一母岩のものを複数の石質に分けている可能性もある。黒曜石1～8に関しては、接合資料を中心に各石質から12点抽出し、黒曜石原産地推定を行ったところ、10点に関しては赤井川産、残りの2点は赤井川産の可能性が高いという結果が出ている（第Ⅲ章4参照）。そのためSB-1関連の黒曜石は、赤井川産が主体である可能性が高い。

黒曜石1（図Ⅵ-40～43）

黒曜石1は総点数259点、総重量474.3gである。彫器8点（内ブロック外1点）、削片8点、搔器11点（内ブロック外1点）、二次加工ある剥片3点、石刃49点、縦長剥片14点、剥片145点（内ブロック外1点）、細片21点で構成される。石質別資料の中では最も点数が多く、接合資料数も比較的多い。接合資料は、13個体（掲載6個体）である。接合資料では石刃製作に関わるものが多く、内訳は、石刃の接合（1個体）、石刃と彫器の接合（1個体）、石刃と搔器の接合（3個体）、彫器と削片の接合（1個体）、剥片などの接合（7個体）がある。石刃関連の接合資料は大きさ及び調整などが類似し、同一の石刃核から剥離された可能性がある。また、剥片の接合資料の中には石刃核母型の調整剥片と考えられるものがある。作業内容としては、石刃核の調整剥離、石刃剥離、石刃素材の彫器・搔器の製作などが推定される。ただし、石刃核は出土していないため、遺跡外に搬出されたと考えられる。

黒曜石1・接合資料1（図Ⅵ-42、図版41）

石刃5点（3個体）で構成され、総重量は11.1gである。

作業内容 稜調整の剥離痕及び原礫面を残す石刃核から、石刃剥離を行う。石刃剥離前には、打面調整及び頭部調整が施される。

分布 SB-1南側の遺物集中範囲内であるH-62区、I-60・62区、J-61区、K-60区に分布する。I-62区出土の1点はグリッド一括遺物である。

黒曜石1・接合資料2（図Ⅵ-42、図版41）

彫器1点（1個体）、石刃9点（7個体）で構成され、総点数10点、総重量20.1gである。

作業内容 原礫面を残す石刃核から、石刃剥離を複数回行う。石刃剥離前には、頭部調整が施される。

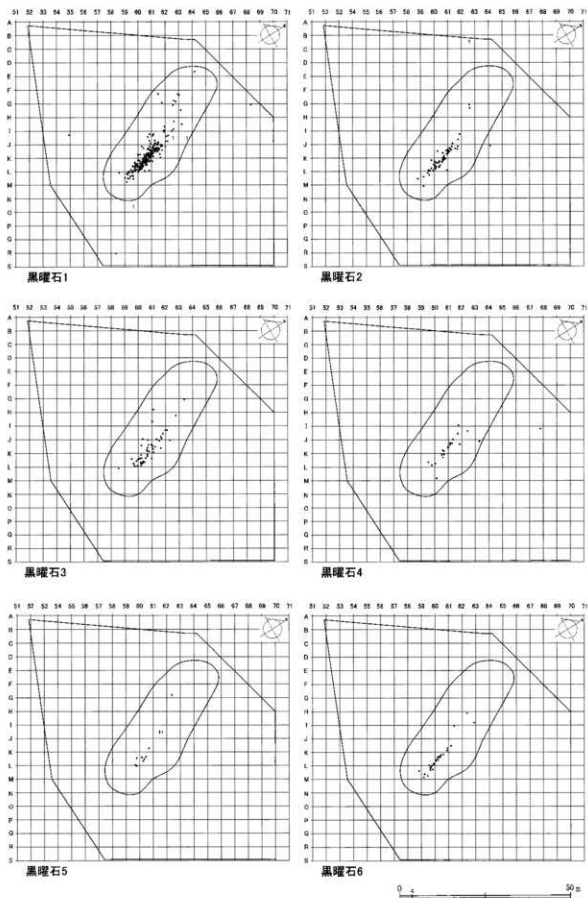
表Ⅴ-7 SB-1石質別出土遺物一覧 ※重量の単位は(g)

石質	礫石片		礫石片核		彫片		細片		細器		両面調整石器		削器		錐形石器		一次加工品		石刀		
	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	
黒曜石1					8	38.6	8	1.7	11	40.6							3	19.8	49	94.5	
黒曜石2	3	0.3					2	0.2	1	8.8							1	3.0	4	6.8	
黒曜石3							4	1.6	1	5.6							1	0.4	3	1.3	
黒曜石4					3	3.2	2	0.3									3	11.0			
黒曜石5					3	15.0							2	3.3			2	2.1			
黒曜石6	28	2.3																			
黒曜石7	25	1.9																			
黒曜石8	6	0.3					1	0.1													
頁岩1					1	49.5	36	53.2									2	20.9			
頁岩2							1	0.1	3	14.8									7	21.6	
頁岩3					4	15.5			2	13.0							2	14.2	2	5.6	
珪化岩1					12	87.0	23	15.0	10	70.0	1	40.2	1	7.6	7	69.6	8	28.5	8	31.5	
珪化岩2																					
珪化岩3																					
珪化岩4																					
凝灰岩1											1	16.8					1	8.0			
泥岩1																					
泥岩2																					
泥岩3																					
黒曜石12					3	10.9			1	6.1									1	3.2	
黒曜石分類外	2	0.2							1	0.1	1	0.1									
頁岩分類外	110	14.4	6	152.9	23	376.2	165	114.1	1	8.7				4	35.3	2	21.8	3	16.9	9	54.9
珪化岩分類外																					
砂岩																					
粘板岩																					
合計	174	19.3	6	152.9	57	595.8	242	186.2	31	167.7	3	57.0	7	46.2	9	91.4	28	130.4	82	216.3	

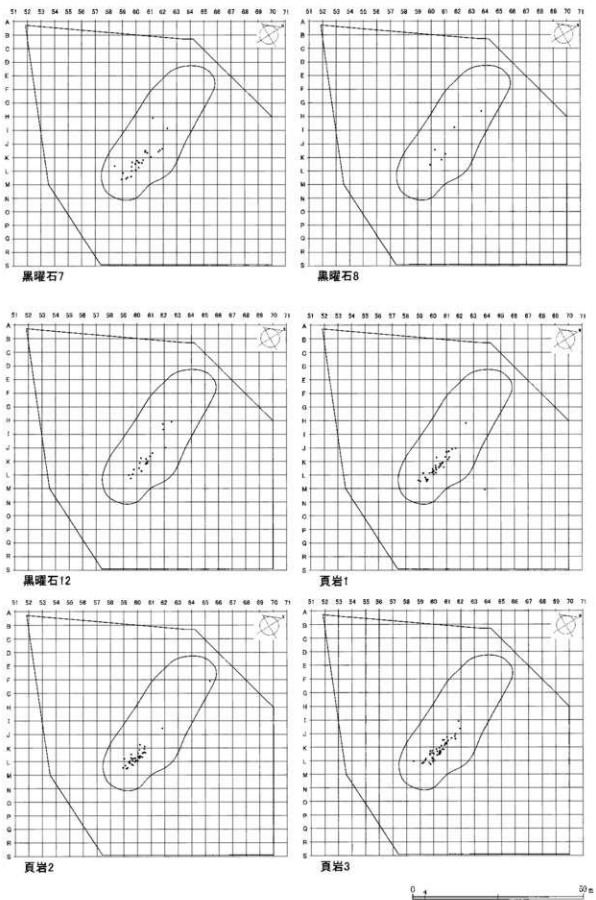
石質	板長剥片		剥片		細片		片形石器		たたき石		砥石		石製品		礫		合計	
	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量
黒曜石1	14	13.8	145	261.2	21	4.1											259	474.3
黒曜石2	9	12.5	44	65.7	7	1.3											71	98.6
黒曜石3	17	16.5	18	13.5	7	0.3											51	39.2
黒曜石4	1	0.4	11	26.5	1	0.1											21	41.4
黒曜石5			3	2.1	1	0.2											11	22.7
黒曜石6																	28	2.3
黒曜石7					2	0.1											27	1.9
黒曜石8																	7	0.4
頁岩1			3	9.8													42	133.4
頁岩2	1	0.5	22	59.1	1	0.2											36	98.7
頁岩3	7	15.3	27	66.3	4	1.4											48	131.4
珪化岩1	21	55.9	117	322.9	15	4.9											223	733.2
珪化岩2	3	14.6	79	147.3	12	3.0											94	165.0
珪化岩3			4	6.1													4	6.1
珪化岩4			4	3.9													4	3.9
凝灰岩1			87	88.6	41	5.0	1	34.2									131	152.5
泥岩1			27	31.1	4	0.8											31	31.9
泥岩2			7	9.4	5	1.6											12	11.0
泥岩3			2	2.4													2	2.4
黒曜石12			11	20.5	3	1.3											19	41.9
黒曜石分類外			5	5.2	369	28.5											378	34.0
頁岩分類外			60	60.1	84	10.7											144	865.8
珪化岩分類外					67	8.9											67	8.9
砂岩			5	144.7			6	121.1	3	84.3	1	15.4			2	133.0	17	498.6
粘板岩													1	87.0			1	87.0
合計	73	129.6	681	1346.6	644	72.3	7	155.3	3	84.3	1	15.4	1	87.0	2	133.0	2051	3686.6

表Ⅴ-8 SB-1出土黒曜石石質分類一覧

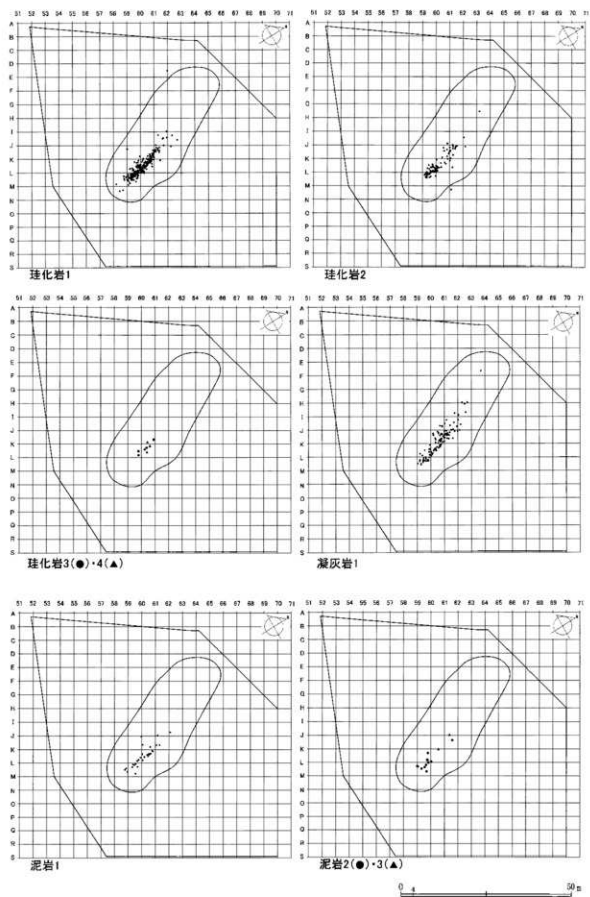
石質名	色調	透明度	球果の大きさ	球果の量	流理(色)	流理(形状)	流理(境界)	原産地	分析%	原産地特定
黒曜石1	黒色	高い	微小	少	黒主体	直線	明瞭	有り	1, 3, 15	赤井川
黒曜石2	黒色	高い	微小	少	黒主体	湾曲	非常に不明瞭	有り	3, 7	赤井川
黒曜石3	黒色	高い	微小	少	黒・白	やや湾曲	やや不明瞭	無し	4	赤井川
黒曜石4	黒色	高い	微小	少	黒主体	湾曲	やや不明瞭	有り	5	赤井川
黒曜石5	黒色	低い	小	やや多い	黒主体	直線	明瞭	無し	6	赤井川?
黒曜石6	黒色	高い	小	やや多い	不明瞭	不明瞭	不明瞭	無し	8, 9	赤井川
黒曜石7	黒色	高い	小	やや多い	黒主体	直線	やや不明瞭	無し	10	赤井川
黒曜石8	薄い黒色	非常に高い	なし	なし	なし	なし	なし	無し	11	赤井川
黒曜石12	被熱で不明									



図VI-37 SB-1石質別分布図(1)

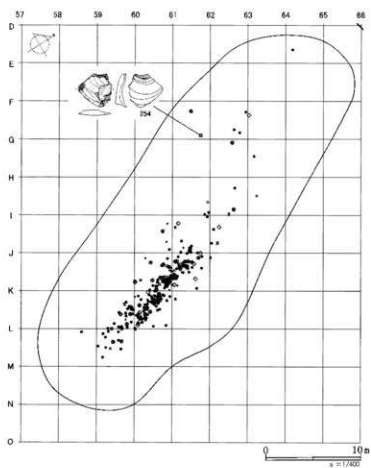
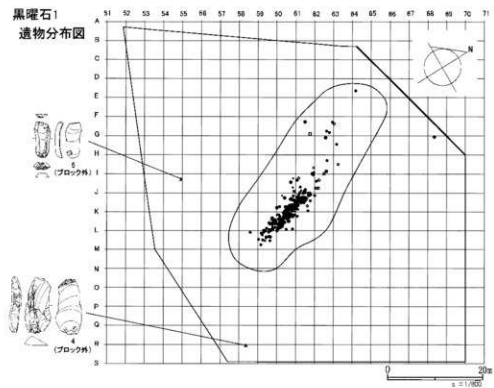


図Ⅴ-38 SB-1石質別分布図(2)



図VI-39 SB-1石質別分布図(3)

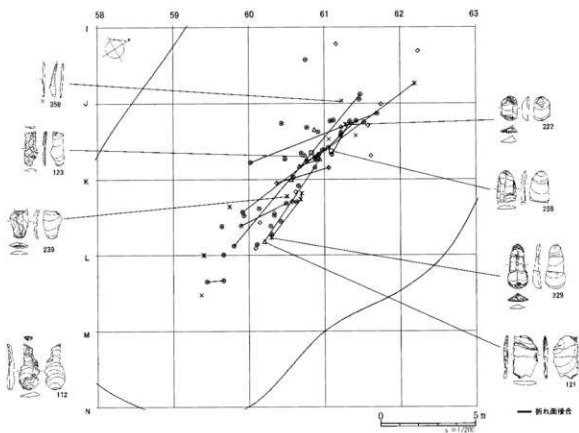
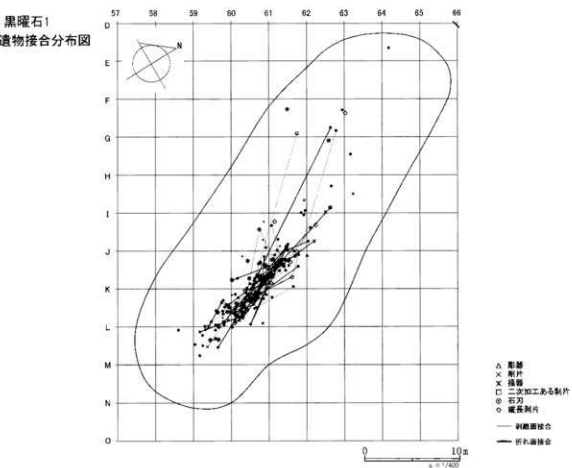
黒曜石1
遺物分布図



- △ 断片
- × 断片
- × 残片
- 二次加工ある断片
- 石片
- ◇ 縦長断片
- 断片
- 断片

図VI-40 黒曜石1分布図(1)

黒曜石
遺物接合分布図



図VI-41 黒曜石1分布図(2)

また、剥離した石刃を素材として彫器（137）が製作される。

分布 SB-1 南側遺物集中範囲内のI-61区、J-60・61区、K-60区にまとまって分布する。

黒曜石 1・接合資料 4（図Ⅵ-42、図版41）

搔器 2点（1個体）、石刃 5点（4個体）で構成され、総点数 7点、総重量 17.8gである。

作業内容 稜調整の剥離痕を残す石刃核から石刃剥離を複数回行う。石刃剥離前には、頭部調整が施される。その後、剥離した石刃を素材として搔器（216）が製作される。

分布 SB-1 南側遺物集中範囲内のI-62区、J-60・61区、K-59・60区に分布する。

黒曜石 1・接合資料 14（図Ⅵ-43、図版41）

搔器 2点（1個体）、石刃 1点（1個体）で構成され、総点数 3点、総重量 12.1gである。

作業内容 石刃核から石刃剥離を複数回行う。その後、剥離した石刃を素材として搔器（231）が製作される。

分布 SB-1 南側の遺物集中範囲内であるK-59・60区、L-59区の狭い範囲に分布する。

黒曜石 1・接合資料 17（図Ⅵ-43、図版41）

搔器 1点（1個体）、石刃 1点（1個体）で構成され、総点数 2点、総重量 8.6gである。

作業内容 原稜面を残す石刃核から石刃剥離を複数回行う。石刃剥離前に、打面調整及び頭部調整が施される。その後、剥離した石刃を素材として搔器（228）が製作される。

分布 SB-1 南側の遺物集中範囲内であるH-62区、K-60区に分布する。

黒曜石 1・接合資料 66（図Ⅵ-43、図版41）

彫器 1点（1個体）、削片 1点（1個体）で構成され、総点数 2点、総重量 7.7gである。

作業内容 背面右側縁及び腹面右側縁から基部にかけて細かい加工を施した後、素材となる石刃の末端部側にノッチ状の調整打面を作出し、左側縁に彫刀面剥離が二回行われる。

分布 SB-1 南側の遺物集中範囲内のJ-60区（彫器）、L-59区（削片）に分布する。

黒曜石 2（図Ⅵ-44）

黒曜石 2は総点数 71点、総重量 98.6gである。細石刃 3点、削片 2点、搔器 1点、二次加工ある剥片 1点、石刃 4点（内 1点排土ほか出土）、縦長剥片 9点、剥片 44点（内ブロック外 1点）、細片 7点で構成される。接合資料は 2個体（未掲載）である。内訳は縦長剥片と剥片の接合（1個体）、剥片 2点の接合（1個体）である。作業内容は、主に剥片剥離作業を行っているが、接合資料が少なく、詳細は不明である。

黒曜石 3（図Ⅵ-44）

黒曜石 3は総点数 51点、総重量 39.2gである。削片 4点、搔器 1点、二次加工ある剥片 1点、石刃 3点、縦長剥片 17点、剥片 18点、細片 7点で構成される。接合資料は 3個体（未掲載）で、全て縦長剥片の接合である。縦長剥片の剥離作業は行っているが、接合資料が少ないため、詳細は不明である。

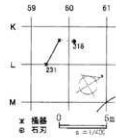
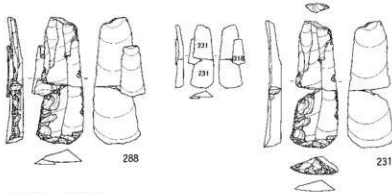
黒曜石 4（図Ⅵ-44）

黒曜石 4は総点数 21点、総重量 41.4gである。彫器 3点、削片 2点、二次加工ある剥片 3点、縦長剥片 1点、剥片 11点（内ブロック外 1点）、細片 1点で構成される。接合資料はない。点数が少なく、接合資料も無いため、作業内容の詳細は不明である。

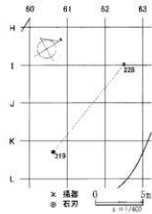
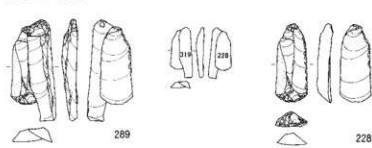
黒曜石 5（図Ⅵ-44）

黒曜石 5は総点数 11点、総重量 22.7gである。彫器 3点、削器 2点、二次加工ある剥片 2点、剥片 3点、細片 1点で構成される。彫器及び削器は石刃素材である。接合資料はない。点数が少なく、接合資料も無いため、遺跡内でほとんど剥離作業が行われていない可能性が高い。

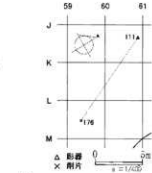
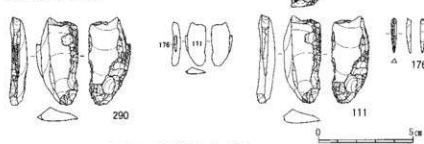
黒曜石1・接合14



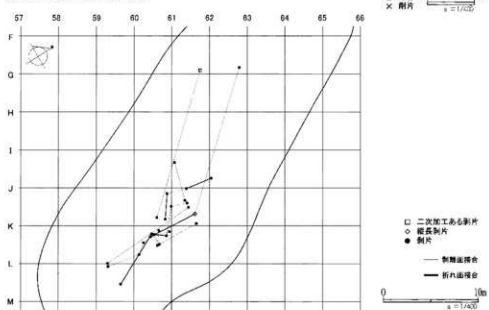
黒曜石1・接合17



黒曜石1・接合66

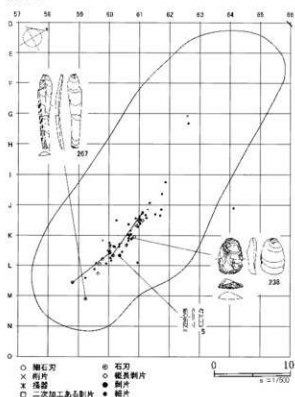


黒曜石1 剥片接合分布図

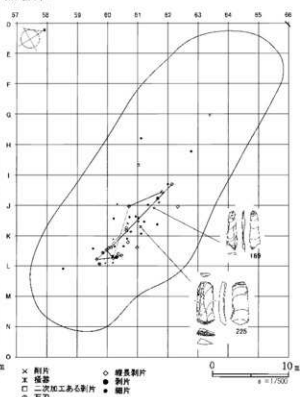


図VI-43 黒曜石1・接合14、17、66

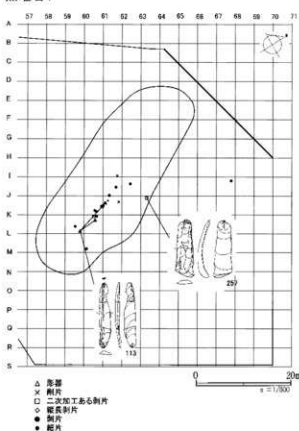
黒曜石2



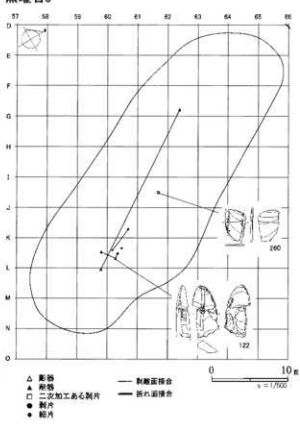
黒曜石3



黒曜石4

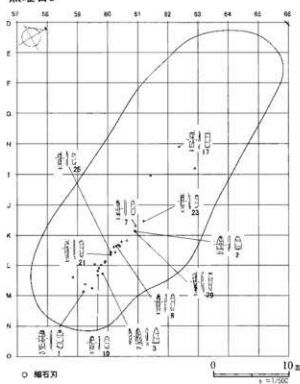


黒曜石5

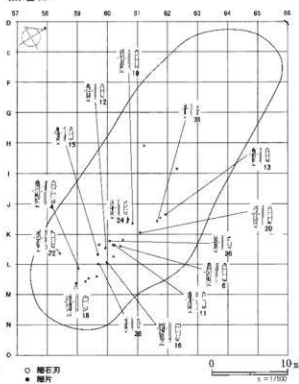


図VI-44 黒曜石2～5分布図

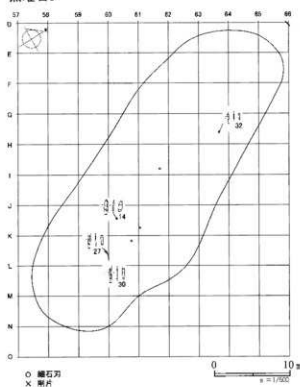
黒曜石6



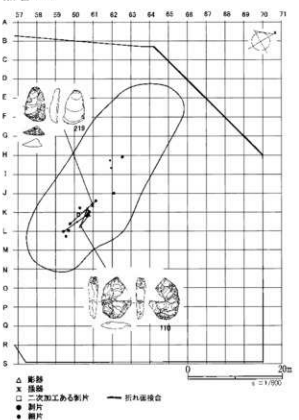
黒曜石7



黒曜石8



黒曜石12



図Ⅵ-45 黒曜石6～8、12分布図

黒曜石6 (図Ⅵ-45)

黒曜石6は総点数28点、総重量2.3gである。全て細石刃である。接合資料はない。この石質の細石刃核は出土していない。製品として搬入されたか、遺跡内で細石刃剥離を行った可能性がある。

黒曜石7 (図Ⅵ-45)

黒曜石7は総点数27点、総重量1.9gである。細石刃25点、細片2点で構成される。接合資料はない。この石質の細石刃核は出土していない。製品として搬入されたか、遺跡内で細石刃剥離を行った可能性がある。

黒曜石8 (図Ⅵ-45)

黒曜石8は総点数7点、総重量0.4gである。細石刃6点、削片1点で構成される。接合資料はない。点数が少なく、細石刃は遺跡外から製品として搬入された可能性がある。

黒曜石12 (図Ⅵ-45)

黒曜石12は総点数20点、総重量43.1gである。被熱石器でも、石質が判断できるものに関しては石質分類を行っているが、黒曜石12としたものは被熱が著しく石質分類対象外としたものである。

2) 頁岩

SB-1に関連する石器で、頁岩製の石器は総点数593点、総重量1229.3gである。その内、頁岩の石質別資料として126点(21.3%)、363.6g(29.6%)の石器を抽出した。石質分類は、主に色調、珪質の度合い、模様や接合資料などから3種類を設定した。頁岩は特徴に乏しいものが多く、色調の違う石器の接合などもみられたため、確実性の高いもののみを石質別資料としている。また、彫器など単体で持ち込まれたと考えられる石器が多いため、多くが石質分類外となり抽出率は低くなっている。頁岩1は珪質分がやや低く灰色を呈するもので、頁岩2・3は珪質分が高いもので頁岩2は茶褐色、頁岩3は暗灰色を基調とする。頁岩2・3については、各1点ずつ岩石学的分析を行い、産地推定を試みた。その結果、既存の道南や道北産の頁岩の分析結果とは一致せず、分析試料の産地については不明という結果が出ている。ただし、道内各地の頁岩のサンプルは未収集の地点が多いため、今後産地が推定される可能性は残る(第Ⅴ章5参照)。

頁岩1 (図Ⅵ-46・47)

頁岩1は総点数42点、総重量133.4gである。彫器1点、削片36点(内ブロック外1点)、二次加工ある剥片2点、剥片3点で構成される。頁岩1は頁岩の中では特徴的な模様があるもので、接合資料の点数が多い。接合資料は、4個体(掲載2個体、写真のみ2個体)である。内訳は彫器と削片の接合(1個体)、削片の接合(3個体)である。作業内容としては、彫器及び削片の接合資料が大部分であるため、彫器製作を主体とする作業が考えられる。

頁岩1・接合資料29 (図Ⅵ-46、図版42)

削片3点(3個体)で構成され、総重量6.5gである。

作業内容 素材となる大型の石刃の側縁に細かい連続した剥離が施され、素材末端部に腹面側から大きな剥離で打面を作出した後、彫刀面剥離を行う。削片は全て二次削片で、直線的な形状である。接合資料25と同一個体の可能性があるが、未接合である。

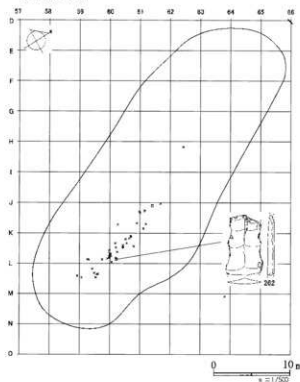
分布 SB-1中央やや北側のH-62区、南側のJ-60区、J-61区にやや離れて分布する。

頁岩1・接合資料25 (図Ⅵ-47、図版42)

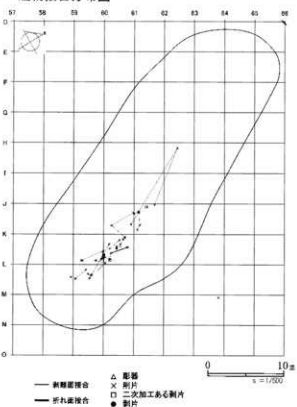
総点数は25点で、彫器1点、削片23点(20個体)、剥片1点で構成される。総重量95.8gである。彫器はある程度削片剥離が行われた状態で、遺跡内に搬入されている。

頁岩1

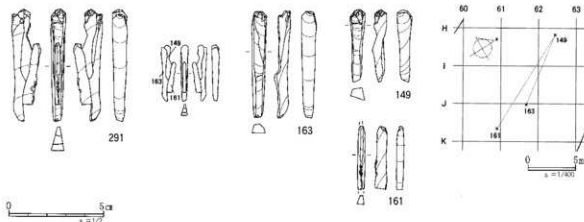
遺物分布図



遺物接合分布図



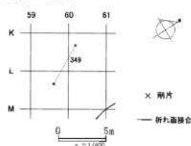
頁岩1・接合29



頁岩1・接合85



頁岩1・接合86



図Ⅵ-46 頁岩1分布図、頁岩1・接合29、85、86

作業内容 素材となる大型の石刃の上下で削片剥離を行っている。上部は交叉刃型で、彫刀面作出及び再生(修正)と考えられる剥離が、右側縁と左側縁で交互に複数回行われている。まず、右側縁に6回以上の彫刀面剥離を行った後、左側縁上部に打面を作出して2回の彫刀面剥離を行う。次に右側縁で4回以上の彫刀面剥離を行い、続いて左側縁で6回以上の彫刀面剥離を行う。そして最後に右側縁で1回以上の彫刀面剥離を行う。下部も交叉刃型で、左側縁の彫刀面剥離を複数回行った後、腹面側に大きく傾く幅広の彫刀面剥離を行う。次に先行する彫刀面剥離面を打面として、右側縁で素材側縁を取り込んだ彫刀面剥離を行う。続いて左側縁で先の右側縁に作出した彫刀面を打面とし、複数回彫刀面剥離を行う。次に右側縁下部に急角度の加工を施し、最後にそれを打面とした大きな剥片剥離を行う。この剥片剥離は石器の長軸方向に対し、ほぼ垂直方向で行われ、横刃の彫刀面作出を目的とした剥離の可能性もある。

分布 SB-1南側の遺物集中範囲内のJ-60・61区、K-59・60区、L-59区に分布する。彫器はK-60区出土である。

頁岩1・接合資料85 (図Ⅵ-46:分布図のみ、図版44-348)

削片2点(2個体)で構成され、総重量2.2gである。

作業内容 調整打面から削片剥離が行われる。接合資料25と同一個体と考えられるが未接合である。

分布 SB-1南側の遺物集中範囲内のK-60区に分布する。

頁岩1・接合資料86 (図Ⅵ-46:分布図のみ、図版44-349)

削片2点(2個体)で構成され、総重量2.3gである。

作業内容 調整打面から削片剥離が行われる。接合資料25と同一個体と考えられるが、未接合である。

分布 SB-1南側の遺物集中範囲内のK-60区、L-59区に分布する。

頁岩2 (図Ⅵ-48)

頁岩2は総点数36点、総重量98.7gである。削片1点、搔器3点、二次加工ある剥片1点、石刃7点、縦長剥片1点、剥片22点、細片1点で構成される。頁岩2は茶褐色を基調とし、珪質分に富む点の特徴である。接合資料は、4個体(写真のみ掲載1個体)である。内訳は、石刃の接合(1個体)、剥片の接合(3個体)である。また、剥片の接合資料の中には石刃核の打面調整剥片と考えられるものがある。作業内容としては、石刃核の調整剥離、石刃剥離、石刃素材の搔器の製作などが推定される。ただし、石器点数及び接合資料が少数であるため、石器製作作業も小規模と考えられる。

頁岩2・接合資料30 (図Ⅵ-48:分布図のみ、図版44-342)

石刃2点(2個体)で構成され、総重量5.6gである。

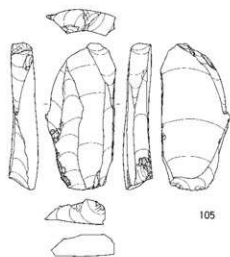
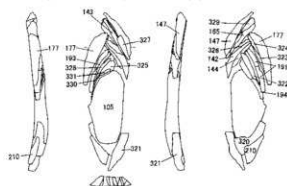
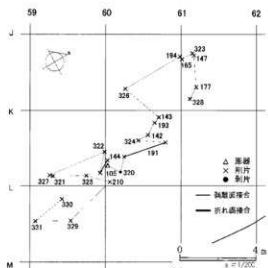
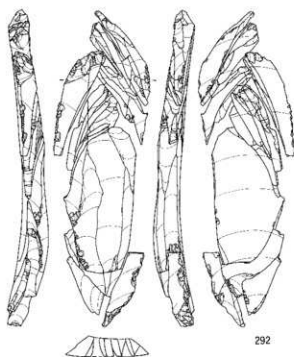
作業内容 石刃核から石刃剥離を行う。接合資料を構成する石刃の形状はやや不整である。上下を折損するため、打面形状や頭部調整の有無は不明である。石刃核は出土していない。

分布 SB-1南側の遺物集中範囲内のJ-60区、K-59区に分布する。

頁岩3 (図Ⅵ-49)

頁岩3は総点数48点、総重量131.4gである。彫器4点、搔器2点、二次加工ある剥片2点、石刃2点、縦長剥片7点、剥片27点、細片4点で構成される。頁岩3は暗褐色と暗灰色が斑状に混ざる模様を基調とし、比較的珪質分に富む点の特徴である。接合資料は、5個体(掲載2個体)である。内訳は、彫器・搔器・石刃・縦長剥片の接合(1個体)、彫器と石刃の接合(1個体)、剥片の接合(3個体)である。また、剥片の接合資料の中には石刃核の打面調整剥片と考えられるものがある。ただし石刃核は出土していないため、作業後遺跡外に搬出されたと考えられる。作業内容としては、石刃核ないし石核の調整剥離、石刃・縦長剥片の剥離、石刃素材の彫器・搔器の製作などが推定される。石器点数及び接合資料が少数であるため、作業は小規模なものと考えられる。

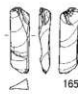
頁岩1・接合25



105



177



165



194



210



144



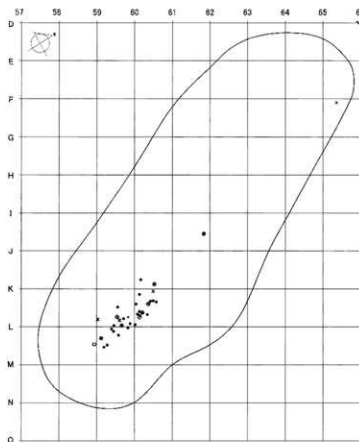
191



193

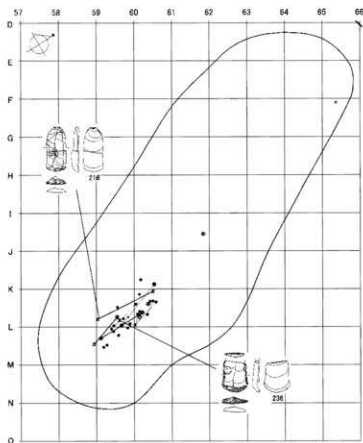
図Ⅵ-47 頁岩1・接合25

頁岩2



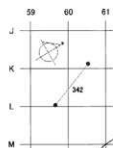
遺物分布図

- × 断片
- × 漆器
- 二次加工ある断片
- ⊙ 石刀
- 磨製断片
- 断片



遺物接合分布図

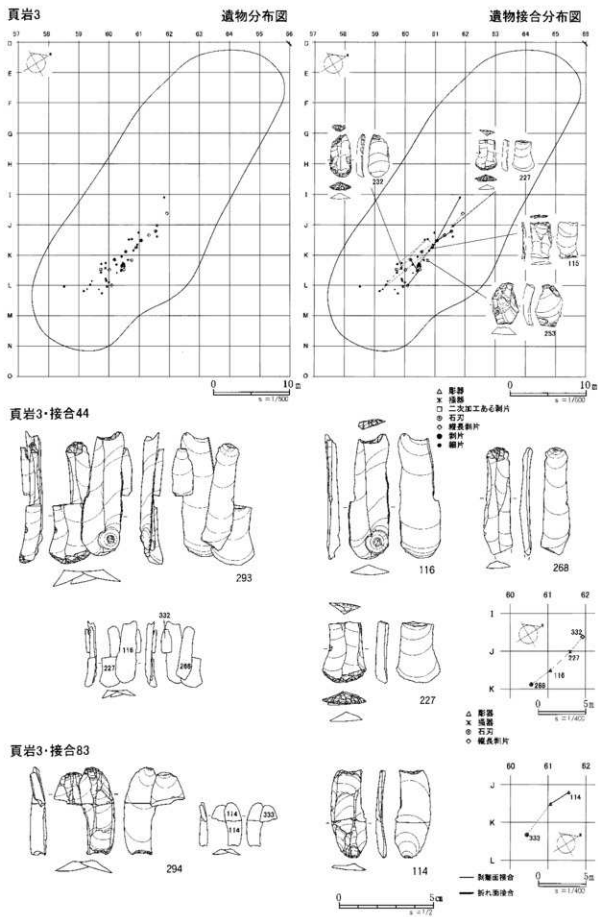
頁岩2・接合30



- ⊙ 石刀
- 断片接合
- 断片接合



図VI-48 頁岩2分布図



図VI-49 頁岩3分布図、頁岩3・接合44、83

頁岩3・接合資料44 (図Ⅳ-49、図版42)

彫器1点(1個体)、搔器1点(1個体)、石刃1点(1個体)、縦長剥片1点(1個体)で構成され、総重量18.0gである。縦長剥片は形状から分類したものである。

作業内容 石刃核から石刃剥離を行う。116の石刃剥離後に打面調整が行われ、268の打面は116より大きく下がっている。打点部が残るものに関しては頭部調整が認められる。石刃核は出土していないが、116の背面には末端部側からの石刃剥離痕がみられるため、両設打面の石刃核と考えられる。また、剥離した石刃を素材として彫器(116)、搔器(227)が製作される。

分布 SB-1南側のI-61区、J-60・61区に分布する。

頁岩3・接合資料83 (図Ⅳ-49、図版42)

彫器2点(1個体)、石刃1点(1個体)で構成され、総重量5.3gである。

作業内容 石刃核から彫器(114)の素材となる石刃を剥離した後、打面調整及び頭部調整が行われ、再び石刃を剥離する。また、剥離した石刃を素材として彫器(114)が製作される。

分布 SB-1南側の遺物集中範囲内のJ-61区、K-60に分布する。

石質分類外の頁岩の接合資料 (図Ⅳ-50~53、図版43・44)

石質分類外とした頁岩の総点数は467点、総重量865.8gである。細石刃110点、細石刃核6点、彫器23点、削片165点、搔器1点、削器4点、錐形石器2点、二次加工ある剥片3点、石刃9点、剥片60点、細片84点と多く、細石刃・細石刃核といった細石刃製作に関わる資料と削片・彫器といった彫器製作に関わる多くの資料が石質分類外になっている。細石刃や削片は小型で、色調や模様も特徴的なものが少なく石質分類が困難であり、細石刃核・彫器に関しては、それぞれ色調・珪質分等の特徴が大きく異なり、多くが単体で搬入されたと考えられる。ここではこれらの石質分類外の接合資料をまとめて掲載した。頁岩の石質分類外接合資料は21個体(図示10個体、分布図・写真のみ掲載5個体)である。内訳は細石刃の接合(1個体)、彫器と削片の接合(6個体)、彫器・削片・剥片・細片の接合(1個体)、彫器と細片(1個体)、削片の接合(12個体)である。全体的に彫器と削片の接合及び削片の接合資料が主体で、それ以外のものは少ない。

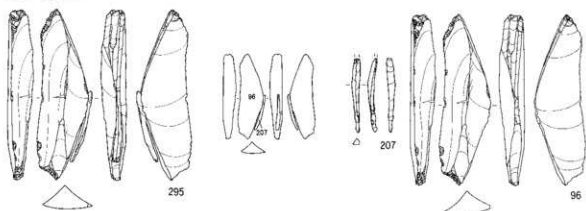
彫器と削片の接合資料 (図Ⅳ-50・51、図版43)

接合23・47・26・32・34・35が該当する。分布はSB-1南側に集中する。**接合23**と**接合47**は細石刃核と彫器が複合するものである。**接合23**は下端部にノッチ状の打面を作り出し、右側縁下部に削片剥離を複数回行う。207の削片剥離後には右側縁上部で細石刃剥離を行っている。**接合47**は下部部に交叉刃型の彫刀面を作り出している。**接合26**は上部と下部に交叉刃型の彫刀面を作り出したもので、上部は左側縁と右側縁で交互に削片剥離を行う。**接合32**は左側縁上部で削片剥離を行った後、裏面側から連続した急角度の加工を施している。**接合34**は上下に彫刀面を作り出すもので、右側縁の上部で調整打面から削片剥離を行った後、下部から削片剥離を行う。**接合35**は側縁に連続した加工を施した後、左側縁に折れ面を打面とした削片剥離を2回以上行う。

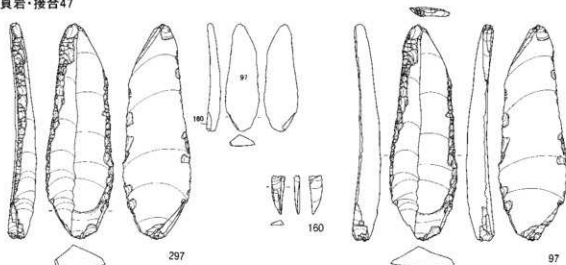
削片の接合資料 (図Ⅳ-52・53、図版44)

接合24・33・87は実測図掲載のもので、分布はSB-1南側の集中域のものがほとんどである。**接合24**は側型型の彫器削片の接合資料である。素材側縁には部分的に細かい加工がみられる。上下で削片剥離を行うが、末端部が階段状になるものが多い。また、打面調整により189の打面は大きく下がっている。**接合33**は幅広い削片剥離後に、細く短い削片剥離が施される。**接合87**は、初期は石器長軸に並行して削片剥離が行われるが、途中から剥離軸が傾き、彫刀面は斜刃気味になる。**接合27・31・36・48・65**は分布図と写真のみ掲載のものである。いずれも削片2点の接合である。**接合27**(343)は

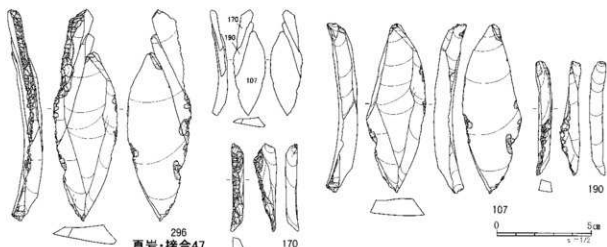
頁岩・接合23



頁岩・接合47



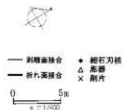
頁岩・接合26



頁岩・接合23

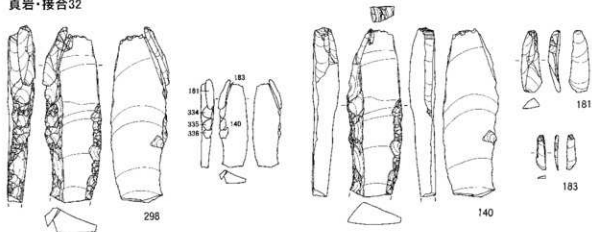


頁岩・接合26

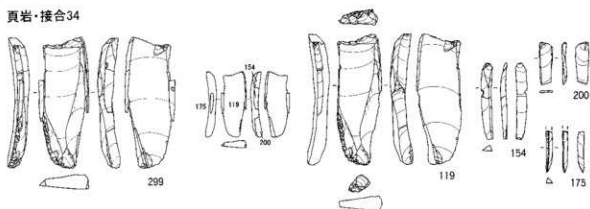


図Ⅴ-50 頁岩石質分類外資料・接合23、47、26

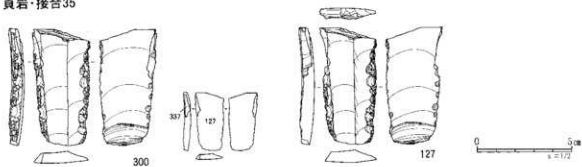
頁岩・接合32



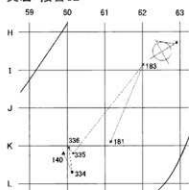
頁岩・接合34



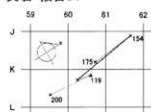
頁岩・接合35



頁岩・接合32



頁岩・接合34

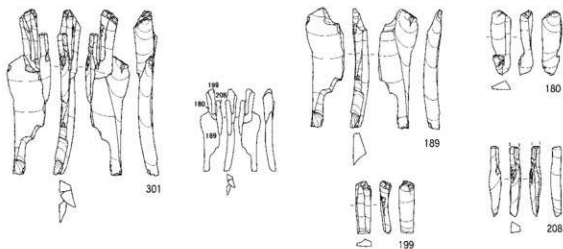


頁岩・接合35

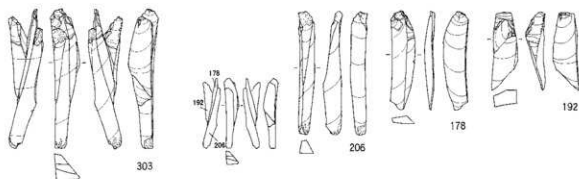


図VI-51 頁岩石質分類外資料・接合32、34、35

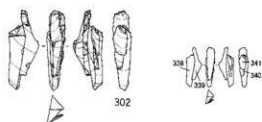
頁岩・接合24



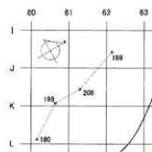
頁岩・接合87



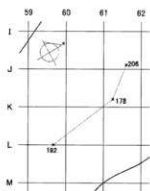
頁岩・接合33



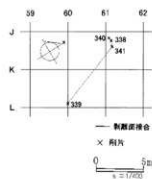
頁岩・接合24



頁岩・接合87



頁岩・接合33



図Ⅵ-52 頁岩石質分類外資料・接合24、87、33

先行する削片剥離後に、削片剥離面から細かい急角度の加工が施される。接合31(344)は先行する削片剥離は腹面側に傾き、次は背面側に傾く。接合36(345)は先行する削片剥離は腹面側に傾き、次はほとんど傾きがみられない。接合48(346)は素材の側縁が残り、側縁には軽微な加工がみられる。接合65(347)は幅広く厚い削片剥離後に、薄く幅の狭い削片が剥離される。

石刃の接合資料(図Ⅵ-53、図版44)

接合45(304)は彫器1点(1個体)、石刃3点(2個体)で構成され、総重量46.2gである。大型の石刃2点が接合したもので、共に頭部調整がみられる。この接合資料以外に同一石質と考えられる石刃、剥片等がみられないため、この状態で遺跡内に搬入された可能性が高い。264の上部は折れ面から桶状剥離痕がみられるため彫器としたが、折れた時の剥離の可能性がある。

3) 珪化岩

SB-1に関連する石器の中で、珪化岩製の石器は総点数392点、総重量917.1gである。その内、石質別資料として、325点(82.5%)、908.2g(99.0%)の石器を抽出した。石質は、色調、珪質の度合い、模様や接合状況などから大きく4種類に分けた。ただし、珪化岩は同一石質としたものの中でも特に模様や変異が著しく、同一石質内に複数の母岩を含む可能性がある。珪化岩1は全体の約7割を占めるもので、石質は灰白色を基調に褐色～赤褐色の模様が縞状に入るものである。珪化岩2は全体の約3割弱で、石質は透明度の低い白色部を基調とし、暗褐色～赤褐色の模様が縞状及び不定形状に入るものである。珪化岩3・4は4点ずつと少量だが、それぞれ特徴のあるものである。珪化岩1・2については剥片各1点ずつについて、岩石名の同定のために、岩石学的分析を行っている。その結果、「珪化岩」と判定された(第Ⅲ章5参照)。

珪化岩1(図Ⅵ-54～56)

珪化岩1は総点数223点、総重量733.2gである。彫器12点、削片23点、搔器10点、両面調整石器1点、削器1点、錐形石器7点(内ブロック外1点)、二次加工ある剥片8点、石刃8点、縦長剥片21点、剥片117点、細片15点で構成される。珪化岩の石質別資料の中では、点数が最も多く、彫器、搔器、錐形石器などツールが多くみられる点の特徴であるが、前述したように珪化岩1は複数の母岩が含まれる可能性がある。接合資料は24個体(掲載3個体)である。内訳は、彫器と削片の接合(1個体)、彫器・錐形石器・縦長剥片の接合(1個体)、彫器と縦長剥片の接合(1個体)、削片の接合(2個体)、搔器と石刃の接合(1個体)、縦長剥片と二次加工ある剥片の接合(1個体)、縦長剥片の接合(2個体)、剥片と二次加工ある剥片の接合(1個体)、剥片の接合(14個体)である。接合資料の個体数は多いが、それぞれの接合点数は2～5点と少ない。作業内容としては、剥片及び縦長剥片の接合資料個体数が多く、彫器や搔器と縦長剥片などとの接合資料も少量みられるため、剥片及び縦長剥片の剥離及びそれらを素材とした彫器・搔器等の製作などが推定される。対応する石質の石核は出土していないため、遺跡外に搬出されたと考えられる。

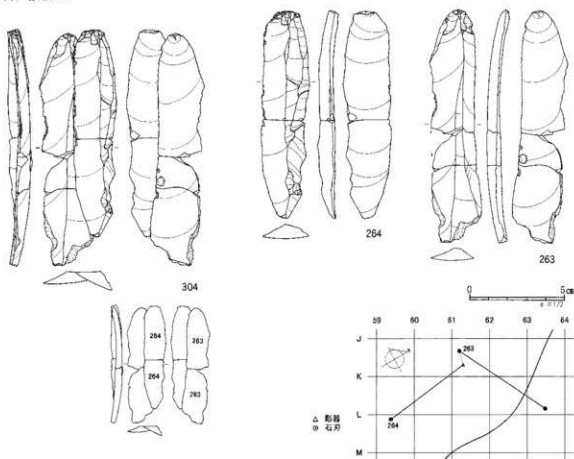
珪化岩1・接合資料38(図Ⅵ-56、図版45)

彫器1点(1個体)、削片2点(2個体)で構成され、総重量10.3gである。

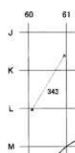
作業内容 石核から縦長剥片剥離を複数回行う。その縦長剥片を素材とし、折れ面を打面として右側縁に削片剥離を行い、側刃型の彫器(131)を製作する。下端部にも腹面から急角度の加工による打面を作出し、削片剥離を行っている。また、別の削片(350)が131と剥離面接合しているため、同様の作業がもう1個体行われたと考えられる。石核は出土していない。

分布 SB-1南側の遺物集中範囲内のK-60区、L-59区に分布する。

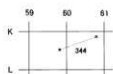
頁岩・接合45



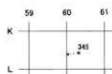
頁岩・接合27



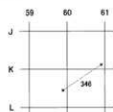
頁岩・接合31



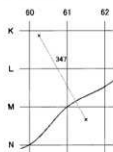
頁岩・接合36



頁岩・接合48



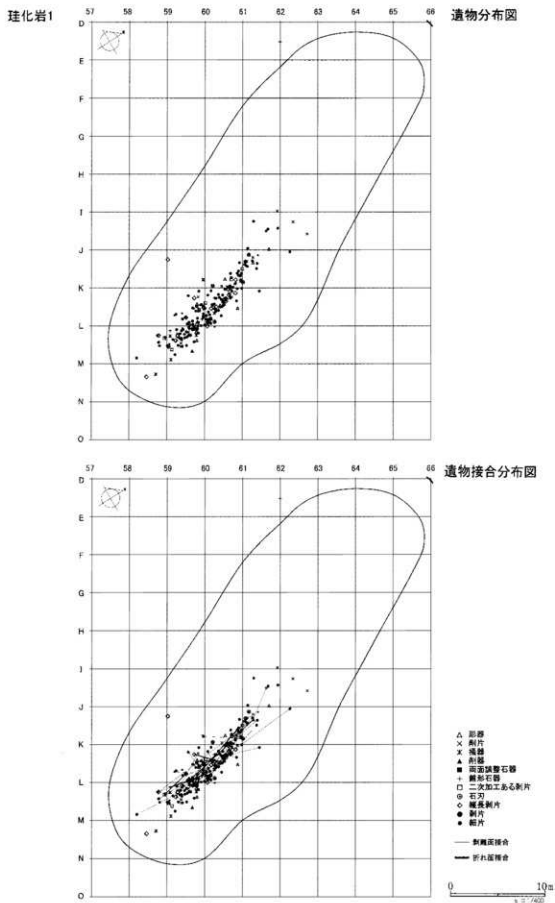
頁岩・接合65



— 割離面接合
— 折れ面接合
× 断片

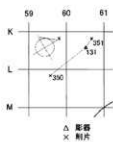
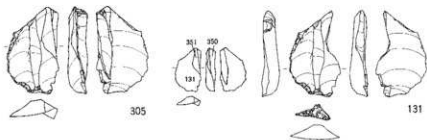


図Ⅵ-53 頁岩石質分類外資料・接合45、27、31、36、48、65

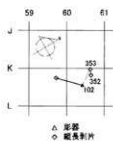
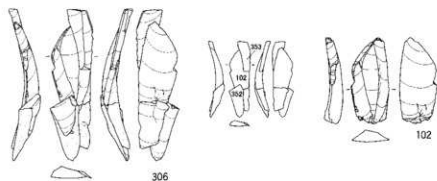


図VI-54 珪化岩1分布図(1)

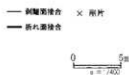
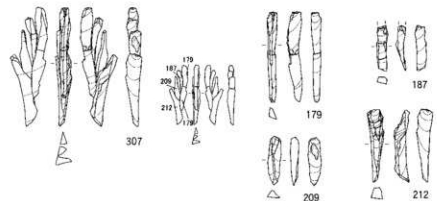
珪化岩1・接合38



珪化岩1・接合43



珪化岩1・接合41



図VI-56 珪化岩1・接合38、43、41

珪化岩 1・接合資料43 (図Ⅳ-56、図版45)

素材 彫器1点(1個体)、縦長剥片3点(3個体)で構成され、総重量10.3gである。

作業内容 石核から縦長剥片剥離を複数回行う。剥離した縦長剥片の右側縁に細かい加工を施し、それを打面として削片剥離を行い、斜刀型の彫器を製作している。素材の末端側は素材の剥離時に折損したと考えられる。石核は出土していないが、接合資料に残る原礫面の形状から、垂円礫を素材とした石核と考えられる。

分布 SB-1南側の遺物集中範囲内のK-59区、K-60区にまとまって分布する。

珪化岩 1・接合資料41 (図Ⅳ-56、図版45)

削片4点(3個体)で構成され、総重量4.4gである。

作業内容 大型の石刃ないし縦長剥片の左側縁で削片剥離による彫器の製作を行っている。削片の打面は調整打面である。削片の接合状況は、個体ごとに打面の位置が下がっているため、頻繁な打面調整が行われたと考えられる。削片と接合する彫器は出土していない。

分布 SB-1南側の遺物集中範囲内のJ-61区、K-60区にまとまって分布する。

珪化岩 2 (図Ⅳ-57)

珪化岩2は総点数94点、総重量165.0gである。縦長剥片3点、剥片79点、細片12点(内1点ブロック外)で構成される。珪化岩1の器種組成と異なり、剥片主体でツール類がみられない点特徴である。接合資料は3個体(未掲載)で、全て剥片2~3点の接合である。珪質分が低く、多数の節理面がみられ剥片も剥離時に細かく破碎しているものが多い。作業内容としては、剥片剥離が主体と考えられるが、石器素材に適する剥片がほとんどみられないため、ツールの製作は行われていない可能性が高い。

珪化岩 3・4 (図Ⅳ-57)

珪化岩3は総点数4点、総重量6.1gで、剥片4点で構成される。珪化岩4は総点数4点、総重量3.9gで、剥片4点で構成される。共に少量の剥片のみで構成される石質別資料である。珪化岩3の石質はすりガラス状の透明部を基調とし、黄褐色の不定形の模様がわずかにみられるものである。珪化岩4は黄褐色がかかった白色部を基調とし、茶褐色の不定形の模様がみられるものである。共に点数が少ないため、作業内容は不明だが、珪化岩4の剥片の中にはポイントフレイク状のものがあるため、珪化岩4は両面調整石器製作に関わる可能性がある。

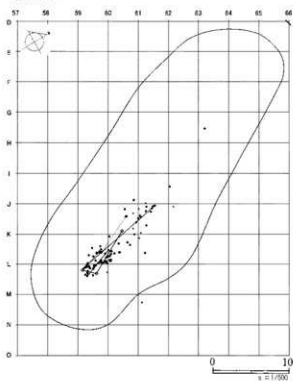
4) 凝灰岩

SB-1に関連する石器の中で、凝灰岩製の石器は総点数131点、総重量152.5gである。凝灰岩は他の石材・石質と分離性が高いため、全点石質別資料として抽出した。石質は1種類(凝灰岩1)のみである。凝灰岩1は特徴的な石質で、接合点数も多いため、同一母岩資料といえるものである。色調は緑灰色を基調とし部分的に黄褐色がみられる。また、全体に濃い緑色の模様が葉脈状に入る。珪質分が高く、肉眼観察では頁岩に近い石質である。凝灰岩1については、岩石名の同定のために、剥片1点の岩石学的分析を行っている。その結果「酸性凝灰岩」と判定された(第Ⅳ章5参照)。

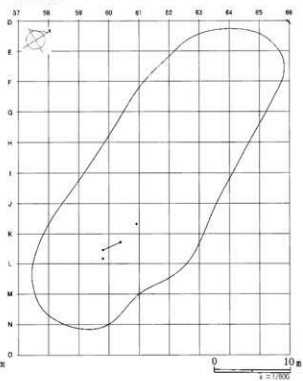
凝灰岩 1 (図Ⅳ-58・59)

凝灰岩1は総点数131点、総重量152.5gである。両面調整石器1点、二次加工ある剥片1点、剥片87点(内1点ブロック外)、細片41点、斧形石器1点で構成され、全て同一個体の資料と判断される。接合資料は3個体(掲載1個体)である。内訳は、両面調整石器・二次加工ある剥片・斧形石器・剥片・細片の接合(1個体)、剥片の接合(2個体)である。作業内容としては、斧形石器の製作、両

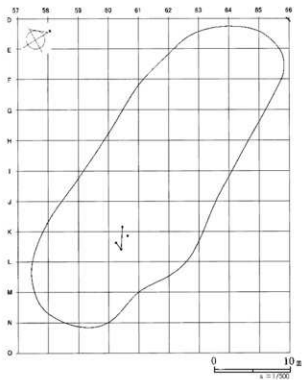
珪化岩2



珪化岩3



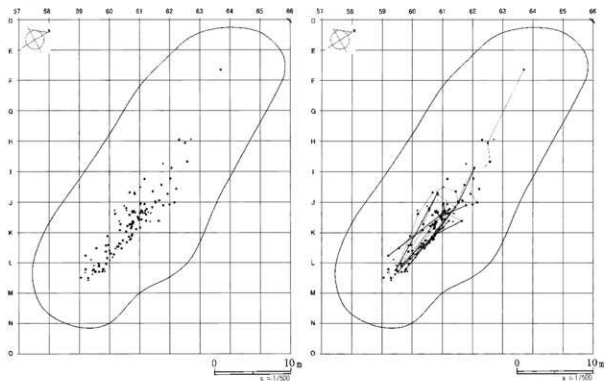
珪化岩4



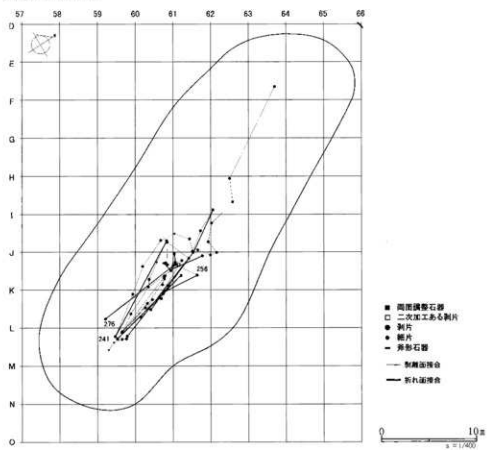
- 塊状断片
- 断片
- 断片
- 割罫面境界
- 折れ罫境界

図VI-57 珪化岩2~4分布図

凝灰岩1



凝灰岩1・接合61



図Ⅵ-58 凝灰岩1分布図、凝灰岩1・接合61(1)

面調整石器の製作が行われている。

凝灰岩 1・接合資料61 (図Ⅵ-58・59、図版45)

両面調整石器1点(1個体)、二次加工ある剥片1点(1個体)、剥片53点(41個体)、細片7点(6個体)、斧形石器1点(1個体)で構成され、総重量127.0gである。斧形石器の最終加工段階で遺跡内に搬入されている。

作業内容 斧形石器の製作段階(段階1・2)と、両面調整石器の製作(段階3)に大きく分かれる。斧形石器の製作は、最初に表面右側縁下部の剥離を行い形状を整え(段階1)、次に刃部を中心とした研磨を両面に施す(段階2)。その後、刃部付近で折損したため、基部側を素材として主に両側縁から連続する平坦剥離により両面調整石器(276)の製作を行う(段階3)。この時剥離されたポイントフレイク状の剥片に二次加工を施すものがある(256)。この段階3の途中で両面調整石器が折損し、短い上部側は遺跡内に遺棄し、下部は再加工を行い遺跡外に搬出している。折損した両面調整石器は接合状況から長さ約12cm、厚さ約3cm、断面形が凸レンズ状の細長い形状のものと考えられ、両面調整石器というより尖頭器の製作を目的としていた可能性がある。

分布 SB-1中央～南側にかけて広がっている。

5) 泥岩

SB-1に関連する石器の中で、泥岩製の石器は総点数45点、総重量45.3gで、剥片及び細片で構成されツール類はみられない。その中で、色調、模様などから石質を大きく3種類に分けた。泥岩は特徴的で大別しやすいものが主体であったため、全点石質別分類を行っている。点数別の割合では泥岩1が約70%を占め、次いで泥岩2が約25%、泥岩3が約4%となる。泥岩1～3の剥片・細片の背面に研磨痕と考えられる擦り面(擦痕)をもつものが含まれ、これらは斧形石器の調整剥片と考えられる。そのため、泥岩1～3の作業内容は、主として斧形石器の調整剥離が小規模に行われたと推測される。また、各石質に対応する斧形石器は出土していない。

泥岩 1 (図Ⅵ-60)

泥岩1は総点数31点、総重量31.9gである。剥片27点、細片4点で構成される。大型の剥片は平坦剥離による薄身のものが多い。接合資料はない。31点中7点の剥片・細片に擦痕が観察され、擦り面は平滑で光沢がみられる。泥岩1の色調は灰～極暗灰色で、特に擦り面では灰色と極暗灰色部分が比較的明瞭に分かれる。また、作業内容としては、擦痕のある剥片・細片が含まれることから、斧形石器の調整剥離を行っている可能性が高い。

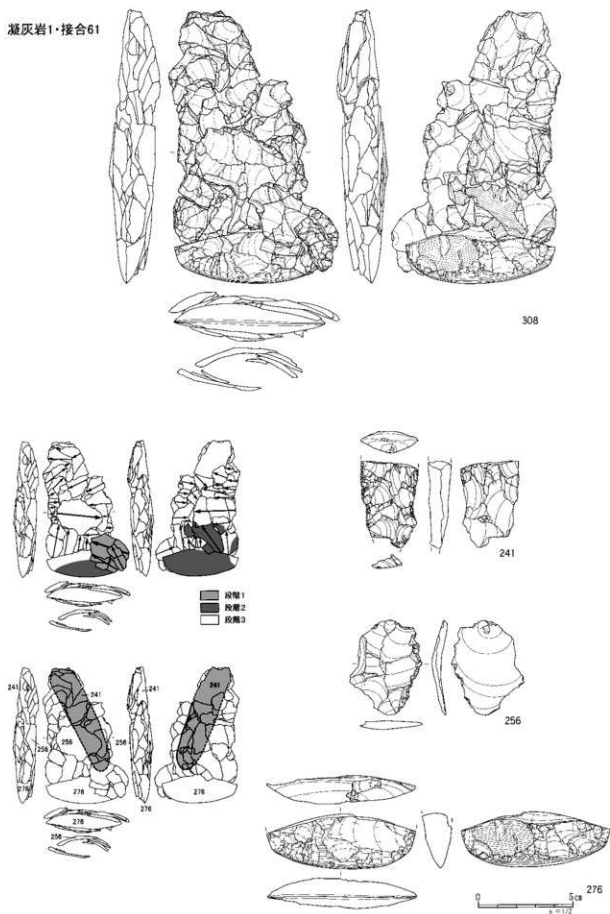
泥岩 2 (図Ⅵ-60)

泥岩2は総点数12点、総重量11.0gである。剥片7点、細片5点で構成され、剥片は小型のものが多い。接合資料は1個体(未掲載)で、剥片2点の接合である。12点中9点の剥片・細片に擦痕が観察され、擦痕は平滑だがやや粗く、細かい凹凸を残す。泥岩2の色調は濃緑色である。作業内容は、擦痕のある剥片・細片が含まれることから、斧形石器の調整剥離を行っている可能性が高い。

泥岩 3 (図Ⅵ-60)

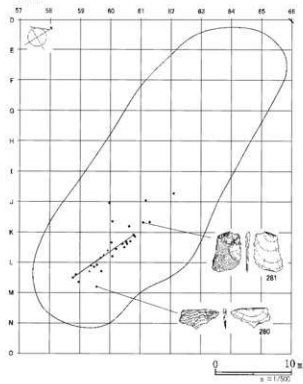
泥岩3は総点数2点、総重量2.4gで、全て小型の剥片である。接合資料はない。泥岩3の色調は薄い灰色を呈する。2点共に背面に擦痕があり、擦痕は平滑だがやや粗く、細かい凹凸を残す。作業内容としては、擦痕のある剥片の存在から斧形石器の調整剥離を行っている可能性が高い。

凝灰岩1・接合61

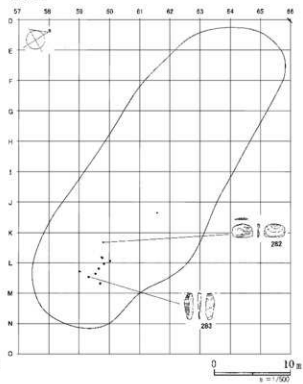


図Ⅵ-59 凝灰岩1・接合61(2)

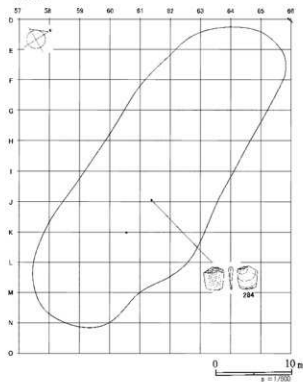
泥岩1



泥岩2



泥岩3



- 製片
- 破片
- 割線調査点
- 採石区境界

図VI-60 泥岩1～3・粘板岩分布図

4. SB-2

(1) 位置・地形・分布 (図Ⅴ-61)

位置 D-62～64, E-63・64, F-62～64, G-62～64, H-61～63, I-61～63

地形 南から北に緩やかに下る斜面に位置している。標高は約14～14.5mである。

分布 遺物分布範囲の平面形は南北約20m、東西約9mを測り、南北の斜面方向にやや長く広がっている。遺物の平面分布は南東側のH-63、I-63区にややまとまりがみられる。垂直分布では多少の上下はあるが、ほぼ水平に分布する。層位的には、Ⅴ層上面～Ⅷ層中位にかけて出土している。層位別の点数は23点中、Ⅴ層8点(34.8%)、Ⅵ層6点(26.1%)、Ⅶ層9点(39.1%)である。層位別の重量は8.9g中、Ⅴ層3.3g(37%)、Ⅵ層3.2g(36%)、Ⅶ層2.4g(27%)である。点数・重量共に、出土層位の偏りはほとんどみられない。器種別にみると、細石刃がⅦ層からの出土点数が多く、削片はⅥ層からの出土がやや多い。

(2) 石器・石材組成

総点数23点、総重量8.9gの石器類が出土した。点数の内訳は、細石刃19点、削片4点である。取上げ別の内訳は、点取り遺物は22点、一括遺物は1点である。石材は黒曜石のみである。器種別の分布は、細石刃がSB-2範囲内の中央～南側に多く、削片は中央～北側にかけてみられる。被熱石器、原稜面の残存する石器はない。

接合状況 石器ブロック範囲内での接合が多いが、SB-2北西側のブロック外出土の石器との接合関係も認められる。細石刃の接合が多く、H・I-63区を中心とした接合関係がみられる。削片2点(内1点グリッド一括)はブロック外(B-61区)出土の細石刃核と接合している。

(3) 出土した石器類

細石刃 (図Ⅴ-61-1～17、図版46)

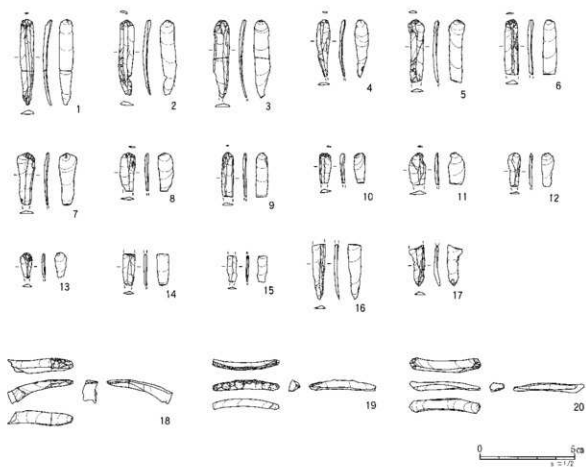
19点(折れ面接合の結果17個体)出土し、全て図示している。石材は全て黒曜石である。幅広で、側縁は直線状のものが多く、打面は比較的大きい点特徴的である。幅は5～9mmで、その中では7～9mmのものが多く、多くが折損品で、長さは不明なものが多いが、最大のもので45mmを測る。1～4は完形ないしほぼ完形のもの、5～13は頭部、14・15は中間部、16・17は末端部である。2・3・5・7・8・17は背面に細石刃核の側面を取り込むものである。

削片 (図Ⅴ-61-18～20、図版46)

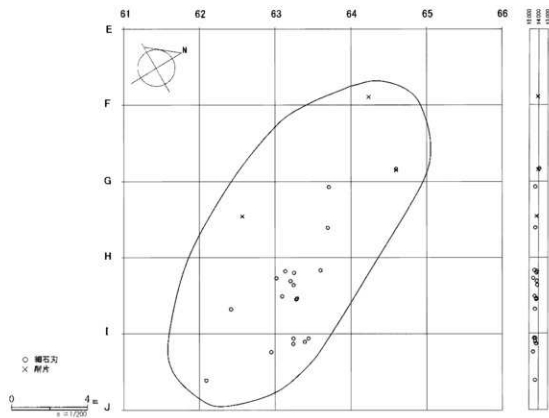
4点(3個体)出土し、全て図示している。石材は全て黒曜石である。18～20は石刃を素材とした峠下型細石刃核から剥離された削片である。19は1次削片で、打面側をわずかに折損する。上縁には、素材腹面側から細かい連続的な加工が施される。18・20は上面に先行する削片剥離がみられる二次削片である。18は末端部側を折損する。先行する削片剥離後、打面部付近に素材の腹面側から背面(細石刃核の甲板面)へ調整剥離が施される。20は先行する削片剥離後、打面部付近に打面側からの細かい調整剥離が行われている。

(4) 石質別資料・接合資料 (図Ⅴ-63～65)

SB-2出土の石器類23点を、黒曜石の特徴の違いや接合資料を基に、全ての石器について石質別分類を行った。分類方法等は、SB-1と同様である。また、ブロック外出土などの石器類からも石

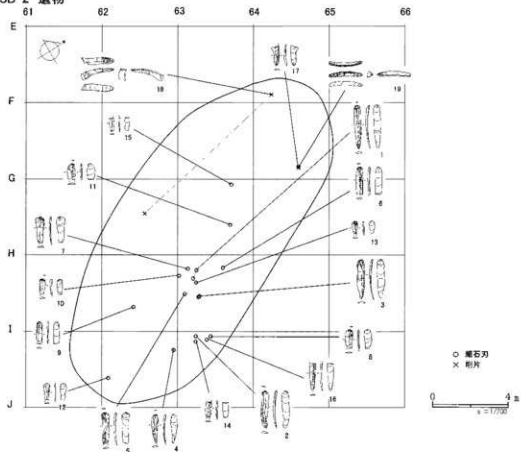


SB-2 分布図

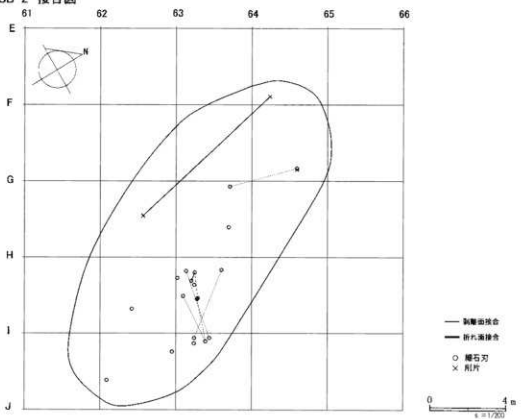


図VI-61 SB-2の石器・分布図(1)

SB-2 遺物



SB-2 接合図



図VI-62 SB-2の遺物・分布図(2)

材、石器の形状ほかからSB-2に伴う石器類として4点を抽出した。よって、SB-2に関連する遺物総点数は27点、総重量は21.2gで、全ての石器について石質別分類を行った。

黒曜石の石質は3種類（黒曜石9～11）を設定した。黒曜石の石質分類番号は、黒曜石1～8・12がSB-1関連の黒曜石が該当するため、「黒曜石9～11」となる。石質の分類基準は表Ⅵ-10に示した。また、接合作業の結果、折れ面接合5例、剥離面接合5例が得られた。接合に関わる点数は19点（折れ面接合のみ4点、剥離面接合15点）で、SB-2関連の遺物総点数27点に対し、70.3%の接合率である。接合資料は全5個体内、4個体を図示した。また、ブロック外の石器でもSB-2関連のものに関してはここで取上げている。

1) 黒曜石

SB-2関連の石器類は全て黒曜石製で、総点数27点、総重量21.2g出土している。黒曜石は透明度が高く、SB-1の黒曜石のように球果が入るものはみられない。黒曜石9は黒色に赤色が混じる特徴的なものである。黒曜石10・11は類似しており、共に比較的透明度が高く、黒色部と透明部の境界があいまいなものである。黒曜石9～11に関しては、各石質から1点ずつ抽出し、黒曜石原産地推定を行ったところ、全て白滝産という結果が出ている（第Ⅲ章4参照）。そのためSB-2に関連する石器は、ほとんどが白滝産黒曜石を使用している可能性が高い。

黒曜石9（図Ⅵ-64）

黒曜石9は総点数19点、総重量5.6gで、全て細石刃である。黒曜石9の石質は黒色に赤色が混じる特徴的なものである。平面分布はSB-2の範囲内のほぼ全体に広がるが、H・I-63区でややまとまっている。接合資料は、4個体（掲載3個体）で、全て細石刃の接合資料である。これらは細石刃の形状などの特徴が類似しており、同一の細石刃核から剥離されたものと考えられる。接合資料などから打面と作業面の角度は60度前後をなす。また、細石刃核の両側面を取り込んだ細石刃の観察から、両側面に大きな調整が施された細石刃核と推測される。また、打面の観察から、打面形成時の剥離方向が作業面側からではなく側面方向で、打面のリングが大きく、平坦な点特徴である。これらから、細石刃核の母型は船底型石器であったことが復元でき、細石刃剥離は襜加型細石刃核によって行われた可能性が高い。対応する細石刃核は出土していないため、細石刃剥離後、遺跡外に搬出されたと考えられる。

黒曜石9・接合資料90（図Ⅵ-64、図版46）

細石刃6点（4個体）で構成され、総重量2.2gである。

作業内容 細石刃核から、細石刃を複数回剥離する。細石刃は細石刃核の右側面を取り込んでいる。

分布 SB-2範囲内南西側のH・I-63区にまとまって分布する。

黒曜石9・接合資料91（図Ⅵ-64、図版46）

細石刃2点（2個体）で構成され、総重量0.6gである。

作業内容 細石刃核から、細石刃を複数回剥離する。細石刃は細石刃核の左側面を取り込んでいる。

分布 SB-2範囲内南西側のH・I-63区に分布する。

黒曜石9・接合資料12（図Ⅵ-64、図版46）

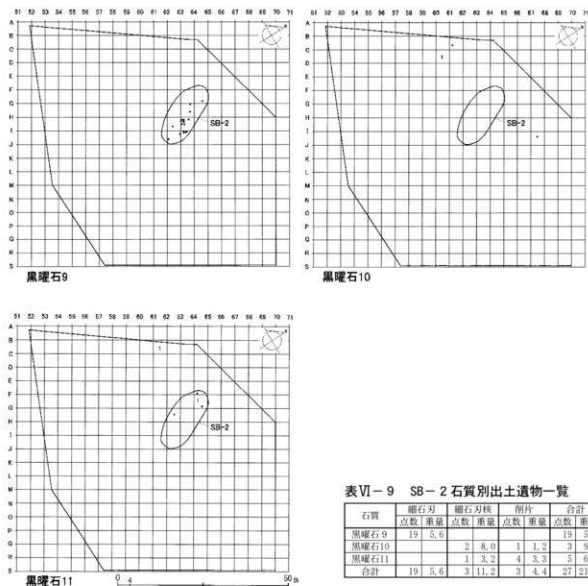
細石刃2点（2個体）で構成され、総重量1.2gである。

作業内容 細石刃核から、細石刃を複数回剥離する。細石刃は細石刃核の右側面を取り込んでいる。

分布 SB-2範囲内南西側のH・I-63区に分布する。

黒曜石10（図Ⅵ-65）

黒曜石10は総点数3点、総重量9.2gで、接合資料はなく、細石刃核2点（1個体）、削片1点（1



図Ⅵ-63 SB-2石質別分布図

表Ⅵ-9 SB-2石質別出土遺物一覧

石質	細石刃		細石片核		削片		合計	
	点数	重量	点数	重量	点数	重量	点数	重量
黒曜石9	19	5.6					19	5.6
黒曜石10			2	8.0	1	1.2	3	9.2
黒曜石11			1	3.2	4	3.3	5	6.4
合計	19	5.6	3	11.2	5	4.4	27	21.2

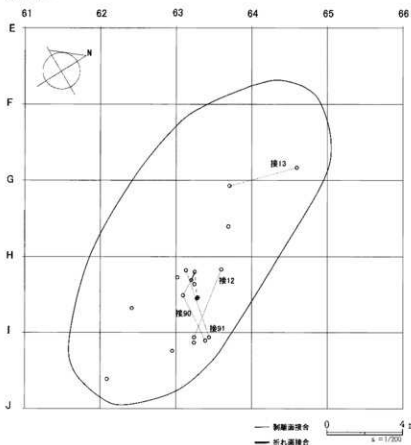
表Ⅵ-10 SB-2出土黒曜石石質分類一覧

石質名	色調	透明度	球果の大きさ	球果の量	流理(色)	流理(形状)	流理(境界)	原礫面	分析№	原産地推定結果
黒曜石9	黒・茶	高い	なし	なし	黒・赤	不定形	明瞭	無し	12	白滝
黒曜石10	黒色	やや低い	なし	ない	なし	なし	なし	無し	13	白滝
黒曜石11	青みのある黒	高い	なし	なし	黒	斑状	非常に不明瞭	無し	14	白滝

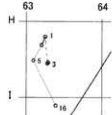
表Ⅵ-11 頁岩・珪化岩・凝灰岩・泥岩石質分類一覧

石質名	色調	種類	透明度	珪質度	原礫面	分析№
頁岩1	灰色	部分的に灰白色及び暗灰色が斑状に入る	弱	弱	×	—
頁岩2	茶褐色～暗褐色	特になし	中	中	×	2
頁岩3	暗褐色～暗灰色	暗灰色が斑状に入る	弱	中	×	3
珪化岩1	灰白色・褐色・赤褐色	褐色・赤褐色が綿状に入る	高	高	○	4
珪化岩2	灰白色・赤褐色	赤褐色が綿～不定形状に入る	高	高	○	5
珪化岩3	黄褐色	黄褐色が不定形状に入る	非常に高	高	×	—
珪化岩4	黄褐色・灰白色	黄褐色が綿～不定形状に入る	高	高	×	—
凝灰岩1	緑灰色・黄褐色	濃緑色が葉脈状に入る	弱	中	×	1
泥岩1	灰色・極暗灰色	極暗灰色が綿状に太く入る	なし	なし	×	—
泥岩2	濃緑色	特になし	なし	なし	×	—
泥岩3	薄い灰色	部分的に暗灰色が斑状に入る	なし	なし	×	—

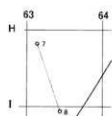
黒曜石9



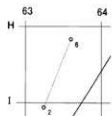
黒曜石9・接合90



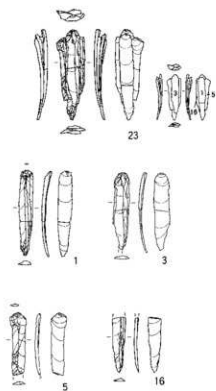
黒曜石9・接合91



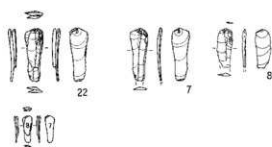
黒曜石9・接合12



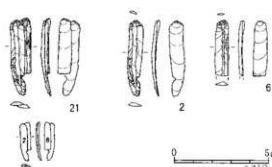
黒曜石9・接合90



黒曜石9・接合91

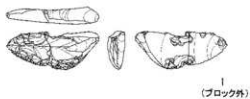
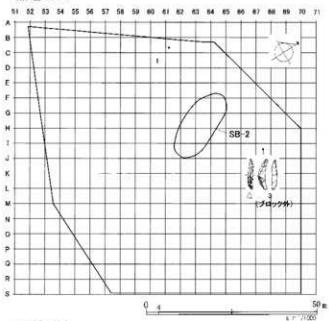


黒曜石9・接合12

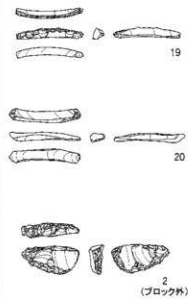
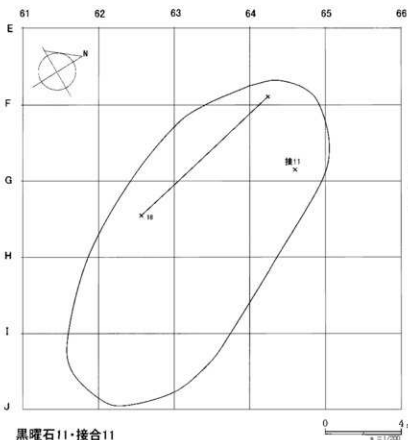


図VI-64 黒曜石9・接合12、90、91

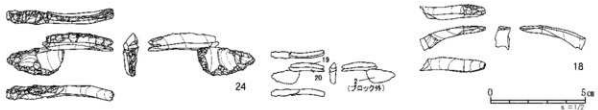
黒曜石10



黒曜石11



黒曜石11・接合11



図Ⅵ-65 黒曜石10、黒曜石11・接合11

個体)で構成される。黒曜石10は透明度が高く、透明部分に黒色部が薄い雲状にみられる石質で、黒曜石11と類似する石質である。平面分布はSB-2範囲外のB-61区、C-60区から細石刃核(ブロック外1)が出土し、I-67区から削片(ブロック外3)が出土している。全てブロック外出土だが、石質及び細石刃核の特徴などからSB-2と関連する石器と判断した。細石刃核と削片は接合していないため、別の母岩の可能性もある。作業内容は細石刃核の存在から細石刃剥離が行われた可能性がある。ただし、対応する石質の細石刃は出土していない。

黒曜石11 (図Ⅳ-65)

黒曜石11は総点数5点、総重量6.4gで、細石刃核1点(1個体)、削片4点(3個体)で構成される。黒曜石11は透明度が高く、透明部分に黒色部が薄い雲状にみられる石質で、黒曜石11と類似するが、黒色部がやや直線状になるため黒曜石10と分離した。石器の特徴及び接合関係から同一母岩の可能性が高い。平面分布はSB-2範囲内の北側に点在する。接合資料は、1個体で、細石刃核と削片の接合資料である。作業内容としては、削片剥離及び細石刃剥離が行われたと推測される。ただし、対応する石質の細石刃は出土していない。

黒曜石11・接合資料11 (図Ⅳ-65、図版46)

細石刃核1点(1個体)と削片2点(2個体)で構成され、総重量5.2gである。

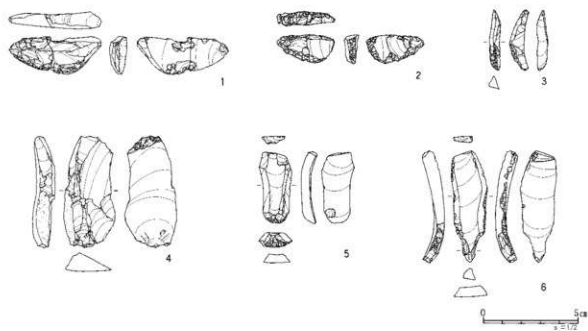
作業内容 主に上下縁に連続的な調整が施された細石刃核から、削片を2回剥離する。2回目の削片剥離の前には、打面側から細かい加工を施している。その後細石刃剥離を行い、細石刃核を遺棄している。また、18の削片は未接合だが、形態などの特徴は接合資料に類似している。

分布 細石刃核はB-61区出土で、削片2点はF-64区(内1点グリッド一括)から出土している。

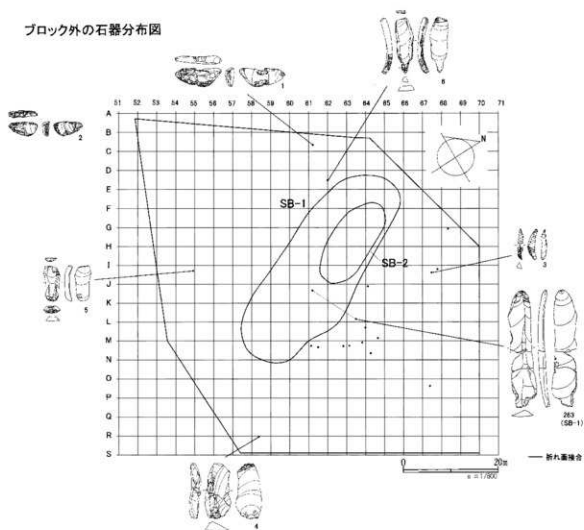
5. ブロック外の石器 (図Ⅳ-66、図版47)

ブロック外からは総点数22点、総重量75.6gの石器が出土している。内訳は細石刃1点、細石刃核3点(2個体)、彫器1点、削片5点、搔器1点、錐形石器1点、石刃2点、剥片5点、細片3点である。層位別ではⅤ層17点(68.6g)、Ⅵ層4点(4.0g)、Ⅶ層1点(3.0g)で、点数・重量共にⅤ層出土のものが多く、ブロック外の石器は、石材及びその石質や石器の形態の特徴、接合関係から、SB-1及びSB-2に伴うものに分けられる。SB-1に伴うものと判断した石器は18点で内訳は、細石刃1点、彫器1点、削片4点、搔器1点、錐形石器1点、石刃2点、剥片5点、細片3点である。SB-2に伴うと判断した石器は4点で、内訳は細石刃核3点、削片1点である。また、排土出土の剥片1点及び表剥の石刃1点、剥片2点はSB-1に伴うと考えられる。

1～3はSB-2に関連する石器で、石材は黒曜石である。1・2は峠下型細石刃核である。1は左側面の周縁部に急角度の加工が施されるもので、右側面の上下縁にも部分的に細かい加工がみられる。石刃を素材とし、細石刃剥離作業面は右側面に傾く。作業面の最大長は24mmで、最大幅は7mmである。2は主に左側面の周縁部に急角度の加工が施されるもので、上縁の加工は垂直に近い角度になる。素材は石刃の可能性はあるが、末端部にはわずかに原礫面を残している。細石刃剥離作業面は右側面に大きく傾く。作業面の最大長は15mmで、最大幅は7mmである。3は削片としたが、細石刃剥離の初期段階の剥片とも考えられる。4～6はSB-1に関連する石器である。4・5は黒曜石製、6は珪化岩製である。4は彫器である。原礫面を残す縦長剥片を素材とし、左側縁に彫刀面を作出し、その後上端部に彫刀面を切って背面側から細かい加工が行われる。5は搔器である。石刃を素材とし、末端部側に急角度の刃部を作出する。6は錐形石器である。石刃ないし縦長剥片の側縁に細かい加工がみられ、末端部に急角度の加工で尖頭部を作出する。(広田良成)



ブロック外の石器分布図



図VI-66 ブロック外出土の石器・分布図

表VI-12 掲載旧石器一覧(1) ※長さ・幅・厚さの単位は(mm)

陣岡	図号	図名	分類	石質	出土層	番号	グリップ	肩位	長さ	幅	厚さ	重量(g)	用途	調査者	備考
W-14	36	1	礫石片	黒曜石 6	SB-1	1297	L-59	M	23.0	7	2	0.27			
W-14	36	2	礫石片	黒曜石 6	SB-1	97	J-60	V	(14.0)	7	2	0.2			原産地分析№9
W-14	36	3	礫石片	黒曜石 6	SB-1	1967	L-59	M	(16.5)	7	2.5	0.22			継続
W-14	36	4	礫石片	黒曜石 7	SB-1	355	L-59	M	23.5	4.5	2	0.22			原産地分析№10
W-14	36	5	礫石片	黒曜石 7	SB-1	1673	K-60	M	19.0	5	2.5	0.18			原産地分析№7
W-14	36	6	礫石片	黒曜石 7	SB-1	988	K-60	M	(19.0)	5	2.5	0.17			
W-14	36	7	礫石片	黒曜石 6	SB-1	1100	J-60	M	(15.5)	4.5	2.5	0.1			
W-14	36	8	礫石片	黒曜石 6	SB-1	1405	K-60	M	(15.0)	4	1.5	0.1			二次加工あり
W-14	36	9	礫石片	黒曜石 6	SB-1	2016	K-60	M	(15.0)	5	2	0.12			
W-14	36	10	礫石片	黒曜石 6	SB-1	1948	L-59	M	(13.5)	5	1.5	0.1			
W-14	36	11	礫石片	黒曜石 7	SB-1	540	K-60	M	(17.5)	3.5	1.5	0.12			
W-14	36	12	礫石片	黒曜石 7	SB-1	477	K-59	M	(14.5)	4	1	0.07			
W-14	36	13	礫石片	黒曜石 7	SB-1	1214	J-61	M	(14.5)	3.5	1	0.05			
W-14	36	14	礫石片	黒曜石 8	SB-1	973	J-60	M	(12.0)	4	1	0.06			
W-14	36	15	礫石片	黒曜石 7	SB-1	423	K-59	M	(13.0)	3.5	1.5	0.08			
W-14	36	16	礫石片	黒曜石 7	SB-1	1377	K-59	M	(18.0)	6	2	0.17			
W-14	36	17	礫石片	黒曜石 6	SB-1	1176	I-61	M	15.0	5.5	1	0.12			原産地分析№8
W-14	36	18	礫石片	黒曜石 7	SB-1	323	L-58	M	(16.5)	5.5	2	0.21			
W-14	36	19	礫石片	黒曜石 7	SB-1	1092	J-60	M	(18.0)	4	2	0.13			
W-14	36	20	礫石片	黒曜石 7	SB-1	129	J-61	M	(18.0)	4	1	0.09			
W-14	36	21	礫石片	黒曜石 6	SB-1	1300	K-60	M	(17.0)	4	1	0.09			
W-14	36	22	礫石片	黒曜石 7	SB-1	1271	K-58	FV	(18.0)	4	2	0.09			
W-14	36	23	礫石片	黒曜石 6	SB-1	1168	I-61	M	(13.0)	3.5	1.5	0.08			
W-14	36	24	礫石片	黒曜石 7	SB-1	631	J-60	M	(13.5)	3.5	1	0.07			
W-14	36	25	礫石片	黒曜石 6	SB-1	939	K-60	M	(12.0)	4	1.5	0.06			
W-14	36	26	礫石片	黒曜石 7	SB-1	924	K-60	M	(11.5)	3.5	1	0.04			
W-14	36	27	礫石片	黒曜石 8	SB-1	1847	K-59	M	10.0	3	8	0.02			原産地分析№11
W-14	36	28	礫石片	黒曜石 7	SB-1	447	K-59	M	(10.0)	2.5	1	0.02			
W-14	36	29	礫石片	黒曜石 8	SB-1	98	K-60	V	(10.0)	4	1.5	0.15			
W-14	36	30	礫石片	黒曜石 8	SB-1	1483	K-59	M	12.0	3	2	0.03			
W-14	36	31	礫石片	黒曜石 7	SB-1	204	J-61	V	(10.0)	2	1	0.01			
W-14	36	32	礫石片	黒曜石 8	SB-1	1549	G-63	M	(7.0)	1.5	0.7	0			
W-14	36	33	礫石片	頁岩	SB-1	1457	K-59	M	44.9	6.8	1.7	0.54			1049
					SB-1	1665	K-60	M							
W-14	36	34	礫石片	頁岩	SB-1	632	K-60	M	(33.0)	6.5	3	0.33			
W-14	36	35	礫石片	頁岩	SB-1	2089	J-60	M	38.5	6	2	0.28			
W-14	36	36	礫石片	頁岩	SB-1	1630	K-60	M	26.0	6	2	0.2			
W-14	36	37	礫石片	頁岩	SB-1	1383	L-59	M	(21.0)	7	3.5	0.4			
W-14	36	38	礫石片	頁岩	SB-1	709	K-60	M	43.0	3.1	1.9	0.25			46 1051
					SB-1	859	H-62	M							
W-14	36	39	礫石片	頁岩	SB-1	1969	L-59	M	(33.0)	4	2	0.21			
W-14	36	40	礫石片	頁岩	SB-1	767	I-61	M	(31.0)	5	3	0.29			
W-14	36	41	礫石片	頁岩	SB-1	1026	J-60	M	30.0	3	3	0.18			継続
W-14	36	42	礫石片	頁岩	SB-1	1568	K-60	M	(23.5)	4	1.5	0.13			
W-14	36	43	礫石片	頁岩	SB-1	1196	I-61	M	(21.5)	4.5	1.5	0.15			
W-14	36	44	礫石片	頁岩	SB-1	309	J-61	M	(20.1)	4.5	1.7	0.16			
W-14	36	45	礫石片	頁岩	SB-1	3007	L-59	FV	(19.5)	3	1	0.08			
W-14	36	46	礫石片	頁岩	SB-1	1585	K-60	M	(17.5)	3.5	1	0.07			
W-14	36	47	礫石片	頁岩	SB-1	363	K-60	M	(17.0)	4	2	0.09			
W-14	36	48	礫石片	頁岩	SB-1	385	K-60	M	(16.0)	3	1.5	0.03			
W-14	36	49	礫石片	頁岩	SB-1	644	K-60	M	(26.5)	4	2	0.21			
W-14	36	50	礫石片	頁岩	SB-1	996	K-60	M	(26.5)	3	2.5	0.16			46
W-14	36	51	礫石片	頁岩	SB-1	1539	H-62	FV	(24.0)	4	3	0.2			
W-14	36	52	礫石片	頁岩	SB-1	194	J-61	V	(23.0)	5.5	2	0.23			継続
W-14	36	53	礫石片	頁岩	SB-1	701	K-60	M	(24.0)	4	2	0.16			
W-14	36	54	礫石片	頁岩	SB-1	1183	J-61	M	(22.0)	5	2	0.16			
W-14	36	55	礫石片	頁岩	SB-1	182	J-61	M	(22.0)	5.5	2	0.22			
W-14	36	56	礫石片	頁岩	SB-1	653	K-60	M	(19.5)	3	2	0.1			
W-14	36	57	礫石片	頁岩	SB-1	788	J-61	M	(20.0)	5	2	0.18			
W-14	36	58	礫石片	頁岩	SB-1	514	L-59	M	(18.5)	4.5	1.5	0.14			
W-14	36	59	礫石片	頁岩	SB-1	1927	L-59	M	(18.0)	5	2	0.14			
W-14	36	60	礫石片	頁岩	SB-1	1224	K-60	M	(18.0)	4	2	0.12			
W-14	36	61	礫石片	頁岩	SB-1	962	K-60	M	(18.0)	3	1.5	0.09			
W-14	36	62	礫石片	頁岩	SB-1	713	K-60	M	(18.0)	4.5	1.5	0.09			
W-14	36	63	礫石片	頁岩	SB-1	470	H-62	M	(19.5)	3	2.5	0.2			
W-14	36	64	礫石片	頁岩	SB-1	1812	J-60	M	(18.0)	5	2	0.1			
W-14	36	65	礫石片	頁岩	SB-1	211	J-61	V	(16.5)	5	2	0.14			
W-14	36	66	礫石片	頁岩	SB-1	696	J-60	M	(13.5)	3.5	1	0.08			
W-14	36	67	礫石片	頁岩	SB-1	1175	J-61	M	(13.0)	5	1.5	0.1			
W-14	36	68	礫石片	頁岩	SB-1	1758	J-60	M	(11.4)	5	2	0.14			
W-14	36	69	礫石片	頁岩	SB-1	529	K-60	M	(13.0)	4	2	0.1			
W-14	36	70	礫石片	頁岩	SB-1	183	I-61	V	(11.5)	3	2	0.12			
W-14	36	71	礫石片	頁岩	SB-1	89	J-60	M	(22.5)	0.5	2	0.28			
W-14	36	72	礫石片	頁岩	SB-1	827	J-61	M	(22.0)	5	2	0.2			
W-14	36	73	礫石片	頁岩	SB-1	1069	K-60	M	(21.0)	3.5	2	0.13			
W-14	36	74	礫石片	頁岩	SB-1	1679	J-60	M	(19.4)	4.7	1.7	0.16			
W-14	36	75	礫石片	頁岩	SB-1	176	J-61	M	(19.5)	5	2	0.22			
W-14	36	76	礫石片	頁岩	SB-1	1248	J-60	M	(18.0)	4	2	0.17			
W-14	36	77	礫石片	頁岩	SB-1	174	J-60	M	(18.0)	3	2.5	0.1			
W-14	36	78	礫石片	頁岩	SB-1	1684	J-60	M	(18.0)	3.5	2	0.13			
W-14	36	79	礫石片	頁岩	SB-1	1883	L-59	M	(18.0)	4.5	2	0.09			
W-14	36	80	礫石片	頁岩	SB-1	940	K-60	M	(16.5)	4.5	2	0.16			
W-14	36	81	礫石片	頁岩	SB-1	208	J-61	M	(16.5)	5	2	0.21			

表VI-13 掲載旧石器一覧(2) ※長さ・幅・厚さの単位は(mm)

標号	図説掲載番号	分類	石質	出土層位	番号	グリッド	層位	長さ	幅	厚さ	重量(g)	用途推定	注目点	備考
M-14	36	82	礫石片	頁岩	SB-1	53	K-60	M	(14.5)	2.5	1.5	0.06		
M-14	36	83	礫石片	頁岩	SB-1	480	K-59	M	(14.5)	3	2	0.06		
M-14	36	84	礫石片	頁岩	SB-1	2043	K-60	M	(14.5)	3	2	0.12		
M-14	36	85	礫石片	頁岩	SB-1	91	J-60	M	(14.5)	4	2	0.11		
M-14	36	86	礫石片	頁岩	SB-1	1633	K-60	M	(17.0)	6	2	0.13		
M-14	36	87	礫石片	頁岩	SB-1	844	G-62	M	(14.5)	3.5	1	0.07		
M-14	36	88	礫石片	頁岩	SB-1	1672	K-60	M	(22.5)	5	2	0.14		被熱
M-14	36	89	礫石片	頁岩	SB-1	1690	J-60	M	(21.0)	3	3	0.15		
M-14	36	90	礫石片	頁岩	SB-1	1544	G-62	M	(20.0)	4.5	2	0.12		
M-14	36	91	礫石片	頁岩	SB-1	2060	J-60	M	(19.5)	4.5	2	0.12		
M-14	36	92	礫石片	頁岩	SB-1	1685	J-60	M	(18.0)	3	2	0.06		
M-14	36	93	礫石片	頁岩	SB-1	1662	K-60	M	(18.0)	3	2	0.07		
M-14	36	94	礫石片	頁岩	SB-1	675	J-60	M	(14.5)	3	1	0.04		
M-15	36	95	礫石片	頁岩	SB-1	1782	J-61	M	103.0	36	16	38.03		被熱
M-15	36	96	礫石片	頁岩	SB-1	1121	J-60	M	98.0	27	14	24.53		23
M-15	36	97	礫石片	頁岩	SB-1	2117	L-59	M	114.0	36	14.5	33.6		47
M-15	36	98	礫石片	頁岩	SB-1	1958	L-59	M	62.0	28	9	13.94		被熱
M-15	36	99	礫石片	頁岩	SB-1	1870	K-59	M	49.0	22	12	11.08		
M-15	36	100	礫石片	頁岩	SB-1	1984	K-59	M	61.0	25.5	17	21.59		被熱
M-15	37	101	彫器	珪化岩 1	SB-1	1873	K-59	M	46.0	24	13	14.47		
M-15	37	102	彫器	珪化岩 1	SB-1	600	K-60	M	45.5	20	10	7.31		43
M-15	37	103	彫器	頁岩	SB-1	1971	J-59	M	77.0	24	10	14.85		1067
M-15	37	104	彫器	頁岩	SB-1	1250	J-60	M	(48.3)	3	3	4.82		
M-15	37	105	彫器	頁岩 1	SB-1	946	K-60	M	77.0	37	15	49.51		25
M-15	37	106	彫器	頁岩	SB-1	615	K-60	M	65.5	28	7.5	12.72		
M-15	37	107	彫器	頁岩	SB-1	1578	K-60	M	89.0	31	17	31.32		26
M-16	37	108	彫器	頁岩	SB-1	1913	L-59	M	74.0	29	11	20.92		
M-16	37	109	彫器	頁岩	SB-1	1697	J-60	M	78.0	29.5	13	23.22		被熱
M-16	37	110	彫器	黒曜石 12	SB-1	1154	K-60	M	44.0	33	11	19.45		1025
				頁岩	SB-1	1674	K-60	M						
				頁岩	SB-1	1693	J-60	M						
M-16	37	111	彫器	黒曜石 1	SB-1	679	J-60	M	46.0	20	9.5	7.64		60
M-16	37	112	彫器	黒曜石 1	SB-1	3009	N-59	M	49.0	22	8	5.28		被熱
M-16	37	113	彫器	黒曜石 4	SB-1	144	J-61	M	68.0	13	6	3.15		1018
				頁岩	SB-1	1871	K-59	M						
				頁岩	SB-1	2037	K-60	M						
M-16	37	114	彫器	頁岩 3	SB-1	241	J-61	M	47.0	19	6	3.81		83
				頁岩	SB-1	2067	J-61	M						1092
M-16	37	115	彫器	頁岩 3	SB-1	1765	J-60	M	39.0	23	6	3.49		
M-16	37	116	彫器	頁岩 3	SB-1	1793	J-61	M	66.0	22	8	8.2		44
M-16	37	117	彫器	頁岩	SB-1	1131	K-60	M	77.5	20	7	7.79		
M-16	37	118	彫器	頁岩	SB-1	135	J-61	V	73.5	30	10	14.44		
M-16	37	119	彫器	頁岩	SB-1	1711	K-60	M	69.0	24	11	18.16		34
M-16	37	120	彫器	頁岩	SB-1	1322	L-59	M	32.0	40	14	22.09		
M-16	37	121	彫器	黒曜石 1	SB-1	952	K-60	M	45.0	22	5	6.35		1027
				頁岩	SB-1	1820	J-60	M						被熱
				頁岩	SB-1	2053	J-60	M						被熱
M-16	37	122	彫器	黒曜石 5	SB-1	993	K-60	M	55.0	28	15	14.96		1040
				頁岩	SB-1	1526	K-59	M						原産地分析№6
				頁岩	SB-1	2018	K-60	M						被熱
M-16	37	123	彫器	黒曜石 1	SB-1	2092	J-60	M	36.0	15	5	1.86		
M-16	37	124	彫器	珪化岩 1	SB-1	1200	J-61	M	28.0	19	8	3.20		
M-16	37	125	彫器	珪化岩 1	SB-1	782	J-61	M	30.5	16	5	3.81		42
M-16	37	126	彫器	珪化岩 1	SB-1	1137	K-60	M	35.0	15	9	2.9		
M-17	37	127	彫器	頁岩	SB-1	1289	L-58	M	61.0	30	8	17.01		35
M-17	37	128	彫器	頁岩	SB-1	1108	J-60	M	68.0	18	10	11.27		1099
M-17	37	129	彫器	珪化岩 1	SB-1	442	K-60	M	39.0	26	12	10.14		1094
				頁岩	SB-1	1766	L-60	M						
M-17	38	130	彫器	珪化岩 1	SB-1	601	K-60	M	43.0	22	13	7.56		
M-17	38	131	彫器	珪化岩 1	SB-1	670	K-60	M	45.5	27	9.5	8.6		38
M-17	38	132	彫器	頁岩	SB-1	1186	J-61	M	43.0	34	7	11.83		1076
				頁岩	SB-1	1613	K-60	M						被熱
				頁岩	SB-1	1956	L-59	M						
M-17	38	133	彫器	頁岩	SB-1	1783	J-61	M	87.0	34	11	29.57		
M-17	38	134	彫器	頁岩	SB-1	463	L-59	M	72.0	26	11	13.22		
M-17	38	135	彫器	頁岩	SB-1	1348	L-59	M	45.0	27.5	13	16.79		67
M-17	38	136	彫器	頁岩	SB-1	989	K-60	M	88.0	31.5	13	40.31		
M-17	38	137	彫器	黒曜石 1	SB-1	1701	K-60	M	20.0	14	6	1.48		2
M-17	38	138	彫器	珪化岩 1	SB-1	636	J-60	M	52.5	26	15.5	19.74		
M-17	38	139	彫器	頁岩	SB-1	1108	J-60	M	68.0	18	10	18.45		1099
				頁岩	SB-1	1136	K-60	M						
				頁岩	SB-1	1390	K-59	M						
M-17	38	140	彫器	頁岩	SB-1	1499	K-59	M	89.0	29	19	35.79		32
M-18	38	141	削片	頁岩	SB-1	1422	K-59	M	(51.0)	8	7.5	2.56		
M-18	38	142	削片	頁岩 1	SB-1	1074	K-60	M	45.5	11	5.7	3.29		25
M-18	38	143	削片	頁岩 1	SB-1	1059	K-60	M	44.5	11	6	1.56		25
M-18	38	144	削片	頁岩	SB-1	41	K-60	M	(31.0)	10.2	4.2	1.38		25
				頁岩	SB-1	1982	K-59	M						1069
M-18	38	145	削片	黒曜石 1	SB-1	1792	J-61	M	29.0	7.5	3.5	0.47		
M-18	38	146	削片	頁岩	SB-1	1228	K-60	M	(3.0)	1.2	7	0.69		21
M-18	38	147	削片	頁岩 1	SB-1	154	J-61	M	54.0	11	8.1	3.90		25
M-18	38	148	削片	頁岩	SB-1	326	L-58	M	(47.3)	7.8	6	1.96		
M-18	38	149	削片	頁岩 1	SB-1	1538	H-62	M	(38.0)	8	7.5	1.91		29

表VI-14 掲載旧石器一覧(3) ※長さ・幅・厚さの単位は(mm)

標号	国産	産出層	分類	石質	出土層	番号	グリッド	層位	長さ	幅	厚さ	重量(g)	用途	注	備考
M-18	38	130	削片	頁岩	SB-1	455	K-59	M	23.5	8.7	2.3	0.48			
M-18	38	131	削片	頁岩	SB-1	476	G-62	M	13.0	8.6	4.8	0.64			
M-18	38	152	削片	頁岩	SB-1	1571	K-60	M	17.4	7.9	4.5	0.53			
M-18	38	153	削片	頁岩	SB-1	1985	K-59	M	08.7	7.6	2.9	0.79			
M-18	38	154	削片	頁岩	SB-1	212	J-61	V	44.0	6	3.1	0.65	34	1078	
					SB-1	2028	K-60	M	44.0	6	3.1				
M-18	38	155	削片	頁岩	SB-1	1734	K-60	M	09.3	8.1	3	0.79			
M-18	38	156	削片	頁岩	SB-1	565	K-60	M	08.2	5.3	3.3	0.4			
M-18	38	157	削片	頁岩	SB-1	414	K-59	M	08.9	8.9	4.2	1			
M-18	38	158	削片	頁岩	SB-1	743	J-61	M	30.8	5.2	2	0.3			
M-18	38	159	削片	頁岩	SB-1	1730	K-60	M	08.0	5.5	3	0.43	21		
M-18	38	160	削片	頁岩	SB-1	501	K-59	M	20.5	7	3	0.27	47		
M-18	38	161	削片	頁岩	SB-1	1101	J-60	M	03.0	4	6.5	1	29		
M-18	38	162	削片	頁岩	SB-1	1166	J-61	M	64.0	6	7	1.9			
M-18	38	163	削片	頁岩	SB-1	317	J-61	M	56.5	8	8.5	3.61	29		
M-18	38	164	削片	頁岩	SB-1	1190	J-61	M	48.0	12	4	2.05			
M-18	38	165	削片	頁岩	SB-1	1786	J-61	M	35.0	10.5	6	2.15	25		
M-18	38	166	削片	頁岩	SB-1	231	I-61	V	21.5	8.2	1.8	0.19			
M-18	38	167	削片	頁岩	SB-1	1637	K-60	M	19.5	5	1.5	0.13			被熱
M-18	38	168	削片	頁岩	SB-1	796	J-61	M	37.0	6.1	3.5	1.16			
M-18	38	169	削片	燧石	SB-1	210	J-61	M	04.0	11	4	1.29			
M-18	38	170	削片	頁岩	SB-1	1101	K-60	M	46.0	7	12	2.46	26		
M-18	38	171	削片	頁岩	SB-1	145	I-61	V	33.7	10.2	5.2	1.18			
M-18	38	172	削片	頁岩	SB-1	1414	K-59	M	25.9	6.5	4.2	0.6			
M-18	38	173	削片	頁岩	SB-1	453	I-59	M	09.0	5.1	2.6	0.22			
M-18	38	174	削片	頁岩	SB-1	792	I-61	M	55.0	9	5	1.52			被熱
M-18	38	175	削片	頁岩	SB-1	1814	J-60	M	02.5	4	2.5	0.21	34		
M-18	38	176	削片	燧石	SB-1	465	I-59	M	04.0	3	3	0.09	66		
M-18	38	177	削片	頁岩	SB-1	758	J-61	M	59.5	12.5	5.2	3.55	25		
M-18	38	178	削片	頁岩	SB-1	139	I-61	M	52.0	12	3	1.9	87		
M-18	38	179	削片	燧石	SB-1	1003	K-60	M	47.0	5	8	1.41	41	1066	
					SB-1	1235	K-60	M							
M-18	38	180	削片	頁岩	SB-1	560	K-60	M	34.0	10.5	7.5	1.8	24		
M-18	38	181	削片	頁岩	SB-1	1174	J-61	M	23.0	11	5	1.64	32		
M-18	38	182	削片	頁岩	SB-1	1275	I-58	M	03.5	10	2.7	0.76	28		
M-18	38	183	削片	頁岩	SB-1	250	H-62	V	18.5	2	2	0.12	32		
M-19	38	184	削片	頁岩	SB-1	941	K-60	M	40.9	4.7	3.1	0.53			1050
M-19	38	184	削片	頁岩	SB-1	1804	K-60	M	40.9	4.7	3.1				被熱
M-19	38	185	削片	頁岩	SB-1	739	J-61	M	38.0	21	9	4.25			被熱
M-19	38	186	削片	頁岩	SB-1	205	J-61	V	02.4	6.4	4.3	0.64			標24上同一個体
M-19	38	187	削片	燧石	SB-1	748	J-61	M	24.0	6	3.5	0.54	41		
M-19	38	188	削片	頁岩	SB-1	1078	K-60	M	048.3	9.6	3.8	1.51			
M-19	38	189	削片	頁岩	SB-1	274	J-62	M	063.0	20.5	9	8.53	24		
M-19	38	190	削片	頁岩	SB-1	963	K-60	M	60.0	8.5	1.1	0.96	26		
M-19	38	191	削片	頁岩	SB-1	64	K-60	M	48.0	10.5	4.6	2.66	25	1052	
					SB-1	1605	K-60	M							
M-19	38	192	削片	頁岩	SB-1	1889	K-59	M	41.0	14	8.1	4.85	87		
M-19	38	193	削片	頁岩	SB-1	1242	K-60	M	039.0	12	3.1	1.75	25		
M-19	38	194	削片	頁岩	SB-1	1086	J-60	M	017.0	13	4.1	1.44	25		
M-19	38	195	削片	頁岩	SB-1	801	J-61	M	38.2	9.6	2.7	0.87			1095
					SB-1	801	J-61	M							
M-19	38	196	削片	頁岩	SB-1	224	I-61	FV	32.3	7.6	3.7	0.75			
M-19	38	197	削片	頁岩	SB-1	1123	J-60	M	29.8	4.7	3	0.5			
M-19	38	198	削片	頁岩	SB-1	1747	J-60	M	28.2	6.1	2.3	0.45			標51上同一個体
M-19	38	199	削片	頁岩	SB-1	638	J-60	M	27.5	8	4.6	1.28	24		
M-19	38	200	削片	頁岩	SB-1	1408	K-59	M	022.0	7	1.5	0.33	34		
M-19	38	201	削片	頁岩	SB-1	1453	K-59	M	21.5	23.5	1.3	0.19	28		
M-19	38	202	削片	頁岩	SB-1	1193	J-61	M	33.5	3.4	3	0.4			
M-19	38	203	削片	頁岩	SB-1	1533	M-59	M	024.0	8	3.8	0.76			
M-19	38	204	削片	頁岩	SB-1	168	J-61	V	41.5	9.9	4.8	1.65			
M-19	38	205	削片	頁岩	SB-1	285	J-62	V	041.6	4.7	5.2	0.92			
M-19	38	206	削片	頁岩	SB-1	217	I-61	V	65.0	9	10	4.59	87		被熱
M-19	38	207	削片	頁岩	SB-1	1713	K-60	M	039.0	4.5	5	0.44	23		
M-19	38	208	削片	頁岩	SB-1	171	J-61	FV	027.0	6	6	1.1	24		
M-19	38	209	削片	燧石	SB-1	308	J-61	M	25.5	7	4.5	0.57	41		被熱
M-19	38	210	削片	燧石	SB-1	1615	K-60	M	35.5	15	5	1.58	25		被熱
M-19	38	211	削片	頁岩	SB-1	203	J-61	M	044.7	5.9	2.5	0.84			
M-19	38	212	削片	燧石	SB-1	1611	K-60	M	3.8	9	8	1.91	41		
M-19	38	213	削片	頁岩	SB-1	1778	K-60	M	024.7	7.1	4.7	0.76			
M-19	38	214	削片	燧石	SB-1	1140	I-61	M	35.5	2.5	7	0.41			
M-19	38	215	削片	燧石	SB-1	25	K-59	M	22.3	8.3	1.5	0.28			
M-20	39	216	燧石	燧石	SB-1	848	J-60	M	63.0	22	8	9.44	4	1013	
					SB-1	1821	J-60	M							
M-20	39	217	燧石	頁岩	SB-1	422	K-59	M	52.0	25	7	8.65			
M-20	39	218	燧石	燧石	SB-1	50	K-60	V	47.0	21	9	7.84			1055
					SB-1	1934	K-59	M							
M-20	39	219	燧石	燧石	SB-1	686	J-60	M	36.0	23	10	6.08			被熱
M-20	39	220	燧石	燧石	SB-1	1938	I-59	M	38.0	16.5	5.5	3.24			
M-20	39	221	燧石	燧石	SB-1	1771	I-60	M	34.5	29	6	3.54			
M-20	39	222	燧石	燧石	SB-1	1189	J-61	M	25.5	17	8	2.86			
M-20	39	223	燧石	燧石	SB-1	1	M-58	V	30.5	19	7	3.47			
M-20	39	224	燧石	燧石	SB-1	2017	K-60	M	38.0	18	12	8.31			
M-20	39	225	燧石	燧石	SB-1	137	J-61	M	45.0	19	8	5.63			

表Ⅴ-15 掲載旧石器一覧(4) ※長さ・幅・厚さの単位は(mm)

種別	図録	掲載頁	分類	石質	出土地点	番号	グリッド	層位	長さ	幅	厚さ	重量(g)	測定者	注	備考
W-20	39	226	縁部	珪化岩 1	SB-1	1557	J-60	M	33.5	29	8	8.45			
W-20	39	227	縁部	珪化岩 1	SB-1	316	J-61	M	32.5	25	7	4.78			
W-20	39	228	縁部	黒曜石 1	SB-1	260	H-62	V	41.5	17	8	4.82			
W-20	39	229	縁部	黒曜石 1	SB-1	61	K-60	M	47.0	22	9	5.73		1001	
					SB-1	656	K-60	M							
					SB-1	2015	K-60	M							
W-20	39	230	縁部	珪化岩 1	SB-1	1860	K-59	M	38.0	26.5	8	6.92			
W-20	39	231	縁部	黒曜石 1	SB-1	1350	L-59	M	67.0	25	9	11.17		14	1016
					SB-1	1517	K-59	M							
W-20	39	232	縁部	頁岩 3	SB-1	1491	K-59	M	45.0	23.5	9	8.24			継続
W-20	39	233	縁部	珪化岩 1	SB-1	1989	K-59	M	32.5	23	7	4.56			
W-20	39	234	縁部	珪化岩 1	SB-1	1303	L-59	M	27.0	25	7.3	4.94			
W-20	39	235	縁部	珪化岩 1	SB-1	1428	L-59	M	41.5	26	13	14.28			
W-20	39	236	縁部	頁岩 2	SB-1	1398	K-59	M	33.0	27	7	6.99			
W-20	39	237	縁部	珪化岩 1	SB-1	1045	J-60	M	38.5	30	11	12.21			
W-20	39	238	縁部	黒曜石 2	SB-1	66	K-60	M	38.0	26	10	8.41			
W-20	39	239	縁部	黒曜石 1	SB-1	1728	K-60	M	30.0	20	6	3.32			
W-21	39	240	細溝部	珪化岩 1	SB-1	592	K-60	M	75.0	37	8	40.18			
W-21	39	241	細溝部	黒炭岩 1	SB-1	1950	L-59	M	46.0	31	12	16.75		61	1075
W-21	39	242	側部	頁岩	SB-1	19	K-59	V	63.0	23	7	8.06			1047
					SB-1	458	L-59	M							
W-21	39	243	側部	頁岩	SB-1	279	K-62	V	64.0	27	10	12.67			
W-21	39	244	側部	頁岩	SB-1	238	L-61	V	43.0	47.5	9	14.88			
W-21	39	245	側部	珪化岩 1	SB-1	4	L-59	M	58.0	23.5	10	7.63			
W-21	39	246	側部	珪化岩 1	SB-1	1311	L-59	M	88.0	30	11	11.08			1061
					SB-1	1868	K-59	M							
W-21	39	247	側部	珪化岩 1	SB-1	791	I-61	M	61.0	14	13.5	5.94			
W-21	39	248	側部	珪化岩 1	SB-1	1716	K-60	M	58.0	37	12	17.32			継続
W-21	39	249	側部	珪化岩 1	SB-1	34	K-60	V	25.0	16.5	5.5	1.88			
W-21	39	250	側部	珪化岩 1	SB-1	1909	L-59	M	69.0	29	10.5	21.61			
W-21	39	251	側部	珪化岩 1	SB-1	1970	L-59	M	47.5	35	26	24.71			
W-21	39	252	側部	頁岩	SB-1	1208	H-61	M	16.0	5	3	0.19			
W-22	39	253	上部	頁岩 3	SB-1	1070	K-60	M	44.0	29	12	12.69			
W-22	40	254	上部	黒曜石 1	SB-1	255	F-61	V	35.0	36	12	8.83		9	
W-22	40	255	上部	頁岩	SB-1	695	J-60	M	45.5	34.5	6.5	10.77			
W-22	40	256	上部	頁岩	SB-1	2071	J-61	M	65.0	3.9	8	7.98		61	
W-22	40	257	上部	黒曜石 4	SB-1	685	J-60	M	60.0	29	12.5	5.77			原産地分析№5
W-22	40	258	上部	黒曜石 1	SB-1	1795	J-61	M	33.5	2.1	2.5	3.77			
W-22	40	259	上部	黒曜石 1	SB-1	127	I-60	V	22.5	17.5	7.3	3.06		1	原産地分析№15
W-22	40	260	上部	黒曜石 5	SB-1	222	I-61	V	33.0	23	3	2.13			1038
					SB-1	3002	I-61	V							
W-22	40	261	上部	頁岩	SB-1	1460	K-59	M	52.5	16.5	10	5.34			継続
W-22	40	262	上部	頁岩 1	SB-1	561	K-60	M	63.0	39.5	7.5	18.87			
W-22	40	263	石片	頁岩	SB-1	2073	I-61	M	123.0	29	12	23.51		45	1056
							プロウ丸								
							K-63								
W-22	40	264	断部	頁岩	SB-1	169	J-61	M	109.0	26	11	12.94		45	1057
W-22	40	265	石片	頁岩	SB-1	1917	L-59	M	9.79						45
W-22	40	266	石片	黒曜石 1	SB-1	186	J-61	V	104.0	23	7	11.59		2	1035
					SB-1	759	J-61	M							2
W-22	40	267	石片	黒曜石 1	SB-1	967	H-62	FV	80.0	17	10	3.46		1	1002
W-22	40	268	石片	黒曜石 2	SB-1	3004	I-62	FV	78.0	15	9	4.65		1	1006
							表様								表様
W-22	40	269	石片	頁岩 3	SB-1	1038	J-60	M	57.0	15	6.5			44	
W-22	40	270	石片	黒曜石 1	SB-1	187	J-61	V	60.0	15	7	3.6	4	1043	
W-22	40	271	石片	黒曜石 1	SB-1	1153	J-61	M							継続
W-22	40	272	石片	黒曜石 1	SB-1	658	J-60	M	40.0	8	3	0.67	2	1010	
					SB-1	1764	J-60	M							
W-23	40	273	磨石	砂岩	SB-1	1425	K-59	M	65.0	33	13	27.29			
W-23	40	274	磨石	砂岩	SB-1	3008	L-59	V	58.0	35	11	22.24			
W-23	40	275	磨石	砂岩	SB-1	33	K-60	M	71.0	40	13	40.8			1077
					SB-1	919	K-60	M							
W-23	40	276	磨石	砂岩	SB-1	2105	L-60	M	60.0	38.5	10	24.18			
W-23	40	277	磨石	砂岩	SB-1	727	J-61	M	27.0	36	7	6.57			
W-23	40	278	磨石	黒炭岩 1	SB-1	1369	L-59	M	29.0	19	16	34.19		61	
W-23	40	279	たまたま石	砂岩	SB-1	1926	L-59	M	66.0	38	3.5	84.29			1090
					SB-1	1939	L-58	M							
					SB-1	1973	L-59	M							
W-23	40	278	砥石	砂岩	SB-1	65	K-60	M	60.0	37	5	15.44			
W-23	40	279	石製	黒炭岩 1	SB-1	1361	K-60	M	118.5	23.5	21	87.01			
W-23	40	280	断片	頁岩 1	SB-1	57	J-61	V	42.0	21	3	2.24			
W-23	40	281	断片	頁岩 1	SB-1	302	I-61	M	42.0	17.4	3.6	1.46			
W-23	40	282	断片	頁岩 2	SB-1	1494	K-59	M	14.0	23	3	0.91			
W-23	40	283	断片	頁岩 2	SB-1	1931	L-59	M	28.0	10	4	0.93			
W-23	40	284	断片	頁岩 3	SB-1	1180	I-61	M	24.0	22	5	2.2			
写真のみ	41	309	石片	黒曜石 1	SB-1	991	K-60	M	(29.4)	15.2	3.5	1.65	1		
写真のみ	41	310	石片	黒曜石 1	SB-1	1149	J-61	M	(26.3)	17.8	4.4	2.97	2		
写真のみ	41	311	石片	黒曜石 1	SB-1	1761	J-60	M	(51.0)	16.7	2.7	1.52	2		原産地分析№1
写真のみ	41	312	石片	黒曜石 1	SB-1	144	I-61	M	(22.2)	12.4	3.6	1.46	2		
写真のみ	41	313	石片	黒曜石 1	SB-1	198	I-61	M	(19.1)	6.7	1.6	0.24	2		
写真のみ	41	314	石片	黒曜石 1	SB-1	1032	J-60	M	(10.6)	11.4	1.7	0.18	2		
写真のみ	41	315	石片	黒曜石 1	SB-1	1411	K-59	M	(37.8)	10.5	4.2	1.89	4		
写真のみ	41	316	石片	黒曜石 1	SB-1	1258	J-61	M	(31.0)	14.3	3.3	2.11	4		

表VI-16 掲載旧石器一覧(5) ※長さ・幅・厚さの単位は(mm)

種別	図章	発掘番号	分類	石質	出土層	番号	グリッド	層位	長さ	幅	厚さ	重量(g)	測定箇所	注	備考	
写真のみ	41	317	石片	黒曜石	SB-1	1567	K-60	M	29.8	9	3.2	0.77	14			
写真のみ	41	318	石片	黒曜石	SB-1	1726	K-60	M	28.8	12.6	2.8	0.96	14			
写真のみ	41	319	石片	黒曜石	SB-1	1726	K-60	M	53.6	13.6	5	3.77	17			
写真のみ	42	320	削片	頁岩	SB-1	1223	K-60	M	42.4	13.1	18.4	7.94	25		被熱	
写真のみ	42	321	削片	頁岩	SB-1	23	K-59	V	43.9	15.3	6.3	3.56	25			
写真のみ	42	322	削片	頁岩	SB-1	1853	K-59	M	32.6	13.8	5.1	1.99	25			
写真のみ	42	323	削片	頁岩	SB-1	135	J-61	V	29.8	6	2.4	0.64	25			
写真のみ	42	324	削片	頁岩	SB-1	43	K-60	M	42.6	6.7	2.2	0.37	25			
写真のみ	42	325	削片	頁岩	SB-1	435	K-59	M	24.4	14.8	4.1	2.01	25			
写真のみ	42	328	削片	頁岩	SB-1	977	J-60	M	24.9	11	2.5	0.75	25			
写真のみ	42	327	削片	頁岩	SB-1	371	K-59	M	27.9	8.3	4.2	0.99	25			
写真のみ	42	328	削片	頁岩	SB-1	762	J-61	M	27.1	4.4	2.9	0.34	25			
写真のみ	42	329	削片	頁岩	SB-1	465	L-59	M	20.9	10.9	4.4	0.7	25			
写真のみ	42	330	削片	頁岩	SB-1	1921	L-59	M	18.2	8.6	3.1	0.39	25			
写真のみ	42	331	削片	頁岩	SB-1	343	L-59	M	14.1	9.2	2.6	0.28	25			
写真のみ	42	332	腕長細片	頁岩	SB-1	229	J-61	M	25.2	12.5	2.7	0.89	44			
写真のみ	42	333	石片	頁岩	SB-1	1644	K-60	M	18.7	18.4	4.5	1.47	83			
写真のみ	43	334	削片	頁岩	SB-1	1596	K-60	M	20.1	12.2	2.8	0.54	32		被熱	
写真のみ	43	335	削片	頁岩	SB-1	925	K-60	M	12.7	13.2	1.2	0.19	32			
写真のみ	43	336	削片	頁岩	SB-1	916	K-60	M	14.1	10.3	1.5	0.21	32		被熱	
写真のみ	43	337	削片	頁岩	SB-1	1834	K-59	M	24.2	4.9	4.3	0.45	35			
写真のみ	44	338	削片	頁岩	SB-1	1151	J-61	M	33.6	11	4.4	1.52	33		被熱	
写真のみ	44	339	削片	頁岩	SB-1	711	K-60	M	34.3	8.7	2.7	1.64	33			
写真のみ	44	340	削片	頁岩	SB-1	738	J-61	M	22.6	6.7	2	0.3	33			
写真のみ	44	341	削片	頁岩	SB-1	741	J-61	M	15.2	9	0.8	0.09	33			
写真のみ	45	350	削片	珪化岩	SB-1	1896	L-59	M	37.6	6.5	5.2	1.26	38			
写真のみ	45	351	削片	珪化岩	SB-1	1241	K-60	M	28.0	6.6	4	0.47	38			
写真のみ	45	352	腕長細片	珪化岩	SB-1	651	K-60	M	38.3	18.3	5.2	3.17	43			
写真のみ	45	353	腕長細片	珪化岩	SB-1	1705	K-60	M	43.4	11.7	2.5	0.98	43			
M-61	46	1	細石片	黒曜石	SB-2	15	H-63	M	45.5	7.5	2.8	0.76	90	1046		
M-61	46	2	細石片	黒曜石	SB-2	4	I-63	M	40.0	8.5	4.5	0.68	12		原地地分析№12	
M-61	46	3	細石片	黒曜石	SB-2	13	H-63	M	40.8	8.4	1.9	0.59	90	1020		
M-61	46	4	細石片	黒曜石	SB-2	14	H-63	M								
M-61	46	5	細石片	黒曜石	SB-2	3	I-62	V	30.5	7	3	0.32				
M-61	46	6	細石片	黒曜石	SB-2	2	H-63	V	33.0	8.3	3	0.5	90			
M-61	46	7	細石片	黒曜石	SB-2	8	H-63	V	29.0	7	3	0.47	12			
M-61	46	8	細石片	黒曜石	SB-2	20	H-63	M	28.0	9.5	3	0.35	91			
M-61	46	9	細石片	黒曜石	SB-2	7	I-63	V	29.5	8	2	0.26	91			
M-61	46	10	細石片	黒曜石	SB-2	11	H-62	M	23.5	6	2	0.22				
M-61	46	11	細石片	黒曜石	SB-2	1	H-63	V	16.0	6	3	0.19				
M-61	46	12	細石片	黒曜石	SB-2	9	G-63	V	17.0	9	2	0.26				
M-61	46	13	細石片	黒曜石	SB-2	18	I-62	M	18.0	7	1.5	0.11				
M-61	46	14	細石片	黒曜石	SB-2	25	H-63	M	13.0	6	2	0.12				
M-61	46	15	細石片	黒曜石	SB-2	5	I-63	M	16.5	6.5	2	0.17				
M-61	46	16	細石片	黒曜石	SB-2	10	G-63	V	13.5	5	1	0.05	13			
M-61	46	17	細石片	黒曜石	SB-2	6	I-63	M	29.0	7	2.5	0.3	90			
M-61	46	18	削片	黒曜石	SB-2	17	F-64	M	22.0	8	3	0.24	13			
M-61	46	19	削片	黒曜石	SB-2	12	G-62	M	13.0	35	8	1.25			1032	
M-61	46	20	削片	黒曜石	SB-2	23	F-64	M								
M-61	46	21	削片	黒曜石	SB-2	16	F-64	M	35.0	6	6	0.83	11		原地地分析№14	
M-61	46	22	削片	黒曜石	SB-2	24	F-64	FV	37.5	7.5	5	1.18	11			
M-66	47	1	細石片	黒曜石	プロット	1	B-61	V	31.0	15	8	8			1097	原地地分析№13
M-66	47	2	細石片	黒曜石	プロット	1	B-61	V	3.1	1.5	8	3.18	11			
M-66	47	3	削片	黒曜石	プロット	1	I-67	V	32.0	6	6	1.16				
M-66	47	4	腕部	黒曜石	プロット	1	B-58	V	58.5	28	12	16.37			被熱	
M-66	47	5	腕部	黒曜石	プロット	1	I-54	V	37.5	15	8	4.28			被熱	
M-66	47	6	腕部	珪化岩	プロット	1	D-61	V	59.0	15.5	12	8.51				

表Ⅵ-17 掲載旧石器接合資料一覧(1)

種別	図版	掲載%	石質・接合%	点数	分類等	ブロック名	発掘区	層位	遺物番号	単品掲載%	重量(g)	接合%	備考
M-42	41	285	黒曜石1 ・接合1	5	接合資料	SB-1,一括		V, FV, FV, W				11.1	
					石刃	SB-1	J-61	V	149	266	2.9	1002	
					石刃	SB-1	H-62	FV	867		1.5		
					石刃	一括	I-62	FV	3004		1.9		
					石刃	SB-1	K-60	W	991	309	1.7		
					石刃	SB-1	I-60	V	127	259	3.1		
M-42	41	286	黒曜石1 ・接合2	10	接合資料	SB-1		V, W					20.1
					石刃	SB-1	J-61	W	744	312	1.4	1035	
					石刃	SB-1	J-61	W	759	265	9.3		
					石刃	SB-1	J-61	V	186		2.3		
					石刃	SB-1	J-60	W	1032	314	0.2		
					石刃	SB-1	I-61	W	198	313	0.2	1010	
					石刃	SB-1	J-60	W	698	270	0.5		
					石刃	SB-1	J-60	W	1764		0.2		
					石刃	SB-1	J-61	W	1149	311	3.0		
					石刃	SB-1	J-60	W	1761	310	1.5		
					彫器	SB-1	K-60	W	1701	137	1.5		
M-42	41	287	黒曜石1 ・接合4	7	接合資料	SB-1		V, W, W				17.8	
					石刃	SB-1	K-59	W	1411	315	1.9	1013	
					鏃	SB-1	I-62	W	848	216	7.5		
					鏃	SB-1	J-60	W	1821		1.9		
					石刃	SB-1	K-60	W	664	317	0.8	1043	
					石刃	SB-1	J-61	V	187	269	2.1		
					石刃	SB-1	J-61	W	1183		1.5		
石刃	SB-1	J-61	W	1258	316	2.1							
M-43	41	288	黒曜石1 ・接合14	3	接合資料	SB-1		W			12.1		
					鏃	SB-1	L-59	W	1517	231	4.8	1016	
					鏃	SB-1	K-59	W	1350		6.4		
					石刃	SB-1	K-60	W	1567	318	1.0		
M-43	41	289	黒曜石1 ・接合17	2	接合資料	SB-1		V, W			8.6		
					石刃	SB-1	K-60	W	1726	319	3.8		
					鏃	SB-1	H-62	V	260	228	4.8		
M-43	41	290	黒曜石1 ・接合66	2	接合資料	SB-1		W, W			7.7		
					削片	SB-1	L-59	W	405	176	0.1		
					彫器	SB-1	J-60	W	679	111	7.6		
M-46	42	291	頁岩1 ・接合29	3	接合資料	SB-1		W, W			6.5		
					削片	SB-1	J-60	W	1101	161	1.0		
					削片	SB-1	H-62	W	1538	149	1.9		
					削片	SB-1	J-61	W	317	163	3.6		
M-46	44	348	頁岩1 ・接合85	2	接合資料	SB-1		W, W			2.2	写真のみ	
					削片	SB-1	K-60	W	1050		0.4		
					削片	SB-1	K-60	W	36		1.8		
M-46	44	349	頁岩1 ・接合86	2	接合資料	SB-1		W			2.3	写真のみ	
					削片	SB-1	K-60	W	1229		0.7		
					削片	SB-1	L-59	W	1903		1.6		
M-47	42	292	頁岩1 ・接合25	25	接合資料	SB-1		V, W, W			95.8		
					削片	SB-1	K-60	W	1615	210	1.6	1069	
					削片	SB-1	K-59	V	23	321	3.6		
					削片	SB-1	K-60	W	1223	320	7.9		
					削片	SB-1	J-61	W	154	147	4.0		
					削片	SB-1	L-59	W	465	329	0.7		
					削片	SB-1	K-59	W	371	327	1.0		
					削片	SB-1	K-60	W	1059	143	1.6		
					削片	SB-1	J-61	W	1786	165	2.2		
					削片	SB-1	J-61	W	758	177	6.6		
					削片	SB-1	K-60	W	1657	324	0.4		
					削片	SB-1	J-61	V	155	323	0.6		
					削片	SB-1	J-60	W	977	326	0.8		
					削片	SB-1	K-60	W	1074	142	3.3		
					削片	SB-1	K-60	W	41	144	0.3		
					削片	SB-1	K-59	W	1982		1.1		
					削片	SB-1	K-60	W	64	191	1.5		
					削片	SB-1	K-60	W	1605		1.1		
					削片	SB-1	K-60	W	1242	193	1.8		
					削片	SB-1	K-59	W	1853	322	2.0		
削片	SB-1	J-61	W	762	328	0.3							

表VI-18 掲載旧石器接合資料一覧(2)

種目	図版	掲載No	石質・接合No	点数	分類等	ブロック名	発掘区	層位	遺物番号	単品掲載No	重量(g)	折接合No	備考
M-47	42	292	頁岩1 ・接合25	25	削片	SB-1	K-59	M	435	325	2.0		
					削片	SB-1	L-59	M	1921	330	0.4		
					削片	SB-1	L-59	M	343	331	0.3		
					削片	SB-1	J-60	M	1086	194	1.4		
					彫器	SB-1	K-60	M	946	105	49.5		
M-48	44	342	頁岩2 ・接合30	2	接合資料	SB-1		V, M		342	5.6		写真のみ
					石刃	SB-1	J-60	V	87	3.4			
					石刃	SB-1	K-59	M	1389	2.2			
M-49	42	293	頁岩3 ・接合44	4	接合資料	SB-1		M, M			18.0		
					彫器	SB-1	J-61	M	1793	116	8.2		
					縦長剥片	SB-1	I-61	M	229	332	0.9		
					掃器	SB-1	J-61	M	316	227	4.8		
					石刃	SB-1	J-60	M	1038	268	4.2		
M-49	42	294	頁岩3 ・接合83	3	接合資料	SB-1		M, M			5.3		
					彫器	SB-1	J-61	M	241	114	2.2	1093	
					彫器	SB-1	J-61	M	2067	1.6			
					石刃	SB-1	K-60	M	1644	333	1.5		
M-50	43	295	頁岩 ・接合23	2	接合資料	SB-1		M		25.1			
					削片	SB-1	K-60	M	1713	207	0.4		
M-50	43	297	頁岩 ・接合47	2	接合資料	SB-1		M, M			43.9		
					削片	SB-1	K-59	M	501	160	0.3		
					礫石刃核	SB-1	L-59	M	2117	97	43.6		
M-50	43	296	頁岩 ・接合26	3	接合資料	SB-1		M			38.2		
					削片	SB-1	K-60	M	1010	170	2.9		
					削片	SB-1	K-60	M	963	190	4.0		
					彫器	SB-1	K-60	M	1578	107	31.3		
M-51	43	298	頁岩 ・接合32	6	接合資料	SB-1		V, M			38.5		
					削片	SB-1	J-61	M	1174	181	1.6		
					削片	SB-1	H-62	V	250	183	0.1		
					細片	SB-1	K-60	M	925	335	0.2		
					細片	SB-1	K-60	M	916	336	0.2		
					剥片	SB-1	K-60	M	1596	334	0.5		
					彫器	SB-1	K-59	M	1499	140	35.8		
					削片	SB-1	J-61	V	312	154	0.3	1078	
削片	SB-1	K-60	M	2028	0.3								
削片	SB-1	K-59	M	1408	200	33.0							
削片	SB-1	J-60	M	1814	175	0.2							
彫器	SB-1	K-60	M	1711	1711	18.2							
接合資料	SB-1		M			17.5							
削片	SB-1	K-59	M	1834	337	0.5							
彫器	SB-1	L-58	M	1289	127	17.0							
M-52	44	301	頁岩 ・接合24	4	接合資料	SB-1		M, M			11.0		
					削片	SB-1	J-61	M	171	208	1.1		
					削片	SB-1	J-60	M	638	199	1.3		
					削片	SB-1	K-60	M	560	180	1.8		
					削片	SB-1	I-62	M	274	189	6.9		
M-52	44	302	頁岩 ・接合33	4	接合資料	SB-1		M			3.6		
					削片	SB-1	J-61	M	728	340	0.3		
					削片	SB-1	J-61	M	741	341	0.1		
					削片	SB-1	K-60	M	711	339	1.6		
					削片	SB-1	J-61	M	1151	338	1.5		
M-52	44	303	頁岩 ・接合87	3	接合資料	SB-1		V, M, M			12.5		
					削片	SB-1	I-61	V	217	206	4.6		
					削片	SB-1	J-61	M	136	178	3.1		
					削片	SB-1	K-59	M	1889	192	4.9		
M-53	44	304	頁岩 ・接合45	4	接合資料	※1,7の残		V, M, M			46.2		
					彫器	SB-1	J-61	M	169	264	12.9	1057	
					石刃	SB-1	L-59	M	1917	9.8			
					石刃	SB-1	J-61	M	2073	263	11.2		1056
					石刃	ブロック外	K-63	V	1	12.4			
接合資料	SB-1		M, M			2.56							
M-53	44	343	頁岩 ・接合27	2	削片	SB-1	L-60	M	967		1.28	写真のみ	
					削片	SB-1	J-60	M	107		1.28		

表Ⅵ-19 掲載旧石器接合資料一覧(3)

種別	図版	掲載No.	材質・接合No.	点数	分類等	ブロック名	発掘区	層位	遺物番号	単品掲載No.	重量(g)	折接合No.	備考
M-53	44	344	頁岩 ・接合31	2	接合資料	SB-1		M			1.63		写真のみ
					削片	SB-1	K-59	M	1840		0.81		
					削片	SB-1	K-60	M	704		0.82		
M-53	44	345	頁岩 ・接合36	2	接合資料	SB-1		M			1.63		写真のみ
					削片	SB-1	K-60	M	2002		0.87		
					削片	SB-1	K-60	M	1231		0.76		
M-53	44	346	頁岩 ・接合48	2	接合資料	SB-1		M			0.88		写真のみ
					削片	SB-1	J-60	M	1120		0.37		
					削片	SB-1	K-59	M	1856		0.51		
M-53	44	347	頁岩 ・接合65	2	接合資料	※1707外		V, M			2.49		写真のみ
					削片	ブロック外	M-61	V	2		2.27		
					削片	SB-1	K-60	M	1628		0.22		
M-56	45	305	珪化岩1 ・接合38	3	接合資料	SB-1		M			10.3		
					削片	SB-1	K-60	M	1241	351	0.5		
					彫器	SB-1	K-60	M	670	131	8.6		
					削片	SB-1	L-59	M	1896	350	1.3		
M-56	45	306	珪化岩1 ・接合43	4	接合資料	SB-1		M			13.6		
					縦長削片	SB-1	K-60	M	651	352	3.4		
					縦長削片	SB-1	K-60	M	1705	353	1.0		
					彫器	SB-1	K-60	M	600	102	7.3		
M-56	45	307	珪化岩1 ・接合41	5	接合資料	SB-1		M, M			4.4		
					削片	SB-1	K-60	M	1003	179	0.8		
					削片	SB-1	K-60	M	1235		0.7		
					削片	SB-1	J-61	M	748	187	0.5		
					削片	SB-1	J-61	M	308	209	0.6		
M-59	45	308	凝灰岩1 ・接合61	63	接合資料	SB-1		V, V, F, W, M			127.0		
					削片	SB-1	I-60	M	1268		1.2		
					削片	SB-1	L-59	M	1326		1.0		
					削片	SB-1	J-61	F, M	815		0.8		
					削片	SB-1	K-60	M	1130		0.3		
					削片	SB-1	L-59	V	13		1.1		
					削片	SB-1	J-61	M	798		1.9		
					削片	SB-1	H-62	M	855		1.6		
					削片	SB-1	J-61	M	755		1.9		
					曲面調整石器	SB-1	L-59	M	1950	241	16.8		
					削片	SB-1	K-60	M	1653		0.6		
					削片	SB-1	J-60	M	1754		1.0		
					細片	SB-1	J-60	M	1756		0.2		
					削片	SB-1	K-59	M	360		0.7		
					削片	SB-1	J-61	M	1787		1.5		
					削片	SB-1	J-61	M	318		2.8		
					細片	SB-1	J-60	M	624		0.3		
					細片	SB-1	J-60	M	1825		0.1		
					削片	SB-1	K-60	M	1649		0.5		
					削片	SB-1	L-59	M	1960		0.5		
					削片	SB-1	J-61	M	1143		0.9		
削片	SB-1	J-61	M	1788		0.3							
削片	SB-1	J-61	V	189		2.4							
削片	SB-1	K-60	M	994		1.5							
削片	SB-1	J-60	V	83		1.7							
細片	SB-1	J-60	V	96		0.2							
削片	SB-1	J-60	M	106		1.2							
削片	SB-1	I-60	V	126		0.8							
細片	SB-1	I-61	V	166		0.2							
削片	SB-1	I-61	M	200		2.2							
削片	SB-1	I-61	V	230		0.7							
削片	SB-1	J-61	M	235		0.5							
削片	SB-1	H-62	V	259		0.4							
削片	SB-1	K-59	M	485		0.9							
削片	SB-1	K-60	M	655		5.9							
削片	SB-1	J-60	M	678		1.8							
削片	SB-1	J-61	M	729		0.8							
削片	SB-1	I-61	F, M	793		2.4							
削片	SB-1	I-60	M	833		0.7							

表VI-20 掲載旧石器接合資料一覧(4)

種目	図版	掲載No.	材質・接合No.	点数	分類等	ブロック名	発掘区	層位	遺物番号	単品掲載No.	重量(g)	折接合No.	備考					
M-59	45	308	凝灰岩1 ・接合61	63	刮片	SB-1	J-62	M	846		1.3							
					刮片	SB-1	I-62	M	852		0.4							
					刮片	SB-1	F-63	M	899		0.6							
					刮片	SB-1	J-60	M	1042		1.6							
					刮片	SB-1	J-60	M	1119		2.9							
					刮片	SB-1	J-61	M	1152		1.1							
					刮片	SB-1	I-61	M	1194		2.2							
					刮片	SB-1	I-61	M	1201		0.4							
					刮片	SB-1	K-60	M	1247		3.3							
					細片	SB-1	L-59	M	1313		0.2							
					細片	SB-1	L-59	M	1317		0.1							
					斧形石器	SB-1	L-59	M	1369	276	34.2							
					刮片	SB-1	L-59	M	1427		0.1							
					刮片	SB-1	K-59	M	1500		2.1							
					刮片	SB-1	H-62	M	1542		0.4							
					刮片	SB-1	J-60	M	1551		0.3							
					刮片	SB-1	K-60	M	1598		0.7							
					刮片	SB-1	J-60	M	1744		0.3							
					刮片	SB-1	K-60	M	1806		2.7							
					刮片	SB-1	L-59	M	1905		0.6							
					刮片	SB-1	J-60	M	2035		0.8							
					刮片	SB-1	J-60	M	2064		1.0							
					二加工剥片	SB-1	J-61	M	2071	256	8.0							
					刮片	SB-1	J-60	M	2084		1.1							
					刮片	SB-1	I-62	V	3005		0.7							
					M-64	46	23	黒曜石9 ・接合90	6	接合資料	SB-2		V, M, M			2.2		
										細石刃	SB-2	H-63	M	13	3	0.4	1020	
細石刃	SB-2	H-63	M	14							0.2							
細石刃	SB-2	H-63	V	2						5	0.5							
細石刃	SB-2	I-63	M	6						16	0.3							
細石刃	SB-2	H-63	M	15						1	0.6	1046						
M-64	46	22	黒曜石9 ・接合91	2	接合資料	SB-2		V, M			0.6							
					細石刃	SB-2	I-63	V	7	8	0.3							
					細石刃	SB-2	H-63	M	20	7	0.4							
M-64	46	21	黒曜石9 ・接合12	2	接合資料	SB-2		V, M			1.2							
					細石刃	SB-2	H-63	V	8	6	0.5							
					細石刃	SB-2	I-63	M	4	2	0.7							
M-65	46	24	黒曜石11 ・接合11	3	接合資料	SB-2, 75, 77		V, F, V, M			5.2							
					刮片	SB-2	F-64	M	16	2	0.8							
					刮片	SB-2	F-64	FV	24	18	1.2							
					細石刃核	ブロック外	B-61	V	—	19	3.2							

Ⅶ章 アンカリトロー9遺跡の遺構と遺物

1. V層の遺構と遺物

(1) 概要 (図Ⅶ-1・2)

土坑1基(LP-1)と焼土3か所(LF-1・2・3)を確認した。LP-1及びLF-1・2は調査区北側の古砂丘台地に位置する。LF-3は調査区中央よりやや南東側の平坦部に位置する。

LP-1は約3/4が調査区外にあり、1/4を調査した。LF-1は小規模で、LP-1の凹みに落ち込むV層中で確認された。LF-2は台地の平坦部縁辺に位置し、LF-3はⅥ層が被熱する。

(2) 土坑

LP-1 (図Ⅶ-2・表Ⅶ-1・図版55)

位置：A-46・47区、B-47区

規模： $(1.74) \times (1.50) / (1.74) \times (1.14) / 0.66\text{m}$ 平面形：楕円形？

確認・調査：古砂丘台地上の包含層調査終了後、Ⅵ層上面で調査区外に連続する黒色土の堆積が認められた。遺構である可能性を考え調査区壁で土層断面を観察することとし、掘り進めたところ、平坦な面及び明瞭な壁の立ち上がりを確認したので遺構と認定した。遺構全体の約1/4が調査区内に位置する。東側部分は崖で壁の立ち上がりが認められず、台地が削平された時に消失したと推測する。また、凹みに流れ込んだと考えられるV層中でLF-1を確認した。

覆土：B・BY・YB層に分層し、さらに細分した。主体的な覆土はBY3層である。

坑底面：坑底の平面形は円形と推測され、概ね平坦である。

壁：概して緩やかに立ち上がる。

遺物：遺物の出土はなかった。

時期：出土遺物はなく時期を特定できない。層位的にはⅣ層の堆積以前に構築されているので、縄文時代晩期後葉以前と推測される。

(3) 焼土

LF-1 (図Ⅶ-2・表Ⅶ-1・図版55)

位置：A-47区

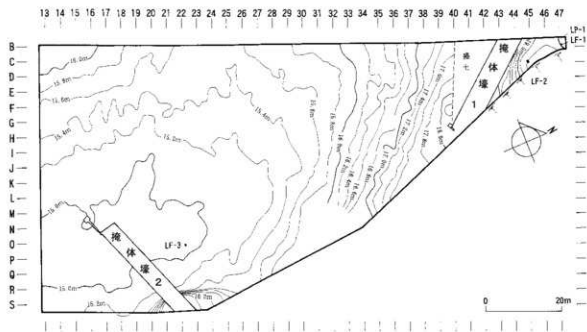
規模： $0.18 \times 0.12 / 0.05\text{m}$ 平面形：楕円形？ 被熱層：V層

確認・調査：古砂丘台地上に位置するLP-1に堆積するV層中で赤色土のまとまりを確認した。半截し断面を観察したところ赤色土がまとまって認められたので、焼土であると認定した。小規模であるため炉跡である可能性は低いと考えられる。

断面：図化していないが、厚み5cm程度で赤色土がまとまっていた。

遺物出土状況：遺物の出土はなかった。

時期：出土遺物はなく時期を特定できない。層位的にはⅣ層の堆積以前で縄文時代晩期後葉以前、LP-1よりも若干新しい判断される。



図Ⅶ-1 VII層上面地形測量図及び遺構位置図

LF-2 (図Ⅶ-2・表Ⅶ-1・図版55)

位置：B・C-44区

規模：0.74×0.12 / 0.05m 平面形：不整形 被熱層：V層

確認・調査：古砂丘台地上の包含層調査中、V層中で赤色土のまとまりを確認した。トレンチを設け断面を観察し、焼土を確認した。

断面形態：中央よりやや左側付近が厚く、両端部へと曲線的に収束する。

遺物出土状況：遺物の出土はなかった。

時期：出土遺物はなく時期を特定できない。層位的にはIV層の堆積以前であるので、縄文時代晩期後葉以前と推測される。

LF-3 (図Ⅶ-2・表Ⅶ-1・図版55)

位置：N-27区

規模：0.34×0.30 / 0.06m 平面形：不整形 被熱層：Ⅳ層

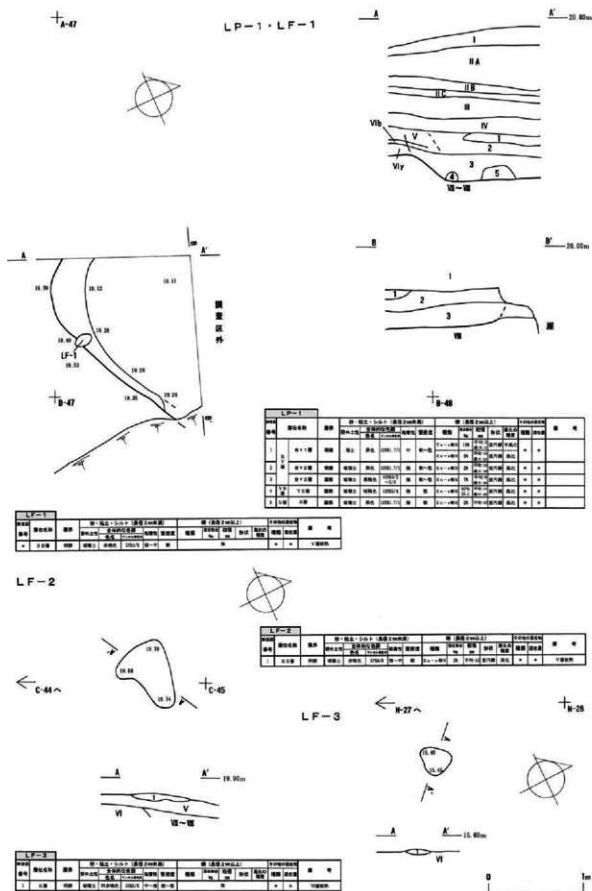
確認・調査：包含層調査中、Ⅳ層中で赤色土のまとまりを確認した。トレンチを設け断面を観察し、焼土を確認した。

断面形態：中央付近が最も厚く、両端部へと曲線的に収束する。

遺物出土状況：遺物の出土はなかった。

時期：出土遺物はなく時期を特定できない。層位的にはIV層の堆積以前であるので縄文時代晩期後葉以前と推測される。

(末光)



図Ⅶ-2 LP-1・LF-1・2・3

2. 包含層出土の遺物

(1) 概要 (図Ⅶ-3～9・表Ⅶ-2・3)

包含層から出土した遺物は土器141点、石器類69点、合計210点である。人力での包含層調査の方法については、Ⅲ章「調査の概要」で述べたとおり、V・M層の土量40%を対象としたものである。

包含層遺物の出土の傾向を示す目的で一次整理のデータ(遺物登録台帳)を用い、出土点数表(表Ⅶ-2・3)と出土分布図(図Ⅶ-3～9)を作成した。

なお、本文中で各遺物における特定の時期や器種等の出土割合や層位ごとの出土割合、掲載率を百分率で示した。

出土点数表(表Ⅶ-2・3)

*土器(表Ⅶ-2)

時期の内訳はⅢ群86点(61.0%)、Ⅳ群25点(17.7%)、Ⅴ群26点(18.4%)で、Ⅲ群が過半数を占める。

出土層位ごとの内訳はⅤ層出土が28点(19.9%)、Ⅳ層出土が111点(78.7%)で、Ⅳ層出土が約8割を占める。部位は各群ともに胴部が多く口縁部・底部破片は少ない。残存状態は磨耗のものではなく、Ⅲ群は小破片が多い。

包含層の土器はⅣ層からの出土が多く、縄文時代中期～晩期の遺物包含層である。

*石器類(表Ⅶ-3)

各石器群の内訳は旧石器群1点(1.4%)、剥片石器群32点(46.3%)、磨製石器群20点(約29.0%)、礫石器群5点(7.2%)、自然礫(レキ)12点(17.3%)である。剥片石器群が半数近くを占め、ついで自然礫が多い。

出土層位ごとの内訳はⅤ層出土が39点(56.5%)、Ⅳ層出土が28点(40.6%)で、土器の出土状況と異なりⅣ層出土に偏る傾向は認められない。

包含層の石器類は、出土点数が多いのが石鏃と磨製石斧である。フレイク・チップの出土が少ないことから、本遺跡で石器製作が行われた可能性は低いと考えられる。

出土分布図(図Ⅶ-3～9)

土器(図Ⅶ-3～5)

総点数・時期分類・層位・残存状態ごとの出土分布図を作成した。

「土器総点数」では出土が調査区の南側、さらに西側に多い。「Ⅲ群土器」はD-25区に集中がみられるが、多くは胴部の剥離及び小破片である。「Ⅳ群土器」はB-13・14区に多い。「Ⅴ群土器」はC-25区に多いが、散在的なあり方を示す。

「Ⅴ層出土土器」は「土器総点数」とほぼ同様なあり方を示す。「Ⅳ層出土土器」はD-25区に集中が認められるが、概ね散在的でその範囲は「Ⅴ層出土土器」より広い。

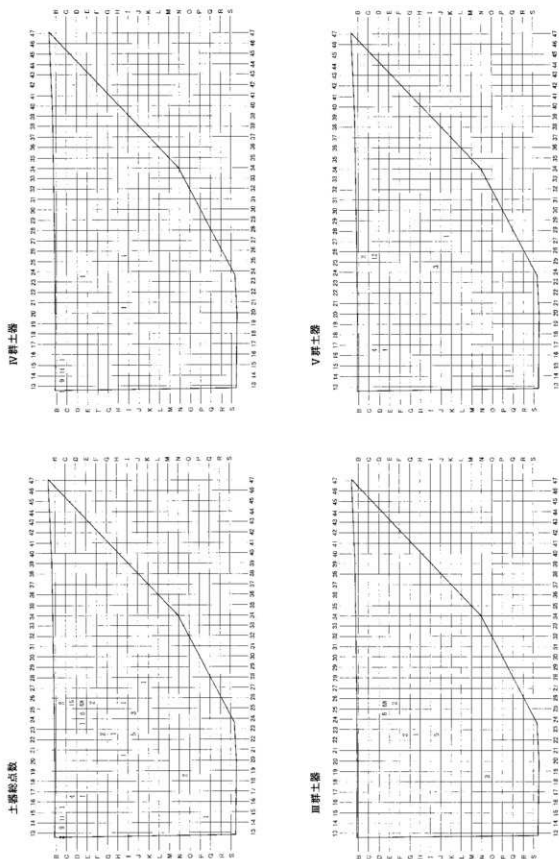
「良好」では「土器総点数」と同様なあり方を示す。「剥離」及び「小破片」ではD-25区に集中して認められる。

石器類(図Ⅶ-5～9)

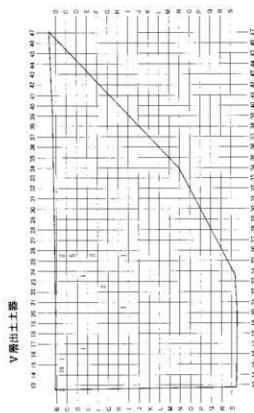
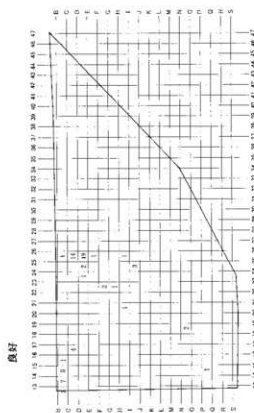
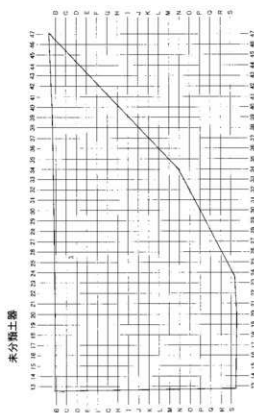
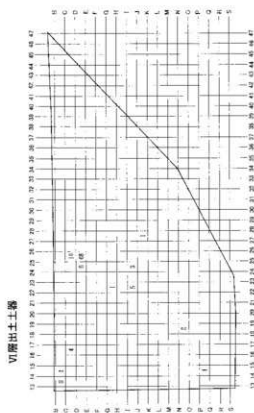
石器類総点数・群及び器種ごと・層位ごとの出土分布図を作成した。

「石器類総点数」では特に集中するグリッドも認められず、古砂丘台地も含め調査区のほぼ全体に分布が認められる。

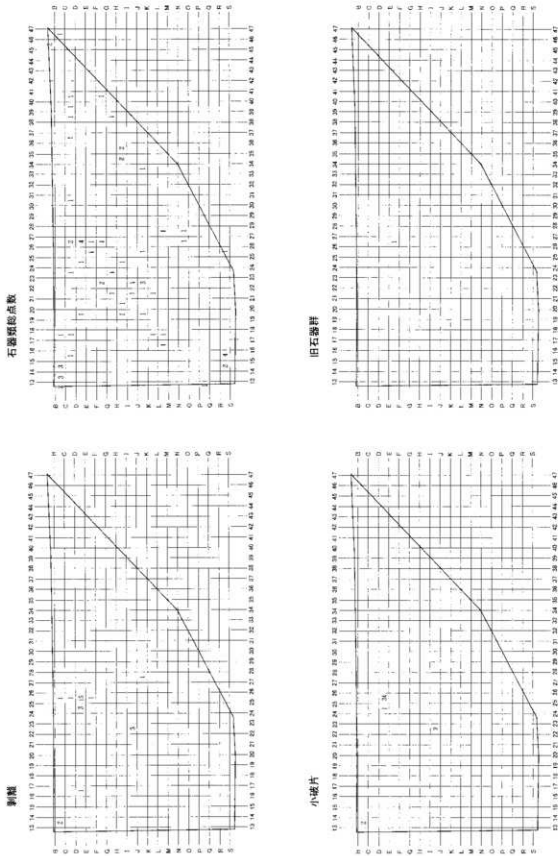
「旧石器群」はE-26区から1点の出土である。「剥片石器群」は調査区の北側と南側両部分で散在的で、28～38ラインは出土が認められない。「石鏃」は概ね「剥片石器群」と同様な出土のあり方



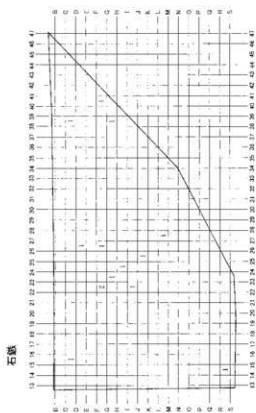
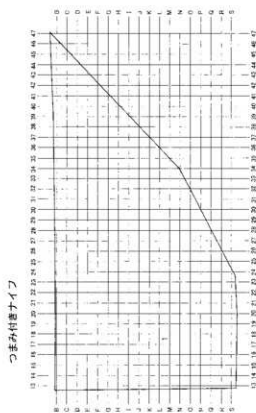
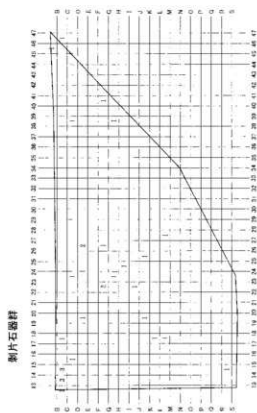
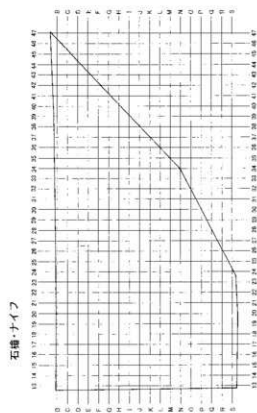
図Ⅷ-3 包含層出土遺物分布図(1)



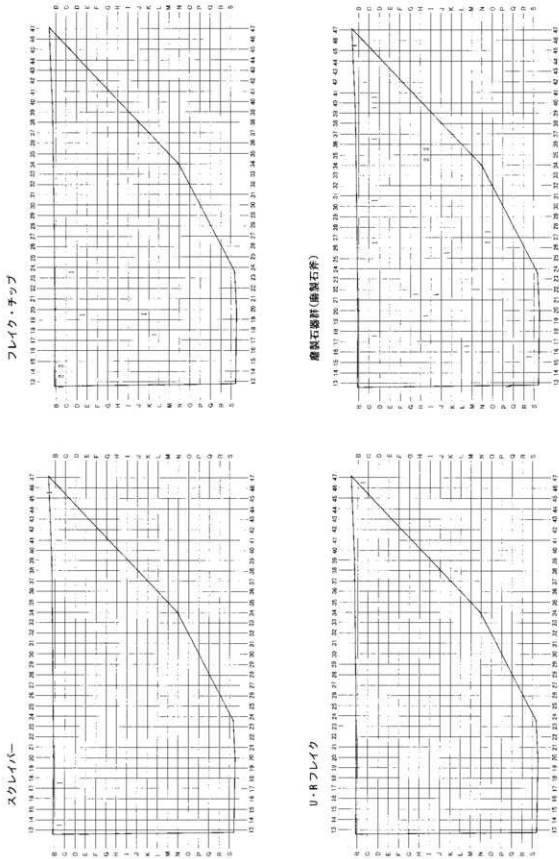
図Ⅷ-4 包含層出土遺物分布図(2)



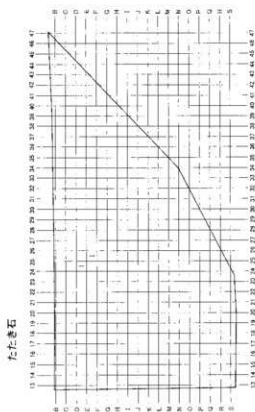
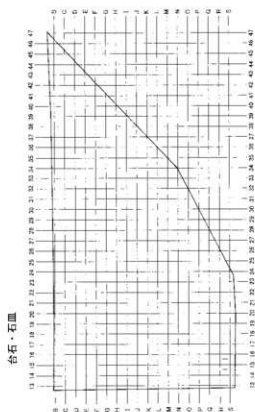
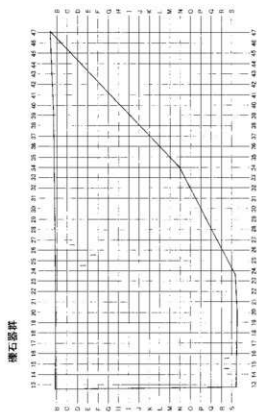
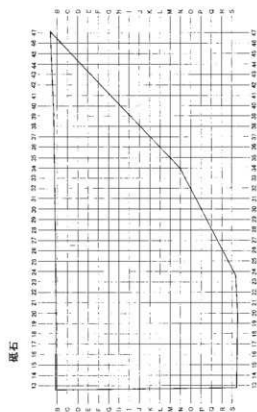
図Ⅷ-5 包含層出土遺物分布図(3)



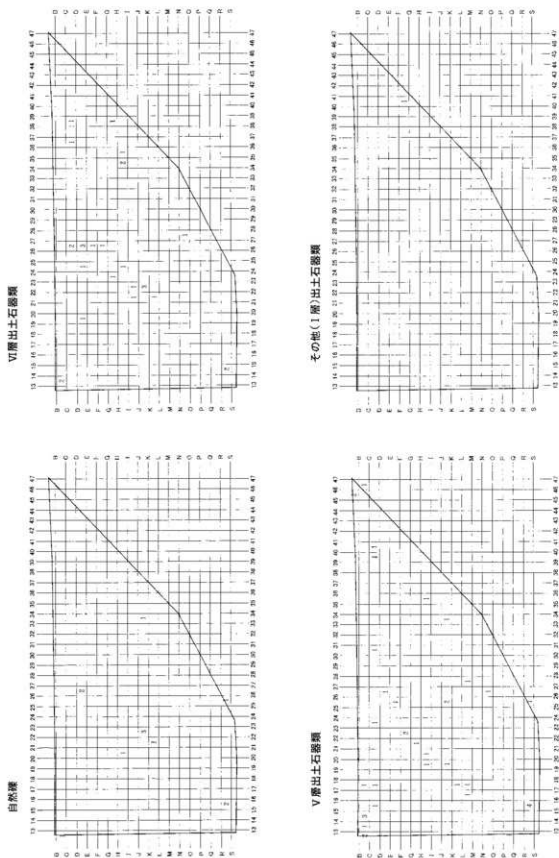
図Ⅷ-6 包含層出土遺物分布図(4)



図Ⅷ-7 包含層出土遺物分布図(5)



図Ⅷ-8 包含層出土遺物分布図(6)



図Ⅷ-9 包含層出土遺物分布図(7)

表Ⅶ-1 遺構規模等一覧

遺構名	図	図号	グリッド	構造層位 (被熱層)	平面形状	長軸(m) 北-南	短軸(m) 東-西	深さ (m)	色調	層厚	粘着性	堅密度	出土遺物	備考
LF-1	Ⅱ-2	55	A-44-B-47	V層	楕円形	0.74	0.12	0.05	赤褐色(SYR4.6)	0.12	*	*	なし	
LF-1	Ⅱ-2	55	A-47	V層	楕円形	0.74	0.12	0.05	赤褐色(SYR4.6)	0.12	*	*	なし	LF-1より新しい
LF-2	Ⅱ-2	55	B-C-44	V層	不整形	0.74	0.12	0.05	赤褐色(SYR4.6)	0.12	*	*	なし	
LF-3	Ⅱ-2	55	N-27	V層	不整形	0.34	0.30	0.08	明赤褐色(GYR5.0)	0.30	*	*	中～強軟	なし

表Ⅶ-2 包合層出土石器点数表

時期	遺物種別/層位		V層	V層	その他	合計		
	部位	保存状態						
Ⅲ群	口縁部	良好	小計	2	小計	2	小計	
		剥離				0		
		磨耗				0		
		小破片	0	2	0	2	0	
		良好	2	小計	2	小計	2	小計
		剥離					0	
	底部	剥離				0		
		磨耗	2	0	0	2	0	
		小破片				0		
		良好	1	小計	22	小計	23	小計
		剥離					0	
		磨耗	1	小計	21	小計	22	小計
胴部	剥離				0			
	磨耗	2	57	80	0	82	82	
	小破片							
	良好							
	剥離	小計	小計	小計	小計	小計		
	磨耗					0		
不明 その他	剥離				0			
	磨耗	0	0	0	0	0		
	小破片							
	良好							
	剥離	小計	小計	小計	小計	小計		
	磨耗					0		
小計			4	82	0	86		
Ⅳ群	口縁部	良好	1	小計	小計	小計	小計	
		剥離						
		磨耗						
		小破片	1	0	0	1	0	
		良好						
		剥離	小計	小計	小計	小計	小計	
	底部	剥離				0		
		磨耗	0	0	0	0	0	
		小破片						
		良好	12	小計	8	小計	20	小計
		剥離					2	
		磨耗	2	14	10	0	24	24
胴部	剥離				0			
	磨耗	2	2	0	4	4		
	小破片							
	良好							
	剥離	小計	小計	小計	小計	小計		
	磨耗					0		
不明 その他	剥離				0			
	磨耗	0	0	0	0	0		
	小破片							
	良好							
	剥離	小計	小計	小計	小計	小計		
	磨耗					0		
小計			15	10	0	25		
Ⅴ群	口縁部	良好	小計	3	小計	3	小計	
		剥離						
		磨耗						
		小破片	0	3	0	3	0	
		良好						
		剥離	小計	小計	小計	小計	小計	
	底部	剥離	1	小計	小計	小計	小計	
		磨耗	1	1	0	2	2	
		小破片						
		良好	5	小計	11	小計	16	小計
		剥離	1	2	小計	2	小計	5
		磨耗					0	
胴部	剥離				0			
	磨耗	6	13	2	21	21		
	小破片							
	良好							
	剥離	小計	小計	小計	小計	小計		
	磨耗					0		
不明 その他	剥離				0			
	磨耗	0	0	0	0	0		
	小破片							
	良好							
	剥離	小計	小計	小計	小計	小計		
	磨耗					0		
小計			8	16	2	26		
未分類	口縁部	良好	小計	小計	小計	小計	小計	
		剥離						
		磨耗						
		小破片	0	0	0	0	0	
		良好						
		剥離	小計	小計	小計	小計	小計	
	底部	剥離				0		
		磨耗	0	0	0	0	0	
		小破片	0	0	0	0	0	
		良好						
		剥離	小計	小計	小計	小計	小計	
		磨耗					0	
胴部	剥離	1	小計	3	小計	4	小計	
	磨耗	1	3	0	4	4		
	小破片							
	良好							
	剥離	小計	小計	小計	小計	小計		
	磨耗					0		
不明 その他	剥離				0			
	磨耗	0	0	0	0	0		
	小破片							
	良好							
	剥離	小計	小計	小計	小計	小計		
	磨耗					0		
小計			1	3	0	4		
土製品						0		
合計			26	111	2	141		

表Ⅶ-3 包合層出土石器類点数表

群	遺物種別/層位		V層	V層	その他	合計	
	種別	保存状態					
旧石器群	R S ラウンド スクレイパー	磨石	小計	1	小計	1	小計
		磨石					
		半形	0	1	0	1	0
		片					
		良好					
		剥離	小計	小計	小計	小計	小計
	旧石器群合計	剥離				0	
		磨石	2	2	小計	2	小計
		半形	1	5	2	8	1
		片					0
		良好					0
		磨石	小計	小計	小計	小計	小計
石槌	剥離				0		
	磨石	1	1	0	2	2	
	半形						
	片	1	1	0	2	1	
	良好						
	剥離	小計	小計	小計	小計	小計	
つまみ付きナイフ	剥離	1	小計	小計	小計	小計	
	磨石						
	半形						
	片	1	1	0	2	1	
	良好						
	剥離	小計	小計	小計	小計	小計	
スクレイパー	剥離	1	小計	小計	小計	小計	
	磨石	1	1	0	2	2	
	半形						
	片	2	1	0	3	0	
	良好						
	剥離	小計	小計	小計	小計	小計	
U・Rフレイク	剥離				0		
	磨石	1	1	0	2	2	
	半形						
	片						
	良好						
	剥離	小計	小計	小計	小計	小計	
フリック・チップ	剥離				0		
	磨石	8	2	1	11	11	
	半形						
	片						
	良好						
	剥離	小計	小計	小計	小計	小計	
原石	剥離				0		
	磨石	18	11	2	31	31	
	半形						
	片						
	良好						
	剥離	小計	小計	小計	小計	小計	
磨製石器群	磨製石片	剥離	小計	小計	小計	小計	小計
		磨石					
		半形	3	13	7	23	20
		片	7	3	0	10	10
		良好					
		剥離	小計	小計	小計	小計	小計
磨製石器群合計	剥離				0		
	磨石	13	7	0	20	20	
	半形						
	片						
	良好						
	剥離	小計	小計	小計	小計	小計	
礫石器群	たつき石	剥離	小計	小計	小計	小計	小計
		磨石					
		半形	1	1	1	3	2
		片	1	1	0	2	2
		良好					
		剥離	小計	小計	小計	小計	小計
礫石	剥離	1	小計	小計	小計	小計	
	磨石						
	半形	0	1	0	1	1	
	片						
	良好						
	剥離	小計	小計	小計	小計	小計	
台石・石皿	剥離	小計	小計	小計	小計	小計	
	磨石						
	半形						
	片	1	1	1	3	2	
	良好						
	剥離	小計	小計	小計	小計	小計	
礫石器群合計	剥離				0		
	磨石	2	3	0	5	5	
	半形	1	1	1	3	2	
	片	1	1	0	2	2	
	良好						
	剥離	小計	小計	小計	小計	小計	
自然礫	剥離				0		
	磨石	5	5	0	10	10	
	半形						
	片						
	良好						
	剥離	小計	小計	小計	小計	小計	
自然礫合計	剥離				0		
	磨石	6	6	0	12	12	
	半形						
	片						
	良好						
	剥離	小計	小計	小計	小計	小計	
合計			39	28	2	69	

を示す。「石槍・ナイフ」はD-26区から1点の出土である。「つまみ付きナイフ」もL-17区から1点の出土である。「スクレイパー」は調査区南西側部分と北側の古砂丘上の段丘で出土が認められる。「U・Rフレイク」は古砂丘上の段丘B-46区から1点の出土である。「フレイク・チップ」は調査区南西側部分に散在的に認められる。「磨製石器群(磨製石斧)」は調査区全体に散在的に認められる。「礫石器群」ではC-E-24~26区側と、R-14・15区の二つに分布が分かれる。「たたき石」はD-24・E-25区からの出土である。「砥石」はC-26区から1点の出土である。「台石・石皿」は調査区南東側部分に認められる。「自然礫(レキ)」は散在的に分布する。

「V層出土石器類」及び「M層出土石器類」では調査区全体に散在的に認められる。

遺物の分布のあり方について、次のようにまとめられる。土器は調査区の北側部分では全く認められず、散在的であるが調査区全体に分布する石器類とのあり方と対照的である。出土のあり方から特定の土器群と石器類の共存関係等は想定し難い。

(2) 破片土器 (図Ⅶ-10・表Ⅶ-4・図版56)

包含層出土の土器の総点数は141点で復原個体はない。破片土器は接合破片総数が33点で、掲載率は23.4%である。

1~3は同一個体である。1・2は口縁部で、口唇部直下の器面には波形を呈する粘土紐が貼り付けられ、その上にLの燃紐による押圧縄文が認められる。器面にはLとRを並列させた縄線文が施される。3の地文はR L斜行縄文である。4は底部で器壁が厚く繊維を多く含む。5は胴部でL R斜行縄文が整然と施される。6はL R斜行縄文地に綾絡文がみられる。7・8は外面に不整な条が観察され、7は内面が剥離する。14は底部破片で胴部にL R縄文がみられる。

1~8・14はⅢ群と判断され、1~3はa類の円筒土器上層式cあるいはd式、4・5・14はb類の萩ヶ岡式と考えられる。

9は波状口縁で無文である。10・11は沈線文により縄文地と無文地が区画され、無文部分に条が観察され、磨消縄文で消し残された部分と考えられる。12はL R縄文地に水平横線する複数の沈線文がみられ、これらを切るように刺突文が縦位に施される。

9~12はⅣ群と考えられ、9・12はb類の手稲式に相当し、10・11はⅣ群c類と推測する。

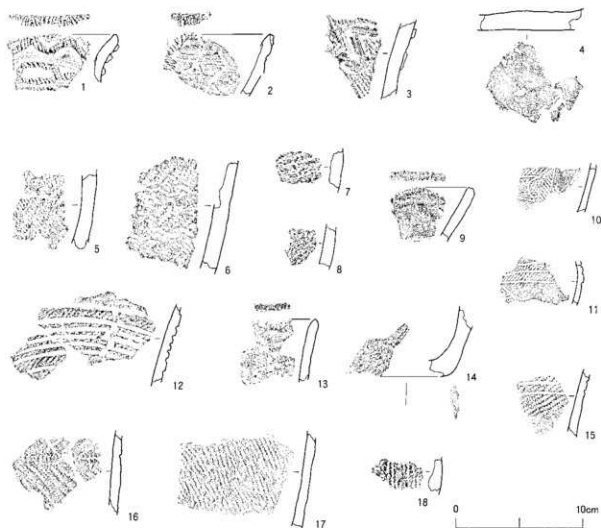
13は口唇部直下の器面が無文で、その下位には浅い条が観察される。15はL R縄文地に平行する沈線文が施される。16は燃りの異なる2段の原体を用いた羽状縄文が観察され、その境に1段Rの縄線文が横位に施される。17は器面全体にR L縄文が縦走気味に施される。18は内面が剥離し外面の施文はLの燃糸文と推測される。13・15~18はⅤ群c類のタンネットウL式と考えられる。

(3) 石器類 (図Ⅶ-11・表Ⅶ-5~8・図版56)

石器類各器種の出土割合は、旧石器群はラウンドスクレイパー(RS)1点(1.4%)、剥片石器群は石鎌14点(20.2%)、石槍・ナイフ及びつまみ付きナイフがともに1点(1.4%)、スクレイパー3点(4.3%)、フレイク・チップ11点(15.9%)である。磨製石器群は磨製石斧が20点(29.0%)、礫石器群はたたき石2点(2.9%)、砥石1点(1.4%)、台石2点(2.9%)である。石器類の掲載率は26.0%である。

*旧石器群

1は黒曜石製のラウンドスクレイパー(RS)である。背面に礫表皮面を残し、割れ口の腹面側の縁辺部には微細剥落痕が認められる。



図VII-10 包含層出土破片土器

* 剥片石器群

「石鎌」

V層から5点、VI層から8点、その他から1点出土した。残存状態の割合は完形35.7%、準完形42.8%、半形21.4%で掲載率は50%である。

2は概ね正三角形を呈し基部が内湾する。3は二等辺三角形を呈し背腹両面に剥離面を広く残す。4は有茎のもので背面左側縁部を破損する。5は小型のものである。6は有茎で背面左側端部を破損する。7は頁岩製、有茎で先端部を破損する。8は基部側を大きく破損する。

「石槍・ナイフ」

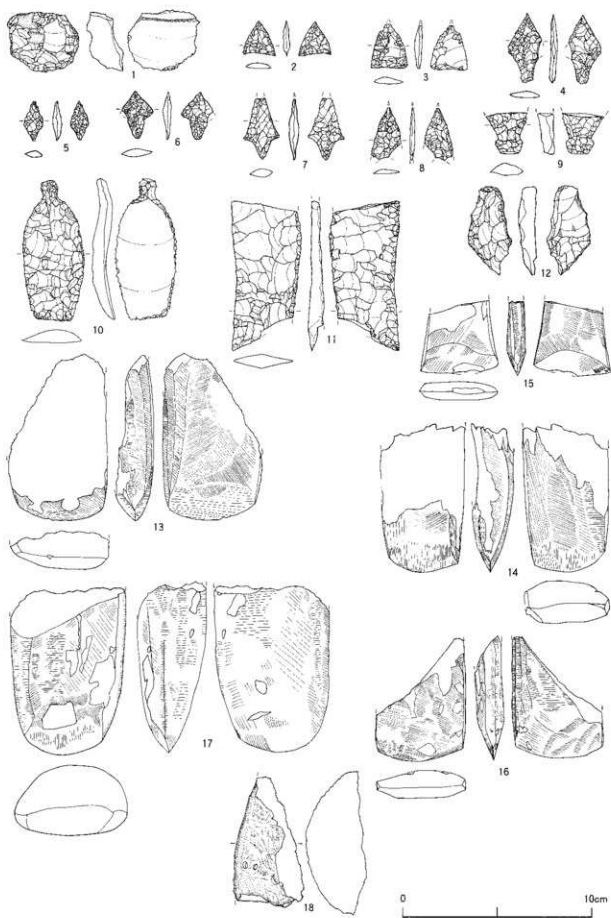
V層から残存状態が片のものが1点出土した。

9は黒曜石製で基部、両側縁には明瞭に内湾する部分が認められる。

「つまみ付きナイフ」

V層から残存状態が完形のもものが1点出土した。

10は頁岩製で両側縁が曲線的な形態を呈する。基部側は両面調整である。



図Ⅶ-11 包含層出土石器類

「スクレイパー」

V層から2点、VI層から1点出土した。残存状態の割合は完形33.3%、準完形66.7%で、掲載率は66.7%である。

11は頁岩製で上下両端部を破損し、種状剥離がみられる。12は左右非対称で両側縁部には微細な剥離痕が観察される。

＊磨製石器群

磨製石器群は磨製石斧のみで、残存状態の割合は準完形15%、半形35%、片50%で、掲載率は25%である。

「磨製石斧」

13は表面が大きく剥落し、石材は蛇紋岩と推測される。14は破損と剥落痕が認められ、石材は片岩である。15・16は擦切手法により製作されたと判断され、15は基部側を破損し、刃部に刃こぼれが認められる。16は刃部側おおよそ1/3が残存する。17は厚みのあるもので基部側を破損する。

＊礫石器群

V層から2点、VI層から3点出土した。たたき石（片）、砥石（片）は断定できないので掲載していない。

「台石」

18は台石の破片と考えられ、人為的な使用により平坦化したと推測される部分がある。（未光）

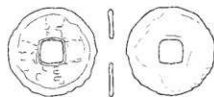
（4）古銭（図Ⅶ-12・図版55）

銅銭（開元通寶）

径23.2mm、厚1.1mm、重2.11gと小型の銭。表裏面とも平滑で、表は白緑、裏は黒緑の錆に覆われている。そのため文字や外縁・孔縁が不鮮明で、かろうじて「開元通寶」と読み取れる。蛍光X線分析を行ったところ、表でCu67.1%・Pb2.8%・Sn1.1%・Fe1.0%・Ca11.8%、裏でCu82.4%・Pb未検出・Sn1.3%・Fe0.7%・Ca0.9%という結果を得た。錆びた面に対しての分析ではあるが、ほぼ銅のみで铸られているものとみられる。「開元通寶」は唐621年初铸の渡来銭であるが、本品は大きさと不鮮明な文字や成分から、模铸銭と判断できる。

本品は掩体壕2の付属構造1から瓶や缶などとともに出土した物である。しかし、当遺跡の南北200～300mには、祝梅川上田遺跡・アンカリトー7遺跡といったアイヌ文化期の集落跡があり、特に前者では15枚の銅銭が出土している。両遺跡を結ぶ位置にある当遺跡から出土した銅銭であるため、掩体壕2の付属構造1が埋められた際に混入したアイヌ文化期相当の遺物として取り扱うこととした。

（三浦）



図Ⅶ-12 包含層出土古銭

表Ⅶ-6 包含層出土剥片石器群観察表

掲載			出土地点	層位	器種	計測値 (cm)			重量 (g)	石材		残存形態	特徴的な使用・加工痕	備考
図	番号	図版				最大長	最大幅	最大厚		名称	色調・特徴			
図Ⅶ-11	2	56	C-15ⅠK	V	石鏃	1.8	1.7	0.3	0.6	黒曜石	やや透明	完形	微細剥落痕	
図Ⅶ-11	3	56	L-27ⅠK	V	石鏃	2.3	1.9	0.4	1.5	黒曜石	*	完形	微細剥落痕	破損
図Ⅶ-11	4	56	R-14ⅠK	Ⅵ	石鏃	3.6	(1.8)	0.4	(1.4)	黒曜石	少球果含有	準完形	微細剥落痕	破損
図Ⅶ-11	5	56	F-40ⅠK	I	石鏃	2.1	1.0	0.4	0.6	黒曜石	*	完形	微細剥落痕	
図Ⅶ-11	6	56	H-24ⅠK	Ⅴ	石鏃	2.5	(1.7)	(0.4)	(1.0)	黒曜石	少球果含有	準完形	微細剥落痕	破損
図Ⅶ-11	7	56	F-22ⅠK	V	石鏃	(3.2)	(1.9)	(0.4)	(1.9)	頁岩	灰色(G5Y4/1)	準完形	微細剥落痕	破損
図Ⅶ-11	8	56	F-22ⅠK	V	石鏃	(2.8)	(1.5)	(0.2)	(0.8)	黒曜石	緑灰色(G7Y5/1)	準完形	微細剥落痕	破損
図Ⅶ-11	9	56	D-26ⅠK	V	石槍・ナイフ	(2.2)	(2.2)	(0.9)	(3.2)	黒曜石	*	片	微細剥落痕	破損
図Ⅶ-11	10	56	L-17ⅠK	V	つまみ付きナイフ	7.4	3.1	0.8	17.7	頁岩	灰色(GY5/1)	完形	微細剥落痕	
図Ⅶ-11	11	56	B-17ⅠK	V	スクレイパー	(7.9)	(3.6)	(0.7)	(19.3)	頁岩	緑灰色(G7Y5/2)	準完形	微細剥落痕	破損
図Ⅶ-11	12	56	A-45ⅠK	V	スクレイパー	4.7	2.2	0.9	7.1	黒曜石	少球果含有	完形	微細剥落痕	

表Ⅶ-7 包含層出土磨製石器群観察表

掲載			出土地点	層位	器種	計測値 (cm)			重量 (g)	石材		残存形態	特徴的な使用・加工痕	備考	
図	番号	図版				最大長	最大幅	最大厚		名称	色調・特徴				
図Ⅶ-11	13	56	N-27ⅠK	Ⅵ	磨製石斧	(8.8)	(6.3)	(2.0)	(94.8)	蛇紋岩	純灰色(N4/)	準完形	破損	研磨痕	
図Ⅶ-11	14	56	R-15ⅠK	V	磨製石斧	(7.8)	(4.5)	(2.2)	(109.5)	片岩	青灰色(10BG5/1)	半形	破損	研磨痕	
図Ⅶ-11	15	56	H-19ⅠK	V	磨製石斧	(3.8)	(4.0)	(0.9)	(24.8)	緑色肥田	緑灰色(GG5/1)	半形	破損	剥落痕	研磨痕
図Ⅶ-11	16	56	I-21ⅠK	Ⅵ	磨製石斧	(6.4)	(4.7)	(1.4)	(47.9)	緑色肥田	オリーブ灰色(10Y6/2)	半形	破損	剥落痕	研磨痕
図Ⅶ-11	17	56	L-16ⅠK	V	磨製石斧	(8.7)	(6.1)	(3.6)	(241.2)	緑色肥田	青灰色(BG5/1)	準完形	破損	研磨痕	

表Ⅶ-8 包含層出土礫石器群観察表

掲載			出土地点	層位	破片数		器種	計測値 (cm)			重量 (g)	石材		残存形態	特徴的な使用・加工痕	備考
図	番号	図版			小計	合計		最大長	最大幅	最大厚		名称	色調・特徴			
図Ⅶ-11	18	56	R-14ⅠK	Ⅵ	1	1	台石	(6.9)	(3.8)	(3.0)	(208.2)	安山岩	*	片	平坦化面	破損

VIII 自然科学的分析

1. アンカリト-7遺跡における放射性炭素年代 (AMS測定)

株加速器分析研究所

(1) 測定対象試料

アンカリト-7遺跡は、北海道千歳市祝梅（北緯42° 50' 38"、東経141° 41' 45"）に所在する。測定対象試料は、UH-1 HF-1 (灰)から出土した木炭 (An7-1 : IAAA-82655)、UH-3 HF-1 (焼土)から出土した木炭 (An7-2 : IAAA-82656)、UH-4 HF-1 (灰)から出土した木炭 (An7-3 : IAAA-82657)、UH-5 HF-2 (灰)から出土した木炭 (An7-4 : IAAA-82658)、UH-6 HF-1 (焼土)から出土した木炭 (An7-5 : IAAA-82659)、UH-7 HF-3 (焼土)から出土した木炭 (An7-6 : IAAA-82660)、UH-8 HF-2 (焼土)から出土した木炭 (An7-7 : IAAA-82661)、UH-9 HF-1 (焼土)から出土した木炭 (An7-8 : IAAA-82662)、UA-1 灰から出土した木炭 (An7-9 : IAAA-82663)、UA-2 周辺から出土した木炭 (An7-10 : IAAA-82664)、UA-2 灰4から出土した木炭 (An7-11 : IAAA-82665)、UA-2 周辺から出土した木炭 (An7-12 : IAAA-82666)、SB-1・Ⅱ層から出土した木炭3点 (An7-13~15 : IAAA-82667~82669)、合計15点である。

(2) 測定の意義

住居跡の年代を推定し、アイヌ文化期の集落の変遷を推定する。また、広郷型細石刃核を伴う石器群の年代を明らかにする。

(3) 化学処理工程

- (1) メス・ピンセットを使い、根・土等の表面的な不純物を取り除く。
- (2) 酸処理、アルカリ処理、酸処理 (AAA : Acid Alkali Acid) により内面的な不純物を取り除く。最初の酸処理では1Nの塩酸 (80℃) を用いて数時間処理する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。アルカリ処理では1Nの水酸化ナトリウム水溶液 (80℃) を用いて数時間処理する。なお、AAA処理において、アルカリ濃度が1N未満の場合、表中にAaAと記載する。その後、超純水で中性になるまで希釈する。最後の酸処理では1Nの塩酸 (80℃) を用いて数時間処理した後、超純水で中性になるまで希釈し、90℃で乾燥する。希釈の際には、遠心分離機を使用する。
- (3) 試料を酸化銅と共に石英管に詰め、真空下で封じ切り、500℃で30分、850℃で2時間加熱する。
- (4) 液体窒素とエタノール・ドライアイスの温度差を利用し、真空ラインで二酸化炭素 (CO₂) を精製する。
- (5) 精製した二酸化炭素から鉄を触媒として炭素のみを抽出 (水素で還元) し、グラファイトを作製する。
- (6) グラファイトを内径1mmのカソードに詰め、それをホイールにはめ込み、加速器に装着する。

(4) 測定方法

測定機器は、3MVタンデム加速器をベースとした¹³C-AMS専用装置 (NEC Pelletron 9SDH-2) を使用する。測定では、米国国立標準局 (NIST) から提供されたシュウ酸 (Hox II) を標準試料とする。この標準試料とバックグラウンド試料の測定も同時に実施する。

(5) 算出方法

- (1) 年代値の算出には、Libbyの半減期(5568年)を使用する(Stuiver and Polash 1977)。
- (2) ^{14}C 年代(Libby Age: yrBP)は、過去の大気中 ^{14}C 濃度が一定であったと仮定して測定され、1950年を基準年(0 yrBP)として遡る年代である。この値は、 $\delta^{13}\text{C}$ によって補正された値である。 ^{14}C 年代と誤差は、1桁目を四捨五入して10年単位で表示される。また、 ^{14}C 年代の誤差($\pm 1\sigma$)は、試料の ^{14}C 年代がその誤差範囲に入る確率が68.2%であることを意味する。
- (3) $\delta^{13}\text{C}$ は、試料炭素の ^{13}C 濃度($^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$)を測定し、基準試料からのずれを示した値である。同位体比は、いずれも基準値からのずれを千分偏差(‰)で表される。測定には質量分析計あるいは加速器を用いる。加速器により $^{13}\text{C}/^{12}\text{C}$ を測定した場合には表中に(AMS)と注記する。
- (4) pMC (percent Modern Carbon)は、標準現代炭素に対する試料炭素の ^{14}C 濃度の割合である。
- (5) 暦年較正年代とは、年代が既知の試料の ^{14}C 濃度を元に描かれた較正曲線と照らし合わせ、過去の ^{14}C 濃度変化などを補正し、実年代に近づけた値である。暦年較正年代は、 ^{14}C 年代に対応する較正曲線上の暦年代範囲であり、1標準偏差($1\sigma=68.2\%$)あるいは2標準偏差($2\sigma=95.4\%$)で表示される。暦年較正プログラムに入力される値は、下一桁を四捨五入しない ^{14}C 年代値である。なお、較正曲線および較正プログラムは、データの蓄積によって更新される。また、プログラムの種類によっても結果が異なるため、年代の活用にあたってはその種類とバージョンを確認する必要がある。ここでは、暦年較正年代の計算に、IntCal10データベース(Reimer et al 2004)を用い、0xCalv4.0較正プログラム(Bronk Ramsey 1995 Bronk Ramsey 2001 Bronk Ramsey, van der Plicht and Weninger 2001)を使用した。

(6) 測定結果

^{14}C 年代は、UH-1 HF-1 (灰)の木炭が $460\pm 30\text{yrBP}$ 、UH-3 HF-1 (焼土)の木炭が $650\pm 30\text{yrBP}$ 、UH-4 HF-1 (灰)の木炭が $270\pm 30\text{yrBP}$ 、UH-5 HF-2 (灰)の木炭が $310\pm 30\text{yrBP}$ 、UH-6 HF-1 (焼土)の木炭が $290\pm 30\text{yrBP}$ 、UH-7 HF-3 (焼土)の木炭が $340\pm 30\text{yrBP}$ 、UH-8 HF-2 (焼土)の木炭が $370\pm 30\text{yrBP}$ 、UH-9 HF-1 (焼土)の木炭が $480\pm 30\text{yrBP}$ である。UA-1 灰の木炭が $610\pm 30\text{yrBP}$ 、UA-2 周辺の木炭が $360\pm 30\text{yrBP}$ (An 7-10)、UA-2 灰4の木炭が $430\pm 30\text{yrBP}$ (An 7-11)、UA-2 周辺の木炭が $320\pm 30\text{yrBP}$ (An 7-12)である。それぞれ年代値に差があり、暦年較正年代(1σ)でも13世紀末から18世紀までの範囲である。

SB-1・Ⅷ層の木炭3点は $14950\pm 60\text{yrBP}$ 、 $14080\pm 60\text{yrBP}$ 、 $17760\pm 80\text{yrBP}$ である。3点の年代は大きく異なり、遺構の年代として断定できる測定結果ではない。

試料の炭素含有率は高く、すべて約60%以上であった。化学処理および測定内容に問題は無く、年代値自体の信頼性を保証するものである。

表Ⅶ-1 放射性炭素年代測定結果一覽

測定番号	試料名	採取場所	試料 形態	処理 方法	$\delta^{13}\text{C}$ (‰) (AMS)	$\delta^{13}\text{C}$ 補正あり	
						Libby Age (yrBP)	pMC (%)
IAAA-82655	An7-1	UH-1 HF-1(灰)	木炭	AAA	-25.95 ± 0.86	460 ± 30	94.49 ± 0.36
IAAA-82656	An7-2	UH-3 HF-1(焼土)	木炭	AaA	-30.60 ± 0.77	650 ± 30	92.25 ± 0.37
IAAA-82657	An7-3	UH-4 HF-1(灰)	木炭	AaA	-25.05 ± 0.71	270 ± 30	96.73 ± 0.37
IAAA-82658	An7-4	UH-5 HF-2(灰)	木炭	AAA	-26.61 ± 0.52	310 ± 30	96.16 ± 0.34
IAAA-82659	An7-5	UH-6 HF-1(焼土)	木炭	AAA	-26.21 ± 0.81	290 ± 30	96.42 ± 0.38
IAAA-82660	An7-6	UH-7 HF-3(焼土)	木炭	AAA	-26.38 ± 0.65	340 ± 30	95.81 ± 0.37
IAAA-82661	An7-7	UH-8 HF-2(焼土)	木炭	AAA	-26.96 ± 0.89	370 ± 30	95.51 ± 0.36
IAAA-82662	An7-8	UH-9 HF-1(焼土)	木炭	AAA	-26.99 ± 0.62	480 ± 30	94.25 ± 0.38
IAAA-82663	An7-9	UA-1 灰 中位	木炭	AAA	-29.25 ± 0.52	610 ± 30	92.69 ± 0.37
IAAA-82664	An7-10	UA-2 Ⅲ層(H-4)	木炭	AaA	-29.68 ± 0.66	360 ± 30	95.59 ± 0.39
IAAA-82665	An7-11	UA-2 灰4	木炭	AAA	-27.34 ± 0.72	430 ± 30	94.77 ± 0.37
IAAA-82666	An7-12	UA-2 Ⅲ層(C-16)	木炭	AaA	-28.55 ± 0.61	320 ± 30	96.10 ± 0.39
IAAA-82667	An7-13	SB-1 Ⅶ層	木炭	AAA	-27.48 ± 0.43	14,950 ± 60	15.55 ± 0.12
IAAA-82668	An7-14	SB-1 Ⅶ層	木炭	AAA	-24.84 ± 0.55	14,080 ± 60	17.33 ± 0.13
IAAA-82669	An7-15	SB-1 Ⅶ層	木炭	AAA	-27.75 ± 0.72	17,760 ± 80	10.96 ± 0.11

[#2715]

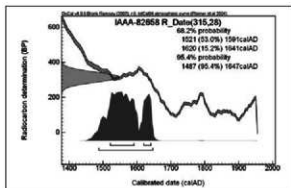
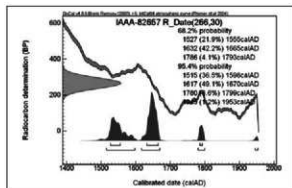
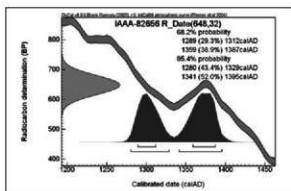
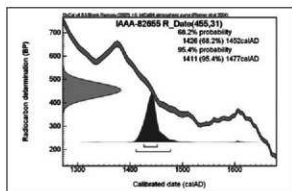
表Ⅶ-2 放射性炭素年代測定結果(1)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年較正用(yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-82655	470 ± 30	94.30 ± 0.32	455 ± 31	1426AD - 1452AD (68.2%)	1411AD - 1477AD (95.4%)
IAAA-82656	740 ± 30	91.19 ± 0.33	648 ± 32	1289AD - 1312AD (29.3%) 1359AD - 1387AD (38.9%)	1280AD - 1329AD (43.4%) 1341AD - 1395AD (52.0%)
IAAA-82657	270 ± 30	96.72 ± 0.34	266 ± 30	1527AD - 1555AD (21.9%) 1632AD - 1665AD (42.2%) 1786AD - 1793AD (4.1%)	1515AD - 1598AD (36.5%) 1617AD - 1670AD (49.1%) 1780AD - 1799AD (8.6%) 1945AD - 1953AD (1.2%)
IAAA-82658	340 ± 30	95.84 ± 0.32	315 ± 28	1521AD - 1591AD (53.0%) 1620AD - 1641AD (15.2%)	1487AD - 1647AD (95.4%)
IAAA-82659	310 ± 30	96.18 ± 0.35	292 ± 31	1522AD - 1575AD (44.0%) 1584AD - 1590AD (3.4%) 1625AD - 1650AD (20.8%)	1491AD - 1603AD (65.6%) 1613AD - 1662AD (29.8%)
IAAA-82660	370 ± 30	95.54 ± 0.35	343 ± 31	1488AD - 1525AD (23.8%) 1557AD - 1632AD (44.4%)	1466AD - 1640AD (95.4%)

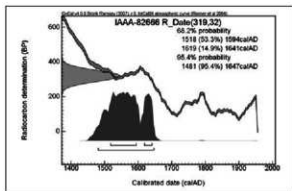
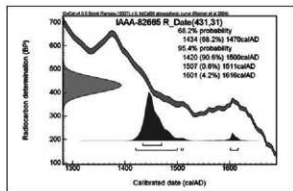
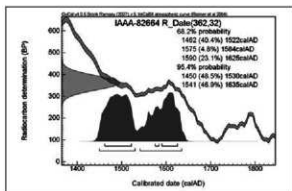
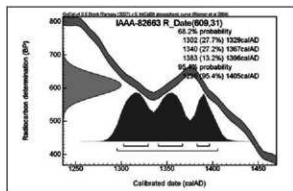
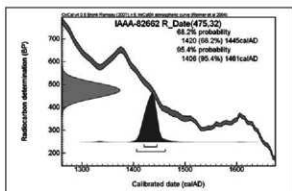
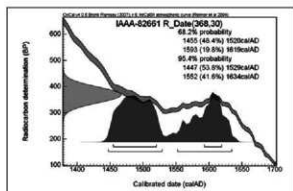
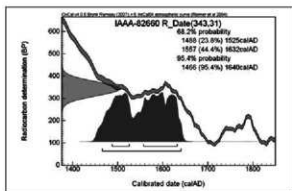
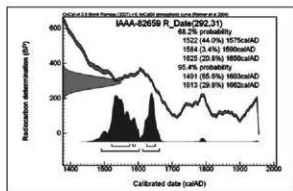
表Ⅷ-3 放射性炭素年代測定結果(2)

測定番号	$\delta^{13}\text{C}$ 補正なし		暦年校正用(yrBP)	1 σ 暦年代範囲	2 σ 暦年代範囲
	Age (yrBP)	pMC (%)			
IAAA-82661	400 ± 30	95.13 ± 0.31	368 ± 30	1455AD - 1520AD (48.4%) 1593AD - 1619AD (19.8%)	1447AD - 1529AD (53.8%) 1552AD - 1634AD (41.6%)
IAAA-82662	510 ± 30	93.87 ± 0.36	475 ± 32	1420AD - 1445AD (68.2%)	1406AD - 1461AD (95.4%)
IAAA-82663	680 ± 30	91.88 ± 0.35	609 ± 31	1302AD - 1329AD (27.7%) 1340AD - 1367AD (27.2%) 1383AD - 1396AD (13.2%)	1295AD - 1405AD (95.4%)
IAAA-82664	440 ± 30	94.67 ± 0.36	362 ± 32	1462AD - 1522AD (40.4%) 1575AD - 1584AD (4.8%) 1590AD - 1625AD (23.1%)	1450AD - 1530AD (48.5%) 1541AD - 1635AD (46.9%)
IAAA-82665	470 ± 30	94.32 ± 0.34	431 ± 31	1434AD - 1470AD (68.2%)	1420AD - 1500AD (90.6%) 1507AD - 1511AD (0.6%) 1601AD - 1616AD (4.2%)
IAAA-82666	380 ± 30	95.40 ± 0.36	319 ± 32	1518AD - 1594AD (53.3%) 1619AD - 1641AD (14.9%)	1481AD - 1647AD (95.4%)
IAAA-82667	14,990 ± 60	15.47 ± 0.12	14,948 ± 60	1653BC - 1636BC (34.9%) 1628BC - 1611BC (33.3%)	16603BC - 16067BC (95.4%)
IAAA-82668	14,080 ± 60	17.33 ± 0.13	14,080 ± 60	15047BC - 14644BC (68.2%)	15195BC - 14415BC (95.4%)
IAAA-82669	17,800 ± 80	10.90 ± 0.10	17,759 ± 78	19208BC - 18821BC (68.2%)	19384BC - 18674BC (95.4%)

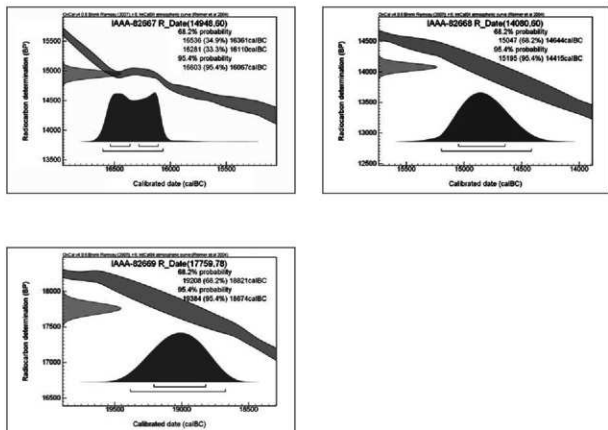
[参考値]



図Ⅷ-1 暦年代校正結果(1)



圖圖-2 曆年代校正結果(2)



図Ⅷ-3 暦年代較正結果(3)

参考文献

- Stuiver M. and Polash H. A. 1977 Discussion: Reporting of ^{14}C data, *Radiocarbon* 19, 355-363
- Bronk Ramsey C. 1995 Radiocarbon calibration and analysis of stratigraphy: the OxCal Program, *Radiocarbon* 37(2), 425-430
- Bronk Ramsey C. 2001 Development of the Radiocarbon Program OxCal, *Radiocarbon* 43(2A), 355-363
- Bronk Ramsey C., van der Plicht J. and Weninger B. 2001 'Wiggle Matching' radiocarbon dates, *Radiocarbon* 43(2A), 381-389
- Reimer, P.J. et al. 2004 IntCal04 terrestrial radiocarbon age calibration, 0-26cal kyr BP, *Radiocarbon* 46, 1029-1058

2. アンカリトー7遺跡の動物遺体

—遺跡にのこる動物遺体の考古学的調査 アイヌコタンでの生活と動物—

金子 浩昌

(1) はじめに

本遺跡における動物遺体は量的には必ずしも多いものではなかったが、かつてのアイヌコタンにおける家屋の構成とそれに伴った「送り場」に残された生活資源の一つである動物遺体を確認、調査することができた。これまでアイヌ関係の遺跡での動物遺体調査は、チャシ跡でのまとまった魚、獣骨であったり、貝塚などに伴うもので、アイヌ家屋「チセ」との関わりのなかでの在り方を知ることは少なかった。今回はアイヌコタンの遺跡のなかでの動物遺体の在り方、アイヌの人々の日常生活と動物資源との関わりを知る機会となったと思う。

動物遺体からアイヌの生活文化をどの程度に探ることができるのか、というのが本報告の目的である。かつてのアイヌの人々の生活特に食文化の一端を、動物遺体からみることができればと思う。

なお、資料表の作成に当たって、動物種毎に出土量を示している。多くの場合、単なる整理番号順の出土量表であるために動物種毎の在り方を確認することができていない。今回の表示は種別提示の方法をとったのである。

(2) 検出された動物遺体の種名表

軟体動物門 Phylum MOLLUSCA

原始腹足綱 Class Gastropoda

コウダカスカシガイ

ユキノカサガイ科 Family Acmaeidae

ユキノカサガイ *Acmaea pallida*

リュウテンサザエ科 Family Turbinidae

スガイ *Turbo (Lunella) coronata coreensis*

二枚貝綱 Class Bivalvia

ウグイスガイ目 Order Pterioidea

ホタテガイ *Patinopecten yessoensis*

イシガイ目 Order Unionoida

カワシンジュガイ科 Family Margaritiferidae

カワシンジュガイ *Margaritifera iaevis*

マルスダレガイ科 Family Veneridae

ウバガイ *Pseudocardium sachalinense*

サラガイ *Megangulus venulosa*

コタマガイ *Gomphina melanegis*

硬骨魚綱 Class Osteiithyes

コイ目 Order Cypriniformes

コイ科 Family Cyprinidae

ウグイ属の一種 *Tribolodon* sp.

サケ目 Order Salmoniformes

サケ科 Family Salmonidae

サケ類 Oncorhynchus sp.

キュウリウオ科 Family Osmeridae

キュウリウオ Osmerus eperlanus mordax

鳥綱 Class Aves

ガンカモ目 Order Anseriformes

ガンカモ科 Family Anatidae

ハクチョウ類 Cygnus sp.

カモ類 Anatidae gen. et sp. indet.

哺乳綱 Class Mammalia

モグラ目 Order INSECTIVORA

トガリネズミ科 Family Soricidae

ヒメトガリネズミ Sorex gracillimus

ウサギ目 Order Lagomorpha

ウサギ科 Family Leporidae

エゾユキウサギ Lepus timidus ainu

ネズミ目 Order Rodentia

ネズミ科 Muridae

ヒメヤチネズミ Clethrionomys rutilus

クマネズミ属の一種 Rattus sp.

ネコ目 Order Carnivora

クマ科 Family Ursidae

ヒグマ Ursus arctos

イヌ科 Family Canidae

イヌ Canis familiaris

アシカ科 Family Otariidae

ニホンアシカ Zalophus californianus japonicus

ウシ目 Order Artiodactyla

シカ科 Family Cervidae

ニホンジカ Cervus Nippon

(3) 動物遺体についての記載

(計測値の単位はmmで表している。cmの場合は付ける)

貝類

出土は特に多いものではなかった。みちかで採れる貝種はごく限られていたからであろう。カワシ
ンジュガイはそうした貝のほとんど唯一の種類であったが出土した標本は少なく、残されていたのは
多くは外皮がかるうじて残されたのみであった。

他の貝種は鹹水かんすいの貝種であったが、その中でややかたちの残されていたのはホタテガイ1点があっ
たのみである。殻が大きく、何か容器として使われていたものが、使用されなくなった後にこの場所
に運ばれたのであろう。

他の貝種はすべて海岸域からの搬入品であり、食用とされる貝種ではあったが、量的には僅少であった。これらの種類のなかには食用というよりも貝殻を垂飾品などに使うような目的で運ばれたものもあったかも知れない。内陸の人々の海への関心がよみとれて興味深い。

魚 類

魚骨は出土地点と層別に見た点数、まとまった数の出土している場合には最小個体数の資料を加えて個体数を推定した。

ウグイ属の一種

ウグイと確認できる咽頭骨の出土がUH-7、UH-11、UA-1で各1点ずつ検出されている。サケ類の検出の多かったUA-2では、咽頭骨の検出はなかったが、舌顎骨、前鰓蓋骨、主鰓蓋骨、下鰓蓋骨、間鰓蓋骨があり、ウグイが確認されている。UA-2のⅢ層でも2点出土している。推定6個体。

サケ類

サケ類の遺骸は全城にわたり、かつ濃密に分布していた。細片であることが多かったが、骨格が散らばっていたのであろう。特に灰層の拡がるUA-2地点で濃密であった。灰層下のⅢ層中にも認められた。

UH-5

3か所で灰層が堆積し、保存が良好であった。

歯骨右側1、多数の歯、主鰓蓋骨右側2、下鰓蓋骨1、間鰓蓋骨左側2、椎骨片多数、肋骨、鰭棘片など、肩甲骨右側1、中鳥口骨2、鳥口骨左側2、腰帯左側1があり、2個体はあったであろう。

UA-2 灰4①

サケの骨格がよく残されていた。焼けない状態で頭部の骨格があり、多くの標本が採取され、埋存個体が確認できた。

後側頭骨は長い骨であるために破損しているが、左側1、右側3があった。

前上顎骨、主上顎骨、歯骨は不完全であるが1点ずつが確認される。主上顎骨は現長30.4、原長67.0であったと思われる。歯は保存がよいが、確認できるのは1点程度である。

接統骨、前鰓蓋骨、主鰓蓋骨、下鰓蓋骨は不完全であるが、各1点、間鰓蓋骨はやや保存よく左側2、右側3があり、全長35.0±になる。角舌骨は左側1で全長35.0±、頭蓋後頭骨は左側1点があった。椎骨は断片のみであるがまとまった数はあったのであろう。

肋骨、棘片は多い。上擬鎖骨は4点があったが、大形の骨格のために破損し、左右を確認し難い。全長は70.0±であったと思われる。擬鎖骨は左右各1、中鳥口骨5、後擬鎖骨1、

腰帯左側4、右側8を検出した。腰帯は腹鰭を繋げる骨格で注意深く扱えば採取することができる。

腰帯左側の幅14.4、13.5、12.2、右側幅15.5、11.7であった。サイズ差があったと思われ、別個体のサケであったろう。

灰4②

後側頭骨左側、歯骨片、上擬鎖骨1、中鳥口骨1などがあり、同一個体と推定。

不明魚種の遺骸

上記の魚類骨の他に100点近い魚骨の細片が出土している。肋骨、鰭棘などの細片については全く不明であるが、椎骨、若干の歯骨、前鰓蓋骨などはおそらくコイ科の魚の一種と思われるもので、それ以外の特別な魚種であることを推測させる特徴を見出すことはできない標本であった。

コタンにおける魚はサケ類を主として、ウグイ、キュウリウオなどが採られていたようである。キ

ユウリウオを除くと海産の魚種はほとんど検出されなかった。コタンの人達の魚類はサケが主体であり、ウグイなどの淡水魚を加えて、それで充分であったのであろう。資源の供給量に合った構成員数であった。

鳥類

ハクチョウ類

UA-2で脛骨片1点(灰4)があり、他に大形の鳥骨片があったが、おそらくオオハクチョウクラスの大形鳥の骨格であり、加工された際の骨片であろう。大形の鳥は羽が矢羽根などに使う目的もあったであろう。

不明骨片としてはUA-2灰層から肩甲骨片があった。カモ類のサイズである。

鳥骨の検出は少なかった。ハクチョウクラスの大形鳥があれば、骨格も別にもあるのではないかと思われるが、ほとんど無いということは、骨自体が搬入品であったことも考えられる。コタンの前の河川、湖沼が大形のハクチョウなどの飛来に適するほどの水深がないことも考えられる。さらに下流域地帯での捕獲であって、羽根、骨格、肉が分割されたのであろう。

哺乳類

獣骨もきわめて断片的な標本が残されていたのみである。しかし骨格の保存は魚骨などに比べて良好であるので、種類は9種類を確認できた。ヒメトガリネズミ、ノウサギ、ヤチネズミ類、クマネズミ、ヒグマ、タヌキ、イヌ、アシカ、ニホンジカである。

これらのなかにはネズミ類などにごく最近の混入と考えられる標本もあったが、大部分はアイヌの人々の生活に直接関わった動物であった。

ヒメトガリネズミ

UA-2 灰層下部 左側下顎骨1

被熱の痕跡はないので、古い時期の混入品と思われる。

エゾキウサギ

UA-2 灰層中に肩甲骨と上腕骨片があった。上腕骨は左側の骨体～遠位骨端を残す標本で遠位骨端幅12.2。骨体は打割されている。

わずかに2点であるが、多くのシカ遺骸を出土するチャシ跡での出土が10点に満たない数であることと比べれば、コタンのなかでたまたま残ったウサギの骨格としては蓋然性のある数であり、むしろ多かったのかもしれない。

ヤチネズミ類

遺骸は標本の出土からみるともっとも多くなった。

UH-3 灰層 乳臼歯

UH-5 灰層 下切歯、臼歯と骨片1が2つの灰、焼土で出土。

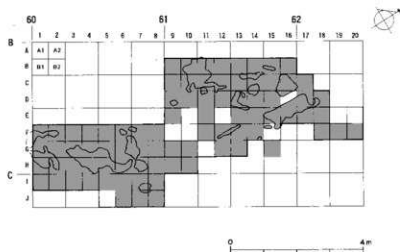
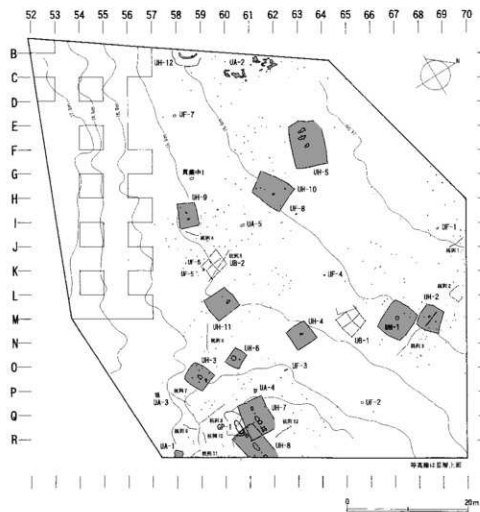
UH-6 灰層 臼歯

UA-1 灰 頭蓋骨、尺骨、寛骨、上顎骨、下顎骨、上切歯、下切歯、臼歯があり、下顎骨の左側5、右側5が最大値であった。

UA-2 灰層1～5のすべてから1点ずつ何らかの歯、骨格があった。

SP-UA-2 頭蓋骨

UA-2 Ⅲ層6区画の各区で遊離した切歯、臼歯があった。



図Ⅷ-4 アンカリト-7遺跡動物遺体出土遺構

UA-5 灰中に下切歯があった。

灰層それぞれの標本は別個体の可能性があり、16個体になる。(UA-2標本を5とする。)

アイヌの家の周りにはいつもネズミがいたのではないと思う。時々家の中にも入ってくるものがあつたのであろう、それが自然の空間だったのである。あまり気にすることもなかったのではない。各灰層中出土の標本もあつたが、遊離した歯は被熱していないと思われる。ネズミ類がどのように扱われたか、一部には食べられたこともあつたかも知れない。

クマネズミ

UA-1 灰層中に下顎骨と上切歯があつた。頭蓋骨のあつたことも考えられる。おそらく現代のものであろう。

ヒグマ

UA-2 灰層1②左側上顎犬歯の破片1。

歯冠長19.0×歯冠幅14.0前後のサイズになる犬歯である。この破片が検出できたことは貴重であつた。これまでは多くのアイヌ遺跡でヒグマの遺骸を確認することができないと報告されていたからである。犬歯がこのような残欠の状態になっているのは、おそらく犬歯が佩用されたり、道具の一部などにも使われ、破損し、その断片がわずかに残っていたのではないか。このような断片にまで注意した調査がこれまでになかったことにも原因があるのであろう。

タヌキ

UA-1 上面 左側椀骨近位骨端

1点の標本を残していたのみである。イヌを除く中形獣類で唯一遺骸を残していた種類であつた。本資料もまたコタン遺跡だからこそ残されたものと思われる。

縄文人／石器時代人であれば周辺に棲息するタヌキ、キツネ、カワウソ、テンなどが狩猟の対象になり、遺骸の残されているのを見るが、それに比べると遺跡からの出土量は格段に少ない。

イヌ

UA-1 灰層

切歯、犬歯、臼歯などの歯のみが残され、特殊な残り方であつた。埋葬という状態とも異なるようである。イヌの毛皮が使われることはサハリンの人々の間で知られているが、アイヌにもあつたのではないかと思われる。

アシカと海棲獣類遺骸

検出できた標本は末節骨1点と肋骨1点のみであつたが、この標本の検出もまた貴重である。アイヌ期の遺跡では稀であるからである。肋骨は半裁された加工品であつたが、おそらくなんらかの道具の素材として使うために持ち込まれたものであろう。

ニホンジカ

出土は多く、各地点で出土していた。標本の多くは打ち割られ、骨髄食のおこなわれたことを示していた。頭蓋骨、下顎骨などの見られなかったことは、別に扱われていることが推測される。哺乳類として種不明の小断片が23点あるが、おそらくシカの四肢骨片と思われる。

(4) あとがき

本遺跡は平地式住居の炉、灰集中区、焼土分布地区などからなるが、それらから当時食料に供したと思われる動物遺体を検出している。動物種による遺骸の多寡はかなり異なるが、そうした獣類が食用に供されていたことがわかる。

貝類

貝類については多くを知ることができない。河川の民であったアイヌの人々は淡水産の貝のうち肉量が豊富で、殻の厚いカワシシユガイが、肉の採取と殻の利用のために採られていたが、残された殻の量もわずかであった。恒常的な採取があったかどうか、不明である。海産貝の利用については、本遺跡の場合、食用とは別の用途の考えられる小巻貝、カサガイ類のあったのは興味深いことであった。今後こうした資料について知見が増えるならば、海岸地域との交流などを知る機会になるのではないと思われる。

魚類

サケを主とした料理がうかがえるが、河川流域での住居の立地を考えれば当然の資源利用であったろう。石狩川支流の本遺跡に限らず、アイヌコタンでの動物質食料にサケが最重要の資源であったことはよく知られる通りである。

ここでも食用に供されたサケの遺骸が「送り場」に運ばれている。調理時のサケは頭部を外されて開きにされ、保存用に乾燥などの処理をされていたはずである。頭部も細かく刻んで叩いて内臓などと共にチタタップ（吾々の叩き叩きしたもの）として食べているので、顎骨、鰓蓋骨などを原形のまま残すことは難しかったであろう。しかし「送り場」に残された骨には顎骨、鰓蓋骨などの頭部の骨格が確認され、腰骨などもあった。これらは頭部が「送り」のためにはずされ、「送り場」に運ばれたのであろう。この場合、「腰体」部分の数が多く、この部分はあらかじめ外される習慣があったかもしれない。一方、肋骨、鱈鱗片も多く含まれていたが、これらは可食部分の少ないこともあって、外していたものが集められたのであろう。

サケ以外の淡水系の魚種もあり、ウグイなどはサケの遡河前の漁獲資源であったかも知れない。ウグイはアイヌにとって重要魚種であった。

鳥類

鳥類については、オオハクチョウと中形の鳥骨片があった。遺跡の前に広がる湖沼にカモ類の飛来することはあったであろう。アイヌが白鳥をカムイ チョブ（神鳥）といて尊重もするが、川に大きな目の網を張っておき、川を下ってくる白鳥を捕るということもあり、脛骨が女の「針入れ」になったという（更科源蔵、アイヌの四季1968）。本遺跡での脛骨にも同じ用途が推測できる。

哺乳類

シカとシカ推定骨片は、ほとんどすべての地点、層位で出土していた。きわめて断片となっているのは、それだけ打ち割られ、ごく僅かな部分でも髄、肉片が残る限り使われたのであろう。捕獲されたシカの個体数は推測不可能であるが、秋から冬季にコタンでは数頭の捕獲があり、各家で分け前があったと思われる。一頭体のシカ頭蓋骨は脳髓の利用後に別の場所に置かれ、その他の部分は分割、解体され、肉、内臓は生のまま食べた。ウサギ、シカのなどの肉は多く生食（ファイベ）であったという。骨格は軟骨に至るまで利用された（更科源蔵、同掲書、209頁）。

海棲獣類は海産貝の出土とも関連する。内陸遺跡にかかわらず海産貝種の比較的多かったのは本遺跡の特徴の一つである。海への関心は高かったことから、海棲獣類資源の搬入も各種あったことが推測される。千歳市オレイカ2遺跡でも海棲獣類、メカジキなどの遺骸の報告されている。

謝辞

本報告を執筆するにあたり、アンカリトー7遺跡の調査の担当であった北海道埋文センター主任の愛場和人氏から資料の作成にあたり、多くのご教示をいただき、また土肥研品氏からも標本同定にあ

たって便宜を図っていただいた。なお1部2課の皆さまにもお世話いただいた。併せて厚く御礼を申しあげる次第である。

文 献

- アイヌ文化保存対策協議会編 『アイヌ民族誌』 第一法規出版
- 青野友哉 2009 北海道における貝塚文化の消長－縄文時代～近代の生業と祭祀 『北海道考古学』 第45輯
- 阿部明義 2005 「まとめ アイヌ文化期の遺構とその遺物」『千歳市オリイカ2遺跡2』 北埋調報221集
- 木村英明編 2003 『アオシマナイ遺跡』 北海道小清水町教育委員会
- 高橋 理 2009 「北海道網走郡津別町ツバツトウンチャシ跡の動物」『ツバツトウンチャシ跡－平成20年度試掘調査報告－』、北海道津別町教育委員会
- 佐藤孝雄 1997 「中近世における北海道アイヌの狩猟と漁労」『考古学ジャーナル』No.425
- 佐藤孝雄 2007 「ユクエビラチャシ跡の脊椎動物遺体」『史跡ユクエビラチャシ跡調査報告』
- 更科源蔵 1965 『アイヌの四季』 淡交新社 (文中に注記)
- 更科源蔵、更科 光 1977 『コタン生物記』 法政大学出版局
- 富岡直人 2004 「トメト川3遺跡出土の動物遺存体と骨製刺突具の分析」『トメト川3遺跡における考古学的調査』 千歳市文化財調査報告書XⅩⅥ
- 三谷智広 アイヌ文化期の貝塚からみた生業構造の検討 『北海道考古学』 第45輯 2009
- 金子浩昌 1980 「出土動物遺骸について」『ライトコロ川口遺跡』 東京大学

表置-5 種別動物遺体一覧(2)
見類(2)

遺体・埋蔵状況	層位	マイマイ	コウゾクスカシコガイ	ユキノカサガイ	スゴイ	ホウゾウガイ	オノノシラガイ	コサマガイ	ウ/ウイ	サマガイ	二枚貝	不明
UA-2・D-18	面層						外皮 (0.353)				不明細片 (0.01)	
UA-2・E-9	面層											不明細片 (0.03)
UA-2・E-13	面層						外皮 (0.01)					
UA-2・E-14	面層						外皮 (0.01)					
UA-2・E-16	面層										不明細片 (0.01)	
UA-2・E-17	面層						細片 (0.463)					
UA-2・E-18	面層						外皮 (0.01)					不明細片 (0.02)
UA-2・F-2	面層						外皮 (0.02)					
UA-2・F-11	面層						不明 (1.18)				不明細片 (0.02)	
UA-2・F-12	面層						外皮 (0.01)					不明細片 (0.03)
UA-2・F-18	面層						外皮 (0.01)					
UA-2・F-19	面層						外皮 (0.00)					
UA-2・F-20	面層						外皮 (0.00)					
UA-2・G-3	面層										不明細片 (0.04)	
UA-2・G-8	面層						外皮 (0.01)					
UA-2・G-10	面層						外皮 (0.01)					
UA-2・G-12	面層						外皮 (0.01)					
UA-2・G-13	面層						外皮 (0.04)					
UA-2・G-15	面層						不明					
UA-2・H-1	面層										不明細片 (0.02)	
UA-2・H-2	面層										不明細片 (0.03)	
UA-2・H-4	面層										不明細片 (0.03)	
UA-2・H-6	面層										不明細片 (0.01)	
UA-2・H-7	面層						外皮 (0.03)					
UA-2・H-8	面層						外皮 (0.00)					
UA-2・H-9	面層						外皮 (0.19)					
UA-2・H-10	面層						外皮 (0.01)				不明小片 (0.01)	
UA-2・I-3	面層						外皮 (0.01)					
UA-2・I-8	面層						外皮 (0.01)					
UA-2・I-7	面層						外皮 (0.01)				不明細片 (0.03)	
UA-2・I-8	面層										不明小片 (0.01)	
UA-3	面層											
UA-5	坑						不明細片 (0.395)					

() は重量%

表Ⅷ-10 種別動物遺体一覧(7)

コイ科(2)

遺体・採取区	種別	土上遺体	遺骨	内骨	方骨	至嚙骨	前肢遺骨	主肢遺骨	下肢遺骨	四肢遺骨	咽頭骨	喉頭骨	耳石	椎骨	鱗皮部	工業遺骨	炭酸骨	不明
UA-2・R-5	田鱒													(0.62)				(0.61)
UA-2・R-6	田鱒													(0.61)				
UA-2・R-7	田鱒													(0.62)				
UA-2・R-8	田鱒													(0.61)				
UA-2・R-9	田鱒													(0.61)				
UA-2・R-10	田鱒													(0.60)				
UA-2・I-7	田鱒													(0.60)				
UA-2・I-8	田鱒													(0.62)				
UA-2・I-6	田鱒													(0.60)				
UA-2・I-7	田鱒													(0.60)				
UA-3	沢鱒													(0.60)				
UA-5	沢													(0.60)				(0.64)

キユウリウオ科

遺体・採取区	種別	椎骨
UH-5	IP-2 沢	(0.63)
UH-5	IP-1 沢	(0.61)
UA-2	IP-3R・湖上	(0.61)
UA-2	RC2D	(0.62)
UA-2	RC3D	(0.61)
UA-2	RC4Z	(0.64)
UA-2・H-2	田鱒	(0.61)

魚類不明(1)

遺体・採取区	種別	内骨	至嚙骨	咽頭骨	耳石	椎骨	肋骨	肋骨	肋骨	鱗皮部	不明
UH-1	IP-1湖上										
UH-1	IP-1 沢										
UH-2	IP-1湖上										
UH-3	IP-1湖上湖上										
UH-3	IP-2湖上湖上										
UH-4	IP-1 沢										
UH-5	IP-1 沢										
UH-5	IP-1湖上										

表Ⅷ-12 種別動物遺体一覧(9)
魚類不明(3)

遺構・調査区	層位	遺骨	内骨	椎体蓋骨	耳石	鱗骨	肋骨	肋骨	肋骨	不明
UA-2・H-3	III層									(0.23) (4.41)
UA-2・H-4	III層									(0.29) (3.32)
UA-2・H-5	III層									(0.12) (0.92)
UA-2・H-7	III層									(3.47)
UA-2・H-9	III層									(0.30)
UA-2・H-10	III層									(0.16)
UA-2・I-1	III層									(0.60)
UA-2・I-2	III層									(0.01)
UA-2・I-3	III層									(0.60) (0.01)
UA-2・I-4	III層									(0.09)
遺構・調査区	層位	遺骨	内骨	椎体蓋骨	耳石	鱗骨	肋骨	肋骨	肋骨	不明
UA-2・I-4	III層									(0.00)
UA-2・I-7	III層									(0.00)
UA-2・I-8	III層									(0.02) (0.49)
UA-2・J-5	III層									(0.00) (0.00)
UA-2・J-2	III層									(0.02) (0.22)
UA-2・J-8	III層									(0.00) (0.04)
UA-3	IV層									(0.01) (0.96)
UA-4	IV層									(0.02) (0.83)
UA-5	IV									(0.70) (28.78)
UF-2	IV									(0.01)

鳥類

オオハクチョウ

遺構・調査区	層位	遺骨(体骨片)
UA-2	IV(4)	1 (0.77)

不明(大型)

遺構・調査区	層位	不明骨片
UA-2	IV(4)	(0.30)
UA-2	IV(4)	(0.21)

不明

遺構・調査区	層位	不明骨片
UA-1	IV	(0.07), (0.20), (0.30)
UA-2	IV(4)	(0.17)
UA-2	IV(2)	(0.01)
UA-2・G-5	III層	(0.16)

ヒメトガリネズミ

遺構・調査区	層位	下顎骨L
UA-1	IV下	1 (0.01)

エゾキウサギ

遺構・調査区	層位	肩甲骨片	上顎骨遠位
UA-2	IV(2)		1 (1.61)
	IV(4)	1 (0.20)	

クマネズミ

遺構・調査区	層位	下顎骨R	上切歯L
UA-1	IV中	1 (0.12)	1 (0.61)

() は重量%

表Ⅷ-14 種別動物遺体一覧(11)

遺体・部位名	種別	角片	肩甲骨片	中手骨片	手根骨片	踵骨片	膝蓋骨片	腰骨片	大腸骨片	脛骨片	基節骨	不明骨片
UH-5	HP-1 尻										1(0.41)	
	HP-1 骨											0.760
	HP-1 趾											0.500
UH-6	HP-1 趾											0.500
	UA-1						1(0.20)		0(0.00)	8(02.40)骨+1(1.21)		
UA-2	HA-2	0.427 (0.30)	0.793 (2.20)		0(00.00)							0.430
	HA-2①											
	HA-2②											
	HA-2③											
UA-2(河川産物)-11	HA-2	0.427 (0.30)	0.793 (2.20)		0(00.00)							0.430
	HA-2①											
	HA-2②											
	HA-2③											
UA-2(河川産物)-2	HA-2	0.427 (0.30)	0.793 (2.20)		0(00.00)							0.430
	HA-2①											
	HA-2②											
	HA-2③											
UA-2(河川産物)-4	HA-2	0.427 (0.30)	0.793 (2.20)		0(00.00)							0.430
	HA-2①											
	HA-2②											
	HA-2③											
UA-2(河川産物)-5	HA-2	0.427 (0.30)	0.793 (2.20)		0(00.00)							0.430
	HA-2①											
	HA-2②											
	HA-2③											
UA-3	HA-3	0.50										0.430
	HA-3①											
	HA-3②											
	HA-3③											

哺乳類不明(1)

遺体・部位名	種別	歯	腸骨骨?	けずりかす	不明骨片	不明小片 (2mm以下)
UH-3	HP-1 趾上					0(0.11)
	HP-2 趾上					0(0.01)
	HP-1 尻					0(0.07)
UH-5	HP-1 尻		1(0.10)			0(0.24)
	HP-2 尻					0(0.11)
UH-6	HP-1 尻・趾上					0(0.01)
	HP-1 尻・趾上					0(0.01)
	HP-2 趾上					0(0.01)
	HP-2 趾上					0(0.01)
UH-8	HP-1 趾上					0(0.01)
	HP-2 趾上					0(0.01)
	HP-4 趾上					0(0.01)
	HP-4 趾上					0(0.01)
UH-9	HP-1					0(0.01)
	HP-1					0(0.01)
UH-11	HP-1 尻・趾上					0(0.14)
	尻					0(0.21)
UA-1	HA-1①	0.20				0(0.42)
	HA-1②					0(0.19)
UA-2	HA-2①					0(0.70)
	HA-2②					0(1.33)
	HA-2③					0(1.99)
	HA-2④			0(0.20)		0(1.59)
UA-2(河川産物)-11	HA-2	0.127				0(0.44)
	HA-2①					0(0.30)
UA-2(河川産物)-9	HA-2					0(0.01)
	HA-2①					0(0.01)
UA-2(河川産物)-10	HA-2					0(0.01)
	HA-2①					0(0.01)
UA-2(河川産物)-11	HA-2					0(0.01)
	HA-2①					0(0.01)
UA-2(河川産物)-13	HA-2					0(0.01)
	HA-2①					0(0.20)

() 12重量%

表Ⅷ-15 種別動物遺体一覧(12)

哺乳類不明(2)

遺体・調査区	層位	産	種子骨?	けずりかす	不明骨片	不明小片(2mm以下)
UA-2階辺り層C-17	遺層					(0.65)
UA-2階辺り層D-11	遺層					(0.89)
UA-2階辺り層D-17	遺層					(0.65)
UA-2階辺り層D-18	遺層					(0.29)
UA-2階辺り層E-11	遺層					(0.20)
UA-2階辺り層E-13	遺層					(0.04)
UA-2階辺り層E-14	遺層					(0.03)
UA-2階辺り層E-15	遺層					(0.02)
UA-2階辺り層E-16	遺層					(0.1)
UA-2階辺り層E-17	遺層					(0.00)
UA-2階辺り層E-18	遺層					(0.03)
UA-2階辺り層F-1	遺層					(0.59)
UA-2階辺り層F-2	遺層					(0.18)
UA-2階辺り層F-3	遺層					(0.26)
UA-2階辺り層F-4	遺層					(0.52)
UA-2階辺り層F-5	遺層					(0.08)
UA-2階辺り層F-6	遺層					(0.26)
UA-2階辺り層F-7	遺層					(0.03)
UA-2階辺り層F-14	遺層					(0.30)
UA-2階辺り層G-1	遺層					(0.23)
UA-2階辺り層G-2	遺層					(1.05)
UA-2階辺り層G-3	遺層					(0.37)
UA-2階辺り層G-4	遺層					(1.08)
UA-2階辺り層G-5	遺層					(0.66)
UA-2階辺り層G-7	遺層					(0.24)
UA-2階辺り層G-8	遺層					(0.05)
UA-2階辺り層G-9	遺層					(0.42)
UA-2階辺り層G-10	遺層					(0.05)
UA-2階辺り層H-1	遺層					(0.14)
UA-2階辺り層H-2	遺層					(1.02)
UA-2階辺り層H-3	遺層	♀ (0.01)				(0.25)
UA-2階辺り層H-7	遺層					(2.27)
UA-2階辺り層H-8	遺層					(0.28)
UA-2階辺り層H-9	遺層					(0.08)
UA-2階辺り層H-10	遺層					(0.72)
UA-2階辺り層I-4	遺層					(0.25)
UA-2階辺り層I-5	遺層					(0.12)
UA-2階辺り層I-6	遺層					(0.19)
UA-2階辺り層I-7	遺層					(0.46)
UA-2階辺り層I-8	遺層					(0.44)
UA-2階辺り層J-7	遺層					(0.02)
UA-2階辺り層J-8	遺層					(0.16)
UA-3	灰層					(0.21)
UA-4	灰層					(0.72)
UA-5	灰層					(1.08)

() は重量 g

3. アンカリトー7遺跡から出土した炭化植物種子

札幌国際大学博物館 客員研究員 梶坂 恭代

(1) 遺跡と調査の概要

遺跡の名称：アンカリトー7遺跡

遺跡の所在：北海道千歳市祝梅607ほか

調査の機関：財団法人北海道埋蔵文化財センター

調査面積：4,050㎡

調査担当者：愛場和人ほか

調査期間：平成20年4月1日～平成21年3月31日

遺跡の立地：アンカリトー7遺跡は千歳市街から北東に約3kmの祝梅川東岸に位置し、標高は約14～17メートルである。

検出遺構：

Ⅲ層の遺構：平地住居跡11軒・竪穴状遺構1基・建物跡2棟・土坑墓1基・杭跡334基・灰集中5か所、焼土8か所、貝集中1か所。

その他の詳細については本文を参照されたい。

(2) 扱った資料

分析資料として扱った炭化植物は、アイヌ文化期の平地住居跡内の炉、焼土からと屋外の灰集中の遺構から土壌が採取され、フローテーション法で処理された後、回収された炭化植物の中から第一次選別された種子が送付されてきた。これらの資料について実体顕微鏡で観察ならびに撮影を行った。検出された植物種子の出土表は表Ⅷ-15に示しておいた。

(3) アイヌ文化期の遺構から出土した種子

イネ *Oryza sativa* L.

(図版Ⅷ-1-1a・3：UH-5 HF-1から出土。2a：UA-2 灰4から出土)

平地住居跡 (UH-5・6・8) からと灰集中 (UA-2) から合わせて9粒と12片出土。果実は長楕円形で腹面の下部に胚があり、側面にやや隆起した縦の稜線がある。出土資料は被熱による変形が著しいがその中から比較的保存状態の良い資料を1a、2aに示した。その他、3に示した破片が含まれていた。計測値1a：長さ4.90×幅2.70×厚さ1.85(mm)、2a：長さ4.70×幅2.40×厚さ1.55(mm)、3の資料は破片のため計測していない。

アワ *Setaria italica* (L.) P. Beauv. (図版Ⅷ-1-4a：UA-2 灰4から出土)

平地住居跡 (UH-5・8) からと灰集中 (UA-2)、その周辺から合わせて12粒出土。穎果はやや球形。背面には果長の2/3ほどの胚があり、その反対側の腹面には、小さなヘラ型のヘソがある(梶坂 1993)。資料は4aに示すようにすべて内・外穎のとれた状態で出土。計測値：長さ1.40×幅1.30×厚さ0.85 (mm)

ヒエ属 *Echinochloa* Beauv. (図版1-5a：UA-2 灰4から出土)

平地住居跡 (UH-5・7・8) からと灰集中 (UA-2・5) から合わせて142粒出土。穎果は広楕円形。背面には果長の2/3ほどを占める楕円形の大きな胚がある。その反対側の腹面にはヘラ型状のヘソがある(梶坂 1993)。穎果の胴部はふくらみ、粒形が大きくなる。つまり栽培型のヒエ *Echi-*

nochloa utilis Ohwi et Yabunoの形態を示す。資料は5aに示すようにすべて内・外穎のとれた状態で出土。資料の保存状態が悪いため一定数の計測は出来なかった。計測値：長さ1.80×幅1.65×厚さ1.00(mm)
キビ *Panicum miliaceum* L. (図版Ⅷ-1-6a:UH-7HF-4から出土)

平地住居跡(UH-7・8)からと灰集中(UA-1・2)から合わせて6粒出土。穎果はやや球形または広卵形。背面には果長の1/2ほどの胚があり、その反対側の腹面にはへう型状のへそがある(楕坂 1993)。資料は6aに示すようにすべて内・外穎のとれた状態で出土。計測値：長さ1.70×幅1.55×厚さ1.20(mm)

シソ属 *Perilla* L. (図版Ⅷ-1-7a:UH-5HF-1から出土)

平地住居跡(UH-5)からと灰集中(UA-1)から合わせて5粒出土。種子は扁平球形で種子の表面に大きな網目状の模様がある。この形態を持つ種子にエゴマ *Perilla frutescens* var. *japonica* とシソ *Perilla frutescens* var. *japonica*がある。両者とも形態と表皮の構造が類似している部分が多く、出土量と保存が良好でないと分類は困難である。計測値：長さ2.00×幅1.60×厚さ1.30(mm)
アサ *Cannabis sativa* L. (図版Ⅷ-1-8:UA-2周辺G-6から出土)

灰集中(UA-2)の周辺から1粒出土。種子は広楕円形。腹面に縦に2条の稜角がある。種皮の表面は被熱により斑状の模様ができることもある。アサは、純粋に栽培したものか、集落や耕地周辺に半野生状態にあったのかの判断はつかない。しかし、アサの若葉や種子は食用になるし、油脂植物としても利用され、繊維植物としてもよく知られている。計測値：長さ2.10×幅1.50×厚さ1.20(mm)
マメ科 FABACEAE (図版Ⅷ-1-9a:UH-7HF-4から出土。10:UA-2灰3から出土)

9aの資料：平地住居跡(UH-7・8)から合わせて2片出土。種子は長楕円形。腹面には種子長軸に対して2/3ほどの広線形で平坦なへそがある。出土資料はへその部分が剥離しており確認できなかった。また写真9cに示した子葉内面の初生葉は燃え尽きて残存していなかったが、種子形態の特徴とわずかに残る初生葉の痕からアズキ *Vigna angularis* Ohwi et Ohashiと判断される。計測値：長さ4.20×幅2.50×厚さ2.40(mm)

10の資料：灰集中(UA-2)とその周辺から合わせて6片出土。種子は扁平形。腹面の長さの大半を占める線形のへそがある。これらの特徴からレンリソウ属 *Lathyrus* L.またはソラマメ属 *Vicia* L.、に分類される。レンリソウ属にはハマエンドウ *Lathyrus japonicus* Willd. がある。ソラマメ属にはカラスノエンドウ *Vicia sepium* L.、ヒロハクサフジ *Vicia japonica* A. Gray、クサフジ *Vicia cracca* L.などがあるが、いずれも形態が類似しているため、種までの分類は困難である。出土資料はいずれも保存状態が悪いため計測はしていない。

タデ科 POLYGONACEAE (図版Ⅷ-1-11:UA-2周辺F-7から出土)

灰集中(UA-1・2とその周辺)から出土。瘦果は三角状紡錘形で稜は鋭くギンギシ属 *Rumex* L.の特徴を示すものがほとんどであった。中にはレンズ形の種子も少量混在する。タデ科種子は形態の類似した種類が多いため、詳細な分類は困難である。計測値：長さ2.40×幅1.50(mm)

ナス科 SOLANACEAE (図版Ⅷ-1-12:UA-2周辺C-10から出土)

灰集中(UA-2)の周辺から酸化状態で出土。種子は扁平倒卵形でへその方に尖る。種子の全面に凹凸の網状の模様がある。これらの特徴からイヌホオズキ *Solanum nigrum* L.に分類される。計測値：長さ1.55×幅1.30×厚さ0.50(mm)

アカザ属 *Chenopodium* L. (図版Ⅷ-1-13:UA-1灰4から出土)

灰集中(UA-1・2とその周辺・5)からすべて酸化した状態で出土。種子は扁平球形。側面には喙状に突出したへそがある(資料の左上)。北海道にはアカザ *Chenopodium album* var. *centroru-*

*brum Makino*とシロザ *Chenopodium album* L. が分布しているが種子の形態からは種までの分類は不可能である。計測値：長さ1.00×幅1.00×厚さ0.50 (mm)

カヤツリグサ科 CYPERACEAE (図版Ⅷ-1-14: UA-2 周辺G-10から出土)

灰集中(UA-2)の周辺から出土。種子は楕円状三稜形。カヤツリグサ科の種子は類似する形態が多く詳細な分類は困難である。計測値：長さ1.80×幅1.00×厚さ0.55 (mm)

キランソウ属 *Ajuga* Linn. (図版Ⅷ-1-15a: UA-2 周辺F-7から出土)

平地住居跡(UH-5・7・8)からと灰集中(UA-1・2とその周辺・4)から出土。種子は狭倒卵形。背面は内側に湾曲する。腹面の下半分はやや凹み大きなヘソがある。種皮表面には大きな網目模様がある。種子の特徴からはキランソウ属の形態を示すが、北海道には分布していないという。類似した形態にケン属があるが、種子の大きさとヘソの形態が異なる。計測値：長さ1.80×幅0.95×厚さ0.90 (mm)

セリ科 UMBELLIFERAE (図版Ⅷ-1-16a: UA-2 周辺D-13から出土)

灰集中(UA-2の周辺)から酸化した状態で出土。種子は半楕円形。セリ科種子の特徴を示すが、種子の変形が大きく詳細な分類は出来なかった。計測値：長さ1.00×幅0.70 (mm)

ニワトコ属 *Sambucus* L. (図版Ⅷ-2-17a: UA-2 灰4から出土)

灰集中(UA-2)とその周辺から出土。種子は狭楕円形。背面は凹みがあり、腹面は鈍稜をなす。種皮は皺状に隆起した模様があり粗面である。これらの特徴からニワトコ *Sambucus racemosa* L. と判断される。ただし、日本では本州北部から北海道の林中にエゾニワトコ *S. buergeriana* var. *miquelii* (Nakai) Haraが分布するという。計測値：長さ2.00×幅1.30×厚さ0.40 (mm)

タラノキ属 *Aralia* L. (図版Ⅷ-2-18: UA-2 周辺C-10から出土)

灰集中(UA-2)の周辺から酸化した状態で出土。種子は半円形で左端には二本の縦溝があり、種皮は凹凸で粗面である。これらの特徴からタラノキ *Aralia elata* (Miq.) Seemannと判断される。計測値：長さ2.25×幅1.50×厚さ0.80 (mm)

クワ科 MORACEAE (図版Ⅷ-2-19: UA-2 周辺D-3区から出土)

灰集中(UA-2)の周辺から酸化した状態で出土。種子は広倒卵状三角形で種皮の表面は滑らかである。これらの特徴からヤマグワ *Morus bombycis* Koidz. と判断される。計測値：長さ2.00×幅1.50×厚さ1.40 (mm)

キイチゴ属 *Rubus* L. (図版Ⅷ-2-20: UA-2 周辺F-1区から出土)

灰集中(UA-2)の周辺から出土。種子の全面に大きな網状の凹凸がある。キイチゴ属種子は形態と種子表面の構造の類似したものが多いため種までの分類は困難である。計測値：長さ2.10×幅1.50×厚さ1.30 (mm)

キハダ属 *Phellodendron* Rupr. (図版Ⅷ-2-21a, 22: UH-6 HF-1から出土。)

平地住居跡(UH-6)からと灰集中(UA-2とその周辺・3・5)から出土。果実は球形の中に4つの小核があり、各1個の種子を含む(資料21a)。種子は半楕円形で表皮に浅い凹みによる網目模様がある(資料22)。これらの特徴からキハダ *Phellodendron amurense* Rupr. と判断される。計測値21a: 長さ7.40×幅6.70 (mm)、22: 長さ4.60×幅2.30×厚さ1.80 (mm)

ブドウ科 VITIDACEAE (図版Ⅷ-2-23a: UA-1 灰から出土)

平地住居跡(UH-8)からと灰集中(UA-1・2とその周辺・4)から出土。堅果は広倒卵形。背面は凹みがあり、倒へら形の凹みがある。腹面の中央は稜をなし、稜の両側に斜形の凹みがある。これらの特徴からブドウ属に分類される。北海道に分布するブドウ属にはヤマブドウ *Vitis coignetiae*

Pulliat とエビツル *Vitis ficifolia* Bunge var. *lobata*, サンカクズル *Vitis flexuosa* Thunb. があるが、後者の二種類は分布域が北海道の南部に限られているという。形態の特徴からはヤマブドウ *Vitis coignetiae* Pulliat と判断される。計測値：長さ4.40×幅3.30×厚さ2.10 (mm)

クリ属 *Castanea* Mill. (図版Ⅲ-2-24a, 25a: UH-6 HF-1 から出土)

平地住居跡 (UH-6) から果皮と子葉の破片が出土。子葉は三角状扁円形。長さより幅が広く一側面は円みがあり反対面は平らな形が多い。出土資料はいずれも破片で出土しているが、果皮と子葉の特徴からクリ *Castanea crenata* Sieb. と判断される。破片の計測値24a: 長さ8.40×幅4.10 (mm)、25a: 長さ10.00×幅5.00 (mm)

クルミ属 *Juglans* L. (図版Ⅲ-2-26a: UA-2 灰2 から出土)

灰集中 (UA-2) から内果皮の破片が出土。核表面には縦に浅い溝状の模様がある。これらの特徴からオニグルミ *Juglans sieboldiana* Maxim と判断される。細片のため計測はしていない。

不明1 (図版Ⅲ-2-27: UH-5 HF-2 から出土。28: UA-2 周辺H-8 から出土。29: UA-5 灰サンプルから出土)

平地住居跡 (UH-5) からと灰集中 (UA-2 とその周辺・5) から出土。現生の比較資料がないので同定が出来なかった資料を図示した。計測値27: 長さ2.80×幅1.25 (mm)、28: 長さ1.75×幅1.30 (mm)、29: 長さ4.70×幅1.10 (mm)

その他に不明2として扱った資料は、保存状態が悪いため全く分類できなかったものである。また、アワ、ヒエ属と考えられるが、被熱による変形が多く分類することができなかった資料を不明ミレットとして扱った。

(4) まとめ

アンカリト-7 遺跡の調査で得られた資料はアイヌ文化期に関わる平地住居跡、灰集中遺構からのもので、栽培植物のアワ、ヒエ、キビ、イネ、アズキ、アサ、シソ属などが見られた。その他の植物種子は、集落の周囲に一般的に認められる草本類と木本類で、いずれも可食性あるいは利用可能のものが多い。検出された栽培植物の中ではヒエが最も多く、次いでイネ、アワ、キビで、オオムギとコムギは見られなかった。この栽培植物の組成は千歳市、恵庭市周辺に分布するアイヌ文化期に見られるものであるが、イネについては在栽培であるのかは今のところ不明である (吉崎・椿坂 2002a, b, 吉崎・椿坂 2003)。

今回、アイヌ文化期の栽培植物の組成を考えるうえで良好な資料が得られた。しかも各遺構から出土したクルミ内果皮の放射性炭素年代を実施 (12件中7件) している。それぞれ年代値に差があるが西暦13世紀から18世紀の範囲で測定結果が得られている。この詳細についてはⅢ章-1を参照していただきたい。

近年、出土栽培種子、堅果類の放射性炭素年代を実施して、その成果が報告されている。フローテーション法のサンプリングの箇所については、後世の攪乱を受けていない層準の土壌を採取することを目的として各時代のサンプリングを実施している。しかし、遺跡によっては必ずしも保存状況の良いところばかりではないので、フローテーション法で得られた植物遺体の放射性炭素年代を実施することは不可欠である。

最後に、ヒエ属種子について次の情報が得られているので大まかに紹介しておきたい。これまでに北海道の遺跡から出土するヒエ属種子は、縄文時代早期末から近世アイヌ期まで形態的变化を見せな

がら連続と出土していることは知られている（吉崎 2003）。遺跡から出土する種子は形態の情報に基づいて同定されているので、形態の特徴だけでは不明瞭なことから、異なった方法で種群を確認する必要があると考え、炭化種子からDNAの抽出は極めて困難とされる実験を出土ヒエ属に試みた。各時代の遺跡から検出されたヒエ属種子からDNA抽出の処理を行った結果、千歳市オリカ2遺跡（近世アイヌ文化：西暦17世紀ころ）の炭化種子からDNAが抽出された。これはイヌビエ群にあたり、形態学同定でヒエ（栽培種）とする見解を強く支持するものであるという。そして、塩基配列がイヌビエ型であったことから、形態的に酷似している縄文時代のヒエ属種子はイヌビエか栽培ヒエである可能性が高いという成果が得られている（山口ほか 2007）。

引用文献

椿坂恭代

1993：「アワ・ヒエ・キビの同定」吉崎昌一先生還暦記念論文集『先史時代と関連科学』261-281

吉崎昌一・椿坂恭代

2002a：「北海道オサツ2遺跡・ユカンボシC2遺跡の縄文文化期と近世の炭化植物種子」『ユカンボシC2遺跡・オサツ2遺跡における考古学的調査』163-205、434-442 千歳市文化財調査報告書ⅩⅢ 千歳市教育委員会

2002b：「オリカ2遺跡から出土した炭化植物種子」『オリカ2遺跡』159-167 北理調報189 財団法人北海道埋蔵文化財センター

吉崎昌一・椿坂恭代

2003：「ユカンボシC15遺跡から出土した炭化植物種子」『ユカンボシC15遺跡6』265-296 北理調報192財団法人北海道埋蔵文化財センター

吉崎昌一

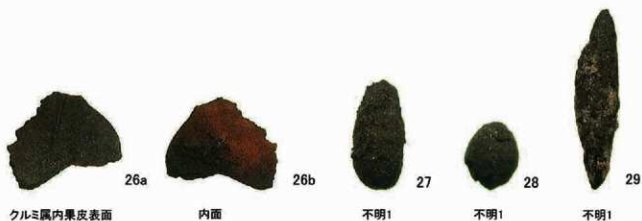
2003：「先史時代の雑穀」『雑穀の自然史』その起源と文化を求めて、52-70 北海道大学図書館刊行会

山口裕文ほか

2007：「アイヌヒエ酒に関するDNA考古植物学研究」成果報告書、『アイヌヒエ酒に関する考古民族植物学研究』アイヌ文化振興・研究推進機構助成研究



図版Ⅷ-1 出土炭化植物種子(1)



図版Ⅷ-2 出土炭化植物種子(2)

4. アンカリトー7遺跡出土黒曜石の産地推定

竹原 弘展 (ハレオ・ラボ)

(1) はじめに

千歳市に所在するアンカリトー7遺跡は、Ⅴ～Ⅷ層で後期旧石器時代の石器集中を2か所検出している。ここでは黒曜石について、エネルギー分散型蛍光X線分析装置による元素分析を行い、産地を推定した。

(2) 試料と方法

分析試料はアンカリトー7遺跡より出土した後期旧石器時代の黒曜石15点である(表Ⅷ-18)。

試料は、測定前にメラミンフォーム製のスポンジを用いて、測定面表面の洗浄を行った。

分析装置は、株式会社セイコーインスツルメンツ社製のエネルギー分散型蛍光X線分析計SEA-2001Lを使用した。装置の仕様は、X線管ターゲットはロジウムRh、X線検出器はSi(Li)半導体検出器である。測定条件は、測定時間300sec、照射径10mm、電流自動設定(1~63μA、デッドタイムが20%未満になるよう自動的に設定)、電圧50kV、試料室内雰囲気真空中に設定した。

黒曜石の産地推定には、蛍光X線分析によるX線強度を用いた黒曜石産地推定法である判別図法を用いた(望月、2004など)。本方法は、まず各試料を蛍光X線分析装置で測定し、その測定結果のうち、カリウム(K)、マンガン(Mn)、鉄(Fe)とルビジウム(Rb)、ストロンチウム(Sr)、イットリウム(Y)、ジルコニウム(Zr)の合計7元素のX線強度(cps: count per second)について、以下に示す指標値を計算する。

- 1) Rb分率=Rb強度×100/(Rb強度+Sr強度+Y強度+Zr強度)
- 2) Sr分率=Sr強度×100/(Rb強度+Sr強度+Y強度+Zr強度)
- 3) Mn強度×100/Fe強度
- 4) log (Fe強度/K強度)

そしてこれらの指標値を用いた2つの判別図(横軸Rb分率-縦軸Mn強度×100/Fe強度の判別図と横軸Sr分率-縦軸log (Fe強度/K強度)の判別図)を作成し、各地の原石データと遺跡出土遺物のデータを照合して、産地を推定するものである。この方法は、指標値に蛍光X線のエネルギー差ができる限り小さい元素同士を組み合わせて算出しているため、形状、厚み等の影響を比較的受けにくく、原則として非破壊である出土遺物の測定に対して非常に有効な方法であるといえる。なお、厚みにつ

表Ⅷ-17 北海道・東北地方黒曜石産地の判別群

都道府県	エリア	判別群名	原石採取地
北海道	白滝	白滝1	赤石山山頂(43)、八号沢露頭(15)、赤石山山頂、八号沢露頭、八号沢、黒曜の沢、石沢露頭直下河床(11)、アジサイの滝露頭(10)
		白滝2	赤石山山頂、八号沢露頭、八号沢、黒曜の沢、石沢露頭直下河床(11)、アジサイの滝露頭(10)
	赤井川	赤井川	蒲川・十木川(12)
	上土幌	上土幌	十勝三股(10)
	磯戸	磯戸山	磯戸山(5)
	豊浦	豊浦	所山(5)
	旭川	旭川	豊泉(10)
	名寄	名寄	近文台(7)
	秩父別	秩父別1	忠烈赤川(19)
		秩父別2	中山(74)
		秩父別3	
	遠軽	遠軽	社名潤川河床(2)
	牛田原	牛田原	仁田赤川河床(10)
	留辺蘆	留辺蘆	ケショマツ川河床(6)
	網走	網走	網走市営スキー場(9)、阿寒川右岸(2)、阿寒川左岸(6)
青森	本道	出来島	出来島海岸(10)
	深浦	八森山	八森山公園(8)
秋田	男鹿	金ヶ崎	金ヶ崎温泉(10)
	脇本	脇本	脇本海岸(4)
岩手	北上川	北上折居2	北上川(9)
	羽山	羽山	月山荘前(10)
宮城	宮崎	湯ノ倉	湯ノ倉(40)
	色麻	根岸	根岸(40)
	仙台	秋保1	土蔵(18)
		秋保2	
塩竈	塩竈	塩竈(10)	

いては、かなり薄くても測定可能であるが、それでも0.5mm以下では影響をまぬかれないといわれる（望月、1999）。極端に薄い試料の場合、K強度が相対的に強くなるため、 $\log(\text{Fe強度}/\text{K強度})$ の値が減少する。また、風化試料の場合でも、 $\log(\text{Fe強度}/\text{K強度})$ の値が減少する（同上）。そのため、試料の測定面はなるべく奇麗で平坦な面を選び、測定した。測定結果が判別群からかけ離れた値を示した場合は、測定面を変更するか、あるいはメラミンフォーム製スポンジで再度表面の洗浄を行った後、何回か再測定を行って検証した。

原石試料も、採取原石を割って新鮮な面を表出させた上で産地推定対象試料と同様の条件で測定した。表Ⅳ-17に判別群一覧とそれぞれの原石採取地点及び点数を、図Ⅳ-5に各原石のエリアの位置を示す。



図Ⅳ-5 北海道・東北方黒曜石原石採取エリア

(3) 分析結果

図Ⅳ-6および7に、黒曜石原石の判別図に遺物をプロットした図を示す。各図は視覚的にわかりやすくするため、各判別群を楕円で取り囲んである。試料15点のうち、10点が赤井川群、3点が白滝1群の範囲およびその周辺にプロットされた。分析No.6とNo.8は、図Ⅳ-6では赤井川群の範囲内にプロットされたが、図Ⅳ-7では赤井川群のやや下方にプロットされた。これは先述したように遺物の風化による影響と考えられ（望月、1999）、赤井川群に属する可能性が高い。産地推定結果を表Ⅳ-18に示す。

(4) 終わりに

アンカリト-7 遺跡出土黒曜石15点について、蛍光X線分析による産地推定を行った結果、12点が赤井川エリア、3点が白滝エリア産と推定された。

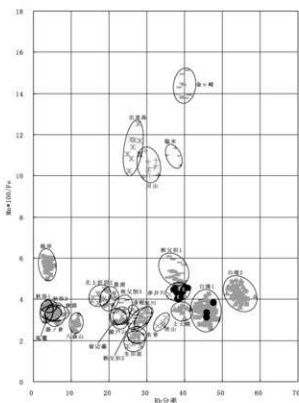
引用文献・参考文献

望月明彦（1999）上和田城山遺跡出土の黒曜石産地推定。「埋蔵文化財の保管と活用のための基礎的整理報告書2—上和田城山遺跡篇—」：172-179、大和市教育委員会。

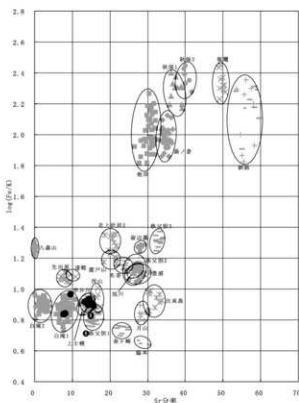
望月明彦（2004）用田大河内遺跡出土黒曜石の産地推定。かながわ考古学財団調査報告167 用田大河内遺跡、511-517、財団法人 かながわ考古学財団

表Ⅶ-18 分析対象資料および産地推定結果

分析 No	出土 遺構	遺物 番号	採取 層位	器種	重量	X線強度 (cps)	鉛線強度 (cps)	Fe線強度 (cps)	鉛線強度 (cps)	Y線強度 (cps)	Zr線強度 (cps)	Rb比率	Mo×100 Fe	Sr比率	log Fe K	判別群	エリア	
1	SB-1	1149	Ⅲ	石片	2.97	8.61	2.80	70.67	8.45	3.49	3.34	8.19	38.61	3.97	14.25	0.91	赤井川	赤井川
2	SB-1	1109	V	残片	6.09	7.68	2.55	62.95	8.96	3.11	2.83	8.03	39.07	4.04	13.56	0.91	赤井川	赤井川
3	SB-1	1155	Ⅲ	残片	5.02	8.92	2.25	56.22	8.17	3.23	2.98	8.98	38.26	4.01	15.12	0.91	赤井川	赤井川
4	SB-1	929	Ⅲ	腕持割片	2.25	7.77	3.02	66.61	8.33	3.59	3.51	8.42	37.55	4.53	14.44	0.93	赤井川	赤井川
5	SB-1	685	Ⅲ	石片	7.27	7.68	2.73	63.55	8.95	3.31	3.20	8.14	37.93	4.30	14.02	0.92	赤井川	赤井川
6	SB-1	993	Ⅲ	石片	5.64	13.20	2.79	67.95	8.64	3.43	4.08	7.92	38.45	4.11	13.67	0.71	赤井川?	赤井川?
7	SB-1	1672	Ⅲ	燧石片	0.18	8.86	3.70	80.81	10.79	3.59	3.89	8.50	40.29	4.58	13.40	0.91	赤井川	赤井川?
8	SB-1	1176	Ⅲ	燧石片	0.12	14.71	4.41	98.68	11.51	4.34	4.04	9.04	39.78	4.47	15.01	0.83	赤井川?	赤井川?
9	SB-1	1297	Ⅲ	燧石片	0.27	10.66	3.84	85.97	10.79	4.38	4.65	9.15	37.24	4.46	15.13	0.91	赤井川	赤井川
10	SB-1	355	Ⅲ	燧石片	0.22	10.50	3.58	81.99	10.80	4.33	3.80	8.39	39.55	4.37	15.84	0.89	赤井川	赤井川
11	SB-1	1847	Ⅲ	燧石片	0.02	14.14	4.55	109.82	11.17	4.52	3.86	9.17	38.91	4.14	15.73	0.89	赤井川	赤井川
12	SB-1	286	Ⅲ	燧石片	0.68	10.27	3.71	70.72	11.78	2.04	4.02	6.84	47.73	3.83	8.26	0.84	白滝1	白滝
13	B-618	1	V	燧石片核	5.33	6.71	1.93	62.18	8.96	2.08	3.72	5.93	45.92	3.11	9.59	0.97	白滝1	白滝
14	SB-1	902	Ⅲ	残片	8.83	8.94	2.25	67.65	11.93	3.01	4.37	7.71	45.84	3.33	7.74	0.83	白滝1	白滝
15	SB-1	127	V	石片	3.06	8.15	3.90	63.96	8.41	3.27	3.32	6.97	40.96	4.53	14.24	0.89	赤井川	赤井川



図Ⅶ-6 黒曜石産地推定判別図(1)



図Ⅶ-7 黒曜石産地推定判別図(2)

5. アンカリトー7遺跡出土試料の岩石学的分析

アースサイエンス株式会社

肉眼観察 加藤 孝幸

蛍光X線分析 加藤 孝幸 飯田 友章

EPMA分析(EDS) 岡村 聡

まとめと考察 加藤 孝幸

(1) 肉眼観察

試料の肉眼観察はNIKON製ファールブル実体鏡(20×)を併用して行った。結果は表Ⅶ-19の通りである。

表Ⅶ-19 アンカリトー7遺跡 珪質剥片石器の肉眼鑑定結果

試料番号	遺物番号	岩石名	色調	透明感	備考
No 1	404	酸性凝灰岩	帯緑灰色	弱	珪化した凝灰岩、圧力溶解へき間あり、付加体構成岩に由来する変形を受けた岩石の可能性。
No 2	1336	珪質頁岩	暗褐色 (チョコレート色)	中	珪化した泥質堆積岩で砂質粒子が散在。
No 3	1631	珪質頁岩	暗褐色	弱	珪化した砂質分の多い泥質堆積岩。
No 4	1597	珪化岩	灰白色と褐色の縞状	高	原岩の推定困難だが変形を受けていない火山活動による熱水変質岩の可能性。石英>褐鉄鉱
No 5	543	珪化岩	灰白色と赤褐色の縞状	高	原岩の推定困難だが変形を受けていない火山活動による熱水変質岩の可能性。石英>赤鉄鉱

(2) FP法蛍光X線分析

・分析の方法

蛍光X線分析のうちファンダメンタルパラメータ法(FP法)による分析は、試料をそのまま非破壊で、また粉末状態で、あるいは微量でも分析できる。

ここではフィリップス社製蛍光X線(XRF)分析装置MagiXを使用した。各元素の測定条件を表に示す。X線管球はエンドウィンドウ型のRh管球を用いている。測定環境はヘリウム環境中で測定した。測定時間は一試料につき約23分である。

試料及び定量操作：試料は未処理のものをそのまま測定試料とした。試料測定用プラスチック製カップ(直径3.7mm、深さ2.5mmの円筒状)に、一重のポリプロピレンフィルムを装着し、試料を入れた。中の試料が動かないようにフタをして、金属ホルダーに入れ試料室にセットし測定を行った。定量分析は付属のソフトを用いファンダメンタルパラメータ法(FP法)によって行った。

なお、本装置では、Na-Uの元素が定量可能であり、C、N、Oといった軽元素は検出できない。

試料の測定で用いたFP法は、標準試料を用いた検量線法とは異なり、分析線の強度が試料の組成と

基礎的定数（ファンダメンタルパラメータ）の関数として記述できるという考え方を基礎とした理論計算法である。この方法は、出所不明の未知試料の分析や、上述のように試料の形状や量に関わらず前処理なしで定量できるメリットがある。

分析結果を表2に示す。

（3）EDS分析（エネルギー分散法EPMA分析）

・分析方法

構成鉱物の電子顕微鏡観察および化学分析は、走査型電子顕微鏡とそれに付設のエネルギー分散型EPMA分析装置によった。装置は電子顕微鏡（JEOL JSM-T330A）に付設したLink社製QX200Jである。加速電圧は15kV、補正はZAF補正によった。試料は前処理として、研磨薄片に、炭素蒸着を行った。これは非導電性試料に炭素を真空蒸着することによって電子線照射による試料面の帯電を防ぐ効果がある。電子線は最小領域2～3ミクロンまで絞り込むことができ、試料中鉱物の微小領域の化学分析が可能である。電子線照射によって発生する元素特有の波長を示す固有X線を検出することによって元素の定性・定量分析を行う。分析結果を表Ⅷ-20に示す。

（4）珪質頁岩の産地特定

今のところ道央の珪質頁岩産地の分析データがないので産地の特定はできない。少なくとも道南や道北（サウル遺跡）のデータとは各種ダイヤグラム（図Ⅷ-8～10）において一致しない。

なお、これらの図にはFP法蛍光X線の分析値をプロットしている。

引用文献

アースサイエンス株（2007）：下川町サウル4線遺跡報告書（北理調報258） 北海道埋蔵文化財センター。

森町教育委員会（2006）：芽部群森町埋蔵文化財調査報告書「鷲ノ木4遺跡」、（分冊）自然科学等による諸分析

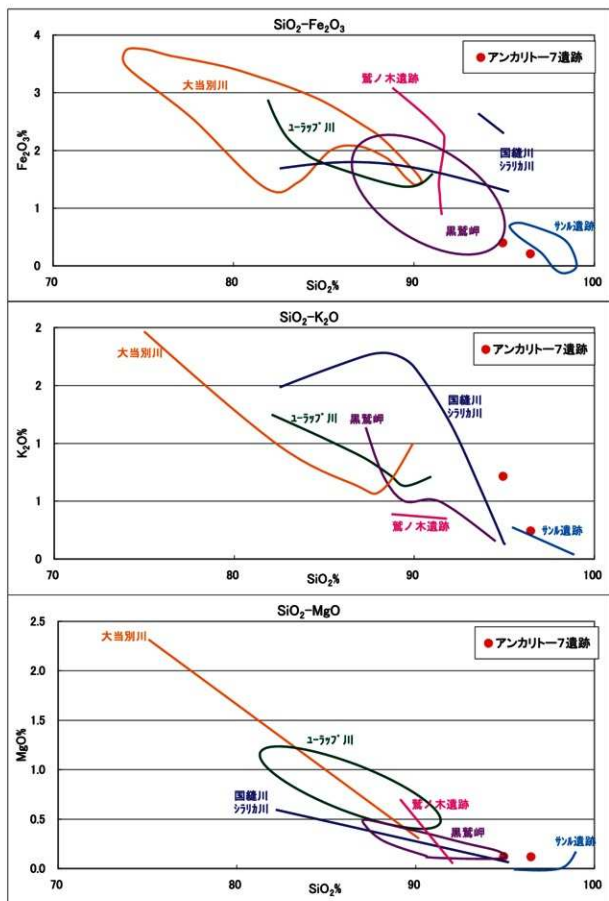
表Ⅱ-20 FP法蛍光X線分析結果

試料番号	No. 1		No. 2		No. 3		No. 4		No. 5	
	濃度 (%)	絶対誤差 (%)	濃度 (%)	絶対誤差 (%)	濃度 (%)	絶対誤差 (%)	濃度 (%)	絶対誤差 (%)	濃度 (%)	絶対誤差 (%)
1	84.50	0.2	94.937	0.2	96.47	0.3	96.68	0.2	95.80	0.3
2	TiO ₂ 0.08	0.003	0.10117	0.004	0.06	0.004	0.08	0.004	0.12	0.005
3	Al ₂ O ₃ 8.32	0.06	3.2565	0.04	2.17	0.04	2.77	0.04	3.25	0.05
4	Fe ₂ O ₃ 0.34	0.007	0.39726	0.006	0.21	0.006	0.15	0.004	0.39	0.008
5	MnO									
6	MgO	0.08	0.12127	0.004	0.12	0.003	0.10	0.003	0.10	0.003
7	CaO	0.08	0.075904	0.004	0.31	0.009	0.04	0.002	0.07	0.005
8	Na ₂ O	0.21	0.24945	0.01	0.17	0.008				
9	K ₂ O	6.22	0.71339	0.01	0.24	0.008	0.11	0.006	0.16	0.006
10	P ₂ O ₅	0.06	0.004		0.09	0.006			0.04	0.003
11	SO ₃	0.06	0.067358	0.005	0.10	0.006	0.07	0.004	0.08	0.005
12	Cl	0.029918	0.002							
13	Sr	0.001817	0.001	0.0050819	0.001	0.0041006				
14	Zr	0.0066545	0.001	0.0022908	0.001	0.0018179	0.0015579	0.001	0.0022107	0.001
15	Cd									
16	Ba			0.055795	0.002	0.057807				
17	Y	0.0034946	0.001	0.0015265	0.001	0.002013				
18	Bb	0.013298	0.001	0.002032	0.001					
19	Ni		0.013624	0.001						

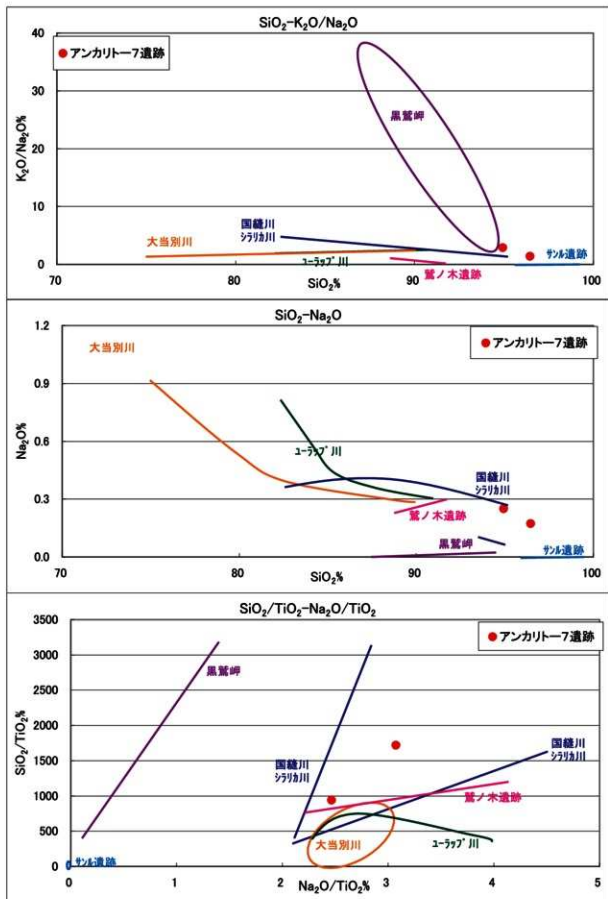
表Ⅷ-21 EDS分析結果

	アンカリト-7 遺跡 No.1 (SB-1 404)				アンカリト-7 遺跡 No.4 (SB-1 1597)		
	測定値	100%換算			測定値	100%換算	
	平均値 (n=8)	平均値 (n=8)	標準偏差 (1σ)		平均値 (n=6)	平均値 (n=6)	標準偏差 (1σ)
SiO ₂	74.62	73.29	6.51	SiO ₂	95.98	95.48	1.13
TiO ₂	0.38	0.38	0.32	TiO ₂	0.13	0.13	0.05
Al ₂ O ₃	15.28	15.00	3.58	Al ₂ O ₃	2.94	2.93	0.52
FeO	4.02	3.94	1.77	FeO	1.17	1.17	0.54
MnO	0.13	0.13	0.10	MnO	0.05	0.05	0.03
MgO	0.42	0.41	0.19	MgO	0.12	0.11	0.06
CaO	0.46	0.45	0.17	CaO	0.08	0.08	0.08
Na ₂ O	0.76	0.75	0.26	Na ₂ O	0.07	0.07	0.05
K ₂ O	5.79	5.71	1.79	K ₂ O	0.14	0.14	0.09
Total	101.82	100.00		Total	100.51	100.00	
	アンカリト-7 遺跡 No.2 (SB-1 1336)			B	アンカリト-7 遺跡 No.5 (SB-1 543)		
	測定値	100%換算			測定値	100%換算	
	平均値 (n=7)	平均値 (n=7)	標準偏差 (1σ)		平均値 (n=7)	平均値 (n=7)	標準偏差 (1σ)
SiO ₂	87.66	93.15	1.76	SiO ₂	84.93	89.21	2.65
TiO ₂	0.19	0.21	0.19	TiO ₂	0.16	0.17	0.07
Al ₂ O ₃	4.36	4.63	1.06	Al ₂ O ₃	7.11	7.50	1.98
FeO	0.76	0.81	0.50	FeO	2.00	2.09	0.37
MnO	0.04	0.05	0.05	MnO	0.12	0.13	0.10
MgO	0.17	0.19	0.07	MgO	0.30	0.31	0.18
CaO	0.08	0.09	0.06	CaO	0.17	0.17	0.04
Na ₂ O	0.36	0.38	0.30	Na ₂ O	0.13	0.13	0.13
K ₂ O	0.53	0.56	0.24	K ₂ O	0.34	0.36	0.14
Total	94.10	100.00		Total	95.18	100.00	
	アンカリト-7 遺跡 No.3 (SB-1 1631)			W	アンカリト-7 遺跡 No.5 (SB-1 543)		
	測定値	100%換算			測定値	100%換算	
	平均値 (n=8)	平均値 (n=8)	標準偏差 (1σ)		平均値 (n=7)	平均値 (n=7)	標準偏差 (1σ)
SiO ₂	90.44	93.76	2.94	SiO ₂	5.54	6.40	6.26
TiO ₂	0.20	0.21	0.09	TiO ₂	0.07	0.08	0.08
Al ₂ O ₃	3.97	4.19	1.65	Al ₂ O ₃	2.60	2.97	1.25
FeO	0.89	0.97	1.06	FeO	78.71	89.19	7.47
MnO	0.17	0.18		MnO	0.69	0.78	0.29
MgO	0.13	0.14	0.12	MgO	0.33	0.37	0.66
CaO	0.23	0.25	0.14	CaO	0.13	0.15	0.07
Na ₂ O	0.24	0.25	0.14	Na ₂ O			
K ₂ O	0.28	0.29	0.17	K ₂ O	0.11	0.13	0.16
Total	96.34	100.00		Total	88.11	100.00	

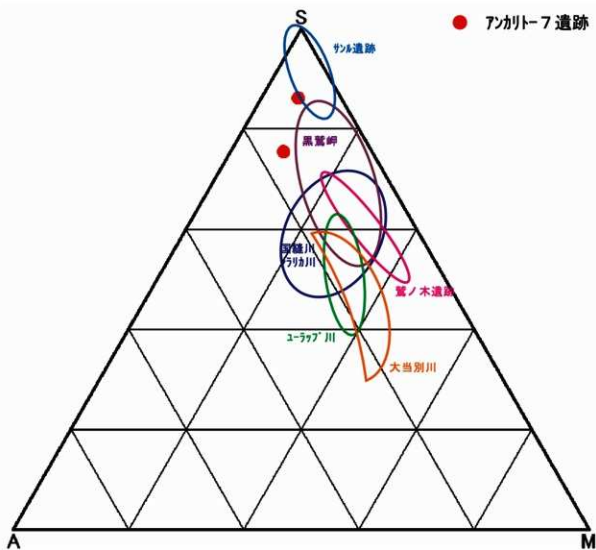
注：No.5の分析ポイントBは珪質岩、Wは試料表面に見られる粒状物質（不透明鉱物？）



図Ⅷ-8 渡島半島ほかの珪質頁岩の化学組織との比較(1)



図Ⅷ-9 渡島半島ほかの珪質頁岩の化学組織との比較(2)



図Ⅷ-10 渡島半島ほかの珪質頁岩の化学組織との比較(3)

IX章 まとめ

1. アンカリトー7遺跡のアイヌ文化期の遺構について

アンカリトー7遺跡では平地住居跡11軒・建物跡2棟・杭穴334か所（杭列12か所含む）・灰集中5か所・土坑墓1基などで構成されるアイヌ文化期の集落跡を確認した。集落跡は古砂丘を成因とする丘陵部の北側緩斜面から平坦面に位置する。現況では西側約200mに祝梅川が北流しているが、II章で述べられているように遺跡北側には祝梅川からアンカリトー、それに続くオサツトー・マオイトーなどの湖沼や湿地帯が発達していたと推定される。

湖沼周辺では南西部のユカンボシC2遺跡・ユカンボシC15遺跡・メボシ川3遺跡・南東部馬追丘陵側のキウス9遺跡・オリイカ2遺跡・チブニー2遺跡・当遺跡などアイヌ文化期の遺跡が数多く調査されている。さらに当遺跡より太平洋側の祝梅川上田遺跡・祝梅川小野遺跡・梅川4遺跡（いずれも報告書作成中）などでもアイヌ文化期の集落跡が調査されており、今後太平洋と日本海を結ぶルート上の地域のアイヌ文化期集落の様相がより明らかになっていくものと思われる。

以下遺構についてふれる。

住居跡について

平地住居跡は11軒で長軸3m程の小型のもの（UH-6）、長軸4m前後～5mの中型のもの（UH-2～4・9・11）と5m以上の大型のもの（UH-1・5・7・8・10）とに分けられる。いずれもセムなどの付属構造がない。

小型のUH-6は倉庫と想定される建物跡（UB-1・2）同様、比較的太い柱穴で構成される。床面積8㎡程と居住スペースとしては小さいことから別な用途の建物跡かもしれない。

中型のものは床面積が15㎡程で（UH-11は18㎡）、長軸上に炉が1か所存在する。平面形は長方形であるが、正方形に近いものが多い。

大型のものは平面形が長方形、床面積は概ね30㎡弱程で、最大のものでは40㎡程（UH-5）となる。UH-1を除き住居長軸上に複数の炉が存在する。UH-7・8では住居内長軸の炉近くに内部の補助的な柱が2本確認されている。

長軸方向は北-南・北東-南西・東-西の大きく3つに分けられる（図Ⅸ-1）。北-南方向に長軸があるものは比較的小型で正方形に近いタイプが多い。また北東-南西・東-西軸となるものは大型で複数炉を持つタイプと中型のものがセットになる傾向がある。長軸方向の差は時期差を示すもので、北-南・北東-南西・東-西と変遷すると考えたが、放射性炭素年代測定とはうまく合致せず検討を要する。

住居の遺物については主に金属製品と棒状礫がある。金属製品は内耳鉄鍋・刀子・小刀・鋸・マレットなどの製品と棒状の素材、鉄片などがある。棒状礫は長さ5～7cm、幅3～4cm、重量60～70g程のものが多く、砂岩や閃緑岩礫が利用される。軽石を棒状礫と同形態（長さ6～7cm、幅は3～4cm程）に加工するものがあり、軽石製石製品とした。重量は10～50gとやや軽い棒状礫と同様に編み物の鎌石（ビツ）と思われる。

住居跡の年代は放射性炭素年代測定では大きく15世紀から17世紀の範囲となる。Ta-a火山灰下のIII層を数cm掘り下げて確認された遺構が多いことや住居跡形態で「セム」がみられないこと、さらに金属製品年代とも矛盾はないことから、概ねこの年代のものとする。

灰集中2(UA-2)について

UA-2は9m×3m程の範囲に10か所程の灰のまとまりと遺物・動物遺体がみられたものである。調査区北西端に位置し、調査区外へ続いている。もっとも近いUH-5から8m程離れている。灰は層状とならず、層厚が2～10cmと薄いため比較的短期間に形成されたものであろう。

遺物はUA-2の南西側の灰2およびその周辺から多く出土した。棒状礫・骨角器(骨鏃・中柄・骨針など)・ガラス小玉・コハク原石・金属製品(刀装具・銅鏃・釣針・針・装飾品など)があり、多くは破損している。

動物遺体は魚類のサケ科が多く、全サケ出土量の8割近くがUA-2から出土している。住居跡炉からのサケ遺存体が被熱し細片なのに対し、熱を受けず残存状況が良い。特にUA-2北側の灰3・4ではサケ科骨が頭部や棘・肋骨を中心に良好な状態で出土した。椎骨は現場段階では少ないと感じたが、フローテーションにより細かく割れたものが多く得られた。

灰2では小破片ながらコウダカスカシガイ・ユキノカサガイ・スガイ・ホタテガイ・カワシンジュガイ・コタマガイ・ウバガイ・サラガイなどの貝類、オオハクチョウ・エゾユキウサギ・ヒグマ(犬歯)・シカ・アシカなど多様な種類がみられた。周辺で採取可能なものと海棲のものがある。

また灰4上面ではカワシンジュガイがまとまって並べられたような状態で検出した。

以上、灰のまとまりが広く数か所で見られること、灰3・4などサケ科骨が集中してみられること、カワシンジュガイが灰上に並べられたような状態であったことなどから、UA-2は灰や動物骨などの「送り場」であったと思われる。年代は放射性年代測定では1420-1500ADとなるが、出土した銅鏃はキセル加工品の可能性があることから検討が必要である。

なおUA-1は調査区外に主体があり全容は不明だが、UA-2同様の送り場の可能性がある。灰の堆積が厚く、灰中から骨角器・動物遺体が出土し、周辺には棒状礫が多くみられた。動物遺体はサケ科が少なく、コイ科・ヒメトガリネズミ・ヤチネズミ・タヌキ・イヌ(歯のみ)・シカがある。特にタヌキ・イヌはUA-1のみの出土である。

土坑墓について

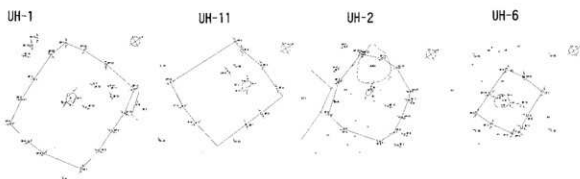
GP-1は人骨や副葬品はないが、埋め戻し土や形態から土坑墓とした。平面形態は長軸2.37m×短軸0.88mの隅丸方形で、東側がやや広がり台形に近くなる。東位の伸展葬が想定される。また土坑底壁際には4本の杭穴がある。杭穴は径が10cm程で先端が尖り、坑底から50cm程打ち込まれていた。

土坑底壁に4本杭穴がある土坑墓は縄文時代から知られるものだが、アイヌ文化期には類例がなく、樺太文化期後半(11世紀～12世紀)の標津町伊奈仁カリカリウス遺跡1号墓・2号墓がもっとも近い時期の類例になる。1号墓・2号墓とも平面形は長方形で、1号墓は長軸2.30m×短軸0.70mとなり伸展葬が、2号墓は長軸1.55m×短軸1.10mと屈葬がそれぞれ予想されている。杭穴は径5cm程でどちらも副葬品はない。

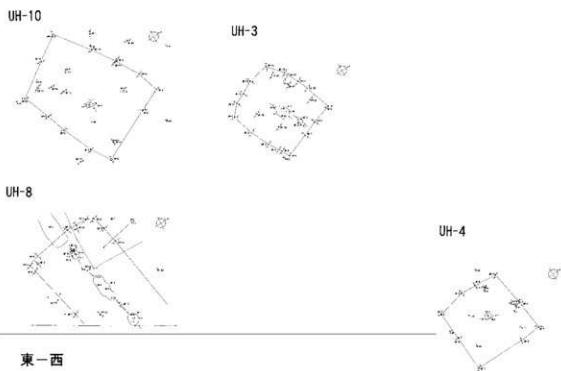
また聞き取りによる近世アイヌ埋葬例に「墓壇の底の両端にY字状の棒を立て、これに1本の横棒をわたしてヨモギを被せ、その上に土をかける」(豊原1998)という例があげられており、2本杭穴であるが上屋構造がある墓が近世に存在したことがわかる。GP-1など4本杭穴を持つ墓も屋根などの上屋構造があった可能性がある。

GP-1はUH-8と切りあっているが、窪みが残る部分にUH-8が構築されたとは考えづらい。GP-1はアイヌ文化期でUH-8廃絶後の時期であろう。またUH-7のすぐ傍らにあり、長軸をほぼ同じくすることから被葬者はUH-7と関連する可能性がある。(愛場和人)

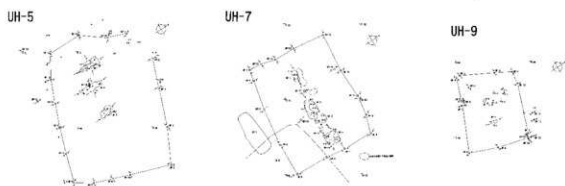
北—南



北東—南西



東—西



図Ⅸ-1 平地住居跡集成図

2. アンカリトール7遺跡の旧石器について

今回の調査で、広郷型細石刃核石器群と峠下型細石刃核石器群の石器集が1か所ずつ検出された。石器集の相伴関係は不明であるが、特に広郷型細石刃核石器群は、従来石狩低地帯南部においては千歳市オサツ2遺跡、同キウス9遺跡で断片的にみられるのみであり、まとまった資料としては初見といえる。以下、石器群ごとに石器組成、ツール、石器製作作業内容などについて概観する。

(1) 広郷型細石刃核石器群 (SB-1) について

石器組成・石材 ブロック外出土も含め、総点数は2,051点、総重量は3,686.6gである。定形的な石器は、細石刃・細石刃核・彫器・削片・搔器・両面調整石器・削器・石刃・斧形石器・たたき石・砥石がある。また、「石棒」状の石製品が1点出土しているが、SB-1との相伴関係は不明である。SB-1の石器組成は、尖頭器を除く広郷型細石刃核石器群の主なツールがほぼ揃っており、その中では、細石刃・彫器及び彫器削片が多い点、大型の斧形石器の存在が特徴的である。

石器石材は、黒曜石・頁岩・珪化岩が主体で、凝灰岩・泥岩・砂岩・粘板岩は少量である。黒曜石は、細かい球果を少量含むものが多く、肉眼観察では赤井川産とみなせるものだが、全体的に良質なものである。頁岩は珪質分に富むものとやや低いものの両者がみられる。珪化岩は珪質分・透明度が非常に高い。石材別にみると、黒曜石は細石刃・搔器・石刃、頁岩は細石刃・細石刃核・彫器・削片・削器、珪化岩は彫器・搔器・錐形石器が多い傾向があり、器種により使用石材の傾向が異なる。

ツール 細石刃は、折損するものがほとんどで、側縁に細かい剥離痕のあるものも極少量みられる。石材は黒曜石・頁岩で、幅は約3～5mm、厚さ1～2mmのものが多く、平面・側面観は非常に細長く直線的で、背面の剥離面の稜も直線的で側縁と平行し、全体的に規格性が高い。

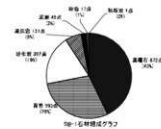
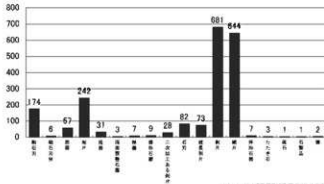
削片は、打点側を折損するものが多く、石材は黒曜石・頁岩・珪化岩で、幅4～9mm、厚さ1～5mmのものが主体である。また、側面に素材の背面もしくは腹面を取り込むものが多い。平面観は、側縁がやや湾曲するものが多く、小型のものは幅に比べて長さが短く、寸詰まりになる。背面の剥離面の稜もやや湾曲し、不整である。側面観は中間部～末端部にかけて腹面側にやや湾曲する。

細石刃核は、幅広く厚みのある石刃素材のものが多く、彫器と複合するものもある。石材は全て頁岩で、素材の両側縁には軽微な加工が施される。幅は22～36mmで平均値29.1mm、厚さは9～17mmで平均値13.8mmである。作業面の最大長は34～67mmを測る。細石刃剥離作業面（以下「作業面」）は右側縁上部に設定され、側縁に沿ってまたは斜交して細石刃が剥離される。また、作業面の桶状剥離痕は細長く直線的に並行し、3～7面で構成される。作業面の打面は、腹面側からの急角度の調整で直線状に作出される。また、細石刃剥離の際には、作業面側から軽微な打面調整が施される。

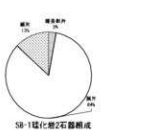
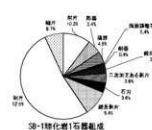
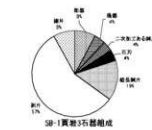
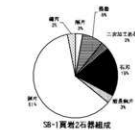
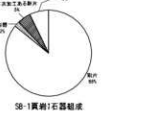
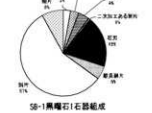
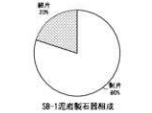
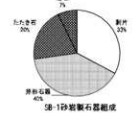
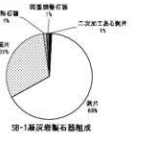
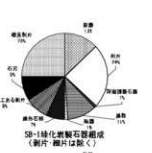
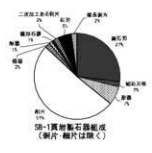
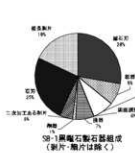
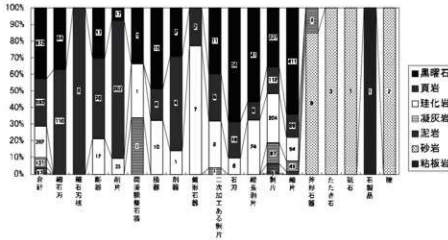
彫器は、石刃素材のものが多く、縦長剥片及び剥片素材のものも少量みられる。また、搔器や錐形石器と複合するものもある。石材は頁岩が主体で黒曜石・珪化岩もみられる。素材の両側縁の加工の有無は個体により異なる。幅は14～40mmで平均値は25.2mm、厚さは5～19mmで平均値は10.5mmで、細石刃核に比べてやや小型である。刃部形態は側刃型が最も多く、次いで交叉刃型、ごく少量の斜刃型の順となり、刃部形態が複合するものもある。彫刀面は左右両側縁に設定され、上下に作出されるものも多い。彫刀面の桶状剥離痕は1～3面程度からなり、剥離痕は細石刃核に比べて不整となる。彫刀面打面は、斜刃型・側刃型ともに腹面側からの調整により、直線状・ノッチ状に作出されるものが多い。側刃型の彫刀面打面は調整面が多く、折れ面のものは少ない。また、彫刀面作出の際に、彫刀面側からの打面調整は行われない点が特徴的である。

搔器は、石刃素材のものが多く、剥片素材のものも少量みられる。石材は黒曜石が約5割を占め、次いで珪化岩、頁岩となる。小型のものが多く、側縁に軽微な調整が施されるものもある。

SB-1石器数数グラフ



SB-1石器種別石材組成



図区-2 SB-1石器組成グラフ (器種別・石材別・石質別)

両面調整石器で完形のは1点のみである。珪化岩製で、平面は楕円形状を呈し、断面形は弓状で、厚みがある。石材、製作技術は異なるが、大きさ及び形状は後述の斧形石器①と類似する。

削器は、頁岩製が多く、黒曜石・珪化岩も少量みられる。素材は石刃・縦長剥片・剥片で、刃部の作出は軽微な加工によるものが多い。また、刃部が鋸歯縁状のものもある。

錐形石器は、頁岩製と珪化岩製がある。素材は、石刃・縦長剥片・剥片・削片である。素材の形状を活かし、末端部に尖頭部を作出するものが多く、上下に尖頭部をもつものもある。

石刃は折れているものが多く、完形のは少ない。石材は黒曜石が多く、頁岩・珪化岩は少量である。長さは5～10cm、幅1～2cm、厚さ2～4mm程度の小～中型のものが主体で、ほとんどのものに打面調整及び頭部調整がみられる。

斧形石器は大きく2種類に分けられる。①は広郷型細石刃核石器群に特徴的な、加工が軽微で原礫面を大きく残す小型のものである。石材は砂岩で、形状は楕円形である。②は両面調整が施され、刃部付近に研磨が施される大型のものである。石材は珪質分に富む凝灰岩で、接合資料(凝灰岩1・接合61)から、形状は左右非対称で楕形を呈することが判明した。

礫石器には砂岩製のたたき石、砥石がある。たたき石は素材の礫の端部にわずかに敲打痕がみられるものである。砥石は砥面が平滑で、斧形石器の研磨に関連する可能性がある。

石器製作作業内容 遺跡内では、細石刃剥離、石刃核製作、彫器・搔器などの素材となる石刃・縦長剥片・剥片剥離、ツール製作が行われている。以下、作業内容ごとに概要を述べる。

細石刃剥離作業は、複数の細石刃核により行われている。頁岩製のは、全て細石刃核として搬入され、細石刃剥離後、大部分は遺棄されている。黒曜石製のもの(黒曜石6～8)は、細石刃のみの出土であるため、製品として搬入された場合と、細石刃核を搬入し細石刃剥離後遺跡外に搬出された場合の、2種類の状況が想定される。

石刃剥離作業は、黒曜石(黒曜石1)と頁岩(頁岩2・3)によって行われている。いずれも石刃剥離時には、打面調整及び頭部調整が行われる。剥離された石刃は小～中型のもので、一部は彫器・搔器などの素材となる。また、細石刃核素材となるような大型の石刃は剥離されていない。最終的に石刃核は全て遺跡外に搬出されている。黒曜石製では、石刃核が1～複数個体遺跡内に搬入され、比較的多くの石刃が剥離されている。石刃核には角礫素材のものがあり、接合資料(黒曜石1・接合1など)から、遺跡内で石刃核の母型から製作したことが推定される。大きさは、石刃の接合資料から長さ15cm前後のものと推測される。頁岩製では、石刃核が遺跡内に複数個体搬入されている。石刃核の大きさは、石刃の接合資料から長さ10cm前後のものと推測される。頁岩2・3ともに石刃を含め点数が少なく、少量の石刃剥離が行われたと考えられる。

剥片生産作業は、珪化岩(珪化岩1・2)で主に行われている。石核は遺跡内で剥片剥離を行った後、全て遺跡外に搬出されている。珪化岩1では縦長剥片や不定形剥片が剥離され、これらを素材として彫器・搔器等の製作が行われている。珪化岩2は石器石材としては粗悪で、多くの剥片が剥離時に砕けている。また、剥片は不定形状で、これらを素材としたツールはみられない。

ツール製作は、大きく2種類に分けられる。①は上記の石刃剥離で得られた石刃や剥片剥離で得られた剥片を素材とし、彫器・搔器などが製作されるもので、②は遺跡内に単体で搬入された石器について、彫器の刃部作出・再生、斧形石器などの製作が行われるものである。②は特に頁岩製の彫器が多くみられる。①、②を通してツール製作の中では、彫器及び削片に関する接合資料が27個体と多く、彫器の彫刃面作出・再生が頻繁に行われていることが推測される。接合点数は、彫器と削片及び削片同士の接合ともに2～4点程度だが、頁岩1・接合25のように、彫器1点に削片等が24点接合

SB-1
石刃剥離

黒曜石1-種合1



285

黒曜石1-種合2



287

黒曜石1-種合4



289

石刃剥離、彫器・掻器製作

黒曜石1-種合4



291

黒曜石1-種合14



293

黒曜石1-種合17



295

黒曜石1-種合13



297

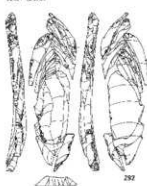
珪化岩1-種合42



300

彫器製作

珪化岩1-種合25



292

黒曜石1-種合23



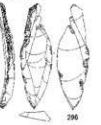
293

黒曜石1-種合17



295

黒曜石1-種合26



297

黒曜石1-種合32



299

黒曜石1-種合24



291

珪化岩1-種合24



293

珪化岩1-種合35



295

珪化岩1-種合26



297

削片剥離

珪化岩1-種合24



301

珪化岩1-種合27



303

珪化岩1-種合25



305

珪化岩1-種合33



307

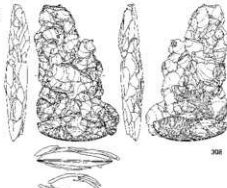
珪化岩1-種合41



309

斧形石器、両面調整石器製作

珪化岩1-種合61



311

SB-2 細石刃剥離

黒曜石1-種合12



313

黒曜石1-種合30



315

黒曜石1-種合31



317

削片剥離

黒曜石11-種合11



319

図X-3 SB-1・2作業内容別接合資料

		搬入形態	遺跡内での主な作業	最終段階
黒曜石	黒曜石6~8	細石刃核?	細石刃剥離?	搬出?
	黒曜石1	石刃核(複数?)	調整剥離・石刃剥離 影器・搔器製作	搬出 搬出・遺棄
頁岩		細石刃核(複数)	細石刃剥離	→ 搬出? → 遺棄(6個体)
	頁岩2,3	石刃核(2個体?)	調整剥離・石刃剥離 影器・搔器製作	搬出 搬出・遺棄
	単体石器	影器	影刃面作出・再生(削片剥離)	搬出・遺棄
珪化岩	珪化岩1	石核	石核調整? 縦長剥片剥離? 影器・搔器製作	搬出 搬出・遺棄
	珪化岩2	石核	剥片剥離	搬出
凝灰岩	凝灰岩1	石斧未成品	斧形石器製作(調整剥離・研磨) 破損・再加工 両面調整石器製作	搬出
泥岩	泥岩1~3	石斧未成品	斧形石器製作(調整剥離・研磨)	搬出

図X-4 SB-1の主な石器製作作業内容(石材別)

する例もみられる。また、一次削片が少なく、製品として搬入された彫器の多くは、削片剥離が行われた状態で遺跡内に持ち込まれた可能性が高い。

斧形石器製作については、凝灰岩1・接合61が該当する。製作最終段階で遺跡内に搬入し、わずかな器面調整後、刃部周辺を研磨し、楕形の斧形石器を製作している。その後、刃部付近で折損し、基部側の両面に大きく再加工を施すが再び折損し、最終的に遺跡外に搬出している。搬出された両面調整石器は長さが約8cm、厚さが約3cm、断面形が凸レンズ状と推定され、尖頭器製作を目的としていた可能性が高い。また、他にも泥岩製の斧形石器の調整剥離も行われていた可能性がある。

特徴・性格 上記の様に、SB-1では、ツール素材の生産（石刃・縦長剥片・剥片剥離）、ツールの製作（細石刃・彫器・搔器・斧形石器など）が主に行われている。特に彫器及び削片は点数・接合資料数ともに多く、遺跡内で彫器を用いた作業が集中的に行われていた可能性が高い。石材別にみると、素材生産に関しては、黒曜石・頁岩は石刃剥離、珪化岩は剥片生産が主体で、作業内容に違いがみられ、ツール製作では彫器・搔器製作などの様に、共通性が高い（図K-4）。

SB-1の石器組成・石材利用状況・石器製作作業、特に彫器・削片の点数や接合資料の多さ、また、ツールの素材となる小～中型の石刃や剥片の製作、彫器・搔器・斧形石器の製作などは、広郷型細石刃核石器群の消費地での一様相を示していると考えられる。他遺跡と比較すると、石材利用状況の類似性が高い遺跡として、道南の今金町美利河1遺跡A地区、同K地点が挙げられる。これらは原産地遺跡で、SB-1の細石刃核や大型の彫器の素材となりうる頁岩製の大型の石刃核や石刃の製作が行われ、また、黒曜石製の細石刃核も出土しており、石材及び石器製作段階の点でSB-1と対応する可能性がある。ただし、他の類例が乏しく、SB-1を含む広郷型細石刃核石器群の消費地遺跡の様相や、原産地遺跡との関係については、今後の資料の蓄積を待ってさらに検討を行っていく必要がある。

（2）峠下型細石刃核石器群（SB-2）について

石器石材・組成 ブロック外出土も含め総点数は27点、総重量は21.2gと少量である。石器類は、細石刃・細石刃核・削片のみ出土している。その中でも、細石刃が19点と約7割を占める。また、細石刃核の分布は調査範囲外に近い北西側であるため、周辺に別のブロックが存在する可能性がある。石材は黒曜石のみで、石質は細石刃に使用される黒色に茶色が混ざる黒曜石（黒曜石9）、細石刃核及び細石刃核削片に使用される透明度の高い黒曜石（黒曜石10・11）の3種類がみられる。

ツール 2点の細石刃核はともに石刃素材の峠下型で、素材の背面周縁部を中心に加工が施され、腹面側にも部分的に調整がみられるものである。内1点の細石刃核母型の大きさは、削片との接合資料（黒曜石11・接合11）から、長さ約5.5cmを測る。この個体は、2回の削片剥離による打面作出後、石核を2.5cm程消費する連続的な細石刃剥離を行う。ただし、対応する細石刃は出土していない。

細石刃は完形のもの少なく、末端部側を折損するものが多い。二次加工痕或使用痕がみられるものはない。完形の細石刃の最大長は45mmで、幅は5～9mmを測る。側縁は直線状で、打面が比較的大きいものが多い。これらは石質や形状、接合資料などから全て同一母岩の細石刃と考えられる。また、剥離された細石刃核は、接合資料等の観察などから覘加型の可能性が高い。

石器製作作業内容 遺跡内での石器製作作業は、細石刃核削片剥離（黒曜石11・接合11）及び細石刃剥離（黒曜石9～11）が行われ、細石刃剥離が終了したものは遺棄し（黒曜石10・11）、剥離途中のもの（黒曜石9）は遺跡外に搬出している。

特徴 SB-2の規模、器種組成、石器製作作業内容は、周辺で確認された峠下型細石刃核石器群の

様相と類似している。ただし、石器石材が白滝産黒曜石である点、また、幌加型細石刃核から剥離されたと推定される細石刃の出土が本遺跡の特徴として挙げられる。

(3) 分析について

今回、二つの石器群の黒曜石産地を確認するため、原産地推定分析を石質ごとに1～3点行ったが、SB-1の12点はほぼ赤井川産、SB-2の3点は全て白滝産という結果が出た。これらは、肉眼観察による推定とほぼ一致することから、広郷型細石刃核石器群の黒曜石はほぼ赤井川産、峠下型細石刃核石器群は全て白滝産である可能性が高い。また、SB-1の頁岩の産地推定を岩石学的分析により行ったところ、産地は不明という結果が出た。肉眼観察の印象では、頁岩は道南でみられるものに類似し、珪化岩は道南のいわゆるメノウ質頁岩と呼ばれるものと類似する。

SB-1の年代推定のために、石器集中範囲から出土した炭化物3点について放射性炭素年代測定を行った結果、補正14C年代として14,950±60yrBP、14,080±60yrBP、17,760±80yrBPという値を得た。ただし、これらの炭化物は散点的な出土で、測定値にもややばらつきがあるため、測定結果をそのまま石器群の年代として採用することは難しい。層位的にはSB-1・2ともに恵庭a降下軽土層(En-a)上位出土であるため、En-aよりは新しいといえる。(広田良成)

3. アンカリト9遺跡 調査成果の概要

本遺跡の調査成果について述べておく。

(1) 遺構

古砂丘台地上の調査区北側部分で、土坑1基(LP-1)・焼土2か所(LF-1・2)、調査区南東側の斜面下平坦部で焼土1か所(LF-3)を確認した。層位的に縄文時代晩期後葉以前と判断される。調査区外、北東側の工事用地内は、削平されⅢ層(En-a)まで攪乱されていたが、かつては古砂丘台地が連続して存在したと推測され、この部分に遺構や遺物が存在した可能性は十分に考えられる。

(2) 遺物

出土した遺物は210点で、土器はⅢ群a類・b類、Ⅳ群b・c類、Ⅴ群c類と縄文時代中期・後期・晩期のものが出土したが、復原個体はなかった。旧石器はE-26区Ⅲ層から出土したラウンドスクレイパー(RS)がある。周囲をⅢ層上面まで掘り下げたが、他の遺物の出土はなかった。縄文時代の石器類は、石鏃・磨製石斧の出土割合が半数近くを占めるのが特徴的である。

(3) 遺跡の性格

調査区内では、多くの風倒木痕が認められた。風倒木痕の存在しないグリッドは、古砂丘台地上のみといっても過言ではなく、かつては森林であったと推測する。本遺跡は集落遺跡ではなく、生活活動のため利用された場所であったと考える。狩猟に用いる石鏃や、伐採のための磨製石斧の出土が多いことが、傍証であろう。出土した土器の時期はその活動期を示していると推測する。

また、遺跡の立地は南側に祝梅川上田遺跡、古砂丘台地を介して北側はアンカリト7遺跡がある。両遺跡ではアイヌ文化期の集落跡が確認されており、本遺跡のⅢ層中に集落をつなぐ道等があった可能性があり、「開元通寶」の出土はその可能性を示唆している。

(4) IX層の調査と古砂丘

調査区の北側には「千歳古砂丘群」と呼称される（千歳市教育委員会 1974）更新世の古砂丘による土地がある。この古砂丘地形が確認された周辺の遺跡で祝梅三角山遺跡（千歳市教育委員会 1974）・丸子山遺跡（千歳市教育委員会 1994）・柏台1遺跡（財北海道埋蔵文化財センター 1999）からは、恵庭a降下軽石層（En-a）下位のローム質土層から旧石器群が出土した調査事例がある。本遺跡でも出土の可能性が十分に考えられたので、建設機械によるV・M層除去時にこの古砂丘台地付近のM・M層（En-a）を除去し、手掘りでトレンチ調査を行い旧石器の有無を確認したが遺物の出土はなかった。

千歳古砂丘群の下位には、支笏軽石流堆積物層が存在することが本工事業のボーリング調査等により判明しており、地質学的な年代は定まっている。また、構成粒子の形状から風成であると考えられている。本遺跡の古砂丘の砂層で、YB層とした呼称した層は破碎した軽石により構成されるもので、これは支笏軽石である可能性が高い。古砂丘に関する地質学的知見及びその立地に関連する旧石器群について、本遺跡の調査では新たな成果は得られなかったが、今後調査事例の積み重ねにより、明らかになっていくことが期待される。

(5) 掩体壕

掩体壕は平面が溝状を呈しその周囲に盛土を伴う構造で、この本事業工事用地内において当センターが行った調査のうち、近接する「祝梅川上田遺跡」（平成20年度調査 未報告）で調査され、「梅川4遺跡」においても調査は行っていないが、同様な溝状の構造が確認されたとの調査担当者の話がある。本遺跡では2か所を調査したので、かつて4か所存在したことが明らかとなった。

当初「戦車壕」の呼称を考えたが、戦車壕とは、本来は戦車の進入路に対して直角に溝を設けその進入を阻む人為的な防衛地形を指すので、適切ではないと考え便宜的に「掩体壕」の呼称を用いた。実際に「戦車用掩体壕」は存在しており、太平洋戦争末期、旧日本軍北方守備隊により占守島等で構築された例が、写真記録として掲載されている文献がある（株式会社戦車マガジン 1980）。戦車用の掩体壕は二つの種類に分けられる。一つは、車両を格納し上空からの攻撃に対してカモフラージュし車両を守る目的と、地形や構造物等を利用して構築された壕に戦車をカモフラージュして配備し、「砲撃」の拠点として使用する方法（ダググイン）がある。先に述べた占守島での戦車用掩体壕は、後者の目的と考えられる。戦跡考古学等において「掩体」という用語は、一般的には戦闘用の航空機を格納するためのコンクリート製の「有蓋掩体」や、平面が「コ」の字を呈し上部分をカモフラージュ用の布等で覆う「無蓋掩体」を指すことを断っておく。

現在の航空自衛隊千歳基地（第2航空団）から陸上自衛隊東千歳駐屯地（第7師団）付近は、太平洋戦争当時「千歳海軍航空隊」が置かれていた。三つの滑走路を有する大規模な航空基地であったと想像される。

千歳市域における飛行場の歴史の概略は、1926（大正15）年千歳村民により民間用に造られ、1939年（昭和14年）に海軍の飛行場となり、「第一滑走路」が現在の航空自衛隊「千歳飛行場」で、「連山滑走路」の名で知られる「第二滑走路」及び、「第三滑走路」が陸上自衛隊東千歳駐屯地内にある（千歳市史編さん委員会 1983）。

千歳海軍航空基地は、終戦時の1945（昭和20）年～1959（昭和34）年まで進駐軍の管理下におかれるが、1963（昭和38）年には第一滑走路が「千歳空港」の滑走路として、航空自衛隊と民間機用に供用が開始される。1988（昭和63）年に新千歳空港が開港し、民間機はここを離発着するよう集約され、

千歳飛行場は、航空自衛隊第2航空団千歳基地の主滑走路となった。

陸上自衛隊東千歳駐屯地内に残る「第二滑走路」は、第7師団駐屯地記念行事に、式典や機甲科部隊等のパレード・模擬戦を行う会場として使用されている。第三滑走路は東千歳駐屯地の東側に隣接する、「北海道大演習場（東千歳地区演習場）」内にあたる。

また、地形図（図1-1）や空中写真（図版57・58）等から第一滑走路の北東側部分と第二滑走路の南西側部分を結ぶ「(板敷)連絡路」（佐藤 2003）、航空機用の有蓋及び無蓋掩体壕や誘導路、第三滑走路東側に接する国鉄の引き込み線路（守屋 1991）の存在や痕跡が認められる。例えば、航空自衛隊千歳基地内及び周辺には有蓋掩体壕が残存しており（大谷・守屋・小田 1991）、陸上自衛隊東千歳駐屯地隣り、第三滑走路東側の演習地内には無蓋掩体壕や誘導路跡が現存しているのが確認できる。

千歳海軍航空基地は、大湊警備府に所属する第571海軍設営隊により設営され（インターネット調べ「海軍設営隊総覧<http://homepage1.nifty.com/kitabatake/rikugaigun56.html>）、1939（昭和14）年10月1日に「第24航空戦隊」がおかれ、後に「第703航空隊」に編成される、主に陸上攻撃機や艦上戦闘機を有する部隊であったとされる。また、第41海軍航空廠も設置されという（インターネット調べ「海軍基地航空隊総覧<http://homepage1.nifty.com/kitabatake/rikugaigun48.html>」・「Wikipedia」他）。

千歳海軍航空基地に「戦車」が配備されたのかは不明であるが、終戦当時、基地に残存していた車両について陸上自衛隊東千歳駐屯地内の「東千歳史料館」で調べることができたが（表Ⅱ-7）、そこに戦車の記載はなかった。しかし、敗戦後の北海道において千歳市域における事例と明記されていないが、「九七式中戦車」や「九五式軽戦車」を改造して、除雪に用いたとの記録もある（守屋 1991）。当時、戦車は陸軍に限らず「海軍陸戦隊」も装備しており、千歳基地に配備された可能性も十分に考えられる。アンカリトー9遺跡は、戦時中海軍千歳航空基地内、あるいはその外縁部に位置していたと考えられる。

この掩体壕の性格について、構造全体を調査できていないので不明な点も多いが、発掘調査の結果から推測してみる。溝状に地面を掘り下げ、その掘り上げ土で周囲に盛土を形成する。掩体壕2ではレンガを組んで人用の出入口を設け（付属構造3）、付属構造4・5のレンガ配置は壕内部を短軸方向に区画する目的と推測される。木組みを埋め込み、軽石で埋め戻された排水柵（付属構造1）が設置され、壕の長軸両端部は溝を有し、打ち込み杭（ph）がほぼ等間隔（一間=1.8m）でみられる。さらに中心付近は楕円形の掘り方の柱穴（Lph）が設けられ、これらが上部構造を維持していたと推測する。打ち込み杭には短軸方向に区画するように連続して位置するもの（Sph）もみられる。以上のような共通する特徴が認められ、一定の設計に基づいて構築されたものと考えられる。

掩体壕1では轍らしき痕跡もみられたことから、これらは縦列に複数の車両が格納された施設と推測される。しかし格納が予想される区域に柱穴や打ち込み杭があり、「兵舎」や「倉庫」等であった可能性もある。

千歳市域の近現代の歴史は飛行場・軍隊・自衛隊との関わりが強く、これらについても様々な資料や情報を収集し整理しながら、歴史を解明することも重要であると考えられる。（末光正卓）

引用参考文献

埋蔵文化財調査報告書

- 厚真町教育委員会 2007 『上幌内モイ遺跡2』
厚真町教育委員会 2008 『上幌内モイ遺跡3』
恵庭市教育委員会 1998 『カリンバ2遺跡 第Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ地点』
恵庭市教育委員会 2005 『カリンバ2遺跡 第Ⅳ地点』
標津町教育委員会 1982 『史跡 標津遺跡群 伊茶仁カリカリウス遺跡発掘報告書』
千歳市教育委員会 1974 『祝梅三角山地点』
千歳市教育委員会 1994 『丸子山遺跡における考古学的調査』千歳市文化財調査報告XⅧ
千歳市教育委員会 2002 『ユカンボシC2遺跡・オサツ2遺跡における考古学的調査』千歳市文化財調査報告XⅩⅧ
千歳市教育委員会 2003 『トメト川3遺跡における考古学的調査』千歳市文化財調査報告XⅩⅧ
富良野市教育委員会 1987 『東麓郷1・2遺跡』富良野市文化財調査報告第3輯

北海道埋蔵文化財センター調査報告書・刊行物

- 財北海道埋蔵文化財センター 1985 『今金町美利河1遺跡』北埋調報23
財北海道埋蔵文化財センター 1986 『平取町ユオイチャシ・ポロモイチャシ・二風谷遺跡』
北埋調報26
財北海道埋蔵文化財センター 1996 『千歳市オサツ2遺跡2』北埋調報103
財北海道埋蔵文化財センター 1999 『千歳市柏台1遺跡』北埋調報138
財北海道埋蔵文化財センター 2000 『上川町日東遺跡』北埋調報141
財北海道埋蔵文化財センター 2001 『白滝遺跡群Ⅱ』北埋調報154
財北海道埋蔵文化財センター 2002 『千歳市チブニー1遺跡・チブニー2遺跡』北埋調報173
財北海道埋蔵文化財センター 2003 『千歳市オリイカ1遺跡』北埋調報188
財北海道埋蔵文化財センター 2003 『千歳市オリイカ2遺跡』北埋調報189
財北海道埋蔵文化財センター 2003 『千歳市ユカンボシC15遺跡6』北埋調報192
財北海道埋蔵文化財センター 2004 『千歳市オリイカ1遺跡2』北埋調報206
財北海道埋蔵文化財センター 2004 『千歳市チブニー2遺跡2』北埋調報207
財北海道埋蔵文化財センター 2005 『千歳市オリイカ2遺跡2』北埋調報221
財北海道埋蔵文化財センター 2006 『千歳市チブニー2遺跡3』北埋調報225
財北海道埋蔵文化財センター 2007 『千歳市祝梅川上田遺跡・梅川2遺跡』北埋調報238
財北海道埋蔵文化財センター 2008 『千歳市キウス5遺跡8』北埋調報251
財北海道埋蔵文化財センター 2008 『千歳市キウス9遺跡』北埋調報252
財北海道埋蔵文化財センター 2008 『千歳市 梅川4遺跡1』北埋調報253
財北海道埋蔵文化財センター 2009 『白滝遺跡群Ⅹ』北埋調報263
財北海道埋蔵文化財センター 2008 『調査年報20』平成19年度
財北海道埋蔵文化財センター 2009 『調査年報21』平成20年度

論文・書籍・雑誌等

- 札幌開発建設部札幌新道建設事務所 2002 『道央圏連絡道路事業』
- 千歳市史編さん委員会 1983 『増補 千歳市史』
- 小山正忠・竹原秀雄 1967 『新版標準土色帖』 日本色研事業株式会社
- ベドロジスト懇談会 1984 『土壌調査ハンドブック』 博友社
- 菅野三郎・奥村 清 1978 『地学の調べ方』地学のガイドシリーズ1 コロナ社
- 大久保雅弘・藤田至則 1984 『地学ハンドブック・新訂版』 築地書館
- 木下亀城・小川留太郎 1967 『標準原色図鑑全集6 岩石鉱物』保育社
- 豊原照司 1998 「近世アイヌ墓址のいくつかの問題」『北方の考古学』野村崇先生還暦記念論集刊行会
- 田村俊之 2002 「北海道における近世アイヌ文化の墓制」『中世近世史の研究と考古学』岩田書院
- 木村英明 1978 「余市川・赤井川流域の先土器石器群について」『北海道考古学』第14輯 北海道考古学会
- 鶴丸俊明 1985 「『広郷型細石刃核』論—その形質と意味—」論集日本原史刊行会『論集日本原史』吉川弘文館
- 山原敏朗 1998 「北海道の旧石器時代終末期についての覚書」『北海道考古学』第34輯 北海道考古学会
- 岩崎厚志 2003 「北海道今金町美利河1遺跡K地点」『第17回東北日本の旧石器文化を語る会』
- 寺崎康史 2006 「北海道の地域編年」安齋正人・佐藤宏之編『旧石器時代の地域的編年研究』同成社
- 山田 哲 2006 『北海道における細石刃石器群の研究』六一書房
- 鶴丸俊明編 2008 『北海道東・北部の細石刃石器群に関する比較研究』平成17～平成19年度文部科学省研究補助金（基盤研究(C)）研究成果報告書
- 旧石器文化談話会 2000 『旧石器考古学辞典』学生社
- ### 戦争遺構関連文献
- 大谷敏三・守屋憲治・小田賢一 1991 「千歳市所在の戦争遺産（掩体壕）調査—海軍航空基地掩体壕について—」『志古津』2号『新千歳市史』編さんだより
- 守屋憲治 1991 「—千歳線八十年の歩みを振り返る—小さな私鉄の大きな変身」『志古津』4号『新千歳市史』編さんだより
- 佐藤一夫 2002 「北海道の戦争遺跡」『しらべる戦争遺跡の事典』柏書房
- 米陸軍省編 菅原完訳 1998 『日本陸軍便覧』米陸軍省テクニカルマニュアル1944 光人社
- 十菱駿武・菊池実編 2003 『続しらべる戦争遺跡の辞典』柏書房
- 株式会社戦車マガジン 1980 『戦車マガジン 特集95式軽戦車』6月増刊No.3 世界の精鋭兵器株式会社戦車マガジン
- 雑誌「丸」編集部 1993 「全特集陸海軍航空隊の戦歴」『丸4月別冊』戦争と人物2 潮書房
- 学研「歴史群像」編集部 2002 『戦場の衣食住』歴史群像太平洋戦史シリーズvol.39 学習研究社
- 遠藤慧編 2004 『GROUND POWER 日本軍中戦車(1)』No119 ガリレオ出版

写真図版



Ta-a除去後の調査区（南西から）



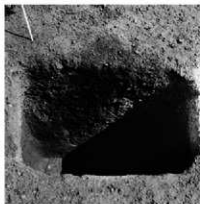
25%調査風景（東から）



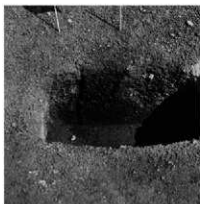
完掘（南から）



HP-1 検出（東から）



HP-9 土層断面



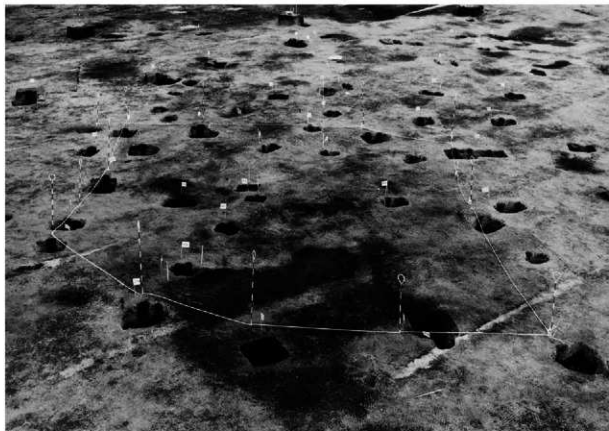
HP-11 土層断面



HP-12 土層断面



HP-13 土層断面



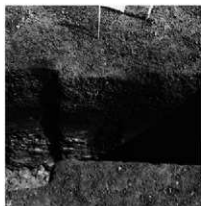
完掘（北から）



調査風景（北から）



HF-1検出（北東から）



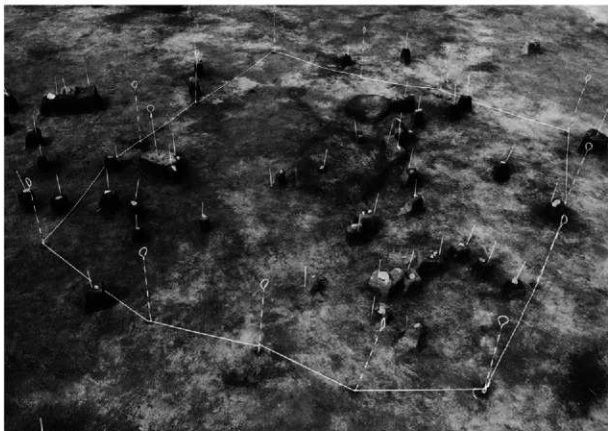
HP-10土層断面



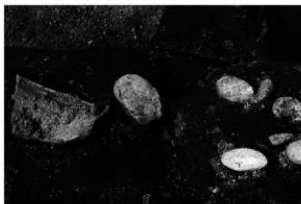
HP-13土層断面



HP-15土層断面



遺物出土状況（南西から）



内耳鉄鍋・集石出土状況（南西から）



HF-1 土層断面



HF-2 検出（南から）



HP-1 土層断面



HP-13 土層断面



遺物出土状況（東から）



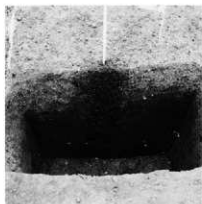
HF-1 土層断面



鉄製品出土状況（北から）



集石出土状況（東から）



HP-2 土層断面



HP-3 土層断面



HP-4 土層断面



完掘（東から）



HF-1 土層断面



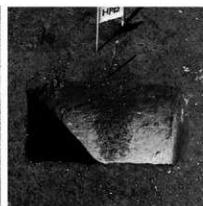
HF-3 土層断面



小刀出土状況（東から）



HP-3 土層断面



HP-12 土層断面



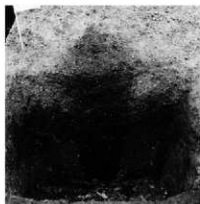
検出状況（南西から）



HP-1 土層断面



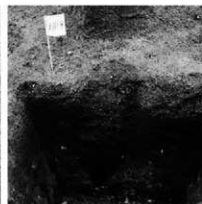
HP-8・鏝出土状況



HP-3 土層断面



HP-7 土層断面



HP-9 土層断面



遺物出土状況（西から）



HF-2 検出・マレット出土状況（北から）



HF-3 土層断面



HF-4 検出（南から）



HP-6 土層断面



HP-18土層断面



遺物出土状況（西から）



HF-1 土層断面



HF-2 検出（南から）



HF-3 土層断面



HP-4 土層断面



HP-11 土層断面



遺物出土状況（東から）



HF-1 土層断面



HP-8 土層断面



HP-10・16土層断面



HP-5・6・7完掘



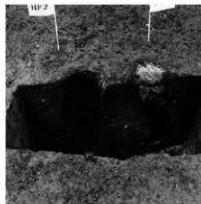
完掘（北東から）



HF-1 土層断面



小刀出土状況（南西から）



HP-2・18土層断面



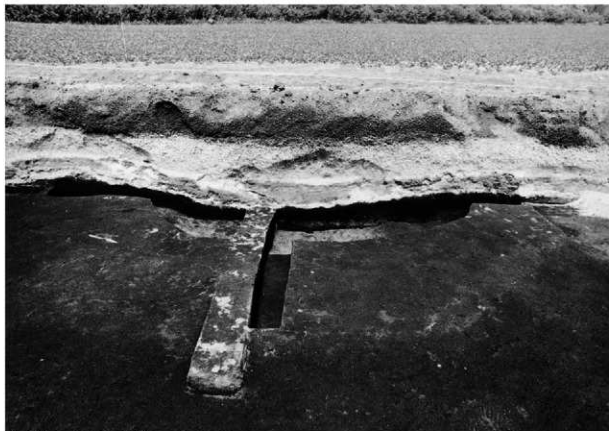
完掘（南西から）



HF-1 土層断面



HP-2 土層断面



土層断面・掘りあげ土範囲（南東から）



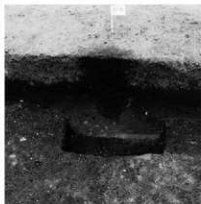
HP-1 土層断面（南西から）



完掘（北東から）



UB-1 完掘 (西から)



BP-4 土層断面



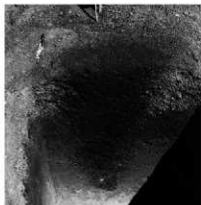
BP-6 土層断面



UB-2 完掘 (西から)



BP-2 土層断面



BP-3 土層断面



検出状況（西から）



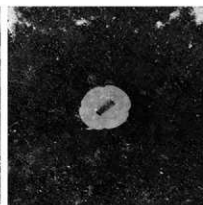
長軸土層断面



短軸土層断面



掘り揚げ土層断面（南から）



周辺出土の鐸（北西から）



完掘（西から）



SP-1 土層断面



SP-2 土層断面



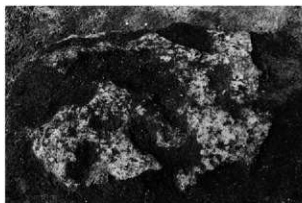
SP-3・4 土層断面



UA-1 土層断面 (北から)



UA-1 骨角器出土状況 (北西から)



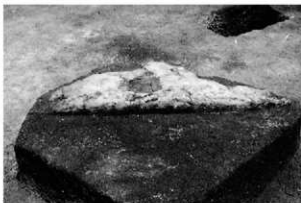
UA-3 検出状況 (南から)



UA-3 土層断面



UA-4 検出状況 (北から)



UA-4 土層断面



UA-5 検出状況 (南から)



UA-5 土層断面



調査風景（南西から）



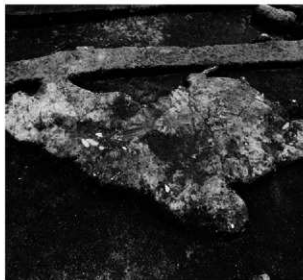
検出状況（北東から）



刀装具出土状況



銅製品出土状況（西から）



灰2①遺物出土状況(南から)



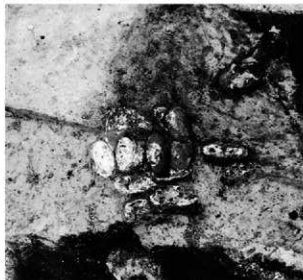
灰2①遺物出土状況(南西から)



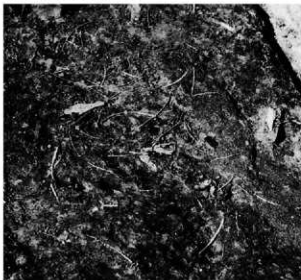
灰3魚骨出土状況(南西から)



灰3土層断面(南から)



灰4上面カワシンジュガイ出土状況(東から)



灰4サケ骨出土状況(東から)



杭列12検出（南から）



杭列2検出状況（南西から）



貝集中1調査状況（西から）



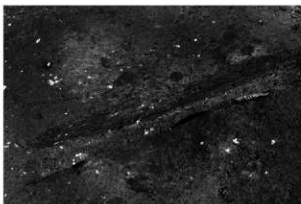
LF-7検出（北西から）



III層刀子・小刀出土状況（西から）



LF-1土層断面（南から）



LF-3土層断面（南西から）



IV層除去状況（南西から）



V層上面（北東から）



調査状況（南西から）



細石刃核出土状況



細石刃核出土状況



掻器出土状況



両面調整石器出土状況



検出状況（東から）



Ⅶ層遺物出土状況（南から）



斧形石器出土状況



石製品出土状況



SB-1・2 (手前がSB-2) とSB-2 細石刃出土状況 (北西から)



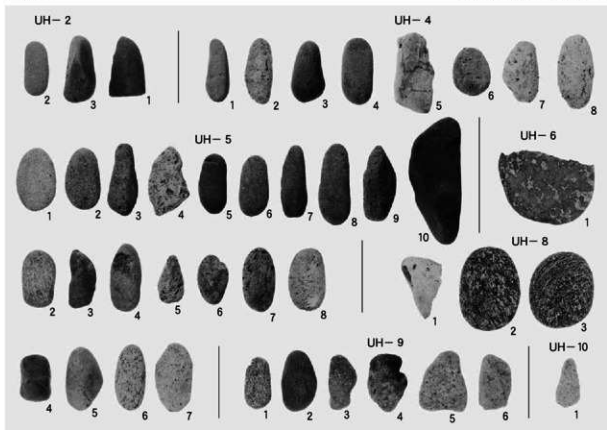
調査終了状況 (北から)



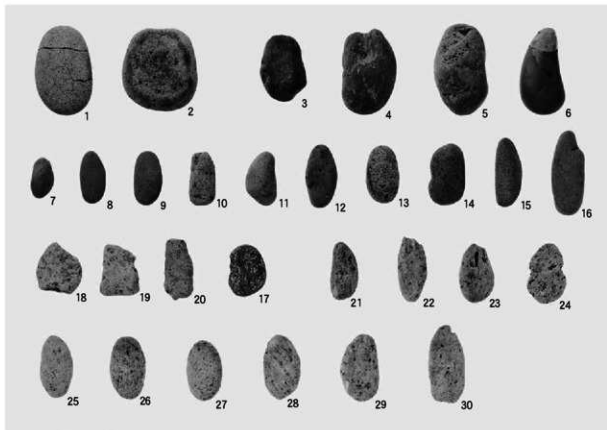
完掘（北東から）



土層



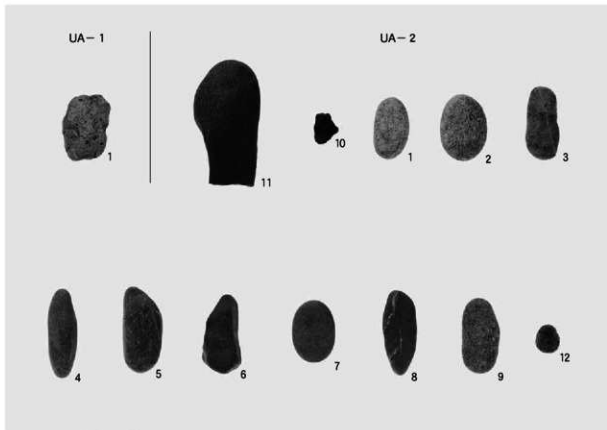
UH-2・4・5・6・8・9・10出土の石器



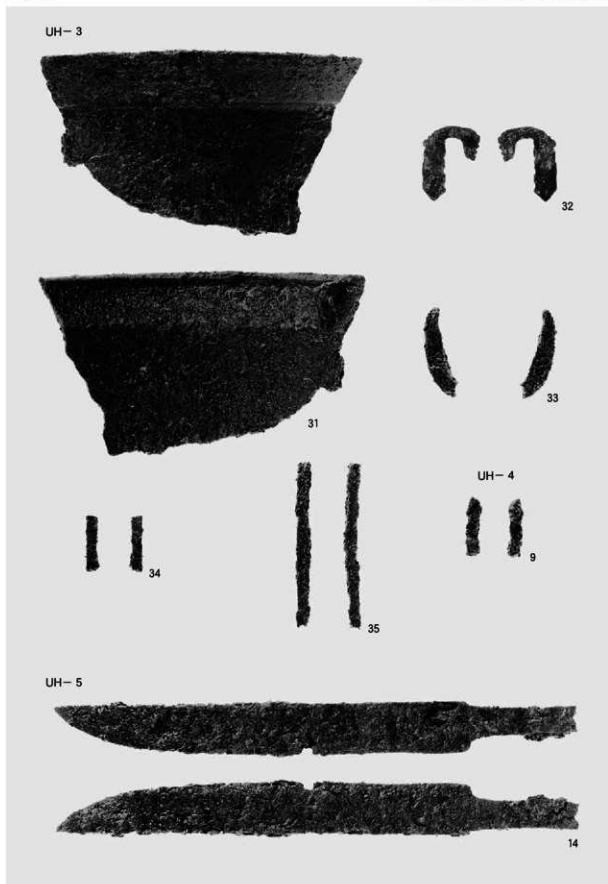
UH-3出土の石器



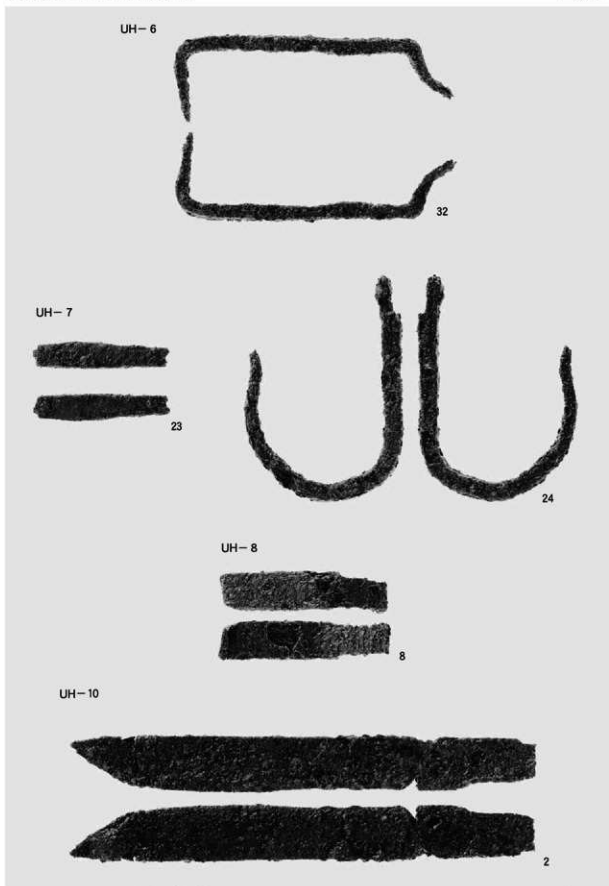
UH-7 出土の石器



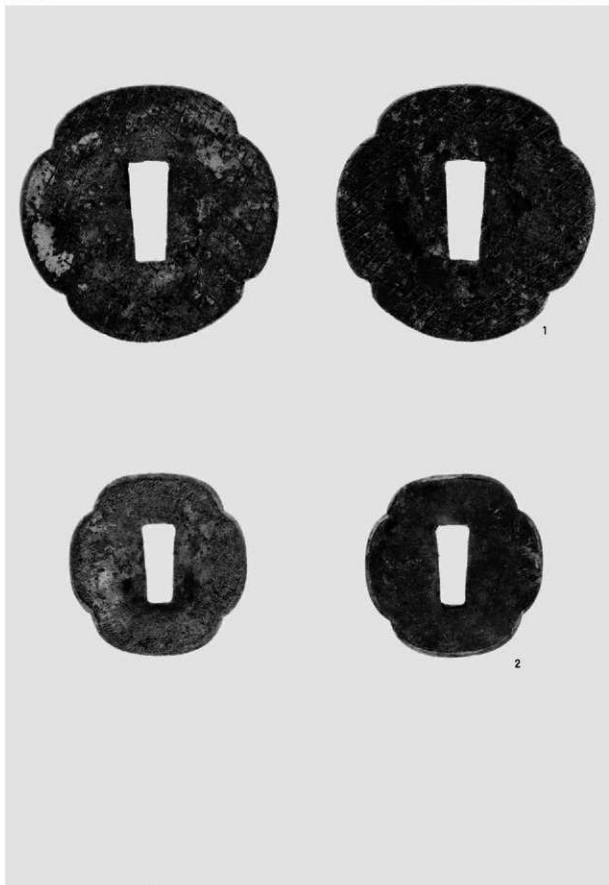
UA-1・2 出土の石器



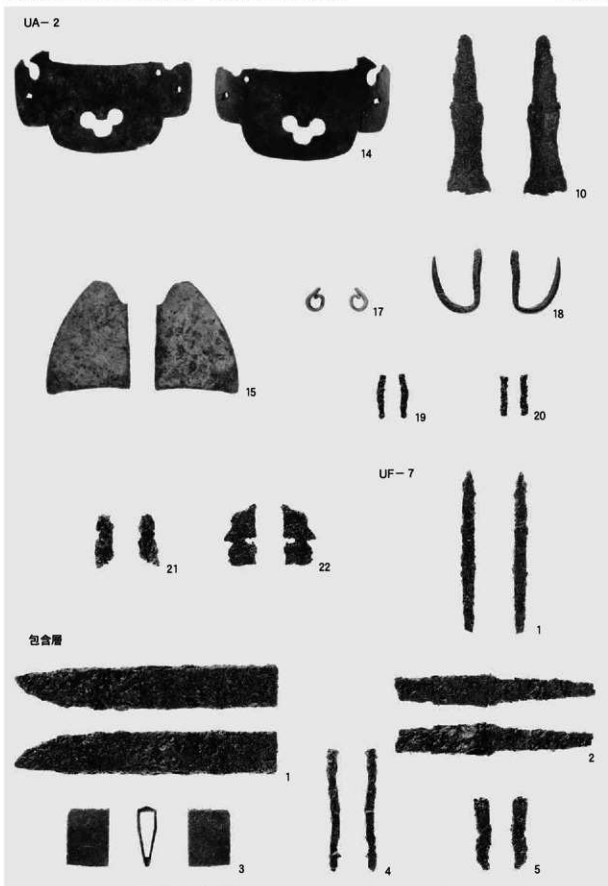
UH-3・4・5出土の金属製品



UH-6・7・8・10出土の金属製品

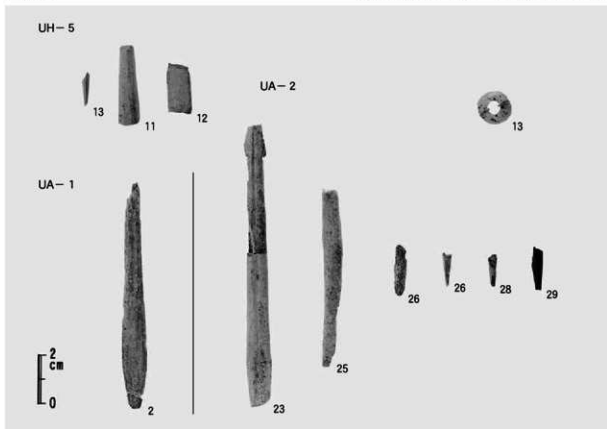


GP-1 周辺出土の金属製品



UA-2・UF-7・包含層出土の金属製品

〈14~20はほぼ1/1・その他はほぼ1/2〉



UH-5・UA-2出土の骨角器・ガラス玉

〈13はほぼ2倍・その他はほぼ2/3〉



LF-1出土の土器



Ⅵ群土器 (図Ⅳ-42-1)



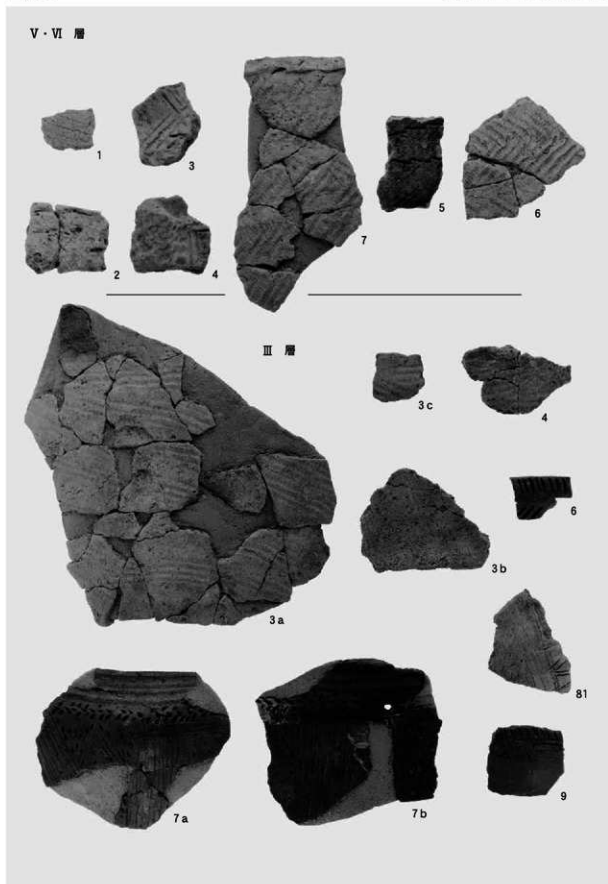
Ⅶ群土器 (図Ⅳ-43-5)

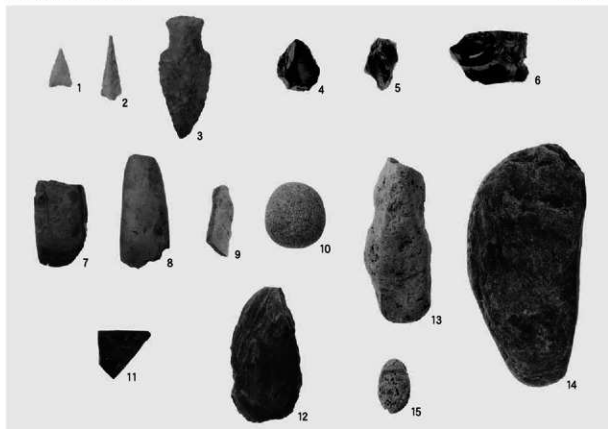


Ⅵ群土器 (図Ⅳ-42-2)

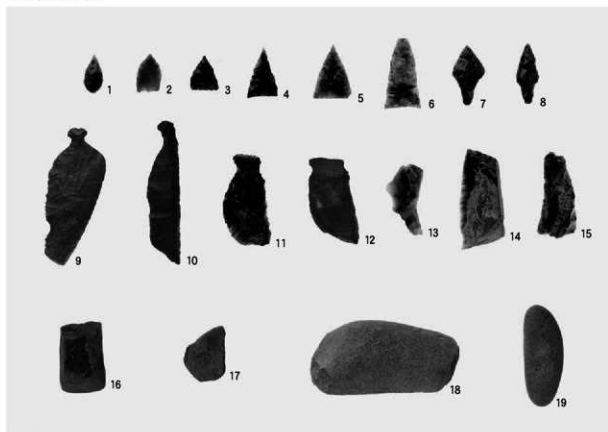


Ⅶ群土器 (図Ⅳ-43-5底部)

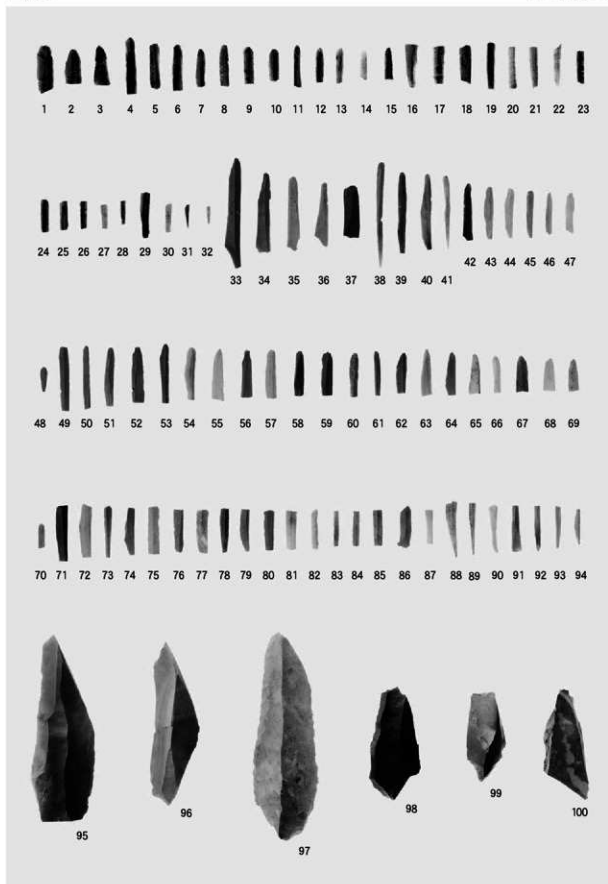




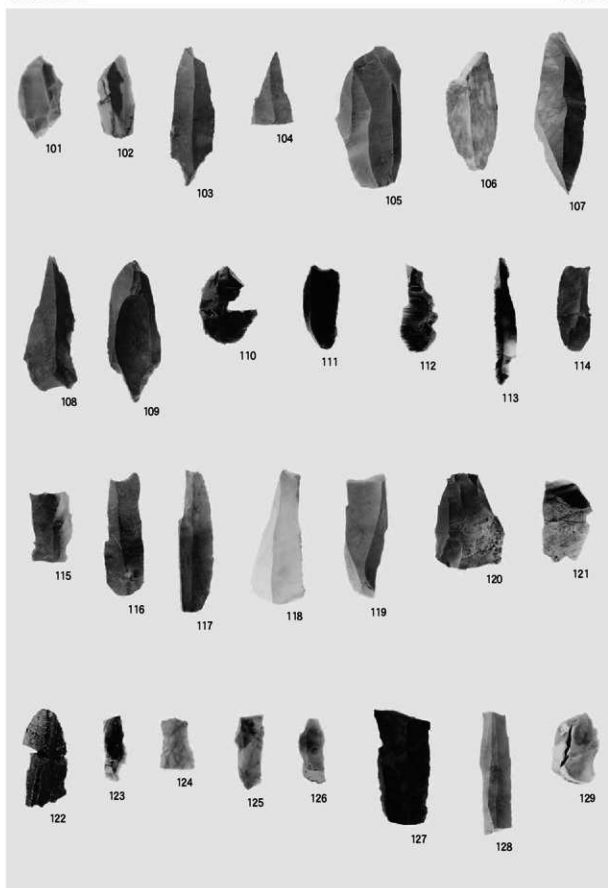
Ⅲ層出土の石器



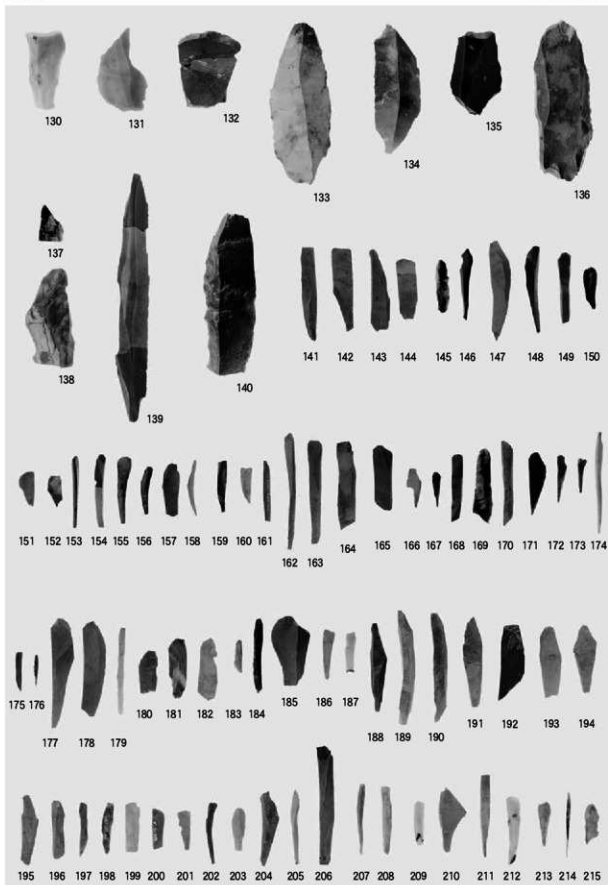
V・VI層出土の石器



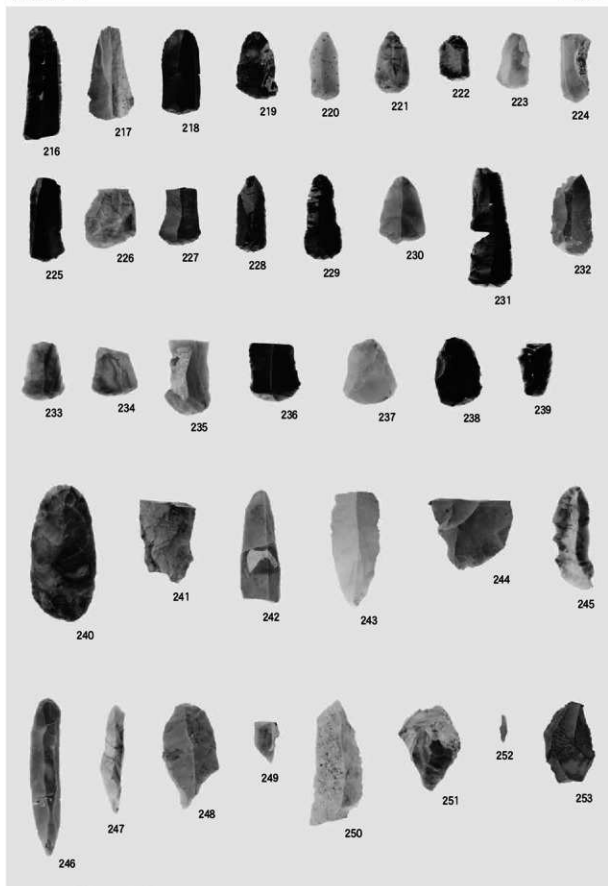
SB-1の石器(1) 細石刃・細石刃核



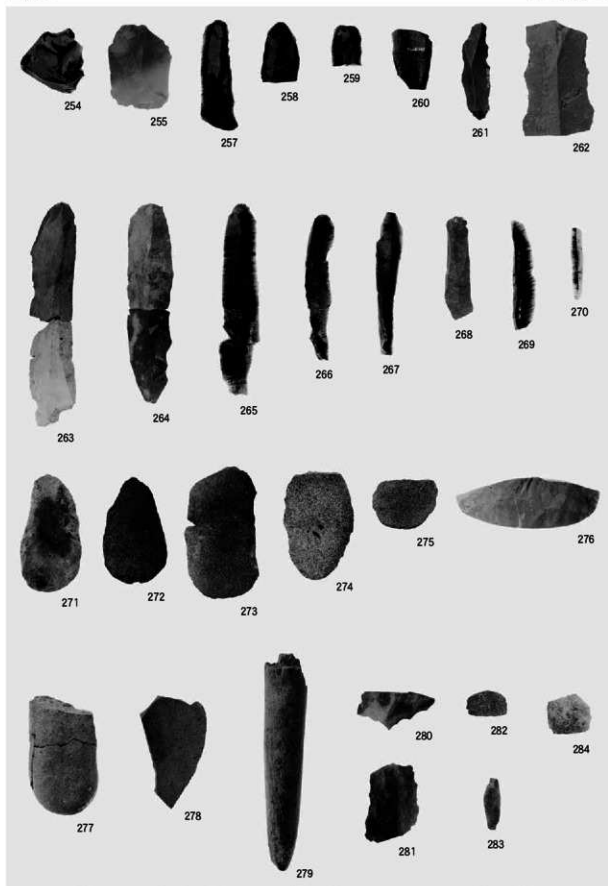
SB-1の石器(2) 彫器



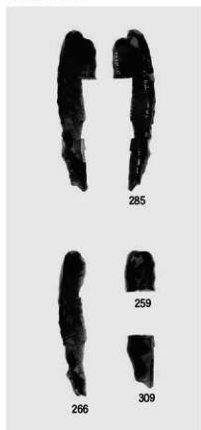
SB-1の石器(3) 彫器・彫器削片



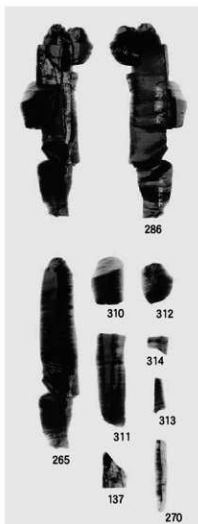
SB-1の石器(4) 掻器



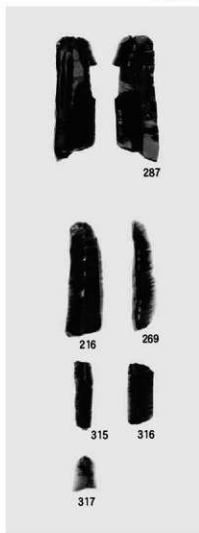
SB-1の石器(5) 二次加工ある剥片・石刃・斧形石器・たたき石・砥石・石製品・剥片



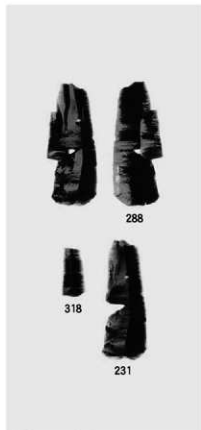
黒曜石 1・接合 1



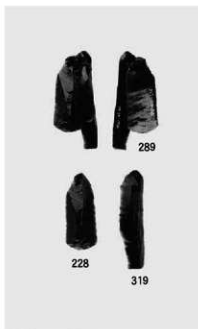
黒曜石 1・接合 2



黒曜石 1・接合 4



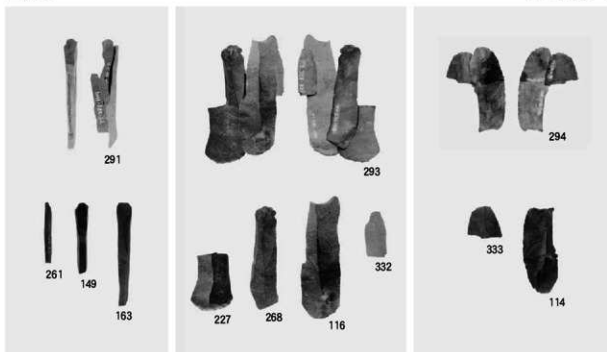
黒曜石 1・接合14



黒曜石 1・接合17



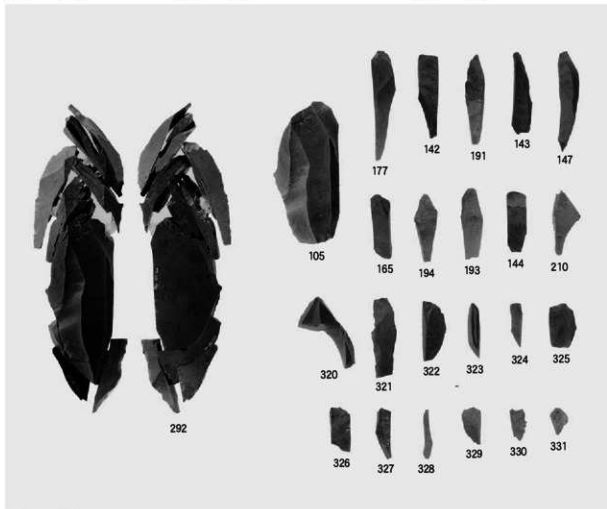
黒曜石 1・接合66



頁岩 1・接合29

頁岩 3・接合44

頁岩 3・接合83



頁岩 1・接合25

SB-1の石器(7) 頁岩 1・接合29、44 頁岩 3・接合44、83



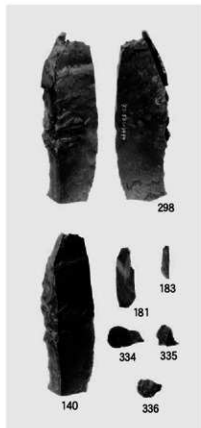
接合23



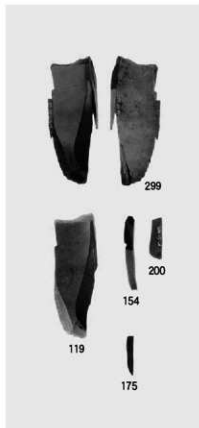
接合26



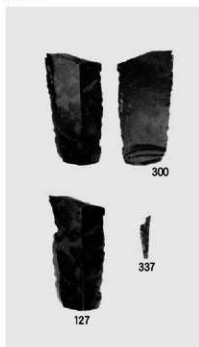
接合47



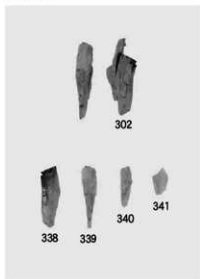
接合32



接合34



接合35



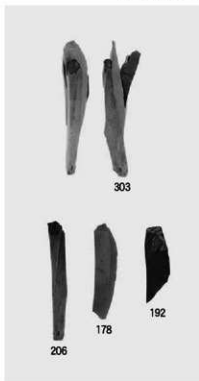
接合33



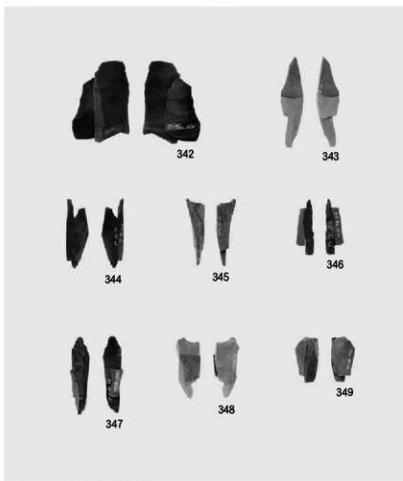
接合45



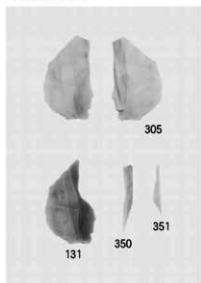
接合24



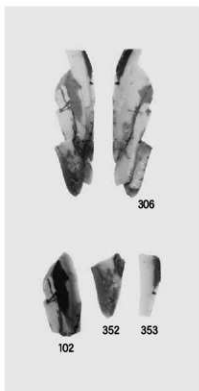
接合87



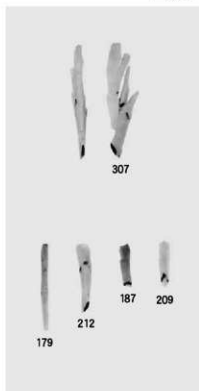
写真のみ掲載の接合資料



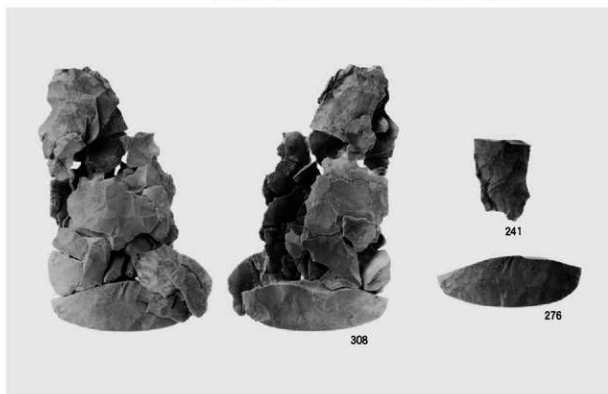
珩化岩 1・接合38



珩化岩 1・接合43

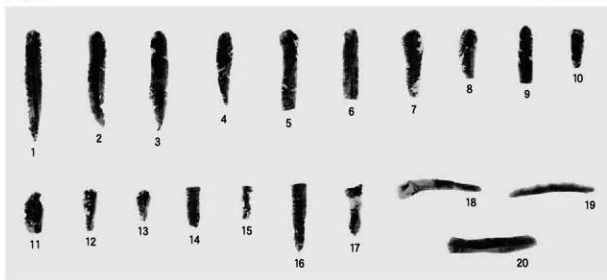


珩化岩 1・接合41

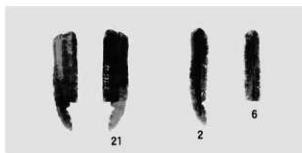


凝灰岩 1・接合61

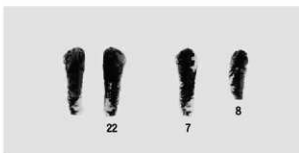
SB-1の石器(10) 珩化岩 1・接合38、41、43 凝灰岩 1・接合61



SB-2の石器



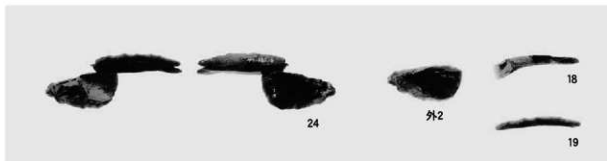
黒曜石9・接合12



黒曜石9・接合91

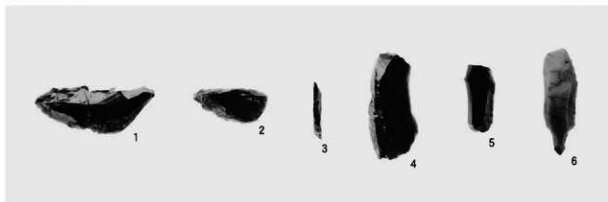


黒曜石9・接合90

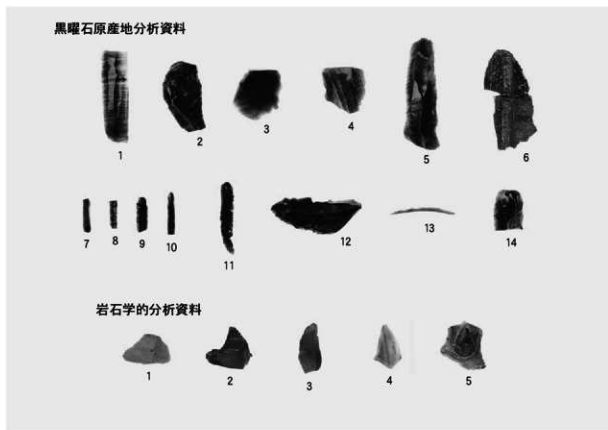


黒曜石11・接合11

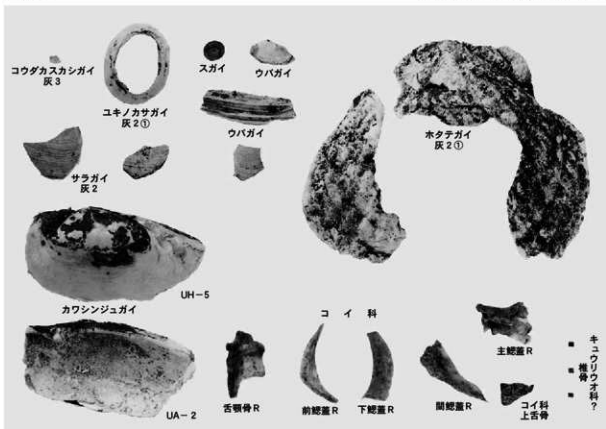
SB-2の石器 黒曜石9・接合12、90、91 黒曜石11・接合11



ブロック外の石器

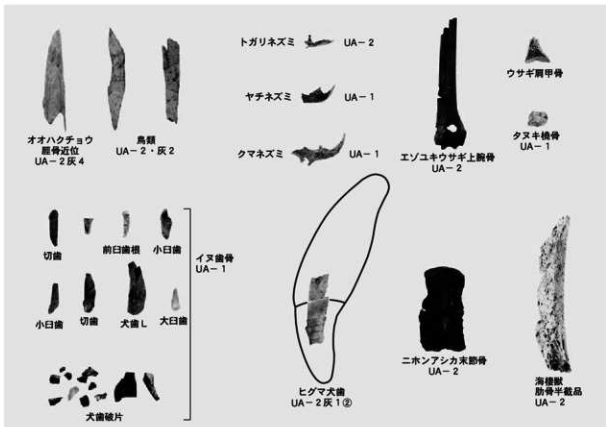


黒曜石原産地分析及び頁岩・珪化岩・凝灰岩岩石学的分析資料



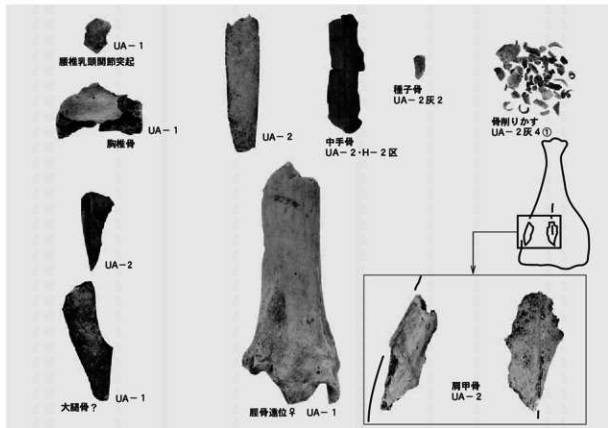
貝類・魚類(コイ科・キュウリウオ科)

(ほぼ2/3)



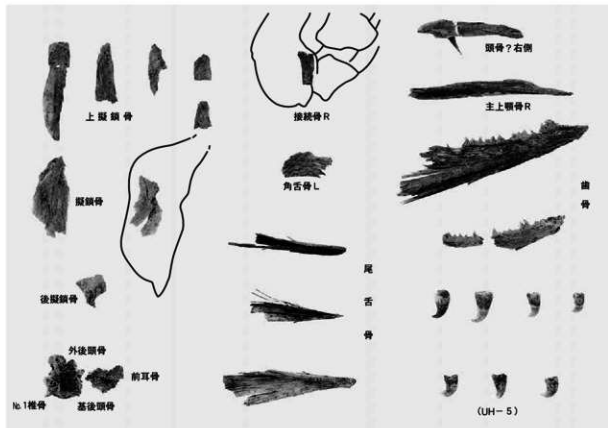
鳥類・哺乳類

(ほぼ2/3)



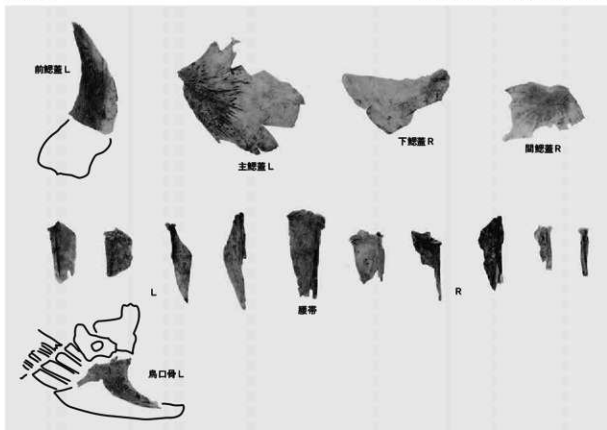
哺乳類 (シカ)

(ほぼ 2/3)



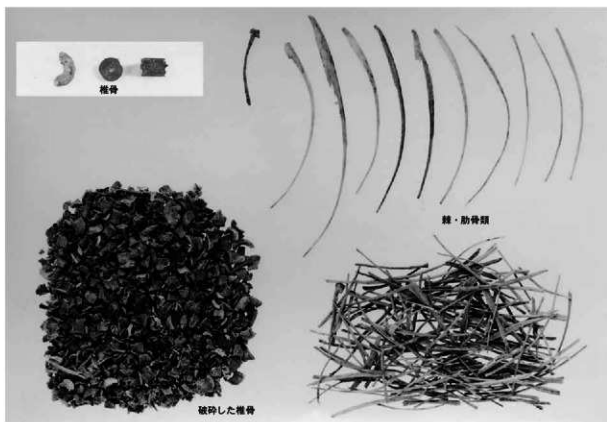
魚類 (サケ科 1)

(ほぼ 2/3)



魚類 (サケ科 2)

(ほぼ 2/3)



魚類 (サケ科 3)

(ほぼ 2/3)



調査区全景（南から）



調査区全景（北から）



古砂丘台地V層上面の状況(北から)



古砂丘台地包含層調査完了状況(北から)



掩体壕1(南から)



掩体壕2(西から)



掩体壕 1 土層断面 (南東から)



掩体壕 2 土層断面 (北から)



掩体壕 2 付属構造 2・3 (南東から)



掩体壕 2 付属構造 1 出土品



掩体壕 1 sph-2・3, ph-4 (南西から)



掩体壕出土木杭



掩体壕出土瓶類



掩体壕出土レンガ



掩体壕出土品



LP-1・LF-1 (南から)



LP-2 (北から)



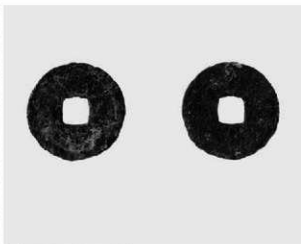
LP-3 (西から)



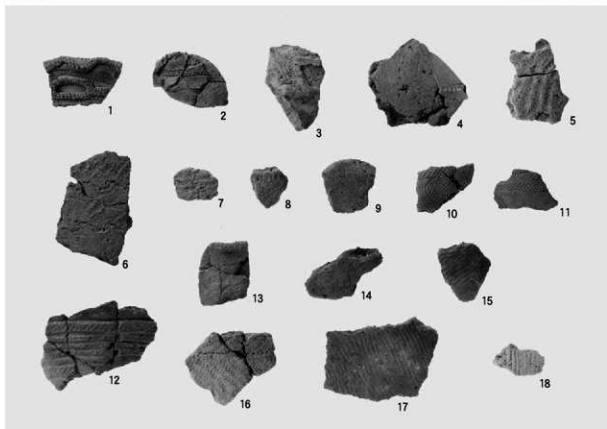
古砂丘断面 (南から)



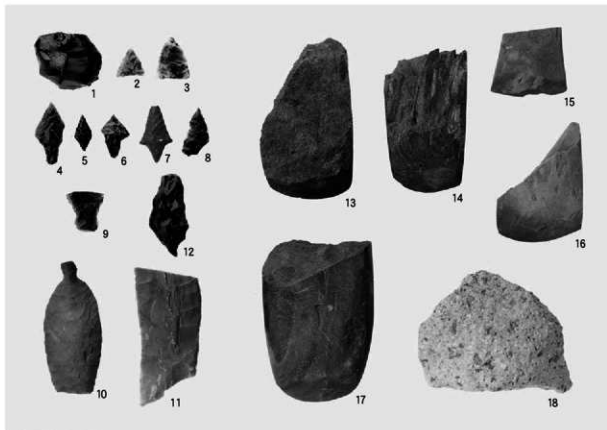
区層調査完了状況 (南から)



包含層出土「開元通寶」



包含層出土土器



包含層出土土器類



遺跡周辺の空中写真 (2001年国土地理院撮影)



遺跡周辺の空中写真(1947年米軍撮影)

報告書抄録

ふりがな	ちとせしあんかりとー7いせき・あんかりとー9いせき							
書名	千歳市アンカリトー7遺跡・アンカリトー9遺跡							
副書名	一般国道337号新千歳空港関連工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ名	財団法人北海道埋蔵文化財センター調査報告書（北理調報）							
シリーズ番号	第268集							
編著者名	三浦正人・越田雅司・愛場和人・阿部明義・末光正卓・広田良成							
編集機関	財団法人北海道埋蔵文化財センター							
所在地	〒069-0832 北海道江別市西野幌685番地1 TEL011-386-3231							
発行年月日	西暦2010年3月26日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	（M-55杭）				
あんかりとー7 アンカリトー 7遺跡	ほっかいどう ちとせし 北海道千歳市 しゅくばい 祝梅 607-31ほか	01224	A-03-67	世界測地系		20080508～ 20080911	4,050㎡	一般国道 337号千歳市 新千歳空港 関連道路建 設に伴う事 前調査
				42° 50' 32"	141° 41' 01"			
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物			特記事項	
アンカリトー 7遺跡	集落跡	アイヌ文化期	平地住居跡 11 建物跡 2 土坑墓 1 杭列 12 灰集中 5	金属製品 内耳鍋・刀子・小刀・ 鐔・刀装具・マレク・ 釣針・鏝・銀製品など			アイヌ文化期 の集落跡	
		縄文～アイヌ	焼土 8 竪穴状遺構 1	骨角器 骨鏝・手柄・骨針など 棒状礫				
		縄文時代	焼土 3	Ⅲ群b類土器・石器				
		旧石器時代	ブロック 2	旧石器 細石刃核・細石刃・彫器 斧形石器・石製品				
要約	アンカリトー7遺跡は千歳市の市街地から北東約3kmの祝梅川東岸に位置する。本遺跡では平地住居跡・建物跡・灰集中・土坑墓などからなるアイヌ文化期の集落跡を検出した。遺構に伴って金属製品・ガラス玉・骨角器・棒状礫などが出土し、サケなどを中心に動物遺体も得られた。また旧石器ブロックを2か所検出した。このうちS B-1では広郷型細石刃核を伴う石器群が約2000点出土した。							

報告書抄録

ふりがな	ちとせしあんかりとー7いせき・あんかりとー9いせき							
書名	千歳市アンカリトー7遺跡・アンカリトー9遺跡							
副書名	一般国道337号千歳市新千歳空港関連工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ名	財北海道埋蔵文化財センター調査報告書（北埋調報）							
シリーズ番号	第268集							
編著者名	三浦正人・越田雅司・未光正卓							
編集機関	財北海道埋蔵文化財センター（http://www.domaibun.or.jp）							
所在地	〒069-0832 北海道江別市西野幌685番地1 011-386-3231							
発行年月日	西暦2010年3月26日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	(M-25杭)				
あんかりとー9 アンカリトー 9遺跡	ほっかいどう ちとせし 北海道千歳市 しゅくぼい 祝梅 884-59ほか	01224	A-03 283	世界測地系		20080508 ～ 20080728	6,680㎡	一般国道 337号千歳市 新千歳空港 関連工事に 伴う事前調 査
				42°	141°			
				50'	41'			
				38"	45"			
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
アンカリトー 9遺跡	散布地	縄文時代 中期・後期・晩期 太平洋戦争時 昭和14～20年	土坑・焼土 掩体壕	土器・石器類 木杭・ビール瓶 レンガ・認識票 等		旧日本軍 千歳海軍航空隊基地施設		
要約	アンカリトー9遺跡は千歳市街地から北東約3kmの祝梅川東岸に位置する。本遺跡では縄文時代の土坑1基、焼土3か所を検出した。また太平洋戦争時の施設跡（掩体壕）が2か所みられた。							

財北海道埋蔵文化財センター調査報告書第268集

千歳市

アンカリトー7 遺跡
アンカリトー9 遺跡

—一般国道337号新千歳空港関連工事用地内埋蔵文化財調査報告書—

平成22年3月26日

編集・発行 財団法人 北海道埋蔵文化財センター

〒069-0832 江別市西野幌685番地1

TEL (011) 386-3231 (代表)

FAX (011) 386-3238

<http://www.domaibun.or.jp>

印刷 株式会社 広報社印刷

〒064-0808 札幌市中央区南8条西10丁目石黒ビル

TEL (011) 532-8160 (代表)

FAX (011) 532-9060
